

東京—福岡—京城—大連—天津の二四三
一軒及びこの京城より分れ奉天—新京の
二二〇六軒、福岡—那覇—臺北の一六一
〇軒、東京—富山—大阪の七二三軒、東
京—新潟の三八〇軒、東京—札幌の九四
〇軒、大阪—高知の三〇五軒、大阪—松
江の三九〇軒、及び臺灣島内線なる臺北
—臺中—臺南—屏東—臺東—花蓮港—宜
蘭—臺北の七六五軒の九線、日本航空輸
送研究所の經營に係るものは大阪—松山
—別府の四二〇軒、大阪—南紀白濱の一
二〇軒の二線、東京航空株式會社のもの
は東京—下田の一五〇軒、日本海航空會
社のものは城崎—大阪の二四〇軒。以上
を現狀とす。飛行場としては東京・名古屋
・大阪・廣島・福岡第一・同第二・蔚山
・大邱・京城・新義州・大連・新潟・富山
・松江・都城・那覇・臺北・宜蘭の十八飛
行場あり、併し之等は未だ國際飛行場と
しての設備は完全ならず。昭和十年度の
旅客数は一、八七七八人、貨物量は七五、
六四三噸、飛行距離は二、〇三七、五〇
六軒なり。我國は地形的に變化多きまた
氣候的にも變化多きを以て航空の發達に
は恵まれません、併し大陸進出に伴ひ將來は
一層新業の發達を見るべし。(後述)

つゝ、遠く三千年の永き傳統の下に歴史
的に作り出したるものにして、現在既に
世界列強と同一水準にまで達せり。かく
の如くに、我が産業も國土の自然の上に
立てるものなれば、國土の自然の特徵が
我が産業發達の特色付けるは自然と云
ふことを得。而してかくの如き自然の特
色を以て我が國土の地理的條件と稱すな
らば、我が國産業の發達を特色付ける主
要な地理的條件としては凡そ次の諸項を
あぐることを得べし。(1)我が國土はア
シヤ大陸の東端に位置し、三千四百萬の人口
を有する滿洲國に接し、四億の消費者を
有する支那に對し、獨特に社會主義機構
をもつソビエト聯邦に接し、又太平洋
をへだて、遙かにアメリカ合衆國に相對
すること。(2)東北より西南にかけて延長
四七〇〇軒、緯度に於て二十九度以上に
わたり、熱帯より亞寒帯に至るまでの氣
候を有し、また國土が概ねアジヤのモン
スーン即ち季節風帯のうちにあり、植物
がよく繁茂し、且つ頗る多様な多様なこ
と。(3)國土の面積が頗る狭小なる上、國
土全面積の約四分の三は山地にて、而も
その山地が嶺高く、谷深く、從つて廣大な
平原は全く存在せざること。(4)狭小なる
國土には諸山脈が連なり、南嶺山脈と北
嶺山脈が連なり、南嶺山脈と北嶺山脈とに
屬する諸山脈が連なり、南嶺山脈と北嶺
山脈とを走り、全面的に山岳分布し、地
形の變動が激しく、從つて地質構造・地形
は極めて複雑なること。尙我が國土は大

體四邊環海の島國にて、大陸より孤立し、
而も近海には水深二百米以内の淺海(陸
棚)が廣く分布し、あまつさへ寒暖の兩
海流あり、魚族の種類と數量とは極めて
豊富なること。以上の特色を持つ我國土
の自然の上に、これを直接的に利用する
農・林・牧・水産・鑛業等の謂ゆる原始
産業が發達し、更に其上に工・商業が發
達す。換言すれば、我が國土に廣く分布
する山脈・山地は約四億圓の木材・林野
産物の産出に貢獻し、又七億圓以上の平
野は各地方獨特の氣候とともに約三四億
圓の農産物を生産し、その上に約七億圓
の蠶業産物と約三億圓の畜産を可能なら
しめ、また豊かな魚族を持つ海岸は約五
億五千萬圓の漁獲物・水産製造物の生産
を擧ぐ。故に我が國土の自然はこれ等の
原料素材を國民に與へ、各地方に於ける
人々の生活發展の形態を規定する社會的
分業の自然的基礎となれるものと云ふべ
し。更に之等國內産の原料素材と輸入原
料との上に各種の工業が發達し、約百三
十億圓の生産をあげ、我が國土第一の産
業となり、生産額より見れば我が國は
は工業國と稱して差支へなし。而して
これ等諸産業の生産物の配給によつてま
た商業が發達す。(農業)我が國は建國
以來農業を主たる産業とし、今日も全人
口の四八%は農業に従事し、職業別人口
構成より見れば、我が國は今日純然た

る農業國なり。然るに我が國耕地面積は
頗る少く、内地約六萬方軒、朝鮮約四萬
五千方軒、臺灣八千三百方軒、樺太三百
二十方軒、合計約十一萬三千方軒に過ぎ
ず、耕地面積の各々の面積に對する割合
は内地一五・六%、朝鮮二〇・二%、臺
灣二三・一%、樺太〇・九%に過ぎず、
全國平均は一七・四%に當る。これを歐
米の主要工業國、例へばイギリスの二四
%、ドイツの四一%、フランスの三九%
イタリヤの四一%、米國の一八%に比較
すれば、我が國の耕地面積甚だ少し。而
も農家戸数は甚だ多く、内地約五百六十
萬、朝鮮約三百萬、臺灣約四十三萬、樺
太約一萬一千、合計九百十萬戸、農家一
戸當りの耕地面積は一・二ヘクタールに
當る。殊に内地の如きは農家一戸當り耕
地面積は一・〇七ヘクタールに過ぎず。
從つて耕地一方耕人口の如き一、一五四
人にて世界の首位に當り、僅にこれに匹
敵するはイギリスの一、一〇四人のみ。
かくの如くに、我が國土の耕地面積の少
きは全く國土の山多き地理的條件に因
るものにして、今日既に可耕地は殆ど開拓
し盡され、謂ゆる階段耕作は我が國土の
土地利用形態の特色をなす。内地に於け
る耕地面積の分布を見るに、耕地面積の
多きは北海道のほか新潟・茨城・千葉・
福島・鹿兒島等の諸縣とし、總面積に對
する耕地面積の多きは埼玉縣を第一とし
て關東の諸縣、東海地方・九州北部の

諸縣なり、また人口に對して耕地面積の
大なるは北海道・東北・北陸地方の諸縣
にして、その少きは近畿・關東・東海・
四國等の諸府縣なり。耕地面積が少きた
め、我が國農業經營の規模は頗る小にし
て、謂ゆる小農法を採用し、勞力を極めて
集約的に用ゐ、從つて單位面積當りの收
穫高は頗る大なり。この點世界の最高水
準に位す。資性勤勉にして技術の優秀な
多數の農民は耕地を極度に利用せんがた
めに二毛作を廣く行ひ、又收穫高の最大
にして、且つ最も有利な米作に最も力を
注ぐため、耕地の五三%は田(約四割は
裏作可能)、畑は残り四七%に過ぎず、而
して畑に對して田の多きは日本海方面及
び近畿中國の諸縣にして、北海道・關東・
九州等の府縣には畑が割合に多し。我が
國土は氣候が複雑なれば、農産の種類は
頗る多きも、これを大別すれば食用農産
物・工業用農産物となすことを得べし。
食用農産物中最も主要なるは國民の常食
たる米にして、その生産額は内地約六千
萬石、臺灣八百萬石、朝鮮一千八百萬石、
價格は二十億圓以上に達し、我が國生
産物の首位に位す。我が國土はアジヤ
の概ねモンスーン地帯に屬し、氣候的條
件は一般に米作に適し、遠く神代より米
作が行はれ、今日北海道本島以南は全
國到る所に米作が行はる。明治初年以來
我が米作は人口の増加に比例して増加し
來れるも、今日には殆ど飽和點に達せ

ニッホ——ニッホ

るもの、如し。内地府縣中米産の多きは
新潟縣を第一とし、福岡・兵庫・山形・
秋田・愛知・福島・宮城・熊本・千葉等
の諸縣にも多し。又米産の過剩地は朝
鮮・臺灣を別とすれば、新潟・富山・山
形・秋田・宮城・佐賀・茨城・栃木・熊本等
の諸縣にして、米産過少地方は東京・大
阪・京都・兵庫・神奈川・愛知等の諸縣
及び北海道を主とす。然れども、我が國
は世界第三の米産國にして、國土全體と
しては米産は自給自足が可能なるを以て
我國民經濟最大の強味と云ふべし。我が
國土は概して多雨にて麥作には不利な益な
れども、氣温は適當にて、全國廣く麥作
行はれる。麥作は灌溉に稍不便な地に行
はれ、米作の裏作としても行はる。氣温
の關係上、我が麥作は専ら冬麥又は秋
麥を栽培し、夏麥又は春麥は樺太・
北海道等の一部に栽培するに過ぎず。
麥類の生産は概して西南部に多く、東北
に向ふに従つて少くなる。大麥は關東を
主とし、その一種の裸麥は四國・九州を
主産地とし、この兩者を合する時我が國
は世界一流の大麥産出國に位す。小麥は
關東・九州を主産地とし、最近産額が著
しく増加せり。燕麥は北海道・東北・九
州南部の牧畜地帯に多し。粟は朝鮮と鹿
兒島・熊本・岩手の諸縣に、稗は臺灣・
朝鮮及び岩手・青森の諸縣に、黍は北海
道に、蕎麥は朝鮮・北海道及び鹿兒島・
茨城の諸縣に、玉蜀黍は朝鮮・北海道に

多し。甘蔗は關東以南に産し、殊に九
州・臺灣に多し。馬鈴薯は關東以北に多
く、殊に北海道に多し。豆類中大豆は朝
鮮・北海道・東北地方に、小豆は朝鮮・
臺灣・北海道に、落花生は臺灣・關東地
方に、菜豆・豌豆は北海道に、蠶豆は大
阪・香川・福島・兵庫・千葉の諸縣に多
し。蔬菜中大根は北海道及び愛知・静岡
・新潟・東京等の諸府縣を主産地とし、里
芋は千葉・栃木・鹿兒島・愛知等の諸縣、
葱は千葉・埼玉及び北海道、葱頭は大
阪・北海道、甘藍は北海道、漬菜は東京・
茨城・埼玉・宮城の諸府縣、西瓜は愛知・
奈良・千葉・熊本の諸縣、胡瓜は山口・東
京・神奈川の諸府縣、越瓜は東京・廣島
の諸府縣、茄子は東京・大阪・兵庫・愛
知の諸府縣を主産地となす。次に諸種の
工業用農産物のうち、甘蔗は臺灣・九州南
部の氣温の高き地方に栽培する。茶は温
帯な地を好む故、臺灣の北部と静岡縣に
多く、葉煙草は風土を選び關東の秦野・
太田・茂木、四國の池田、九州の國分・
加治木等の附近を主産地とし、蘭・七島
蘭は岡山・廣島・大分・静岡の諸縣及び
臺灣に産す。薄荷は北海道および岡山縣
に、楡は福岡・香川等の諸縣に、樟腦は
臺灣・九州に、除虫菊は北海道および廣
島・愛媛・和歌山等の府縣に、絲瓜は靜
岡縣に、葉藍は徳島縣に、杞柳は兵庫・
長野・愛媛・高知の諸縣に、蕪菁芋は廣

島・群馬・福島の諸縣に、落ば高知・山
口の兩縣に、三椏は高知・愛媛の兩縣に
多し。胡麻は茨城・埼玉の兩縣に多く、菜
種は九州・東海地方に主に栽培され、米
との二毛作が廣く行はれる。麻類中、大
麻は栃木・廣島の兩縣及び朝鮮、亞麻は
北海道、黄麻は臺灣、苧麻は臺灣及び熊
本・大分の兩縣を主産地とす。棉花は内
地には極めて乏しく實積の生産僅か十六
萬貫、朝鮮には實積約二千四百萬貫を出
す。果實の年産は一億圓を超え、柑橘類
は和歌山・廣島・愛媛等の諸縣及び臺灣
に、苹果は青森・長野の兩縣および北海
道に、バナナ・パイナップルは臺灣に、
櫻桃は山形縣に、桃は神奈川・岡山の兩
縣、日本梨は静岡・新潟・岡山等の諸縣
に、西洋梨は北海道及び山形縣に、柿は
福島・長野・廣島等の諸縣に、葡萄は大
阪・山梨・岡山等の諸府縣に、枇杷は長
崎・千葉・愛媛・鹿兒島等の諸縣に、梅
は和歌山・静岡・千葉等の諸縣に多し。
〔養蠶・製絲業〕我が國の養蠶業は支那
より傳來せしものと云はれ、既に神代よ
り行はれ、農家の重要な副業たりしが、
その大發展は安政五年徳川幕府の開港に
より生絲が我が輸出品の大宗となるに及
んで以來のことと屬す。我が國土が桑の
栽培に適し、且つ國民は生來養蠶技術に
巧なりしこと、我が農業經營が小規模
に、しかも人口過剩、何等か有利な副業
を求むる必要ありしこと等が因となり、

今日の隆昌を来せしものにて、最近の内
地の年産は八千三百萬貫、即ち約三十萬
噸、これに朝鮮の二萬二千噸を加へて三
十二萬噸に達し、計數不詳の支那を除け
ば世界最大の養蠶國の地位を占む。内地
のみにて桑園面積約五千六百方科、養蠶
戸數百八十六萬戸に達し農家戸數の三三
%の多きに及び、その生産價額は四億圓
内外、農産價額の約一分五厘を占め、養
蠶は米作に次いで重要な農産部門を成
す。我が養蠶業の中心は中部地方にして
東北は關東地方を経て東北地方の南部ま
で、西は近畿地方を経て中国・四國・九
州の諸地方に至り、朝鮮の新業も將來有
望視さる。更に繭を原料とする製糸業を
見るに、最近の我が蠶絲生産は生絲内地
四萬四千噸内外、朝鮮約千二百噸、合計約
四萬五千噸、府物の一萬五千噸を合
して、製絲業生産額は數量にて約六萬噸、
價額に於て五億三千萬圓以上に達す。
我が國生絲の生産額は世界生絲生産額の
約四分の三を占め、毎年四億圓乃至五億
圓を輸出して完全に世界市場を支配し、
あまつさへその原料は全く自給自足の上
に立ち、この點他の重要輸出工業に見ら
れざる特色を示す。製絲場數は約四萬六
千、職工數は男二萬七千、女三十三萬、
計約三十六萬、府縣中にては長野縣が最
も生産額が多く、全國の約四分の一を出
し、愛知・群馬・埼玉・山梨・岐阜等の
府縣はこれに次ぐ。「牧畜業」我が國の

牧畜業は列國に比すれば甚だ不振と云ふ
べく、これは我が國土の氣候が亞熱帶性
にて、高温多雨なるため植物の生育には
頗る良好なるも、牧草に富む草原が少な
く、しかも地勢上山岳が多く、廣大なる
平原なく、耕作が勞力を集約的に用ゐる、
家畜を余り利用せず、山地の傾斜が家畜
を農業に利用することを妨げ、我が國土
が四面環海にして魚族が頗る豊富、自由
にこれを捕へて蛋白質食料とすることが
でき、また宗教上の理由より肉食が禁止
されし等の諸種の事情のためと解せられ
る。馬は古來最も重要な家畜にして、
昭和四年までは内地家畜中飼養頭數が第
一に位せし、翌年牛に凌駕され、しか
も大正十三年以降漸減の傾向を示す。最
近の内地飼養頭數は百四十五萬、ほかに
朝鮮に五萬三千、臺灣に五萬、樺太には一
萬三千頭飼養さる。人口稀薄なる東北・
北海道の原野、九州地方の火山の裾野や
火山灰地帯等は主要牧馬地帯をなす。牛
の飼育は明治維新以後、肉食の風習の普
及と共に次第に盛となり昭和五年以降は
馬を凌駕し、今日では内地牧牛數は百七
十七萬、中國山脈より筑紫山脈にかけて
高原や九州地方の火山の裾野や熔岩臺地
に多し。外に朝鮮に百六十八萬、臺灣に
四十萬頭の牛が飼養さる。豚は全く明治
維新以後に飼養されたものにて、近年
著しく増加し、内地に百十萬頭飼養さ
れ九州南部・關東地方が主要な養豚地帯

をなす。ほかに朝鮮に百六十萬、臺灣に
百九十萬、樺太に約一萬頭の豚が飼養さ
る。牧羊は甚だ不振にて、内地では北海
道、東北地方に六萬一千頭、朝鮮に約九千
四百頭飼養さるのみ。山羊は内地二十
九萬、朝鮮に約三萬四千、臺灣に約七萬
八千頭飼養され、羊よりも豕に多し。斯の
如くに、我が國土の家畜飼養頭數は甚だ
少く、人口當り頭數は歐米諸國の十分の
一以下、南米・澳洲の百分の一以下に過
ぎざる有様なり。従つて獸肉の生産も甚
だ少く、我が國民一人平均一箇年の獸肉
消費量は一・五近、英米の二乃至三分
の一に過ぎず、牛乳生産も一箇年二百
七十萬頭で國民一人平均一箇年の消費量
は約三立にして米國の約四百六十立に比
し甚しき差を示す。皮の産も甚だ少く、
殊に最も重要な牛皮の如き、年産約三十
五萬枚にて需要の二割を充つに過ぎず、
更に馬皮十二萬枚、綿羊皮千四百枚、山
羊皮三千三百枚、豚皮約百萬枚の生産を
示し、別に朝鮮に約三十五萬枚の牛皮を
出す。養蠶は農業の副業または専業とし
て廣く行はれ、養蠶頭數は内地五千八十
萬、朝鮮七百二十萬、臺灣六百五十萬羽
にて、世界屈指の地位を占む。産卵數は
一箇年に三十六億に達す。鷺は内地五十
五萬、臺灣に百七十七萬、朝鮮三萬八千
を示す。「水産業」我が國土を構成する
日本列島は一千六百餘の島より成り、朝
鮮半島も三方海に囲まれ、海岸線は頗

る長く、而も近海のオホホツク海・日本
海・東支那海等は殆ど二百米以内の淺海
をなし、あまつさへ寒暖二海流が交流す
るを以て魚族が頗る多く、日本近海の漁
場面積は實に二百萬方科に達す。かくて
我が國民は神代より盛んに漁撈を行ひ、
我が國民經濟發達上、水産業は狩獵・牧
畜よりも重要な役割を果せりと稱せら
る。漁撈は最初沿岸にとどまりしも、明
治維新以後は漁船・漁具の發達と共に支
那沿岸・露領アジヤ沿岸にまで出漁し、
大正年代に至りては北はベリング海、
南は南洋の海に出漁し、更に昭和に至り
ては大西洋・南極洋までも出漁し、全世
界の海洋は殆ど我が漁業家の活躍臺とな
れり。而して現今本邦の漁業には沿岸漁
業・内地沖合遠洋漁業・汽船トロール漁
業・工船蟹漁業・汽船捕鯨業・外地出漁
業等あり。現在の内地漁業者は約百五十
萬人、漁業者數の多き點は世界にその比
を見ず。内地漁船數は動力あるもの六萬
二千、動力なきもの三十萬四千、合計三
十六萬六千隻。なほ近來動力附大型漁船
が増加しつゝあり。最近の漁獲高は内地
三百七十萬噸、その他二百十萬噸、合計
約五百九十萬噸に達し世界の推定漁獲高
一千七百萬噸の約三分の一に當る。又こ
の漁獲高は金額にして五億五千萬圓、内
地のみにて四億八千萬圓に達す。内地沿
岸漁獲物は魚類の一億三千萬圓、貝類一
千五百萬圓、藻類一千萬圓、その他二千五

百萬圓、合計一億八千萬圓、魚類にては
鱈・鰯・鰱・鯖・鮪・鰒・鰯等を主とし
魚類以外にては鰯・烏賊を主とす。之を
地方別にすれば、北海道の三千六百萬圓
を第一とし、長崎・山口・靜岡・三重・
岩手・福島・千葉・愛媛・兵庫の諸縣が
これに次ぐ。ほかに沿岸漁獲物としては朝
鮮六千六百萬圓、臺灣四百四十萬圓、樺
太八百萬圓あり。内地の水産養殖は二千
五百萬圓、紫菜・鰻・鮭・真珠・牡蠣等
を主とす。東京府を第一とし、靜岡・三
重・愛知・千葉・廣島等の諸縣がこれに
次ぐ。水産製造物は内地は約一億八千萬
圓、朝鮮六千五百萬圓、臺灣二百三十萬
圓、樺太一千四百萬圓、蒲鉾・竹輪類・
神粕肥料・乾海苔・乾乾眞鱈・鰻節・素
乾・魚油・鰯等を主とす。内地では北海
道の五千萬圓を第一とし、東京・靜岡・
千葉・宮城・青森・岩手・長崎等がこれ
に次ぐ。内地沖合遠洋漁業は七千四百萬
圓にて、北海道・山口・長崎・千葉・靜
岡等を主とす。外に露領極東州漁業生産
高が二千九百萬圓、汽船トロール漁業が
七百萬圓、汽船捕鯨業が二百五十萬圓等
あり、これ等を合する時、本邦漁獲高は
上述の如く世界第一に位す。従つて我國
は夙に魚食の習慣があり、世界第一の魚
肉消費國となる。なほ鹽の生産は内地六
十萬噸、朝鮮三十二萬噸、臺灣十二萬噸、
關東州五十萬噸を示す。内地の製鹽地帯
は瀬戸内海沿岸に集中し、香川・兵庫・

山口等の府縣に多し。内地製鹽額は明治
末期以來殆んど變化なく、今日にては僅
かに食用を充つに足らず、工業鹽の如
きは全く植民地及び支那・滿洲國・アフリ
カ等よりの輸入に仰ぐ。「林業」我が國
土は概ね高温多雨にて森林の生育には好
適、立木面積は内地二十萬方科、朝鮮十
六萬方科、臺灣一萬九千方科、樺太一萬
六千方科、合計約四十萬方科に達し、國土
全面積の二分の一は森林に蔽はる。しか
も氣候複雑なるため、樹種は頗る多く、
千種以上に達し、熱帯林・暖帯林・温帯
林・寒帯林の各種森林をもつ。内地の林
産額は用材一億一千萬圓、薪炭材五千二
百萬圓、竹材二百五十萬圓、その他林野
産物一億三千萬圓、合計約三億圓に達し、
ほかに朝鮮・樺太・臺灣に約九千萬圓の
林産あり、總てを合する時、我が林産は
四億圓に近し。内地にては北海道材を首
位とし、青森材・秋田材・天龍川材・木
曾村材・吉野材・宮崎材、外地にては樺太
材・北鮮材・鴨綠江材・臺灣材等よく知
らる。併し我が國土は用材を自給するこ
と能はず、最近にては一ヶ年に約六百萬
石、六千萬圓の用材を米國・フィリッ
ン・蘭印東印度・英領ボルネオ等より輸
入す。而して我が國森林が交通不便の山
地であり、運搬費が高價なること及び温
帯林・暖帯林は多く開墾され農耕地化し
つつあることは用材輸入の主因をなす。
〔鐵業〕我が國土は山岳重疊し、地質構

造が複雑なるため埋藏有用礦物の種類甚
だ多く、これを列國と比較するに、經濟
的價値ある礦物資源の數は日本・イギリ
スの二十二に對し、米國二十一、イタリ
ヤ・ドイツ十三、フランスは七に過ぎず。
然れども巨大な礦物資源は地質構造上見
られざることも本邦礦物資源の特色の一
とす。最近の鐵産額は内地約五億九千萬
圓、これに朝鮮の八千八百萬圓、臺灣の
三千三百萬圓、樺太の一千一百萬圓を合
すれば、本邦全體にて七億一千萬圓以上
に達す。石炭は本邦鐵産額の半を占めそ
の大宗をなす。本邦の石炭の埋藏量は列
強に比較すれば甚だ少きも内地約百六十
七億噸、朝鮮に約十一億噸、臺灣に四億
噸、樺太に少くとも十五億噸埋藏され、
全體にて二百億噸あり、米・英・獨・蘇・
佛に次ぎ第六位を占む。九州の筑豊・三
池・唐津の諸炭田、北海道の石狩炭田、
山口縣の宇部炭田、福島・茨城兩縣に跨
る常磐炭田、朝鮮の平壤炭田等が本邦の
主要炭田にて、最近の石炭産額は内地四
千二百萬噸、臺灣百五十萬噸、朝鮮約百
三十萬噸、樺太約九十萬噸に達す。内地
産炭の約七割は九州の諸炭田より出で、
北海道炭が二割を占め、其他の本州の炭
田は僅かに一割を出すに過ぎず。我が産
炭は少からざるも、コークス用炭・無煙
炭に乏しく、之等は輸入に待ち、最近に
ては若干の輸出を差引き、一ヶ年約三百
萬噸、三千七百萬圓の純輸入を行ふ。我

が國の油田は第三紀層の分布上大體日本
海岸に分布し、秋田油田・越後油田が最
も著れ、北海道の石狩油田、臺灣の新竹
州の油田も有望視さる。最近の年産は約
三十二萬噸、國內需要の八%を充つに過
ぎず、需要の殆ど全部は輸入に仰ぐ。銅
は足尾・別子・日立・小坂・尾去澤・八
盛・荒川等の諸礦山に一箇年約七萬七千
噸の銅を出す。なほ佐賀關・直島・日立
は他より鐵石を輸入して製鍊す。かつて
我が國は米國に次ぎ世界第二の産銅國た
りしも、今日では世界の六位に當り、銅
の大輸入國となる。金の産額は昭和六年
末の金輸出再禁止以來、價格暴落、政府の
産金獎勵等によつて激増を續け、最近に
ては内地二十三噸、朝鮮二十六噸、臺灣
一・三噸、合計五十五噸に達し、世界第五
の産金國となり、第一位の南阿聯邦の約
十二分の一に當る。北海道の鴻ノ舞、靜
岡縣の土肥・持越、新潟縣の相川、大分
縣の鯛生、鹿兒島縣の串木野、朝鮮の雲
山・大楡洞・金堤・慶興、臺灣の金
瓜石等を主要金山とす。銀は金精鍊の副
産物として産出し、年産約三百噸。墨西
哥・米・加に次ぎて第四位なるも墨西哥
の約八分の一にすぎず。鉛は岐阜縣の神
岡、宮城縣の細倉を主とし、年産約九千
噸。亜鉛は神岡・細倉等に産するほか、
輸入鐵石を用ひて精鍊し、年産約四萬噸
を示す。錫は兵庫縣の明延、大分縣の上
田尾平・藏内尾平、宮崎縣の見立、鹿兒

鳥嶽の錫山等に産し、年産約二千噸。アルミニウムは國産又は輸入原鐵を用ひて長野縣大町、富山縣東岩瀨、高岡、愛媛縣新居濱及び臺灣高雄等に工場が設けられ、年産二萬噸に達す。マグネシウムは滿洲國産のマグネサイト、製鹽副産の苦汁を原料として山口縣宇部、新潟縣直江津、朝鮮興南などに産す。ニッケルは群馬縣鬼石、千葉縣鴨川に、白金は北海道に、水銀は北海道並に奈良縣に、アンチモニーは愛媛縣及び兵庫縣に、クロムは北海道に、黒鉛は朝鮮に夫々産す。滿俺は高知縣の穴内、滋賀縣の彌榮、京都府の川上・道谷等に産し、年産約七萬二千噸、硫化鐵は岡山縣備前、岩手縣松尾・田老などに産し、年産百三十萬噸、硫黃は岩手縣松尾北海道幌別、群馬縣小串、福島縣沼尻等に産し、年産十六萬噸、燐鐵石は沖繩縣の北大東島・ラサ島、南洋群島アンガウル・パラオ等に約二十二萬噸を出す。鐵は福岡縣八幡・岩手縣釜石・朝鮮釜山浦その他に鐵鐵二百萬噸、鋼材四百五十萬噸を出し、平時に於ては自給率は鐵鐵六五%、鋼材一〇〇%なるが、鐵鐵石は殆ど輸入に仰ぎ、國內にては釜石、北海道倶知安等、内地に六十萬噸、利原・載寧・价川・殷栗等の朝鮮に六十萬噸、合計約百二十萬噸を産するに過ぎず。〔工業〕我が國民は古來手工業に長じ、美術工藝には特殊な技能を有せしが、建國以來久しき間農業國の域を脱せ

ず、僅かに優美な工藝品の製造を以て工業の特色となせり。然るに明治維新後歐米先進國の工業が我が國に移植され、政府の周到なる保護獎勵と民間當業者の不届の努力とが勢力の豊富、動力の潤澤に促され、歐米先進國を凌駕する大工業を發達せしむ。我が國工業の特色の一として原料の海外依存を免ることを得。棉花工業・羊毛工業・人絹工業・ゴム工業等を始め、本邦の重要工業の原料にして海外よりの輸入に仰ぐもの甚だ多く、全く國産原料に立つ工業は製絲工業・製糖工業等に過ぎず。我が國工業の經營規模は一般に小にして、現在内地の工業者は五百五十萬人、職工五人以上の工場は約八萬、同労働者は二百二十萬人にして一工場平均二十七人の労働者を有するに過ぎず。最近の工業生産高は内地・植

工業生産額(單位千圓)

Table with 2 columns: Year (1909, 1910) and Industrial Production (Textiles, Chemicals, etc.).

民地を合する時は總計百三十億圓内外に達す。内地に於ける職工五人以上の工場生産額を部門別に見れば別表の如し。これによつて本邦工業は紡織工業を中心とする輕工業にあることが知らるるが、最近には金屬工業・機械器具工業等の重工業が次第に重要を加へつゝあることが知らる。本邦工業には明治維新以前より行はれし在來工業と維新以後に發達せし近代工業とがあり、前者は概ね廣く分布し、小規模のものが多い、後者は概ね特定の地方に集中し、しかも大規模のもの多し。本邦に於ける工業、殊に近代工業の集中せる地域、即ち工業地帯としては阪神地方が第一に位置するが、京濱地方・名古屋地方・北九州地方も重要にして、これを本邦の四大工業地帯と稱す。但し最近には、經營合理化のため、在

來工業にして近代化さるる同百分比

Table with 2 columns: Year (1909, 1910) and Percentage of Modern Industry (Textiles, Chemicals, etc.).

歌山・三重・岡山・静岡・東京等の府縣に多く、綿織物は綿絲よりも分布が廣くも、特に大阪・愛知・兵庫・静岡の府縣が著る。絹織物は京都・福井・石川・新潟等の府縣、人絹織物は福井・石川・群馬等の府縣、毛織物は愛知・兵庫・東京・大阪等の府縣、麻織物は滋賀・富山等の府縣、メリヤスは東京・大阪兩府に多く産す。人造絹絲・ステープルファイバー工業は琵琶湖畔その他水利と交通の便利なる地點に大工場が建設され、現在では世界第一の生産を示す。肥料は新潟・神奈川・福岡・愛媛の府縣、工業藥品は大阪・東京兩府、紙・パルプは東京・静岡・大阪の府縣及び北海道・樺太等、ゴム製品は兵庫・東京・大阪の府縣、硝子は大阪・福岡・兵庫の府縣、陶磁器は愛知・岐阜の兩縣、セメントは福岡・大阪・山口の府縣、清酒は兵庫・京都・福岡・廣島の府縣、麥粉は東京・兵庫・大阪・神奈川・福岡の府縣、醬油は千葉・兵庫・神奈川の諸縣、製粉は神奈川・兵庫・愛知の諸縣が著る。又最近躍進を續ける金屬工業・機械器具工業等の重工業は上記四工業地帯を中心として行はる。〔國內商業〕商業は上記各種生産物の配給に關與するものにして、今日國內に於ては廣く商取引が行はるるも、特に商業の中心として著るるは東京・大阪の兩市とす。大阪は江戸時代以來の古き商業中心地にして、江戸時代には全國産物の公定相場

が、こゝにて決定されしが、明治維新以後東京が首都となり、各種の商業機關が東京に設けられてより、大阪の獨占的地位は失はれた。今日大阪の商團は西日本にして、近畿・中國・四國・九州及び北陸地方との取引が多く、更にその勢力は北海道・臺灣・朝鮮にも延びんとす。これに對し東京は東日本を商團となし、關東・奥羽との取引が多く、更にその勢力は北海道にも延びんとす。中部地方はこの兩商團の接觸地にて、大體西半は大阪、東半は東京の商團に屬せしむ。近時ここに名古屋が商業都市として勃興し、本邦第三の商業中心地となりつゝあり。そのほか全國約三十の手形交換所が設けらるる都市は地方商業の中心地と見られ、之等商業に従事する者は有業人口の約一割七分にて、内地のみにて約四百九十萬人に達す。〔外國貿易〕國內の餘剩物資を外國に賣り、不足物資を外國より買ふことによつて外國貿易は成立す。我が國が列國に伍して世界貿易の舞臺に進出せしは安政六年以降にして、今日まで八十年に過ぎざるも、その間貿易の躍進は著るしく、明治元年の我が貿易は僅かに二千六百萬圓に過ぎざりしが、日清戰役頃二億圓、日露戰役後八億圓となり、世界大戰役の大正九年には四十億圓を超え、大正十四年には四十九億圓となる。昭和十二年には輸出三十一億七千五百萬圓、輸入三十七億八千三百萬圓、計六十九億五千

八百萬圓、外に朝鮮の輸出が一億一千三百萬圓、輸入が一億二千八百萬圓、合計二億四千一百萬圓、臺灣の輸出が二千九百九十九萬圓、輸入が四千四百二十萬圓、合計七千四百一十萬圓あり、これ等を合して帝國の貿易總額は七十二億七千萬圓以上に達す。本邦貿易の特色は明治初年以來三、四の例外を除き、原則として入超を繼續せし事なり。原料資源に乏しく、而も人口過剰の帝國としてはやむを得ざることなれども、極めて不健全なる状態と云はざるべからず。最近の本邦貿易品の内容を見るに、數年前に比較すれば輸出は完成品が増加して半製品が減少し、輸入は完成品が減少して原料品・半製品が増加せり。これは帝國が工業化せし證左にして、喜ぶべき現象と云ふべし。試みに、昭和十一年の内地貿易を見れば、輸出の五九%は完成品にて、原料品及び原料用製品が三二%なるに對し、輸入の八〇%は原料品及び原料用製品にて、完成品は一%に過ぎず。内地輸出品の大宗は綿織物にて、全額にして約五億七千萬圓、これに次ぐものは生絲・人絹織物・機械及び同部分品・織織詰食料品・絹織物・メリヤス製品・綿織物・鐵製品・陶磁器・毛織物等にして、何れも年額五千萬圓を超ゆ。また内地輸入品の大宗は棉花にして、八億五千萬圓を超え、羊毛・鐵・原油及び重油・機械類・パルプ・生ゴム・豆類・木材・鐵石・石炭等これに次ぎ何れも年

額五千萬圓を越す。朝鮮の主要輸出品は綿織物・人絹織物・木材・機械・水産物、主要輸入品は粟・大豆・鐵油・石炭・肥料等、臺灣の主要輸出品は茶・砂糖・樟腦・鳳梨罐詰、主要輸入品は豆粕・大豆・麻袋・穀・硫安等なり。なほ朝鮮は内地に對して米・肥料・大豆・生絲・金屬・水産物等五億七千萬圓を移出し、内地より機械・鐵・綿織物・棉花・人絹織物・肥料等七億三千五百萬圓を移入す。臺灣は内地に對し、砂糖・米・バナナ・鐵石・鳳梨罐詰等四億一千萬圓を移出し、内地より肥料・綿及び絹織物・鐵・木材の二億七千八百萬圓を移入す。以上數字はすべて昭和十二年。外國貿易は開港を通じてのみ行はる。樺太を含む内地には四十五の開港あれども其中重要なるは神戸・横濱・大阪・名古屋・若松・門司・四日市の六港とす。朝鮮にては釜山・仁川、臺灣にては基隆・高雄を主要開港とす。我が貿易相手國は輸出にてはアメリカ合衆國・滿洲國・英領印度支那・イギリス・オーストラリア等を主とし、輸入にてはアメリカ合衆國・英領印度・オーストラリア・滿洲國・ドイツ・蘭領印度支那等を主とす。之を大陸別に見ればアジア・北アメリカ・ヨーロッパ・アフリカ・大洋洲・南アメリカの順序とす。之を要するに四面環海にて良港に富み、地理的位置に恵まれる帝國は海上に進出し貿易に發展すべき運命を有す。今や帝國が

世界各國に稠密な人口を擁するは原料を輸入し、これに加工して製品を輸出する外國貿易に依存する所極めて大なるものありと云ふことを得べし。〔國號〕日本古へ大八洲國の名あり。群島國の義なり。或は豐原瑞穂國、葦原中國、葦原千五百秋之瑞穂國なども稱す。孰れも美稱なり。日本紀には「日本の二字をヤマトと訓す。神武天皇大和に皇基を奠め給ひてより、皇化次第に遠方及びて、遂に其の名が全國の總名となれるなり。ヤマト古くは「倭」と書く。倭人とは古代支那人の見て、東方民族の一となせし所のものにして、漢書地理志に「樂浪海中倭人あり、百餘國に分る」とあり。もとは朝鮮半島より我が九州地方に涉りて、其の存在の認められたるものなりしが、支那人は後に専ら「倭」を以て我が國の稱となし、我が國亦當初は之に倣ひしなり。而して日本紀が「日本」の二字を以てヤマトの語に當つる事は、もと支那人の見て倭人國となせし所のものが、主として九州地方の事にして、のちに我が國家に併合せられたるものなれば、其の「倭國」の名を以て我が國家をあらはさん事の、妥當ならざるを覺りてこれを正せるに外ならず。舊唐書日本傳に「日本國は倭國の別稱なり。其の國日邊に在るを以ての故に、日本を以て名となす。或は日曰。倭國自ら其の名の雅ならざるを惡み、改めて日本と爲す。或は

云ふ、日本はもと小國、倭國の地を併す。とあり。其倭國の地を併すといふ事は、雄略天皇の使を吳に遣はし給へる際

住するものならざるべからず。こゝに於て之を韓土の史籍に徴するに、日本紀の引用するところ、神功皇后より雄略天皇

て、「春日」の二字をカスカと讀み、「飛鳥」の二字をアスカと讀むと同一の例として解すべきなり。かくて孝德天皇の大

神多にあり、草木ことごとく物言ふ」とあるもの、之を語る。こゝに於て天津神

化融合し、夙に異民族としての存在を失つて、地理的關係上東北地方の蝦夷族のみが、最後まで異民族として取り遺さるゝ事となれり。かくて其の同化の史實

に於ては、奈良朝の頃僅かに九州の南端なる薩隅地方にのみ、単民族の遺存するありしが、それも養老年間の大反亂を最

が、たゞ／＼其の郡領の一が他の郡領より常に蝦夷として遇せらるゝに憤慨し、遂に暴動を起し蝦夷の大亂を惹起するに至れり。此の亂は其の原因が蝦夷族全體

して其の中の少数は北海道の蝦夷を専らりしも、其の多数は現地に踏み止まりたるまゝに、悉く日本民族に同化融合し

及び畿内五國に本籍を有する名家千八百十二氏のうち、歸化人の數實に三百七十

地方を中心としてその四近に繁延せしものにて其數の甚だ多かりし事は土中に埋

朝鮮半島より大舉して渡來せし或る民衆が、我が國津神との間に民族的闘争を交

る。然るに雄略天皇は、これをその奴隷の境遇より解放し、其の秦民たるの緣故

りて、悉く日本化しつゝあり。近く我が國家の下に参加せる臺灣人・朝鮮人等の

至りしこと、既に觀察せることなるなりとす。而して其の國津神と呼べる、先住の

天皇はこれを受納し給ふと共に、もとの韓國皇帝に對しては、皇族としての尊貴

るなり。蓋し漢に神武天皇大和平野を平

本傳に、日本は東北大山を限り、其の外は即ち毛人とあるもの蓋し此の形勢を示す。蝦夷は毛髮鬚の殊に濃厚なる人種なれば、唐人は古く之を毛人と稱す。然らば會津の名の起原を云ふもの、畢竟地名による後の附會説なるべし。降つて景行天皇の御代に至り、皇子日本武尊の西に熊襲、東に蝦夷を平げ給へるあり。ここに我が國家は東西に一大發展をなす。ついで尊の御子仲哀天皇の御代に九州北部の熊襲叛き、天皇之を親征して軍中に崩し給ひ、神功皇后其の遺業を繼承して先づ九州北部地方を平定し更に海を渡りて新羅を従へ給ふ。是より先、朝鮮半島の南部には馬韓、弁辰、辰韓の三韓あり。馬韓は西にありて五十四國、弁辰、辰韓各十二國其の東にありて雜居す。後に新羅國辰韓に起り、百濟國馬韓に起り、各々近傍の諸國を合せて其の大をなし、取り遣されたる諸小國は之を任那と稱して、夙に我が國に屬す。こゝに至りて新羅國更に我が國に服従し、次で百濟國また來歸して、朝鮮の南部悉く我が版圖に歸するに至りしなり。百濟は夙に支那と交通して其の文物を傳へ、此の點に於ては我が國よりも一日の長あり。是より其の文物は百濟を経て我が國に傳はり、我が文化進展の上に貢獻する所多かりき。また應神天皇の御代には前記の如く漢人阿知使主等の大率移民あり。彼等また祖國の文學技藝を傳へて我が文物の進歩を促す

所多く、更に天皇は直接吳國と交通を開きて、彼の進歩せる縫織の技術を輸入し給へり。吳とは古への三國鼎立時代に當り孫氏の吳國のありし地方にして、今の中支方面に當る。ついで雄略天皇復た使を吳に遣はし給ふ。當時の吳は劉氏の宋國にして、此の時、使者の齎せる國書の文に、我が祖宗以來の國威進展の狀を述べ、東毛人を征する五十五國、西東夷を服する六十六國、渡りて海北を平ぐる九十五國、王道撫泰、土を廓き畿を越くす」とあり。以て我が皇威進展の事情を察すべし。こゝに毛人が東方の蝦夷なること上記の如く、また西の衆夷とは支那人の謂ゆる倭人、即ち熊襲半人の族にして、考古學上の調査の結果によれば、當時既に九州地方の大部に互りて、皇化の普及せし事情を見るを得べし。また海北とは朝鮮半島の事にて、當時我が國に屬せしもの、百濟・新羅・任那・加羅・秦韓・慕韓六國の名が數へられ、半島の南半は悉く我が統治下に屬せし事を知るを得るなり。かくて欽明天皇の御代に百濟王佛係經論を傳へてより、佛教始めて我が國に弘まり、中にも聖德太子は大臣蘇我馬子と共に是が興隆につとめ給ひ、法隆寺・元興寺以下寺院の建立相つぎ、是に伴つて我が美術工藝の發達頗る著しきものあり。太子は又直接支那より佛經を求め給はるが爲に、使を隋國に遣はし給ひ、又多數の留學生を送りて、彼の制度

文物を學ばしめ給へり。後年大化改新の成れる、此の際の留學生に俟つ所頗る多かりき。そも我が古代の政治は、萬世一系の天皇上にまじりて國家を統率し給ひ、大臣・大連の諸家これを輔弼して政治の衝に當りしものなりき。然るにその勢力代を經るとともに次第に増大して、各地に莫大なる所領を有し、互に勢力を争ひし結果、大臣蘇我馬子は遂に大連物部守屋を亡ぼすに至り、是より蘇我氏ひとり國家の權力を壟斷して、專横の極達に皇室を蔑如するの舉動すら多かりき。かくて皇極天皇の御代に至り、中大兄皇子大いにこれを憤り給ひ、中臣鎌足等とともに相謀りて、大臣蘇我蝦夷及びその子入鹿を誅戮し、遂に大化改新を成就するに至る。大化の改新は當時の唐國の制度に則りしもの、曩に聖德太子の積ふ付け給ひし種子はこゝに其實を結びて、我が國の政治上劃期的の一大變革を成就せしものなりとす。從來の我が國家の組織は、すべて世襲の氏族によりて成り立ち、地方には國造・縣主などの豪族ありて土地人民を分領し、之を統治してほぼ封建政治の如き觀を呈し、中央の貴族またその間に多くの所領を有し、天皇及び皇族方の屯倉、及び部曲、田莊等、また少からず介在して、所管甚だ錯綜せしものなりき。然るに此のたが其の中の最有力者たる蘇我大臣家體も減亡せしかば、之を繼として一切の土地人民の私

有を撤廢し、悉く之を國家の公地公民となして、其の公民には各自一定の田地を班給し、人生るれば之を與へ、死すれば即ち之を收め、以て富の分配を公平ならしめたり。之を班田收授法と云ひ、其の班給せられたる田地を口分田といふ。また地方の政治は全國を幾多の國に分ち、其の國を更に幾つかの郡に分ち、郡司にばもとの國造など地方の豪族を任じて之を世襲せしめ、また國には中央政府より國司を派遣し、一定の期間を定めてこれを統治せしめたり。蓋し唐の郡縣の政治に倣へるもの。かくて日分田の班給に與かりし公民、即ち百姓は、それ自身悉く農民にして、即ち天皇の大御田を耕すところのオホモタカラ(大御田)なり。こゝに於て百姓の語は直ちに農民の語と同義となる。次に農民以外の雜職に従事するものはこれを雜戶と稱し、田地の班給に與からず、公民よりも一段の下級に置かれ、更にその下に賤民あり。賤民とは公民即ち良民に對する名稱にして、本來雜戶の類ながら、罪儀に關係して身に穢れありと認められたる賤戶と、家人・奴婢と呼ばれたる主人持とを總稱す。而して更にその以外に、國家より存在を認められざりし浮浪民も少からず存在したりしことは、また已むを得ざりしところなりき。此の大化の改新の斷行は、當時豪族專横の下に行き詰れたる民衆に對して、實に理想的の施政なりしもの、人には賢愚強

弱對弱の差ありて、同一の耕地を有するもの必ずしも常に同一の收穫を得る能はず、公民に對する富の公平なる分配も久しからずして其の實を失ひ、貧富の懸隔は愈々甚しくなりて、既に天武・持統兩天皇の御代の頃には、徳政を施行して公私の負債を解消するの已むなきの狀態にまで立ち至れり。この點に於て大化の改新は、確かに失敗なりきと謂はざるを得ず。また改新の主唱者とも謂ふべき中臣鎌足は、大功によりて新に有力なる藤原氏の家を起し、子孫繁榮して遂に天下の權力を其の一族に收むるに至る。かくて既に奈良朝聖武天皇の御代の頃には、政府は殆ど悉く藤原一家の獨占するの狀態となり、その女は舊慣を破りて、臣下にして皇后となるの先例をまで始め、殊に奈良朝末に至りては、藤原百川が棟腕を振ひて光仁・桓武の兩天皇擁立の功を負ひてより、藤原氏の勢力益々盛んにして、遂に藤原一族横暴の時代を現出するに至る。かくて一旦大化の改新により、天下の土地人民悉く公有たるべく規定せられし大原則も、年とともに次第に崩壊して、公地は多く莊園の名の下に、權門勢家の私有に歸し、地方官はこれらの權門に迎合して、専ら私利私慾を能事となし、毫も民衆の福利を顧ることなく、一般社會は非常なる混亂の狀態に陥りき。こゝに於て天下の公民は殆ど國家の保護を受くることを得ざる代りに、却つてそ

の公民たるの故を以て、常に國司の重課に苦しまざるを得ざる狀態にありき。こゝに於て彼等は進んで自ら公民たるの資格を捨てんことを求め、出家入道の方法によりて國家の戸籍より削除せられ、浮浪民の群に投ずるもの甚だ多かりき。延喜の頃に於ける三善清行の意見封事の記するところによれば、當時天下の人民三分の二は禿首の徒なりきといふ。禿首とは即ち僧侶のことなり。彼等は課役を避けんため、私に髪を削り、狼狽に法服をつけたるものにして、家に妻子を蓄へ、日に醜態を曝ひ、形は沙門に似て、心は屠兒の如しといはれしところの、破戒無慮の在家法師の徒なりき。かくの如き形勢なりしかば、天下至るところに盜賊蜂起し、良民は其の生に安んずるを得ざるに至りしも、國家は之に對して何等の保護を與ふること能はず。従つて有力者は必要上多數の護衛壯士を擁して自衛の道を講じ、微力のものばこれに隨從してその保護を受くるといふが如き、こゝに一種の主従關係を生じて、謂ゆる武士興起の時代を現出せり。これ等の護衛壯士は即ち所謂「侍」なるものにして、本來はその主に侍して座右の用務を辨するもの名稱なりしも、斯くの如き混亂の時代にありては、その侍が専ら武藝を練磨して、その主を護衛し、その主のために戦ふ。即ち一種の私兵にして、武士の名を以て呼ばるゝこととなる。而して當時そ

の侍として最も適任なりしものは、嘗て奥羽の夷地より移されて、内地諸國に散在せる蝦夷、即ち倭國の徒なりき。彼等は本來武勇、忠誠の特性を有し、古くは佐伯部として禁衛軍の近衛兵に任ぜられたりしほどにて、兵士としては最も適材なるものなりしなり。こゝに於てか平安朝末期の混亂時代には、政府は往々彼等を役して盜賊を追捕せしめ、警固の任に當らしめしこと、上文に述べたるが如く、今や彼等は有力者の侍として、その主に對して忠誠を勵み、所謂武士道は、こゝに大いに其の發達を遂ぐ。これ等の武士の頭領には、源平二氏最も有力にして、中にも平將門の如き、坂東諸國を占領して獨立を圖るの狀態にまで進展せり。この將門の叛は、幸にして同じく武士の棟梁たる源經基・藤原秀郷等の力によりて、間もなく平定するを得しが、武士の跋扈と、地方の混亂とは、これより以後益々甚しく、また瀬戸内海より九州の沿海地方には、所謂海賊なるもの跳梁を極めたり。海賊は即ち海上の武士にして、武士は即ち陸上の盜賊たり。當時の諺に膽力の優れしものを評して、「いみじき盜賊」なりといひ、或ば「名譽の強盜」等の語が繰返されたるを見ても、以てその世態の一斑を知るに足らん。此の際にありて藤原氏以下の權門勢家の徒は、引續き莫大なる莊園の所得に富貴を誇り、毫も地方の混亂、庶民の困窮を意とせ

ず、また源平等武士の棟梁は、これに何附迎合して、自ら進んでその爪牙に任じ、主人の威光を笠に被て、各自自己の勢力の擴張に努む。當時の諺に、「一人の勝に入りて萬人の頭を論ゆ」とあり。しかしながら、これ等權門勢家はただ過去の傳統によりて、僅かに顯榮を維持するに過ぎず。その實力は武士の手に掌握せらるるに至れり。藤原氏は曩に良房が清和幼帝を擁立して、藤原攝政の例をひらき、基經が光孝・宇多の兩天皇を擁立して、關白に任ぜられてより以來、藤原の人々常にこの要職を繼ぎ、果てはその一門間の權力の争奪より兄弟叔姪相闘ぐの醜を演ずるに至り、中にも道長最も勢力を得て攝關家の基礎を固めしが、道長の後五代、忠通・頼長の兄弟、權を争ひて、遂に保元・平治の二度の亂を誘致し、結局藤原氏の無力に暴露せられ、武士は遺憾なくその實力を發揮して、武士の棟梁平清盛、藤原に代りて一世の權力を掌握するに至る。しかしながら平氏はその權力を得ると共に、榮華に耽りて公家柔弱の風に染み、清盛自身太政大臣に任ぜられ、その一門また多く公卿の顯榮に上り、果ては平氏に非ざざるものば人にあらずとまで謂はるるほどの横暴を極めしがために、遂には剛健なる武士の特質を失ひ、反對者たる源氏のために滅ぼさる。こゝに於て源頼朝は、征夷大將軍の名を以て鎌倉に幕府を開き、平氏に代り

て天下の實権を掌握し、武家政治七百年の基を開くに至れり。幕府は即ち軍政府なり。將軍戰時に際して帷帳のうちに政府を設け、武人自ら政治の衝に當るの謂なり。従つて戦亂鎮定すれば當然廢止さるべき性質のものなるも、平安朝多年の混亂は餘りにも甚だしく、天下の萬民塗炭の苦しみにも陥りたる後承けて、之を拾收すべく遂に永續的のものとなりしなり。されば鎌倉幕府の武家政治は、混亂を極めし平安朝末期の世態に對して起死回生の注射を施せしものといふべく、武家政治の倒壞の爲に一身一家を擧げて犠牲に供せし程の宮方柱石の巨たる北畠親房すら、之を創めし源頼朝、之を完成せし北條泰時に對して、極度の諷刺の辭を禁する能はざりしなり。この間に於いて京都に於ける公家の政府は、依然としてその舊態を保存し、原則としては幕府はただ武士に對してのみ、その統御に任する次第なりしが、守護地頭の設置によりて、鎌倉武士は固く全國に配布せられ、實力のあるところ權力自らこれに歸して、公家の政府はただ虚名を擁するのみとなり、戰時にのみ存する管の軍政府たる武家政治は、爾後約七百年間繼續して、遂に明治維新に至る。勿論公家政府に於てはこれを快とせず、承久年間後鳥羽上皇、一旦これを覆さんと試み給へるも御失敗をばり、建武年間に後醍醐天皇は一時王政復古の大業を成就し給ひし

も、是れ亦間もなく足利尊氏の叛によりて、南北兩朝並立の變遷時代を現出し、戦亂相繼ぐこと五十餘年、結局南朝の後龜山天皇位を去りて、こゝに兩朝は合一し、武家政治は依然として繼續せり。しかしながら足利氏の幕府は南北朝争亂の後を受けて、その基礎固からず、よく配下の諸大名を統御するの實力なく、遂に権臣の勢力争ひの結果、所謂應仁の大亂となり、天下の大勢兩分して争亂相繼ぐこと十一年、その結果として従来地方に領地を有し、自身は幕府の膝下に定住せし諸大名も、各自その領地に就きて、互に勢力の擴張に努め、強食弱肉、遂に謂ゆる戰國時代を現出せり。戰國時代とはその名稱の示す如く、實に全國を通じて戰國状態に置かれたりしもの。少數の成功者の陰に多數の犠牲者發生し、實力あるものは門地に拘らず榮達す。「近日は士民侍の階級を見ざるの時なり、非人三黨の輩と雖も、守護國司の望をなすべく、左右する能はざるものなり」との、大乗院尊尊の遺言は遺憾なくその實情を語りしものなり。かくして戦亂相繼ぐこと約八十年、鎌倉時代以来の舊家は多くこの間に滅亡し、畏れ多くも上は皇室を始め奉り、公家の人々いづれも疲弊の極に陥り、一般民衆亦甚だしく塗炭の苦杯を嘗みさせらるゝに至れり。然るに永祿年間織田信長が尾張に出づるに及びて、次第にその地歩を開め、遂に近畿地方を平定

して、當に天下統一の偉業を成就せんとするの勢を示せしが、天正十年逆臣明智光秀のために弑せられ、豊臣秀吉その後を受けて、遂にこれを完成し、餘威は海を越えて朝鮮にまで及ぶに至る。秀吉はもと武人の出身ながら、自ら幕府を開くに至らず、曩に平家が成せしと同じく自身太政大臣となり、はては關白ともなりて、公家政治を以て天下に臨む。而もその基礎未だ固からざるうちに病歿し、徳川家康これに代りて幕府を江戸に設け、再び武家政治の舊に復す。爾來約二百七十年、江戸幕府は巧みに諸大名を統御して、すべて現状維持の政策を嚴守し、以てよくその太平を繼續するを得たるなり。しかしながらその現状を維持せんため、上は諸大名より、下は一般民衆に至るまで、非常なる彈壓を加へてこれを去勢し、これが接頭を豫防せざるを得ざりき。殊に武器を奪はれし一般民衆にありては、僅に約四十萬の武力を獨占する武士の下に壓迫せられ、ただ安穩に活き得るのみに満足して、殆んどその人格を無視するゝが如き状態に置かるゝに至りき。殊にこれに現状維持政策の一の表はれとして、鎮國政策が勵行せられ、ただオランダ人及び支那人のみが僅に長崎の一港を限りて、出入貿易を許さるゝに過ぎざりしを以て、交通機關の發達、武器の改善、その他あらゆる點に於て、西洋文明の進歩に伴ふことを得ざりき。然

るに歐米諸國に於ける文物の發達は、到底我が國のみ永く袖東に孤立することを許さず。嘉永五年米艦の浦賀來航によりて、こゝに形勢一變の端を開き、遂に和親條約の締結、國防設備の缺陷により、傳統的の現状維持政策も次第に崩壊して、國論沸騰、勤王の志士起りて倒幕の大業を唱ふるに至り、遂に明治維新の大業を成立す。徳川幕府の政治は謂ゆる封建制度に類し、地方は諸大名の分領に委して、各自その土地人民を私有し、幕府は上においてこれを統御す。幕府の直轄領、即ち天領、及び幕府直參の武士、即ち旗本の采邑は、大名領地の間に介在して、地方行政の區別甚だしく錯綜せるものなりき。當時我國の米の產出高、即ち謂ゆる石高は、勿論時代によりて相違ありしも大體全國約二千八百萬石、そのうち約二千萬石の地は諸大名これを所領し、約四百萬石は天領、残りの約四百萬石は旗本の采邑として、これを配給せしものなりき。然るに明治維新の政府は、先づ天領及び旗本の采邑を收公してこれを府縣に分割し、また諸大名にも版籍奉還せしめて、これを國家の有となし、府縣には政府任命の府知事・縣令を派遣してこれを統治せしめ、また藩には舊大名を知事に任命し、國家の地方官として引き続き舊領土及び領民を統治せしむ。然るに實施の經驗上、不便甚だ多かりしため、明治四年に至り、全國一律に藩を廢して

縣となし、舊大名と領地・領民との關係は、こゝに全くその終りを告げ、かくて爾後數回の分合廢置を経て、三府四十三縣分治の現状をなすに至る。蓋し明治の維新は武家に對する民衆の勝利にして、從來全く人格を無視せらるゝの状態に置かれし一般の百姓町人は、齊しく帝國臣民として在來の武士などと同一の權利義務を有することとなり、從來武家のみが有せし國防の義務をも、徴兵令の實施によりて國民一般の負擔とすることとなれり。また明治四年には、過去に於て久しく人外に置かれし穢多非人の稱をも廢して、之を平民と同じくし、從來は殆んど爲政者の任意に課税課求が行はれ、甚しく不安定なりし人民の財産權にも、國家は十分の保護を加へて、法律による場合以外何人とも一指をもこれに加ふることを得ざる程の保障を與へらる。こゝに於て國民は謂ゆる働き甲斐ある世界を得て、その努力は十分に酬いられ、爲に産業大いに發達し、國富み兵強きの實、現出す。かくて明治二十二年には欽定憲法發布せられ、翌二十三年帝國議會開催せられて、國民一般に其の參政權が認めらるゝ事となる。ついで日清・日露の二大戦役を経て、我が國威は著しく海外に宣揚せられ、臺灣・樺太の割讓を受け、更に朝鮮・滿洲に於ても特殊の權益を有することとなる。更に明治四十三年に至りて、韓國皇帝の委讓によりてその國を併

合し、大正三年以来の世界大戦にも参加して、南洋諸島の統治を委任せられ、ついで滿洲國の獨立を助けて、これが完成に努め、こゝに日滿支三國相提携して永く東洋平和の維持に貢献する所あらんとせしむ。頑迷なる支那政府は我が國の誠意を諒解する能はず、多年に渉る排日、侮日、抗日の彼の政策は、遂に蘆溝橋の事件となりて勃發し、我も亦已むを得ず之に應じて、遂に現下進行中の日支事變の發生を見るに至れり。【日本列島】アジヤ大陸の東縁にある列島。オホーツク海・日本海・東支那海の陥没により生ず。北は千島列島より北海道本島・本州島・四國島・九州島・南西諸島を経て南は臺灣島に連なる。その狀恰も花彩に似たるを以て西洋人はこれを花彩列島と美稱す。↓日本

Table with 4 columns: 名 (Name), 幅(軒) (Width), 平均深度(米) (Average Depth), 斷面積(平方軒) (Cross-sectional Area). Rows include 間宮海峡, 宗谷海峡, 津輕海峡, 對馬海峡, 東水道, 西水道.

は孤立せる島や、水面に連てざる海峽多きも、海底に深度二〇〇—二五〇米のやや平坦なる部分廣し。「大和地」は我が軍艦大和が大正十三年に發見せしものにて、最淺所は四三三米、日本海中央に大なる淺瀬を作る。日本海と太平洋やオホーツク海とを連絡する海峡の状態は次表の通りにて、中にも對馬海峡が最大とす。水が、津輕・宗谷の兩海峡より流出すと考へらる。間宮海峡はあまり關係なし。海流を生ずる原動力は東南部と西北部との氣温の差に基づく中層の水溫の差による密度差にて、日本海の水は、輕くてポテンシャルの大いなる東南部の水と、重くてポテンシャルの小なる西北部の水との間に起る密度流にて、表面にだけ風が修飾的の役目を演ずるに留まる。對馬海峡より流入する高層なる對馬海流は、海峡を通じて過する所にて、二分し、一部は本州沿岸を東北に流れ、他は日本海の中を大きく蛇行しつゝ、東に流れ秋田沖にて合し、大部分は津輕海峡より流出し、残りは北海道沿岸に沿うて北上し、大部分は宗谷海峡より流出し、残部は樺太西岸沿ひに北上す。また沿海州側を南下するリマン寒流はウラヤオストツクの東方洋上にて消失し、これとは別に同地附近より北朝鮮向流と呼ばるる寒流が朝鮮東岸に沿うて南下し蔚山附近に達し、對馬海流の下に潜流す。以上の海流は海峡部以外にては流速一—二哩程度なり。なほ沿海州側にてはウラヤオストツク附近まで冬季は結氷するため、同港の交通及び軍事的價値を減殺す。

【日本アルプス】 南日本を構成する日本南嶺山脈の東端は糸魚川—静岡大断層線に接して異常なる隆起を示し、内帯に飛騨山地及び木曾山地、外帯に赤石山地を起す。日本アルプスはこの三山地に與へられたる通稱にして、飛騨山地を北アルプス、木曾山地の駒ヶ岳連帯を中央アルプス、赤石山地を南アルプスとして區別す。この日本アルプスなる名稱は、明治二十三年の頃ガウランドによりて提唱せられたるものなるが、所謂アルプス型の高山相を有するこれ等三山地の代名詞としてまことにふさはしき名稱なるを以て、明治三十七八年頃より日本に登山熱の漸く勃興するに及びて最初は飛騨山地に、次に赤石山地に、最後に駒ヶ岳連帯にこの名稱用ひられ、漸次一般に通用せらるるに至る。(一)北アルプス 乗鞍火山帯・槍ヶ岳山脈・常念山脈・立山山脈・後立山山脈等を包括し、地域は美濃より飛騨・信濃を経て越中・越後に互る。乗鞍火山帯は乗鞍岳を首領とし御嶽・焼岳・硫黄岳等を含む。この火山の連帯はアルプス的の山岳の群團の中に特異な面して豊富なる風致を添ふ。硫黄岳に終りしところより、穂高岳の連帯屹立し、北上して槍ヶ岳・双六岳・蓮華岳を起すものを槍ヶ岳山脈となす。槍ヶ岳は日本アルプスの盟主にして脈中の最高峯なるのみならず、越中・立山への立山山脈を初め各方面への支脈を射出す。また穂高岳連帯は立

山の北に位置する剣ヶ岳とともに最もアルプス的な山貌を有す。双六岳の南に端麗なるピラミッド形の笠ヶ岳列なる。常念山脈は槍ヶ岳山脈の東に並行して南、霞澤岳より徳本峠を横ぎり、蝶ヶ岳・常念岳を起して、大天井岳を経て燕岳に終る。槍ヶ岳山脈の北端の蓮華岳は北東より、後立山山脈は北西より立山山脈の二山脈の來り會する所なり。立山山脈は黒部五郎岳(中俣岳)・上ノ岳・薬師ヶ岳・大薮山に連り、五色ヶ原・ザラ峠を経て立山の群山に達し、更に北方別山を過ぎて剣ヶ岳に至る。薬師ヶ岳・立山—剣ヶ岳は脈中の壯大なる波濤にして、闊谷を懸けたる巍峨たる山容は登山家の心を惹く。別山の西に大日岳連なりて富山平野を覗く。後立山山脈は蓮華岳より北東行す。鷲ヶ岳より赤岳に至りて黒岳・赤牛岳への小山脈と雲の平とを出し、本脈は更に北東進して野口五郎岳・三ツ岳・烏帽子岳・南澤岳・蓮華岳を越えて針ノ木峠に至る。針ノ木峠を横ぎりて、針ノ木岳・スバリ岳・赤澤岳・鳴澤岳・若小屋澤岳・祖父ヶ岳・鹿島槍ヶ岳・後立山・大里岳・八方岳・唐松岳・不歸岳・槍ヶ岳・杓子ヶ岳・白馬岳に至る。北アルプスの範圍は頗る廣大にして高度は何れも二五〇〇—二六〇〇米乃至三〇〇〇米前後の山岳なり。地形は主として信州側への斷層によりて形成され、山腹いづれも峻峻、山腹または巖谷には盛夏も雪を藏

し、木曾川・梓川・高瀬川・黒部川・常願寺川等の源は雪齧に發して變轉極りなき巖谷美を發揮す。(二)中央アルプス 即ち木曾山脈にて、鳥居峠附近に發し、木曾・天龍兩河の間を走りて、南下ともに數多の支脈を分岐し、同時に幅は廣く高度は減退し、末端は遂に尾參の平野に盡き、その延長殆ど一六〇軒の長きに互る。南・北アルプスには三〇〇〇米以上の峰が數座あるに反し本脈にては最高峰駒ヶ岳にても二九五六米にして、三〇〇〇米を超ゆるものなし。また南北アルプスにありては、二條の大山脈が並走し互に高峻を競ひ相俟ちて深きと大ききとを増せるも、木曾山脈にはそれを見ず。本山脈の主要部は北方茶臼山(二六五二米)より南方越前山(二六一三米)に至る間に、最高二九五六米、平均二七〇〇米以上にて、平均よりすれば南・北アルプスに劣らざるも、御岳または赤石岳方面より眺むるに高低の差著しからざる一連の山脈にして、たるみなき緊密せる姿にて雲表に浮ぶ。山脈を構成せる岩石は大部分花崗岩にして、これによりて貫かれたる古生層は山脈の北方の部分を作る。而して東西いづれより見ても急峻なる山側は謂ゆる屏風の如くに聳立し、連峰は正に壯年の開析されたる花崗岩山にして、その山容は豪壯偉麗なり。(三)南アルプス 白嶺・赤石の山脈にして、諏訪

湖の南方に起り、甲・信・駿の國境に走り漸次高度を減じ渥美半島に下る。本山脈中には海拔二七〇〇米を超ゆるもの二十餘座にて、そのうち三〇〇〇米を突破するものは十座の多きに達す。特に白峰北岳の三一九二米、間ノ岳の三一九九米等は何れも内地にては富士に次ぐ高峯なり。赤石山脈は遠江・三河方面より北東に進むに従ひ次第に標高加はり、駿・信の國境を北方に伸びる邊より益々隆起し、光岳・茶臼岳・仁田岳を起し、次第に高山相をあらはし來り、愈々北進するに及びて益々高く、終に本山脈の盟主赤石岳(三二二〇米)を中心として聖岳・上河内岳・兎岳・大澤岳を始め西河内岳・荒川岳・懸崖岳等屹立す。白峰山脈は山勢概ね北方に高く、北岳・間ノ岳・農鳥岳の白峰三山を最高に、南するに従ひて廣河内岳・白河内岳・飯山と次第に峻夷し白剝山の如きは二二七米にして高山の域を脱す。白峰連山と野呂川豁谷を挟みて立つものに甲斐鳳凰山塊あり。駒ヶ岳を盟主とする花崗岩の峻嶺にして、突兀たる山容の豪壯なることは剣ヶ岳と並稱せらるるところにして、駒ヶ岳山塊の南東直下には名高き摩利支天の斷崖が屹立し、その登攀には未だ成功せしものなしと云ふ。

【日本ライオン】 ↓木曾川

【日本ヶ岳】 大峰山脈の一端。主峰山上ヶ岳(一七一九米)の南東段なる大菩薩岳

ニツホ——ニツホ

ニツホ——ニツホ

(一七八〇米)の東に延ぶる山塊。北斜面は奈良縣吉野郡川上村に、南斜面は上北山村に屬す。南斜面には峯の窟あり。また南斜面より天ヶ瀬川が發し、南東流して北上川に合し、北東斜面より伯母谷川が發し、北東流して吉野川に落つ。

ニツホ——ニツホ

ニツホ——ニツホ

【二東面】 朝鮮京畿道抱川郡の東北隅。郡邑抱川の東北約二〇軒、北と東北とは江原道の鐵原・金化兩郡と境す。東境及び西境に各一條の山脈走り、前者は廣徳山(一〇四六米)・白雲山・國望峰(一一六八米)、後者は鳴城山(九二三米)・觀音山等連なり、此等東西兩山地間に永平川縱谷を作りて南流し沿岸に低地ありて田畑拓く。産物は米・麥・大豆・大麻等を主とし、また金・銀を出す。西方の永平より來る道路は自等峴(四二三米)・廣徳峴(六六四米)等を踰えて江原道と連絡するも、交通未だ便ならず。中部の面邑場岩里に五日毎に開く市場あり。

ニツホ——ニツホ

ニツホ——ニツホ

【二東面】 朝鮮京畿道抱川郡の東北隅。郡邑抱川の東北約二〇軒、北と東北とは江原道の鐵原・金化兩郡と境す。東境及び西境に各一條の山脈走り、前者は廣徳山(一〇四六米)・白雲山・國望峰(一一六八米)、後者は鳴城山(九二三米)・觀音山等連なり、此等東西兩山地間に永平川縱谷を作りて南流し沿岸に低地ありて田畑拓く。産物は米・麥・大豆・大麻等を主とし、また金・銀を出す。西方の永平より來る道路は自等峴(四二三米)・廣徳峴(六六四米)等を踰えて江原道と連絡するも、交通未だ便ならず。中部の面邑場岩里に五日毎に開く市場あり。

ニツホ——ニツホ

ニツホ——ニツホ

【二東面】 朝鮮京畿道抱川郡の東北隅。郡邑抱川の東北約二〇軒、北と東北とは江原道の鐵原・金化兩郡と境す。東境及び西境に各一條の山脈走り、前者は廣徳山(一〇四六米)・白雲山・國望峰(一一六八米)、後者は鳴城山(九二三米)・觀音山等連なり、此等東西兩山地間に永平川縱谷を作りて南流し沿岸に低地ありて田畑拓く。産物は米・麥・大豆・大麻等を主とし、また金・銀を出す。西方の永平より來る道路は自等峴(四二三米)・廣徳峴(六六四米)等を踰えて江原道と連絡するも、交通未だ便ならず。中部の面邑場岩里に五日毎に開く市場あり。

ニツホ——ニツホ

ニツホ——ニツホ

【二東面】 朝鮮京畿道抱川郡の東北隅。郡邑抱川の東北約二〇軒、北と東北とは江原道の鐵原・金化兩郡と境す。東境及び西境に各一條の山脈走り、前者は廣徳山(一〇四六米)・白雲山・國望峰(一一六八米)、後者は鳴城山(九二三米)・觀音山等連なり、此等東西兩山地間に永平川縱谷を作りて南流し沿岸に低地ありて田畑拓く。産物は米・麥・大豆・大麻等を主とし、また金・銀を出す。西方の永平より來る道路は自等峴(四二三米)・廣徳峴(六六四米)等を踰えて江原道と連絡するも、交通未だ便ならず。中部の面邑場岩里に五日毎に開く市場あり。

ニツホ——ニツホ

ニツホ——ニツホ

【二東面】 朝鮮京畿道抱川郡の東北隅。郡邑抱川の東北約二〇軒、北と東北とは江原道の鐵原・金化兩郡と境す。東境及び西境に各一條の山脈走り、前者は廣徳山(一〇四六米)・白雲山・國望峰(一一六八米)、後者は鳴城山(九二三米)・觀音山等連なり、此等東西兩山地間に永平川縱谷を作りて南流し沿岸に低地ありて田畑拓く。産物は米・麥・大豆・大麻等を主とし、また金・銀を出す。西方の永平より來る道路は自等峴(四二三米)・廣徳峴(六六四米)等を踰えて江原道と連絡するも、交通未だ便ならず。中部の面邑場岩里に五日毎に開く市場あり。

ニツホ——ニツホ

ニツホ——ニツホ

【二東面】 朝鮮京畿道抱川郡の東北隅。郡邑抱川の東北約二〇軒、北と東北とは江原道の鐵原・金化兩郡と境す。東境及び西境に各一條の山脈走り、前者は廣徳山(一〇四六米)・白雲山・國望峰(一一六八米)、後者は鳴城山(九二三米)・觀音山等連なり、此等東西兩山地間に永平川縱谷を作りて南流し沿岸に低地ありて田畑拓く。産物は米・麥・大豆・大麻等を主とし、また金・銀を出す。西方の永平より來る道路は自等峴(四二三米)・廣徳峴(六六四米)等を踰えて江原道と連絡するも、交通未だ便ならず。中部の面邑場岩里に五日毎に開く市場あり。

ニツホ——ニツホ

ニツホ——ニツホ

【二東面】 朝鮮京畿道抱川郡の東北隅。郡邑抱川の東北約二〇軒、北と東北とは江原道の鐵原・金化兩郡と境す。東境及び西境に各一條の山脈走り、前者は廣徳山(一〇四六米)・白雲山・國望峰(一一六八米)、後者は鳴城山(九二三米)・觀音山等連なり、此等東西兩山地間に永平川縱谷を作りて南流し沿岸に低地ありて田畑拓く。産物は米・麥・大豆・大麻等を主とし、また金・銀を出す。西方の永平より來る道路は自等峴(四二三米)・廣徳峴(六六四米)等を踰えて江原道と連絡するも、交通未だ便ならず。中部の面邑場岩里に五日毎に開く市場あり。

ニツホ——ニツホ

ニツホ——ニツホ

【二東面】 朝鮮京畿道抱川郡の東北隅。郡邑抱川の東北約二〇軒、北と東北とは江原道の鐵原・金化兩郡と境す。東境及び西境に各一條の山脈走り、前者は廣徳山(一〇四六米)・白雲山・國望峰(一一六八米)、後者は鳴城山(九二三米)・觀音山等連なり、此等東西兩山地間に永平川縱谷を作りて南流し沿岸に低地ありて田畑拓く。産物は米・麥・大豆・大麻等を主とし、また金・銀を出す。西方の永平より來る道路は自等峴(四二三米)・廣徳峴(六六四米)等を踰えて江原道と連絡するも、交通未だ便ならず。中部の面邑場岩里に五日毎に開く市場あり。

ニツホ——ニツホ

ニツホ——ニツホ

【二東面】 朝鮮京畿道抱川郡の東北隅。郡邑抱川の東北約二〇軒、北と東北とは江原道の鐵原・金化兩郡と境す。東境及び西境に各一條の山脈走り、前者は廣徳山(一〇四六米)・白雲山・國望峰(一一六八米)、後者は鳴城山(九二三米)・觀音山等連なり、此等東西兩山地間に永平川縱谷を作りて南流し沿岸に低地ありて田畑拓く。産物は米・麥・大豆・大麻等を主とし、また金・銀を出す。西方の永平より來る道路は自等峴(四二三米)・廣徳峴(六六四米)等を踰えて江原道と連絡するも、交通未だ便ならず。中部の面邑場岩里に五日毎に開く市場あり。

ニツホ——ニツホ

ニツホ——ニツホ

【二東面】 朝鮮京畿道抱川郡の東北隅。郡邑抱川の東北約二〇軒、北と東北とは江原道の鐵原・金化兩郡と境す。東境及び西境に各一條の山脈走り、前者は廣徳山(一〇四六米)・白雲山・國望峰(一一六八米)、後者は鳴城山(九二三米)・觀音山等連なり、此等東西兩山地間に永平川縱谷を作りて南流し沿岸に低地ありて田畑拓く。産物は米・麥・大豆・大麻等を主とし、また金・銀を出す。西方の永平より來る道路は自等峴(四二三米)・廣徳峴(六六四米)等を踰えて江原道と連絡するも、交通未だ便ならず。中部の面邑場岩里に五日毎に開く市場あり。

ニツホ——ニツホ

ニツホ——ニツホ

【二東面】 朝鮮京畿道抱川郡の東北隅。郡邑抱川の東北約二〇軒、北と東北とは江原道の鐵原・金化兩郡と境す。東境及び西境に各一條の山脈走り、前者は廣徳山(一〇四六米)・白雲山・國望峰(一一六八米)、後者は鳴城山(九二三米)・觀音山等連なり、此等東西兩山地間に永平川縱谷を作りて南流し沿岸に低地ありて田畑拓く。産物は米・麥・大豆・大麻等を主とし、また金・銀を出す。西方の永平より來る道路は自等峴(四二三米)・廣徳峴(六六四米)等を踰えて江原道と連絡するも、交通未だ便ならず。中部の面邑場岩里に五日毎に開く市場あり。

ニツホ——ニツホ

ニツホ——ニツホ

【二東面】 朝鮮京畿道抱川郡の東北隅。郡邑抱川の東北約二〇軒、北と東北とは江原道の鐵原・金化兩郡と境す。東境及び西境に各一條の山脈走り、前者は廣徳山(一〇四六米)・白雲山・國望峰(一一六八米)、後者は鳴城山(九二三米)・觀音山等連なり、此等東西兩山地間に永平川縱谷を作りて南流し沿岸に低地ありて田畑拓く。産物は米・麥・大豆・大麻等を主とし、また金・銀を出す。西方の永平より來る道路は自等峴(四二三米)・廣徳峴(六六四米)等を踰えて江原道と連絡するも、交通未だ便ならず。中部の面邑場岩里に五日毎に開く市場あり。

ニツホ——ニツホ

ニツホ——ニツホ

【二東面】 朝鮮京畿道抱川郡の東北隅。郡邑抱川の東北約二〇軒、北と東北とは江原道の鐵原・金化兩郡と境す。東境及び西境に各一條の山脈走り、前者は廣徳山(一〇四六米)・白雲山・國望峰(一一六八米)、後者は鳴城山(九二三米)・觀音山等連なり、此等東西兩山地間に永平川縱谷を作りて南流し沿岸に低地ありて田畑拓く。産物は米・麥・大豆・大麻等を主とし、また金・銀を出す。西方の永平より來る道路は自等峴(四二三米)・廣徳峴(六六四米)等を踰えて江原道と連絡するも、交通未だ便ならず。中部の面邑場岩里に五日毎に開く市場あり。

ニツホ——ニツホ

ニツホ——ニツホ

【二東面】 朝鮮京畿道抱川郡の東北隅。郡邑抱川の東北約二〇軒、北と東北とは江原道の鐵原・金化兩郡と境す。東境及び西境に各一條の山脈走り、前者は廣徳山(一〇四六米)・白雲山・國望峰(一一六八米)、後者は鳴城山(九二三米)・觀音山等連なり、此等東西兩山地間に永平川縱谷を作りて南流し沿岸に低地ありて田畑拓く。産物は米・麥・大豆・大麻等を主とし、また金・銀を出す。西方の永平より來る道路は自等峴(四二三米)・廣徳峴(六六四米)等を踰えて江原道と連絡するも、交通未だ便ならず。中部の面邑場岩里に五日毎に開く市場あり。

ニツホ——ニツホ

ニツホ——ニツホ

【二東面】 朝鮮京畿道抱川郡の東北隅。郡邑抱川の東北約二〇軒、北と東北とは江原道の鐵原・金化兩郡と境す。東境及び西境に各一條の山脈走り、前者は廣徳山(一〇四六米)・白雲山・國望峰(一一六八米)、後者は鳴城山(九二三米)・觀音山等連なり、此等東西兩山地間に永平川縱谷を作りて南流し沿岸に低地ありて田畑拓く。産物は米・麥・大豆・大麻等を主とし、また金・銀を出す。西方の永平より來る道路は自等峴(四二三米)・廣徳峴(六六四米)等を踰えて江原道と連絡するも、交通未だ便ならず。中部の面邑場岩里に五日毎に開く市場あり。

ニツホ——ニツホ

ニツホ——ニツホ

【二東面】 朝鮮京畿道抱川郡の東北隅。郡邑抱川の東北約二〇軒、北と東北とは江原道の鐵原・金化兩郡と境す。東境及び西境に各一條の山脈走り、前者は廣徳山(一〇四六米)・白雲山・國望峰(一一六八米)、後者は鳴城山(九二三米)・觀音山等連なり、此等東西兩山地間に永平川縱谷を作りて南流し沿岸に低地ありて田畑拓く。産物は米・麥・大豆・大麻等を主とし、また金・銀を出す。西方の永平より來る道路は自等峴(四二三米)・廣徳峴(六六四米)等を踰えて江原道と連絡するも、交通未だ便ならず。中部の面邑場岩里に五日毎に開く市場あり。

ニツホ——ニツホ

ニツホ——ニツホ

【二東面】 朝鮮京畿道抱川郡の東北隅。郡邑抱川の東北約二〇軒、北と東北とは江原道の鐵原・金化兩郡と境す。東境及び西境に各一條の山脈走り、前者は廣徳山(一〇四六米)・白雲山・國望峰(一一六八米)、後者は鳴城山(九二三米)・觀音山等連なり、此等東西兩山地間に永平川縱谷を作りて南流し沿岸に低地ありて田畑拓く。産物は米・麥・大豆・大麻等を主とし、また金・銀を出す。西方の永平より來る道路は自等峴(四二三米)・廣徳峴(六六四米)等を踰えて江原道と連絡するも、交通未だ便ならず。中部の面邑場岩里に五日毎に開く市場あり。

ニツホ——ニツホ

ニツホ——ニツホ

【二東面】 朝鮮京畿道抱川郡の東北隅。郡邑抱川の東北約二〇軒、北と東北とは江原道の鐵原・金化兩郡と境す。東境及び西境に各一條の山脈走り、前者は廣徳山(一〇四六米)・白雲山・國望峰(一一六八米)、後者は鳴城山(九二三米)・觀音山等連なり、此等東西兩山地間に永平川縱谷を作りて南流し沿岸に低地ありて田畑拓く。産物は米・麥・大豆・大麻等を主とし、また金・銀を出す。西方の永平より來る道路は自等峴(四二三米)・廣徳峴(六六四米)等を踰えて江原道と連絡するも、交通未だ便ならず。中部の面邑場岩里に五日毎に開く市場あり。

ニツホ——ニツホ

ニツホ——ニツホ

【二東面】 朝鮮京畿道抱川郡の東北隅。郡邑抱川の東北約二〇軒、北と東北とは江原道の鐵原・金化兩郡と境す。東境及び西境に各一條の山脈走り、前者は廣徳山(一〇四六米)・白雲山・國望峰(一一六八米)、後者は鳴城山(九二三米)・觀音山等連なり、此等東西兩山地間に永平川縱谷を作りて南流し沿岸に低地ありて田畑拓く。産物は米・麥・大豆・大麻等を主とし、また金・銀を出す。西方の永平より來る道路は自等峴(四二三米)・廣徳峴(六六四米)等を踰えて江原道と連絡するも、交通未だ便ならず。中部の面邑場岩里に五日毎に開く市場あり。

ニツホ——ニツホ

ニツホ——ニツホ

【二東面】 朝鮮京畿道抱川郡の東北隅。郡邑抱川の東北約二〇軒、北と東北とは江原道の鐵原・金化兩郡と境す。東境及び西境に各一條の山脈走り、前者は廣徳山(一〇四六米)・白雲山・國望峰(一一六八米)、後者は鳴城山(九二三米)・觀音山等連なり、此等東西兩山地間に永平川縱谷を作りて南流し沿岸に低地ありて田畑拓く。産物は米・麥・大豆・大麻等を主とし、また金・銀を出す。西方の永平より來る道路は自等峴(四二三米)・廣徳峴(六六四米)等を踰えて江原道と連絡するも、交通未だ便ならず。中部の面邑場岩里に五日毎に開く市場あり。

ニツホ——ニツホ

ニツホ——ニツホ

【二東面】 朝鮮京畿道抱川郡の東北隅。郡邑抱川の東北約二〇軒、北と東北とは江原道の鐵原・金化兩郡と境す。東境及び西境に各一條の山脈走り、前者は廣徳山(一〇四六米)・白雲山・國望峰(一一六八米)、後者は鳴城山(九二三米)・觀音山等連なり、此等東西兩山地間に永平川縱谷を作りて南流し沿岸に低地ありて田畑拓く。産物は米・麥・大豆・大麻等を主とし、また金・銀を出す。西方の永平より來る道路は自等峴(四二三米)・廣徳峴(六六四米)等を踰えて江原道と連絡するも、交通未だ便ならず。中部の面邑場岩里に五日毎に開く市場あり。

ニツホ——ニツホ

ニツホ——ニツホ

【二東面】 朝鮮京畿道抱川郡の東北隅。郡邑抱川の東北約二〇軒、北と東北とは江原道の鐵原・金化兩郡と境す。東境及び西境に各一條の山脈走り、前者は廣徳山(一〇四六米)・白雲山・國望峰(一一六八米)、後者は鳴城山(九二三米)・觀音山等連なり、此等東西兩山地間に永平川縱谷を作りて南流し沿岸に低地ありて田畑拓く。産物は米・麥・大豆・大麻等を主とし、また金・銀を出す。西方の永平より來る道路は自等峴(四二三米)・廣徳峴(六六四米)等を踰えて江原道と連絡するも、交通未だ便ならず。中部の面邑場岩里に五日毎に開く市場あり。

ニツホ——ニツホ

ニツホ——ニツホ

【二東面】 朝鮮京畿道抱川郡の東北隅。郡邑抱川の東北約二〇軒、北と東北とは江原道の鐵原・金化兩郡と境す。東境及び西境に各一條の山脈走り、前者は廣徳山(一〇四六米)・白雲山・國望峰(一一六八米)、後者は鳴城山(九二三米)・觀音山等連なり、此等東西兩山地間に永平川縱谷を作りて南流し沿岸に低地ありて田畑拓く。産物は米・麥・大豆・大麻等を主とし、また金・銀を出す。西方の永平より來る道路は自等峴(四二三米)・廣徳峴(六六四米)等を踰えて江原道と連絡するも、交通未だ便ならず。中部の面邑場岩里に五日毎に開く市場あり。

ニツホ——ニツホ

ニツホ——ニツホ

【二東面】 朝鮮京畿道抱川郡の東北隅。郡邑抱川の東北約二〇軒、北と東北とは江原道の鐵原・金化兩郡と境す。東境及び西境に各一條の山脈走り、前者は廣徳山(一〇四六米)・白雲山・國望峰(一一六八米)、後者は鳴城山(九二三米)・觀音山等連なり、此等東西兩山地間に永平川縱谷を作りて南流し沿岸に低地ありて田畑拓く。産物は米・麥・大豆・大麻等を主とし、また金・銀を出す。西方の永平より來る道路は自等峴(四二三米)・廣徳峴(六六四米)等を踰えて江原道と連絡するも、交通未だ便ならず。中部の面邑場岩里に五日毎に開く市場あり。

ニツホ——ニツホ

ニツホ——ニツホ

【二東面】 朝鮮京畿道抱川郡の東北隅。郡邑抱川の東北約二〇軒、北と東北とは江原道の鐵原・金化兩郡と境す。東境及び西境に各一條の山脈走り、前者は廣徳山(一〇四六米)・白雲山・國望峰(一一六八米)、後者は鳴城山(九二三米)・觀音山等連なり、此等東西兩山地間に永平川縱谷を作りて南流し沿岸に低地ありて田畑拓く。産物は米・麥・大豆・大麻等を主とし、また金・銀を出す。西方の永平より來る道路は自等峴(四二三米)・廣徳峴(六六四米)等を踰えて江原道と連絡するも、交通未だ便ならず。中部の面邑場岩里に五日毎に開く市場あり。

ニツホ——ニツホ

ニツホ——ニツホ

【二東面】 朝鮮京畿道抱川郡の東北隅。郡邑抱川の東北約二〇軒、北と東北とは江原道の鐵原・金化兩郡と境す。東境及び西境に各一條の山脈走り、前者は廣徳山(一〇四六米)・白雲山・國望峰(一一六八米)、後者は鳴城山(九二三米)・觀音山等連なり、此等東西兩山地間に永平川縱谷を作りて南流し沿岸に低地ありて田畑拓く。産物は米・麥・大豆・大麻等を主とし、また金・銀を出す。西方の永平より來る道路は自等峴(四二三米)・廣徳峴(六六四米)等を踰えて江原道と連絡するも、交通未だ便ならず。中部の面邑場岩里に五日毎に開く市場あり。

ニツホ——ニツホ

ニツホ——ニツホ

【二東面】 朝鮮京畿道抱川郡の東北隅。郡邑抱川の東北約二〇軒、北と東北とは江原道の鐵原・金化兩郡と境す。東境及び西境に各一條の山脈走り、前者は廣徳山(一〇四六米)・白雲山・國望峰(一一六八米)、後者は鳴城山(九二三米)・觀音山等連なり、此等東西兩山地間に永平川縱谷を作りて南流し沿岸に低地ありて田畑拓く。産物は米・麥・大豆・大麻等を主とし、また金・銀を出す。西方の永平より來る道路は自等峴(四二三米)・廣徳峴(六六四米)等を踰えて江原道と連絡するも、交通未だ便ならず。中部の面邑場岩里に五日毎に開く市場あり。

ニツホ——ニツホ

ニツホ——ニツホ

【二東面】 朝鮮京畿道抱川郡の東北隅。郡邑抱川の東北約二〇軒、北と東北とは江原道の鐵原・金化兩郡と境す。東境及び西境に各一條の山脈走り、前者は廣徳山(一〇四六米)・白雲山・國望峰(一一六八米)、後者は鳴城山(九二三米)・觀音山等連なり、此等東西兩山地間に永平川縱谷を作りて南流し沿岸に低地ありて田畑拓く。産物は米・麥・大豆・大麻等を主とし、また金・銀を出す。西方の永平より來る道路は自等峴(四二三米)・廣徳峴(六六四米)等を踰えて江原道と連絡するも、交通未だ便ならず。中部の面邑場岩里に五日毎に開く市場あり。

ニツホ——ニツホ

ニツホ——ニツホ

【二東面】 朝鮮京畿道抱川郡の東北隅。郡邑抱川の東北約二〇軒、北と東北とは江原道の鐵原・金化兩郡と境す。東境及び西境に各一條の山脈走り、前者は廣徳山(一〇四六米)・白雲山・國望峰(一一六八米)、後者は鳴城山(九二三米)・觀音山等連なり、此等東西兩山地間に永平川縱谷を作りて南流し沿岸に低地ありて田畑拓く。産物は米・麥・大豆・大麻等を主とし、また金・銀を出す。西方の永平より來る道路は自等峴(四二三米)・廣徳峴(六六四米)等を踰えて江原道と連絡するも、交通未だ便ならず。中部の面邑場岩里に五日毎に開く市場あり。

ニツホ——ニツホ

ニツホ——ニツホ

【二東面】 朝鮮京畿道抱川郡の東北隅。郡邑抱川の東北約二〇軒、北と東北とは江原道の鐵原・金化兩郡と境す。東境及び西境に各一條の山脈走り、前者は廣徳山(一〇四六米)・白雲山・國望峰(一一六八米)、後者は鳴城山(九二三米)・觀音山等連なり、此等東西兩山地間に永平川縱谷を作りて南流し沿岸に低地ありて田畑拓く。産物は米・麥・大豆・大麻等を主とし、また金・銀を出す。西方の永平より來る道路は自等峴(四二三米)・廣徳峴(六六四米)等を踰えて江原道と連絡するも、交通未だ便ならず。中部の面邑場岩里に五日毎に開く市場あり。

ニツホ——ニツホ

ニツホ——ニツホ

【二東面】 朝鮮京畿道抱川郡の東北隅。

二ノヘーニノミ

年設置あり。

二ノヘ 二戸郡 岩手縣陸奥國の郡。縣の北西部に位し、北は青森縣三戸郡、西は秋田縣鹿角郡、南は岩手郡、東は九戸郡に隣接す。面積一二二五・〇七平方

り出づともいふも詳ならず。もと青森縣に屬せしが、明治九年五月陸奥國仙臺郡とともに岩手縣に入り今日に至る。郡は福岡・一戸の二町及び十三箇村を含む。

ニノミヤ 二宮

【二宮町】 千葉縣下總品千葉郡の西部。津田沼町の北隣にて、西は東葛飾郡の一

部と隣す。全町低き臺地をなし、西部には森林、東部には草原あり。臺地間に耕地ありて農業行はれ、米・麥を産し、養鶏も行はる。佐倉街道は津田沼町より來りて町内を東北に走り、津田沼町へパスの便ありて同町の省線總武本線津田沼驛と連絡す。この地は和名抄、千葉郡山家郷の内なり。明治五年十月陸軍練兵場を茲に置き、翌年四月明治天皇行幸遊ばされ、習志野原の御名を賜ふ。いま東京憲兵分隊習志野分隊・演習廠舎・陸軍騎兵學校等あり。明治天皇は明治二年東京御再幸の際、同六年大和田原行幸の際、同八年習志野下志津原行幸の際、同九年習志野行幸の際、同十二年千葉縣下行幸の際等數度行幸あり、いま明治天皇習志野行幸所として指定史蹟たり。【二宮神社】 大字三山に鎮座。郷社。祭神、須佐之男命・稻田比賣命外二神。式内社。往古は近在二十三村の總鎮守にして社運隆盛なりしが、貞享年中炎上し、社宇・神寶・舊記等悉く失ふ。例祭、十月十六日。【二宮町】 神奈川縣相模國中部の南部。相模灣に臨み、西は足柄上郡及び足柄下

郡の一部と隣す。全町丘陵地にて、南部の海岸附近のみ稍平地をなす。農業行はれて麥・甘藷・馬鈴薯・蕎麥・粟・大豆等を産し養蠶も行はる。海岸は單調なる砂濱にして海水浴場として知らる。東海道は海岸附近を西走し、主なる葉落はこれに沿ひて發達し、省線東海道本線またこれに沿ひ、二宮驛(明治三十五年設置)を置く。二宮驛より湘南軌道自動車線は北走して秦野町に通ず。此地は和名抄、餘綾郡霜見郷の地。もと吾妻村といひ、昭和十年二宮町と改む。大字山西は往時梅澤の里と呼ばれ、梅樹多く道與准后の廻國雜記に「旅衣春待心替らねばきくもなつかし梅澤の里」とあり。【川勾神社】 大字山西に鎮座。郷社。祭神、大名奉還命。式内社。相模國十三座の一にしてまた二ノ宮たり。朱印領五十石。例祭、九月二十八日。【二宮村】 鳥取縣石見國那賀郡の北部。都野津町の南及び東を圍みその南に隣り西北は日本海に面す。東部及び南部は二五〇一二六〇米の丘陵にして西北部に沿岸平野開け海岸は平直なる砂濱をなす。米・麥・芋等の農産を出し、副業には養蠶盛なり。また瓦製造職人としての出稼多し。海岸に山陰街道走りてパスの便よく、また省線山陰線通過して西北境附近に都野津驛あり。この地は和名抄、那賀郡那賀郷の内。大字神主に縣社多嶋神社あり、里磐石見の二宮と稱す。【冬嶋神

社】 大字神主に鎮座。縣社。祭神、積羽八重事代主命・國常立命。創立年代および由緒等を詳かにせざるも、延喜の制に小社に列す。貞觀二年に大和國高市神社より遷し、同年九月朔日、多嶋山古瀬谷に鎮座し、文安年間に至りて現社地に遷座すと云ふ。例祭、十月二十一日。【二宮】 岡山縣吉田郡にありし村。昭和四年津山市に編入す。

ニノミヤ 二ノ宮村

香川縣讃岐國三豐郡の中央東偏。觀音寺町の東々北約三軒。仲多度郡琴平町はその東々北三軒餘にあり。全村山地をなして東北部には傾山(二七七米)聳り、南境には知行寺山(二六三米)そびえ、西北境には鳥越山あり。南部には本村に發する宍川西流して約一・五軒西方にて財田川に合し、西部に稍々平野開く。村内に湖沼あり。主生業は農業にして米・麥・蕎麥・粟等を産し、特産物には柿・柿・蜜柑・吟等あり。縣道は西北部を東北より西南に横切りそれより分れて西方へ走る縣道數條あり。省線讃岐線上高瀬驛へは西北方約三軒。本山驛へは西方約三軒なり。この地は和名抄、三野郡大野郷の内。中世は二宮莊と稱せし地。【二ノ宮家址】 指定史蹟。大字羽方字砂原、大水上神社境内丘陵の西麓にあり、現在二宮の寢室發見せらる。一は方形にして火口東北面し底部に遺付臺二つあり、その中間及び左右は通火溝をなし、巴瓦・唐草瓦・土器及び

瓦甍等發見せらる。他の一は前者の西北約一二米にあり、略々圓形をなし、火口北面し底部に遺付臺六箇あり、その間の通火溝は葉狀を呈す。唐草瓦を發見せるも二箇ともに鎌倉時代を降らざる頃のものなり。【大水上神社】 大字羽方に鎮座。郷社。祭神、大山祇命。式内小社に列し、當國二十四座の一。後鳥羽天皇の元暦年中、源平二氏當國屋島に戦ふて、共に當社に願文を捧げて戦捷を祈れり。以て當時の盛を知るべし。往時は二ノ宮と稱せり、村名これに起る。例祭、十月四日・五日。

【二ノ宮】 千葉縣下總品千葉郡の西部。津田沼町の北隣にて、西は東葛飾郡の一部と隣す。全町低き臺地をなし、西部には森林、東部には草原あり。臺地間に耕地ありて農業行はれ、米・麥を産し、養鶏も行はる。佐倉街道は津田沼町より來りて町内を東北に走り、津田沼町へパスの便ありて同町の省線總武本線津田沼驛と連絡す。この地は和名抄、千葉郡山家郷の内なり。明治五年十月陸軍練兵場を茲に置き、翌年四月明治天皇行幸遊ばされ、習志野原の御名を賜ふ。いま東京憲兵分隊習志野分隊・演習廠舎・陸軍騎兵學校等あり。明治天皇は明治二年東京御再幸の際、同六年大和田原行幸の際、同八年習志野下志津原行幸の際、同九年習志野行幸の際、同十二年千葉縣下行幸の際等數度行幸あり、いま明治天皇習志野行幸所として指定史蹟たり。【二宮神社】 大字三山に鎮座。郷社。祭神、須佐之男命・稻田比賣命外二神。式内社。往古は近在二十三村の總鎮守にして社運隆盛なりしが、貞享年中炎上し、社宇・神寶・舊記等悉く失ふ。例祭、十月十六日。【二宮町】 神奈川縣相模國中部の南部。相模灣に臨み、西は足柄上郡及び足柄下

郡の一部と隣す。全町丘陵地にて、南部の海岸附近のみ稍平地をなす。農業行はれて麥・甘藷・馬鈴薯・蕎麥・粟・大豆等を産し養蠶も行はる。海岸は單調なる砂濱にして海水浴場として知らる。東海道は海岸附近を西走し、主なる葉落はこれに沿ひて發達し、省線東海道本線またこれに沿ひ、二宮驛(明治三十五年設置)を置く。二宮驛より湘南軌道自動車線は北走して秦野町に通ず。此地は和名抄、餘綾郡霜見郷の地。もと吾妻村といひ、昭和十年二宮町と改む。大字山西は往時梅澤の里と呼ばれ、梅樹多く道與准后の廻國雜記に「旅衣春待心替らねばきくもなつかし梅澤の里」とあり。【川勾神社】 大字山西に鎮座。郷社。祭神、大名奉還命。式内社。相模國十三座の一にしてまた二ノ宮たり。朱印領五十石。例祭、九月二十八日。【二宮村】 鳥取縣石見國那賀郡の北部。都野津町の南及び東を圍みその南に隣り西北は日本海に面す。東部及び南部は二五〇一二六〇米の丘陵にして西北部に沿岸平野開け海岸は平直なる砂濱をなす。米・麥・芋等の農産を出し、副業には養蠶盛なり。また瓦製造職人としての出稼多し。海岸に山陰街道走りてパスの便よく、また省線山陰線通過して西北境附近に都野津驛あり。この地は和名抄、那賀郡那賀郷の内。大字神主に縣社多嶋神社あり、里磐石見の二宮と稱す。【冬嶋神

社】 大字神主に鎮座。縣社。祭神、積羽八重事代主命・國常立命。創立年代および由緒等を詳かにせざるも、延喜の制に小社に列す。貞觀二年に大和國高市神社より遷し、同年九月朔日、多嶋山古瀬谷に鎮座し、文安年間に至りて現社地に遷座すと云ふ。例祭、十月二十一日。【二宮】 岡山縣吉田郡にありし村。昭和四年津山市に編入す。

二ノミヤホンコー 二宮本郷村 千葉縣上總國長生郡の西北部。茂原町の西北隣。全村丘陵地にて森林あり。中部には丘陵間に細長き平地ありて水田・畑地をなし、米・麥を産し、養蠶・養蠶も行はる。縣道茂原町に通じ、省線房總東線茂原驛(社線南總鐵道の分岐點)に出づるに便なり。この地は和名抄、長柄郡菅見郷の内なるべく、近世は二宮庄と稱せし地なり。村内に數十の岩穴あり、これ上古、土人の穴居の跡なるべし。

【二ノミヤ】 千葉縣上總國長生郡の西北部。茂原町の西北隣。全村丘陵地にて森林あり。中部には丘陵間に細長き平地ありて水田・畑地をなし、米・麥を産し、養蠶・養蠶も行はる。縣道茂原町に通じ、省線房總東線茂原驛(社線南總鐵道の分岐點)に出づるに便なり。この地は和名抄、長柄郡菅見郷の内なるべく、近世は二宮庄と稱せし地なり。村内に數十の岩穴あり、これ上古、土人の穴居の跡なるべし。

【二ノミヤ】 千葉縣上總國長生郡の西北部。茂原町の西北隣。全村丘陵地にて森林あり。中部には丘陵間に細長き平地ありて水田・畑地をなし、米・麥を産し、養蠶・養蠶も行はる。縣道茂原町に通じ、省線房總東線茂原驛(社線南總鐵道の分岐點)に出づるに便なり。この地は和名抄、長柄郡菅見郷の内なるべく、近世は二宮庄と稱せし地なり。村内に數十の岩穴あり、これ上古、土人の穴居の跡なるべし。

【二ノミヤ】 千葉縣上總國長生郡の西北部。茂原町の西北隣。全村丘陵地にて森林あり。中部には丘陵間に細長き平地ありて水田・畑地をなし、米・麥を産し、養蠶・養蠶も行はる。縣道茂原町に通じ、省線房總東線茂原驛(社線南總鐵道の分岐點)に出づるに便なり。この地は和名抄、長柄郡菅見郷の内なるべく、近世は二宮庄と稱せし地なり。村内に數十の岩穴あり、これ上古、土人の穴居の跡なるべし。

二ノモリ 二ノ森 石鏡山脈の一峰。主峰石鏡山の西稜に連る山なり。愛媛縣上浮穴郡河村と周桑郡千足山村の境上に位す。標高一九三〇米。西稜は堂ヶ森(二六九〇米)に連る。

【二ノモリ】 二ノ森 石鏡山脈の一峰。主峰石鏡山の西稜に連る山なり。愛媛縣上浮穴郡河村と周桑郡千足山村の境上に位す。標高一九三〇米。西稜は堂ヶ森(二六九〇米)に連る。

【二ノモリ】 二ノ森 石鏡山脈の一峰。主峰石鏡山の西稜に連る山なり。愛媛縣上浮穴郡河村と周桑郡千足山村の境上に位す。標高一九三〇米。西稜は堂ヶ森(二六九〇米)に連る。

【二ノモリ】 二ノ森 石鏡山脈の一峰。主峰石鏡山の西稜に連る山なり。愛媛縣上浮穴郡河村と周桑郡千足山村の境上に位す。標高一九三〇米。西稜は堂ヶ森(二六九〇米)に連る。

二ハク 二白面 朝鮮全羅北道南原

【二ハク】 二白面 朝鮮全羅北道南原

【二ハク】 二白面 朝鮮全羅北道南原

【二ハク】 二白面 朝鮮全羅北道南原

繭・鶏卵・葉煙草・魚類などの産物あり。また特産にはナット細工あり。阿波街道中央を東西に走り途中一道分れて西北方に走り海岸に出で津田町・志度町等を過ぎて高松市に通じ高松市及び南東方面西町にバスの便あり。又省線高松線中央を通過して丹生驛(昭和三年設置)あり。

この地は和名抄、大内郡入野郷の内。源平盛衰記に元暦二年二月、義経、其の日は阿波國板東西打過て、阿波と讃岐の境なる中山の山口の南に陣を取り、翌日は引田浦入野、高松郷を打過、屋島の城に押寄せりとある入野は此地なり。(石清水神社) 大字大谷に鎮座。郷社。祭神、譽田別尊外二神。山城國久世郡石清水八幡宮の分靈を勧請せしものにして、後陽成天皇の文祿年中再嘗すと。例祭、十月二日。(釋王寺) 古義眞言宗。大深山延命院。同宗御室末。寺傳に據れば神龜年間、行基、自作の聖觀音像を安置して之を創せしに始る。延暦十二年空海、寺に留錫し藥師如來像を刻して安じ、大いに堂宇を改修す。往時末寺二十二箇寺を擁して寺勢甚だ隆盛なりき。天正年中兵火に罹りて堂塔烏有に歸せしが範俊これを中興す。觀音立像(木造)一軀は國寶なり。

ニフカワ 壬生川 省線讃岐本線の一驛(大正十二年設置)。愛媛縣周桑郡多賀村にあり。

ニフカワ 仁豊野 兵庫縣姫路市の町。播但線の仁豊野驛(明治二十九年設置)を置く。

ニフカワ 山 北海道十勝支庁上川郡新得町と河東郡音更村の境上に跨る山。標高二〇一三米。石狩岳と共に大雪山國立公園南東部に於ける雄峯にして、石狩岳(一九八〇米)よりや、高し。古生層褶曲山脈の特長を有し、山容男性的なり。山腹までは蝦夷松・樺松の原生林掩ひ、また白樺の純林もあり、更に上部は岳樺帯となり、山頂部は樺松帯をなし、諸所に高山植物多く、特に東側は美しき御花畑をなし、エゾツツジは美し。山頂は尖峯をなして狭く、昭和十年七月北海道測量部の建てし三角標あり。東西兩斜面とも急傾斜をなし、西斜面にはイロヒゲ・ハナコケ・イワウメ・コケモモ等繁る。東側は山腹の侵蝕深き斷崖となりて音更川支流ホロカ川の谷に下る。山頂より展望は雄大廣闊にて四圍の高峯巨岳

ニホリ 仁堀村 岡山縣備前國赤松郡の北部。西北部は久米郡に接し、同郡弓削町の東南約二軒にあり。全村山地の傾斜地をなし南北より中央へ緩く下り中央南偏に小河東北流して二軒餘東にて吉井川に合す。米・麥・繭・木炭の外、薄荷・生柿の特産あり。縣道中央を貫き、南方岡山市に至るバスあり。(布勢神社) 大字仁堀西に鎮座。郷社。祭神、大穴牟遲神。式内社。祭神は此地の豪族布施氏の祖神なりと云ふ。神階は本國總社神名帳に從二位と見ゆ。もと祭田は七段七畝を有すと云ふも、備陽國誌には近世まで一石八斗とあり。例祭、十月十五日。

ニホンキ 二本木 信越本線の一驛(明治四十四年設置)。新潟縣中頸城郡中郷村にあり。

ニホンコバ 日本コバ 鈴鹿山脈の一峯。滋賀縣彦根市の南方約二〇軒、同縣愛知郡東小椋村と高野村との境上に位する山。標高九三三米。山頂は草本帯の高原状をなし、一陣の中に鈴鹿の連嶺、伊吹・比叡の山々を望見し、絶好なる展望をなす。特に新緑・紅葉の候は美し。山頂より東方へ約二〇〇米下りし箇所にヒョロノ穴と稱する鍾乳洞あり。北西斜面より犬上川發して北流す。山名は昔二人の木樵この山に登りし時、當然と眺望開けしかば「好コバチヤ、日本一のコバチヤ」と云へるに由来すと。コバとは蘆場を意味す。

ニホンバシ 日本橋區 東京市三十五區の一。麴町區の東に隣り、北は龍閑川及び神田川を以て神田・淺草二區と境し、南は京橋區に接し、東は隅田川を隔て、本所・深川の兩區に對す。江戸城下の町人町として發生し發達して古來人家の最も密稠せる所なり。爲に地價頗る高く、江戸の目貫きの場所と稱され、「土一升金一升」の諺を生みし所なり。斯る状態は明治・大正・昭和の聖代を通じて持續され、殊に震災後一般經濟界の不況は本區の商業界にも甚大なる影響を與へ、加ふるに幾代かの顧客を新興勢力の他區に奪はるる憾み漸次増大するに至る。然

ニホリ——ニホン

一瞬に收まる。この山は近年まで登山路開けざりし爲め登山者無く、大正十五年七月、數日の難行に依り、登山に成功せしが、今は登山路開け、僅かに二日乃至三日にて比較的容易に達頂し得らる。

ニホ 仁保 廣島縣安藝郡にありし村。もと仁保島村といふ。明治三十七年大字字品を廣島市に編入す。大正六年仁保島村を仁保村と改め、昭和四年廣島市に編入せらる。

【仁保村】 山口縣周防國吉敷郡の東北端。山口市の東北約六軒。東は佐波郡に、北は阿武郡に隣す。村の北部村境を高車數百米の中國山脈縱走し、これより分岐せる支脈は東西兩境を南に併走して何れも中央に傾斜し、また東南部にも山岳蟠踞して高峻なる地勢をなす。東北隅附近の溪谷より發する仁保川は西南方に流れて流域に稍々廣き平地を拓き耕作行はる。農業非常に盛にして米・麥・豆類を始め野菜類・粟・柿及び繭を産し、また養蠶業を營み鶏卵の産多く、山地は牧畜盛にして牛馬を多數飼育し、木材・竹材・木炭等の産も少からず。松茸は特産物なり。山口市より西北方に通ずる國道山陰道は西部中央より村境に沿ひて北上し、また之より分れて東走し東南隅より隣村に至る縣道あり、省線山日本線は西部國道分岐點附近に仁保驛(大正六年設置)を設く。この地は和名抄、古語多寶郡の地

【仁保村】 山口縣周防國吉敷郡の東北端。山口市の東北約六軒。東は佐波郡に、北は阿武郡に隣す。村の北部村境を高車數百米の中國山脈縱走し、これより分岐せる支脈は東西兩境を南に併走して何れも中央に傾斜し、また東南部にも山岳蟠踞して高峻なる地勢をなす。東北隅附近の溪谷より發する仁保川は西南方に流れて流域に稍々廣き平地を拓き耕作行はる。農業非常に盛にして米・麥・豆類を始め野菜類・粟・柿及び繭を産し、また養蠶業を營み鶏卵の産多く、山地は牧畜盛にして牛馬を多數飼育し、木材・竹材・木炭等の産も少からず。松茸は特産物なり。山口市より西北方に通ずる國道山陰道は西部中央より村境に沿ひて北上し、また之より分れて東走し東南隅より隣村に至る縣道あり、省線山日本線は西部國道分岐點附近に仁保驛(大正六年設置)を設く。この地は和名抄、古語多寶郡の地

【仁保村】 山口縣周防國吉敷郡の東北端。山口市の東北約六軒。東は佐波郡に、北は阿武郡に隣す。村の北部村境を高車數百米の中國山脈縱走し、これより分岐せる支脈は東西兩境を南に併走して何れも中央に傾斜し、また東南部にも山岳蟠踞して高峻なる地勢をなす。東北隅附近の溪谷より發する仁保川は西南方に流れて流域に稍々廣き平地を拓き耕作行はる。農業非常に盛にして米・麥・豆類を始め野菜類・粟・柿及び繭を産し、また養蠶業を營み鶏卵の産多く、山地は牧畜盛にして牛馬を多數飼育し、木材・竹材・木炭等の産も少からず。松茸は特産物なり。山口市より西北方に通ずる國道山陰道は西部中央より村境に沿ひて北上し、また之より分れて東走し東南隅より隣村に至る縣道あり、省線山日本線は西部國道分岐點附近に仁保驛(大正六年設置)を設く。この地は和名抄、古語多寶郡の地

【仁保村】 山口縣周防國吉敷郡の東北端。山口市の東北約六軒。東は佐波郡に、北は阿武郡に隣す。村の北部村境を高車數百米の中國山脈縱走し、これより分岐せる支脈は東西兩境を南に併走して何れも中央に傾斜し、また東南部にも山岳蟠踞して高峻なる地勢をなす。東北隅附近の溪谷より發する仁保川は西南方に流れて流域に稍々廣き平地を拓き耕作行はる。農業非常に盛にして米・麥・豆類を始め野菜類・粟・柿及び繭を産し、また養蠶業を營み鶏卵の産多く、山地は牧畜盛にして牛馬を多數飼育し、木材・竹材・木炭等の産も少からず。松茸は特産物なり。山口市より西北方に通ずる國道山陰道は西部中央より村境に沿ひて北上し、また之より分れて東走し東南隅より隣村に至る縣道あり、省線山日本線は西部國道分岐點附近に仁保驛(大正六年設置)を設く。この地は和名抄、古語多寶郡の地

【仁保村】 山口縣周防國吉敷郡の東北端。山口市の東北約六軒。東は佐波郡に、北は阿武郡に隣す。村の北部村境を高車數百米の中國山脈縱走し、これより分岐せる支脈は東西兩境を南に併走して何れも中央に傾斜し、また東南部にも山岳蟠踞して高峻なる地勢をなす。東北隅附近の溪谷より發する仁保川は西南方に流れて流域に稍々廣き平地を拓き耕作行はる。農業非常に盛にして米・麥・豆類を始め野菜類・粟・柿及び繭を産し、また養蠶業を營み鶏卵の産多く、山地は牧畜盛にして牛馬を多數飼育し、木材・竹材・木炭等の産も少からず。松茸は特産物なり。山口市より西北方に通ずる國道山陰道は西部中央より村境に沿ひて北上し、また之より分れて東走し東南隅より隣村に至る縣道あり、省線山日本線は西部國道分岐點附近に仁保驛(大正六年設置)を設く。この地は和名抄、古語多寶郡の地

【仁保村】 山口縣周防國吉敷郡の東北端。山口市の東北約六軒。東は佐波郡に、北は阿武郡に隣す。村の北部村境を高車數百米の中國山脈縱走し、これより分岐せる支脈は東西兩境を南に併走して何れも中央に傾斜し、また東南部にも山岳蟠踞して高峻なる地勢をなす。東北隅附近の溪谷より發する仁保川は西南方に流れて流域に稍々廣き平地を拓き耕作行はる。農業非常に盛にして米・麥・豆類を始め野菜類・粟・柿及び繭を産し、また養蠶業を營み鶏卵の産多く、山地は牧畜盛にして牛馬を多數飼育し、木材・竹材・木炭等の産も少からず。松茸は特産物なり。山口市より西北方に通ずる國道山陰道は西部中央より村境に沿ひて北上し、また之より分れて東走し東南隅より隣村に至る縣道あり、省線山日本線は西部國道分岐點附近に仁保驛(大正六年設置)を設く。この地は和名抄、古語多寶郡の地

【仁保村】 山口縣周防國吉敷郡の東北端。山口市の東北約六軒。東は佐波郡に、北は阿武郡に隣す。村の北部村境を高車數百米の中國山脈縱走し、これより分岐せる支脈は東西兩境を南に併走して何れも中央に傾斜し、また東南部にも山岳蟠踞して高峻なる地勢をなす。東北隅附近の溪谷より發する仁保川は西南方に流れて流域に稍々廣き平地を拓き耕作行はる。農業非常に盛にして米・麥・豆類を始め野菜類・粟・柿及び繭を産し、また養蠶業を營み鶏卵の産多く、山地は牧畜盛にして牛馬を多數飼育し、木材・竹材・木炭等の産も少からず。松茸は特産物なり。山口市より西北方に通ずる國道山陰道は西部中央より村境に沿ひて北上し、また之より分れて東走し東南隅より隣村に至る縣道あり、省線山日本線は西部國道分岐點附近に仁保驛(大正六年設置)を設く。この地は和名抄、古語多寶郡の地

ニホリ——ニホン

【仁保村】 山口縣周防國吉敷郡の東北端。山口市の東北約六軒。東は佐波郡に、北は阿武郡に隣す。村の北部村境を高車數百米の中國山脈縱走し、これより分岐せる支脈は東西兩境を南に併走して何れも中央に傾斜し、また東南部にも山岳蟠踞して高峻なる地勢をなす。東北隅附近の溪谷より發する仁保川は西南方に流れて流域に稍々廣き平地を拓き耕作行はる。農業非常に盛にして米・麥・豆類を始め野菜類・粟・柿及び繭を産し、また養蠶業を營み鶏卵の産多く、山地は牧畜盛にして牛馬を多數飼育し、木材・竹材・木炭等の産も少からず。松茸は特産物なり。山口市より西北方に通ずる國道山陰道は西部中央より村境に沿ひて北上し、また之より分れて東走し東南隅より隣村に至る縣道あり、省線山日本線は西部國道分岐點附近に仁保驛(大正六年設置)を設く。この地は和名抄、古語多寶郡の地

【仁保村】 山口縣周防國吉敷郡の東北端。山口市の東北約六軒。東は佐波郡に、北は阿武郡に隣す。村の北部村境を高車數百米の中國山脈縱走し、これより分岐せる支脈は東西兩境を南に併走して何れも中央に傾斜し、また東南部にも山岳蟠踞して高峻なる地勢をなす。東北隅附近の溪谷より發する仁保川は西南方に流れて流域に稍々廣き平地を拓き耕作行はる。農業非常に盛にして米・麥・豆類を始め野菜類・粟・柿及び繭を産し、また養蠶業を營み鶏卵の産多く、山地は牧畜盛にして牛馬を多數飼育し、木材・竹材・木炭等の産も少からず。松茸は特産物なり。山口市より西北方に通ずる國道山陰道は西部中央より村境に沿ひて北上し、また之より分れて東走し東南隅より隣村に至る縣道あり、省線山日本線は西部國道分岐點附近に仁保驛(大正六年設置)を設く。この地は和名抄、古語多寶郡の地

【仁保村】 山口縣周防國吉敷郡の東北端。山口市の東北約六軒。東は佐波郡に、北は阿武郡に隣す。村の北部村境を高車數百米の中國山脈縱走し、これより分岐せる支脈は東西兩境を南に併走して何れも中央に傾斜し、また東南部にも山岳蟠踞して高峻なる地勢をなす。東北隅附近の溪谷より發する仁保川は西南方に流れて流域に稍々廣き平地を拓き耕作行はる。農業非常に盛にして米・麥・豆類を始め野菜類・粟・柿及び繭を産し、また養蠶業を營み鶏卵の産多く、山地は牧畜盛にして牛馬を多數飼育し、木材・竹材・木炭等の産も少からず。松茸は特産物なり。山口市より西北方に通ずる國道山陰道は西部中央より村境に沿ひて北上し、また之より分れて東走し東南隅より隣村に至る縣道あり、省線山日本線は西部國道分岐點附近に仁保驛(大正六年設置)を設く。この地は和名抄、古語多寶郡の地

【仁保村】 山口縣周防國吉敷郡の東北端。山口市の東北約六軒。東は佐波郡に、北は阿武郡に隣す。村の北部村境を高車數百米の中國山脈縱走し、これより分岐せる支脈は東西兩境を南に併走して何れも中央に傾斜し、また東南部にも山岳蟠踞して高峻なる地勢をなす。東北隅附近の溪谷より發する仁保川は西南方に流れて流域に稍々廣き平地を拓き耕作行はる。農業非常に盛にして米・麥・豆類を始め野菜類・粟・柿及び繭を産し、また養蠶業を營み鶏卵の産多く、山地は牧畜盛にして牛馬を多數飼育し、木材・竹材・木炭等の産も少からず。松茸は特産物なり。山口市より西北方に通ずる國道山陰道は西部中央より村境に沿ひて北上し、また之より分れて東走し東南隅より隣村に至る縣道あり、省線山日本線は西部國道分岐點附近に仁保驛(大正六年設置)を設く。この地は和名抄、古語多寶郡の地

【仁保村】 山口縣周防國吉敷郡の東北端。山口市の東北約六軒。東は佐波郡に、北は阿武郡に隣す。村の北部村境を高車數百米の中國山脈縱走し、これより分岐せる支脈は東西兩境を南に併走して何れも中央に傾斜し、また東南部にも山岳蟠踞して高峻なる地勢をなす。東北隅附近の溪谷より發する仁保川は西南方に流れて流域に稍々廣き平地を拓き耕作行はる。農業非常に盛にして米・麥・豆類を始め野菜類・粟・柿及び繭を産し、また養蠶業を營み鶏卵の産多く、山地は牧畜盛にして牛馬を多數飼育し、木材・竹材・木炭等の産も少からず。松茸は特産物なり。山口市より西北方に通ずる國道山陰道は西部中央より村境に沿ひて北上し、また之より分れて東走し東南隅より隣村に至る縣道あり、省線山日本線は西部國道分岐點附近に仁保驛(大正六年設置)を設く。この地は和名抄、古語多寶郡の地

【仁保村】 山口縣周防國吉敷郡の東北端。山口市の東北約六軒。東は佐波郡に、北は阿武郡に隣す。村の北部村境を高車數百米の中國山脈縱走し、これより分岐せる支脈は東西兩境を南に併走して何れも中央に傾斜し、また東南部にも山岳蟠踞して高峻なる地勢をなす。東北隅附近の溪谷より發する仁保川は西南方に流れて流域に稍々廣き平地を拓き耕作行はる。農業非常に盛にして米・麥・豆類を始め野菜類・粟・柿及び繭を産し、また養蠶業を營み鶏卵の産多く、山地は牧畜盛にして牛馬を多數飼育し、木材・竹材・木炭等の産も少からず。松茸は特産物なり。山口市より西北方に通ずる國道山陰道は西部中央より村境に沿ひて北上し、また之より分れて東走し東南隅より隣村に至る縣道あり、省線山日本線は西部國道分岐點附近に仁保驛(大正六年設置)を設く。この地は和名抄、古語多寶郡の地

【仁保村】 山口縣周防國吉敷郡の東北端。山口市の東北約六軒。東は佐波郡に、北は阿武郡に隣す。村の北部村境を高車數百米の中國山脈縱走し、これより分岐せる支脈は東西兩境を南に併走して何れも中央に傾斜し、また東南部にも山岳蟠踞して高峻なる地勢をなす。東北隅附近の溪谷より發する仁保川は西南方に流れて流域に稍々廣き平地を拓き耕作行はる。農業非常に盛にして米・麥・豆類を始め野菜類・粟・柿及び繭を産し、また養蠶業を營み鶏卵の産多く、山地は牧畜盛にして牛馬を多數飼育し、木材・竹材・木炭等の産も少からず。松茸は特産物なり。山口市より西北方に通ずる國道山陰道は西部中央より村境に沿ひて北上し、また之より分れて東走し東南隅より隣村に至る縣道あり、省線山日本線は西部國道分岐點附近に仁保驛(大正六年設置)を設く。この地は和名抄、古語多寶郡の地

【仁保村】 山口縣周防國吉敷郡の東北端。山口市の東北約六軒。東は佐波郡に、北は阿武郡に隣す。村の北部村境を高車數百米の中國山脈縱走し、これより分岐せる支脈は東西兩境を南に併走して何れも中央に傾斜し、また東南部にも山岳蟠踞して高峻なる地勢をなす。東北隅附近の溪谷より發する仁保川は西南方に流れて流域に稍々廣き平地を拓き耕作行はる。農業非常に盛にして米・麥・豆類を始め野菜類・粟・柿及び繭を産し、また養蠶業を營み鶏卵の産多く、山地は牧畜盛にして牛馬を多數飼育し、木材・竹材・木炭等の産も少からず。松茸は特産物なり。山口市より西北方に通ずる國道山陰道は西部中央より村境に沿ひて北上し、また之より分れて東走し東南隅より隣村に至る縣道あり、省線山日本線は西部國道分岐點附近に仁保驛(大正六年設置)を設く。この地は和名抄、古語多寶郡の地

【仁保村】 山口縣周防國吉敷郡の東北端。山口市の東北約六軒。東は佐波郡に、北は阿武郡に隣す。村の北部村境を高車數百米の中國山脈縱走し、これより分岐せる支脈は東西兩境を南に併走して何れも中央に傾斜し、また東南部にも山岳蟠踞して高峻なる地勢をなす。東北隅附近の溪谷より發する仁保川は西南方に流れて流域に稍々廣き平地を拓き耕作行はる。農業非常に盛にして米・麥・豆類を始め野菜類・粟・柿及び繭を産し、また養蠶業を營み鶏卵の産多く、山地は牧畜盛にして牛馬を多數飼育し、木材・竹材・木炭等の産も少からず。松茸は特産物なり。山口市より西北方に通ずる國道山陰道は西部中央より村境に沿ひて北上し、また之より分れて東走し東南隅より隣村に至る縣道あり、省線山日本線は西部國道分岐點附近に仁保驛(大正六年設置)を設く。この地は和名抄、古語多寶郡の地

ニホリ——ニホン

【仁保村】 山口縣周防國吉敷郡の東北端。山口市の東北約六軒。東は佐波郡に、北は阿武郡に隣す。村の北部村境を高車數百米の中國山脈縱走し、これより分岐せる支脈は東西兩境を南に併走して何れも中央に傾斜し、また東南部にも山岳蟠踞して高峻なる地勢をなす。東北隅附近の溪谷より發する仁保川は西南方に流れて流域に稍々廣き平地を拓き耕作行はる。農業非常に盛にして米・麥・豆類を始め野菜類・粟・柿及び繭を産し、また養蠶業を營み鶏卵の産多く、山地は牧畜盛にして牛馬を多數飼育し、木材・竹材・木炭等の産も少からず。松茸は特産物なり。山口市より西北方に通ずる國道山陰道は西部中央より村境に沿ひて北上し、また之より分れて東走し東南隅より隣村に至る縣道あり、省線山日本線は西部國道分岐點附近に仁保驛(大正六年設置)を設く。この地は和名抄、古語多寶郡の地

【仁保村】 山口縣周防國吉敷郡の東北端。山口市の東北約六軒。東は佐波郡に、北は阿武郡に隣す。村の北部村境を高車數百米の中國山脈縱走し、これより分岐せる支脈は東西兩境を南に併走して何れも中央に傾斜し、また東南部にも山岳蟠踞して高峻なる地勢をなす。東北隅附近の溪谷より發する仁保川は西南方に流れて流域に稍々廣き平地を拓き耕作行はる。農業非常に盛にして米・麥・豆類を始め野菜類・粟・柿及び繭を産し、また養蠶業を營み鶏卵の産多く、山地は牧畜盛にして牛馬を多數飼育し、木材・竹材・木炭等の産も少からず。松茸は特産物なり。山口市より西北方に通ずる國道山陰道は西部中央より村境に沿ひて北上し、また之より分れて東走し東南隅より隣村に至る縣道あり、省線山日本線は西部國道分岐點附近に仁保驛(大正六年設置)を設く。この地は和名抄、古語多寶郡の地

【仁保村】 山口縣周防國吉敷郡の東北端。山口市の東北約六軒。東は佐波郡に、北は阿武郡に隣す。村の北部村境を高車數百米の中國山脈縱走し、これより分岐せる支脈は東西兩境を南に併走して何れも中央に傾斜し、また東南部にも山岳蟠踞して高峻なる地勢をなす。東北隅附近の溪谷より發する仁保川は西南方に流れて流域に稍々廣き平地を拓き耕作行はる。農業非常に盛にして米・麥・豆類を始め野菜類・粟・柿及び繭を産し、また養蠶業を營み鶏卵の産多く、山地は牧畜盛にして牛馬を多數飼育し、木材・竹材・木炭等の産も少からず。松茸は特産物なり。山口市より西北方に通ずる國道山陰道は西部中央より村境に沿ひて北上し、また之より分れて東走し東南隅より隣村に至る縣道あり、省線山日本線は西部國道分岐點附近に仁保驛(大正六年設置)を設く。この地は和名抄、古語多寶郡の地

【仁保村】 山口縣周防國吉敷郡の東北端。山口市の東北約六軒。東は佐波郡に、北は阿武郡に隣す。村の北部村境を高車數百米の中國山脈縱走し、これより分岐せる支脈は東西兩境を南に併走して何れも中央に傾斜し、また東南部にも山岳蟠踞して高峻なる地勢をなす。東北隅附近の溪谷より發する仁保川は西南方に流れて流域に稍々廣き平地を拓き耕作行はる。農業非常に盛にして米・麥・豆類を始め野菜類・粟・柿及び繭を産し、また養蠶業を營み鶏卵の産多く、山地は牧畜盛にして牛馬を多數飼育し、木材・竹材・木炭等の産も少からず。松茸は特産物なり。山口市より西北方に通ずる國道山陰道は西部中央より村境に沿ひて北上し、また之より分れて東走し東南隅より隣村に至る縣道あり、省線山日本線は西部國道分岐點附近に仁保驛(大正六年設置)を設く。この地は和名抄、古語多寶郡の地

【仁保村】 山口縣周防國吉敷郡の東北端。山口市の東北約六軒。東は佐波郡に、北は阿武郡に隣す。村の北部村境を高車數百米の中國山脈縱走し、これより分岐せる支脈は東西兩境を南に併走して何れも中央に傾斜し、また東南部にも山岳蟠踞して高峻なる地勢をなす。東北隅附近の溪谷より發する仁保川は西南方に流れて流域に稍々廣き平地を拓き耕作行はる。農業非常に盛にして米・麥・豆類を始め野菜類・粟・柿及び繭を産し、また養蠶業を營み鶏卵の産多く、山地は牧畜盛にして牛馬を多數飼育し、木材・竹材・木炭等の産も少からず。松茸は特産物なり。山口市より西北方に通ずる國道山陰道は西部中央より村境に沿ひて北上し、また之より分れて東走し東南隅より隣村に至る縣道あり、省線山日本線は西部國道分岐點附近に仁保驛(大正六年設置)を設く。この地は和名抄、古語多寶郡の地

【仁保村】 山口縣周防國吉敷郡の東北端。山口市の東北約六軒。東は佐波郡に、北は阿武郡に隣す。村の北部村境を高車數百米の中國山脈縱走し、これより分岐せる支脈は東西兩境を南に併走して何れも中央に傾斜し、また東南部にも山岳蟠踞して高峻なる地勢をなす。東北隅附近の溪谷より發する仁保川は西南方に流れて流域に稍々廣き平地を拓き耕作行はる。農業非常に盛にして米・麥・豆類を始め野菜類・粟・柿及び繭を産し、また養蠶業を營み鶏卵の産多く、山地は牧畜盛にして牛馬を多數飼育し、木材・竹材・木炭等の産も少からず。松茸は特産物なり。山口市より西北方に通ずる國道山陰道は西部中央より村境に沿ひて北上し、また之より分れて東走し東南隅より隣村に至る縣道あり、省線山日本線は西部國道分岐點附近に仁保驛(大正六年設置)を設く。この地は和名抄、古語多寶郡の地

【仁保村】 山口縣周防國吉敷郡の東北端。山口市の東北約六軒。東は佐波郡に、北は阿武郡に隣す。村の北部村境を高車數百米の中國山脈縱走し、これより分岐せる支脈は東西兩境を南に併走して何れも中央に傾斜し、また東南部にも山岳蟠踞して高峻なる地勢をなす。東北隅附近の溪谷より發する仁保川は西南方に流れて流域に稍々廣き平地を拓き耕作行はる。農業非常に盛にして米・麥・豆類を始め野菜類・粟・柿及び繭を産し、また養蠶業を營み鶏卵の産多く、山地は牧畜盛にして牛馬を多數飼育し、木材・竹材・木炭等の産も少からず。松茸は特産物なり。山口市より西北方に通ずる國道山陰道は西部中央より村境に沿ひて北上し、また之より分れて東走し東南隅より隣村に至る縣道あり、省線山日本線は西部國道分岐點附近に仁保驛(大正六年設置)を設く。この地は和名抄、古語多寶郡の地

【仁保村】 山口縣周防國吉敷郡の東北端。山口市の東北約六軒。東は佐波郡に、北は阿武郡に隣す。村の北部村境を高車數百米の中國山脈縱走し、これより分岐せる支脈は東西兩境を南に併走して何れも中央に傾斜し、また東南部にも山岳蟠踞して高峻なる地勢をなす。東北隅附近の溪谷より發する仁保川は西南方に流れて流域に稍々廣き平地を拓き耕作行はる。農業非常に盛にして米・麥・豆類を始め野菜類・粟・柿及び繭を産し、また養蠶業を營み鶏卵の産多く、山地は牧畜盛にして牛馬を多數飼育し、木材・竹材・木炭等の産も少からず。松茸は特産物なり。山口市より西北方に通ずる國道山陰道は西部中央より村境に沿ひて北上し、また之より分れて東走し東南隅より隣村に至る縣道あり、省線山日本線は西部國道分岐點附近に仁保驛(大正六年設置)を設く。この地は和名抄、古語多寶郡の地

【仁保村】 山口縣周防國吉敷郡の東北端。山口市の東北約六軒。東は佐波郡に、北は阿武郡に隣す。村の北部村境を高車數百米の中國山脈縱走し、これより分岐せる支脈は東西兩境を南に併走して何れも中央に傾斜し、また東南部にも山岳蟠踞して高峻なる地勢をなす。東北隅附近の溪谷より發する仁保川は西南方に流れて流域に稍々廣き平地を拓き耕作行はる。農業非常に盛にして米・麥・豆類を始め野菜類・粟・柿及び繭を産し、また養蠶業を營み鶏卵の産多く、山地は牧畜盛にして牛馬を多數飼育し、木材・竹材・木炭等の産も少からず。松茸は特産物なり。山口市より西北方に通ずる國道山陰道は西部中央より村境に沿ひて北上し、また之より分れて東走し東南隅より隣村に至る縣道あり、省線山日本線は西部國道分岐點附近に仁保驛(大正六年設置)を設く。この地は和名抄、古語多寶郡の地

ニホリ——ニホン

り。〔二本松神社〕栗ヶ棚に鎮座。縣社。祭神、伊邪那美命・事解男命外二神。久安年中、當郡殿地ヶ岡城主安達盛長、熊野大神を勧請せし守護神といひ、また源義家の勸請なりともいふ。爾來、崑山・伊達・蒲生・加藤・松下氏等の崇敬厚く、社殿の造替等間然するところなかりき。例祭、九月二十五日。

ニマ 二万村 岡山縣備中國吉備郡の西南部。倉敷市の西北約三軒、西南は淺口郡船穂村に隣接す。村内は概ね百米乃至二百米の丘陵起伏するも、開折進みて谷底廣く、北部を高梁川の一支小田川東流し沿岸に沖積地あり。米・麥を産し、なほ米の裏作に蕎麥を栽培し、藪・柿を出す。街道は谷底を縫うて通ずるも交通便ならず。この地は和名抄、下道郡通磨郷なり。風土記に據れば、皇極天皇、百濟を救はむとして筑紫に幸し給ひし時、中大兄皇子、兵を此に集め、二萬人を得、大いに喜び二萬郷の名を與へ後に改めて通磨郷となす。固より地方に附會せる傳説に過ぎざるも、遍く世に喧傳せる事にして、三善清行の意見封事にも此事見ゆ。夫木・七「君がため二萬の里人うちむれて取る若苗や萬世のかす 隆信」

ニマ 仁万町 島根縣石見郡通磨郡の北部。日本海に面し、大森町の西北約三軒、面積三・九九方軒。東北境に二百餘米の丘陵性山地連り、西南部にも丘陵起伏し木端松ヶ鼻の突出となり、海岸は崖をなす。仁万川は中部を西北流し、流域にはやや廣き沖積地あり、また河口附近の海岸は砂濱をなして漁船の好錨地たり。街道は海岸沿ひに通じ仁万川に沿うて大森町方面に至る街道を分ち、バスを通ず。省線山陰本線中部を略南北に走り仁万驛(大正六年設置)を置く。米・藪の外に漁獲も多く、特産に素乾あり。此地は舊山陰道に沿はざりしも、大正六年に山陰本線通じ且つ一時終點驛たりしことあり、爲に新に後背地として大森町方面を控ふるに至り商業も漸次發達せり。人口も大正九年一七六七人なりしが、同十四年一九八八人、昭和五年二一六六人、同十年二二一五人と増加し、同十年の一方軒人口密度は五五人にて本郡第一の密度たり。而して昭和十一年町制を施行し、縣立農學校あり。この地古くは和名抄、通磨郡大國郷に屬せる地なり。

ニマ 通磨郡 島根縣(石見國)十三郡の一。縣の西北部に位し、北は日本海に臨む。郡内山岳丘陵起伏して平地と稱すべきものなく、河川は静間川の北流して日本海に入るのみ。海岸には平地乏しく屈曲多き大なる入江はなく良港に乏し。南部に温泉津港の鎮地あるに過ぎず。農産・水産・林産あり。郡内に大森町・温泉津町・仁万町の三町、外十六箇村を含む。山陰道は大森町を通過して東部を東北より西南に通じ大森町より其他街道四方に派出し西南岸温泉津町に至る

もの及び東南方に向ひて邑知郡に入るもの等あり。海岸にも縣道通じ、又省線山陰線通過す。温泉津港を中心に沿岸航路を開く。通磨は延喜式に近摩に作る。蓋し近・通はその義、相通するを以てなるべし。和名抄は託農・大國・湯泉・津道・大家・群治の六郷を管し、後世、津道を那賀郡に入れ、安濃郡の佐波・静間の二郷を本郡に編入せり。

ニマイバシ 二枚橋 岩手縣稗貫郡湯本村の大字。東北本線の二枚橋驛(昭和七年設置)を置く。

ニマンタイラ 二万平 阿里山線の一驛(大正七年設置)。臺灣臺南州嘉義郡番地二万平にあり。

ニヤウチナ 社 臺灣臺南州嘉義郡にある蕃地。曾文溪支流ニヤウチナ溪右岸にあり、ツォウ族のタツパン蕃に屬する高砂族の部落。戸口二八、人口二〇二(昭和十一年調査)。

ニユ 丹生 郡馬縣上野國北甘樂郡の北部。妙義山の東南方にて、一ノ宮町の西隣にあり。西境は約七三〇米の山地にて村内に傾斜し、東部はその山麓にて耕地・桑畑あり。米・麥・蕎麥を産す。縣道は一ノ宮町に通じバスの便あり、同町の上信電氣鐵道上州一ノ宮驛に出づるに便なり。此地は和名抄、甘樂郡丹生郷の地にて、丹生山は義貞の弟新田四郎義重の居所にして子孫續いて住し、義重七代の義王水正堂

山の本折り来て……か吉野の濃もといふに落つる白浪

【丹生河】 萬葉集に見ゆる地名。その地いま奈良縣吉野郡小川村の丹生川上神社の中社の前を流る。吉野川の一支。萬葉・二「丹生の河瀬は渡らすてゆくゆくと懸痛し吾弟こち通ひこれ 長皇子」

【丹生村】 和歌山縣紀伊國日高郡の西部。日高川の左岸に沿ひ、御坊町の東方約四軒にて、地形東部に高く西部に低し。東北境には和佐山(四八九米)あり。東南境には眞妻山(五二四米)あり、兩山地西方に高さを減じ、眞妻山の西方(村の西南境)には寺山(二三七米)あり。中央には東境に發する一河川あり村内の水を集めて西流し西北境に沿ひ迂曲しつゝ西南流する日高川に合し沿岸に沃野開く。米・柑橘・藪の農産及び工業・林産・畜産・水産・鑛産あり。中央には御坊町より東方に走る縣道あり。西部には省線紀勢西線過ぎりて和佐驛(昭和五年設置)あり。村社丹生神社あり、村名これより起る。

【丹生】 若狭國(福井縣)の古地名。和名抄に遠敷郡丹生郷あり、爾布と訓す。その地はいまの遠敷郡内ならんも、詳かならず。

【丹生乃河】 飛騨國(岐阜縣)の古地名。萬葉集にその名出づ。即ち飛騨・信濃の堺なる乘鞍岳の麓の大丹生池より發し、宮川に入る谷川。いま小八賀川と稱す。大野郡丹生川村あり。萬葉・七「妻太人の眞木流すと丹生の河言はかよへと船そ通はる」

【丹生村】 滋賀縣近江國伊香郡の北部。姉川上流に沿ふ。東北隅の三國ヶ嶽を境に北は越前國南條郡に、東北は美濃國掛妻郡に接す。村内山岳重疊し、姉川は西北隅より略中央を南流す。平地に乏しく主生業は林業にして木炭を主産物とす。次で米作・養蠶行はれ、また牛・馬・推草・山葵・木籠等山村特有の産物あり。省線北陸本線中之郷驛へ縣道通じバスの便あり。(洞寺院)大字菅並にあり。曹洞宗。鹽谷山護國禪寺と號し福井縣龍澤寺末。寺傳に僧天閣鹽津親山に一庵を結びしに始る。舊寺領三十石。

【丹生村】 奈良縣大和國吉野郡の西北部。下市町の南に接する山村なり。南境には東西に山地連り、其の西部に横ヶ嶽(七八四米)聳ゆ。西北部にも高嶽(六一八米)一帶の山地あり。山地何れも中央へ傾斜し丹生川迂曲しつゝ西に流る。米・

【丹生村】 大分縣豊後國北海部郡の西北部。横ノ木山脈の北斜面を占め、大分郡鶴崎町の東南約一軒にあり。北は大在村を隔てて別府灣に近し。南部に縣嶽(三八三米)・戸塚山(二九五米)等聳えて西

【丹生村】 奈良縣大和國吉野郡の西北部。下市町の南に接する山村なり。南境には東西に山地連り、其の西部に横ヶ嶽(七八四米)聳ゆ。西北部にも高嶽(六一八米)一帶の山地あり。山地何れも中央へ傾斜し丹生川迂曲しつゝ西に流る。米・

【丹生乃楡山】 萬葉集に見ゆる地名。いま奈良縣吉野郡四郷村・小川村邊の山をいふか。萬葉・一三「斧取りて丹生の楡

【丹生村】 大分縣豊後國北海部郡の西北部。横ノ木山脈の北斜面を占め、大分郡鶴崎町の東南約一軒にあり。北は大在村を隔てて別府灣に近し。南部に縣嶽(三八三米)・戸塚山(二九五米)等聳えて西

【丹生村】 大分縣豊後國北海部郡の西北部。横ノ木山脈の北斜面を占め、大分郡鶴崎町の東南約一軒にあり。北は大在村を隔てて別府灣に近し。南部に縣嶽(三八三米)・戸塚山(二九五米)等聳えて西

北方へ傾斜し、西北部にも約一〇〇米程の丘陵地帯あり。中央は東北方に開ける低地をなして小河此處を流れ約三軒東北方にて別府灣に注ぐ。耕地よく拓けて米・藁の産多く産あり。低地に街道走り東北方約二軒には省線日豊線坂ノ市驛ありてバスを通ず。この地は和名抄、海部郡丹生郷の地にして、中世は丹生庄白杵荘と稱せし地なり。風土記に丹生郷とあるも此地なり。〔丹生神社〕大字原に鎮座。郷社。祭神、水神。社記に建久二年大友能直入部の時海上颶風の虞あり、明神の靈威に依りて其の難を免る。因りて之を祀りて神田若干を寄すとあり。例祭十月二十九日。

ニユーカワ

丹生川村 岐阜縣

飛騨國大野郡の東北端。高山市の東北に接し、東に乘鞍嶽麓え長野縣南安曇郡に界し、北より西へかけては吉城郡に、東南は益田郡に接す。東部山地に發源せる小八賀・荒城兩川は村内を西へ貫流し宮川に會し、兩河の谷を隔つ數條の山肢東西に走り全村概ね高原性なり。西部河岸に耕地開け、農業を主産業とし、林業、養蠶次で盛なり。米・木炭・藁を主産物とし食

用百合の特産あり。其他、東北部には八本原牧場ありて牛馬の産もあり。縣道小八賀川に沿ひて東西に走り高山市へバス通ず。此地は和名抄、大野郡阿拜郷の内にて、いま中部山岳國立公園の内なり。萬葉集第七卷に見ゆる「妻太人の眞木流す」と丹生の河言はかよへど船ぞ通はぬ」の歌は此地なるべし。〔槻本神社〕大字槻崎に鎮座。郷社。祭神詳ならず。式内社本郡三座の一。妻太後風土記に祭神は大山祇神とし、里傳も亦大山祇神とす。例祭、九月十二日。〔千光寺〕大字下保にあり。眞言宗高野派。契梨山。永祿七年災禍に罹りて焚上し、天正十五年金森法印これを再興す。永祿七年迄は一山十三坊ありしも今は本寺のみとなる。〔千光寺の五本杉〕指定天然記念物。千光寺境内にあり。登山口より登ること半軒にして道路の曲角の傾斜地に杉の大樹あり。これ即ち五本杉にして、幹の上部は五本に分たれ、分岐直下の幹圍一一米餘なり。

ニユーガワ

丹生川村 三重縣

伊勢國員辨郡の中部。伊勢平野の西北部を占め阿下喜町の南約三軒。西隅は鈴鹿山脈東麓の一部を占めて山地あれど其他は概して地形平坦にして、青川北境に沿ひて東流して町屋川に入り東南部を町屋川僅に掠めて東南方へ向ふ。米・藁を主産物とし、副産品の特産あり。外に工業・畜産・林産・蠶産あり。西部には阿下喜

町より南下する巡見街道走りてバスの便あり。〔鴨神社〕大字丹生川久上に鎮座。郷社。祭神別雷大神・玉依姫外三神。式内社。例祭、十月二十日。

ニユーガワ

壬生川町 愛媛縣

伊豫國周桑郡の東北部。北は國安村に南は多賀村に界し、東は燧灘に面す。面積三・八七方軒。高瀬半島東岸部の崖下に發達せる廣き沖積平野の一部を占め土地平坦にして肥沃なれば耕地よく發達し農業盛なり。米・藁・藁の産多く、特産として魚・清涼飲料・海苔・貝類・鶏卵等にて、最近にてはステイプル・ファイバIをも産出す。従つて之等の取引盛にして商業活氣を呈す。市街地は南部に發達し多賀村市街地と合す。こゝを中心とし縣道三方に出で一は南方丹原町に通じバスの便あり、省線讚岐本線は西部を縦貫し、隣村多賀村に壬生川驛(大正十二年設置)を設く。町の人口、四〇七九人、一方新實に一〇五四人を算し人口稠密なり。古くは和名抄、桑村郡御井郷の地なり。中世は河野黨の壬生川氏の居邑たり。明治三十四年町制を布く。〔保内八幡神社〕大字圓海寺に鎮座。郷社。祭神、應神天皇・仲哀天皇外五神。古來よりこの地の氏神にして、もと火内八幡宮と稱す。例祭、十月十日。

ニユーシツ

入室 朝鮮慶尙北

道慶州郡外東面の里名。總督府鐵道東海南部線の入室驛(大正十年設置)あり。

ニユーゼン 入善 富山縣越中

國下新川郡の北部。泊町の西約五軒。黒部川扇狀地の略中央北端を占め、北は日本海に面す。土地平坦肥沃水田よく拓け農業盛なり。米の産額多くまた黒部西瓜の名産地にて夏季その出荷夥し。次いで清酒・蠶工品其他の工産物を産す。省線北陸本線及び北陸道略中央を東西に貫通し前者の入善驛(明治四十三年設置)を置く。三日市・泊・舟見各町へバスの便あり。此地は和名抄、新川郡佐味郷の内にして、東大寺要録に入善庄とあれば、當時は寺領たりしものなるべく、源平盛衰記に宮崎氏の一族に入善小太郎家とあるは此地の豪士か。明治十一年、明治天皇、北陸東海御巡幸の際この地に御小休あらせられ、いま明治天皇入善御小休所として指定史蹟たり。〔入善神社〕大字東寺田に鎮座。郷社。祭神、皇田別命。舊稱、北陸宮鎮守八幡宮。社名は入善小太郎此處に閉居し此の地を入善の郷と唱へしに因る。

ニユータ

入田 徳島縣

石井町の南に接し、徳島市の西南方約五軒に位し、東は名東郡に界す。南境には四〇八米の山地、建治山等ありて南部は其北斜面をなし北境には小丘陵東西に連る。中央には別宮川(吉野川の分流)の支流粘喰川東流し沿岸平野をなす。土質概ね肥沃にして農作に適し米・藁の外、果樹

ニユードー

入道 秋田縣

【入道崎】秋田縣男鹿半島西北端の岬。數多の露岩・懸崖之を圍繞するも岬上は平坦なり。岬上に燈臺あり。燈質は閃白光、毎十秒一閃光、光達距離二〇哩なり。【入道山】鈴鹿山脈の一峯。四日市の西方約一七軒、三重縣鈴鹿郡椿村に峙ち、西斜面は滋賀縣甲賀郡にわたる。標高九〇六米、山姿堂々たり。中腹以上は美しき草本帯をなし、馬酔木これに點綴す。山頂部は高原狀を呈して、笹これを掩ふ。

ニユーサ

紀伊半島の南部、和歌山縣西

本婁郡三川村に峙つ山。標高一〇一〇米、山體第三紀層より成る。北方、東より西に大塔山(一一二二米)・法師山(一一二〇米)・百間山(九九九米)連嶺をなす。東方斜面より日置川發源して南西流し、川を距てて南方に高尾山(九四二米)對峙す。

前を産し副産には養蠶行はる。北方約二軒には省線徳島線石井驛ありてバスの便あり。この地は和名抄、名方郡埴土郷の内にして、縣社天石門別八倉比賣神社あり。〔天石門別八倉比賣神社〕大字矢野に鎮座。縣社。祭神、大日靈命。當社を以て、延喜式内の名神大社天石門別八倉比賣神社に、又は名東郡上八萬村の郷社一ノ宮神社に、或は式内社天石門別豐玉姫神社および麻能等比古神社に充つる諸説あるも何れも定かならず、記して後考を俟つ。承和八年より天慶三年まで六度神階を進められ正三位に昇陞せらる。蜂須賀氏の當國に領主たるに及びて崇敬厚く爾來領主累代の崇信淺からず、舊稱、杉尾大明神。例祭、三月十三日・十月十三日。

【入田村】

大分縣豊後國直入郡の東南部。玉來町の東に接し、北は竹田町に續く。東は大野郡なり。村内概ね四五〇米前後の丘陵山地にして大野川支流緒方川中央を東北に貫流し沿岸に僅少なる低地を有す。北境には玉來川東流し約二軒先に大野川に合す。農業を主とし米・麥を出し山地は木材・薪炭を産す。竹田町より南下する街道は中央河川に沿ひて西南方へ延ぶ。省線豊後本線豊後竹田驛へ北約二軒、玉來驛へ西約一・五軒なり。この地は和名抄、直入郡直入郷の内にして近世は入田郷と稱せり、村名はその遺稱なるべし。國志によれば、津賀牟禮城は

入田郷矢原にあり、入田丹後守親貞の居館なりとあり。近年、大字小高野より三角無蓋式磨製石鏡九個を出土せり。

ニユータ

新田 上徳國

【新田】上徳國(千葉縣)の古地名。和名抄に津森郡新田郷あり、その地今の君津郡小櫃村の邊か。【新田】武藏國(東京府)の古地名。和名抄に多摩郡新田郷あり、爾布多と訓す。その地今詳かならざるも杉並區高圓寺の邊か。【新田】備前國(岡山縣)の古地名。和名抄に和氣郡新田郷あり、爾布多と訓す。その地今の和氣郡本莊村・熊山村の邊に當る。【新田】宮崎縣日向國兒湯郡の東南部。一ツ瀬川河口近くにまたがり、西は妻町に、東北は高鍋町に接し、南は宮崎郡佐土原町に界し、東は富田村を隔てて日向灘なり。北部は臺地丘陵をなし北境に最も高く約一・二一三〇米を有す。南部は一ツ瀬川流域の沖積低地開け、地形平坦にして一ツ瀬川東南流し約五軒先に海に注ぐ。米・藁・菜種を主産物とし、特産には千切大根・干柿等あり。佐土原町・高鍋町を結ぶ縣道東南部を走り、北部には高鍋町より妻町に出づるものあり。一ツ瀬川には舟運の便あり。この地は和名抄、那珂郡夜間郷の内なるべく、新田の舊名を新納と稱し、島津七家の一なる新

ニユーイ

如意 愛知縣西春日井郡にありし村。

【如意】愛知縣西春日井郡にありし村。

明治三十九年本村ほか一村を廢し、楠村を置く。

【如意ヶ嶽】 ↓大文字山(京都市) 【如意ヶ嶽】 京都市の如意ヶ嶽に沿ひて滋賀縣大津市の三井寺に出づる路。

ニヨゼ 如是 大阪府三島郡にありし村。昭和九年三島郡高槻町に編入す。

ニヨド 仁淀川 四國島の西部、愛媛・高知兩縣に跨り、北より南に流れて土佐灣に注ぐ河。石槌山(一九八一米)の南斜面より發源して、而河の絶壁地帯を南に流れ、盡野々に於て柚野川を合す。この附近より西流し、石槌山より南流せる長瀬川を合して、御三戸ノ瀧に至り久萬川と合流す。この久萬川・而河川の東流地帯を久萬高原と稱し、各河間の地に八百米内外の平坦面残存す。この地域には森林發達し、アナ・スギ・ヒノキ等の良材及び薪炭を供給す。御三戸ノ瀧より下流は謂ゆる先行性河川にて、約十軒間、劍山山脈を横斷す。川前に至りて黒川を合して東流し、愛媛・高知兩縣境に至る。これより下流を仁淀川と稱す。川口聚落に至りて池川を合せ、越知町・黒岩村を過ぎ、出來地において八川川を合す。池川・八川川の上流は東北東—西南西の構造谷にして、この谷には楮・三椏の栽培盛んなり。川口より河口まで六〇軒の間に舟行の便あり、伊野町に紙の原料を運搬す。今は越知を経て佐川郡に貨物を運ぶ。

ニヨホー 女峯山 日光火山群の一峯。日光市街の西北方にありて日光火山群の東端に噴起せる火山の火口壁にして、東方の赤崖山と共に一體の火山に屬せしが、その火口壁の侵蝕崩壊の遺しき作用のため箇々に分離して幾多の奇峯峻嶮となり、前記ニ峯は夫を代表するものとなれり。女峯はまた女貌、女實、或は如峯に作り、海拔二四六三・五米にて日光火山群中男體山に次ぐ高峯なり。中腹より山嶺にかけ侵蝕顯著にて壯年期の山貌を呈せるに對し、山麓は頗る整然たる緩傾斜を以て四方に下り、殊に南麓は廣き裾野をなし大谷川河岸に及び、東は六方越及び大笹尾に下り、西南は眞名子・男體等の火山の噴起せる爲、整然たるべき勾配を擾され荒澤の上流はその縫合線を流る。北斜面は崖の發達著しく幾多の小山背に分れて鬼怒川隘谷に下り、樹木鬱蒼と繁茂し南斜面と著しく景観を異にす。山嶺、山腹の五葉松の美觀、殊に頂上の社殿の邊より東北方一面深溪に臨んで走る長さ四軒餘の五葉松の林相美に奇觀なり。山體は復雜石安山岩及び集塊岩等

の互層よりなり、火口瀝荷荷川の上流二一〇〇米附近に懸れる七瀧近傍には、集塊岩の虚隙より滲透せる水の熔岩帯に達して小瀑布をなせるもの多し。

ニラカワ 葦川村 群馬縣上野國山田郡の南部。栃木縣足利市の西南方約三・五軒にして、西部は新田郡太田町と隣す。西境には金山(二二三米)あり。他は平地開けて水田・畑地あり。米・麥を産す。縣道は足利市及び太田町に通じ、社線東武鐵道伊勢崎線は村内を西南に走りて葦川驛(昭和七年設置)を置く。この地は和名抄、山田郡眞張郷の内にして、大字矢場は舊例幣使街道に當る、新田由良氏の家臣に矢場内匠助あり、此地に在名を稱せしものか。

ニラサキ 葦崎町 山梨縣甲斐國北五摩郡の東南部。釜無川の左岸鹽川との合流點を占め、東北は八ヶ嶽山裾の末端をなす丘陵と七里岩の斷崖を以て界する狭き谷平野なり。所謂富士見狭谷の出口にて、釜無川は之より扇狀地を形成して甲府盆地に流出す。農業・養蠶を主産業とし、米・麥・繭・圓桑等の産ある外、製糸業も行はれ、背後諸部落と甲府盆地との連絡點として商業盛なり。省線中央本線貫通し葦崎驛(明治三十六年設置)あり。縣道河岸に沿ひて通じ、附近諸村へバスの便あり。この地は和名抄、五麻郡栗原郷の内なるべく、もと河原村と稱せしが、明治二十五年葦崎町と改稱。昭和十

ニラヤマ 葦山村 静岡縣伊豆國田方郡の北部。熱海火山脈の西麓を占め、三島町の東南方約六軒にあり。伊豆半島最狭部中央に位し、東に連する熱海火山脈西へ裾野を引き、西境を狩野川北流し西部に平野開く。農業・養蠶を主産業とし、米・繭の産多く茶・蜜柑等の特産もあり、次いで工業・牧畜盛なり。西部を社線駿豆鐵道及び縣道南北に走り、原木(明治三十一年設置)・葦山(明治三十三年設置)・伊豆長岡(明治三十一年設置)三驛を置き三島町・沼津市其他へバスの便あり、外に山麓に沿ふ道路あり。戰國時代以前に於ける葦山の歴史は定かならず、恐らくは駿河の今川氏に頼れる伊勢長氏(後に北條早雲)が堀越御所の足利茶々丸を攻め滅ぼし、長享二年十月葦山城に據りしを始めてすべきが如し。その

後長氏の勢益々盛を極めて明應四年、大森氏の小田原城を奪ひて關東に進出せしが、なほ小田原は城代をして守らしめ、己れは葦山に居を占めしは、東海・關東を控制する要衝の地たる故なりき。越えて天正十八年、豊臣秀吉の小田原征伐あるや、北條氏政の弟氏規寡兵を以てよく葦山城を頑守すること三月餘に及び遂に徳川家康の勳告により開城す。即ち今の縣立中學校の裏の小丘に本丸・外廓・内濠等存せるは其の遺跡なり。次いで家康は内藤信成を封じ、慶長五年、その子信正を大垣に移せり。而して源頼朝の姪々小島舉兵の時、八牧郷の宇野氏これに従ひて功により江川莊一圓を賜はり、子孫よりて姓となせしが、のち北條氏に屬し、その滅亡後更に徳川氏に仕へ寶曆九年葦山代官に任ぜられ、世々相繼ぐ。明治元年、葦山縣置かれ、江川英武が知事となり、同四年足柄縣に次いで静岡縣に併せらる。大字姪々島は寺家の東方にあり。往昔狩野川この地を挾流して島の如く、草姪殊に多かりしためこの名あり。源頼朝配流以來その名高く今は田圃となりしが、なほその名稱存し、頼朝配流の地には小丘上に記念碑あり。脇に孤松あり、僅かにその位置を示す。また大字原木・四日町の邊を北條と稱す。蓋し茨城郷の北條の謂なり。王朝の末、州豪北條氏の居りし所。其の館址は四日町の西、御所内の地是れか。或は此地をば堀越御

所址とも稱すれば、兩跡同地にや。一説に、北條の東方島澤の地を以て北條館址ともなす。〔葦山反射壇〕 大字中宇鳴識にあり。指定史蹟。嘉永六年、伊豆代官江川太郎左衛門英龍、幕府に建議し、賀茂郡本郷村(今の稻生澤村)高馬に起せしが、其地下田港に近きを以て此地に移し安政二年竣成す。然るに暴風の爲に破壊し英龍の子英敏これを再興し、安政五年より慶應元年に至る八年間、大小砲數百門を鑄造せり。爾後荒廢し陸軍省の所管に移る。今高さ一六米の煙突及び長さ五・六米、幅五米の壇址存す。之に使用せられたる耐火煉瓦は一、七〇〇度の高熱に堪へ得るものにて、英龍が天城山麓梨木その他の土を取り、辛苦の後製造したるもの。〔葦山城址〕 葦山中學校背上の丘陵にて、本丸は南方にありて二の丸・三の丸北に續く。延徳三年北條早雲、足利茶々丸を滅してこれに居り、のち小田原に移るに及んで其の屬城となる。かの天正十八年豊臣秀吉が北條氏を討ちし時北條氏規この城に據り孤軍大敵を拒ぎて屈せざりしが史上有名な所とす。關ヶ原役後廢城となる。〔江川太郎左衛門〕 伊豆葦山代官。砲術家。夙に蘭學・砲術を修め、海防・兵制改革・鑄砲等に功あり、品川砲臺・葦山反射壇はその偉績なり。安政二年歿。年五十五。贈正四位。その邸址は葦山城址の東にあり。棟風造の一大茅屋にて鎌倉時代建築のまゝなり

と傳ふ。〔皇大神社〕 大字葦山に鎮座。縣社。祭神、大日靈貴命外三神。明應年中より葦山城に在りし北條氏の崇敬社たりしが、天正十八年同家没落と共に衰頹す。例祭、十月十七日。〔荒木神社〕 大字原木に鎮座。郷社。祭神、天津日子根命。延喜の制、國幣の小社に列し、伊豆國神階に「正四位上ありまの明神」とあるものこれなりといふ。もと天木神社とも、鞍掛明神とも稱せり。例祭、十月十八日。〔國清寺〕 大字奈古谷にあり。臨濟宗圓覺寺派。天長山。島山國清の開基、上杉民部大輔靈顯の造營に係り、無礙妙蹟を開山とす。もと伽藍壯麗、七十八字を有し、足利義滿の時關東十刹の一に加へられしが、延徳三年兵火の爲に炎上し、いま大雄殿のみ僅かに古を語る。現に塔頭五院、末寺五十八寺を有す。

ニレ 仁禮村 長野縣信濃國上高井郡の南部。須坂町の東南方約二軒。四河山(二二三三米)の西北山裾を占め、米子川・結川の水源をなす。東は山脈を境に群馬縣吾妻郡に、南は小縣郡に界す。東南部には山岳重疊し西北に向ひて傾斜す。米子川・結川共に村内を西北に流れ須坂町の北にて信濃川に合す。聚落は西北部に多く、養蠶・農業に従事す。東南部に碓氷嶺山あり、西部に温泉湧出す。村内に米子權現瀧(高さ二四二米、幅二米)、米子不動瀧(高さ二八八米、幅二米)あり。須坂町より縣道來りバスの便あり。この地は和名抄、高井郡稻向郷の内なるべく、信濃源氏一家に楡井氏あり、此地に在名を稱せしもの。

ニレ 爾靈山 關東州旅順市の西北にある戰蹟。その標高二〇三米。旅順を環る山々の内、その最高のものにして、よつて二〇三高地と呼ばれ、日露戰役後、乃木大將によつて爾靈山と命名せらるるに至る。初めロシヤは、この山には防禦工事を施さざりしが、明治三十七年五月以來俄に工事を開始し、特に高崎山を奪はれし以後、懸命に工事を營みこれを半永久的のものとし、山腹に散兵壕を三段に穿ち堅固なる鐵條網を二條張り廻し、加農砲三門、その他機關砲三門を備ふる堅固なる防禦陣地を築造せり。一方我軍は、松村中將の率ふる第一・第七の兩師團や後備第一旅團等によりて之

ニレハ——ニワサ

に對し、明治三十七年九月十九日の第二回總攻撃より攻撃を開始し、十二月五日これを占領するまでは毎回内彈戰の連続にて、占領しては奪回され、之を繰返すこと五回に及び、第三回總攻撃に於ける我が軍の死傷者は、山本少將以下實に七千五百七十八人、敵は六千七百三十九人にて、かかる悲絶壯絶の戰鬪が屢々行はれたり。この山の占領は、旅順陥落の主因の一となりしものにして、山上に立てば四圍の山々は指呼の内に存し、眞に絶好の陣地なり。我が軍はその占領後、こに砲兵觀測所を進めて旅順港内の敵艦隊を砲撃全滅せしめたり。山頂には乃木將軍の筆なる「爾靈山」の碑名ある小銃彈丸型の記念碑が十米餘の高さに立てられ、その臺石には詳細なる碑文あり。附近には他の記念碑や、露軍の火砲等の遺物も現存す。

ニレハラ 檜原 富山縣婦負郡細入村の大字。高山本線の檜原驛(昭和五年設置)を置く。

ニロー 一老面 朝鮮全羅南道務安郡の一面。榮山江口の右岸なる務安半島の突端部に木浦府の東北に接する陸地部と、高下島・許沙島・訥島・長佐島・達里島その他の島嶼部とより成る。半島部は百米臺の丘陵起伏するのみにて平地に乏しからず、島嶼部も何れも地勢峻しからず、田畑掛け農業行はる。産物は米・粟・蕎麥・棉等の農産、石首魚・鮭そ

他の水産を主とす。總督府鐵道湖南本線通じて任城里驛(大正二年設置)あり、京城・木浦間道路その西方に走る。

ニワ 丹羽 潮郡の一驛(昭和七年設置)。北海道後志國潮郡東潮郡村にあり。

【丹羽郡】 愛知縣(尾張國)十八郡の一。木曾川の左岸に沿ひ、東より北へかけては岐阜縣美濃國に、西北は葉栗郡に、西は一宮市に、西南は中島郡に、南は西春日井・東春日井の兩郡に界す。面積一五八・二二方軒。東北に二三百米の丘陵横たはり中に八鹿池を湛へ、尾張富士屹立す。木曾川北境を西に流れ、犬山町より上流、東部丘陵の迫る所は所謂日本ラインの稱ある深流をなす。他は概ね平坦肥沃なる濃尾平野に屬し、桑園・水田耕作、農業・養蠶最も盛なり。農産物は米を筆頭に、大根・菜種、其の他の蔬菜或は雜・雜卵等、多方面に互り、各農村より出づる多額の繭は郡内各町に集まり生糸となり海外に輸出さる。海外より原料を仰ぐ綿織物・毛織物業また盛にして布袋・岩倉・古知野・犬山各町はいづれも製糸・紡織の工業都市として發展しつゝあり。省線東海道線は一宮市を通過し郡内を通らざるも、社線名古屋鐵道の便よく、一宮より岩倉町及び東春日井郡小牧町を経て大山に至るものと、名古屋より岩倉・布袋・古知野各町を経て犬山町に來るものあり。一は岐阜市へ、一

は御嵩・八百津各町方面へ至る。縣道又四通八達しバスの便もあり。郡内四町、九箇村を含む。日本後紀弘仁五年記に始めて郡名見ゆ。和名抄は連波と註し、吾妻・稻木・上春・丹羽・穂積・大桑・下沼・上沼・前刀・小野・小野・小日の十二郷を管す。爾後大變化なし。

【丹羽】 尾張國(愛知縣)の古地名。和名抄に丹羽郡丹羽郷あり、その地今の丹羽郡西成村の邊に當るべし。

ニワクボ 庭窪村 大阪府河内國北河内郡の西部。淀川東岸に沿ひ、大阪市の東北隅に接し南西は守日町の北に界す。地形低平にて西境に沿ひて淀川西南流す。東境には庭屋川支流の小河南流す。農産最も多く、工業・畜産・水産あり。淀川に沿ひて守日町・大阪市東成區方面と東北方町方面とを結ぶ縣道走り、社線京阪電鐵守日驛(西南約一軒)に近し。この地は和名抄、茨田郡大窪郷あり、中世は大庭莊、又は佐太莊と稱す。

【津島郡神社】 大字金田に鎮座。郷社。祭神、津島賣命・菅原道真。創建年代詳かならざるも、嘉祥三年十二月に神位從五位下を授けられ、延喜の制には式内小社に列したれば地方の古社なるを知るべし。例祭、十月十六日。【光明寺(八幡宮寺)】 大字八雲にあり。古義眞言宗。仁和寺末。十一面觀音立像一軀(木造)は弘仁期の作にして國寶。(來迎寺) 大字佐太にあり。淨土宗。紫雲山聖嚴院。もと

四六四

大念佛佐太派の本寺たり。貞和三年實尊の開創にして、後村上天皇御持佛の釋迦佛像並に放光殿の號を賜ふ。

ニワサカ 庭坂村 福島縣岩代國信夫郡の西北部。福島市の西北方約八軒。西方は山形縣に接す。奥羽山脈の東斜面に屬して西南部に高く、東方に傾斜し、斷崖を成して福島盆地(信達平野)に臨む。東部は福島盆地に屬して平坦なり。須川の支流天戸川は村の西南部に出て、東流し、南方庭塚村に入りて須ノ川に合す。米・蕎麥を産し、村の東部には果樹園ありて梨の栽培行はれ早生赤・長十郎の二種最も勝れ、庭坂驛の梨の出荷は東北第一位を占む。道路は東南方福島市に通す。奥羽本線庭坂驛(明治三十二年設置)は村の東部にあり。村内に硫黄山なる信夫鎮山ありて重要鎮山に屬す。鐵區六萬餘坪、昭和十年には硫黄四、五三〇噸、この價額二十八萬餘圓を出す。なほ同年には附近に試掘中のもの(鐵區七十三萬餘坪)より鐵石一五、〇九二噸を出し、これは信夫鎮山に送致して合併製鍊す。この外、村内には庭坂鎮山あり、鐵區九千餘坪、同じく硫黄山とす。(信夫高湯温泉) 硫黄泉にして、療養向。此地は海拔七五〇米、避暑に適す。附近に吾妻小富士・一切經山の噴烟・不動瀧・鎌沼・無瀧・小瀧・相見瀧・燕瀧・神樂石・五色瀧等の名所あり。(吾妻山八重白山石南自生地) 指定天然記念物。吾妻山

【任實】 朝鮮全羅北道二府十四郡中の一。道の中央より稍々東南に位し、北は鎮安・完州の二郡、東は長水郡、南は南原・淳昌の二郡、西は非邑郡に接す。面積五九二・七方軒。城内は蘆嶺山脈に屬する山地にして平地に乏し。河流には嶺津江の支流なる烏院川および契樹川の二川あり、前者は特色ある嵌入蛇曲流をなす。従つて舟楫の便殆どなく、灌溉の利も比較的乏し。ただ烏院川は郡の兩境に於て堰止められ長さ二五方軒、周囲七〇余軒の東津水利組合水源貯水池(徳岩貯水池)をつくり、地形に一大變化を與ふ。産物は農業を主とし、米・麥・大豆・棉・楮・煙草等を産し特に大豆は道中の主要産地たり。山地は森林繁茂し良材に富み木炭を出し、また製紙・養蠶行はる。鎮産には金・銀あり。東部を總督府鐵道全羅線横斷し館村・任實・榮樹等の驛を設け、道路は全州・南原間二等道路の前者と並走する外、前記各驛より郡の内外に通ずる自動車道路あり、交通比較的便。

【任實面】 朝鮮全羅北道任實郡の中央部。蘆嶺山脈中に位し、平地に乏しく、嶺津江支谷に沿ひて僅かに耕地拓く。産物は麥・大豆・棉・煙草・蕎麥等を主とし、また斗滿・雲星等の鎮山ありて金・銀を出す。特産に紙・麻布・水柿等あり。總督府鐵道全羅線東北境を掠り任實驛(昭和六年設置)あり。東部を南原街道通じ、任實より津昌へ至る路線を岐ち、何れもバスの便あり。任實邑は任實驛の南方二軒余、任實川の左岸に位し、郡廳・地方法院出張所・金融組合等あり。

【任實】 朝鮮全羅南道務安郡二老面にあり。設置)あり。東部を南原街道通じ、任實より津昌へ至る路線を岐ち、何れもバスの便あり。任實邑は任實驛の南方二軒余、任實川の左岸に位し、郡廳・地方法院出張所・金融組合等あり。

【任實】 朝鮮全羅南道務安郡二老面にあり。設置)あり。東部を南原街道通じ、任實より津昌へ至る路線を岐ち、何れもバスの便あり。任實邑は任實驛の南方二軒余、任實川の左岸に位し、郡廳・地方法院出張所・金融組合等あり。

【任實】 朝鮮全羅南道務安郡二老面にあり。設置)あり。東部を南原街道通じ、任實より津昌へ至る路線を岐ち、何れもバスの便あり。任實邑は任實驛の南方二軒余、任實川の左岸に位し、郡廳・地方法院出張所・金融組合等あり。

【任實】 朝鮮全羅南道務安郡二老面にあり。設置)あり。東部を南原街道通じ、任實より津昌へ至る路線を岐ち、何れもバスの便あり。任實邑は任實驛の南方二軒余、任實川の左岸に位し、郡廳・地方法院出張所・金融組合等あり。

【任實】 朝鮮全羅南道務安郡二老面にあり。設置)あり。東部を南原街道通じ、任實より津昌へ至る路線を岐ち、何れもバスの便あり。任實邑は任實驛の南方二軒余、任實川の左岸に位し、郡廳・地方法院出張所・金融組合等あり。

【任實】 朝鮮全羅南道務安郡二老面にあり。設置)あり。東部を南原街道通じ、任實より津昌へ至る路線を岐ち、何れもバスの便あり。任實邑は任實驛の南方二軒余、任實川の左岸に位し、郡廳・地方法院出張所・金融組合等あり。

【任實】 朝鮮全羅南道務安郡二老面にあり。設置)あり。東部を南原街道通じ、任實より津昌へ至る路線を岐ち、何れもバスの便あり。任實邑は任實驛の南方二軒余、任實川の左岸に位し、郡廳・地方法院出張所・金融組合等あり。

【任實】 朝鮮全羅南道務安郡二老面にあり。設置)あり。東部を南原街道通じ、任實より津昌へ至る路線を岐ち、何れもバスの便あり。任實邑は任實驛の南方二軒余、任實川の左岸に位し、郡廳・地方法院出張所・金融組合等あり。

【任實】 朝鮮全羅南道務安郡二老面にあり。設置)あり。東部を南原街道通じ、任實より津昌へ至る路線を岐ち、何れもバスの便あり。任實邑は任實驛の南方二軒余、任實川の左岸に位し、郡廳・地方法院出張所・金融組合等あり。

【任實】 朝鮮全羅南道務安郡二老面にあり。設置)あり。東部を南原街道通じ、任實より津昌へ至る路線を岐ち、何れもバスの便あり。任實邑は任實驛の南方二軒余、任實川の左岸に位し、郡廳・地方法院出張所・金融組合等あり。

四六五

中腹高湯温泉の上方、本村大字町庭坂字大平にあり。一重の花柱と混生し、株数これよりも少なく、色は白色に限られ、淡紅色のものなし。花瓣の重復は一重の花冠の内部に更に一の複花冠を生じ、完全なるものは五枚の花弁が縁邊にて互に相合着し、一の内花冠をなす。この内花冠の大きさは外花冠の半に及ばず。

ニワセ 庭妹・庭瀬 備中國(岡山縣)の古地名。和名抄に賀夜郡庭妹郷あり、諸本は爾比世と訓するも高山寺本により爾波世と訓す。近世村名に呼び吉備郡庭瀬村と云ひしが、昭和十二年都窪郡撫川町と共に廢され吉備町を建つ。

ニワタニ 上神谷村 大阪府和泉國泉北郡の東部。堺市の東南方約七軒にあり、西方約三軒には和泉町あり。東南は南河内郡に界す。南方に東西に連る長峰山脈の北麓にして地形緩やかな傾斜地をなし東南部に高し。中央には石津川村内の水を集めて西北に貫流す。農産額首位を占め工業之に次ぎ外に畜産・林産及び水産あり。堺市・濱寺町方面へバスを通す。此地は和名抄、大島郡上神郷の内なり。上神はのち北上神・中上神・南上神の三村となりしが、明治二十七年、中上神と南上神を合併して本村を置き、北上神は昭和十年外敷筒村と合併して福泉町を建つ。(櫻井神社) 大字片藏に鎮座。郷社。祭神、譽田別命・足仲彦命。天正十三年豊臣秀吉の紀伊國根來寺を討

つに際しその兵變に罹りたるも、のち再興す。社殿中、本殿・拜殿は國寶建造物に指定せらる。例祭、十月五日。(法道寺) 古義眞言宗。白鳳十一年、法道仙人の開創に係りも長福寺と號す。世々勸願所に列し、往昔は七百餘院を擁せし大伽藍たりしも、戰國時代次第に衰頹し今二字のみ存す。多寶塔・十六羅漢圖(絹本)は國寶。

ニワツカ 庭塚村 福島縣岩代國信夫郡の西部。福島市の西方約八軒。奥羽山脈の東斜面に屬し、地勢西部に高く、東方に傾斜し、須川は南境を東流して村の東部に於て北より天戸川を合す。村の東部は福島盆地(信達平野)に屬して平坦なり。米・蕎麥・果實等を産す。道路は東部を南北に通じ、北方奥羽本線庭坂驛へはバスの便あり。

ニワン 似瀧 北海道釧路支廳勇拂郡にありし村。昭和八年穂別村と改稱す。

ニシキ 仁義村 和歌山縣紀伊國海草郡の南部。海南市の南に隣り、南は有田郡に界す。南境に長峯山脈あり。それより派出する山脈四周を圍み、東北隅に熊ノ尾山(五四三米)あり。山地は西北部のみ開けて西隣加茂村と谷を通じ、東南境に源流する加茂川は本村を西北に横切る。低地は米を産し、副業には養蠶行はれ繭を出すも、柑橘栽培全村に行はれ本村主要産業たり。外に林産・工業・畜産あり。東部に海南市より南下する縣道あり、

また中央にも村道あり海南市に出づ。

【任實郡】 朝鮮全羅北道二府十四郡中の一。道の中央より稍々東南に位し、北は鎮安・完州の二郡、東は長水郡、南は南原・淳昌の二郡、西は非邑郡に接す。面積五九二・七方軒。城内は蘆嶺山脈に屬する山地にして平地に乏し。河流には嶺津江の支流なる烏院川および契樹川の二川あり、前者は特色ある嵌入蛇曲流をなす。従つて舟楫の便殆どなく、灌溉の利も比較的乏し。ただ烏院川は郡の兩境に於て堰止められ長さ二五方軒、周囲七〇余軒の東津水利組合水源貯水池(徳岩貯水池)をつくり、地形に一大變化を與ふ。産物は農業を主とし、米・麥・大豆・棉・楮・煙草等を産し特に大豆は道中の主要産地たり。山地は森林繁茂し良材に富み木炭を出し、また製紙・養蠶行はる。鎮産には金・銀あり。東部を總督府鐵道全羅線横斷し館村・任實・榮樹等の驛を設け、道路は全州・南原間二等道路の前者と並走する外、前記各驛より郡の内外に通ずる自動車道路あり、交通比較的便。

【任實面】 朝鮮全羅北道任實郡の中央部。蘆嶺山脈中に位し、平地に乏しく、嶺津江支谷に沿ひて僅かに耕地拓く。産物は麥・大豆・棉・煙草・蕎麥等を主とし、また斗滿・雲星等の鎮山ありて金・銀を出す。特産に紙・麻布・水柿等あり。總督府鐵道全羅線東北境を掠り任實驛(昭和六年設置)あり。東部を南原街道通じ、任實より津昌へ至る路線を岐ち、何れもバスの便あり。任實邑は任實驛の南方二軒余、任實川の左岸に位し、郡廳・地方法院出張所・金融組合等あり。

【任實】 朝鮮全羅南道務安郡二老面にあり。設置)あり。東部を南原街道通じ、任實より津昌へ至る路線を岐ち、何れもバスの便あり。任實邑は任實驛の南方二軒余、任實川の左岸に位し、郡廳・地方法院出張所・金融組合等あり。

【任實】 朝鮮全羅南道務安郡二老面にあり。設置)あり。東部を南原街道通じ、任實より津昌へ至る路線を岐ち、何れもバスの便あり。任實邑は任實驛の南方二軒余、任實川の左岸に位し、郡廳・地方法院出張所・金融組合等あり。

【任實】 朝鮮全羅南道務安郡二老面にあり。設置)あり。東部を南原街道通じ、任實より津昌へ至る路線を岐ち、何れもバスの便あり。任實邑は任實驛の南方二軒余、任實川の左岸に位し、郡廳・地方法院出張所・金融組合等あり。

【任實】 朝鮮全羅南道務安郡二老面にあり。設置)あり。東部を南原街道通じ、任實より津昌へ至る路線を岐ち、何れもバスの便あり。任實邑は任實驛の南方二軒余、任實川の左岸に位し、郡廳・地方法院出張所・金融組合等あり。

【任實】 朝鮮全羅南道務安郡二老面にあり。設置)あり。東部を南原街道通じ、任實より津昌へ至る路線を岐ち、何れもバスの便あり。任實邑は任實驛の南方二軒余、任實川の左岸に位し、郡廳・地方法院出張所・金融組合等あり。

【任實】 朝鮮全羅南道務安郡二老面にあり。設置)あり。東部を南原街道通じ、任實より津昌へ至る路線を岐ち、何れもバスの便あり。任實邑は任實驛の南方二軒余、任實川の左岸に位し、郡廳・地方法院出張所・金融組合等あり。

【任實】 朝鮮全羅南道務安郡二老面にあり。設置)あり。東部を南原街道通じ、任實より津昌へ至る路線を岐ち、何れもバスの便あり。任實邑は任實驛の南方二軒余、任實川の左岸に位し、郡廳・地方法院出張所・金融組合等あり。

【任實】 朝鮮全羅南道務安郡二老面にあり。設置)あり。東部を南原街道通じ、任實より津昌へ至る路線を岐ち、何れもバスの便あり。任實邑は任實驛の南方二軒余、任實川の左岸に位し、郡廳・地方法院出張所・金融組合等あり。

ニワセ——ニンブ

又

又野・奴・沼

【野鳥・奴鳥・沼鳥】 ↓沼鳥村(兵庫縣三原郡)
【野鳥】萬葉集に見ゆる地名。紀伊國(和歌山縣)日高郡鹽津浦の南方にある野鳥を稱せしものならん。萬葉・一「吾が欲りし野鳥は見せつ底深き阿胡根の浦の珠そひりばぬ」

又カ 奴可

【備後國(廣島縣)の古地名。日本後紀、延暦二十四年紀に郡名見ゆ。和名抄は奴加と訓じ、刑部・道部・斗意・三上の四郷を管す。近世或ひは怒哥にも作る。明治に至り舊に復す。明治三十一年十月に三上・惠蘇之郡と合して比婆郡を置き、郡名を失ふ。】

又カ 額村

石川縣加賀國石川郡の中郡。野々市町の南に隣接す。東南半は倉ヶ嶽(五六六米)の山裾を占め、二十三米の傾斜地、西北半は加賀平野に屬し肥沃なる水田拓く。農業を主産業とし米の産多く、次いで麥・蕎麥を産す。村の西部を南北に貫走する縣道と社線金澤電軌ありて大額(大正四年設置)・三十坊(昭和二年設置)・四十萬(大正四年設置)の三郷を置く。この地は和名抄、石川郡拜師郷の内。【額東神社】大字額谷に鎮座。

郷社。祭神、伊那那岐命・國底立命。式内社。神護景雲二年の創立と云ふ。例祭四月十七日。

又カタ 額田

【額田】 上總國(千葉縣)の古地名。和名抄に周准郡額田郷あり、その地今の君津郡中村・小糸村の邊に當る。
【額田】 加賀國(石川縣)の古地名。和名抄に江沼郡額田郷あり、奴加多と訓す。その地今の江沼郡庄村・動橋村の邊に當る。
【額田】 越前國(福井縣)の古地名。和名抄に足羽郡額田郷あり、奴加太と訓す。その地は今の足羽郡内ならんも詳かならず。一に吉田郡に入りしともいふ。
【額田(國)】 成務天皇の朝に置かれし國。國造本紀に成務天皇の朝に大直信字命を額田國造に任ずと見ゆ。その地今は詳ならず。一に美濃國池田郡額田郷、即ち今の岐阜縣揖斐郡八幡村の邊とも、或は滋賀縣近江國坂田郡ともいふ。
【額田】 美濃國(岐阜縣)の古地名。和名抄に池田郡額田郷あり、その地今の揖斐郡八幡村に當る。
【額田(縣)】 明治四年七月三河國にありし諸藩を廢して置きし岡崎・西大平・重原・刈谷・西端・西尾・舉母・半原・豊橋・田原の十縣を、同年十一月更に廢して岡崎に本縣を置き、三河一國及び尾張の知多郡を管せしが、翌年十一月これを廢して愛知縣に合す。

【額田】 三河國(愛知縣)の古地名。和名抄に額田郡額田郷あり、その地今の額田郡内ならんも詳かならず。
【額田】 伊勢國(三重縣)の古地名。和名抄に桑名郡額田郷あり、沼加多と訓す。今の桑名郡在良村の邊に當る。
【額田】 伊勢國(三重縣)の古地名。和名抄に朝明郡額田郷あり、沼加多と訓す。今の三重縣朝日村の邊に當る。
【額田】 河内國(大阪府)の古地名。和名抄に河内郡額田郷あり、沼加多と訓す。今の河内郡枚岡村の邊に當る。
【額田】 大和國(奈良縣)の古地名。書紀仁賢天皇の六年紀に山邊郡額田邑に高麗國より貢せし工匠を置くとも見ゆ。和名抄には平群郡額田郷と見え奴加多と訓す。其地は詳かならずも山邊郡に隣れる今の生駒郡昭和村の大字に額田部寺方・額田部南方・額田部北方あり、恐らくは此の地方なるべし。
【額田】 備後國(廣島縣)の古地名。和名抄に三原郡額田郷あり、その地は今の雙三郡三良坂町の邊に當る。
【額田】 筑前國(福岡縣)の古地名。和名抄に早良郡額田郷あり、奴加多と訓す。今の早良郡壹岐村の邊に當る。
【額田村】 茨城縣常陸國那珂郡の東南部。久慈川の南岸にして、北は久慈郡の一部と相對す。中部より南部にかけては臺地にして畑地あり。久慈川沿岸には低地ありて水田をなす。農業行はれて米・麥を産す。縣道四方に通じ北走するものは久慈郡太田町に通ず。省線水郡線は西部を北走し額田驛(明治三十一年設置)あり。北地は和名抄、久慈郡木前郡の内なり。東端に佐竹秀義の所領の邑名に額田とあるは此地なり。村内の額田城址は額田郡少輔義亮の居りし處。【阿彌陀寺】大字額田南郷にあり。眞宗大谷派。親鸞門下二十四輩の第十四珂定信の初め當郡大山の地に開創せしに始まる。
【額田郡】 愛知縣十八郡の一。三河國の中部。矢作川左岸に沿ひ、北は東加茂郡に、東は南設樂郡に、南は本宮丘陵を以て寶飯郡に、西南は幡豆郡に、西は矢作川を境に碧海郡に接す。面積三四八・六九方呎。木曾山脈の餘波を受け郡内概ね丘陵起伏し、略中央を東西に矢作川支流の大平川貫流す。西境を矢作川南流し大平川の合流點に岡崎市あり。西部の矢作川流域は肥沃なる平野開け農業盛なり。丘陵地帯には田より畑多く養蠶發達す。米・蕎麥を初め麥・粟・黍・粟等、農産物は多種なるも産額比較的多からず、この地方は曾て内地棉栽培され打綿紡績の行はれし所として、今は地方的餘情を以て小規模の綿織物業行はれ足袋底・帆布・厚司等の粗織を産す。また東北部山地の花崗岩に加工せる三河燈籠・石川石等の特産あり。本郡の主要路は西南部を貫通する東海道と、北より矢作川に沿ひて南

又カ 額田

【額田村】 茨城縣常陸國那珂郡の東南部。久慈川の南岸にして、北は久慈郡の一部と相對す。中部より南部にかけては臺地にして畑地あり。久慈川沿岸には低地ありて水田をなす。農業行はれて米・麥を産す。縣道四方に通じ北走するものは久慈郡太田町に通ず。省線水郡線は西部を北走し額田驛(明治三十一年設置)あり。北地は和名抄、久慈郡木前郡の内なり。東端に佐竹秀義の所領の邑名に額田とあるは此地なり。村内の額田城址は額田郡少輔義亮の居りし處。【阿彌陀寺】大字額田南郷にあり。眞宗大谷派。親鸞門下二十四輩の第十四珂定信の初め當郡大山の地に開創せしに始まる。
【額田郡】 愛知縣十八郡の一。三河國の中部。矢作川左岸に沿ひ、北は東加茂郡に、東は南設樂郡に、南は本宮丘陵を以て寶飯郡に、西南は幡豆郡に、西は矢作川を境に碧海郡に接す。面積三四八・六九方呎。木曾山脈の餘波を受け郡内概ね丘陵起伏し、略中央を東西に矢作川支流の大平川貫流す。西境を矢作川南流し大平川の合流點に岡崎市あり。西部の矢作川流域は肥沃なる平野開け農業盛なり。丘陵地帯には田より畑多く養蠶發達す。米・蕎麥を初め麥・粟・黍・粟等、農産物は多種なるも産額比較的多からず、この地方は曾て内地棉栽培され打綿紡績の行はれし所として、今は地方的餘情を以て小規模の綿織物業行はれ足袋底・帆布・厚司等の粗織を産す。また東北部山地の花崗岩に加工せる三河燈籠・石川石等の特産あり。本郡の主要路は西南部を貫通する東海道と、北より矢作川に沿ひて南

又カ 額部

【額部村】 群馬縣上野國北甘樂郡の中部。富岡町の南方にて間に高瀬村を挟む。西南境附近に碧含山(一三七〇米)あり。南境にはそれに續く六〇〇米前後の山地連りて村はこれ等の北斜面を占む。山地は森林ありて林産多し。北部の山裾には耕地ありて米麥を産す。養蠶盛んにて繭の産額大なり。縣道は富岡町及び東隣小幡町に通じ、富岡町に社線上信電氣鐵道上州富岡驛(明治三十年設置)を置く。此地は和名抄甘樂郡額部郷の内。
【額部】 上野國(群馬縣)の古地名。和名抄に甘樂郡額部郷あり、奴加倍と訓す。その地今の北甘樂郡福島町に當る。
【額部】 長門國(山口縣)の古地名。和名抄に豊浦郡額部郷あり、奴加倍と訓す。その地今の豊浦郡豊東村の邊に當る。
【額部】 伊勢國(三重縣)の古地名。和名抄に度會郡沼木郷あり、奴木と訓す。今の宇治山田市に當る。
【額部】 下野國(栃木縣)の古地名。和名抄に寒川郡努宜郷あり、その地今の下都賀郡野木村に當り、野木は努宜の訛れるもの。
【額部】 陸奥國(宮城縣)の古地名。和名抄に柴田郡瀨城郷あり、その地今の柴田郡村田町の邊に當る。
【瀨城】 陸奥國(宮城縣)の古地名。和名抄に長岡郡瀨城郷あり、瀨城は瀨城の誤りて水田をなす。農業行はれて米・麥を産す。縣道四方に通じ北走するものは久慈郡太田町に通ず。省線水郡線は西部を北走し額田驛(明治三十一年設置)あり。北地は和名抄、久慈郡木前郡の内なり。東端に佐竹秀義の所領の邑名に額田とあるは此地なり。村内の額田城址は額田郡少輔義亮の居りし處。【阿彌陀寺】大字額田南郷にあり。眞宗大谷派。親鸞門下二十四輩の第十四珂定信の初め當郡大山の地に開創せしに始まる。
【額田郡】 愛知縣十八郡の一。三河國の中部。矢作川左岸に沿ひ、北は東加茂郡に、東は南設樂郡に、南は本宮丘陵を以て寶飯郡に、西南は幡豆郡に、西は矢作川を境に碧海郡に接す。面積三四八・六九方呎。木曾山脈の餘波を受け郡内概ね丘陵起伏し、略中央を東西に矢作川支流の大平川貫流す。西境を矢作川南流し大平川の合流點に岡崎市あり。西部の矢作川流域は肥沃なる平野開け農業盛なり。丘陵地帯には田より畑多く養蠶發達す。米・蕎麥を初め麥・粟・黍・粟等、農産物は多種なるも産額比較的多からず、この地方は曾て内地棉栽培され打綿紡績の行はれし所として、今は地方的餘情を以て小規模の綿織物業行はれ足袋底・帆布・厚司等の粗織を産す。また東北部山地の花崗岩に加工せる三河燈籠・石川石等の特産あり。本郡の主要路は西南部を貫通する東海道と、北より矢作川に沿ひて南

又キナ 貫名

遠江國(静岡縣)の古地名。和名抄に長下郡貫名郷あり、奴岐奈と訓す。今の磐田郡掛塚町の邊に當る。
【又キノサキ 貫前】 上野國(群馬縣)の古地名。和名抄に甘樂郡貫前郷あり、奴支乃佐岐と訓す、その地今の北甘樂郡一ノ宮町に當る。
【又クシナ 温品村】 廣島縣安藝國安藝郡の西北部。西南隅は廣島市東部に接し、北部は安佐郡に界し、北に廣く南に狭くほぼ三角形を呈す。西境には南方へ高さを減じて丘陵連り、東は西南方へ低下する山嶺によりて村境を劃す。中央は東北より西南へ連る谷をなし、西南部に低地やや擴がる。農産額最も多く畜産これに次ぎ、外に林産・工業あり、廣島市に近く交通比較的便なり。この地は和名抄、安藝郡安藝郷の内なり。
【又クミ 生見】 鹿兒島縣掛指郡喜入村の大字。指宿線の生見驛(昭和十年設置)あり。
【又クユ 拔湯】 廣島縣甲奴郡にありし村。大正元年に外四箇村と共に廢され、上川村を置く。
【又ケド 抜戸岳】 ヌケットとも云ふ。日本北アルプスの一峯。槍ヶ岳の西方に當り、笠ヶ岳(肩ヶ岳、二八九八米)の北東嶺。岐阜縣吉城郡上賣村に屬し、標高二八一三米、山體は片麻岩より成る。こ

下する足助街道にて、省線東海道本線は西南隅郡境に沿ひ幸田・岡崎兩驛あり、社線名古屋鐵道線は國道に沿ひ貫通す。他は概ね里道による。和名抄は奴加太と訓じ、新城・鴨田・位賀・額田・麻津・六名・大野の七郷及び驛家一を載す。
【又カタケ 奴加岳村】 長崎縣對馬國下縣郡の北西部。對馬下島の西南端を占め、西は朝鮮海峡に臨み、南は淺海灣に面し、北は上縣郡に接す。村内概ね山地にして平地乏しく東北境には黒隈山屹立す。海岸は屈曲複雑にて西北部は金吾瀬突出して上縣郡との間に東方へ灣入する三根灣の南岸灣口を扼し、附近に神島・綱島・中ノ島・榎島の小島散在す。南部は淺海灣の一支灣仁位灣に面し、西南部は半島延びて仁位灣の西より西南部を圍み、更に西南方へ突出して其の半島周圍に寺崎・唐洲崎・只越崎・菅崎等を繞らし、上島との間に西方より廣く灣入せる淺海灣の灣口北部を擁す。南岸は小島嶼に富む。農産・林産・水産あり。近海は發動機船の便あり。この地は和名抄、下縣郡玉調郷の内なり。
【又カタベ 額部】 備中國(岡山縣)の古地名。和名抄に哲多郡額部郷あり、奴加多倍と訓す。この地は今の阿哲郡千屋村・新郷村の邊に當る。
【又カノフ 糠部】 陸奥國の古地名。また糠延にも作る。後世訛りてヌカベ・ヌカフ等と呼ぶ。東鑑、文治五年藤原泰衡

敗軍の後に、郡名初めて見ゆるも建郡の時期は明かならず。源頼朝奥州征伐の功分賞して本郡を南部先行に與へ、先行はなちて海上・二戸・三戸・九戸の四郡となし、これを一族に分與す。のち南部氏盛岡に歸るに及び、これを大南部と稱するのに對して糠部(三戸)を小南部(古南部)と稱す。爾後、糠部の號は廢れて其地の大部分は九戸郡となり、以て今日に至る。
【又カノメ 糠野目村】 山形縣羽前國東置賜郡の南部。米澤盆地の中央に位し米澤市の北方九軒。南は南置賜郡、西北は赤湯町に隣接す。松川は東南方より來り、村の中央部を西北に流れ、西北部に於て北部を西流する和田川及び西境を北流する鬼面川と合す。全村平坦なる沃野なり。米・蕎麥を産す。道路は村の中央部を南北に通じ、北方の赤湯町、南方の米澤市へはバス通じ、奥羽本線糠ノ目驛(明治三十三年設置)を置く。此地は和名抄置賜郡宮城郷の内なるべし。中世は上長井庄に屬す。【灌田記功碑】 大字福澤の喜田院にあり。米澤藩士黒井半四郎が寛政年間に松川の水を引き灌漑用の黒井堰を作りし功績を記念せんために、享和三年附近三十三箇村の協力にて建てしものなり。
【又カピラ 糠平】 北海道十勝 河東郡上士幌村にある省線士幌線の一驛。昭和十二年九月設置。

【額田】 三河國(愛知縣)の古地名。和名抄に額田郡額田郷あり、その地今の額田郡内ならんも詳かならず。
【額田】 伊勢國(三重縣)の古地名。和名抄に桑名郡額田郷あり、沼加多と訓す。今の桑名郡在良村の邊に當る。
【額田】 伊勢國(三重縣)の古地名。和名抄に朝明郡額田郷あり、沼加多と訓す。今の三重縣朝日村の邊に當る。
【額田】 河内國(大阪府)の古地名。和名抄に河内郡額田郷あり、沼加多と訓す。今の河内郡枚岡村の邊に當る。
【額田】 大和國(奈良縣)の古地名。書紀仁賢天皇の六年紀に山邊郡額田邑に高麗國より貢せし工匠を置くとも見ゆ。和名抄には平群郡額田郷と見え奴加多と訓す。其地は詳かならずも山邊郡に隣れる今の生駒郡昭和村の大字に額田部寺方・額田部南方・額田部北方あり、恐らくは此の地方なるべし。
【額田】 備後國(廣島縣)の古地名。和名抄に三原郡額田郷あり、その地は今の雙三郡三良坂町の邊に當る。
【額田】 筑前國(福岡縣)の古地名。和名抄に早良郡額田郷あり、奴加多と訓す。今の早良郡壹岐村の邊に當る。
【額田村】 茨城縣常陸國那珂郡の東南部。久慈川の南岸にして、北は久慈郡の一部と相對す。中部より南部にかけては臺地にして畑地あり。久慈川沿岸には低地ありて水田をなす。農業行はれて米・麥を産す。縣道四方に通じ北走するものは久慈郡太田町に通ず。省線水郡線は西部を北走し額田驛(明治三十一年設置)あり。北地は和名抄、久慈郡木前郡の内なり。東端に佐竹秀義の所領の邑名に額田とあるは此地なり。村内の額田城址は額田郡少輔義亮の居りし處。【阿彌陀寺】大字額田南郷にあり。眞宗大谷派。親鸞門下二十四輩の第十四珂定信の初め當郡大山の地に開創せしに始まる。
【額田郡】 愛知縣十八郡の一。三河國の中部。矢作川左岸に沿ひ、北は東加茂郡に、東は南設樂郡に、南は本宮丘陵を以て寶飯郡に、西南は幡豆郡に、西は矢作川を境に碧海郡に接す。面積三四八・六九方呎。木曾山脈の餘波を受け郡内概ね丘陵起伏し、略中央を東西に矢作川支流の大平川貫流す。西境を矢作川南流し大平川の合流點に岡崎市あり。西部の矢作川流域は肥沃なる平野開け農業盛なり。丘陵地帯には田より畑多く養蠶發達す。米・蕎麥を初め麥・粟・黍・粟等、農産物は多種なるも産額比較的多からず、この地方は曾て内地棉栽培され打綿紡績の行はれし所として、今は地方的餘情を以て小規模の綿織物業行はれ足袋底・帆布・厚司等の粗織を産す。また東北部山地の花崗岩に加工せる三河燈籠・石川石等の特産あり。本郡の主要路は西南部を貫通する東海道と、北より矢作川に沿ひて南

なり。其地は今の遠田郡田尻村・富水村の邊に當る。
【又キナ 貫名】 遠江國(静岡縣)の古地名。和名抄に長下郡貫名郷あり、奴岐奈と訓す。今の磐田郡掛塚町の邊に當る。
【又キノサキ 貫前】 上野國(群馬縣)の古地名。和名抄に甘樂郡貫前郷あり、奴支乃佐岐と訓す、その地今の北甘樂郡一ノ宮町に當る。
【又クシナ 温品村】 廣島縣安藝國安藝郡の西北部。西南隅は廣島市東部に接し、北部は安佐郡に界し、北に廣く南に狭くほぼ三角形を呈す。西境には南方へ高さを減じて丘陵連り、東は西南方へ低下する山嶺によりて村境を劃す。中央は東北より西南へ連る谷をなし、西南部に低地やや擴がる。農産額最も多く畜産これに次ぎ、外に林産・工業あり、廣島市に近く交通比較的便なり。この地は和名抄、安藝郡安藝郷の内なり。
【又クミ 生見】 鹿兒島縣掛指郡喜入村の大字。指宿線の生見驛(昭和十年設置)あり。
【又クユ 拔湯】 廣島縣甲奴郡にありし村。大正元年に外四箇村と共に廢され、上川村を置く。
【又ケド 抜戸岳】 ヌケットとも云ふ。日本北アルプスの一峯。槍ヶ岳の西方に當り、笠ヶ岳(肩ヶ岳、二八九八米)の北東嶺。岐阜縣吉城郡上賣村に屬し、標高二八一三米、山體は片麻岩より成る。こ

の山より槍・穂高岳裏側(飛騨側)の展望は偉観なり。四・五月頃、笠ヶ岳よりこの山へのスキー縦走は興味深く、尾根筋は相當幅廣くして起伏少し。登山は多く槍ヶ岳(三一八〇米)よりその北西方の双六岳(二八六〇米)に續く山稜の中間を南西に派出する支脈を縦走するか、或は笠ヶ岳より尾根を傳ひて行ふ。

又サカ 野坂浦 萬葉集に見ゆる地名。熊本縣肥後國葦北郡田浦村の海岸を指せしものならんといふ。萬葉・三「葦北の野坂の浦に船出して水鳥にゆかむ浪立つなゆめ 長田王」

又サチ 納薩 薩摩國(鹿兒島縣)の古地名。和名抄に日置郡納薩郷あり。刊本は調を聞き、高山寺本は薩を薛に作り、奴佐知と訓す。大同類聚方に奴佐知藥は薛麻の日置郡納薩の安藝麻呂の家方なりとあり、野幸の義なりとす。其地は今詳かならざるも伊集院町・上伊集院村・下伊集院村等の地なるべく、上伊集院村の大字に福山あり、福はサチに非らざるかと云ひ、また納薩をイリサと訓じ、上伊集院の大字入佐を其の遺稱なりともいふが、容易く定むべからず。

又シマ 沼島村 兵庫縣淡路國三原郡の南部。淡路島の南方の沖合三軒に位する沼島を占む。周圍僅に八軒。全島山地をなす小島なれども附近に巖礁多く、南岸には長さ九一米、幅五四米中の扁平なる岩波(波は方言にて磯に差出で

し石を云ふ)が海岸に横ばり、其北の磯に上立神、更に西南の海中に下立神と稱する直立柱の如き奇石屹立し、其他、佛堂・屏風岩等散在す。西北に小灣あり。食用農産・蔬菜・花卉・裸麥・米・繭・小麥及び果實等の農産物を産し、また鶏卵・醬油等を産出するも、古くより漁民の島に住し、特に西北面の鰯落を泊浦といひ、遠く伊勢の海・對馬の海にまで出漁す。交通は海上汽船の便による。書紀展中紀に野島の人とあるは此島の住民を稱せるもの。萬葉・六「朝なきに楳の音きこゆみけつ國野島の海人の船にしあるらし 山部赤人」(八幡神社)大字沼島浦に鎮座。郷社。祭神、譽田別命・足仲津彦尊・息長足姫尊。永享八年に當地の人梶原俊景の勸請に係るといふ。爾來梶原氏歴代の崇敬あり。天文二年・天正八年等に再建す。

又シロ 淳代(郡) 出羽國(羽前、秋田縣)の古郡名。淳代の名は古く書紀、齊明紀四年の條に見え、即ち「夏四月、阿部臣(阿部)率(船)百八十艘、伐(蝦夷)、尉田淳代二郡蝦夷(楯)乞(降)、定(淳代)津(二郡)領(云々)とありて、早くその郡を置きしこと知らる。されど蝦夷(楯)乞(降)の事容易ならざりしと見え、其後、幾年ならずして棄てて夷地となり、また淳代(郡)の古史に見えず。従つて延喜式・和名抄は共に記事なし。其の地は今の凡そ山本郡の邊に當る。

又タリ 沼垂 年には始めて出羽國を置き、もはや信濃川附近に城塞の要なき形勢となり、凡そその頃にして廢して沼垂郡を置かれしものと推斷さる。櫛の遺址につきは詳かならざるも、今の新潟市沼垂町王瀬向山の地と云はる。

又ナカワ 奴奈川村 新潟縣越後國東頸城郡の中部。澁海川上流に沿ひ高田市の東方約二四軒を隔つる山村。全村五百米前後の丘陵に圍繞され、東南部を澁海川東北に流れ村内にY字形の形を

【沼垂郡】 越後國(新潟縣)の古郡名。大化三年置きし淳代の郡に起る。和銅五年櫛を撤して郡を置きしもの、如し。和名抄は努太利と註し足羽・沼垂・賀地の三郷を管す。戦國の頃郡名を失ひ、近世に至り刈羽郡を改めて沼垂郡となせしが、その故地に非ざるを以て刈羽郡を復し沼垂郡の故地は蒲原郡に入る。

【沼垂】 越後國(新潟縣)の古地名。天平勝寶四年、東大寺文書中に沼垂郡沼垂郷見ゆ。和名抄にも同様見えたり。その地は信濃川・阿賀川二川の河口の間にて、いま新潟市の中に入る沼垂をばじめ中蒲原郡の大形村・石山村・大江山村・龜田町に互る地か。

【沼垂】 越後國(新潟縣)の古地名。天平勝寶四年、東大寺文書中に沼垂郡沼垂郷見ゆ。和名抄にも同様見えたり。その地は信濃川・阿賀川二川の河口の間にて、いま新潟市の中に入る沼垂をばじめ中蒲原郡の大形村・石山村・大江山村・龜田町に互る地か。

又タリ 沼垂 年には始めて出羽國を置き、もはや信濃川附近に城塞の要なき形勢となり、凡そその頃にして廢して沼垂郡を置かれしものと推斷さる。櫛の遺址につきは詳かならざるも、今の新潟市沼垂町王瀬向山の地と云はる。

【沼田郡】 安藝國(廣島縣)の古地名。和名抄に沼田郡沼田郷あり、この地今の豊田郡田方里村・大乗村・東野村・西野村の邊に當る。仁徳天皇の朝、菟野野鹿を殺せる佐伯部を移せる沼田は此地ならんといふ。

【沼田郡】 安藝國(廣島縣)の古地名。和名抄に沼田郡沼田郷あり、この地今の豊田郡田方里村・大乗村・東野村・西野村の邊に當る。仁徳天皇の朝、菟野野鹿を殺せる佐伯部を移せる沼田は此地ならんといふ。

【野浪】 出雲國(島根縣)の古地名。出雲風土記島根郡に「廣に二百八歩」とあり、いま八東郡野浪村などの海岸か。

【野浪】 出雲國(島根縣)の古地名。出雲風土記島根郡に「廣に二百八歩」とあり、いま八東郡野浪村などの海岸か。

【野浪】 出雲國(島根縣)の古地名。出雲風土記島根郡に「廣に二百八歩」とあり、いま八東郡野浪村などの海岸か。

【野浪】 出雲國(島根縣)の古地名。出雲風土記島根郡に「廣に二百八歩」とあり、いま八東郡野浪村などの海岸か。

【野浪】 出雲國(島根縣)の古地名。出雲風土記島根郡に「廣に二百八歩」とあり、いま八東郡野浪村などの海岸か。

【野浪】 出雲國(島根縣)の古地名。出雲風土記島根郡に「廣に二百八歩」とあり、いま八東郡野浪村などの海岸か。

【野浪】 出雲國(島根縣)の古地名。出雲風土記島根郡に「廣に二百八歩」とあり、いま八東郡野浪村などの海岸か。

【野浪】 出雲國(島根縣)の古地名。出雲風土記島根郡に「廣に二百八歩」とあり、いま八東郡野浪村などの海岸か。

【野浪】 出雲國(島根縣)の古地名。出雲風土記島根郡に「廣に二百八歩」とあり、いま八東郡野浪村などの海岸か。

【野浪】 出雲國(島根縣)の古地名。出雲風土記島根郡に「廣に二百八歩」とあり、いま八東郡野浪村などの海岸か。

【野浪】 出雲國(島根縣)の古地名。出雲風土記島根郡に「廣に二百八歩」とあり、いま八東郡野浪村などの海岸か。

して布忍野(大正十一年設置)あり。この地は和名抄、丹比郡田邑郷の内にして、近世は布忍庄と稱せり、村名蓋し之による。大字高木は中世に高木庄と稱せし地にして、延元年中、官軍に歸し戦功を建てし高木遠盛の本據なるべし。

ヌノヒキ 布引

【布引山】 會津布引山とも云ふ。猪苗代湖の南岸に峙つ。福島縣北會津郡湊村と安積郡赤津村の境上に位置し、南斜面は岩瀬郡に互る。標高一〇八一米。東方は北流する菅川を距てて高井原山(九八一米)峙り、西方は安藤峠最高點(一〇二七米)に續く。山深くして木立茂り、殊に山竹多し。この山は猪代湖北岸なる猪村より望めば、東西に長く布を引きたるが如き山容なり。南方の白河布引山と區別して會津布引山とも云ふ。

【布引岳】 日本北アルプス後立山山脈の一峯。鹿島槍岳(二八九〇米)の南稜に續く。東側は長野縣北安曇郡平村、西側は富山縣中新川郡立山町有林地に屬す。標高二四五五米。南稜は直に祖父岳(二六七〇米)に連り、此間に冷池あり。登山は鹿島槍—祖父より縦走して行ふ。

【布引村】 三重縣伊賀國阿山郡の東南部。布引山脈の西斜面に位置し、上野町の東南約八軒にあり、南は名賀郡に接す。東北境には笠取山(八四五米)あり、それより南に鈴鹿山脈の連嶺より山地西北に傾斜す。西北隅は布引山脈より延びる一支脈

の山脚部を占めて土地高し。村の西北部に東北より流下する服部川ありて、東南境より村を横切りて西北流する支流を入れて西に流る。米産は凡そ村内自給自足の程度にして、林産物及び之に附帯せる労働の収益と養蠶収益とを以て生計を營む。従つて豊かならず。主産物は木材・薪炭・繭にして特産には庭石あり。西部に伊賀街道通過して上野町へバスの便あり。此地は和名抄。山田郡川原郷の内にして、村名は布引山下なるによるか。謡曲に見ゆる井園山は此處にあり、大字馬野は一に番野に作り、古へより牧場として知らる。東大寺曆應三年文書に「馬野者、寺家根本十三大會、并八幡宮轉讀之料莊」とあり。

ヌマカク 沼澤

【沼澤】 鈴鹿山脈の一峯。津市の西方に當り、三重縣一志郡俊村・柳原村・阿山郡布引村・名賀郡上津村との境上に位置す。標高約七五〇米。北稜は笠取山(八四五米)、南稜は青山峠最高點に續く。南北に山脊續き、布を引きたるが如し。【ヌノヘ 布部】 北海道石狩國空知郡富良野町の大字。根室本線の布部驛(昭和二年設置)あり。

【ヌハマ 沼濱】 相模國(神奈川県)の古地名。和名抄に鎌倉郡沼濱郷あり、今の三浦郡葉山町の邊に當る。

【ヌハラ 抜原】 備後國(広島縣)の古地名。和名抄に安部郡抜原郷あり、刊本は抜原に作るも高山寺本に従ひ訂す。其地

の山脚部を占めて土地高し。村の西北部に東北より流下する服部川ありて、東南境より村を横切りて西北流する支流を入れて西に流る。米産は凡そ村内自給自足の程度にして、林産物及び之に附帯せる労働の収益と養蠶収益とを以て生計を營む。従つて豊かならず。主産物は木材・薪炭・繭にして特産には庭石あり。西部に伊賀街道通過して上野町へバスの便あり。此地は和名抄。山田郡川原郷の内にして、村名は布引山下なるによるか。謡曲に見ゆる井園山は此處にあり、大字馬野は一に番野に作り、古へより牧場として知らる。東大寺曆應三年文書に「馬野者、寺家根本十三大會、并八幡宮轉讀之料莊」とあり。

ヌマカク 沼澤

【沼澤】 鈴鹿山脈の一峯。津市の西方に當り、三重縣一志郡俊村・柳原村・阿山郡布引村・名賀郡上津村との境上に位置す。標高約七五〇米。北稜は笠取山(八四五米)、南稜は青山峠最高點に續く。南北に山脊續き、布を引きたるが如し。【ヌノヘ 布部】 北海道石狩國空知郡富良野町の大字。根室本線の布部驛(昭和二年設置)あり。

【ヌハマ 沼濱】 相模國(神奈川県)の古地名。和名抄に鎌倉郡沼濱郷あり、今の三浦郡葉山町の邊に當る。

【ヌハラ 抜原】 備後國(広島縣)の古地名。和名抄に安部郡抜原郷あり、刊本は抜原に作るも高山寺本に従ひ訂す。其地

の山脚部を占めて土地高し。村の西北部に東北より流下する服部川ありて、東南境より村を横切りて西北流する支流を入れて西に流る。米産は凡そ村内自給自足の程度にして、林産物及び之に附帯せる労働の収益と養蠶収益とを以て生計を營む。従つて豊かならず。主産物は木材・薪炭・繭にして特産には庭石あり。西部に伊賀街道通過して上野町へバスの便あり。此地は和名抄。山田郡川原郷の内にして、村名は布引山下なるによるか。謡曲に見ゆる井園山は此處にあり、大字馬野は一に番野に作り、古へより牧場として知らる。東大寺曆應三年文書に「馬野者、寺家根本十三大會、并八幡宮轉讀之料莊」とあり。

ヌマカク 沼澤

【沼澤】 鈴鹿山脈の一峯。津市の西方に當り、三重縣一志郡俊村・柳原村・阿山郡布引村・名賀郡上津村との境上に位置す。標高約七五〇米。北稜は笠取山(八四五米)、南稜は青山峠最高點に續く。南北に山脊續き、布を引きたるが如し。【ヌノヘ 布部】 北海道石狩國空知郡富良野町の大字。根室本線の布部驛(昭和二年設置)あり。

【ヌハマ 沼濱】 相模國(神奈川県)の古地名。和名抄に鎌倉郡沼濱郷あり、今の三浦郡葉山町の邊に當る。

【ヌハラ 抜原】 備後國(広島縣)の古地名。和名抄に安部郡抜原郷あり、刊本は抜原に作るも高山寺本に従ひ訂す。其地

ヌマクマ

沼隈郡 福島縣十六郡の一。備後國の東南部。若田川河口右岸に位置し、尾道市と福山市とに挟まれ、南部は尾道に臨む。北部にはほゞ西南より東北に連る丘陵あり。南部には丘陵降りて中部には西南より東北に細長き平野をつくる。その西部は松永湖北岸の平野をなす。東境には若田川南東流して河口に箕島を抱く。西に松永湖大きく湧入し河口には御調郡所屬の向島横はる。東南端稱町は好鋪地をなし對岸には仙酔島あり。南方海上には百島・田島・横島等の島嶼浮び東南方遙かに走島を望む。備後表を産する外、食鹽の産多く特に松永湖岸鹽田よく發達す。郡内は今津町・松永町・新町の三町外二十四ヶ村を含み人口密度は一方軒平均四四三人を算す。中央低地を山陽道及び省線山陽線横斷し、東部若田川に沿ひ街道及び福山驛より分れる社線新線道南走して新町に至る。街道四通八達して交通の便よし。和名抄は奴乃久萬と註し、津宇・赤坂・春部・諫山の四郷を管す。近世に郡名をヌマクマと訓じ今これに従ふ。

ヌマサキ

沼前村 茨城縣常陸國鹿島郡の西北隅。沼沼の南岸にて、北より西は東茨城郡の一部と隣す。大部分低き臺地にて畑地あり。西北部は沼沼に入る沼沼川の流域にて沼田をなし、之に續く沼沼南岸の低地は水田をなす。農業行はれて米・麥を産す。沼沼南岸に沿ひて縣

の山脚部を占めて土地高し。村の西北部に東北より流下する服部川ありて、東南境より村を横切りて西北流する支流を入れて西に流る。米産は凡そ村内自給自足の程度にして、林産物及び之に附帯せる労働の収益と養蠶収益とを以て生計を營む。従つて豊かならず。主産物は木材・薪炭・繭にして特産には庭石あり。西部に伊賀街道通過して上野町へバスの便あり。此地は和名抄。山田郡川原郷の内にして、村名は布引山下なるによるか。謡曲に見ゆる井園山は此處にあり、大字馬野は一に番野に作り、古へより牧場として知らる。東大寺曆應三年文書に「馬野者、寺家根本十三大會、并八幡宮轉讀之料莊」とあり。

ヌマカク 沼澤

【沼澤】 鈴鹿山脈の一峯。津市の西方に當り、三重縣一志郡俊村・柳原村・阿山郡布引村・名賀郡上津村との境上に位置す。標高約七五〇米。北稜は笠取山(八四五米)、南稜は青山峠最高點に續く。南北に山脊續き、布を引きたるが如し。【ヌノヘ 布部】 北海道石狩國空知郡富良野町の大字。根室本線の布部驛(昭和二年設置)あり。

【ヌハマ 沼濱】 相模國(神奈川県)の古地名。和名抄に鎌倉郡沼濱郷あり、今の三浦郡葉山町の邊に當る。

【ヌハラ 抜原】 備後國(広島縣)の古地名。和名抄に安部郡抜原郷あり、刊本は抜原に作るも高山寺本に従ひ訂す。其地

ヌマサキ

沼崎 東北本線の一驛(明治二十四年設置)。青森縣上北郡野館村上野にあり。

ヌマサト

沼里村 茨城縣常陸國稻敷郡の中部。江戸崎町の西に隣接す。村内には洪積層臺地の連なり、谷の浸蝕よく谷底はやや廣し。臺地上には未だ雑木林あるも谷底は耕地よく開け、米・麥・蔬菜を産す。縣道は東北部を僅に掠め、別に江戸崎町に至る街道中部を東西に走りバスを通す。

ヌマザウ

沼澤村 福島縣岩代國大沼郡の西北部。北は新潟縣東蒲原郡東川村に接す。北境は越後山脈の諸峰連互し、西より銅倉山(一三三七米)・沼ノ峠山(一〇一四米)・國土山(八五八米)・高陽山(九〇四米)等あり、東南境には高森山(一一〇〇米)聳え、北方斜面に沼澤あり。只見川は西南方より來り、北部山地及び沼澤沼の中間を半圓形をなして東に流る。全村概ね山地をなし河川の沿岸は所々峽谷をなせる所あり。米・繭・木炭を産す。道路は只見川に沿ひて村の略中部を西南より東方に通じ、東北方河沼郡野澤町に至る。人口密度は一方軒につき三三人なり。村内に沼澤城此あり、小沼城は大沼城と稱し、横田の城主山内氏の支族沼澤出雲實通が天正年間居り

の山脚部を占めて土地高し。村の西北部に東北より流下する服部川ありて、東南境より村を横切りて西北流する支流を入れて西に流る。米産は凡そ村内自給自足の程度にして、林産物及び之に附帯せる労働の収益と養蠶収益とを以て生計を營む。従つて豊かならず。主産物は木材・薪炭・繭にして特産には庭石あり。西部に伊賀街道通過して上野町へバスの便あり。此地は和名抄。山田郡川原郷の内にして、村名は布引山下なるによるか。謡曲に見ゆる井園山は此處にあり、大字馬野は一に番野に作り、古へより牧場として知らる。東大寺曆應三年文書に「馬野者、寺家根本十三大會、并八幡宮轉讀之料莊」とあり。

ヌマカク 沼澤

【沼澤】 鈴鹿山脈の一峯。津市の西方に當り、三重縣一志郡俊村・柳原村・阿山郡布引村・名賀郡上津村との境上に位置す。標高約七五〇米。北稜は笠取山(八四五米)、南稜は青山峠最高點に續く。南北に山脊續き、布を引きたるが如し。【ヌノヘ 布部】 北海道石狩國空知郡富良野町の大字。根室本線の布部驛(昭和二年設置)あり。

【ヌハマ 沼濱】 相模國(神奈川県)の古地名。和名抄に鎌倉郡沼濱郷あり、今の三浦郡葉山町の邊に當る。

【ヌハラ 抜原】 備後國(広島縣)の古地名。和名抄に安部郡抜原郷あり、刊本は抜原に作るも高山寺本に従ひ訂す。其地

ヌマクナイ

沼宮内町 岩手縣陸奥國岩手郡の北部。北上川の左岸に沿ひ四周は御堂村に圍繞され、面積一・五四方軒にて本郡最小の町。北上山地に圍れ東部は丘陵性高地起伏し、一般に土地高く北端にて海拔二六二米、南端にて海拔二四九米を示す。西端は北上川南流し處なるべし。(沼澤沼)只見川の中流南岸にあるカルテラ湖。餘り知られざるも極めて見事なる二重カルテラ湖にて外側のもは徑四軒以上、環壁は南方高く、高森山は一一〇〇米に達す。カルテラは木冷澤の浸蝕のため乾燥して草原と水田となりし所あり。此中に沼澤沼を湛へる第二のカルテラあり。第一のカルテラとの間に西の斷崖上に聳ゆる惣山(八一六米)、及び南に前山(八三五米)あり、東にも低き山連る。湖の半は斷崖にて圍まれ殆ど注水水なく、たゞ北方福澤より小流が只見川に瀉下す。高度は四七四四米にして面積三・一八平方軒、深度は九二米、岸より急に深し。水色は藍色にて透明度二二米に達し、本邦有数の碧色湖なり。浮遊物少きも底棲動物や多く、魚類は主に鮎・鯉にて放流成績良好なり。東岸の半島上には沼御前神社あり、また附近には温泉多く風光絶佳なり。

ヌマジリ

沼尻 那須火山帯香妻火山群中、土湯峠以南、福島縣安達・耶麻二郡境上を南走する一群の火山帯の稱。西方南流して猪苗代湖に注ぐ長瀬川を距て磐梯火山と對峙す。北方より南方に鬼面山(一四八二米)・箕ノ輪山(一七一九米)・鐵山(一七一〇米)・安達太良山(一七〇〇米)・和尚山(一六〇二米)の諸峰連嶺をなす。これ等の山々は頻々と爆發破壞せる火山の一部の連互せるものにして、火山の完

の山脚部を占めて土地高し。村の西北部に東北より流下する服部川ありて、東南境より村を横切りて西北流する支流を入れて西に流る。米産は凡そ村内自給自足の程度にして、林産物及び之に附帯せる労働の収益と養蠶収益とを以て生計を營む。従つて豊かならず。主産物は木材・薪炭・繭にして特産には庭石あり。西部に伊賀街道通過して上野町へバスの便あり。此地は和名抄。山田郡川原郷の内にして、村名は布引山下なるによるか。謡曲に見ゆる井園山は此處にあり、大字馬野は一に番野に作り、古へより牧場として知らる。東大寺曆應三年文書に「馬野者、寺家根本十三大會、并八幡宮轉讀之料莊」とあり。

ヌマカク 沼澤

【沼澤】 鈴鹿山脈の一峯。津市の西方に當り、三重縣一志郡俊村・柳原村・阿山郡布引村・名賀郡上津村との境上に位置す。標高約七五〇米。北稜は笠取山(八四五米)、南稜は青山峠最高點に續く。南北に山脊續き、布を引きたるが如し。【ヌノヘ 布部】 北海道石狩國空知郡富良野町の大字。根室本線の布部驛(昭和二年設置)あり。

【ヌハマ 沼濱】 相模國(神奈川県)の古地名。和名抄に鎌倉郡沼濱郷あり、今の三浦郡葉山町の邊に當る。

【ヌハラ 抜原】 備後國(広島縣)の古地名。和名抄に安部郡抜原郷あり、刊本は抜原に作るも高山寺本に従ひ訂す。其地

ヌマズ

沼津 静岡縣の東部。駿河灣の東北岸に位置する都市。古來、東海道の要衝に當り、いま商工都市として遊覽地をも兼ね。東經一三八度五二分、北緯三五度六分。愛鷹山の南麓にて西北は駿東郡片濱村、北は金岡村、東北は大岡村、東は清水村・大平村に、東南は静岡村に接し、西南一帯は駿河灣に臨む。東西四軒餘、南北五・六軒。面積は一三・六二平方軒。人口約五萬。天城山に發して北流し來る狩野川は東境に於て黄瀬川を容れ、市の中部を西南に緩流し海に入る。かくて市域の大部は同川の沖積地に屬して低平なり。東部の狩野川流域部に臨みて香貫山(一九三米)聳え、その山腹は東南境に連なる徳倉山(二五六米)の丘陵につづく。狩野川口、左岸の海岸に臨みては牛臥山

(六二米)の孤立あり。海岸は河口以北を千本濱、以南を我入道・牛臥・島郷海岸と稱し、牛臥山の部分を除きては何れも平潤なる砂濱をなし、風光明媚、海水浴場または保養地として著はれ、特に千本濱の松原は有名なり。狩野川は嘗て雨季には氾濫し沿岸の被害甚だしかりしが、いま改修せられ河口より一軒餘の永代橋まで満潮時に二百噸級の汽船を通航せしめ得、また河口の千本濱寄りには築港あり。内務省指定港灣たり。氣候は平均氣温一五・三度、最高三三・三度、最低零下五・六度、風は南西風卓越し、雨量は二〇二二を示す、極めて溫和にして、東海道に於ても最も健康的なる地域に屬す。市の職業別戸口を見るに農業七%、水産業五%、工業二%、商業三%、交通業九%、公務自由業一%、其他一五%なり。生産總額は昭和十年(以下準之)に於て、一一四九萬七千圓にして、その内譯は農産四三萬八千圓(四%)、蠶糸三五〇萬一千圓(三〇%)、畜産二四萬六千圓(二%)、水産一五四萬九千圓(一三%)、工業五七六萬圓(五〇%)、一戸當一二九六圓餘なり。農業は香貫を主要區域とし、耕地面積二一〇ヘクタール、畑一四〇ヘクタール、米を主とし、麥・蔬菜を出だし、果樹栽培(桃)も行はる。蔬菜栽培は特に盛んで、温室園藝によるトマト・メロン等、及び胡瓜・茄子等の早熟蔬菜は甚く京濱・阪神方面へ移出せら

Table with 4 columns: 製品 (Product), 金額 (Amount), 製品 (Product), 金額 (Amount). Lists various goods like silk, cotton, and their respective values.

れ、沼津野菜の名高し。蠶糸業甚だ盛にして、製絲場數四、その職工數約千四百、蠶糸産額三百萬圓を超え、蠶種製造戸數九、その生産價格四三萬圓餘あり。畜産業の地方的中心をなすを以て縣立種畜場設けられ、香貫方面の農家にては豚・家兎・鶏の飼育盛に、鶏卵生産額五・三萬圓に達す。水産業者は漁撈七九五人、製造六五六人を數へ、漁獲高は遠洋漁業三萬四千圓にて鮭を筆頭に鮭・鮪・鱈・鰯・鰯等多く、沿岸漁業は二〇萬圓強にてメジ・鱈・宗田・鱈・鳥賊等を主とし、此等は永代橋際および我入道の魚市場にて集散さる。水産製造は鯨節その他の節類二三萬八千圓、鹽乾魚五七萬六千圓、其他、蒲鉾・竹輪等あり、合計一〇一萬四千圓を出す。工業は本市産業の大宗にして、工場數五九、職工數三千三百餘、その大なるものは東京人造絹糸會社、昭榮

製糸會社・石橋製糸所・沼津毛織會社等の各工場にして、何れも市の北部に集中し、此等の織造工業に次ぎては機械器具製造・製材及び木工・精麥その他の食料品工業盛にして、特殊工業として舉ぐべきものに靴紐・麻縫糸・竹パイプの製造あり。いま昭和十年に於ける年産額十萬圓以上のものを表示するに右の如し。市は伊豆及び駿東地方の關門に位する關係上、商況極めて活潑にて、鮮魚・青果・繭の三大市場あり。その取引額は魚市場約四百萬圓、青果市場約三百萬圓、繭市場五〇萬圓以上にて、特に繭は全國に於ける初取引を以て有名なり。之を貨物の移動につきて見るに沼津驛の發送貨物七萬三千圓(鮮魚・木炭・麥・石炭・甘藷・木材・野菜・繭・乾魚・柑橘等)、到着貨物一二萬五千圓(米・麥・木材・石炭・石油・鐵類・セメント・繭等)にて、沼津港にありては移出五三萬三千圓(米・酒類・蠶油・砂糖・絹及び綿織物・機械類・製糖・肥料・小間物類等)、移入一二萬五千圓(鮮魚介・石炭・蜜柑・魚節・繭・木炭・牛等)を示し、後者に於ける取引額は多く伊豆沿岸の諸港なり。市の北部を省線東海道本線東西に通じ沼津驛(明治二十二年設置)あり、省線御殿場線は東北より來りて同驛に合す。沼津驛より東京へ一六六軒、二時間五十分(急行時間)、静岡へ五四軒、一時間五十分にて達す。同驛より狩野川口の松原(明治

沼津の名これに出づといふ。龜久中、源頼朝富士の牧狩の時に留ま此地に置く。東返牧の御所といふ。文明十一年北條長氏入道早雲、今川氏親の爲に初て城を此地に築く、三枚橋城と稱したる觀潮城ともいふ。延徳三年長氏、足利政知の子茶々丸を誅し三枚橋城を今川氏に致し伊豆菰山城に據る。永祿十一年十二月武田信玄は今川氏親を討て駿河を略す、元龜元年十一月武田氏將馬場信房に命じて三枚橋城を修理し高坂昌宣をして之を守らしむ。天正十一年三月織田信長、徳川家康と共に武田氏を討ちて亡し、駿甲を擧げて家康に附す。七月、家康沼津城をその臣松平康親に賜ふ。天正十八年三月家康駿州の地十四萬五千石にて中村式部少輔一氏を封す、一氏躬ら府中城に居て弟一榮を沼津城の留守と爲さしむ、一榮は彦左衛門と稱す。慶長六年家康城を大久保忠佐に賜ふ。忠佐嗣なし、封除かれ城柱に至りて荒廢す。慶長十一年徳川氏再び之を治め同十二年紀伊侯徳川頼宣の領地となる。元和元年また幕府の所轄となり駿府より郡吏來りて交番民事を聽く。寛永元年大納言忠良駿河に封せらるるや其の臣篠原小左衛門を來り居らしめ郡事を掌らしむ、忠良の寔後復幕府の所轄に歸す。同十八年火災あり雉堞悉く燼す。のち荒蕪に屬すること殆ど百五十年。安永六年に至り水野出羽守忠友は幕府の命を奉じ再築し居城とす。明治元年忠寛に

至り上總國河間に移封せらるるまで代々之に居る。明治四年七月廢藩置縣の令出づるや藩を廢して静岡縣を置き、沼津町は駿東郡に屬し、四區三十六町に分つ。明治二十二年六月町制を實施し大正十二年七月沼津町と稱し以て今日に至る。其間、再度の祝慶に遭遇し其の一部は潰滅の患に陥りしも、よく萬難を拂して銳意市區改正を斷行し市街の面目を一新せり。昭和九年熱海線全通し全線電化と相俟ちて京濱地方との連絡愈々密接を加へ沼津港の改修亦その緒に著き商工都市たるのみならず觀光都市として益々發展の域にあり。(香貫山)一名鷓足山。標高一九七米。頂よりの展望雄大にて、市の開鑿になる登山道路ありて自動車を通じて觀光に便す。頂上に沼津航空燈臺あり、昭和八年の設置、燈質白熱電燈閃白光、一二〇萬燭光にして、光達距離晴天の暗夜約五〇軒。(千本松原)千本濱なる沼津公園一帯にあり、松原は遠く西方鈴川方面にまで連なり、南に波靜かなる内浦灣を距て大瀨崎を望み、風光絶佳なり。海水浴場として著はれ、林間學校開かる。狩野川口寄りに水産講習所實習場あり、公園の一隅に歌人若山牧水の歌碑建つ。歌に曰く「幾山河越えさきり行けば寂しさの果てなむ國ぞ今日も旅ゆく」園内の首塚は天正八年北條氏政三島に陣し浮島ヶ原の武田勝頼と戦ひし時、三枚

橋城主が武田の爲に奮戦して、得たる首を葬りしもの。(千貫橋)市の東部にあり。伊豆・駿河の國境の境川に架し、三島町小濱泉の水を清水村新橋・伏見・八幡・長澤・柿田・玉川の六字の水田二百ヘクタール餘に引く大導水路。應仁三年今川氏親の架設に係り、之を架するに千貫文を要せしとも、水代として千貫文を拂ひしにより斯く名づくともいふ。いま鐵筋コンクリート製に改造し、橋の名を留む。(沼津御用邸)字桃郷にあり。明治二十六年の御造營にして、中央の御本邸に接し東・西の附屬邸あり。東邸に接して學習院寄宿舎あり、附近は桃郷海水浴場にして、その西方には牛臥海水浴場あり。(沼津兵學校)驛より南約百米、城岡神社境内にあり。徳川家幕臣子弟の教養のため興せし學校にて、明治元年十一月、江原素六・阿部邦之助等設立し、西岡助を頭取とす。我國に於ける歐風組織的學校の嚆矢にて多數有爲の材を出せり。同四年兵部省の直屬となり、翌五年東京に移る。實に現陸軍大學校の前身たり。(日枝神社)三枚橋字平町に鎮座。縣社。祭神、大山咋神・大名幸運神・大歲神。堀河天皇御宇、後二條關白藤原師道北政所の祈願に依り近江國滋賀郡日吉社の勧請せるものと云ふ。古く國守・地頭の崇敬社なり。當社所藏の文書中に、鎌倉時代既に公方の崇敬、降つて天文三年二月今川氏輝の社領寄進、同氏廣・義

三十二年設置)まで二・三軒間には別に貨物線あり、更に沼津驛にては富士箱根・駿豆鐵道および東海の各自動車線に連絡し、伊豆・箱根の温泉郷及び三島・小田原・吉原・大宮等の各地に至るに便にして、また三島町との間には社線駿東鐵道の電車線あり。伊豆半島に至る一要衝たる間を中心區域とし、特に驛前に起りて南に連る大手町は最も繁華なり。鐵道の北方は工場地帯をなす。川の左岸にもと揚原村の地にて香貫と通稱し、その西端の我入道は漁業繁落をなし、河沿ひの上香貫は近來住宅區域として發展し、沼津プロパーとは黒瀬橋・御成橋・永代橋等を以て相結ぶ。下香貫の海岸には御用邸あり。市の主なる官公署は市役所・静岡地方裁判所支部・區裁判所・検事局・刑務支所・稅務署・帝室林野局出張所・測候所・農林省水産講習所實習場・縣立種畜場・縣立沼津病院・蠶業取締所支所・財務出張所等にて、學校には縣立中學校・商業學校・農學校・高等女學校及び私立女學校四校、沼津毛織青年學校等、其他商工會議所・駿河銀行・東京電燈會社支店・片倉製糸製糖製造所等あり。(沿革)古昔は湖沼南鄙を浸し自ら沼澤をなし鹽草を生ず故に鹽原の稱あり、後斯くて田となし、人口漸く繁盛して村帯を爲す、

社に充てられ、もと大宮、松彦明神、三島大明神とも云へり。近世に兩香貫の總鎮守たり。例祭、一月十七日。(永明寺) 出口町にあり。臨濟宗妙心寺派。精金山。興津清見寺末。創建年代不詳。庭内に樹齡二百五十餘年、姿態優美なること東海隨一と稱せらるる老松あり。(西光寺) 宮町にあり。時宗、傳徳山、弘仁年中、弘法大師の開創にて、のち現宗に轉ず。寺寶に足利將軍書狀・今川義元書その他多數あり。(乘運寺) 本町にあり。淨土宗。千本山。天文年中増長圓の開創。武田勝頼は三世大譽に歸依し沼津築城の餘材を以て堂宇を修營す。長圓は千本松原の松を樹みし人として著はれ、里人これを徳として此寺を建てしと云ふ。(靈山寺) 下香貫にあり。曹洞宗、兜率山。機外永宣和尚を開山とす。境内に小松内府重盛の墓あり。

【沼津村】長崎縣長崎郡の西部。壹岐島の中央西岸に位す。全村山地にして平地乏しく山麓海に迫りて西岸屈曲多く、牧崎・白瀬鼻等突出し、北端に西北方へ突出する細長き半島は湯ノ本灣口の南西岸を扼す。南部にも隣村との間に西方より突入する灣あり。農産・林産・水産あり。東方約一・五軒には北方の勝本町と南方の武生水町とを結ぶ縣道あり。要塞地帯の一部に屬す。此地は和名抄、石田郡沼津郷の内なり。

ヌマタ 沼田

【沼田村】北海道石狩國空知支廳南龍郡の北部。石狩川支流南龍川の北岸地方を占め、村内の大部は天鹽山脈に屬す。西は山脈を以て留萌支廳に界し、東及び南は川を以て多度志村・秩父別村に接す。面積三四一・一七平方軒。地勢概ね山地にて北部に坊主山(七七六米)聳ゆ。南方に傾斜しホンニマシベツ・幌新太刀別諸川を發す。南龍川は西南流して南境にて之等諸川を合し平地を開き耕地多し。幌新太刀別川の上流山中に淺野・昭和二炭礦ありて當村の産物中その第一の産額を占め、米・馬鈴薯等の農産あり。省線留萌本線石狩沼田驛(明治四十三年設置)を置き根沼本線分岐す。また社線留萌鐵道幌新・淺野炭山・太刀別・昭和の四驛(昭和五年設置)あり。北龍へはバスを通す。大正三年に北龍村の一部を割きて上北龍村を置き、同七年上北龍の一部と多度志村の一部を合せ幌加内村を置く。同十一年上北龍村は沼田村と改稱す。【沼田町】群馬縣上野國利根郡の西南部。利根川の東岸にして、赤城山の西北麓にあり。利根川の支流薄根川は北境を西流して利根川に合し、町の西部は狭き平地にして米・麥を産す。棄落は町の塚原臺地上に發達し、製絲業盛にて生絲の産額多し。町の西部を北走する縣道は清水峠を経て新潟縣に通ずるものなり。また利根川沿いに通ずる沼田街道はこゝより分岐して東北に走りバスを通す。省線上

越後も西部を北走し沼田驛(大正十三年設置)を置く。この地は利南村・薄根村と共に和名抄、沼田郷の地にて中世は沼田莊と稱せし處。東鑑、建久四年の條に見ゆる沼田太郎は此地の人。沼田氏ここに築城して數代を經、のち猪股・黒田・土岐の諸氏これに居り、以て明治に至る。【沼田城】利根川の支流薄根川に臨み、頗る險要の地たる上に、要路に當るを以て古來著名なり。鎌倉時代の初め、沼田氏築城して數代を經、天文中には上杉謙信の臣猪股則頼・則直父子、永祿中ば用土邦房・信吉父子それぞれ據守、天正七年二月武田勝頼攻めて之を陥れしが、同十一年信濃上田城の眞田昌幸これを取り、十七年豊臣秀吉の命によつて昌幸は城を北條氏政に譲りしため、北條氏は眞田の領となす。翌年北條氏亡び、沼田城二萬七千石を昌幸の子信之に與へらる。慶長五年七月に信之は父の本領なる上田城に移され、沼田の地及び新加三萬石を合せて九萬五千石を領す。元和八年沼田三萬石を信吉に分つ。その子熊之助天し、寛永十六年六月これを信吉の弟信政に給す。明暦二年に信政は父の跡をつぎ、信濃松代に移り、沼田を信吉の子信利に讓る。天和元年信利故あつて所領を沒せられ、一旦廢城に歸せしが、元祿十六年幕府本多正水をこゝに封じ、二萬石を給し、次第に加増して四萬石となす。孫正架に至り、享保十五年駿河田中村に封じ、同十七

年黒田直邦は常陸下館より轉じ三萬石を食み、子直純は寛保二年上總久留里に轉じ、土岐頼稔三萬五千石を以て轉じ來り子孫相受けて明治に至る。城址今に存して往時を偲ぶに足る。(須賀神社) 大字沼田に鎮座。郷社。祭神、素戔鳴尊・穗高見命・大己貴命等五柱。文和年間、沼田城主沼田小太郎城下の鎮守として祭ると傳ふ。慶長年中、眞田信幸は現地に奉遷す。爾來歴代の領主崇敬篤し。一説に上野國神名帳に見ゆる、「從一位保寶高明神」は本社なりといふ。(榛名神社) 大字沼田に鎮座。縣社。祭神、波瀲夜麻呂賣神・建御名方命・倭建命・菅原道眞。創立年代詳かならず。もと栗森に在りしか、文祿二年沼田上野介は現地に遷して同城の鎮守とす。のち眞田・本多等歴代の城主深く崇敬す。例祭、八月三日。

ヌマタテ 沼館町

秋田縣羽後國平鹿郡の西部。大森町の南に接し、西は山利郡、西南は雄勝郡に接す。西境に三森山(四一三米)あり。町の西半部は山地をなすも、東半部は横手盆地に屬して平坦なり。雄物川は中部を北流す。米・藪を産す。道路は中東部を南北に通ず。社線横莊鐵道沼館(大正七年設置)・船沼(昭和三年設置)・二井山(昭和三年設置)の三驛あり。明治三十四年町制を布く。この地は和名抄、平鹿郡葛知郡の内にして村内に沼館城址あり。(沼館城) 天喜・康平の頃は庄内大將の據りし所にして、の

ち安倍貞任の居城となり、次いで清原家衡これに據り後三年の役に、家衡の柵にありて歿す。亦で清原氏は金澤柵に移る。足利氏の末期、小野寺中書、此地に住し、その子輝道、附近の地を攻略して勢あり。當時實に小野寺氏全盛時代にして謂はゆる由利十二黨・仙北六郷・角館の戸澤氏みな隸屬せし時にして沼館の隆盛時たり。子孫相繼て居住す。慶長五年徳川家康は小野寺氏の封を収めて佐竹義宣に與へ、城つひに廢せらる。いま蔵光院のある所はその城址と傳ふ。

ヌマキ 沼貫村

兵庫縣播磨國米上郡の西南部。佐治川に跨り東北は成松町の南に接す。西北部一帯は山地をなし西隅には篠ヶ峰(八二七米)聳え、その東麓に白山(五四五米)あり。東南部一帯も山地をなして東南境は五四九米の高さを有し、その北中腹に高見城(四七九米)あり。中央には廣潤なる平地開けて佐治川その間を西南流す。米・藪・小麦・大麦・裸麥・蔬菜・花卉・食用農産・果實・鶏卵・瓦製茶・藁製品・瓦物等あり。佐治川の東岸に沿ひて縣道走り東方柏原町へバスの便あり。南部にて之より分れ佐治川を渡りて北方の成松町市街地方面へ走るものあり。この地は和名抄、米上郡沼貫郷の地にして、大字佐野に佐野城址あり、一に高見城といふ。文和の頃、仁木頼章の據れる所にして、其後、赤井新五郎居りしが、天正七年に黒井城と共に、明智光秀

のために攻め落さる。【沼野】大阪府南河内郡にありし村。明治四十五年に岸和田町と共に廢せられ新たに岸和田町を置き、岸和田町は大正十一年に市制を布く。

ヌマノウエ 沼ノ上

【沼ノ上】名寄本線の一驛(大正十年設置)。北海道北見國紋別郡紋別町にあり。【沼ノ上鐵山】紋別町(北見國)網走支廳)。

ヌミノオ 沼尾

【沼尾】甲斐國(山梨縣)の古地名。和名抄に八代郡沼尾郷あり奴萬乃乎と訓す。今の西八代郡市川大門町の邊か。【沼尾】上野國(群馬縣)の古牧。延喜左馬寮式に擧げたる上野國の九箇所の馬牧の一。赤城山上の大沼より發する河を沼尾川といふ。馬牧は此の附近の赤城山麓の裾野にあるべし。牧は恐らくは勢多郡敷島村深山の邊にありしものならん。

ヌミノオ 瀧尾

【瀧尾】常陸國(茨城縣)の古地名。和名抄に鹿島郡瀧尾郷あり、諸尾は瀧尾の誤なり。その地は今の鹿島郡瀧郷村なるべし。

ヌミノサワ 沼ノ澤

【沼ノ澤】北海道石狩國夕張町の大字。夕張線の沼ノ澤驛(明治三十八年設置)あり。

ヌミノハタ 沼ノ端

【沼ノ端】室蘭本線の一驛(明治三十一年設置)にして北海道鐵道交又す。北海道廳振興勇拂部首小牧町にあり。

【沼邊】信濃國(長野縣)の古地名。延喜長部省式に信濃國沼邊驛に第五死とあり、蓋し越後國に入る驛路なり。其地明かならざれども上水内郡古間村大字古間の邊か。フルマは古驛、即ちフルマヤの轉なるべしといふ。

ヌマヘ 沼部村

宮城縣陸前國遠田郡の西部。北は栗原郡、西北は田尻町、南は江合川を隔て小牛田町に隣接す。陸前平野の略中央部に位し、東部及び北部は又兵衛壇丘陵に屬して稍高きも他は概ね平坦なり。江合川は南境を東流し、その支流は村の南部を東南方に流る。米・藪・麥を産す。道路は村の中部を略東西に通ず。東北本線田尻驛(明治四十一年設置)あり。この地は和名抄、遠田郡清水郷の内なり。大字大澤は百百箇あり、大崎の家臣百百左京助隆元の居りし所と云ふ。或は木村左馬助これに居りしともいふ。天正十八年、伊達元宗、眞理郡よりこの館に移り、翌年涌谷館に移る。

ヌマヘ 沼邊村

宮城縣陸前國柴田郡の南部。北は村田町、南は大河原町に隣接す。東境及び西境に低き山頂連りて中央部に傾斜し、松尾川は村の略中央部を南流し、東南境に於て白石川に合す。沿岸に耕地拓く。米・麥・藪を産す。道路は村の中央部を南北に通じ、南方東北本線大河原驛(明治二十年設置)へは約四軒。この地は和名抄、柴田郡餘戸郷の内なるべし。伊達氏一族、ここに住し沼

澤氏を稱せり。また附近に古墳多し。字治の役に藤原泰衡の家臣、輝井太郎高直を擧りたる所といふ。

ヌマヘ 潤邊

相模國(神奈川県)の古地名。和名抄に大住郡潤邊郷あり、その地は今の中郡大田村の邊に當る。

ヌリヘ 漆部

大和國(奈良縣)の古地名。和名抄に宇陀郡漆部郷あり、奴利倍と訓す。その地は今の宇陀郡曾爾村・御杖村の邊に當る。

ヌルユ 微温湯

↓名久田村(群馬縣) ↓神和村(愛媛縣)

ヌワ 怒和島

ネ

ネーエツ 寧越

【寧越郡】朝鮮江原道二十一郡の一。江原道の南端に位し、北は旌善・平昌・横城の各郡に、東は三陟郡、西は原州郡に接し、南は慶尙北道・忠清北道と境す。地北西一東南東に長く約八〇軒、幅は平均四分の一に過ぎず。面積一、一六〇、三方軒。大白山脈の餘脈によりて山地をなし、東境には白雲山(一四二六米)・玉石山、北西境には白雲山(一三五〇米)・南境には太華山(一〇二七米)・松鶴山等聳立し、中央部に於て漢江及びその支流平昌江・泗川江等が合流し比較的廣き盆地あり、灌溉の便と相俟つて此處に沃野を展開せしむ。本郡は江原道より忠清北道に通ずる要衝に當り、堤川へパスの便あり、其他原州・平昌に至る道路も改修せられて自動車の便よく、漢江には舟運の便あり。農業は畑作を主とし、なほ火田民の残存する者尠からず。麥は大麥・小麥・裸麥・ライ麦の各種を通じて栽培せられ約三萬石、その他米・大豆・粟・玉蜀黍等あり、棉・大麻・烟草・楮・莞草等の特用作物も多く、特に烟草は地質・風土その栽培に好適し、品質極めて佳良にして、寧越製と稱し半島第一の譽價あり。

り。各種の礦産に富み稻葉嶺山最も著はる。また無煙炭の埋蔵多く、その採炭は朝鮮電力株式會社の發電用として利用せらる。工業には朝鮮紙・繩纜・葦草簾・麻布等あり。行政上、八箇面に分たれ、郡廳を寧越面に置く。本郡は高句麗時代に奈生郡と稱し、新羅時代に至り奈城郡と改め、高麗朝には寧越と稱し原州に屬せしめ、李朝に至り忠清道より移隸して現存に及べり。

【寧越面】朝鮮江原道寧越郡の略中央。大白山脈の西斜面に當り、高距六一七〇米の山脈數條南北の方向に走り、南部には蓬萊山(八〇〇米)聳ゆ。漢江は東北方より來り山地間を蛇曲して城内を北より南へ流れ、寧越邑の南方にて西北より來る平昌江と合し、東南に去る。沿岸には河成段丘發達して農耕行はる。産物は農産に米・麥・粟その他の雜穀及び烟草あり、烟草耕作に従事する者は住民の四割強に達す。北部は寧越炭田の礦區の一部に當り、無煙炭を産出す。市街は面の南部、漢江・平昌江の合流點近くに位し、江原・忠北・慶北三道の交通の要衝に當り、邑内より平昌・原州・堤川へ何れもパスの便あり、また漢江の水運に乗ずれば約三日にして京城龍山に達す。郡廳・地方法院出張所・地方專賣局出張所・公立農民學校・烟草耕作組合・金融組合等あり。市場は烟草・米・明細等の集散多し。邑の西北方、永興里龍洞に李朝端宗

王の陵墓、その附近に月精寺末寺中の最大寺なる報德寺あり。その他附近に錦江亭・落花岩・影節書院等の舊蹟存す。

ネーエン 寧遠

【寧遠郡】朝鮮平安南道二府十四郡の一。道の東北隅に偏在する道内第一の大郡にて、面積約二五〇〇方軒。東は咸鏡南道の咸州・定平の二郡、東北は同長津郡、北は平安北道の江界・熙川二郡、西は同寧邊郡及び徳川郡、南は孟山郡及び咸鏡南道水興郡とに界す。東境には半島北部の脊梁を成す臥龍峰山脈及び北大嶽山脈相連りて小白山(二一八四米)・東白山・遮日峰・白山・泗水山等の雄峰を起し、小白山より西南には妙香山脈駁れて狼林山(二〇一四米)・舞臺峰・妙香山等を連れ、これ等の支脈域内に蜿蜒起伏して平地に乏し。大同江は郡の東北隅山中に發源し初め南流、次いで西流し、咸鏡江その他の支流を合せて徳川郡に入るも、概して急流にて水運に適せず。耕地に乏しく、住民の多くは畑作農業に従事し、大豆・麥、その他雜穀・烟草等の産あり、養蠶・牧羊は稍盛んにて絹・綿・牛皮等を出すほか、金・タンゲステン等の礦産あり。西方安州方面より來り寧遠を経て東北に咸鏡南道に出づる二等道路を幹線とし、寧遠より南方孟山に至る街道をわち、パスを通ずるも、交通未だ不便なり。行政上、九箇面に分たれ、郡廳を寧遠面に置く。人口密度一方軒當り約二二

人にして道内に於て最も稀薄なり。本郡は古へ樂浪郡二十五縣の一にて不丙縣と稱し、その後幾變遷、李朝太宗王の時の永寧縣の一部となり、近世寧遠と改む。昭和十年徳川郡大極面を本郡に編入す。

ネーカイ 寧海

【寧海郡】朝鮮慶尙北道盈徳郡の北部。盈徳の北約一五軒。東西約一八軒、南北約四軒。東は日本海に臨む。西部は大白山脈に屬する山地にて西境に於て高距七七八米を示し、東に緩斜し、その支脈は東部海岸に延びて百一二〇米の丘陵起伏するを以て、平地に乏し。中部を貫流し流程約二〇軒にて海に注ぐ寧海江あれど、天井川にして灌溉の利少なし。海岸は概れ岩岸にして、北端

に小灣入あり、ここに天津の泊津あり。産物は米・麥・大豆等の農産、蠶・綿・楮・海苔・和布の水産を主とす。東部を浦項・襄陽間の二等道路通じ、寧海より西北の英陽へ道路を岐ち、いづれも自動車を通じ、天津には沿岸航路の寄港あり、交通便なり。寧海は寧海江を潤る約六軒の右岸に位し、金融組合・市場等あり、商況活況を呈す。

ネーヘン 寧邊

【寧邊郡】朝鮮平安北道一府十九郡の一。道の東南部に位し、北は熙川・雲山の二郡、西は泰川・博川の二郡に接し、東南一帯は平安南道と界す。面積一七〇九・七方軒。東部及び南部の境界には妙香山脈が西南に向つて走り、主峰なる妙香山(一九〇九米)をはじめ龍門山(一一八〇米)等聳え、その餘脈域内に蜿蜒して東半部は山に山地をなし、東北一西南に貫流する清川江沿岸に僅かの低平地を見る。西半部は一部は秋陰嶺山脈の餘脈延びて香積山(七八二米)等を起すも、大部分は蛇曲南流する九龍江の流域に屬し、土地一般に低平にして沃野連る、但し灌溉の利に乏しく、主として畑作農業行はる。農産物は米・大豆・粟その他の雜穀を始め棉・大麻・苧・胡麻・馬鈴薯等あり、牧羊普れく行はれ、殊に養蠶業は極めて盛にして、現時の盛況は明治初年の觀察使李載完の獎勵宜しきを得たる賜とせられ、産額三十餘萬疋。従つて本郡

ネーヘ——ネー

に於ける明細の産額多く、實また優良を以て聞ゆ。昭和十一年末現在の機業戸數九八五〇、製絲六九五〇、計一六八〇〇戸にして、機臺は漸次在來のものより高級・改良機臺に代りつつあり。林野はカラマツ・テウセンマツ・グリ等繁茂し用材・薪材を出すこと多く、礦産に金・砂金・無煙炭・亞鉛等あり、龍山面の龍登炭礦は有名なり。工業には絹布(昭和十一年末、二六萬圓)の外、燒酒・綿布・生絲・蠶子・鐵器・眞鍮器等あり。清川江に沿ひ總督府鐵道滿浦線通じ、球場・新興洞・北嶺峴・妙香山等の驛あり、球場よりは東洋第一の鍾乳洞なる鍾龍窟を経て龍登に至る龍登線を出す。道路は滿浦本線とほぼ並走する江界街道のほか、寧邊を中心として泰川・博川・价川等にいづれもパスを通ず。行政上、十四箇面に分ち、郡廳を寧邊面に置く。本郡はもと延州。撫州二縣の地なりしを、李朝世宗十一年に寧邊と稱し、邑を今の寧邊に定め都節制使を置き、次で府使に代へ、明治二十九年更に郡守に改め、同時に此處に平安北道觀察所を置きしが、同四十二年善州に移され、爾來、郡のみを以て今日に及ぶ。

し、その左岸に平地開け、農業行はる。産物は米・大豆・粟その他の雜穀を主とし、養蠶も盛にして繭の取引の盛なること半島有数なり。工業に絹布・生絲・燒酒等あり、機織・製絲は特に盛にして、明細は古來有名なり。市街は面のほぼ中央に位し、山を以て圍まれ形狀宛も鐵瓮の如く、鐵瓮城と稱せられ、古來要害の地たり。城壁は周圍約一二軒、もと四方に樓門ありしが、今は南門及び北門(一名水口門)のみを有し、朝鮮城市の標式的のものとなせらる。西方の安州より入り北方の江界・熙川・雲山地方に通ずる要路に當り、その他泰川・价川・球場等へも何れもパスを通ず。邑は高句麗の山上王が都を義州より遷せしことあり、のち寶藏王の時に唐の高宗は高句麗を滅し其孫太祖を此地に封じ、震國王と稱せしめしことあり。その後契丹は此處に東丹國を建て高麗太祖に滅さるるまで寧邊を國都とせり。いま郡廳・地方法院支廳・道立農業學校・道立醫院分院・稅務署・織物検査所・蠶業取締支所・殖産銀行支店・寧邊産業組合等あり。邑内西部の藥山上に藥山東臺の佳景あり、山腹の周圍には天柱寺・樓雲寺等の名刹存す。西部洞には六勝亭あり。

ネアガリ 根上町

石川縣加賀國能美郡の西部。寺井野町の西に、安宅町の東北に接し、西は海に面す。海岸は砂丘連り、東部は加賀平野に屬し肥沃なる耕地

開く。平地には米の産多く砂丘上には桑園多く繭の産あり、また機業盛にて羽二重の産額多し。省線北陸本線は町内を南北に貫通し寺井驛(大正元年設置)あり、之より東方へ社線能美電鐵を分岐し、その新寺井・湯池・加賀福岡・中ノ庄・五門堂の五驛(大正十四年設置)を置く。美川・小松・寺井野町へ縣道・パスの便あり。明治四十年福江・江ノ島・釜屋の三村を合し根上村を置き、昭和九年町制を布く。附近は加賀舞子海水浴場として知らる。

本線通じ、神通川に沿ひて飛騨に入る。其の他富山市より四方町を経て羽水郡新湊町に至る社線中鐵道の便あり。國道は北部を貫通し縣道また發達して交通便なり。郡内四方・八尾兩町外廿九箇村を含む。萬葉集卷十七の詞書に本郡名見え實比と訓ず。和名抄は彌比と訓じ富野・小子・大山・菅田・日理・川合・大乗・高島・岡本の九郷及び餘戸一を管す。近世は地負に作り明治に至り現稱となる。

ネウ 根雨町 鳥取縣伯耆國日野郡の東南部。日野川の上流右岸に沿ひ、東境及び南境は岡山縣の西北部に接し、西北は川を隔てて日野村と界す。面積五二・六九方町。北・南兩部を東西に連互せる二條の山脈あり、北境に寶佛山(一〇〇二米)・毛無山(一一一八米)・南境に二子山(一〇七五米)等聳え、村内概れ山嶽地帯を成す。中央に稍低き谷間を美作國津山市より來る國道西北に貫通し勝山町にバス連絡す。省線伯耆線西境を走り高梁町より通ずる縣道の國道と合する所に根雨驛(大正十一年設置)あり。米・麥・煙草・蕎麥・木炭・牛・馬・鶏等の産あり。此地は和名抄、日野郡武庫郷の内なり。大正二年根雨村及び眞住村を廢し根雨町を置く。大字金持は一に加持に作り古城址あり、これは太平記に見ゆる金持黨三百餘人、或は金持大和守景藤とある金持氏の居城なるべし。(根雨神社)大字根雨宿に鎮座。郷社。祭神、素戔鳴尊。古社なりと

傳へ、中世戦亂に際し一時衰頽せしが尾子・毛利の兩氏領主となるや社領九十石其他を寄せて、次で天正年中、中村氏領主また先規に準ず。例祭、七月十五日。

ネオ 根尾

【根尾村】 岐阜縣美濃國本巢郡の北部。根尾川上流一帯を含む山村にて、北は屏風山脈により越前國大野郡と界し、東西兩境にはその分脈南北に連互して東は郡上・山縣兩郡に、西より西南にかけて揖斐郡に接す。面積二九七・四六方町の大村なるも、人口密度は一方町十九人に過ぎず。根尾川は西北隅温見峠(一〇一九米)に發源し東を流るる一支を併せて略中央を南下す。村内山岳重疊して耕地乏しく、林業と和紙製造を主産業とし、河津僅かの低地には桑・麥・米・大豆等の耕作も行はる。根尾谷は明治二十四年の濃尾大地震の震源地にして之により生ぜられた斷層は天然記念物に指定せる。根尾川。岐阜市より大字墨津までは縣道通じバスの便あり、北部は山道により温見・堀子等の峠を越え越前國に通ず。本村は謂はゆる根尾谷の内にて明治廿七年東根尾・中根尾・西根尾の二村を廢し根尾村を置く。村内に根尾城址二あり、一は大字津志にあり、堀口貞満の居りし所なりと。貞満は延元三年の春、根尾徳山より打出でしこと太平記に見ゆ。一は大字神所にあり、延元年中、土家根尾兵士の城に據り吉野朝に盡す。同四年九

月藤原義助越前に敗れて美濃に入り此城を保つ。次で同月下旬土岐頼遠に攻められ落城す。義助等潛に逃れて熱田に走り大宮司千秋氏に依れり。(根尾谷薄墨橋)指定天然記念物。大字板所小字今村にあり。淡墨橋とも書く。白彼岸櫻の一種にして、花の枝上に群り咲くを以て、三好學博士によりて群彼岸の名を與へらる。幹圍目通九米、高さ二七米、枝張東西三米、南北三二米あり。(春日神社)大字神所に鎮座。郷社。祭神、武甕槌命・經津主命外二柱。社傳に延喜二年奈良の春日社よりの勧請と傳へ、往古は輪奐の美を極めきといふ。例祭、三月十五日。

【白山神社】 大字能郷に鎮座。郷社。祭神、伊弉諾命外二柱。養老二年僧泰澄の創立にして、往古奥の社口、謂はゆる前山白山神社の御旅所にして神體は黄金なりといふ。奥の社は當社を去る五、六里の山嶺にありしが延徳年中火災に遭ひてより舊態に復せず。村民古より能技を習ひ例祭には社頭に必ずこれを舞ふの例あり、字名これに依る。例祭、三月十二・十三・十四日。

【根尾川】 岐阜縣にある川。本巢郡根尾村の西北隅温見峠(一〇一九米)より發しほぼ中部を南流し、東北境明神山(一一四一米)に發源する小流東谷を合し、本巢・揖斐兩郡を流下し濃尾平野に出で分流し、一は長良川に入り、他は本巢・揖斐・安八三郡界にて揖斐川に合流す。川

は明治二十四年十月二十八日に起りし濃尾地震に際し、川沿ひに蜿蜒一〇〇町に近き根尾谷斷層の出現によりて廣く知らる。斷層は南は可見郡帷子村に發して北北西に走り、根尾川を過ぎ福井縣大野郡西谷村大字温見に達す。斷層線に沿ひ概れ東北西部が西南部に比して沈下し、なほ北西方に横たわりを呈す。但し所によりては南部が却つて沈下せし所ありて、全斷層に互り均一ならず。變化の最も顯著なりしは根尾村水島部落にて、根尾川右岸の河岸段丘上にして西北より東南の方向に斷層を生じ、北端は西光寺裏山より南方は根尾川の河原に延び字七瀬の小峡谷附近に達す。延長約千米。東北側は南西側に比し五・五米隆起し、水平移動二・五米に及ぶ。この斷層線の南半は水流のため痕跡を失ひしも、北半四五〇米は上下の變位や明かにしていま天然記念物に指定せる。なほ此の斷層に伴ふ大地震發生の結果、國內に於て地震の研究、震災防止策の調査の必要が叫ばれ、翌二十五年に震災豫防調査會の設立を見る基を開くに至れり。

ネカタ 根形村

千葉縣上總國君津郡の北部、昭和町の東隣。北半は低き丘陵地にて森林あり。南半は小櫃川流域平地の一部をなし、水田多き米を主産し、他に麥・蕎麥・鶏を産す。縣道は昭和町に通じ同町に省線房総西線柏駅を置く。此地は和名抄、聖院郡低宮郷の内なるべし。

萬葉集上總國歌に「宇麻呂多の福呂にかくり居かくだにも國の遠かばながめほりせむ」とあるは此處か。(館宮神社)大字飯宮に鎮座。祭神、倉稻魂命・神八井耳命。綏靖天皇元年の創建と傳へ式内小社たり。天慶二年、勅使下向ありて朝敵平將門降伏の御祈願あり、太刀一口を納めらる。いま社寶としてこれを藏す。例祭、七月二十四日。

ネカワ 根川

愛知縣東加茂郡にありし町。明治三十九年他の一町三箇村と共に廢し翠野町を置く。

ネキ 彌野

豊後國(大分縣)の古地名。風土記によれば景行天皇筑紫御巡狩の際に勅して兵衆を勞はれしにより此名ありと。日本書紀・景行天皇十二年の條にも直入縣彌野に三土蜘蛛ありと見ゆ。其地今の直入郡菅生村の邊に當る。菅生村。

ネギ 彌宜嶺山

和歌山縣) ↓和佐村(和歌山縣)

ネギシ 根岸

【根岸】 省線會津線の一驛(昭和九年設置)。福島縣大沼郡新鶴村にあり。

【根岸】 東京市下谷町内にある地名。上野山の根岸にあるより起れる名といはれ江戸時代に於ては永く幽靜の地として聞ゆ。根岸の三木として二股榎・かいばらの榎・御行松、根岸の三島として鷺・たかもりひばり・鶴など名物として聞え、鷺御成と共に鷺春亭鷺吟會の名は高かりき。元祿の頃、上野宮公辨親王關東の

ネカワ——ネコマ

【根子】 岩手縣櫻井郡にありし村。大正十二年花巻川口村に編入し、昭和四年花巻川口村に花巻町に編入さる。【猫坂】 猫坂峠ともいふ。甲府市の北約一四町。山梨縣中巨摩郡宮本村に屬す。最高點一一三八米。甲府市方面より金峯

山方面への登山路に當り、峠上よりは北東方金峯山及び南方アルプスの大觀に接し得。峠の南麓は景勝地としてその名高き昇仙峽なり。また金櫻神社は南方約二・七町に鎮座す。北麓に燕岩と稱する大岩壁あり、石英安山岩の岩脈にして凝灰岩の母岩を貫き、その幅凡そ五〇米、長さ數百米に亘り、頗る壯觀なり。また燕岩の附近に信玄公隱湯として名高き黒平温泉湧出す。【彌岳・根子岳】 草津白根火山群に屬する一峯。上田市の北東方約二〇町。長野縣上高井郡仁禮村と小縣郡長村との境上に在り。四阿山(二二二二米)の西稜に並び、標高二一九五米。山頂に小祠あり。山頂は東方白根火山群の峯々、西方は日本北アルプスの良き展望をなし、冬季露水美し。南西斜面は樹木無き草地にて牧場として用ひられ北信牧場と稱す。南西麓は菅平にして、スキー・ゲレンデとしてその名高し。菅平に集ふスキーヤーは彌岳へのスキー・ツアーを樂み、菅平より三時間乃至四時間にて頂上に至る。【彌瀨川】 廣島縣にある水道。賀茂郡仁方町・川尻町と安藝郡上浦町・下浦町島との間にありて兩郡界をなす。最狭部の幅約一〇米、水深約五〇—一〇〇米にて瀬戸内海にては最深の地域たり。尾道より瀨瀨瀨戸を経て吳・廣島に至る小船の道路に當り、通過中は船中に三味線を弾くを固く思むと傳ふ。

【彌山】 中國山脈の一峯。廣島縣比婆郡小奴可村と八鏡村との境上に在り。標高一一九六米。山體石英斑岩より成る。南東麓より高梁川の上源東城川發して南東流す。西麓を縣道南北に走り、北方道後山(二二六九米)と三國山(一〇〇四米)とを繋ぐ山稜を乘越す。【根子岳・彌岳】 ↓阿蘇山(熊本・大分縣境)中央火口丘の一峯。【彌山】 根郷村 千葉縣下總國印旛郡の南部。佐倉町の南に隣る。西部・南部及び北部には印旛沼に注ぐ小川ありて流域はやや廣き濕地をなすも、中部及び東部には高度三〇米内外の洪積層の臺地連る。卑濕地は排水よく行はれて水田となり、臺地また畑地よく開け米・麥・蕎麥を産し養鴨も盛なり。省線武本線は西部より北部を通じ、北部に佐倉驛(明治廿七年設置)を置き、こより省線成田線を岐つ。縣道また臺地上を南北に走り佐倉町・千葉市にバスを通ず。(麻賀多神社)大字六崎城石川入會地に鎮座。郷社。祭神、稚産靈命。建久二年、千葉氏の勸請する所といふ。爾來當地の鎮守たり。寶曆年中六崎城主石川氏再建す。例祭、九月十六日。

ネコマ 猫魔ヶ岳

那須火山帯の一峯。猫苗代湖の北岸。磐梯山(一八一九米)の西方に並び、福島縣耶麻郡磐梯村と槍原村との境に峙つ。標高約單式火山にして秀麗なる富士型をなし、標高一四〇四米

を算し、山麓輝石安山岩より成る。全山森林よく發達す。鹿岳山(二二六四米)・古城ヶ峰(二二八八米)・雄國山(二二七一米)・鹿山等の諸峯相連りて環状をなし、一大火口の外輪環壁たるを示し、猫寛ヶ岳はその最大のものにて東部に位す。火口は直徑凡そ二・五軒、内方は窪みて火口原をなしその一部に火口湖雄國沼を湛ふ。沼は南北に稍長く周圍凡そ三軒、餘水は北方なる槍原湖に注ぐ。

ネコマタ 猫又

【猫又山】 日本北アルプス立山山脈の北端部、毛勝三山の一峯。西側は富山縣中新川郡白萩村と下新川郡片貝谷村、東側は黒部國有林地に屬す。標高二三七八米。北麓は釜谷山を経て毛勝山(二四一四米)並び立ちて毛勝三山をなし、南東麓に赤谷山(二二六六米)連る。西斜面より片貝川發し北西流して日本海に注ぐ。山頂よりは日本北アルプスの北半を一眸に收め、特に東方黒部溪谷を隔てて後立山連嶺の展望絶佳なり。この附近は日本海に近接するを以て冬季降雪量多く、春夏の候も残雪残からず、高山的風光に接し得らる。登山は南方劍岳方面、或は北方毛勝岳より尾根縦走に依るか、西北方片貝川、或は東方黒部川支谷小黒部谷を廻りて行ふ。但し登路はいづれも整はず。登高困難を伴ふ。

【猫又山】 日本北アルプス白馬山塊の一峯。主峰白馬山(二九三三米)の北西方約

五軒、清水岳(二六〇五米)の北西嶺。富山縣下新川郡黒部國有林地に屬す。南斜面より猫又谷の溪水發し、南西に流れて黒部川に落つ。同じく黒部川支流黒部川は東・北・西麓を廻流し、西流して本流に合す。

ネゴヤ 根子屋

神奈川縣津久井郡にありし村。明治四十二年青山・長竹の二村と共に串川村を建つ。

ネゴヤ 根古谷

↓川上村(千葉縣)

ネゴロ 根來村

和歌山縣紀伊國那賀郡の西北部。和泉山脈の南斜面に位し、岩出町の北方約一軒。北は大坂府泉南郡に接す。北部は和泉山脈に屬する山地にして東北部の根來山四段を伸せり。南半は和歌山平野の一部に屬し低平にして湖沼・細流少からず。耕地よく拓かる。米・麥・柑橘等の農産、及び畜産・林産・工業あり。南部には東西に走る縣道あり。また風吹峠を越えて大阪より根來街道來り村を南に貫き岩出町に出でてバスを通ず。此地は和名抄、那賀郡山崎郷の内なり。【大傳法院(根來寺)】 大字西坂本にあり。新義眞言宗智山・豐山兩派所屬。根來山大傳法院と號し、本宗智・豐兩派の大本山なり。大治五年覺覺(興教大師)高野山に一字を創せしに始る。翌天承元年鳥羽上皇の宣を奉じ更に七間四面の堂宇を建立し、金色丈六の大日如來を奉安して大傳法院と號す。其後、上皇臨幸あり、七箇の莊園を賜ふ。長承三年に至り覺覺、上皇の詔を奉じて當院及び金剛峯寺の座主を兼ねしが、大傳法院の勢力漸く盛大に赴くや、金剛峯寺衆徒との間に溝渠を生じ、保元元年兩者の軋轢愈激烈を加へ、覺覺驅逐の責を引きて座主の職を眞譽に讓る。同六年遂に高野山の大家覺覺を襲ひ、大傳法院以下百餘宇を燒却す。依りて逃れて根來に下り圓明寺を建つ。時に一門の徒七百餘人これに従ふ。爾後その規模を擴張して堂塔坊舎二千七百餘棟を有するに至る。これ新義派別立の紀元なり。爾來寺運益々隆盛に赴き、聖靈法印に及びて新義派學說大成せられ、寺領七十萬石を領し、一山の僧兵と稱してその強銳を稱せられしが、天正十三年織田信長より歸順を勧められしも應ぜざりしため、一郭を除くの外本院悉く燒却せらるる所となり、ここに一山滅亡の悲運を見るに至れり。其後復興を企てしも徳川幕府に遮られて果さざりしが元和九年徳川頼宣當國を領するに及び、寺領二百六十石を附す。のち寶永四年、江戸護持院の隆光、五代將軍綱吉に請ひて日本勧化の許可を得、寛政九年本坊を再建す。爾後漸次復興せしを以て紀州侯、豐山の法住を請じて中興第一世となし、爾來智豐兩山交替に住持して明治維新に及び今なほ一宗の權威たり。堂宇中多寶塔は國寶。

り覺覺、上皇の詔を奉じて當院及び金剛峯寺の座主を兼ねしが、大傳法院の勢力漸く盛大に赴くや、金剛峯寺衆徒との間に溝渠を生じ、保元元年兩者の軋轢愈激烈を加へ、覺覺驅逐の責を引きて座主の職を眞譽に讓る。同六年遂に高野山の大家覺覺を襲ひ、大傳法院以下百餘宇を燒却す。依りて逃れて根來に下り圓明寺を建つ。時に一門の徒七百餘人これに従ふ。爾後その規模を擴張して堂塔坊舎二千七百餘棟を有するに至る。これ新義派別立の紀元なり。爾來寺運益々隆盛に赴き、聖靈法印に及びて新義派學說大成せられ、寺領七十萬石を領し、一山の僧兵と稱してその強銳を稱せられしが、天正十三年織田信長より歸順を勧められしも應ぜざりしため、一郭を除くの外本院悉く燒却せらるる所となり、ここに一山滅亡の悲運を見るに至れり。其後復興を企てしも徳川幕府に遮られて果さざりしが元和九年徳川頼宣當國を領するに及び、寺領二百六十石を附す。のち寶永四年、江戸護持院の隆光、五代將軍綱吉に請ひて日本勧化の許可を得、寛政九年本坊を再建す。爾後漸次復興せしを以て紀州侯、豐山の法住を請じて中興第一世となし、爾來智豐兩山交替に住持して明治維新に及び今なほ一宗の權威たり。堂宇中多寶塔は國寶。

ネサキ 根崎

愛知縣碧海郡にありし

村。明治三十九年他の六箇村と共に廢し明治村を置く。

ネザメノトコ 寢覺床

↓上松町(長野縣)

ネシメ 彌敷

大隅國(鹿児島縣)の古地名。和名抄に大隅郡彌敷郷あり、いま肝屬郡に大根古・小根古なる地名あるにより彌敷とすべきが如し。岡田城にも彌敷南俣四十町とあり、その地今の肝屬郡大根古町・小根古町の邊に當る。

ネズ 根津

東京市本郷區の東部の地名。此地に根津權現社あり。附近に私娼窟を生ぜしため、水野越前守の改革の時これを新吉原に移轉せしむ。然るにまた幕末に至り年限を定めて許可されて遊廓を作りしが、明治二十一年を以て洲崎に移る。風流志道軒傳・三・三味の音じめの音羽町、かたり明して夜を根津の東の空も赤城より、暗きに迷ふ藪の下」

ネズ 福津村

長野縣信濃國小縣郡の東部。上田市の東方約七軒。東北・西南に長く、東北は淺間の山脈を以て群馬縣吾妻郡と界し、地勢一般に西南に傾斜す。山裾一帶には桑園・田地開け棄落散在す。養蠶・農業を主生業とし米・麥・蕎麥の産多く、果樹の栽培も近時盛なり。中腹に奈良原温泉あり。南部を東西に縣道走り上田・小諸へ通じ省線信越本線田中驛へ約二軒、縣道バスの便あり。此地は和名抄、小縣郡跡部郷の内なるべく、近世久松松平氏五千石の邑なり。遊野氏の

ネズガセキ 念珠關村

山形縣羽前國西田川郡の西南部。南方は新潟縣に接し、西方は日本海に面す。南境には宇澤山(四八三米)、北境には大畑山(六一七半)・矢矧山(四二四米)あり、全村概れ山地にして、小國川は北部を、鼠ヶ關川は南部をそれぞれ西流し日本海に注ぐ。海岸は山地迫りて岩石海岸をなし、辨天島に鼠ヶ關燈臺(大正十四年設置)を置く。燈質不動白光、光達距離十哩。鼠ヶ關港は辨天島が防波堤となりて天然の良港をなし指定港たり。米・蕎麥を産し、また漁業行はれ鯛の漁獲少からず。道路は海岸の狹隘を南北に通ず、これに並行して羽越本線通じ鼠ヶ關驛(大正十二年設置)あり。此地はもと鼠ヶ關と稱し、北陸道より出羽に入るの關門に當るところより古來その名著はる。東鑑に據れば、文治五年七月、源賴朝のまさに大舉して陸奥の藤原泰衡を討たんとするや、比企藤四郎能員・宇佐美平次實政等をして越後より此關を経て出羽に出でしめしことあり。かの源義經が奥州落ちの道程は、東鑑に伊勢・美濃等の國を経て奥州に赴きたりとのみ記し、他に記すところなく、古來頗る疑問とせられしが、義經記に據れば北陸を経て此關に出で出羽を通りて平泉に出づとあり。この書は元來漢義に屬して信を措き難しと稱せらるるも、義經の

ネズミ 鼠坂

東京の坂名。江戸時代

ネスガタ 寢姿山

京都市東山の異稱。

ネズミ 鼠坂

東京の坂名。江戸時代

ネチ 根知

新潟縣越後國西頸城郡の中部。

旅程は僅か一本の本書に傳へらるるのみなれば姑く記して疑問とす。降りて天正中上杉氏ここに關所を設け、役錢を課せりと傳へらる。明治戊辰の變に越後村上城陥るに及び、藩士走りて出羽庄内藩に投じ、此關に砲臺を築きて西軍を防ぎ、大いにこれを驚ませしが、庄内降るに及び守を撤せり。附近より海上を望めば風光海色佳美を極め、併聖芭蕉も奥の細道にその景を嘆賞す。附近に辨天島・孝子慶玉墓等あり。

養蠶・牧畜等の副業行はる。米の産量も多く、次いで蕎麥・薪炭・木材等あり。東南部には根山温泉湧出し、兩師山は近時登山客にて賑ふ。鼠ヶ川に沿ひ松本街道及び省線大糸北線通じ、後者の根知驛(昭和九年設置)あり。松本街道より根知谷に沿ひ縣道を分岐す。大字根小屋・別所まではバスの便もあり。此地は和名抄、頸城郡沼川郷の内なるべく、往時大字山口に山口關ありと。【根山温泉】 大字根尾にあり、泉質炭酸泉。加熱浴用。

ネツコ 猫越峠

猫越・根古山とも云ふ。天城山脈西部を乗越す峠。静岡縣田方・賀茂二郡の境上に最高點を置く。北東麓に湯ヶ島・吉奈温泉湧く。下田街道の別路、湯ヶ島より南西方に分れてこの峠にかかり、仁科村・松崎町を經、南東方に轉じて下田に至る。北東降すれば上狩野村字猫越あり。この峠より東後天城峠まで平坦なる尾根越しの林道通じ、更に東後二郎岳方面に縱走可能なり。峠の周圍はいま農林省經營の國營獵區をなし鹿・猪等多く棲み、獵期には狩獵家集

【根知岳・根知岳】 筑紫山脈の一峯。大根地(知ノ岳とも云ふ。福岡市の南東方約二〇軒。福岡縣筑紫郡山家・御笠の二村と嘉穂郡内野村との境上に峙つ。標高六五二米。山體花崗岩より成り、山中に山毛櫸林繁茂す。南東麓部に冷水峠最高點あり。登山は西麓太宰府町より寶満山・三郡山を經て行はる。

ネツコ 猫越峠

猫越・根古山とも云ふ。天城山脈西部を乗越す峠。静岡縣田方・賀茂二郡の境上に最高點を置く。北東麓に湯ヶ島・吉奈温泉湧く。下田街道の別路、湯ヶ島より南西方に分れてこの峠にかかり、仁科村・松崎町を經、南東方に轉じて下田に至る。北東降すれば上狩野村字猫越あり。この峠より東後天城峠まで平坦なる尾根越しの林道通じ、更に東後二郎岳方面に縱走可能なり。峠の周圍はいま農林省經營の國營獵區をなし鹿・猪等多く棲み、獵期には狩獵家集

ネツコ 熱野村

北海邊後志國後志支

ネツコ 熱野村

北海邊後志國後志支

ネツコ 熱野村

北海邊後志國後志支

ネノシ——ネムロ

の人口によれば一方軒、一〇三人にて本郡二箇町村中第七位なるも全国平均の一八一人より少し。此地は和名抄、高宮郡刈田郷の内なり。

ネノシロイシ 根白石村

宮城縣陸前國宮城郡の北部。仙臺市の西北約一〇一軒。東北及び北は黒川郡に接す。面積一〇五・一方軒。奥羽山脈の東斜面に屬し、西北境には北泉岳(二五三米)、西境には黒鼻山(八四三米)あり東南方に傾斜し、七北田川は西北境に發源して東南に流れ、西方より數多の支流を合す。村の東南部河川の沿岸には耕地拓け水田分布し米・麥・木炭・繭を産す。社線仙臺鐵道七北田驛(七北田村)へ東方約八軒。戰國の頃白石三河の居りし白石城址あり。明治三十年泉嶽村を根白石村と改稱す。

ネノヒラ 根ノ平峠

一に千種越とも云ふ。鈴鹿山脈を穿越す交通路の一。東側路は三重縣三重郡千種村、西側路は滋賀縣蒲生郡市原村に屬す。最高點の北方には釋迦ヶ岳(一〇九二米)、南方には御在所山(二一〇米)連る。近江側斜面は薄と笹の波打つ美しき高原をなす。峠名は、その根元に平坦部のある峠の意なるべし。織田信長は京都より尾張へ下る途中、この峠を微行して越せしが、その時六角義賢の家臣杉谷善住坊に鐵砲にて狙撃せられ、袖に二發中れりと云ふ。

ネノヤマ 根ノ山高原

岐阜縣郡、東郡山(二一九〇米)の南西麓、標高

一〇〇〇米内外を保つ高原なり。保古沼を中心として約四百町歩に亘る。北東方木曾連峯を一眸に收め、南西方濃尾平野を望見し、夏はキヤマブに、秋は紅葉と小鳥狩に、冬はスケートに好適す。近時行樂する者少からず。北方、中央本線中津川驛より九軒、途中八軒の地までは自動車通す。また西方大井驛よりも登高し得。

ネバ 根羽村

長野縣信濃國下伊那郡の西南隅。矢作川の上流根羽川の水源地をなし、西及び南は美濃・三河兩國に接す。東南隅に茶白山(一四一五米)を初め全村山岳重疊し、根羽川は東部に發し略中央を西流す。桑落はこの谷に沿ひ、養蠶・農耕・製炭等に從ふ。本村にて南北に走る三州街道と西方の足助街道と相會し、飯田市へバス通す。村内に信玄塚あり、天正元年、武田信玄三河に發病しこの地にて死去せりと云ふ。

ネハン 涅槃岳

奈良縣大峯山脈の一峯。奥關路の中部に位し、東面は吉野郡下北山村、西面は十津川村に屬す。標高一三三六・三米。北麓は地蔵岳に續き、南麓は持經ノ宿・平治ノ宿・怒田ノ宿址を経て行仙岳に至る。

ネブカビラ 葱平

ネブカビラ イラともいふ。白馬岳(長野・富山縣境)の南にありし村。大正二年他の三箇村と共に廢し片浦村を置きその大字となる

ネブカワ 根府川

神奈川県足柄下郡にありし村。大正二年他の三箇村と共に廢し片浦村を置きその大字となる

東海道本線の根府川驛(大正十一年設置)あり。片浦村。

ネブタ 根府田

北海道渡島支廳松前郡にありし村。大正十二年小島村と改稱す。

ネブノキ 合歡木

愛知縣碧海郡にありし村。明治三十九年他の五箇村と共に廢し六ツ美村を置く。

ネムロ 根室

【根室支廳】 北海道廳管内の一支廳。北海道本島の東部を占め、ほぼ弓形をなして根室國と、その四面を抱ける國後島とより東北に斷續する千島列島(千島國)とより成る。面積一三五四方軒。根室・花咲・野付・標津・日利(以上根室國)、色丹・國後・沙那・擇捉・蘆取・得撫・新知及び占守(以上千島國)の十三郡に分轄せられ、支廳を根室町に置く。根室國の西北境は知床半島の脊梁をなす千島火山帯の一部にて、知床岳(二五五四米)・良牛岳(一五七三米)・斜里岳(一五四五米)・標津岳(一〇五三米)・カムイノペリ岳(八五八米)などが聳立して最も峻峻を極め、急傾斜をなして根室海峽に迫り、西南境、即ち釧路國支廳との境は平坦なる海蝕臺地の連綿にして何等著しき分水界は見られず、その一端が突出して花咲半島(根室半島)となり、更にその先端は納沙布岬となり水島島との間に瑤瑤海峡を挟み、忠類・標津・春別・床丹・西別・風連等の諸川はいづれも國境

四七三

附近に源を發して東流し、根室海峽及び根室灣に注入するが、海蝕臺地は水の滲透性大なる浮石層夾在するため、兩岸多くは急傾斜をなし、支谷は往々涸乾して河床に至るまで雜草に蔽はれ、大雨に際して初めて流水を見る状態にして、河成段丘の發達は概して甚だ稀なるが特色とす。從つて氾濫原は狭長のものが見らるるに過ぎざるも、鉤狀をなして屈曲し、内側に淺き沼澤を抱く野付岬は標式的砂嘴の地貌を呈す。また風運川の流入する風運湖は根室灣との間に長き砂嘴を以て隔てられし潟湖にて、僅に遠太・東海の二箇所に相通す。花咲半島の頭部にまた根室沼・チエウシ沼の二潟湖あり、その東北方、友知灣岸にも温根沼・南部沼等の小潟湖あり。根室灣候所に於ける年平均氣温は五・五度、八月の一七・二度を最高とし、二月の水點下五・五度を最低とす。概して低溫なる沿海が寒流親潮に洗はれることに基因す。殊に五月中旬よりの東南の偏風によりて海上より冷氣を陸地に吹き送るためなり。加ふるに暖流黒潮が親潮の外帯を反對の方向に流れ、これより發する水蒸氣は東南風に送られて親潮流域内に送られ霧と化し、更に陸岸に襲來することあり。海霧の襲來は花咲半島に大にして、内陸に入るに隨ひ漸次消散す。霜は平均十月中旬に始まり、翌年五月上旬に至ると、積雪量は強風の多きため一米以上に達する地に

務にして、從つて年降水量は九七〇程にして、北海道としては最も少き地域なるが、根室港にては一月初旬より四月中旬頃まで結氷もしくは流水を見る。氣候上と距離上の不利は農耕地の開拓を遅延せしめ、昭和四年の農業調査によれば畑一五、三三二町、田一〇町に過ぎざるも農耕適地は三〇萬町歩と推算され、蕎麥・牧草・豆類・馬鈴薯・甘藷・菜類・南瓜はその主要農産物なり。將來なほ僅に三萬戸の農家を收容し得べしといはれ、近年漸く開發の緒につき、根室本線厚床驛より西別・平津・春別・中標津の各原野を経て中標津驛に至る四七・五軒の省線標津線を通す。かくて本支廳の産業は水産業最も重要なものにて、昭和五年の總生産價一、五九六萬圓の約八〇％は水産にて占む。その主要なるものは鮭・鱒・鱈・蟹・帆立貝及び昆布にて近年捕鯨も盛なり。管内の鮭・鱒の人工孵化場は實に二七箇所に及び、年々約二億尾を放流して減産を豫防す。省線根室本線は釧路方面より來り、開港場たる根室港にて海陸の連絡を保ち、外に標津線・計根別線あり。落石及び幌筈(千島)の無線電信局は北太平洋航路及び北洋漁業の船舶に對し多大の便益を與ふ。人口七一、三二五。 ※根室國・千島國・千島列島

ネムロ——ネムロ

道本島の東端部を占むるため、江戸初期根室・千島の貨物は皆キダブ(いま釧路國厚岸郡濱中村の大字に露多布あり)に於て交易したるにより此地方一帯をキダブと呼べり。元祿の頃、松前氏の勢力漸くこの地に及び、ソツサム(いま花咲郡に納沙布岬あり)場所を置きて直轄地とし寶曆四年瑤瑤海峡の航路が開かれて根室場所と改め、運上屋を根室に置く。寛政十一年ロシア人擇捉島に來寇し、松前藩はこれを防ご能はざるため幕府蝦夷地を土地せしめ奉行廳舎を根室に置き、南部藩をしてこれを守らしめ、文政四年外寇止むの故を以て一時松前藩の所轄に復せしが安政二年再び幕府直轄地となり、仙臺の伊達氏が主として此の沿岸の警衛にれり。明治二年七月開拓使の置かるるや、翌八月蝦夷を改めて北海道と稱し、十一箇國を新たに分轄す。同五年札幌本廳及び五支廳の置かるるや根室支廳が設けられ、管内要所に出張所を置きしが、同十三年各出張所を廢して郡役所及び戸長役場を置く。同十五年開拓使根室支廳廢せられて根室縣と改り、同十九年には更に根室支廳を廢して郡役所を置き、同三十年更に郡役所を廢して根室支廳を置き、現に千島國と共に同支廳管轄下にあり、花咲・根室・野付・日梨・標津の五郡を含む。

【根室郡】

北海道根室支廳管下一三郡の一。根室國の南部。花咲半島の中央部に

【根室町】

北海道根室支廳管内の東部。根室支廳の管下、花咲半島の中央部を占め、東は花咲郡齒舞村、西南は和田村に接し、北は根室灣、南は太平洋に面す。面積五四・六五方軒。概して丘陵地なるも海岸には著しき峻崖なく平野發達し、東南の低濕地に温根沼・南部沼ありて附近は牧場地をなす。海岸はまた南北共に

四七三

ノ一ノ一ガ

ノ一ノ一ガ

能島(大島) 愛媛縣 野村 富山縣越中野水郡の中部。庄川の左岸に沿ひ高岡市の東に接す。東は川を隔てて大門町に對す。全村土地平坦肥沃、射水平野の中部を占め水田多し。米を主産物として農産の特産物あり。北陸道及び省線北陸本線村内を東西に貫き高岡市へバスの便あり交通至便なり。

ノ一ノ一ガ

野村 富山縣越中野水郡の中部。庄川の左岸に沿ひ高岡市の東に接す。東は川を隔てて大門町に對す。全村土地平坦肥沃、射水平野の中部を占め水田多し。米を主産物として農産の特産物あり。北陸道及び省線北陸本線村内を東西に貫き高岡市へバスの便あり交通至便なり。

ノ一ノ一ガ

直方市 福岡縣筑前國の東端に位し、筑豊炭田地方の中心をなす商工都市。北は鞍手郡木屋ノ瀬町・植木町・飯村及び遠賀郡香月町に、西は鞍手郡西川村・宮田町に、南は嘉穂郡額田村及び田川郡上野村に、東は企救郡中谷村に接し、東西約九軒、南北一軒、面積五六・五方軒の廣大なる地域を占む。人口四萬餘。東境に古生代の片岩より成る福智山塊礫り、本市と企救・田川二郡との境界に主峰福智山(九〇〇米)盟主の如くに聳え、山腹の西に延ぶるものは鷹取山となり、北麓は中生層中の閃綠岩を以て構成さるる雲取山・尺岳に續き、尺岳は西に舞岳を運ぬ。西北境には六ヶ岳山塊あり、最高三三九米にて中生層の砂岩・粘板岩の嵌入せる岩脈を見る。此等東西兩山地の間は即ち遠賀川低地にて、東南より彦山川、西南より嘉麻川北流し來り市の中西部に於て合流、遠賀川となり北流を續く。而して川の兩岸には左岸に新入丘陵、右岸に香月丘陵、また南部

る。「白山神社」社格不詳。祭神、奴奈川比賣命・伊非諾命・大己貴命。能登國石動山より勧請すといへども、その創建年代および沿革等はすべて不明なり。社寶中・聖觀音立像(木造)一軀は肢骸の朽損著しきも、面相・衣裝の様式より藤原末期の作と推定せられ、國寶に指定せらる。例祭日不詳。この社叢は天然記念物に指定せらる。

に赤池丘陵の何れも第三紀丘陵がほぼ南北の方向に連り、この地帯より石炭を出すこと多し。遠賀川右岸には周回約五軒の小野幸田池あり。氣象は年平均気温一五・五度、降水量一六三八を示すも晝夜・夏冬の気温較差大きく、謂はゆる内陸性氣候を呈す。昭和九年中の観測に據るに、最高は七月三六・八度、最低は一月零下五・三度にして、また風は一般に北風又は西風卓越し、特に冬季は西北風稍強く寒冷を覺え、初霜・初雪は何れも北部海岸地方に比し二週間以上早し。産業は商業及び工業を主とし、鑛業・農業等之に次ぐ。昭和九年の職業戸数は農一〇四三、鑛四四、工一六五、商業二一三四、交通業八五三、公務自由業七三三其他なり。農産物は米を第一に、麥・蔬菜・甘藷等を主とし、遠賀川低地には水田多く、以て山麓利用の野菜栽培地帯をなす。畜産に牛乳その他あり、東部山地よりは木炭を出すこと多し。工業は三百萬圓以上にして總生産額の大部分を占む。鐵工業は最も盛にして鐵製品の産額百萬圓前後なり、石鹼製造これに次ぎ、其他、菓子・木製品・清酒・醬油・蠶・酸素・藤製品等は主要工業なり。本市内或は隣接町村に亘りて大小の炭礦多々あり主なるものは別記新入炭礦の外に新高江・明治の二炭礦にて何れも重要鐵山とす。新高江の鐵礦は本市及び鞍手郡木屋町町に亘り昭和十年には炭塊・粉炭・切込炭・粗炭合計二萬三千餘噸を出す。明治の鐵礦は本市及び嘉穂郡の額田村、鞍手郡の宮田町・小竹町、田川郡の上野村に跨り二六六萬餘噸あり、昭和十年には塊炭・粉炭・切込炭・粗炭合計四萬餘噸を出す。商業極めて盛況にして、卸問屋多き估參ある商業町をなす。その商團は嘗て鞍手・田川二郡に限られしが、鐵道交通の便を得てより逐年躍進し、現在飯塚市と商團の競争を行ふに至れり。主なる金融機關には鞍手銀行・筑豊貯蓄銀行・十七銀行支店・不動貯蓄銀行支店等あり。市は古來久留米・熊本等より小倉への交通路に當り、今は樹枝型をなせる筑豊交通線の焦點に坐し鞍手・嘉穂・田川の諸地方への重要な關門をなす。即ち省線筑豊本線は折尾・植木を経て市に入り、直方驛(明治二十一年設置)に達し更に飯塚方面に至る。直方驛より若松へは二五軒(約一時間)、折尾へ一四軒(二〇餘分)、飯塚へは一五軒(約三〇分)にして達す。直方驛よりは東市伊田(省線伊田驛を岐中泉驛(明治三十一年設置)あり、同驛より藤棚驛を経て日燒驛(以上兩驛明治三十一年設置)に至る一・四軒、大城第一驛(明治三十九年設置)に至る一・六軒、赤池炭坑に至る四・五軒の三貨物線を出し、筑豊本線の貨物驛新入(明治三十年設置、直方驛の北隣)と共に石炭の輸送に當る。直方には機關車・保線區・通信區・電力區・檢車所その他の

市内各驛運輸狀況(昭和九年)
驛名 旅客(人) 貨物(噸) 運賃(圓)
直方 九四、〇二九 四、三三三 三、三三三
新入 一、〇三三 一、〇三三 一、〇三三
中泉 一、〇三三 一、〇三三 一、〇三三
藤棚 一、〇三三 一、〇三三 一、〇三三
東城條一 一、〇三三 一、〇三三 一、〇三三

機關あり、一日の列車上下約百五十回、殊に石炭輸送車中運載の多きことに於て全國有數なり。いま市内各驛の運輸狀況を見るに別表の如くにて、發送貨物は鐵及び鋼・同製品、到着貨物は鐵・鋼及び同製品・石炭・米・石油等を主とす。道路は遠賀川に沿ひて數條の縣道南北に通

淨水池附近を利用せる淨水公園、上新入の鴨生田公園等あり。また溝堀の競馬場は春秋二季に盛況を呈し、福智山には大スキー場あり。本市の人口は左表に見る如く異動顯著なり、これ市勢が石炭業の消長と密接なる關係を有する證左とす。

人口密度
大正九年 四八、二八八
昭和十年 昭和一〇年 昭和一〇年
昭和五年 四〇、〇七二
昭和十年 四三、九四三

開通して直方驛設けらるるや河港は老衰せしも却つて商工業・交通は大いに發達し、其後數度の戰役の影響を受けて經濟都市として今日の擴張を見るに至れり。大正十五年十一月新入村・福地村・頓野村・下境村は直方市に併合せられ、昭和六年一月市制を布く。(鷹取城址)市の東南境、福智山中腹の峰、鷹取山上にあり。後朱雀天皇の朝に築かれし古城にて、嘗て筑前六城の一に數へらる。天正中、大友氏の將毛利某これに居り、黒田氏領有するに至り家臣手塚水雪を置き子孫代々在城せり。水雪の時、藩主長政の命により歸化韓人を招き此山に壺器を造らしめ鷹取城と名づく、これ茶器として有名なる高取燒の始めなるべし。(多賀神社)大字直方、妙見山に鎮座。縣社。祭神、伊邪諾命・伊邪冉命・神功皇后外三柱。創建年代詳ならずも、もと日若宮と稱し後に妙見大明神と改む。因りてその鎮座地をも妙見山と稱するに至ると云ふ。天文の頃に大内義隆は當郡龜ヶ嶽城主杉權頭連並に命じて再建し、元和年間黒田長政・隆政父子の領地となるや寛永十二年社殿を修築、崇信厚かりき。貞享十三年黒田光之また社殿を修造し祭田を寄す。此時に神功皇后以下三柱を配祀すと云ふ。同長清に至り元祿四年に現社地に遷し、社領三十石・年中祭典費等を寄進す。例祭、十月一日、日若祭と稱し有名なる日若踊の奉納あり。神社南丘

上に日若公園あり面積約二三〇アール、忠魂塔・遊藝場等あり眺望佳なり。(鳥野神社)頓野に鎮座。縣社。祭神、天照大神・保食大柱・月尊大神外二神。社傳に瓊々杵尊の日向國高千穂峯に駐り給ひし時、保食大神の靈徳を感じ給ひて當社を創祀せりと云ふ。縁起略に據れば、日本武尊熊襲征討に當國下向の折、當社にその戰捷を祈られ、凱陣の後その報捷として上中下三所の宮居を造營せられ、次で神功皇后三神より御凱陣の時に鎗矢を納め給ふと云ふ。白鳳年間、太宰帥粟隈王は神威に感じ勳を仰ぎて三所の宮を修造し、四方十二里を以て永く社域となす。平安朝の初世に役小角・最澄・空海等の求法を祈りて、豊碑大塔および鐘樓を築きてより英彦山の修驗入山の靈境となると云ふ。延喜二年朝廷より御粥饌地寄進の事あり。降りて延久二年筑前守藤原經新雨の事、弘安四年太宰少貳異國降伏祈願の事、元弘三年王道再興、建長降伏の勅願繪旨等あり。天正十五年、小早川隆景の筑前領主となるや大いに社殿を再興し、文祿二年、社領百二十町歩を寄す。爾來、累代領主相承けて社殿の修營・祭祀の事に當る。例祭、十一月十二日。一に穂掛祭とも稱せらる。附近の内ヶ磯溪谷に本谷瀧・大塔瀧等あり、河鹿・秋葉の名所として聞ゆ。(西徳寺)眞宗本願寺派。豊音山。慶長年中、西徳是照の創建に係る。是照はもと名島城主

ノーカー

小早川秀秋の老臣なり。〔新入炭礦〕直方市及び鞍手郡の植木町・木屋瀬町・鶴村・古月村・西川村、遠賀郡の中間町に跨り、礦區七三五萬餘坪。明治の初期海軍備炭田(第一坑)に始まり、漸次擴大して現在重要礦山に屬す。昭和十年には塊炭一七、三七七噸、粉炭二七四、〇七六噸、切込炭一〇四、〇五八噸、粗炭一九、一八一噸、この總價額約三三五萬圓を出す。同年六月末の使用礦夫一、一〇五人にして現在三菱礦業會社の經營とす。〔岡森製〕大字上境にあり。彦山川に設けられ、高さ約四・二米、幅六三・六米、用水路幹線一軒餘、灌漑面積約三百ヘクタール。入梅に閉鎖し、秋の彼岸に開墾す。この堰は附近の水利乏しく年々旱害を被れること甚しかりしを、渡邊善吉安永六年に築造し、のち天保十四年加藤仁助等これを改修せしもの。〔福智山スキー場〕福智山上にあり。スロープの長さ六軒、複雑・單純の兩種を併有し、九州第一のスキー場と稱せらる。頂上の眺望雄大にして小屋の設備あり。

ノーカー

直川村 和歌山縣紀伊國海草郡の北部。和泉山脈の南斜面に位し、紀ノ川北岸に沿ひ、南は川を隔てて和歌山市の東部に對す。南北に細長き村なり。北境には和泉山脈東西に連りて雲山峯・鏡法ヶ嶽・祖石山・大福山等屹立す。南部は地形低平にして紀ノ川南境に沿ひて西流し、小流北境に發して之に

合す。米・繭・柑類等の農産の外、畜産・水産・礦産あり。南部は交通發達し淡路街道東西に走りて和歌山市へバスを通じ、社線阪和電鐵また南部を横切りて和歌山市に至る。此地は紀伊村等と共に古くは和名抄、名草郡直川郷に當り、中世は直川莊といへり。

ノーカー

能高 臺灣臺中州二市十二郡中の一。州の東部中央に位置し、大肚溪(烏溪)・濁水溪の最上流域に跨る廣大なる山地帯を占む。東境は華綠山・合歡山・芥菜山・能高山(三二五二米)・安東軍山等三〇〇米以上の峻峰連亘する中央山脈の分水嶺を以て花蓮港と界し、北はハタク大山・八仙山、南は草社大山・大尖山等の連嶺を以てそれぞれ東勢郡・新高郡に接し、西は大屯・南投二郡に隣る。前記の諸山のほか、郡内には高峯峻岳重疊として起伏し、大肚・濁水二溪の上流は各々東境分水嶺山地の西斜面に源を發し、幾多の小流を集め、深谷を刻みつつ大體西流して次第に大となる。殊に大肚溪上流の一分流南港溪の上流を眉溪と稱し、景勝を以て著はる。平野は南港溪によりて濶がる埔里盆地を除き殆ど見るべきものなし。面積一六二六方軒、埔里街・國姓庄及び街庄を置かざる蕃地に分割され郡役所を埔里街に置く。行政區域は郡の西端僅に總面積の七五%を占むるに過ぎず。人口五萬一千餘の内、蕃人

七千餘人ありアマール・アモンの二種族より成り、昭和五年霧社蕃の暴動、謂はゆる霧社事件ありたるも、其後平穩に歸せり。郡下唯一の平野たる埔里盆地と雖も海拔四五〇米内外にあり。比較的水利の便に恵まれ、地味また肥沃にて米・甘蔗その他農作物の豊産地なり。臺灣製糖の埔里工場を有し、工業は之を除き見るべきものなし。交通は從來集集線の終點外車埕驛(新高郡集集庄)より埔里に至る間輕便軌道(手押臺車)を通ずるに過ぎざりしも、其の後水裡坑驛(集集庄)より日月潭・魚池(新高郡魚池庄)を経て埔里に至る自動車道路(兼合自動車の便を有す)及び臺中より烏溪沿岸に沿ひ埔里に達する自動車道路の開通を見たり。蕃地方面には能高越道路・萬大卡社間道路・合歡道路あり。

能高山 臺灣中央山脈北部に位する一峯。東側は花蓮港に屬し木瓜溪發して南東流し、西側は臺中州に屬し、濁水溪發して南西流す。標高三三三三米。この山の東部は險峻にして臺灣ツカ・槍等の原始林に掩はれ、蕃社は殆んど無し。山頂部には岩石露出す。北東方に芥菜山(三六〇五米)峙ち、中部鞍部に能高越の最高點(三三〇七米)あり。西麓に名高き霧社蕃社あり。

能生谷村 新潟縣越後國頸城郡の東部。妙高火山の北なる火打山(二四六二米)より發源し、西北に流れて日本海に入る能生川の溪谷一帯を含む地帯にして、西北は能生町を隔てて日本海に近し。東境・西境いづれも妙高火山群の北端なる山脈縱走し、殊に西境には鈴ヶ岳(二一六六米)屹立す。南部は最高峻にして火打山その他を境に中頸城郡に接す。能生川上流は溪谷なるも下流には狹き平地開け耕地拓く。米を主産とし、養蠶・製炭等を副業とす。略中部に柳口温泉湧出し、天然ガスの發生地もあり。省線北陸本線能生驛に最も近く縣道バスの便あり。

能州 能登國の別稱。ノースユー 濃州 美濃國の別稱。ノースヨ 農所 朝鮮慶尙北道金泉郡の中部東

偏。金泉邑の東約三軒。南北一二軒、東西三六軒。南部に小白山脈に屬する白馬山(七一六米)・姑堂山等連なり。それより北方に出づる山肢東境及び西境を劃し、北境を流るる甘川(洛東江支流)と南部山地に發してこれに合する支谷沿岸とに平地ありて田畑開く。産物は米・麥・大豆・棉花・繭等を主とす。北部を總督府鐵道京釜本線東西に貫き金泉驛(金泉邑内)に近く、また之と交叉する一等道路ありバスを通じ、北部の交通は便利なり。〔農所面〕朝鮮慶尙南道蔚山郡の東北部。蔚山邑に北隣す。東境には大白山脈に屬する高距四〇〇米前後の山脈連り、東大山・舞龍山(四五二米)等聳え西方に急斜し、西部は一〇〇米臺の丘陵地をなす。太和江支流なる東川は北方慶尙北道慶州郡内より南流し來り中部を貫きて南し、流域に稍廣き平地あり田畑ひろく、産物は米・麥・豆類・棉花等を主とし養蠶・牧牛盛んに行はる。中部低地を總督府鐵道東海南部線と蔚山・慶州間の二等道路は並行して南北に走り、前者に虎溪驛(大正十年設置)あり、交通便利なり。虎溪には毎月一・六の日に開く市場あり。

能泉村 山梨縣甲斐國西山梨郡の北部。甲府市の北約一・五軒。東南は千代田村に圍まれ、西北方は荒川が隔てて中巨摩郡宮本村・吉澤村と相對す。水ヶ森山(一五五三米)・帶那山(一四二二米)等の連嶺の西斜面にして、西方にも羅漢寺山(一〇五八米)等の山地あり、中間(本村西境)を荒川は峽谷をなして南流し昇仙峽として廣く知らる。天神森より仙峨瀧に至る間には花崗岩の巨塊露出して奇岩斷崖をなす。米・麥・桑・繭の外に木材・薪炭を出す。街道は荒川に沿うて通ず。

能生谷村 新潟縣越後國頸城郡の東部。妙高火山の北なる火打山(二四六二米)より發源し、西北に流れて日本海に入る能生川の溪谷一帯を含む地帯にして、西北は能生町を隔てて日本海に近し。東境・西境いづれも妙高火山群の北端なる山脈縱走し、殊に西境には鈴ヶ岳(二一六六米)屹立す。南部は最高峻にして火打山その他を境に中頸城郡に接す。能生川上流は溪谷なるも下流には狹き平地開け耕地拓く。米を主産とし、養蠶・製炭等を副業とす。略中部に柳口温泉湧出し、天然ガスの發生地もあり。省線北陸本線能生驛に最も近く縣道バスの便あり。

濃尾平野 中部地方の西南部にある我國有数の平野。美濃(岐阜縣)・尾張(愛知縣)兩國にわたるためこの名稱あり。北には濃尾高原を繞らし、西は池田山塊と養老山脈とをその障壁とし、東は濃尾山脈より知多半島に續く低

ノース

能津村 高知縣土佐國高岡郡の東北部。仁淀川の南岸に沿ひ、伊

納所 京都府紀伊郡にありし村。昭和六年京都市に入り、伏見市

山性丘陵地帯により三河平野に分たれ、只南方の一區のみ開きて伊勢海に臨む。平野は殆ど方形をなし。東西約四〇軒、南北約四五軒、面積約一八〇〇方軒に達す。平野は關東平野などとも異り、その内には丘陵・臺地なく廣潤なる一大平野をなす。平野の成因は第三紀の中頃伊勢海の侵入がこの平野全部に及び、先端は濃飛高原の縁邊に達したりしが、その後土地の隆起と木曾・長良・揖斐の三大川の堆積作用により順次陸地となり、今なほ三大川の吐口には堆積を積く。これ等の三川は平野の西南部に接近して流るるが古來氾濫多く、爲に住民は堤防を築きて土地と生命とを保護せり。その堤防は従つて輪形をなし、爲にその中を輪中と稱す。平野は低平地廣く積みて米作多く特に美濃米は良質にて名高し。また東南部地域は蔬菜の栽培盛んにて、我國第一の地位にあり。人口密度は頗る大にして我國に於ける人口集積地帯の一を形成す。中心都市は東南端にある名古屋市にて、北部に岐阜・大垣兩市あり、中央部には一宮市あり。其他都市甚だ多し。地形上東西交通の要衝に當り、古來京都と關東とを結ぶ國道幹線はその伊勢路・近江路を經るものも加越の北國よりするものも一旦はこの平野に落ち、更に分岐しては海岸に沿ふ東海道となり、他は山間を縫ふ中山道となる。かく地形上・經濟上に重要な平野は軍事上にも亦重要な

位置が占め、戰國時代の英雄に驥足を展し得る地盤を與へたり。道路網を見るに東海道は平野の南端を掠め、中山道は主に北邊を走り、準國道として美濃街道あり。その他主要道路に犬山街道・多治見街道・岐阜街道・津島街道・飛騨街道・郡上街道等あり。鐵道には東海道本線、名古屋・岐阜・大垣等の重要都市を結ぶし、名古屋を起點とする關西線・中央線、岐阜を起點とする高山線等と接続す。社線名古屋鐵道また平野中を縱横に走る。ノイホ 農圃 満鐵鐵道總局北鮮東部線の一驛(昭和五年設置)。朝鮮咸鏡北道慶源郡安農面にあり。附近に東拓編羊牧場あり。

ノイマ 苗羽村 香川縣讚岐國小豆郡の東南部。小豆島の東南部に突出する半島頭部の西岸に位し内ノ海灣東北隅に臨む。東境に約三〇〇米の山地連りて西方へ傾斜し西岸に低地を造る。海上に辨天島浮ぶ。醤油製造業及び之に伴ふ商業を村の生命とし、醤油産額約五百萬圓に及ぶ。農業・漁業は幾分生計の補助に努む程度なり。西岸に縣道走りて南方坂手港及び本島西南端土庄町へパスを通ず。大字苗羽に郷社八幡神社あり、應神天皇行幸の砌、御休息あらせられし舊跡と傳へ、品陀和氣命(應神天皇)・息長帯姫命・帶中津比古命等五柱を奉祀す。もと馬目木太神と云ひしが、明治五年現社に改む。例祭、八月十五日。

ノイミ 能美町 富山縣越中郡能美町の西北部。庄川の左岸小矢部川と射水川との合流點を占め、西南は高岡市に接す。土地一般に低平にして灌漑の利に富み、米の産額多く農産の特産物もあり。省線中越線南北に通じ大字能町に能町驛(明治三十三年設置)を置き省線新津線の分岐點をなし、後者の吉久驛(大正七年設置)また大字吉久新にあり。尙ほ縣道高岡市・伏木町に通じパスの便あり。萬葉集第十六卷に「大野路は繁道は森徑繁くとも君し通はば徑は廣げむ」とあるも此地なるべし。

ノイニ 能美 社線。主として石川縣能美郡にあり。能美郡根上町の新寺井驛より石川郡鶴來町の社線金澤電氣軌道の鶴來驛に至る一六・七軒。新寺井驛は省線北陸本線の寺井驛に近く、新寺井驛より能美郡山上村の天狗山驛間の一五・八軒は大正十四年開通し、天狗山驛より鶴來驛間は昭和七年に開く。動力は電氣、軌間一・〇六七米、省線と準帶運輸。

ノイニ 能美島 廣島縣安藝國佐伯郡の東南海上にあり。廣島灣口東偏に位し北部にある安藝郡江田島とは飛渡ノ瀬戸の海峡にて連り、その東部に吳市を望む。東南部には倉橋島に對し西北方遙に嚴島を望み附近大小無數の島嶼散在す。西北より東南に細長く地帯により二部に分れ、北を西能美島と云ひ、南を東能美島と稱し其

ノイチ 野市町 高知縣土佐國香美郡の西南部。高知平野の東部に位し、南方一軒餘にて土佐驛に達す。全村地形平坦にて北方約一・五軒にて物部川より分る

る香宗川は中央を東南流して古川村より海に注ぐ。水田よく發達して米産多く、藪・桑葉・紫雲英・麥等もあり。街道四通八達し、中央には高知街道東西に走り西部にて之と十字に交叉する街道ありて北方山田町に至り、東部にては之より分れ東隣香宗村に入るもの、東北隣富家村に至るもの等ありてパスの便よし。社線高知鐵道中央を東西に通じて西野驛(昭和三年設置)・野市驛(大正十三年設置)・遠山驛(昭和三年設置)あり。往古は野市・佐古等の地を深瀬郷と稱し、山内氏の頃、野中兼山、長曾我部氏の遺臣にして藤より離れたるもの百人を選び此の地を拓かしむ、之を野市百人衆と呼び郷士と稱せり。大正十五年町制を布く。「深瀬神社」大字西野に鎮座。縣社。祭神、深瀬水夜禮花命。孝安天皇三十一年、祭神の神勅に依りて奉祀せしところと口傳す。元慶三年從五位上に陞叙せられ、延喜の制に式内小社に列す。例祭、十月三十日。「日吉神社」大字富岡山に鎮座。郷社。祭神、大山咋神。古來當地の産土神にして、もと山王權現と稱せしが、明治元年現社に改む。例祭、七月廿八日十月廿四日。

ノウラ 野裏 大隅國(鹿兒島縣)の古地名。ノウラ 野江・野枝 もと大阪府東成郡の村なりしが今は大阪市旭區に入り町名となる。京街道に當り江戸時代利場のありし所。

ノオ 野應 紀伊國(和歌山縣)の古地名。靈異記に名草野野應里と見え、和名抄に名草野野應郷あり。その地いま海草郡の紀ノ川の右岸山口村の邊なるべし。即ち日本後紀、弘仁三年の條に見ゆる名草野も此の邊にありしならん。

ノオ 濃候 安藝國(廣島縣)の古地名。延喜兵部省式に安藝國濃於縣驛馬二十疋とあり。驛馬の數によりて山陽道の大陸なるを知る。和名抄に佐伯郡野濃郷あり、高山寺本は野濃に作るも訓を缺く、これ恐らくは式の濃於の誤なるべし。於には韻なるを以てノオと訓すべし。地は廣島灣の沿岸にして郷域はいま大野村・地御前村の邊なるべく、驛址は萬葉卷五に「安藝國佐伯郡高庭驛家」とあるにより前記三村の界なる高島の地ならん。

ノオ 濃候 野方 東京市中野區の北半をなす舊地名。大東京市の一部となる迄は豊多摩郡に屬する町の名稱なりき。この名稱は舊領名に起源するものにして、その範圍は相當廣かりしが、町村制實施の際に江古田・新井・上高田・上沼袋・下沼袋・上鷺宮及び下鷺宮の七村を合併して野方村を形成し、東京市の郊外たりき。のち東京の發展と共に西武鐵道沿線の住宅地の一部となり町制を布けり。然るに大東京市實現と共に中野區の一部となりて町名

ノカミ 野上 栃木縣下野國安蘇郡の北部。田沼町の北方にて間に三好村を挟み南北に長き大村なり。足尾山塊東斜面の一部を占め、北境附近には根本山(一一九七米)・熊鷹山(一一六九米)・丸岩岳(一一二五米)・水守山等聳え、村の東境・西境共にこれ等諸山につづく山地連互して次第に東南に低下し、村の中央はその場合に於て野上川東南に流る。山地一帶森林

ノカニ 野花南 北海道石狩國空知郡野別村の大字。根室本線の野花南驛(大正二年設置)あり。

ノカニ 野鹿池山 四國山脈の一峯。四國の中央部、吉野川の上流左岸に位し、高知縣長岡郡西豐水・大杉の二村と徳島縣三好郡三名村の境上に跨る。標高一二九五米。山體結晶片岩より成る。東麓に黒瀧山、北西麓に三傍示山連る。

ノカミ 野上 栃木縣下野國安蘇郡の北部。田沼町の北方にて間に三好村を挟み南北に長き大村なり。足尾山塊東斜面の一部を占め、北境附近には根本山(一一九七米)・熊鷹山(一一六九米)・丸岩岳(一一二五米)・水守山等聳え、村の東境・西境共にこれ等諸山につづく山地連互して次第に東南に低下し、村の中央はその場合に於て野上川東南に流る。山地一帶森林

ノカミ 野上 栃木縣下野國安蘇郡の北部。田沼町の北方にて間に三好村を挟み南北に長き大村なり。足尾山塊東斜面の一部を占め、北境附近には根本山(一一九七米)・熊鷹山(一一六九米)・丸岩岳(一一二五米)・水守山等聳え、村の東境・西境共にこれ等諸山につづく山地連互して次第に東南に低下し、村の中央はその場合に於て野上川東南に流る。山地一帶森林

ノカミ 野上 栃木縣下野國安蘇郡の北部。田沼町の北方にて間に三好村を挟み南北に長き大村なり。足尾山塊東斜面の一部を占め、北境附近には根本山(一一九七米)・熊鷹山(一一六九米)・丸岩岳(一一二五米)・水守山等聳え、村の東境・西境共にこれ等諸山につづく山地連互して次第に東南に低下し、村の中央はその場合に於て野上川東南に流る。山地一帶森林

ノイマ 苗羽村 香川縣讚岐國小豆郡の東南部。小豆島の東南部に突出する半島頭部の西岸に位し内ノ海灣東北隅に臨む。東境に約三〇〇米の山地連りて西方へ傾斜し西岸に低地を造る。海上に辨天島浮ぶ。醤油製造業及び之に伴ふ商業を村の生命とし、醤油産額約五百萬圓に及ぶ。農業・漁業は幾分生計の補助に努む程度なり。西岸に縣道走りて南方坂手港及び本島西南端土庄町へパスを通ず。大字苗羽に郷社八幡神社あり、應神天皇行幸の砌、御休息あらせられし舊跡と傳へ、品陀和氣命(應神天皇)・息長帯姫命・帶中津比古命等五柱を奉祀す。もと馬目木太神と云ひしが、明治五年現社に改む。例祭、八月十五日。

ノイニ 能美町 富山縣越中郡能美町の西北部。庄川の左岸小矢部川と射水川との合流點を占め、西南は高岡市に接す。土地一般に低平にして灌漑の利に富み、米の産額多く農産の特産物もあり。省線中越線南北に通じ大字能町に能町驛(明治三十三年設置)を置き省線新津線の分岐點をなし、後者の吉久驛(大正七年設置)また大字吉久新にあり。尙ほ縣道高岡市・伏木町に通じパスの便あり。萬葉集第十六卷に「大野路は繁道は森徑繁くとも君し通はば徑は廣げむ」とあるも此地なるべし。

ノイニ 能美 社線。主として石川縣能美郡にあり。能美郡根上町の新寺井驛より石川郡鶴來町の社線金澤電氣軌道の鶴來驛に至る一六・七軒。新寺井驛は省線北陸本線の寺井驛に近く、新寺井驛より能美郡山上村の天狗山驛間の一五・八軒は大正十四年開通し、天狗山驛より鶴來驛間は昭和七年に開く。動力は電氣、軌間一・〇六七米、省線と準帶運輸。

ノイニ 能美島 廣島縣安藝國佐伯郡の東南海上にあり。廣島灣口東偏に位し北部にある安藝郡江田島とは飛渡ノ瀬戸の海峡にて連り、その東部に吳市を望む。東南部には倉橋島に對し西北方遙に嚴島を望み附近大小無數の島嶼散在す。西北より東南に細長く地帯により二部に分れ、北を西能美島と云ひ、南を東能美島と稱し其

ノイチ 野市町 高知縣土佐國香美郡の西南部。高知平野の東部に位し、南方一軒餘にて土佐驛に達す。全村地形平坦にて北方約一・五軒にて物部川より分る

ノオ 野應 紀伊國(和歌山縣)の古地名。靈異記に名草野野應里と見え、和名抄に名草野野應郷あり。その地いま海草郡の紀ノ川の右岸山口村の邊なるべし。即ち日本後紀、弘仁三年の條に見ゆる名草野も此の邊にありしならん。

ノオ 濃候 安藝國(廣島縣)の古地名。延喜兵部省式に安藝國濃於縣驛馬二十疋とあり。驛馬の數によりて山陽道の大陸なるを知る。和名抄に佐伯郡野濃郷あり、高山寺本は野濃に作るも訓を缺く、これ恐らくは式の濃於の誤なるべし。於には韻なるを以てノオと訓すべし。地は廣島灣の沿岸にして郷域はいま大野村・地御前村の邊なるべく、驛址は萬葉卷五に「安藝國佐伯郡高庭驛家」とあるにより前記三村の界なる高島の地ならん。

ノオ 濃候 野方 東京市中野區の北半をなす舊地名。大東京市の一部となる迄は豊多摩郡に屬する町の名稱なりき。この名稱は舊領名に起源するものにして、その範圍は相當廣かりしが、町村制實施の際に江古田・新井・上高田・上沼袋・下沼袋・上鷺宮及び下鷺宮の七村を合併して野方村を形成し、東京市の郊外たりき。のち東京の發展と共に西武鐵道沿線の住宅地の一部となり町制を布けり。然るに大東京市實現と共に中野區の一部となりて町名

ノカミ 野上 栃木縣下野國安蘇郡の北部。田沼町の北方にて間に三好村を挟み南北に長き大村なり。足尾山塊東斜面の一部を占め、北境附近には根本山(一一九七米)・熊鷹山(一一六九米)・丸岩岳(一一二五米)・水守山等聳え、村の東境・西境共にこれ等諸山につづく山地連互して次第に東南に低下し、村の中央はその場合に於て野上川東南に流る。山地一帶森林

ノカニ 野花南 北海道石狩國空知郡野別村の大字。根室本線の野花南驛(大正二年設置)あり。

ノカニ 野鹿池山 四國山脈の一峯。四國の中央部、吉野川の上流左岸に位し、高知縣長岡郡西豐水・大杉の二村と徳島縣三好郡三名村の境上に跨る。標高一二九五米。山體結晶片岩より成る。東麓に黒瀧山、北西麓に三傍示山連る。

ノカミ 野上 栃木縣下野國安蘇郡の北部。田沼町の北方にて間に三好村を挟み南北に長き大村なり。足尾山塊東斜面の一部を占め、北境附近には根本山(一一九七米)・熊鷹山(一一六九米)・丸岩岳(一一二五米)・水守山等聳え、村の東境・西境共にこれ等諸山につづく山地連互して次第に東南に低下し、村の中央はその場合に於て野上川東南に流る。山地一帶森林

ノカミ 野上 栃木縣下野國安蘇郡の北部。田沼町の北方にて間に三好村を挟み南北に長き大村なり。足尾山塊東斜面の一部を占め、北境附近には根本山(一一九七米)・熊鷹山(一一六九米)・丸岩岳(一一二五米)・水守山等聳え、村の東境・西境共にこれ等諸山につづく山地連互して次第に東南に低下し、村の中央はその場合に於て野上川東南に流る。山地一帶森林

ノカミ 野上 栃木縣下野國安蘇郡の北部。田沼町の北方にて間に三好村を挟み南北に長き大村なり。足尾山塊東斜面の一部を占め、北境附近には根本山(一一九七米)・熊鷹山(一一六九米)・丸岩岳(一一二五米)・水守山等聳え、村の東境・西境共にこれ等諸山につづく山地連互して次第に東南に低下し、村の中央はその場合に於て野上川東南に流る。山地一帶森林

ノカミ 野上 栃木縣下野國安蘇郡の北部。田沼町の北方にて間に三好村を挟み南北に長き大村なり。足尾山塊東斜面の一部を占め、北境附近には根本山(一一九七米)・熊鷹山(一一六九米)・丸岩岳(一一二五米)・水守山等聳え、村の東境・西境共にこれ等諸山につづく山地連互して次第に東南に低下し、村の中央はその場合に於て野上川東南に流る。山地一帶森林

ノカミ 野上 栃木縣下野國安蘇郡の北部。田沼町の北方にて間に三好村を挟み南北に長き大村なり。足尾山塊東斜面の一部を占め、北境附近には根本山(一一九七米)・熊鷹山(一一六九米)・丸岩岳(一一二五米)・水守山等聳え、村の東境・西境共にこれ等諸山につづく山地連互して次第に東南に低下し、村の中央はその場合に於て野上川東南に流る。山地一帶森林

ノカミ 野上 栃木縣下野國安蘇郡の北部。田沼町の北方にて間に三好村を挟み南北に長き大村なり。足尾山塊東斜面の一部を占め、北境附近には根本山(一一九七米)・熊鷹山(一一六九米)・丸岩岳(一一二五米)・水守山等聳え、村の東境・西境共にこれ等諸山につづく山地連互して次第に東南に低下し、村の中央はその場合に於て野上川東南に流る。山地一帶森林

ノカミ 野上 栃木縣下野國安蘇郡の北部。田沼町の北方にて間に三好村を挟み南北に長き大村なり。足尾山塊東斜面の一部を占め、北境附近には根本山(一一九七米)・熊鷹山(一一六九米)・丸岩岳(一一二五米)・水守山等聳え、村の東境・西境共にこれ等諸山につづく山地連互して次第に東南に低下し、村の中央はその場合に於て野上川東南に流る。山地一帶森林

ノカミ 野上 栃木縣下野國安蘇郡の北部。田沼町の北方にて間に三好村を挟み南北に長き大村なり。足尾山塊東斜面の一部を占め、北境附近には根本山(一一九七米)・熊鷹山(一一六九米)・丸岩岳(一一二五米)・水守山等聳え、村の東境・西境共にこれ等諸山につづく山地連互して次第に東南に低下し、村の中央はその場合に於て野上川東南に流る。山地一帶森林

ノカミ 野上 栃木縣下野國安蘇郡の北部。田沼町の北方にて間に三好村を挟み南北に長き大村なり。足尾山塊東斜面の一部を占め、北境附近には根本山(一一九七米)・熊鷹山(一一六九米)・丸岩岳(一一二五米)・水守山等聳え、村の東境・西境共にこれ等諸山につづく山地連互して次第に東南に低下し、村の中央はその場合に於て野上川東南に流る。山地一帶森林

ノカミ 野上 栃木縣下野國安蘇郡の北部。田沼町の北方にて間に三好村を挟み南北に長き大村なり。足尾山塊東斜面の一部を占め、北境附近には根本山(一一九七米)・熊鷹山(一一六九米)・丸岩岳(一一二五米)・水守山等聳え、村の東境・西境共にこれ等諸山につづく山地連互して次第に東南に低下し、村の中央はその場合に於て野上川東南に流る。山地一帶森林

ノカミ 野上 栃木縣下野國安蘇郡の北部。田沼町の北方にて間に三好村を挟み南北に長き大村なり。足尾山塊東斜面の一部を占め、北境附近には根本山(一一九七米)・熊鷹山(一一六九米)・丸岩岳(一一二五米)・水守山等聳え、村の東境・西境共にこれ等諸山につづく山地連互して次第に東南に低下し、村の中央はその場合に於て野上川東南に流る。山地一帶森林

ノカミ 野上 栃木縣下野國安蘇郡の北部。田沼町の北方にて間に三好村を挟み南北に長き大村なり。足尾山塊東斜面の一部を占め、北境附近には根本山(一一九七米)・熊鷹山(一一六九米)・丸岩岳(一一二五米)・水守山等聳え、村の東境・西境共にこれ等諸山につづく山地連互して次第に東南に低下し、村の中央はその場合に於て野上川東南に流る。山地一帶森林

ノカミ 野上 栃木縣下野國安蘇郡の北部。田沼町の北方にて間に三好村を挟み南北に長き大村なり。足尾山塊東斜面の一部を占め、北境附近には根本山(一一九七米)・熊鷹山(一一六九米)・丸岩岳(一一二五米)・水守山等聳え、村の東境・西境共にこれ等諸山につづく山地連互して次第に東南に低下し、村の中央はその場合に於て野上川東南に流る。山地一帶森林

ノカミ 野上 栃木縣下野國安蘇郡の北部。田沼町の北方にて間に三好村を挟み南北に長き大村なり。足尾山塊東斜面の一部を占め、北境附近には根本山(一一九七米)・熊鷹山(一一六九米)・丸岩岳(一一二五米)・水守山等聳え、村の東境・西境共にこれ等諸山につづく山地連互して次第に東南に低下し、村の中央はその場合に於て野上川東南に流る。山地一帶森林

ノカミ 野上 栃木縣下野國安蘇郡の北部。田沼町の北方にて間に三好村を挟み南北に長き大村なり。足尾山塊東斜面の一部を占め、北境附近には根本山(一一九七米)・熊鷹山(一一六九米)・丸岩岳(一一二五米)・水守山等聳え、村の東境・西境共にこれ等諸山につづく山地連互して次第に東南に低下し、村の中央はその場合に於て野上川東南に流る。山地一帶森林

ノカミ 野上 栃木縣下野國安蘇郡の北部。田沼町の北方にて間に三好村を挟み南北に長き大村なり。足尾山塊東斜面の一部を占め、北境附近には根本山(一一九七米)・熊鷹山(一一六九米)・丸岩岳(一一二五米)・水守山等聳え、村の東境・西境共にこれ等諸山につづく山地連互して次第に東南に低下し、村の中央はその場合に於て野上川東南に流る。山地一帶森林

ノカミ 野上 栃木縣下野國安蘇郡の北部。田沼町の北方にて間に三好村を挟み南北に長き大村なり。足尾山塊東斜面の一部を占め、北境附近には根本山(一一九七米)・熊鷹山(一一六九米)・丸岩岳(一一二五米)・水守山等聳え、村の東境・西境共にこれ等諸山につづく山地連互して次第に東南に低下し、村の中央はその場合に於て野上川東南に流る。山地一帶森林

ノカミ 野上 栃木縣下野國安蘇郡の北部。田沼町の北方にて間に三好村を挟み南北に長き大村なり。足尾山塊東斜面の一部を占め、北境附近には根本山(一一九七米)・熊鷹山(一一六九米)・丸岩岳(一一二五米)・水守山等聳え、村の東境・西境共にこれ等諸山につづく山地連互して次第に東南に低下し、村の中央はその場合に於て野上川東南に流る。山地一帶森林

この紅崖片岩は分布甚だ狭く世界的に珍らしき岩石なり。また長瀬に近き處より川岸に沿ひて下れば石墨片岩・絹雲母片岩の間に数多の石英脈を見、大黒岩と稱する赤鐵磁岩の甚だしく褶曲せるものも眺め曲淵に達するや、石墨絹雲母片岩・綠泥角閃岩・絹雲母片岩等見事に露出す。長瀬の東方には當地の礦物・植物・化石等を採集したる標本陳列所あり、一日の遊樂、又は地質・礦物の見學地として究竟の好適地たり。(寶登山神社) 大字藤谷淵に鎮座。祭神、神日本武尊彦命・火産靈命・大山祇命。日本武尊征夷の初、當山にて敵傍山東北陵を遙拜せらる。時に山中に猛火起りしに巨大現はれて之を鎮む。尊これを大山祇命に従ふ靈犬なりとし、當山の鎮護として大山祇命、火防の守護として火産靈神を祀り給ふと傳ふ。例祭、四月三日。

村・岩手村等に互り、野上はいま關ヶ原町の大字にその名残る。
【野上電氣鐵道】社線。和歌山縣海南市の日方驛より海草郡野上村を抜けて那賀郡中野上村を経て東野上村の生石驛に至る一・四軒。日方驛は省線紀勢西線の海野上驛に近く、日方驛より東野上村の紀伊野上驛間は、大正五年開通し、紀伊野上驛より生石口驛間は昭和三年開く。軌間は一・〇六七米、省線と連帶運輸す。
【野上】紀伊國(和歌山縣)の古地名。中世の莊號にて貴志莊の南に隣る。その地いま那賀郡を流るる紀ノ川の一支野上川の中流の兩岸に互り、東野上・南野上・中野上・北野上・小川の諸村の地即ち是なり。
【野上】伯耆國(鳥取縣)の古地名。和名抄に日野郡野上郷あり、中世は二部莊といふ。其地、ま日野郡二部村(大正十年二部村・野上村を廢して置けるもの)及び溝口町の南部に互る地をいふ。
【野上】廣島縣深安郡にありし村。大正二年福山町(大正五年市制を布く)に合併す。
【野上村】大分縣豐後國玖珠郡の東部。岡平山西北麓の地に於て筑後川上流玖珠川の源流地を占め、東は速見郡と界す。南方に扇平火山(二八八八米)聳えて、本村南部はその北及び西北一帯の中腹より山麓に互る高嶺なる緩傾斜の山地なり、北境に西部の青野山(八五一米)より約八

九百米程度の山脈が東北方に連りて村境を限り南へ稍急斜す。兩山地の中央に此地に發する玖珠川西流す。沿岸にやや耕地を見る。山林及び原野面積廣し。竹林處々にあり。縣道河谷に沿ひて本村を横斷し、省線久大本線また此地を貫きて豊後中村(昭和三年設置)、野矢(大正十五年設置)の二驛あり。此地は中世、飯田郷に屬し、本郡清原氏の一族野上氏の居りし所。蓋し此の地に在るを稱せしものなるべし。明治二十九年、飯田村の大字野上、後野上、及び東飯田村の大字野上を合して本村を置く。(鉾神社) 大字後野上に鎮座。祭神、阿蘇津彦命・嶽岩立命・阿蘇津姫命。古來當村の産土神として崇敬せらる。例祭、四月十七日。
ノカミ 野神牧 大隅國(鹿児島縣)の古地名。三代實録貞觀二年十月大隅國野神・吉多二牧を廢する記事あり、刻本の頭書に野神は野裡の訛なるべしといふ。和名抄肝屬郡に野裏郷あり、恐らくは野裡牧も此の内なるべし。いま同郡に内之浦町あり、野裏は内之浦の内、脱落せしものならんといふ。

乃木村 島根縣出雲國八束郡の中部。松江市に南隣して突道湖に臨む。南部及び東北隅に小丘陵ある外は地形一般に平坦なり。南部には一小流北流して流域一帯に耕地拓く。米・藁の農産及び工業・林産・畜産・水産あり。山陰道および省線山陰本線は西岸を通過し後者に乃木驛(昭和十二年設置)あり。古くは和名抄、意字郡忌部郷に屬す。(善光寺) 大字乃木にあり。時宗、一礮山。宇治川の先陣に名高き佐佐木高綱の創立して餘生を送りし處。本尊は源賴朝の守木尊なりきといふ。境内に高綱の納骨塔及び乃木大將一家の齒髮塔あり。乃木大將は高綱の後裔にして、在世中屢々參拜されたり。(松江競馬場) 競馬は春秋二回に開催され、百數十頭の駿馬出場し、走路の完全なること關西稀に見るところなり。
ノキ 野木
【野木村】栃木縣下野國下都賀郡の南端。間々田町の南隣にて、南は茨城縣城島郡古河町その他と隣る。西南境附近は渡良瀬川・思川の合流點をなし、全村平地にて耕地よく拓げ米・藁の産多く、また藁も盛なり。陸羽街道は西部を北走し間々田町・古河町へパスの便あり。省線東北本線またこれに沿ふも村内に驛なく、間々田町に間々田驛、古河町に古河驛を置く。明治天皇、明治九年、奥羽の巡幸の際及び同十四年山形・秋田及び北海道行幸の際、この地に御小休あらせらる。此地は舊奥州街道の野木宿のありし所に於て、和名抄寒川郡野木宿の内。養和元年二月、源賴朝の伯父志田三郎義廣賴朝を討たんとし、當時より三萬餘の兵を率ゐる下野に入る。時に小山朝政、千餘騎を以て此地に陣して義廣の軍を討たんとし、人を以て林の梢に昇らしめて聲を發

せしむ。義廣その聲に惑ひ周章す。朝政之を襲ひ義廣の軍大敗して信濃に走れりと。(野木神社) 大字野木宿に鎮座。郷社。祭神、菟道稚郎子命・齋田別命外四柱。仁徳天皇御宇、下野國造奈良別命の當國赴任の際に菟道稚郎子命を祀れるをその創建とす。弘安四年の元寇異變に夷狄退散祈願のため齋田別命外四神を合祀す。延暦年間坂上田村麿は蝦夷を討ち凱旋の途次、その報賽として現社地(もと豪手稱し鎮座)に遷祀す。當時は大領大總社と稱し源賴朝・將軍頼家の崇敬あり。足利季世の戦亂相次ぐに地領失はれ社殿も傾廢せしが、元和年中徳川秀忠は黒印地十五石を寄せ社運舊に復す。其後古河城主(小笠原・奥平・土井氏等)代々崇敬、領内の鎮守・祈願所と定めたり。例祭、陰曆七月四日。(法得寺) 大字佐川野にあり。眞宗本願寺派。高榮山上宮院。もと天台宗なりしが、仁治三年第三代住持澤空、親鸞門侶二十四輩の第一飯沼性信に歸して現宗に改む。
【野木村】 福井縣若狹國遠敷郡の東部。北川の右岸に位し小濱町の東方約五軒にあり。西南部は川に沿ひ細長ノ西北方へ突出す。東部北半は東・北・西の三面山地に圍まれ中央に河川南流し南境に沿ひて西北流する北川に合す。北川に沿ひて細長ノ野野達す。西北部は山地南斜面をなす。田畑よく拓げて米・藁を産す。丹後街道東南部を東西に走り北川を渡り

て西方小濱町に向ふ。丹後街道より分れて北川北岸を西に走る街道あり。省線小濱線は隣村内を東より南に繞りその三宅驛(三宅村)は東南約〇・五軒、新平野驛(松永村)は西南約〇・五軒にあり。此地は和名抄、遠敷郡玉置郷の内なるべく、大字玉置は郷の遺稱なるべし。東鑑、元暦元年の條に若狹國玉置郷を圍城寺に寄附のこと見ゆ。これ蓋し木村の地なるべし。
ノキ 野城・能城 ↓能義村(島根縣)ノキ 能義
【能義郡】 島根縣十三郡の一。出雲國の東端。中海に臨む。東北方約一軒には米子市あり。東及び南は島根縣に圍まれ伯太川・飯梨川流域の地を占む。南境には八〇〇米餘の山脈略ぼ東西に走り、西南境に五峰山(八二〇米)・三郡山(八〇六米)等聳ゆ。三郡山より北方更に東北方へ連る一脈西境を限りて北麓中海岸近く及び、其他數條の支脈東北方へ連り、東境を限りて北方に延るものは東北部に低き臺地狀丘陵となりて起伏し中浦に岬を延す。そのうち八尋鼻は中海東南隅米子灣の西北を圍む。河川は西に飯梨川、東に伯太川ありて共に北流し北方にて流路相接し中海に注ぎ、河口に兩者共力による三角洲突出す。附近平野一帯に開け安來平野と稱す。低地は水利の便よく米・藁を産し生牛の産亦多く外に梨・清酒の特産あり。安來町・廣瀬町には工業行はる。郡内前記の二町外十四箇村を含む

み平均人口密度一・三人なり。北部に山陰道及び省線山陰本線通過し、西隅荒島驛より廣瀬町へ社線廣瀬鐵道通じ、廣瀬町より更に東北方米子市方面に至る縣道あり。また安來町より南走する道路もありて北部は自動車の便よし。本郡はもと意字郡の六郷を割きて置きしものなるもその年代は詳ならず。和名抄は乃支と註し舍人・安來・楯縫・口縫・屋代・山國・母理・野城・賀茂の九郷を管す。爾後大なる變動なし。
【能義村】 島根縣出雲國能義郡の北部。飯梨川右岸に沿ひ、安來町の南に接す。南部に約四〇〇米の山地ある外は北隅に八八米の丘陵あれども、地形概して平坦にして飯梨川西境を北流し、途中伯太川分れて東北流す。地味肥沃灌漑の便よく農産物の産出郡内最高位を占む。米・藁・鶏卵・畜産・林産及び清酒其他の工業あり。縣道中央を横斷し省線山陰本線安來驛及び南方廣瀬町へ自動車の便あり。古くは野城・能城に作り、出雲風土記に意字郡野城郷あり、これ意字郡の東部を割きて能義郡を置きし時の郡家のありし地か。延喜兵部省式に出雲國野城驛馬五正と見え和名抄には能義郡能城郷見ゆ。
【能義神社】 大字能義に鎮座。縣社。祭神、天穗日命・大己貴命・事代主命外十柱。貞觀十三年十一月從五位上に陞敘せられ、延喜式意字郡四十八座の一たり。古來朝廷の崇敬篤く、室町の季世、尼子

兵直の時に當りて殊に社運隆昌せり。例祭十月十九日。(意多夜社) 村社。祭神、大國魂命・大田命外一柱。式内社。俗稱假生明神。例祭、九月九日。
ノギサワ 野木澤村 福島縣磐城國石川郡の西部。石川町の北に接し、西は阿武隈川を隔てて西白河郡に對す。地勢東部に高く、西方に傾斜し、丘陵性臺地をなす。阿武隈川は西境を北流し、沿岸に耕地拓く。米・藁・苧蓆・葉煙草・馬等を産す。石川街道は西部を南北に通じ北方岩瀬郡須賀川町、南方石川町へパスの便あり。省線水郡線は略石川街道に並行して走り大字中野に野木澤驛(昭和九年設置)を置く。此地は和名抄、白河郡藤田郷の内なり。村内に藤田城址あり。石川源太右光の嫡子、遠江守光祐、ここに據り、治暦年中より石川四郎家光の居城となり子孫相繼いで居る。中務大輔清光の時、天正十六年、石川大和守昭光のために城を落さる。
ノギタ 野北村 福岡縣筑前國糸島郡の北部。北及び西は壹岐海峽に臨み東南約三・五軒に前原町あり。南部には火山(二四六米)屹ちて西麓は海に濱す。北部には彦山(二三二米)聳りて北麓及び西麓は海に迫り、殊に西北岸は斷崖をなし三瀨岬あり。中部には低平なる平野あり。主邑は彦山南麓の海岸にあり。米・藁等の農産及び水産・林産あり。省線肥前線筑前前原驛へは東南約六軒にしてパスの

ノクチーノコキ

便あり。この地は和名抄、志摩郡明敷郷の内なり。

ノクチ 野口

【野口村】茨城縣常陸郡那珂郡の西部。那珂川の北岸にあり。南方は東茨城郡澤山・伊勢畑の二村と相對す。八溝山脈一支脈の一部を占め、北部・東部は低き山地にて森林あり。那珂川流域及び、東部を南流して本流に合する緒川の流域には平地ありて米・麥を産す。縣道四方に通じ、對岸澤山村に社線茨城鐵道終點御前山驛ありて縣道を通ず。此地は和名抄、那珂郡川邊郷の内なるべし。村内に佐竹行義の六子、景義の居りしといふ館址あり。【壽命寺】大字野口にあり。眞宗本願寺派。信照山蓮臺院。觀音門下二十四輩の第十六、穴澤入信の舊跡たり。入信房もと穴澤の地に在りしが、觀音の命により眞應元年、本寺を創建すといふ。【野口】京都府愛宕郡にありし村。大正六年、京都市に編入す。

【野口】丹波國(京都府)の古地名。和名抄に船井野口郷あり。延喜兵部省式に丹波國野口驛々馬八疋とあるは、郷にして驛を兼ねしものなるべし。郷城は東本梅・西本梅・摩氣村の邊に當る。【野口村】兵庫縣播磨國加古郡の西部。加古川町の東に接し、南は別府町を距て播磨灘に近し。全村地形低平にして沃野開く。米・小麥・粟・粟藁・食用大豆・蔬菜・花卉・蔞餅・蔞製品・及物、

四六四

本製品等の産あり。山陽道中央を通過しその北に省線山陽本線通じ、加古川驛(西北方約一・五軒)に近く、バスの便あり。此地は和名抄、賀古郡餘戸郷の地なり。増鏡に主上(後醍醐帝)は隱岐の島より還幸、其十二日加古川宿におほします。妙法院宮は此川の東、野口迄参り給ふ、などと野口の名見ゆ。野口城址あり、別所氏の家臣長井四郎左衛門これが城主たり。天正六年、羽柴秀吉、三木城を攻めんとして先づ書寫山に陣し、進みて當城に至り沼地を埋めて攻撃するに及び城遂に陥る。【野口神社】大字野口に鎮座。郷社。祭神、速玉男命・品陀別命・大山咋命等五柱。もと五所大明神と稱し、古來同郷八箇村の氏神たり。例祭、十月十五日。【教信寺】大字野口にあり。淨土宗西山派。念佛山法泉院。加古教信沙彌(貞觀七年寂)の開創に係る。往古寺觀頗る隆盛にして支坊五十餘院、寺領八百石、佛具料三千貫を有せしが、のち盛衰ありて現に地方屈指の名刹たり。

【野口村】和歌山縣紀伊國日高郡の西部。日高川河口近くの左岸に位し、西は川を隔てて御坊町にして、西南は約一軒を距てて太平洋なり。南部は約一五〇—二〇〇米程度の山地をなし、その北部に見山(二五二米)あり。北部は低地開け、日高川は北境に沿ひて北方へ彎曲して流れ、御坊町との間を西南流して約一軒先にて海に注ぐ。米・蔞・柑橘等の農産及び畜産・工業・林産あり。縣道南部を東西に走り山地北麓にも街道を通ず。省線紀勢西線道成寺驛は北約一軒、和佐驛は東約一軒にあり。この地は和名抄、日高郡岩淵郷の一部にして、大字岩内は岩淵の訛れるものなりと云ふ。

【野口】周防國(山口縣)の古地名。和名抄に玖珂郡野口郷あり、延喜兵部省式に周防國野口驛々馬二十疋とあるも此地の中にして郷を以て驛を兼ねたり。郷城は高森町・米川村に互り、驛址は高森町の大字久原の邊に求むべきか。

ノクチコロ 野口五郎岳

日本北アルプス鳥帽子連峯の一峯。高瀬川の左岸に位し、長野縣北安曇郡平村と富山縣上新川郡大山村との境上に跨る。標高二九二四米。東北は三ツ岳(二八四五米)を経て鳥帽子岳(二六二二米)につゞき、南西は鷲羽岳(二九二四米)を経て、三俣連峯岳(二八四一米)につらなる。東麓は高瀬川の深谷に刻まれ、西南方は黒部川支流の東澤谷溪水の發源地をなし、これを距てて水晶山(二九七九米)對峙す。登山は北東方信濃大町より高瀬川を進行、葛温泉・濁小屋を経て鳥帽子岳に至り、山麓を縦走するか、或はまた三俣連峯岳より尾根を傳ひて行ふ。この山は多く槍ヶ岳乃鳥帽子岳より縦走の際通過せらる。

ノケエボシ 仰烏帽子山

九州山脈中部の一峯。球磨川上支川邊川の中流右岸に峙し、熊本縣球磨郡四浦・山江・五木の三村に跨る。標高一三〇二米、山體秩父古生層より成る。南嶺に高岳(一一八九米)あり。南西斜面より萬江川發し、南流して球磨川に落つ。北麓の五木村は封建的なる社會制度行はれ、また西南の役には戰場となりし地なり。

ノコギリ 鋸・鉦

【鋸山】日光火山群の一峯。中禪寺湖の西方に當り、東側は栃木縣那須郡足尾町と日光町に、西側は群馬縣利根郡東村に屬す。標高一九八〇米。北麓は宿堂坊山、錫ヶ岳を経て白根山に連り、南麓は皇海山に接し、東麓は黒槍山に接す。西斜面は浮川の水源地にして、西南流して片品川に注ぐ。東北方は中禪寺湖の碧波の上に男體山等、日光火山群の雄姿を仰望す。

【鋸山】關東山脈秩父山塊なる多摩連山の一峯。武州御岳山(一〇七〇米)の西方に當り、南側は東京府西多摩郡檜原村に北側は水川村に屬す。標高一〇四七米にして、頂上部は鋸齒狀の美事なる尖峯をなす。東麓は大岳山(二六七米)を経て御岳山に連り、西麓は御前山(一四〇五米)を経て三頭山(一五二七米)につゞく。これ等の諸山には尾根路通じ、縦走興あり。

【鋸山】越後山脈北部に於ける一峯。長岡市の南東方約八軒に當り、東側は新潟縣古志郡酒吉村に、西は半藏金村に屬す。標高七六五米。山體火山岩より成り、鋸齒狀の山姿を有す。

【鋸山】日本南アルプス駒ヶ岳山塊の一峯。山梨縣北巨摩郡鳳來村と長野縣上伊那郡美和村との境上に跨る駒ヶ岳の北北東に峙し、標高二六〇七米。南東麓は三ツ頭を経て主峯駒ヶ岳(二九六六米)へ連り、西麓は横岳に續き次第に低夷す。北面は北流する釜無川水源中ノ川の溪谷にして、南面は西流する戸臺川の上一源赤河原の溪谷を距てて仙丈岳(三〇三三米)

ノコシマ 殘島村

福岡縣筑前國早良郡の北部、殘島より成る。博多灣河口にあり。東西約一軒、南北約二軒、面積は三・九三方軒にして本郡最小の村。島の中央に一九五米の最高點あり、北方も亦やや高く海に向つて急傾斜し也良岬を形成す。南部海岸に僅に低地あるも耕地面積は極めて少し。古く延喜式に能古牛牧とあるは此地にして、當時は牛、舊藩時代は馬の放牧をなし、また古來鹿防址の大規模なるものあり、且つ黒田藩侯の獵場となり、鹿を放ち禁獵區にせし事等より可耕地狭く、その上賦課を蒙ること多く且つ水利に乏しく、島民に漁業及び狩場の勢子などの農業以外の生活方法ありて耕土に不慣れとなる。斯の如く農業を輕視せぬ迄も比較的無關心なる慣性も

ノコミ 能古見村

佐賀縣肥前國藤津郡の中部。經ヶ岳の北斜面に位し、北は鹿島町の南に接す。南部は山嶺を距てて長崎縣東彼杵郡に界す。南境には經ヶ岳(二〇七六米)聳えて北方へ傾斜し、其の

四六四

ノコキーノコミ

【鋸山・鉦山】上總・安房二國境上に跨る山にして古來その名を知らる。浦賀水道の東岸近く時ち、東京灣の門戸を扼す。南側は千葉縣安房郡保田町に北側は君津郡金谷村に屬す。標高三二四米。山體第三紀層の凝灰岩、謂ゆる房州石より形成され、山腹以上は尖銳なる數峯に分れ山名の如く鋸齒狀を呈す。附近航海者には好目標たり。山の西端部を明鐘崎と稱し、嶋岩海中に突出し景勝地をなす。また山頂部に十州一覽臺と稱する展望臺あり。こゝよりは伊豆半島の突端より天城・箱根の連山は勿論、麗峯富士・丹澤山塊・秋父連山の山嶺、さては湘南の丘陵・觀音崎・城ヶ島等繪の如き展望を一眸に收む。山腹に乾坤山日本寺あり、聖武天皇神龜年間(僧行基の草創と傳へ、聖武天皇勅願所なりしが元弘元年烏有に歸し、愚僧僧都は大野其五郎に命じ一千二百體の羅漢像を刻ましめ復興すと傳ふ。之等の像は寺上の岩窟に並び收まる。この岩窟は凝灰岩の比較的軟き部分に強き南風砂を吹き付けて削磨せし風蝕洞窟なり。羅漢を安置する故に羅漢窟の名あり。尙寺内に元亨年間の古鐘あり。山の北側より房州石を伐出す。元は盛に伐掘せられしが今は栃木縣産の大谷石に代られ全盛時代を過ぎたる觀あり。石材を伐り出せし跡は斷崖をなし、壯觀を呈す。谷文晁は此山を北方の鹿野山と共に名山圖繪の中に收めたり。今は公園となり婦女子一

ノコキーノコミ

ノコキーノコミ

ノコキーノコミ

北麓中央に浄土岳(五〇一米)、西部には三嶽山(五〇一米)を起す。北部には平野開けて北方へ續き中川中央を東北流す。米・麥・蕎麥・茶等の農産物及び木炭を出し外に笠の産あり。省線長崎本線鹿島町を通過しその肥前鹿島驛は東北方約二軒あり。此地は和名抄、藤津郡能美郷の内なり。古へ日代宮御宇天皇(景行天皇)行幸の際、ここに土蜘蛛三人あり、その名を大白・小白・小黒といふ。降伏を肯せず、依りて陪從を遣して之を誅滅せんとせしかば大白等三人叩頭して降りり。〔三嶽神社〕大字三川内に鎮座。郷社。祭神、押武兼日命・水女神・日本武命。光仁天皇寶龜二年、大和國吉野水女神を分祀せるものと傳ふ。上下宮に分る。例祭、十一月三日。〔蓮嚴院〕大字山浦にあり。古義眞言宗。御室末。本尊藥師如來坐像(木造)は藤原時代の作にて、傳定朝作阿彌陀如來坐像二軀(木造)と共に國寶なり。

ノサカ 野坂

〔野坂岳〕敦賀市の南西方約八軒に當る山。福井縣敦賀郡栗野村に屬し、西側は三方郡耳村に互る。標高九一四米、山體秩父古生層より成る。山頂よりは北方に敦賀灣並びに日本海の碧波を望み、南方には三國連嶺の山濤を眺めて美し。この附近は降雪量多く、頂上部は良きスキー・ゲレンデをなし、またスキー・クラブに適す。山頂部に一小祠あり。北麓に小濱

線及び丹後街道通じ、また敦賀歩兵第九聯隊兵營あり。南東方より笙ノ川發源し、北流して敦賀灣に注ぐ。

〔野坂〕因幡國(鳥取縣)の古地名。和名抄に高草郡野坂郷あり、乃左加と註す。東大寺天慶三年文書には高草郡野坂郷見ゆ。その地いま詳かならざるも、恐らくは氣高郡の明治村・豊實村にわたる地ならん。

〔野坂峠〕中國山脈西南端部を乗越す峠の一。北側路は島根縣鹿足郡津和野町に南西側路は山口縣阿武郡徳佐村に屬す。最高點約三五〇米。南西側路に徳佐村字野坂あり。山陰道は略この峠路に沿ひて走り最高點の西方にて隧道を穿ちて東西に走る山稜を通過す。藩政の頃は津和野の城下町を控へて往來繁き峠路たりき。

〔野坂〕筑前國(福岡縣)の地名。和名抄に宗像郡野坂郷見え、乃左加と註す。宇佐宮の永仁五年の文書に筑前國野坂郷とあるも此の地を稱せしものなるべし。その地いま南郷村(明治四十四年野坂村・宮田村を合併して置けるもの)の地に當り、大字野坂は御莊名の遺稱とす。この地の許斐山に宗像大宮司の家人許斐氏の居りし城址あり。

〔野坂〕肥後國(熊本縣)の古地名。和名抄には熊本縣野行郷と見ゆるも誤なるべし。萬葉集卷三に「背北の野坂の浦ゆき」とありによりて野坂と訂す。その地いまの熊本縣田浦村の地なるべし。

ノザキ 野崎

〔野崎村〕栃木縣下野國那須郡の西部。西那須野町の西南隅にて、西は鹽谷郡矢板村・泉村・片岡村と隣す。那須野々原の西南端を占め、帯川は村内を東南に流れ、沿岸に耕地開けて米・麥を産し、養蠶も行はる。陸羽街道は中央を東北に走り、省線東北本線また之に沿ひて大字薄葉に野崎驛(明治三十年設置)を置く。本村の大字薄葉は天正十三年三月、鹽谷伯耆守義綱が川崎城を攻落し、喜連川を取り返さんと鹽谷安房守孝信を先陣として其勢三百餘を以て此の原に向ひたり、これを聞きし那須實晴は大關入道安碩と謀り山田筑後守業辰・岡本對馬守氏宗等百餘騎を馳向はしめしが山田・岡本討死す。これ即ち薄葉ヶ原の戦なり。

〔野崎〕大阪府北河内郡四條村の大字。省線片町線の野崎驛(明治三十二年設置)を置く。

〔野崎村〕和歌山縣紀伊國海草郡の西北部。紀ノ川河口近くの右岸に沿ひ和歌山市の西北に接す。西は海村及び其北の松江村が隔てて紀伊水道に近し。地形平坦にして紀ノ川は南境を西南流し約三軒先に海に注ぐ。紀ノ川支流の細流村を洗ふ。米を主として農産物を出し、畜産・織産もあれど紀ノ川河口に位するため林産物も多く、また和歌山市に隣接して綿織物その他の工業頗多し。和歌山市より北方へ走る縣道及び西北方加太町に至る縣

ノサワ 野澤

道中央を横切り、社線南海電線東部を掠めてその紀ノ川驛(楠見村)は東北境に近く、また和歌山市驛(南約〇・五軒)にも近し。西南部には社線加太電氣鐵道の北島(大正三年設置)・島橋(明治四十五年設置)の二驛を置く。〔總持寺(龍取本山)〕大字龍取にあり。淨土宗西山派。受陽山知足院と號し、同派檀林七箇寺の一なり。寶徳二年、明秀光雲の開創に係り、のち後奈良・正親町兩天皇より勅願寺の綸旨を賜はる。いま末寺八十八箇寺を有し當派當國第一の巨刹たり。

ノザト 野里

〔野里〕省線播磨線の一驛(明治二十七年設置)。兵庫縣姫路市西中島にあり。

ノザリ 野利

〔野利〕省線古江線の一驛(大正四年設置)。鹿児島縣肝屬郡大始良村にあり。

ノザワ 野澤

〔野澤村〕青森縣陸奥國三戸郡の略中央部。三戸町の北方約八軒。地形東西に長く約一八軒あり。西境は海拔約五百米にして東方に傾斜し、浅水川は西部に發源して村の略中央部を東流す。全村概ね山地にて川の兩岸に耕地拓くのみ。四大字中、銀部を除く三大字は主業の米作の外に林業を栽培し津輕林檎中最も譽價あるものを産出す。冬季は薬工品の製作に従事するも近時養蠶・養豚業行はる、に至り羽州街道は東部を南北に通じ、南方東北本線三戸驛へは自動車便あり。〔野澤村〕青森縣陸奥國南津輕郡の北部。

ノシャツブ 納紗布崎

〔納紗布崎〕北海道根室國花咲(根室)半島の尖端にある崎。北海道本島の最東端にして花咲郡南舞村にあり。岬上の最高點は僅かに二八米に過ぎず。崎の南岸に一小灣ありて夏季採藻のため附近の小島に赴く小舟の好寄泊港をなす。附近海上は冬季は流氷、夏季は濃霧に襲はれ且つ島嶼・岩礁散在し船舶航行に注意を要する所なり。ために岬頭に納紗布崎燈臺(明治五年設置)を置く。燈質は毎三秒一閃光(紅光分派)の閃白光にして光達距離一四・五哩。なほ霧笛の設置あり、三十秒を隔て五秒吹鳴す。

ノジュー 野中村

〔野中村〕富山縣越中國下新川郡の北部。舟見町の北に接し、泊町の南方約四軒の地。黒部川アルタの東部を占め南へ僅かの傾斜あり、ほぼ中央を小川南へ貫流す。全村水田開け、農業を主産業とす。米・麥・黒部西瓜の産あり。南北に走る二條の縣道により舟見町より泊・入善兩町へいづれもバスの便あり。村名はノナカとも讀む。

ノシリ 野後

〔野後〕出羽國(羽前・山形縣)の古地名。延喜兵部省式に出羽國野後郡馬十疋と傳馬三疋、三隻と見ゆ。この譯は陸奥、出羽兩國府を結ぶ官道にありしものにして、もと玉野(いま北村山郡宮澤村の地内)にありたりしを、後に最上川畔の大石田町(いま北村山郡)の地に移したるものなるべし。大石田町の大字に今宿と

北は北津輕郡に接し、その五所川原町の東南約一二軒にあり。東北境は海拔約一五〇米にして南方に傾斜し一部は山地をなすも、他は概ね平坦にして津輕平野に屬す。山麓地帯には池沼多し。米・林檎を産す。道路は西部を西北に通じ五所川原町に至る。東方奥羽本線浪岡驛へは約二・五軒、自動車の便あり。郡の中心黒石町へはバス通ず。〔神明宮〕大字銀に鎮座。郷社。祭神大日靈尊・譽田別尊・天津兒屋根命。古來、舊館組中の産土神として崇敬せらる。例祭、四月十六日。

〔野澤町〕福島縣岩代國河沼郡の西部。西は新潟縣東蒲原郡東川村に接す。越後山脈の東斜面に屬し、西境には南より高陽山(九〇四米)・金凍山(九二五米)・大倉山(九五〇米)等ありて東方に傾斜し、安座川は西南境に發源して東北方に流れ阿賀川に合し、長谷川は東北境をなして北流し阿賀川に入る。全町概ね山地をなすも東北部のみは平坦にして河成段丘發達し、また市街あり。米・蕎麥・木材を産す。越後街道は町の東北部を西北方に通ず。省線磐越西線また之に並走して野澤驛(大正二年設置)あり。本村は明治四十年に町制を布き、大正十四年に芦草越村・正中村を編入す。大槻の通照寺々城は大槻城のありし所、城主は伊藤氏なり。〔赤羽根嶺山〕常町と下谷村に跨り鑛區七十七萬餘坪、重要鑛山に屬す。鑛種は金銀銅鉛亜鉛なるが、昭和十年には金銀

鑛區四、三一五坪を採す。鑛石は日支鐵山に送りて合併製鍊す。昭和十年六月末の使用鐵夫一三二人にして現在日本鑛業會社の經營とす。〔諏訪神社〕大字諏訪東に鎮座。郷社。祭神、健甕名方命。永仁二年蘆名盛宗、信州諏訪より勸誘すと傳ふ。爾來代々の領主尊崇篤し。舊野澤組四十四ヶ村の産土神。例祭、九月十五日。

〔野澤〕長野縣信濃國南佐久郡の北部。千曲川の右岸。佐久平の南部を占め、南は白田町に接し、東北は川を境に中込町に對す。土地は概して平坦にして澁水の便よく水田多し。白田町と共に南佐久主要の大邑にて、附近の農産物、蕎麥の集散地にして製糸・製紙の業も盛んなり。また蝸にて飼ふ佐久鯉も山國にありて名高し。南北・東西に縣道貫通し、省線小海線中込驛に近く、白田町・北佐久郡岩村田町へはバスの便もあり。此地はもと伴野庄に屬せり。大字跡部は戰國の頃、武田家の重臣たりし跡部・小宮山など皆この邊を本據とせるもの如し。

ノシ 野地

〔野地〕香妻村(福島縣)の古地名。和名抄に高草郡野地郷あり、乃左加と註す。東大寺天慶三年文書には高草郡野地郷見ゆ。その地いま詳かならざるも、恐らくは氣高郡の明治村・豊實村にわたる地ならん。

ノシマ 野島

〔野島崎〕千葉縣安房郡白濱町にある岬角。房總半島の最南端に位し、島崎部落より南方に突出すること約五〇〇米に達し、その先端は怒濤激を噛みて壯觀を呈す。半島の頸部やや低く、もと海水が越

あるは玉野の舊跡に對して新譯たることを語るものなり。船五隻は最上川の渡船なり。

【野後】 上野國(群馬縣)の古地名。和名抄に碓氷郡野後郷見え、能之利と註す。延喜兵部式に上野國野後驛々馬十疋とあるは本郷の驛を兼ねたるなり。其地、碓氷郡安中町・原市町に當り、驛址は安中町の中ならんといふ。安中町に野尻の地名も残れりといふ。

【野後】 日向國(宮崎縣)の古地名。延喜兵部式には日向國野後驛々馬五疋と見ゆ。日向國より肥後球磨郡に出づる街道ここにかゝる。いま西諸縣郡野尻村はその遺稱なり。附近は明治十年西南之役の古戰場たり。

ノシリ 野尻

【野尻】 福島縣大沼郡にありし村。昭和二年に大戸村と合し、昭和村を建つ。

【野尻村】 富山縣越中郡東礪波郡の西部。和名抄、礪波郡高楊郷の内なるべく、中世に野尻郷に屬す。福野町の北、西礪波郡津澤町の東南に接し、西は小矢部川を境に西礪波郡に接す。礪波平野の中部を占め、灌水よく水田開く。農業を主産業とし米を主産し、繭・多も僅かに産す。また賣薬の特産も相當にあり。東部を省線中越線南北に貫通し、高橋驛(明治三十二年設置)あり、また社線加越鐵道通し、本江驛(昭和八年設置)・柴川屋驛(大正十五年設置)あり。福野町・津澤町及び出町へ驛

道通じ、自動車の便よし。

【野尻湖】 長野縣上水内郡にある湖。長野平の北、關川の上流にあり、湖岸は信濃尻村・古間村に亘る。妙高・黒姫・飯繩の三火山を西にし、斑尾火山を東に控へて大沼浸地帯の一部に灌水し、斑尾火山の噴出物によりて堰止められしものなり。湖岸線は複雑にて高度六五四米に位置し、面積は三・八六平方千米にて湖岸延長一四・〇千米。北方に延喜島といふ火山島あり。深度は縦々崎と對岸の龍宮鼻との中間にて三八米を示し、注入川はあまりなく、排水川の池尻川は北流して關川に注ぐ。水色は緑にて透明度が約七一・一米、夏に特に透明なり。二・三月にわたる四〇日間は結氷するも不定にて、降雪多きためスケートは不可能なり。浮游生物としては珪藻が稍々多し。魚類としてはマス・コヒ・フナ・ウケヒ等が主なるものにて産額は餘り多からず、底質は珪藻微泥なり。湖畔は避暑地として近年次第に繁榮し、殊に南岸には外國人の夏期寮落多し。また古くは、永祿七年七月上杉謙信の宿將宇佐美駿河守定行が謙信の旨を承け、信濃上田の城主長尾越前守政景(一に義景に作る)を招き、野尻湖の漁獵に事よせて、ともに縦々崎より乗船し、俄かに船を沈め、ともに没せり。政景は景勝の父なり。

【野尻】 長野縣西筑摩郡大桑村の大字。省線中央本線の野尻驛(明治四十二年設置)を置く。

置)を置く。

【野尻村】 熊本縣肥後國阿蘇郡の東南部。阿蘇火山の東麓と九州山脈の雄峯祖母山とに亘る地域を占め、東北は大分縣直入郡に隣接し、東南は宮崎縣西臼杵郡に界す。地形西部に高く東北方へ緩く傾斜し、その東麓は大谷川北流す。東隅は九州山脈に屬する山地の一部にて、東方に聳ゆる山脈の最高峯祖母山(一七五八米)の西麓をなし、西北麓に越後嶽(一〇六九米)あり。耕地乏しく大部分は原野にして畜産に適し阿蘇馬の産地たり。南部より東部には西南高森町より東北方竹田町へ通ずる縣道走り、高森町へ至るバスの便あれど交通一般に不便なり。この地は豊後竹田に向ふ街道の一驛にして、風土記の直入郡柏原郷の内たり。維新の勤王家たりし野尻維則(贈從五位)は本村の人。

【野尻村】 宮崎縣日向國西諸縣郡の東南部。大淀川の左岸に沿ひ小林町と高原町の東に隣る。東南は川を隔てて北諸縣郡高城町に對し、東及び東北は東諸縣郡高岡町・鏡町に界す。東西に細長し。北境には約五・六百米の山脈が臺地狀の丘陵となり、南中はその山脈が臺地狀の丘陵となり、特に中央は平坦なる臺地をなす。南境には岩瀬川これに沿ひて東流し南方郡城方面より來りて東南境に沿ひて東流する大淀川に合流す。岩瀬川に沿ひて耕地發達し農業・林産・畜産・工業・水産・礦産あり。縣道中央を東西に横斷

し東方高岡町及び宮崎市方面へバスの便よし。この地は延喜式に亞耶・野後・夷守とある大隅國に通ずる驛路に當り明治十年西南の役に激戦のありし所。〔高都萬神社〕 大字東麓に鎮座。郷社。祭神猿田彦命。もと大王權現と稱し、當所の總鎮守たり。寛文四年再建す。例祭、十一月二十八日。

ノシロ 苗代村

石川縣加賀國能美郡の西部。近世苗代郷と稱せし地なり。小松町の南に接し西は今江湯に、西南部は木場湯に臨む。東南部に一〇〇米前後の丘陵を負ひ、他は加賀平野の一部にて平坦肥沃なる水田拓く。米を主産物とし繭の副産あり。其他、東南部山麓に九谷焼の窯業行はる。省線北陸本線は西部を南北に走り、社線尾小屋電線は東北境に沿ひ吉竹驛(大正八年設置)あり。國道は西部を、二條の縣道は南及び東へ走り、小松町・大杉間のバス通す。〔福生神社〕 字吉竹に鎮座。郷社。祭神、福生神・倉稻魂神・大田神等七柱。養老元年釋尊澄の勸請せる所といふ。式内福生神社に充つる説あれど明ならず。文治五年高樞兵衛尉再建、萬治三年藩主前田利常造營す。

ノシロ 能代

【能代川】 米代川(秋田縣)の西部。近世苗代郷と稱せし地なり。小松町の南に接し西は今江湯に、西南部は木場湯に臨む。東南部に一〇〇米前後の丘陵を負ひ、他は加賀平野の一部にて平坦肥沃なる水田拓く。米を主産物とし繭の副産あり。其他、東南部山麓に九谷焼の窯業行はる。省線北陸本線は西部を南北に走り、社線尾小屋電線は東北境に沿ひ吉竹驛(大正八年設置)あり。國道は西部を、二條の縣道は南及び東へ走り、小松町・大杉間のバス通す。〔福生神社〕 字吉竹に鎮座。郷社。祭神、福生神・倉稻魂神・大田神等七柱。養老元年釋尊澄の勸請せる所といふ。式内福生神社に充つる説あれど明ならず。文治五年高樞兵衛尉再建、萬治三年藩主前田利常造營す。

ノシロ 野代村

三重縣伊勢國桑名郡の北部。揖斐川西岸に沿ひ、西南部は桑名市の西北との間に約一・五千米を距る。

西南隅に僅に丘陵ある外は地形平坦にして東境に揖斐川南流す。米・麥・繭・鶏卵・鶏の外、畜産・工業・水産・林産あり。西部に桑名市より北上する縣道あり、また社線桑宮急行電鐵、養老線の下野代驛(大正九年設置)あり。和名抄に桑名郡野代郷と云ふは本村及び深谷村に亘る地か。天正二年長島合戦の時、織田方より大字大島居の地に押寄せ、男女二千人の耳鼻を截り取りたりといふ。

ノシロミナト 能代港町

秋田縣羽後國山本郡の西部。西は日本海に面す。面積六・九一方千米。米代川の河口に位し川は町の東境及び北境をなして西流し日本海に注ぐ。町の南部には山林ありて稍臺地狀をなし、海岸は草地をなす。港は船舶の出入土崎港に次ぎ、商業殷盛にして、木材・野菜・果實等の集散をなす。秋田木材株式會社以下數會社ありて、製材行はれ、春慶塗・梨等の名産あり。羽州街道は南方より來り、東方に向ふ。五能線の能代驛(明治四十一年設置)を置く。また能代港・米代川による水路航行の便あり。人口密度は一方千米につき約三七七二人なり。此地は郡内の主邑にして舊郡役所のありし所。港は秋田縣屈指の良港にして、齊明天皇の四年、國守阿倍比羅夫、淳代の蝦夷を降して此地に淳代郡を定め、蝦夷を襲して歸り、尋て大領・小領に位を授けしことあり。寶龜二年、渤海の使節、野代湊に到着せしことあり、

元慶二年三月蝦夷叛亂して秋田城及び其附近を燒く。四月、官軍兵六千を以て城の隘口野代の營を守らんが爲に進發せしも遂に於て蝦夷の奇襲に遇ひ大敗す。かく淳代・野代とあるは皆此地なれば上古より夙く開けしを知るべし。天正年中、秋田實季の臣、大高相模守は野代城代として來治せしが、慶長以後は佐竹侯より野代奉行を置きて之を治めしむ。明治十四年、明治天皇が山形・秋田及び北海道行幸の際この地に御泊らせらる。(日吉神社) 祭神、大物主神・大國主神・大山咋神。天文二年の創建なり。清水治郎左衛門政治なるもの靈夢に依り、弘治の東北方なる川中島八幡社の傍に一字を造營して勸請すと云ふ。二十有餘年後の弘治年間洪水のため川筋變じ中島崩潰し八幡社と共に社地危きに依り、當社は川向北の野中中館増に、また數年後に日和山に、更に般若山・惡土野と四度遷座す。其間、文祿年間に大光院榮長の男鹿松戸村より來りて當社の別當となる。當時、藩主より社領十石を附し年々修葺料を下して神出米百石および役銀を備ふ。更に社殿再建の際に假殿悉く寄進さると云ふ。例祭、七月十四日。(八幡神社) 大字能代に鎮座。祭神、八幡大神・事代主大神・住吉大神等八柱。齊明天皇御宇四年北夷征討の時、征夷八幡と號して海岸中島に鎮祭する所と傳ふるも詳かならず。領主秋田氏・藩主佐竹氏歴代相

元慶二年三月蝦夷叛亂して秋田城及び其附近を燒く。四月、官軍兵六千を以て城の隘口野代の營を守らんが爲に進發せしも遂に於て蝦夷の奇襲に遇ひ大敗す。かく淳代・野代とあるは皆此地なれば上古より夙く開けしを知るべし。天正年中、秋田實季の臣、大高相模守は野代城代として來治せしが、慶長以後は佐竹侯より野代奉行を置きて之を治めしむ。明治十四年、明治天皇が山形・秋田及び北海道行幸の際この地に御泊らせらる。(日吉神社) 祭神、大物主神・大國主神・大山咋神。天文二年の創建なり。清水治郎左衛門政治なるもの靈夢に依り、弘治の東北方なる川中島八幡社の傍に一字を造營して勸請すと云ふ。二十有餘年後の弘治年間洪水のため川筋變じ中島崩潰し八幡社と共に社地危きに依り、當社は川向北の野中中館増に、また數年後に日和山に、更に般若山・惡土野と四度遷座す。其間、文祿年間に大光院榮長の男鹿松戸村より來りて當社の別當となる。當時、藩主より社領十石を附し年々修葺料を下して神出米百石および役銀を備ふ。更に社殿再建の際に假殿悉く寄進さると云ふ。例祭、七月十四日。(八幡神社) 大字能代に鎮座。祭神、八幡大神・事代主大神・住吉大神等八柱。齊明天皇御宇四年北夷征討の時、征夷八幡と號して海岸中島に鎮祭する所と傳ふるも詳かならず。領主秋田氏・藩主佐竹氏歴代相

ついて崇敬す。即ち社參・奉納・造營等の事あり、天明三年以來黒印領十石を附し、累代之を安堵せり。(神代驛) 縣社八幡神社の境内にあり。社殿前參道の東側にある一株の紫藤にて、幹の基部は破裂して二支幹となり、その中東側のものは西側のより大きく、根元周囲約三米六なり。藤葉は附近にある數株の藤に卷着し、尙ほ藤棚をも被ふ。

ノズ 野津村

熊本縣肥後國八代郡の北部。和名抄、八代郡肥後内八代平野の北部に位し宮原町の北に接し、東境以東の山地は吉野村に屬す。全村平坦なる沃野開け、南境に沿ひて水川西北流し約四千米先に八代驛に入る。農業を主とし之に従事するもの二九三戸にして、商業は三一戸、工業は一六戸、外に雜四〇戸なり。米・麥を主産す。東境に鹿兒島街道山麓を走りてバスを通じ、西部には省線鹿兒島本線通過して有佐驛は西南約一・五千米にあり。

ノズカ 野塚

省線廣尾線の一驛(昭和七年設置)。北海道十勝國廣尾郡廣尾村にあり。

ノズミ 野積村

富山縣越中郡負部の南部。井田川の上流野積川の流域一帯を含み、八尾町の南に接す。南は一五〇〇米前後の山脈を以て岐阜縣吉城郡に界す。野積川は村の南部山地に發源し略々中央を北流し、東西境にはいづれも山脈連なり、久郷須・大長谷兩河の谷を

隔つ。地勢北部に低く僅かの谷平野をケル。林業・農業を主産業とし、木材・薪炭・米・麥・繭を産す。西北部を縣道・里道通じ、省線高山本線の越中八尾驛へ約三千米。また村營架空索道の便あり。

ノセ 能勢

【能勢(郡)】 攝津國(大阪府)の古郡名。奈良時代の初め河邊郡を割きて本郡を置く(拾芥抄)。續日本紀、延暦四年紀に郡名見ゆ。和名抄は乃世と註し能勢・雄村・根根の三郷を管す。明治二十九年、豊島郡と合して豊能郡を立て郡名を失ふ。【能勢】 攝津國(大阪府)の古地名。和名抄に能勢郡能勢郷あり、その地は今の豊能郡東郷村・西能勢村・歌垣村の邊なるべし。

ノセガワ 野迫川村

奈良縣大和國吉野郡の西部。紀伊山脈中の一山村にして伊都郡高野町の東南に接し、西南隅には和歌山縣有田郡に界す。鹿ノ瀬山脈の連嶺伯母子嶽(一三四二米)を中心として東東北より西西南に延びて南境を限り、西境、奈良縣との境には白口峠(一一一〇米)・箕峰・水ヶ峯・陣ヶ峯(一一〇六米)等東北方へ連なり、それより幾多の山肢東方へ延びて山嶺重疊し、十津川の支流川原樋川は西南隅に發して村内大部の水

を集めて東北流し、東隅より大塔村に出づ。北部に西北の陣ヶ峯に發して東流し大塔村に出で十津川上流天ノ川に合する支流あり。その間、南部流域との間約一千餘米の分水嶺によりて距つ。河谷沿岸にも平地乏しく、斜面耕地を作り、米・麥・蕎麥を産するも村内の重要産物は林業なり。外に礦産あり。中央に和歌山縣高野町と東南方西牟婁郡串本町とを結ぶ街道横断すれど、交通は極めて不便なり。大字池津川・立里の地に銅鑛の址あり。また大字北俣に將軍塚あり、將軍官廳良玉の墓なりと、跡は良は大塔宮の御子なり。〔高福寺〕大字今井にあり。古義眞言宗。阿彌陀如来立像一軀(木造)は藤原末期の傑作にして國寶。

ノソキ

及位村 山形縣羽前郡最上郡の北部。東及び北は秋田縣雄勝・由利二郡に接す。面積一〇・五平方町。西北境に大森山(一〇七八米)・男加無山(九七七米)・女加無山(九二五米)、西境には黒森(七二八米)・東境には黒森(一〇五八米)あり、四周山地連なりて中央部に傾斜し、鹽根川は東南部に發源し弧狀をなして村の略中部を西南に流る。沿岸に稍耕地拓く。米・蕎麥を産す。村の北部山麓地帯は及位牧場にして牧畜行はれ、また伐木・運材の業行はる。羽州街道は中東部を南北に通ず。奥羽本線は北方より來り鹽根川に沿ひて西南方に向ひ、及び・釜淵(共に明治三十七年設置)の二驛あり。

本村の夜峰は一に杉峠とも稱し、戊辰の役に激戦の地なり。明治十四年、明治天皇、山形・秋田及び北海道行幸の際この地に御小休あらせらる。

ノソリ

野反池 群馬縣吾妻郡六合村にある池。大高山(二〇七九米)と八間山(一九三五米)との間、辨天山(一六五三米)の北斜面の凹地に湛ふ。海拔一四八七米にあり、周圍約四町。排水は北流して中津川の上流をなす。

ノタ

野田

【野田郡】 樺太眞岡支廳野田郡の北部。豊原郡、北は泊居支廳泊居郡、東は豊原支廳豊原郡に接し、西は日本海に面す。南北三〇・三五町、東西二〇・二五町。東部は奇峯山脈に屬する山地にして、野田寒岳(一〇二九米)・常勢山・留多加山(七八六米)等連なり、この山脈より西方に峻峰の支脈を出し四一五〇米の丘陵起伏し、海岸に近き野田岳(六六一米)や著はる。河川は野田川・登富津川・列丹川等いづれも東部山地に發して西流又は西北流して海に入り、列丹川の流域、特にその河口附近に廣き平地ひらけ、本地方に於ける主要農業地帯を成す。海岸には列丹川口に當り小能登呂岬あり樺太西岸に於て顯著なる岬角にて、其北に登富津灣の淺灣を擁し、野田川口には野田泊地の小灣入を有す。農業は小能登呂村の平野部に盛にして蕎麥・豆類・馬鈴薯等を産し、また牛・馬の飼養行はる。北

部及び東部山地の森林は本郡の重要資源にして、開發大いに進み、野田に製紙工業行はる。西部には野田・小能登呂炭田ありて石炭を出し、また石油の埋藏あり。水産は鱈・鰈等多く、野田はこれ等漁業の中心をなす。海岸に沿ひ鷹嶽鐵道西海岸線走り北は泊居町、南は眞岡町に連絡し、道路は西部縱貫幹線が鐵道と並走し海上は野田港に定期船の寄港あり、交通便なり。行政上、野田町及び小能登呂村に分つ。

【野田町】 樺太眞岡支廳野田郡の北部。眞岡町の北約四〇町の日本海岸に位す。東に西樺太山脈走り東北隅に野田寒岳、その東南に美津山・常勢山等連り、野田寒岳より山脈は西北及び西南に出で、また西部海岸に近く西北―東南に走る山脈あり、鶴葉岳(四四二米)・野田岳(六六一米)等聳ゆるを以て、城内平地に乏し。野田寒岳の南面に道手川・野田川發し、一は西北流、一は西流して海に入り、又海岸山脈の西面には荒鯉川・鉢子川等の小川發す。産業は林・工・鑛・漁・農の各種に互つて行はるるも、野田に於ける製紙業を最も盛なりとす。即ち野田・鉢子・荒鯉等の諸川上流の木材を利用するものにて、大正十年十一月王千製紙工場設立せられ、林用馬車軌道二條を敷設して材木を運搬、パルプ・洋紙の生産に従ふ。農業は前記各川下流の沖積平地に蕎麥、蕎麥・粟・豆類・馬鈴薯等を耕

作し、荒鯉には牧畜行はる。沿岸は鱈・鰈の好漁場にして野田に漁業組合あり。礦産は石炭・石油とす。石炭は中部の下部第三紀層に埋藏せられ、鶴葉・野田の二炭礦より採掘せらる、また石油は同じく第三紀層の上部含炭層に接近する厚さ約二〇米の凝灰岩層にやや多量に含油せらるるも未だ開發に至らず。西部海岸に沿ひ鷹嶽鐵道西海岸線及び西部縱貫道路並走し、前者は野田(大正十年開業)・久良志・小岬(共に昭和五年開業)・鶴葉(昭和九年開業)の四驛あり、交通便利なり。市街地(大字野田)は野田川及び鉢子川の河口に位し、前面に小灣を擁して、定期船の寄港あり、商港にして漁港を兼ね。王子製紙工場は市街の東北端にあり。ここに警察署・郵便局置かれ、また北海道拓殖銀行支店・産業組合等あり。附近に梅香嶺・日露役古戰場等あり。本町はもと野田寒と稱し、領有以前はアイヌの部落あり、邦人の移住せしは明治三十年頃開始する。眞岡支廳出張所ありしも大正十一年廢止、同十二年に町制施行。〔鶴葉炭礦〕當町内に約六七萬坪の礦區を有す。炭層は西海岸上部炭層群に屬し走向は北七〇度東、傾斜は平均三〇度北西とす。極めて近年の開坑に係り、目下發行中の炭層は一番層(一・四米)・二番層(〇・九米)・三番層(一・一米)の三層とす。炭質は不粘結性低揮發炭にして灰分少きを以て汽機用として好適とせらる

るが、昭和十年に僅に三萬餘担を産出したるに過ぎず、されど尙ほ將來發展性あるものとせらる。現在樺太炭業會社の經營に屬す。〔梅香嶺〕字梅香にあり。浴用加熱。痔疾・性病・皮膚病・子宮病等に効あり療養向きなり。山を負つて間宮海峽に臨み、眼界廣く眺望よし。背後の山に遊園地設けらる。

【野田村】 岩手縣陸中國九戸郡の東南端。南は下閉伊郡普代村・安家村に隣り、東は大平洋に臨む。形はほぼ平行四邊形をなし北・西南の三方は山地丘陵連なり。西境は最も高く和佐羅比山(八一四米)・高森(七〇二米)あり。北部より宇部川・玉川・安家村は並行して東北流し野田灣に注ぎ、流域には沖積低地あり。海岸は屈曲少く、美麗なる磯多き砂濱をなし南方は僅に崖をなす。東北部平坦地、主として宇部川流域は沖積層にて、山地丘陵は第三紀層或は花崗岩・古生層より成る。土性は河川流域は砂質礫質土を形成するも其他は壤土・砂質壤土・埴質壤土・腐植質壤土より成る。山地は主として農業・製炭業を主とし中・東部の沖積地は半農半漁なり。農産物は昭和十年統計によれば米(三四三石、九五二一圓)・麥(一六一七石、一二四〇四圓)・大豆(六〇三石、九六四八圓)・稗(一三八九石、九〇二九圓)・馬鈴薯(三二二九圓)・蔬菜(一七六三三圓)等、林産物は用材・薪炭材・木炭にして計六〇三二一圓を占す。水産物は

鱈(一三二五六圓)・鮭(五六四一圓)・鮪(七七〇九圓)・昆布(一九二〇一圓)・若布(五四九七圓)・鰺(一〇二五六圓)等を主なるものとす。縣道小本久慈線は海岸に沿つて通ず。

【野田村】 福島縣岩代國信夫郡の中部。福島市の西に接す。全村、福島盆地(信達平野)に屬し、北境を松川、南境を須川各東流し阿武隈川に注ぐ。村の西部はその扇狀地をなせり。米・蕎麥を産し、また製糸業行はる。西部には果樹園分布し果實の産多し。道路は村の略々中部を東西に通ず。奥羽本線は福島市より分岐し村の中央部を西方に向ひ、登木野驛(大正八年設置)あり。大字八島田は寛政元年以來越後新發田藩藩口氏の陣屋ありし所。【野田村】 埼玉縣武蔵國北足立郡の東部。浦和市の東北方約六町、綾瀬川の西岸にあり。東北は川を隔てて南埼玉郡柏崎・和土・新和三村に對す。全村一〇乃至一五米の平地にして、北部および南部にやや低し。農業行はれて米・麥を産す。縣道は浦和市及び大宮町に通じ、また社線武州鐵道は東部を縱走し、武州野田驛(昭和三年設置)を置く。【野田村】 千葉縣下總國匝瑺郡の南部。九十九里濱に臨み、八日市場町の東南方にあり。九十九里濱沿岸平地の一部を占め、田地・畑地ありて米・麥を産し、養蠶・養鶏も行はる。海岸は單調なる砂濱をなし鰯の漁業行はれ、また海水浴に

も通す。縣道は村の中央を縱走し、またこれと分れて八日市場町に通ずるものあり、同町にある省線武本線八日市場驛へバスを通ず。この地は和名抄、匝瑺郡野田郷の地にして、村名は郷名の遺稱なるべし。椎名胤光の子胤知が野手次郎といふは此處に在住せるによる。日蓮門下の僧侶日朝は此地の産なり。

【野田町】 千葉縣下總國匝瑺郡の北部。江戸川の東岸にあり。全町平地にて北境には産生沼あり。農業行はれて米・麥を産し、養蠶・養鶏も行はる。町は古來醤油の醸造地として名高く、殊に龜甲萬は有名なり。聚落は南部に發達し、縣道はそれより四方に通じ、また武蔵鐵道線は東部を北走して、町内に野田町(明治四十四年設置)・愛宕・清水公園(共に昭和四年設置)の三驛を置く。康正年間、古河公方成氏ここに築城し、野田有馬助を置き、附近を野田領と稱せしが、これが町名となりしものなるべし。【野田村】 新潟縣越後國刈羽郡の西南部。柏崎町の南方約八町。鶴川の北流に沿ひ西は中頸城郡に接す。西部・南部に二三百米の丘陵起伏し、東境また低き丘陵連る。鶴川は東部を略南北に貫流し東南部に平地開け小盆地をなす。聚落は概ねこの低地に密集し農業に従ふ。米を主産物とし、養蠶を副業とす。東部を南北に縣道通じ、柏崎町へバスの便あり。【野田山】 金澤市に横はる丘陵。

【野田】 越前國(福井縣)の古地名。和名抄に丹生郡野田郷あり、乃太と訓ず。その地、今の丹生郡豊村・宮崎村の邊なるべし。

【野田】 越前國(福井縣)の古地名。和名抄に足羽郡野田郷あり、乃多と訓ず。刊本にこの郷を大野郡の條に掲ぐるは誤なり。いま高山寺本により訂正す。今の足羽郡内ならんもその地詳ならず。【野田村】 愛知縣三河國渥美郡の西部。渥美灣に臨み、田原町の西南に接す。北部及び西・南部に丘陵連なり、中部に平野を抱き西南は海に面す。南部は丘陵に圍まれ若池を湛ふ。平野は水田多く農業を主とし、養蠶・養鶏・水産業等の副業また盛なり。産額は米の十二萬圓を筆頭に、次いで鶏卵の八萬七千圓、蕎麥の五萬五千圓あり、雜・麥及び水産物も多し。縣道中央を東西に貫通し社線渥美電鐵黒川原終點へ約二町。豊橋・福江町間のバスも通ず。〔阿志神社〕大字若村に鎮座。郷社。祭神に就きては異説多くして未だ定め難し。創建年代また不詳なれど當郡唯一の延喜式内社にして、文德實錄に「仁壽元年十月乙巳、三河國阿志神に從五位下を授く」と見ゆ。往昔は上下の崇敬厚く社運隆昌なりしが近古衰頹に歸し殆ど廢絶の危きにありしが、寛文十年五月、時の田原城主三宅能登守康勝は靈夢に依り社殿を再興し社領を附し、爾來代々の崇敬怠らず。例祭、七月八日・十月八日。

【野田】 愛知縣碧海郡にありし村。明治三十九年に本村外三箇村を廢し依佐美村を置く。

【野田】 大阪府東成郡にありし村。明治三十年に大阪市北區に編入す。

【野田】 大阪府西成郡にありし村。明治三十年に大阪市北區に編入す。

【野田】 省線西成線の一驛（明治三十一年設置）。大阪市此花區吉野町にあり。

【野田村】 大阪府河内國南河内郡の西北部。堺市の東南約四町にあり。葛城山脈北麓の臺地を占め全村約一〇〇米程度の高さなり。中央には大和川の支流北に流る。農産・工業・畜産・水産・林産あり。中部に社線南海線高野線縦貫して北野田驛（大正三年設置）あり。この地は中世野田莊といふ。延元三年九月、鬼徒ここに城郭を構へしが、和正興等これを攻めて陥る（南山巡狩録）。

【野田村】 愛媛縣伊豫國宇摩郡の西北部。鹽灘に臨み三島町の西方約五町にあり。南北に稍々長く面積二・五三万坪の小村。南方に聳ゆる赤尾山（一四五四米）の北麓が南隅に僅かに傾斜地をなす外は全村地形低平なり。農業を主生業とし米・麥・果物・繭等を産出し、砂糖・煙草の特産物あり。本村を國道及び省線環讀本線横斷し、西方二・五町に伊豫土居驛ありてバスの便あり。往古は宇摩郡津根郷に屬せし。寶永三年に上野田村・下野田村となり、上野田は西條領に屬し、下野田は幕領なりしが、明治九年に合併して野田村とす。

【野田村】 高知縣土佐國長岡郡の東南部。高知平野の一部を占め、後免町の東に接し、東は香美郡に界し、南北に稍々細長し。全村地形平坦にして沃野開く。米の産多く麥・繭も産す。縣道中央及び南部を東西に走り、西部には之等と交叉して後免町より縣道あり、北部には後免驛（西方〇・五町）にて省線土讚線より分れて東方へ走る社線高知鐵道通過す。本村は後免町と組合町村をなす。

【野田村】 鹿兒島縣大隅國出水郡の中部。米ノ津平野の西南隅を占め、西の阿久根町と東の高尾野町とに挟まらる。東北部は八代海に近し。東南より西北に細長く東南隅は薩摩郡に界す。約七・七〇米の山脈東西に連り南部より西部一帯は其の北斜面より北麓に互る山地をなし、東北部に平坦なる平野開く。米・麥等を産し養蠶も盛にて繭の産多く、外に林産・畜産・礦産あり。北部を鹿兒島街道東北より西南に横切り、また之と交叉し東方出水町へ至る縣道あり。省線鹿兒島本線同じく北部を通過して野田郷驛（大正十二年設置）あり。この地は和名抄、出水郡山内郷の内なり。大字下名に山内寺址あり。蓋し中世山内院の名あるも、山内を山門と詠りたるものなるべし。下名の山内寺の東北に後免驛あり。大字上名の飛舟山に山門城址あり、保元・平治の頃、千葉平

成り最高は杜門岳の一〇二二米なり。山中に内淵川・杜門川・追手川等發源し、山の西斜面には雄沼・雌沼を始め數箇の小池あり。附近は針葉樹林をなし、山麓に於て研伐・造材行はる。

【野田】 岡山縣備前國御津郡の南部。岡山市の北方約一町。西・北・東の三面は三百米以下の丘陵を繞らし、中央南部に南方へ横く狭長の低地あり。米・麥・繭を産し葡萄・蘭の特産あり。低地を走り岡山市より北方へ縣道走り岡山市及び東北方金川町へバスを通ず。村名は菅野・柏谷の部落を合併し村制施行の際、各一字を取りて命名せるもの。

【神社】 大字柏谷に鎮座。郷社。祭神、大物主命。蓋し大和國大神社より勧請せしもの。備前國神名帳に從四位上神明神とあり。古來當村の産土神として崇敬せらる。例祭、十月十五日。

【野田】 岡山縣備前國阿賀郡の西南隅。西及び西南は廣島縣比羅郡に界し、その中、西境は岡田東町に接す。全村五〇〇一七〇米餘の山地到るところに起伏し、西北部及び西南部に低地あり。米・麥・繭の外、葡萄・生柿の特産あり。街道は西北部を東北より西南に通じて東城町へバスの便あり。途中一道分れて東南方へ村を横切り新砥村に出づ。この地は新砥村と共に和名抄、曾多野郷（乃知と訓す）の地なり。神風抄に、野邊御厨と云ふも此地なるべし。

【野田】 後瀨山・後瀨山 若狭國（福井縣）の古山名。萬葉集卷四に「かにかくに人はいふとも若狭道の後瀨の山の後もあはむ君 坂上大嬢」と見え、いま遠敷郡小濱町の南の小山なりといふ。

【野田】 伯耆國（鳥取縣）の古地名。和名抄に八橋郡野田郷あり。いま東伯郡安田村に大字野田あり。郷城は蓋し同村の邊なるべし。梅松論に後醍醐天皇隱岐國より御還幸の御、著船し給ひしところと見ゆる野田の地は大字野田の地なりといふ。

【野田】 野津市村 大分縣豊後國大野郡の東北部。舊野津莊の内。北海岸郡臼杵町の西南約三町にして、東北は北海岸郡に接す。東北より西南に稍々細長し。西南部は山地の東北斜面をなし西南境は約二五〇米の高度なり。東北部の山地は東西兩部より中央へ傾斜し西山地の北部には武山（三二七米）あり。東北・西南兩山地の間は稍低地をなして大野川支流西北流す。米・麥等の農産・林産・畜産あり。日向街道中央河谷を東南へ貫き、之より分れる一道は東北部を縱斷して臼杵町に出づ。街道には自動車往來すれども其他は山同にて交通不便なり。「八幡社」大字市原に鎮座。郷社。祭神、品陀和氣命・息長帶姫命・日女大神。建久二年伊豫松崎に鎮りませしを、のち今の地に奉遷すと傳ふ。領主大友・稻葉氏等の崇敬篤く、野津郷の鎮守たり。舊名、中山

【野田】 北海道的根室支廳管下十三郡の内。根室國の中央部を占め、東は根室灣に面し、西は山地を以て釧路國に接す。北はトホロ川東流して標津郡界をなし、南は西別川が根室郡界をなす。面積一三八・七方町。別海村一村より成る。西境に二〇〇米近き山地南北に連るも、郡内概ね一〇〇米以下の低き臺地をなし、此間を西部山中に發したるトホロ・春別・床丹・西別等の諸川東流して海に注ぐ。流域に廣大なる沃野展開すれども氣候上カスの寒來、及び位置の偏り等の關係にて未だ荒蕪地多く、近時漸く殖民施設整ひて開墾進み、米・大豆・小豆・麥・菜豆・馬鈴薯等の農産を著せり。また鮭の孵化施設設けられ、家畜の放牧も盛なり。西別川口の別海村を中心聚落となす。省線標津線中央を南北に貫き奥行白・西別（共に昭和八年設置）春別（昭和九年設置）の三驛あり、また省線計根別線の西春別驛（昭和十一年設置）を置く。根室港には定期航路あり。

【野付】 北海道的根室支廳管下野付郡別海村にある小半島。北海道本島の東海岸。標津村（標津郡の東南に突出す。標式的なる砂嘴にして延長約二〇町。東端は龍神

【野付】 北海道的根室支廳管下野付郡別海村にある小半島。北海道本島の東海岸。標津村（標津郡の東南に突出す。標式的なる砂嘴にして延長約二〇町。東端は龍神

【野付】 北海道的根室支廳管下野付郡別海村にある小半島。北海道本島の東海岸。標津村（標津郡の東南に突出す。標式的なる砂嘴にして延長約二〇町。東端は龍神

【野付】 北海道的根室支廳管下野付郡別海村にある小半島。北海道本島の東海岸。標津村（標津郡の東南に突出す。標式的なる砂嘴にして延長約二〇町。東端は龍神

【野付】 北海道的根室支廳管下野付郡別海村にある小半島。北海道本島の東海岸。標津村（標津郡の東南に突出す。標式的なる砂嘴にして延長約二〇町。東端は龍神

【野付】 北海道的根室支廳管下十三郡の内。根室國の中央部を占め、東は根室灣に面し、西は山地を以て釧路國に接す。北はトホロ川東流して標津郡界をなし、南は西別川が根室郡界をなす。面積一三八・七方町。別海村一村より成る。西境に二〇〇米近き山地南北に連るも、郡内概ね一〇〇米以下の低き臺地をなし、此間を西部山中に發したるトホロ・春別・床丹・西別等の諸川東流して海に注ぐ。流域に廣大なる沃野展開すれども氣候上カスの寒來、及び位置の偏り等の關係にて未だ荒蕪地多く、近時漸く殖民施設整ひて開墾進み、米・大豆・小豆・麥・菜豆・馬鈴薯等の農産を著せり。また鮭の孵化施設設けられ、家畜の放牧も盛なり。西別川口の別海村を中心聚落となす。省線標津線中央を南北に貫き奥行白・西別（共に昭和八年設置）春別（昭和九年設置）の三驛あり、また省線計根別線の西春別驛（昭和十一年設置）を置く。根室港には定期航路あり。

【野付】 北海道的根室支廳管下野付郡別海村にある小半島。北海道本島の東海岸。標津村（標津郡の東南に突出す。標式的なる砂嘴にして延長約二〇町。東端は龍神

【野付】 北海道的根室支廳管下野付郡別海村にある小半島。北海道本島の東海岸。標津村（標津郡の東南に突出す。標式的なる砂嘴にして延長約二〇町。東端は龍神

【野付】 北海道的根室支廳管下野付郡別海村にある小半島。北海道本島の東海岸。標津村（標津郡の東南に突出す。標式的なる砂嘴にして延長約二〇町。東端は龍神

【野付】 北海道的根室支廳管下野付郡別海村にある小半島。北海道本島の東海岸。標津村（標津郡の東南に突出す。標式的なる砂嘴にして延長約二〇町。東端は龍神

【野付】 北海道的根室支廳管下野付郡別海村にある小半島。北海道本島の東海岸。標津村（標津郡の東南に突出す。標式的なる砂嘴にして延長約二〇町。東端は龍神

【野付】 北海道的根室支廳管下野付郡別海村にある小半島。北海道本島の東海岸。標津村（標津郡の東南に突出す。標式的なる砂嘴にして延長約二〇町。東端は龍神

【野付】 北海道的根室支廳管下野付郡別海村にある小半島。北海道本島の東海岸。標津村（標津郡の東南に突出す。標式的なる砂嘴にして延長約二〇町。東端は龍神

【野付】 北海道的根室支廳管下野付郡別海村にある小半島。北海道本島の東海岸。標津村（標津郡の東南に突出す。標式的なる砂嘴にして延長約二〇町。東端は龍神

【野付】 北海道的根室支廳管下野付郡別海村にある小半島。北海道本島の東海岸。標津村（標津郡の東南に突出す。標式的なる砂嘴にして延長約二〇町。東端は龍神

【野付】 北海道的根室支廳管下野付郡別海村にある小半島。北海道本島の東海岸。標津村（標津郡の東南に突出す。標式的なる砂嘴にして延長約二〇町。東端は龍神

【野付】 北海道的根室支廳管下野付郡別海村にある小半島。北海道本島の東海岸。標津村（標津郡の東南に突出す。標式的なる砂嘴にして延長約二〇町。東端は龍神

【野付】 北海道的根室支廳管下野付郡別海村にある小半島。北海道本島の東海岸。標津村（標津郡の東南に突出す。標式的なる砂嘴にして延長約二〇町。東端は龍神

【野付】 北海道的根室支廳管下野付郡別海村にある小半島。北海道本島の東海岸。標津村（標津郡の東南に突出す。標式的なる砂嘴にして延長約二〇町。東端は龍神

【野付】 北海道的根室支廳管下野付郡別海村にある小半島。北海道本島の東海岸。標津村（標津郡の東南に突出す。標式的なる砂嘴にして延長約二〇町。東端は龍神

【野付】 北海道的根室支廳管下野付郡別海村にある小半島。北海道本島の東海岸。標津村（標津郡の東南に突出す。標式的なる砂嘴にして延長約二〇町。東端は龍神

【野付】 北海道的根室支廳管下野付郡別海村にある小半島。北海道本島の東海岸。標津村（標津郡の東南に突出す。標式的なる砂嘴にして延長約二〇町。東端は龍神

【野付】 北海道的根室支廳管下野付郡別海村にある小半島。北海道本島の東海岸。標津村（標津郡の東南に突出す。標式的なる砂嘴にして延長約二〇町。東端は龍神

【野付】 北海道的根室支廳管下野付郡別海村にある小半島。北海道本島の東海岸。標津村（標津郡の東南に突出す。標式的なる砂嘴にして延長約二〇町。東端は龍神

【野付】 北海道的根室支廳管下野付郡別海村にある小半島。北海道本島の東海岸。標津村（標津郡の東南に突出す。標式的なる砂嘴にして延長約二〇町。東端は龍神

西部は山地をなし、中央に稍低地開けて大分川の支流東北流すれども土地二帯に高燥なり。即ち、東境には御座ヶ岳(七九七米)・藤子岳(七五二米)聳えて西北方へ傾斜し西部の山地は西南部に高く、東北へ緩く下り、北境附近にて稍高まる。中央河谷に沿ひて耕地あり。米・麥・藁等の外に林産あり。また原野廣く牧畜行はる。中央を縣道隔断して大分市へパスの便あり。この地は和名抄、大分郡種田郷の内。もと細川家の所領なり。明治四十年野津原村及び諏訪村を合し新に野津原村を置く。〔野津原神社〕大分野津原に鎮座。郷社。祭神、素戔鳴尊・加藤清正・菊理并賣命等十三柱。建久年中大友能直京都祇園社より素戔鳴尊を勧請したるに創まるといふ。もと當村上平野にありしが、元和四年今の地に再建。例祭、八月二十四日。

ノツホロ 野幌 北海道石狩國札幌郡江別町の大字。省線函館本線の野幌驛。明治十五年設置ありて、社線々張鐵道の起點をなす。

ノト 能登

【能登國】北陸道七國の一。日本海に突出せる半島狀の國。南に越中・加賀二國と接する外、三方海に臨み、東側には七尾灣ありて能登島を抱く。いま羽咋・鹿島・鳳至、珠洲の四郡に分ち、石川縣の管轄に屬す。この國は早く成務天皇の朝に國造を置き、崇神天皇の皇子大入來命の任命

されしこと國造本紀に見え、また雄略天皇の御代に羽咋國造を置かれし事もまた同書の中に出づ。國郡制定の時これ等の國は郡となりて城前國に入る。然るに奈良時代の養老二年、城前の羽咋・鳳至・能登(のち鹿島と改む)・珠洲の四郡を以て能登國を置きしが、天平十三年に再びこれを廢してこの度は越中國に編入す。併しこれも永續せず、十七年後の天平寶字元年には能登國を再興。國府は今の鹿島郡矢野郷村大字古府の地にありき。寶龜七年矢野宿禰の大唐國守となりて以來國守に任ぜられしものの中には大伴家持・源順等あり、降つて平安時代の終り頃には平致經の如きもまた能登守たり。文治二年、源賴朝の時、長谷部信連を鳳至郡の大屋莊の地頭とし、得田章通を羽咋郡得田莊の地頭職となす。前者は長氏の祖、後者は徳田氏の祖にて、共に地方の豪族となる。元弘元年、中院少將定清、能登の國守となりしが建武中興の時、越中に移る。時に越中の人善門利清なるもの足利尊氏に黨し能登・越中の兵を集めて定清に反抗す。定清これと戦ひて戦死し、のち本國は足利氏の手に歸す。天授年間、足利義滿の時、島山義深を此の國の守護となす。爾後、子基國、孫滿則相次いで國守となり、國內の長・徳田等の家族も歸服す。應永五年滿則が七尾城を築き、爾後島山氏は七尾城に居ること八世、百八十年、島山義春の時病死し島山氏は止む。次

いで天正五年、上杉謙信が來攻して七尾城を陥る。「霜滿軍營」云々の詩はこの時の作なり。天正九年には織田信長七尾を降して此地を前田利家に與ふ。利家國內を平定し、城を所口村(七尾郷外)に移しこれを小丸山城と稱せり。こゝに於て七尾の舊城は廢す。天平十年本能寺の變起り、信長横死の後、羽柴秀吉は利家と和し加賀の河北・石川二郡を與へしにより利家は七尾に子利長を置きて尾山(金澤)に移れり。慶長四年羽咋・鹿島二郡を割きて次子利政に與へしが、關原戰後徳川氏の世となるに及んで利政の封を收め、利長を加・能・越三州に封ぜり。利長乃ち能登の老臣を集めて國務に參與せしめ所口奉行を置きて郡村の行政を行はしめ以て皇政維新に至る。明治四年十一月に至り、七尾縣を七尾に置き能登一國及び越中國の射水郡を管せしめしが、翌五年九月これを廢して射水郡を越中の新川縣の管下に移し、能登一國は石川縣の管下となり、以て今日に至る。

【能登半島】平滑なる日本海々岸線の單調を破りその中央部に當り北方に突出する半島。行政上は石川縣珠洲郡・鳳至郡・鹿島郡・羽咋郡及び富山縣水見郡・射水郡・西瀨波郡等に互る。純然たる地文學的見地よりすれば、この半島は富山縣射水郡伏木町より西瀨波郡石動町に互る二上山斷層線をその前限となす。半島の中央東岸に滲入する七尾灣によりて、日能登

續く砂丘の海濱をなし、羽咋附近より若石海岸となる。半島の交通幹線として北陸本線津幡驛より分るる省線七尾線は邑知地溝帯を縱斷し七尾灣を廻り輪島に至る。なほ七尾線羽咋驛より西岸を廻る社線能登鐵道は富來附近まで達す。自動車路は到る處に通じ、七尾港よりは沿岸各所に達する定期航路あり。人情は頗る純朴にて宗教心厚し。冬の積雪量は加賀・越中より少く、氣温も突出する北に行く程却て暖かし。併し冬季に過剰となる労働力は季節的移住として現れ關西方面へ杜氏として出るは名高し。産業として東海岸の鰯・鱈・鯖等の漁業、山地一帯より出る木炭の量も多し。特産物には漆織物能登上布が著名なり。なほ飯田町附近に石膏と珪藻土、七尾町附近にセメント・肥料・珪藻土等を産す。

【能登島】石川縣鹿島郡にある島。行政上は市島・中乃島・西島三村より成る。七尾灣のほぼ中央にあり、東北に大口瀬戸、東南に小口瀬戸、西北に三ヶ口瀬戸、西南に屏風瀬戸をつくり、七尾灣を北灣・西灣・南灣に分つ。東西約一二村、南北約六村にして周圍約六三村に及ぶ。第三紀層より成る高度百米内外の臺地狀山地をなし最高所も一九七米に過ぎず。海岸は屈曲に富む。平地も少く臺地を侵蝕する小河流沿ひに樹枝狀に水田發達す。昔は罪人流謫の地にも充てられしも今は信

仰深き村を形成す。滿徳・横濱を産し第三紀層中には鍾乳洞あり。東部の富山灣に面する地は鰯その他の漁業盛にて、内灣に海鼠の漁獲多くなると古來珠珠の産を以て知る。なほ歌枕として知る。萬葉・一七「鳥籠立て船木伐るといふ能登の島今日見れば木繁しも幾代神ひそ」

【能登鐵道】社線。石川縣羽咋郡羽咋町の省線七尾線より分岐し、能野村の三明驛に至る二・五・五村。三明驛より富來町には自動車にて接続す。動力は蒸氣及びガソリン。軌間一・〇六七米。省線と運送運輸。

【能登市ノ瀬】省線七尾線の一驛(昭和十年設置)。石川縣鳳至郡穴水町鹿島にあり。

【能登島】省線七尾線の一驛(昭和三年設置)。石川縣鹿島郡熊木村にあり。

【能登三井】省線七尾線の一驛(昭和十年設置)。石川縣鳳至郡三井村にあり。

ノト——ノトへ

【能登中島】省線七尾線の一驛(昭和七年設置)。石川縣鹿島郡熊木村にあり。

【能登川】奈良にありし小河。春日山に發し高圓山と三笠山との間を流れ佐保川に入る。萬葉・一〇「能登河の水底さへに光るまで」三笠山は咲きにけるかも」

【能登瀨】愛知縣八名郡にありし村。明治二十三年に大野村の大字能登瀨を分割して能登瀨村を置き、同三十九年に本村外六箇村を合し七郷村を置く。

浦にあり。或説に櫻子の葉は初め能登比呼命なりとし、沼名木入比呼はその當時能登比呼命の遺業を興し給ふものとす。いま支機石・八蔵石と云ふ社寶は、皇女自ら機を織り給ふ時この石にて織糸の重みに置き給ふ故に其名ありと云ふ。また機を織り給ふ時に稗粥を機糸に塗りて織成し給ふ事を發明せられしを以て、里人いままに此法を傳ふ。故に祭事には稗粥を塗りて供する古例ありと云ふ。社域の西北山丘に懸布瀨あり、その下流を宮川と云ひ命の布を晒し給ふ處と云ふ。例祭、十一月十九日。「能登部神社」大字上に鎮座。縣社。祭神、大入杵命、迦具土命、建御名方命、菅原道眞等五柱を合祀。創立年詳かならず。大入杵命は、崇神天皇の皇子、能登臣の祖、此地方開拓に功有りといふ。式内能登國生比古神社即ち之なりといふ。中世以來また式内餘喜比古神社なりとも稱し、藩主前田氏の崇敬篤し。明治六年現社名に改む。例祭十一月廿一日。「本土寺」大字西馬場にあり。日蓮宗。常在山。正安二年僧乘純、日像に就きてその弟子となりこれを開創し、日像を以て開山とす。本國に於ける本宗最初の寺院たり。天正年中、領主長兵の祈願所となり山林二十五町を寄せらる。

ノトマチ 野堂町、江戸時代、大阪岡場所の一。現今、同市東區谷町一丁目東の筋、墓の谷以南の俗名。浪花色八卦、上野町、野堂町、馬場先新地皆此社に屬也

谷海峽を挟む。半島は南北に延ぶること約一〇軒、樺太山脈の最南部が南端の西能登呂岬まで連亘するも、多間内山(五一八米)、牛荷山(五八九米)、臥牛山(五〇三米)、稻穂山(四五七米)等を主峯とする丘陵性の山地にて、山麓は海成段丘をなして海に臨む處多し。東岸は鯨・貝類・昆布、西岸は鱈・鱈の漁獲多し。海岸線單調にて西南端の白主以外は好鐵地を缺くも漁業落點在し、農業落點は暖流の影響を受ける西海岸に内幌・南名好等が近年發展しつつあり。東西兩斜面とも含炭層を有するも現在封鎖炭田となり、内幌炭田のみが昭和三年開封され、三菱礦業會社の手により稼業され活況を呈す。

ノナイ 野内村 青森縣陸奥國東津輕郡の東部。青森市の東北約八軒。西は青森灣に面す。北境に高森山(三八七米)、南境には大平山(五五一米)、田ノ頭山(二六六米)あり、東境は海拔約六〇〇米にて西方に傾斜し、淺虫川は北部を、根井川は南部を各西流し青森灣に注ぐ。全村概ね山地にして海岸に山地迫り岩石海岸をなせる所多し。淺虫川の下流に淺虫温泉湧出す。米・林檎・淺虫石を産す。陸羽街道は海岸に沿ひて青森市に通じ、青森・淺虫間定期バスの便あり。東北本線淺虫(明治二十四年設置)・野内(明治二十六年設置)の兩驛を置く。村内に青森區裁判所出張所・東北帝國大學理學部附屬臨海實驗所あり。この地は奥州街道の野内

ノナイ——ノネ

ノトリ 野鳥 肥前國(長崎縣)の古地名。和名抄に高來郡野鳥郷あり、乃止利と訓す。その地今の南高來郡島原町の邊なるべし。延喜兵部省式に肥前國、野鳥驛々馬五疋とあるは此地なり。

ノトリタ 荷持田村 書紀、神功紀に見ゆる筑紫の古地名。皇后、皇命に従はざるを以て誅伐し給へる羽白熊鷹なるもの居住せし地。その位置いま詳かならざるも、或は筑前國(福岡縣)朝倉郡秋月町の大字野鳥ならんといふも詳ならず。

ノトコ 能取 【能取岬】 北海道北見國の北岸。網走町の北に斗出してオホトツク海に臨み、西岸に能取岬を抱く。北見國オホトツク海岸線の單調を破りて著しく、北端に燈臺を設く。半島部は總て二一三〇米の山地に蔽はれ海岸に迫りて險崖をなせり。海岸線極めて平滑、小葉落めり。 【能取湖】 北海道網走支廳網走郡網走町にある潟湖。本町市街地の西方約五軒、網走湖と丘陵を隔て、その北西二・五軒にあり、湖形は圓形に近く湖岸線の延長三二米なり。西南岸より卯原内川の注入するのみにて、湖水の動搖少なく、東岸と西岸は丘陵迫り、直ちにオホトツク海と連絡するも、北岸には砂嘴が延び排水口の幅僅か一〇〇米に過ぎず。單なる潟湖ならず土地の洗淨により生ぜしもの。

宿、淺虫宿のありし所にして、大字淺虫より久栗坂に至る山道を戸前坂と稱し道路が海岸に屹立する岩壁を通過し、古人これを兼部外濱の間の險嶺と傳し、多宇末井の梯と稱し(俗に鳥頭前とも、塔前とも兎味ともいふ)、東鑑建久元年(文治六年)二月の條にこの名見ゆ。明治天皇、明治九年奥羽御巡幸の際、及び明治十四年山形・秋田・北海道行幸の際、本村の地に御小休あらせらる。「淺虫温泉」青森灣に臨みて湧出する無色透明の食鹽泉なり。往昔圓光大師巡錫の時、鹿の海波に浴するを見て温泉を知りしが、土人は浴するを怖れ、麻を浸して蒸したるを以て麻蒸の名生じ、轉じて淺虫となると稱さる。地に東西南の三方岡陵を連ね、西北の一方は青森灣に臨み海上指頭の間湯ノ島・鶴島・裸島等の大小の島々浮び四圍の風光に勝れ夏季海水浴に適す。

ノナカ 野中 【野中】 遠江國(静岡縣)の古地名。和名抄に磐田郡野中郷あり、乃奈加と訓す。その地今の磐田郡鹿久保町の邊か。 【野中】 河内國(大阪府)の古地名。和名抄に丹比郡野中郷あり、その地今の南河内郡墳生村の邊に當るか。 【野中】 豊前國(大分縣)の古地名。和名抄に下毛郡野中郷あり、その地今の下毛郡大幡村・如水村の邊か。 【野中】 野波村 島根縣出雲國八束郡の北部。島根半島の中央東偏に位して日

南岸にやや廣き低濕地あり、そこに沿岸唯一の卯原内の小葉落あり。 【能取】 北海道網走支廳網走郡にありし村。大正四年網走町に合併されてその大字となる。湧湖東線の能取驛(昭和十一年設置)あり。

ノトコ 能登呂 【能登呂村】 樺太大泊支廳留多加郡の南部。亞庭灣西岸に沿ふ狹長の地を占め、北は三郷村、西は本斗郡に接す。三郷村との境より南端の西能登呂岬まで六六軒北端に於ける東西の長さ約二〇軒なり。西部に西樺太山脈南北に走りて本斗郡との分水嶺を成し北より運平山・臥牛山(五〇三米)・十串山(四四九米)・白主山等連りて西能登呂岬に盡き、東方に向ひ多數の山脈を出し北に兩龍山(四三三米)・菱取山等聳ゆ。河川は兩龍川・菱取川・泥川・古江川・内砂川・孫杖川・知志谷川・七江川等何れも東流して亞庭灣に注ぎ、沿岸に低地横はる。河岸は概ね單調にして、砂濱・礫濱相連なり、南部には暗礁・礁脈多く、古江川以北は岬岸長く連なる。泊地として西能登呂岬の北に小泊・七江等あれど良港と云ふべからず。また西能登呂岬附近は暖寒兩海流の衝突するによりて濃霧の發生甚しく本島最多霧地域の一をなす。産業は水産業を第一とし、鯨・鰯の漁獲多く、沿岸には兩龍より西能登呂に至る間十餘の漁場あり。兩龍川上流その他より木材が出しまた木

本海に臨み、松江市の東北五軒餘に當る。南に島根山脈を負ひそれより西北方へ延びる山地、一は西境を限り一は中央海中に突出して先端多古島に盡き、その間に灣を圍み灣頭に村落あり。村内平地乏しく海岸は風曲に富み斷崖に迫るところ多く、附近六ツ島・松島・築島等の小島散點し風光また絶佳なり。米・麥・甘藷・藪・油桐・果實等の農産を出し、近海に魚族の棲息多く魚類の集散地にて鰯・鯛・鰯・鯖・鮪・和布・荒布・海苔等の産あり。南隣本庄村に通ずるには文尋寺の峻坂ありて陸上交通不便なり。海上近海に定期發動機船の便あり。此地は和名抄の島根郡千酌郷の中なり。野波浦は後醍醐天皇の隱岐より御遷幸の際、御舟を着け給ひし地と傳ふ。(多古の七ツ穴)指定天然記念物。島根半島の最北端をなせる多古島の岬角は集塊岩及び凝灰岩の互層より成り、その中、沖泊より瀨崎に至る間の海岸は高さ約五〇米、延長約四〇〇米に亘る一大絶壁にて、その下部に大小四箇の波蝕洞窟が九箇の洞口を開きて相並ぶ。九箇の洞口の中、正面より一望し得るは七箇のみなるを以て七ツ穴と稱す。 【築島の岩脈】 指定天然記念物。字稚崎集落の東にあり。築島は第三紀の凝灰岩より成り海岸の斷崖に安山岩質の一の侵入岩床ありて、これより上に更に一米乃至二米程の厚さを有する進入岩床あり、上段の岩床は下段の岩床に岩脈によりて

運り、岩脈は更に上部の地層を貫通して殆ど直立す。上部の進入岩床と岩脈との交叉する部分より、また一枚の薄き岩脈が出て層面を僅かの角度にて切る。以上の一帯と近接して稍々その西に當り、更に一箇の岩脈ありて略々南北に異層を貫き、この接觸部に沿ひ一箇の洞窟あり。

ノネ 野根町 高知縣土佐國安藝郡の東北隅。甲浦町の西南に隣り、北は徳島縣海部郡穴喰町に接し、東は太平洋に臨む。西境に七百乃至九百米の山地連亘し西南境には小坂山(七八五米)あり、東北境にも四百乃至五百米の山地あり。中間を穴喰町の西北山地に發する野根川、山地を縫うて東南に流れ下流にはやや廣き沖積地を形成す。雨量は室戸岬の頭部に當るを以て非常に多く、四圍にても最多雨地域に屬し、また屢々颱風に襲はるる事あり。野根川下流の沖積地には耕地よく開け米・麥・藪を産し、山地は氣候的に惠まるるを以て植物の生育に適し美事なる林相を呈す。縣道は海岸に沿うて走りバスの便あるも、縣中心部に赴くには室戸岬を迂迴するか、若しくは野根山麓の險路より室戸利町に至るものにて何れも不便なるを免かれず、従つて徳島縣穴喰町方面との關係が密接となる。野根山は山中の踏道約四四軒に及び、四國中驛路筋に當る山路として第一の難所たり。經頂に昔は岩佐と呼ぶ關所あり、その下の泉を岩佐の清水と稱へて名高し。

炭の産あり。農業は兩龍・泥川・古江・内砂・知志谷・七江・小濱等の各畠民地を中心に行はれ、蕎麥・裸麥・豆類・馬鈴薯・牧草等を産し、牛・馬・鰯の飼養も行はる。兩龍川流域には南部封鎖炭田に屬する兩龍炭田あり推定埋藏量三千四百萬噸なるも未だ稼行に至らず。東部縱貫道路員塚より分岐する兩龍街道は海岸に沿ひ西南走し西能登呂岬に達し、うち古江以北は改修成り車馬を通じ、また泥川より西は西方十和峠を越えて本斗郡好仁村に至る間道あり。兩龍は兩龍川河口右岸に發達せし本村の最大葉落にして、住民は主として漁業に従事し、郵便局・漁業組合・産業組合等あり。西能登呂岬には簡易觀測所を設け、また西能登呂岬燈臺(明治十六年設置)あり、第二等燈臺にして、紅白互光、紅白光各五秒(紅光分五秒、白光分五秒)の船通報に關する事務を取扱ひ、また霧笛を裝備す。岬の北側なる小泊(西能登呂)は海底電線陸揚地にして、縣命令の定期航路船が寄港す。岬の東南約一五軒、宗谷海峽中に二丈岩あり、四白光、光達一三哩の燈標及び霧鐘を裝備す。因に兩龍は四宮嶽第一回探險團にワルトとある地にて、明治初年邦人の經營せる十五漁場の一とす。

【能登呂半島】 樺太島西南部に占むる一大半島。東は中知床半島との間に亞庭灣を抱き、西は開宮海峽を隔て遙にアヂヤ大陸に對し、南は北海道本島との間に宗

運り、岩脈は更に上部の地層を貫通して殆ど直立す。上部の進入岩床と岩脈との交叉する部分より、また一枚の薄き岩脈が出て層面を僅かの角度にて切る。以上の一帯と近接して稍々その西に當り、更に一箇の岩脈ありて略々南北に異層を貫き、この接觸部に沿ひ一箇の洞窟あり。

山上には老杉古楡天を掩ひ、幽邃を極む。古へは土阿の官道たりしこと續日本紀に見え、承久の亂後、土御門上皇が土佐に御遷幸の時、この山中にて雪に苦しみ給ひしことあり、承久記に「浮世にはかかれ逆こそ生れけり知らぬ我涙かな」と御詠遊ばさるとあり、また彼の岩佐清水は貞應元年、更に阿波に遷御の時、岩間より送り出づる眞清水を御掬ひありて賞美あらせられ名づけ給ふといふ。昭和十三年町制を布く。〔八幡宮〕大字野根に鎮座。郷社。祭神、應神天皇。古來當村の總鎮守にして、領主惟宗氏の崇敬あり。例祭、七月九日・十月六日。

ノノノ 能濃 石見國(島根縣)の古地名。和名抄に鹿足郡能濃郷あり、その地今の鹿足郡津和野町・小川村・木部村・畑迫村の邊なるべし。

ノノイチ 野々市町 石川縣加賀國石川郡の北部。金澤市の西南に接續す。金澤平野の略中央に位し、土地平坦肥沃にして水田多し。農業を主とし金澤方面に出ず蔬菜を除けば殆ど米なり。南北に社線金澤電軌貫通し、野々市驛(大正五年設置)を置くほか縣道四通し金澤市・香嶺西(金澤驛(押野村)等へバスの便あり、松任町・鶴來町へも縣道通じ、金澤・松任間の社線金澤電軌松任線の便もあり、交通至便なり。この地は北國街道の野々市宿のありし地にして、和名抄、石川郡宮郷郷の内なるべく、古くは布市に作る。永延

年中、宮郷家國、始めて此處に居を構へ、子孫相承け二十三世五百年餘に及ぶ。元龜元年五月、一向宗徒のために隔れられ宗徒ここに築き據る、天正八年、織田氏の兵來りて攻め遂に隔る。大正十三年町制を布く。

ノノウエ 野上(知) ↓野上(美濃國)ノノウチ 野口 ↓野口(丹波國船井郡)

ノノサト 野里 若狹國(福井縣)の古地名。和名抄に遠敷郡野里郷見ゆ。また延喜兵部省式には若狹國遠敷郡馬五疋とあるもこの地なるべく、和名抄は地名を二字となすために里の字を加へたるものならん。而してその郷地は遠敷郡熊川村の地か、而して遠敷郷址はこれを大字熊川の邊に定むべきか、後攻を俟つ。

ノノセ 野之瀬村 山梨縣甲斐國中五郎郡の西南部。甲府市の西南約一十里。甲府盆地西邊をなす山地の山裾を占め西より東へ傾斜す。聚落は概ね東部に散在し、養蠶業を主生業とし、次で農業行はる。繭桑の産量も多く、米・麥の産これに次ぐ。街道は東部を貫通するも溪流に沿うて通ずる險路ありて交通便ならず。大字野上野上野城址あり、今の高嶽は後年に増築せるもの。足利尊氏の頃、武田信武の次子、彈正少弼信明、この地を領し大井氏と稱し、武田氏に抗す。數世の後を上野介信達とす、即ちここに居城せるものか。

ノノダケ 笠嶽村 宮城縣陸前國遠田郡の東北部。涌谷町の東北約五里。東には北上川及び江合川を隔てて桃生郡に、東北は迫川を隔てて登米郡に接す。村の西南半部は又兵衛壇丘陵に屬し、笠嶽山(二二二米)ありて山地をなすも、東北半部は平坦なり。迫川は東北境を東南に流れ江合川は東南境を東流し何れも東南境にて北上川に合し、流域は頗る卑濕なり。米・麥・蕎麥を産す。道路は村の東部及び西部を各南北に通ず。西南方石巻線湧谷驛へはバスの便あり。笠嶽はもと神樂岡と稱し、延暦二十年、東夷の瓦甍高丸起り、駿河に至るや坂上田村麻呂これを清見關に防ぐ。高丸敗れて神樂岡に據る。田村麻呂退撃して來り、遂に此地に高丸を殺し、その首級を京師に送り、嗣を岳上に埋め、神樂岡の東邊に殘矢一條を刺し凱陣の祭式を行ひしといふ。〔笠嶽寺〕大字笠嶽にあり。天台宗。無夷山尊常住院。俗稱、笠嶽觀音。奥州三觀音の一。寶龜六年鎮守府將軍大伴駿河麿の草創と傳へ、延暦年間坂上田村麻呂堂宇を創建すといふ。嘉祥二年開仁中興し、當時二十一坊ありて寺勢盛なりき。舊寺領百二十石。

ノノボリ 野登 〔野登村〕三重縣伊勢國鈴鹿郡の西部。鈴鹿山脈の東斜面にて、東南部は龜山町に接し、西は山脈を距てて滋賀縣甲賀郡に界す。西境は七八百米程度の鈴鹿山脈南北に連り、山地東方へ傾斜して東部

名運河といふ。この運河は南方開上町より松島灣までの真山堀と共に仙臺灣岸の航路・運輸路に當りしも、いま砂泥堆積し大船は通ぜず。

ノノカタ 延方村 茨城縣常陸國行方郡の南部。潮來町の東隣にして北浦に臨む。東は北浦を隔てて鹿島郡の一部と相對す。西北部は低き丘陵地をなすも、他は水郷にして、北浦より野川を経て外浪逆浦に續く部分を占め、土地低平にして水田多く、米を主産す。特産物としては蕨の製作行はれ、年産約十五萬圓あり。對岸鹿島郡豐津村との間に神宮橋あり。縣道は潮來町より來り、村の中央を経てこの橋を渡り鹿島郡鹿島町に通ず。北浦をはじめとして利根川・霞ヶ浦方面への水運の便大なり。この地は和名抄、行方郡餘戶郡の地なり。江戸時代、水戸藩の藩校(文化三年、小宮山昌秀の創立)延方郷校のありし所。

ノノサト 信里村 長野縣信濃國更級郡の北部。犀川の右岸。長野市の西南方約六里。中央に七〇米餘の茶臼山の丘陵起伏し、北は犀川に、東南は善光寺平に向ひ傾斜す。耕地は北部河岸及び東南部に開け養蠶・農耕盛なり。繭・米・麥及び蕎麥の産あり。北部・南部に縣道通じ篠ノ井驛へ約六里、途中バスの便あり。大字有旅にある茶臼山は、川中島を敵下す。永祿四年八月武田信玄この山に陣して妻安山の上方謀信に對す。〔布制神社〕

ノノナガ 延永村 福岡縣豐前國京都郡の北部。和名抄、京都郡高來郷の内。行橋平野の西北部を占め、東は行橋町に接す。西南部は低き丘陵をなし、その中央には東北より西南へ通ずる低地開く。東部より北部一帯は東へ續く廣き平野にして、南方より來る筑川は東部中央を東

は河越城主松平伊豆守信綱の發意にて、家臣の安松金右衛門の辛苦經營に成りしものなり。由來玉川上水の分水といふことは容易に許されざりしを、信綱は或時、功ありて將軍より恩賞を賜はらんとせしに、これを固辭し特に一升の分水を得しといふ。一升の水とは蓋し一升枿大の取入口より流れ出る水量をいふ。信綱はここに於て家臣の安松金右衛門の見積りし三千兩の豫算を以て後世の爲、この大工事な起すに至れり。金右衛門は當時の不完全なる測量術をもつて土地の高低を測り、日夜數百の工夫を督し刻苦して工事を竣成せしも、意外にも水通らざりき。翌年まで待ちしも同様なるを以て、往々彼を非難するものあり。この時彼は人に語りて曰く、古より諺に河は九里を測はずといふ、河越の地は土地は燥き砂塵を吹きて古より人々を苦しめしが、今年に塵立たず、その上畑作物の出來例年に倍す、これ即ち河水が土地を潤はせし結果なりと。かくて待つことまた一年、翌年になりて一夜大雨の後、水は雷の如く轟然と音を立てて河に通じ新河岸川まで至れり。信綱の喜びは非常なるものにて、金右衛門の自信と堅忍を厚く賞せりといふ。平林寺の移轉(岩槻より野火止へ)は信綱在世中には果さざりしが、子輝綱の時父の志を成し、且つ信綱の墓をも移し境内に用水を導けり。用水はこの邊にて數條となり野火止地方を灌漑し、爲に多

くの新田を得、人家も増加するに至れり。今もこの地方にては野火止用水をば「伊豆殿堀」といひてその遺徳を稱へ、また今の高等小學讀本卷一にも記載され、世に著はる。

ノヒル 野赤 〔野赤村〕宮城縣陸前國桃生郡の南部。鳴瀬川の河口右岸にあり、西は松島灣に臨み、東南は石巻灣に面し、南は狹水道を隔てて宮戸島に相對す。西北部には百米内外の丘陵起伏し、鳴瀬川流域及びその河口より松島灣に通ずる東名運河一帯には低地ありて耕地よく開く。海岸には砂堆ありて砂濱廣く、松島灣の形勝地を控へ好き海水浴場として知らる。農業盛にして米・麥・繭を多産し、漁業も行はる。社線宮城電氣鐵道は中部をほぼ東西に通じ大塚驛・東北須磨驛(共に昭和三年設置)・東名驛(昭和六年設置)を置き、縣道は鳴瀬川に沿うて走り、交通便なり。此地は藩政時代は鳴瀬川物資集散地として伊達家倉庫所在地の一たり。物資は鳴瀬川の上流地方より舟運により送り來り更に鹽釜港より通ずる真山堀を廻り、仙臺に搬出せり。

〔野赤運河〕宮城縣にある運河。北上川の河口石巻市より鷹來村(桃生郡)を経て南西約二〇里、鳴瀬川河口の野赤村(桃生郡)に到り、明治十一年開鑿の工を起し同十五年十月竣功す。大字野赤より更に大字東名に到り松島灣に通ずるものを東

大字山布施に鎮座。郷社。祭神、天照大神・大比古命。古來山布施村の産土神たり。もと神明宮と稱へしを、文化七年現社號に改む。例祭、九月廿四日。

流し行橋町より周防灘に注ぐ。米・麥を産す。行橋町より西南方田川郡香春町へ通ずる縣道中央を西南へ走り自動車便あり。〔正八幡神社〕大字草野に鎮座、郷社。祭神、磐田別命・息長足姫命・比咩大神。古へ、草野村・行司村・養音寺村の産土神たり。例祭、八月二十四日。〔恒高八幡神社〕大字上津熊に鎮座。郷社。祭神、神功皇后・照神天皇・比咩神。當地は宇佐神宮の神領たりし關係上、同宮より分配せるものなるべし。古へ上・中・下津熊村の産土神たり。例祭、五月十四日。

ノブノ 延野村 徳島縣阿波郡那賀郡の中央南部。那賀川中流に跨り那賀町の南に接し、東は新野町に隣り、南は海部郡に界す。四周山地を以て圍まれ中央河岸に傾斜し、東境には矢筈山(五六二米)あり、西南境には六二二米の山地あり。那賀川は西方より來り本村を西南より東北へ横斷して那賀町に出づ。西南部にては東南方より來る小河を合す。沿岸にやや平地開け、米・麥・苧の産あり。那賀町方面より南方日和佐港へ出づる縣道中央を南北に走りてバスの便あり。

ノヘ 野部村 靜岡縣濱江國磐田郡の中部。天龍川の左岸、二俣町の東南に接す。東北部に二〇〇米餘の丘陵あり西南へ傾斜す。天龍川は西部を南流し西南部に平地開く。河岸は砂土多く流水比較的便ならず、畑地多し。米・麥・苧の農産

延岡工場の設立せられしに始まり、昭和四年には日本ペンベルグ絹織株式會社延岡工場、同七年には旭絹織株式會社延岡工場設けられしが、同八年兩社は合併して旭ペンベルグ絹織株式會社を創設、現在藥品・ペンベルグ・レーヨンの三大工場の外、曹達工場・ハンカチーフ工場・旭味(調味料)工場を有す。ペンベルグ工場は敷地十萬坪餘、本邦最初の銅アンモニヤ法による製品を市場に送りし工場にして、レーヨン工場はワイエース法による製品を出だし工場面積十二萬坪を擁す。なほ日本窒素火薬株式會社は延岡火薬工場に附隨して製薬工場を設け、更に延岡プラスチック工場を設けチツソロイド(セルロイド)の一種を製造し、以上二社工場の職工數約二萬人。而して生産額は人造絹絲二七四〇萬圓にして首位を占め、工業藥品・火薬類・硫安・晒粉・澱粉・旭味・チツソロイド・アミノ酸醬油等の右二社製品の總産額四九五三萬圓にして、市の全生産額の九六%強に當る。其他、工作機械・鋳物・醸造・製材・製氷・建具家具類等の諸工業あり、工場には中島商事株式會社土々呂精練所(錫)日平商店醸造試験場(清酒)等や著はる。特産品には前記「旭味」・アミノ酸醬油のほか、傘・石工品(紅溪石硯)などあり。農業は東部沖積地に主として行はれ耕地面積は水田一四八〇ヘクタール、畑八九〇ヘクタールあり、米三萬六千石、

物に次ぎ繭の産多く、牧畜・林業・工業また行はれ、多方面の産業を呈す。社線遠州鐵道の遠州二俣線に近く、縣道また南北に貫通し、交通概して便なり。この地に豪士野邊氏あり、蓋し遠江權守藤原爲憲の五世、入江權守清貞の子に野邊三郎家貞あり、在名を稱せしものか。

ノヘオカ 延岡市 宮崎縣東北部第一の郡邑。もと内藤氏の城下町にて、いま縣北部の物資集散地たると共に、九州東岸に於ける一大工業都市。東經一三一度四〇分、北緯三二度三四分、五ヶ瀬川の河口に位し、東方一帯は日向灘に臨み、北は東臼杵郡北川村・南浦村に、西は同郡北方村・南方村に、南は同郡門川町に接す。東西約一九軒、南北約三〇軒、面積一七三・九七方軒あり、全国市部のうち東京・京都・大阪の各市に次ぎて廣く、横濱市とほぼ相等し。人口約九萬。

〔地形・氣象〕地は九州山脈の海に盡くる所にして、西北境に嶺山(二四・五米)聳え、その山脈の南方に延ぶるものは行勝山(八三・一米)を、東南に延ぶるものは和久塚・可愛岳(七二・八米)などみ起し、可愛岳の餘勢は南の長尾山となる。此等の北山は概ね古生層より成り、一部は火成岩(花崗岩)によりて被覆せられ、行勝山に至りては同層のダイクによりて絶壁をなす。東部の五ヶ瀬川河口地帯を圍みて白雲層の丘陵起伏し、東北部に於て高阻二〇〇―二五〇米、南部に於ては

標高一萬三千石、甘藷九十四萬貫を主とし、蔬菜の促成栽培行はれ(南瓜・胡瓜・西瓜・里芋等)、阪神・名古屋方面へ出荷さるるもの多く、また切干大根の産物からず。果實は蜜柑(三・六萬貫)を主とし桃・梅・枇杷等あり。農家副業として養蠶・牧畜また盛んにして、繭の年産一萬八千貫、家畜は馬・豚多く、其他、牛乳(二萬圓)・鶏卵(六萬圓)を出だす。水産業は近海に鮪の好漁場を控え、其他、鱈・鮪・鰯など暖流系の魚類多く、漁獲

Table with 2 columns: 延岡市主要生産物 (Main products of Nagaoka City) and 延岡市主要生産物 (Main products of Nagaoka City). Rows include items like 米 (Rice), 工業藥品 (Industrial chemicals), 絹織物 (Silk), etc.

高約四二萬圓、水産製造は煮乾・鹽藏・節類・蒲鉾類等を合せ二〇萬圓餘に達す。また五ヶ瀬川の鮎漁は有名にて燒鮎・鮎

二五〇―三三〇米を示し、高平山(四〇五米)・愛宕山(二五・一米)・黄見山(三〇・八米)・および城山・今山等は著るし。河川は五ヶ瀬川の外に北川・神子川・沖田川等あり、五ヶ瀬川は最大にて阿蘇外輪山に發し三田井の仙境を経て東南流し來り市の西境にて大瀬川を分流するも市街東邊に於て再び合流す。北川・神子川は共に北方縣界の山地に發し縱谷をなして南流、一は可愛岳の東裾を、一は同じく西裾を環流し、五ヶ瀬川とその河口に於て合流、海に入る。また沖田川は南部丘陵地に發し矢櫃溪谷を経て愛宕山南麓を流れ、濱川を容れて長濱にて海に注ぐ。此等諸川は何れも流域に於て廣き沖積地をつくり、耕地横はる。即ち本市の主要部は此等河川のデルタ上に發達せるものにて、河口に近く祖父ヶ島・伊丹島・懸島・方野島等、大小幾多の島を形成し、城山の如きも嘗ては河上の一小島たりしと考へらる。海岸線は延長三〇軒に及ぶ。南部に遠見山半島突出しその北端に被掛岬あり附近は出入多き海崖を成せど土々呂港を内に擁し、これより北約一〇軒、五ヶ瀬川河口に至る間は弧狀を描く低砂濱にて長濱と稱し、一帯に松原塚き、遠淺にして好箇の海水浴場を提供す。河口と方野島とによりて延岡港を構成し、以東は火打崎に至るまで再び岬岸をなす。氣候は九州中にも最も暖き地方に屬し、雨は多く、概して紀伊半島又は土佐の沿

岸地方に酷似す。昭和十一年観測に據れば、平均気温は八月二七・三度(最高極は三五・二度)、一月四・〇度(最低極は零下五・七度)、降水量二四四五を示し、降雪は殆んど之を見ず。〔産業〕工業は最も盛にして農業・水産・林業・牧畜業等これに次ぐ。いま市の業態別戸數を見るに農業二七五一戸、副業者を含し六七四三戸にて首位を占め(統計は昭和十一年、以下準之)、工業の三九二五戸(別に副業者二三〇三戸)、商業四六二八戸、水産業五九〇戸(副業四八四戸)等は右に次ぐ。生産總額は五四二九萬圓にして、うち工業は九五%を占め残りの半ば以上は農産物なり。これを前年に比ぶれば總額に於て昭和七年一〇二四萬圓、同八年一七四萬圓、同九年三九四萬圓、同十年四四六四萬圓と激増し、鐵産が稍々減じたる外は何れも増し延岡市生産總額(昭和十一年)

Table showing production statistics for Nagaoka City in 1911. Columns include 農産物 (Agriculture), 畜産物 (Livestock), 林産物 (Forestry), 水産物 (Aquaculture), 工業物 (Industry), 礦産物 (Mining), and 計 (Total).

特に工業物の増加は目撃しきものあり。本市が城下町より近代都市への躍進に移りしは大正十二年日本窒素肥料株式會社

うるかの特産あり。市の北部を主とする山林はまた本市の資源の一にて約七四〇ヘクタールの山林は諸種の濃密針葉樹に富み、松・杉・檜の用材を主とし(一九萬圓)・同上板・薪材・栗實・椎茸等を出す。いま昭和十一年に於ける主要生産物(十萬圓以上)を表示するに上表の如し。〔交通〕省線日豊本線は北川溪谷に沿うて南下し、五ヶ瀬川左岸に延岡驛あり、次いで長濱海岸に沿ひて南走し南延岡・土々呂の各驛(以上何れも大正十一年設置)を設く。延岡驛より小倉までは二五六軒(急行約六時間)、宮崎までは八四軒(約二時間)あり、同驛より五ヶ瀬川溪谷を溯る目ノ影線が岐ち、西隣南方村には西延岡驛が設けらる。各驛の運輸狀況を見るに、乗降人員は延岡驛二六萬人、降二七萬人にて最も多く、南延岡驛は乗降各一萬人、土々呂驛は同じく各四萬人となるに反し、貨物は南延岡驛にて最も多く取扱はれ、延岡・土々呂は之に次ぐ。而して貨物の移入額は三一二萬圓にて機械類・電氣用品・石炭・豆粕・鐵礦及び鐵製品を主とし、其他の礫石(銀・銅)・礫油・米・砂糖・煙草・自動車等も多く、移出は九八二萬圓を算へ爆發物・晒粉・椎茸・工業藥品・鐵石及び金屬製品・木炭等を主要なるものとす。道路は日豊本線とはば並行して國道大分街道が南に貫走する外、延岡驛附近より西へ高千穂街道が岐ち、五ヶ瀬川は河口より上

流の日ノ影まで舟楫の便あり。海運は延岡・土々呂の二港による。何れも指定港灣にして、土々呂港は現在大阪商船の大阪・鹿児島航路、土佐商船の高知・細島航路の寄港地となり、特に人絹織出港として著はれ、北方の洋寄港に土々呂港燈臺(明治三十九年設置)あり、縣立にして燈質は不動白光(紅光分燈)、光達距離は六哩。また延岡港はもと東海運上にして江戸時代より開け、交通運輸上の要地たると共に、風光の美を以て知らる。兩港の港勢を見るに、入港船舶(汽船のみ)は延岡五八三(隻)・土々呂は四七九四隻(七三萬噸)にして、後者は此の點に於て縣下各港の第一位にあり。船客數は延岡は乘一六三三〇、降二二五三〇、土々呂は乘一一五八四、降一一二〇一七にて共に縣下各港の上位を占む。貨物は延岡港の移出額三・九萬噸(三二五萬圓、火薬・木炭・木材、移入額二・八萬噸、(一四〇萬圓、金屬及び同製品・セメント・機械油)に對し、土々呂港は移出一・四萬噸(六二三萬圓、人造絹絲・礫石・椎茸)、移入七千噸(一四四萬圓、機械油・金屬及び同製品・和酒・織物・豆類等)の數字を示す(以上港灣統計のみ昭和九年)。

郵便局・警察署・商工會議所等集中す。本小路に接する本町通・船倉町などは對岸の祇園町附近および國道筋の川原町その他とともに商業地域の中心をなし、諸會社・銀行・商店など揃ひす。五ヶ瀬川には幅員一五米の板田橋・安賀田橋を始め五ヶ瀬橋・大瀬橋・川島橋等の長橋を架し、大瀬橋上流には有名な鮎菜ありまた川に遊船を泛ぶ。中央三角洲の南方は工場地帯にして旭ベンベルグ諸工場を始め大小の工場とその住宅・寄宿舎多く、その東方には田圃ひらけ、南端に南延岡驛あり。西南方は愛宕山を盟主とする丘陵地帯にて附近には古墳・アイヌ遺跡等散在し、また井上城址等あり。東部の長濱海岸は沙干狩・海水浴に子女群集する處にして、その南邊に延岡競馬場・平原遊園地あり。城山の北方對岸には今山丘陵起伏し、今山公園・八幡神社・今山大師・豪雲寺等は其の附近の名勝にて、その東麓なる延岡驛に近くレイオン工場が廣大なる地積を擁す。以上の地域の北に東海、南に土々呂の新市域あり、東海の河口に臨み日本窒素火薬の大工場あり、その西北の丘陵は西南役の古戦場として聞え、その東麓佐野(北川村地内)には現々杵摩御陵と傳ふる地、南麓に那智ノ瀧・琴彈ノ松・蛇谷ノ瀧・土持高信墓・千光寺等の名勝史蹟あり。土々呂港附近はまた海水浴場として著られ、此處に岩戸鐵山株式會社・土々呂精練所・燃炭あり、

その東方側名には陸軍演習廠あり、附近は千疊敷・三松公園・瀧ノ不動等の景勝に富む。斯の如く市域廣大に過ぐるを以て市役所は北部の大字稻葉崎に東海出張所を、南部の大字稲津土々呂に伊形出張所を設く。前記の外、市内の官公署に刑務所支部・供託局出張所・警務署・同署東海貯木場・大藏省預金部出張所及び鐵道關係の保線區・機關區・鐵道診療所等、教育施設に縣立の中學・商業・高女各學校及び縣立圖書館等、その他延岡新聞社・延岡新報社・延岡製紙株式會社・延岡電氣株式會社・日豊水電株式會社・延岡瓦斯株式會社・日州製氷株式會社等あり。

十一年に於て他地へ出たる者一二九〇人、他より入りし者三六〇九六六にて最近五年間に二倍乃至三倍の増加を示し入寄留者にありては昭和十年頃より女子數が男子數を凌駕し、昭和十一年に於ける現住人口中、男三八六四七に對し女四〇四六五となり、近郊農村の女子が労働者として動員せらるるもの多きを示す。

牧野氏三十六年に於て延享四年常陸笠間に移り、内藤備後守政樹七萬石を以て磐城平より來封し、子孫相承けて維新に至る。明治四年に廢藩、延岡・美々津・宮崎・鹿兒島の諸縣に轉屬し、同十六年鹿兒島縣より分離し再び宮崎縣に屬す。同十七年白杵郡を東・西に分つや東白杵郡に屬し、同富・恒富・出北・三須の四箇村に分る。明治二十二年町村制施行に伴ひ、同富村より延岡町を分離し、恒富村に出北・三須の二村を合併し、同富村・延岡町・恒富村の一町二村となる。大正十二年省令日豊線全通し、海陸運輸の利便を得るや商工業俄に勃興し、昭和五年四月三町村は合併して新に延岡町を建て、同八月二十一日市制施行、次で同十一年十月、東海・伊形の兩村を合併し今日の大延岡を建設するに至る。

〔先史時代遺蹟〕大字恒富、愛宕山麓の洞窟遺蹟は最も顯著なり。大正十三年新道開鑿に際し發掘せられたるものにして一部破壊せらるるも、自然に海岸に存在せし洞窟と考へられ、窟前より内部へかけて貝殻あり。多數の貝殻に混じて石器時代の土器破片あり、窟底に原始的石棺五箇を發掘し、同時代の人骨三體を發見せり。アイヌ居住乃至埋葬の跡なりと推斷せらる。もと東海村地内には石器時代人信仰の象徴と見るべきメンヘル二箇あり。また市内より富高町方面に亘り前方

名高き標干ノ墓あり。〔井上城址〕大字恒富にあり。大瀬川の南涯に突出し、東南に愛宕山を負ふ。一天守山と稱す。西南の本丸址は海抜六〇米、周圍一・二軒、その東に北ノ丸、西に西ノ丸の址あり、前者は高さ本丸と相伯仲し周圍〇・七軒、後者は周〇・三軒。日向古跡誌に據れば永仁五年土持國綱これを築き縣城より移り、居ること百三十三年、永享元年西階城を築き移るに及びて廢す。附近に八十八箇所の石像を祀り、また大師堂あり、風光明媚の小公園地をなす。

中腹の愛宕神社を中心とする地域にして大正峰頭よりは西に高千穂の峽谷、東に四國の岬角を望み、縣下隨一の公園と稱せらる。山上の林間に御手洗水神を祀り附近頗る林泉の美に富む。〔今山公園〕大字同富今山にあり。五ヶ瀬川の左岸なる連丘の東端に位し、自然の風光に富み幽邃の地たり。今山神社・大師堂・西南役招魂碑・蓬萊館等あり、また夜櫻を以て名高し。大師堂は延岡大師と稱し、今山神社の北隣にて、毎年陰曆三月二十一日の大祭には遠く他縣より賽者殺倒し股賑を極む。

〔今山八幡神社〕大字同富に鎮座。縣社。祭神、品陀和氣命・息長帯姫命・玉依姫命外に合祀十一神。此地もと豊前守佐八幡宮の神封なれば天平勝寶三年に同宮をこゝに勧請せらるに創まると云ふ。治承四年、領主土持榮綱は宇佐神宮に準じて社殿を再興し爾來累代の領主なる土持・高橋・有馬・三浦・牧野の諸氏相繼ぎて厚く崇敬し、内藤氏に至りて遂に領内守護の鎮守と改む。明治四年廢藩置縣の初に村内の小祠を此處に合祀し郷社に列し、のち縣社に昇る。例祭、十一月二十三日。〔安賀多神社〕大字同富に鎮座。縣社。祭神、大日靈貴命・手力雄命・萬幡姫命外に相殿四柱。養老元年頃には同富村字今山に鎮座せしも、天正四年大友宗麟の亂に遭ひて社殿・舊記を焼失しその由緒を明かにせず。寛永元年に領主有馬直純

は再建して現社地に遷し、神明宮と稱し領内鎮守となす。明治六年五月縣社に列すると共に現社殿に改稱す。祭神の大日靈貴命は天照大神の別名、萬幡姫命は萬幡豐秋津彥比賣命の略名にて一に檮幡千々姫・檮幡姫とも云ふ。例祭、十二月十六日。〔龜井神社〕大字同富に鎮座。縣社。祭神、菅原道真外一神。合祀、内藤家長・内藤元長。舊稱天満宮。正保三年有馬直純の勸請。享和年間、延岡藩主内藤氏祖先家長とその子元長を合祭し延岡城の鎮守となす。例祭、三月二十五日。〔栗野名神社〕大字栗野名に鎮座。縣社。祭神、太玉命・天鈿女命・事代主命・磐長姫命。古來當地の産土神たり。例祭、十一月二十四日。〔恒富神社〕大字恒富に鎮座。郷社。祭神、天兒居根命・武甕槌命・齋主命・姫大神等八柱。養老二年の勸請と傳へ、もと春日明神と稱す。中世以來、領主土持・高橋・有馬・三浦・牧野・内藤等諸氏の崇奉絶えず。例祭、十二月五日。〔三福寺〕北町にあり。淨土宗知恩院末。慶長十九年有馬直純が肥前高來より移せしものにて、幡隨意上人を開基とす。延享以後は内藤氏の菩提所たり。境内に有馬直純・内藤家累代の墓あり。〔豪雲寺〕北小路にあり。曹洞宗。萬歲山。養老三年榮嶺和尚の開基といふ。高橋氏、次いで有馬氏の菩提所にて、明治

維新までは東白杵郡四十七箇寺を管せる名刹なりき。

【出北観音堂】出北にあり。監物様と俗稱す。藤江監物の靈を祀る。監物は牧野氏の重臣にして、享保年間、西隣南方村に岩熊井堰を設け約一〇畝の用水路を穿ち、五瀬川の水を引き、以て六百ヘクタールの沃田を拓く。不幸、軍資金流用の嫌疑を以て獄に下り、同十六年歿。村民小堂を建て工事に功ありし郡奉行江尻喜多右衛門の靈と共に併せ祀る。監物は大正十三年従五位を追贈せらる。

ノヘシ 野邊地

【野邊地町】青森縣陸奥國上北郡の中部。西は東津輕郡に隣り、北は野邊地海に面す。野邊地海に沿ひて幅約三畝の孤状をなし、面積八一・七六方軒。西南境には烏帽子嶽(七二〇米)あり、東北方野邊地海に傾斜し、東境には丘陵長く連りて西方野邊地海に傾斜す。東西山地の間には南方より清水目川來り、烏帽子山麓より發する川を合し野邊地川となりて北流し海に注ぐ。沿岸に耕地拓く。米・蠶・帆立貝等を生産し、烏帽子山麓には農林省畜産所あり、牧馬行はる。また帝室林野局東京支局出張所あり。陸羽街道は南方より來り野邊地海に沿ひて西方青森市に向ふ。また東北本線通じて大宇野邊地に野邊地驛(明治二十四年設置)を置き、省線大津線は、こより分岐して大宇有戸に有戸驛(大正十年設置)あり。本村大字

馬門は舊奥州街道の馬門宿にて、神明町に野邊地城址あり、慶長十三年、日戸内勝秀恒この城代を命ぜられ、寛文四年より代官を置きたり。明治三十年より町制を布く。明治天皇、明治九年奥羽御巡幸の際及び同十四年山形・秋田及び北海道行幸の際、此地に御泊あらせらる。【八幡宮】大字野邊地に鎮座。郷社。祭神、豊田別尊。古來領主の崇敬篤し。天保十四年再建す。社地に同町の北端高阜の林中に在り。例祭、九月十五日。

【野邊地海】青森縣にある海。陸奥灣の一支。陸奥灣は中部北方に突出する夏泊半島により西部の青森灣、東部の野邊地海に二分す。野邊地海の東岸は下北半島の頭部に北方には大津灣の小灣あり。灣内は砂地にて帆立貝の産あり、北部には鱈を生産す。沿岸には小湊・野邊地・瑞濱・大津等の船色あり、海奥の上北郡野邊地町より沿岸諸地に寄航する航路あり。

ノヘヤマ 野邊山

【野邊山】青森縣小津郡の一驛(昭和十年設置)。長野縣南佐久郡南牧村にあり。

ノホノ 能褒野

伊勢國(三重縣)の古地名。景行天皇の御代、日本武尊命を奉じて東夷を征伐し給ひ、備後尾張國に至り更に近江膳吹山に荒神ありと聞召されこれを征伐し給ふ。既にして病を得て頗る篤し。此に於て伊勢を伊勢神宮に献じて捷を奏し給ひ、終に此地に薨じ給ふ。

能褒野は鈴鹿山麓の鈴鹿郡の平野の稱なすべく、舊去の地に鈴鹿郡高津瀬村大字高倉の邊ならんといふも詳かならず。日本武尊能褒野薨ばいま同郡川崎村大字田村字女坂に御治定あらせらる。

【登尾山】京都府天田郡三岳村と兵庫縣出石郡高橋村の境上に最高點(約四〇〇米)を置く峰。南降すれば福知山市に至り、北降すれば出石町に達す。最高點の東方に三國山(五七二米)並ぶ。

ノホリカワ 登川

【登川】北海道空知支庁夕張郡にありし村。大正七年夕張町と改稱せしが、その大字に登川の名を遺し夕張線の登川驛(大正五年設置)あり。夕張町

ノホリタテ 登立町

熊本縣肥後國天草郡の東北部。大矢野島の東北部を占め東北部は海峽を隔て宇土半島の西南端に位置する三角港に對す。村内到處は丘陵・臺地起伏し處處に狭小なる平野・盆地開け、海岸は屈曲複雑にして北端に燈臺あり。農業を主とし之に従ふもの九四三戸にして全戸数の七七%を占め、商業は九戸、工業五六戸、漁業五五戸、鑛業一五戸、其他六一戸なり。大正十三年町制を布く。中部より大矢野島南岸へ縣道通ず。また三角港との間に定期船往來す。

【登立菅原神社】大字積米に鎮座。郷社。祭神、菅原道真・平景清・大物主神等九柱。古來社地屢々變ぜしが、明曆二年今の地に奉遷す。例祭、十月二十五日。

ノホリベツ 登別

【登別温泉】北海道登別温泉の西北方約八軒、膽振支庁登別村の北西嶺。ユニータ型火山にして標高一〇〇〇米餘。北枝はオロフレ山(二二三〇米)に連り、東斜面は南東流する登別川上流千歳川の水源地なり。山頂部には僅かに高山性の小灌木生育するのみ。登山路は定かならざれば夏季は登高困難なれども冬季三四月頃迄はスキー・ツラア可能にして、この附近一のスキー岳として知らる。登別温泉に遊ぶ人々の長き行樂地となり、温泉より千歳川を廻行して至る。西方辨慶川を東に廻り、硫黄山及び硫黄製錬所を経て、達頂し得らる。

ノマ 乃万村

愛媛縣伊豫國越智郡の中部。今治市の西に接し、西は一軒内外にて瀬戸内海岸に出づ。北部及び南部は丘陵の斜面地をなし、中部に東西に連る平野開く。米の産多く、蠶・繭もあり。又鶏卵を産す。縣道中央を横斷し省線豫讃本線伊豫大井驛(西方一軒餘、大井村)あり。

ノマ 野間

【野間村】愛知縣尾張國知多郡の西海岸。内海町の北に接し、東は河和町に界し、西は伊勢海に面す。東部及び南部は一〇〇米以下の丘陵起伏し、其間に細き谷が樹枝狀に開け西部は平野なり。海岸は平直なる砂濱をなせども西南部に丘陵稍突出し野間崎(富具崎)をなし燈臺あり。米・麥・水産物を産す。西部には縣道南北に走り中央より東南へ通ずるものありて内海町に至る。西岸に市街地あり。此地は和名抄、智多郡富具郷の内なり。明治三十九年に奥田村・野田村を廢して本村

を置く。【野間崎燈臺】知多半島の西南端、野間崎の岬端上にあり。燈質は明三秒暗三秒の明暗白光にして、光達距離は一三・五哩。【大御堂寺(野間の大坊)】大字野間あり。新義眞言宗豊山派。鶴林山。白鳳年間草創と傳へ、のち行基これを中興す。承暦年中、白河天皇皇子を再建し勸修寺となす。平康頼は寺縁水田三十町を寄せ、源賴朝大に工を起して堂塔伽藍を建つ。豊臣秀吉寺領百九十石を寄せ、徳川氏また二百五十石、山林數十町の朱印を寄せ、且つ寺塔十萬石、諸大名に準ぜしむ。以てその盛なりしを知るべし。寺域廣大、境内に源義朝・平康頼・織田信孝等の墓あり。

【野間】愛知縣海部郡にありし村。明治三十九年に本村ほか四村を廢して神守村を置く。

【野間村】京都府丹後國與謝郡の西北部。與謝半島の中央に位し北及び西は竹野郡に圍まれ西南は僅に中部に接す。全村山地にて西南境に金剛童子山(六一四米)、東北境に大鼓山時つ。宇川は南境に發し村内の水を集めて中部を北上す。農産・林産・畜産・鑛産・工業・水産あり。縣道中央河谷を縱斷し、また西隣へ到る縣道もあれど、四面山にて圍まれ交通頗る不便なり。

【野間峠】大阪府豊能郡の北方、妙見山(六六二米)の北東方につづく峠。最高點(約四五〇米)は東郷村に屬す。西北斜面

は南西流する猪名川支流能勢川の水源地たり。峠道には古木繁り、峠上附近には「お供水」と稱する湧水湧く。峠上より南西方約一時半にして妙見山頂なる妙見堂に到る。

【野間(郡)】伊豫國(愛媛縣)の古郡名。新紀元神代二年紀に郡名初めて見ゆ。和名抄は乃萬と註し英多・宅萬・大井・賞方の四郷及び神戸一を管す。中世或は怒麻郡にも作る。近世野間に復し、明治二十九年四月越智郡に合し郡名を失ふ。

【野間岳】薩摩半島南西端部、鹿兒島縣川邊郡加世田町の西端に時つ山。標高五九一米。山體火山岩より成る。三方海に圍まれ、海岸近くには多くの小島青螺の如く點在し、また西北方には野間岬、北方には高崎鼻の突出あり。南東山腹に野間神社あり、瓊々杵尊・木花開耶姫・彦火出現命を合祀す。この神社も山頂にありしが現在の位置に移せるものなり。

【野間】「遠登長屋之竹島」とあれば古神代紀に「遠登長屋之竹島」とあれば古は竹島と稱されし如し。この山の東麓は同じく神代紀に見ゆる笠狭宮の跡として知らる。

ノマシ 野増村

↓大島野増村(東京府大島)

ノマダニ 野間谷村

兵庫縣播磨國多可郡の西南部。中町の西に隣り、西北は神崎郡に接し、西南より東南にかけては加西郡に圍まる。西北境に笠形山(九三九米)聳え西境はそれに續く山嶺東南に

のびて村域を劃し、東南部にも東方に續く丘陵あり。中央には西北より東南の方向に開く谷ありて、加古川支流の河川その間を流れ東南方約六軒にて加古川に合す。米・麥・繭・果實・鶏卵のほか凍肉・醬の産出多く、其他林産・牛乳及び木製品・瓦・竹製品・貝物・蠶等の工業頗多し。東南部には南北に貫通する縣道ありて東隣中町と西南方加西郡北條町とへパスを通ず。

【乃美村】廣島縣安藝國豊田郡の西北部。西條町(賀茂郡)の東北々方約一〇軒にあり、北部は西北方へ延びてその西北端は高田郡に界す。南境には東西に連る丘陵あり。その北に低地を挟みて板鍋山(七五五米)一帶の丘陵聳露す。それより村形西北方へ曲り、板鍋山の西北麓に廣き低地をつくる。西北境には西南方鷹ノ巣山(九二二米)より東北方へ連れる山嶺の北麓丘陵によりて村域を限らる。米を主産物とし廣島菜・乃美茶の特産物あり。西北部低地に縣道縱斷するありてパス往來す。この地は和名抄、豊田郡能美郷の地なり。建武三年本國寺造營文書に、安藝國能見庄見ゆ。

ノミ 能美

【能美】富山縣東礪波郡にありし村。明治三十一年に本村を分割し、北野村・巖谷村を置く。

日本海に面す。西南は江沼郡に、北より東へかけては石川郡に、東南は白山連峰を境に岐阜縣大野郡に、南は加賀山脈の一部を以て福井縣大野郡に界す。面積八七一・九八方呎にて本縣第一の大郡。東南部は主峰白山(二七〇二米)を初め千米乃至二千米の高峰連立し、その餘波は郡の中部以西にまで延び二三百米の丘陵をなす。西北部には平野開け、手取川・梯川・瀧流す。海岸には砂丘連り江沼郡界に近く今江瀨・木場瀨・柴山瀨等を湛ふ。手取川は東南部白山に發源し、一は牛首川、一は尾添川となりて北流し、合して東境に沿ひ東北隅より極端に曲り、北部を西へ流れ海に入る。西北部平地には農業・養蠶盛にして米の産多く、山麓諸町村には九谷焼その他の窯業行はる。また小松・寺井野兩町には機業盛にして羽二重は郡第一の産額をあぐ。海岸は安宅町を中心として漁業を主業とす。東南部山村は櫛製業に従事す。其他、郡の中部に尾小居銅山あり。西北部は交通便にして南北に省線北陸本線貫通し小舞子・寺井・小松・粟津の四驛ある外、寺井驛より北部を貫通し石川郡鶴來町に至る社線能美常盤、小松町・鶴川遊泉寺間の社線白山常盤、小松町・尾小居銅山間の社線尾小居鐵道等あり。縣道は西北部を南北に走る北陸道の外、西部に發達し、東部は白山山麓市ノ瀨まで到的縣道あり自動車を通ず。郡内小松・寺井野・安宅・根上の四

町外二十一箇村を含む。本郡は初め江沼國の中なりしが、大化の改新の時、江沼は郡となりて越前國に屬す。嵯峨天皇の弘仁十四年江沼郡の五郷を割きて本郡を建て國府を本郡に置く。和名抄は輕海・野身・山上・山下・得橋の五郷を管す。天正以後は輕海・粟津・苗代・山上・得橋・板津の六郷あり。
【能美】因幡國(鳥取縣)の古地名。和名抄に高草郡能美郷あり、その地今の氣高郡千代水村の邊に當る。
【能美】肥前國(佐賀縣)の古地名。和名抄に藤津郡能美郷あり、その地今の藤津郡能古見村の邊なるべし。風土記の能美郷の地なり。
【野見】愛知縣東加茂郡にありし村。明治三十九年に本村ほか三箇村を廢し旭村を置く。
【野見】愛知縣西加茂郡にありし村。明治三十九年に本村ほか七箇村を廢し高橋村を置く。
【野身】加賀國(石川縣)の古地名。和名抄に能美郡野身郷あり、乃美と訓ず。その地今の能美郡板津村・國府村・寺井野町の邊か。
【濃味】攝津國(大阪府)の古地名。和名抄に島上郡濃味郷あり、その地今の三島郡高槻町・島本村・五領村の邊なるべし。
【ミガネ】野見金山 房越丘陵の一阜。

千葉縣市原郡平三村と長生郡西村・應南町との境上に跨る。標高一八〇米。山頂に祠あり、日本武尊を祀る。往昔日本武尊はこの山に登り四圍を眺望し、軍略を定め給へりと云ふ。頂上よりの展望は廣闊にして、西北方東京灣を距てて東京・神奈川方面を望み、東方は渺々たる太平洋の萬波を眺む。
【乃美尾村】廣島縣安藝國加茂郡の中央西南偏。黒瀬川に跨り、吳市の東北約九呎にあり南北に細長し。北及び南は山地連りて兩者共中央へ傾斜し、中部は東北方より西南方に續く平野の一部にして黒瀬川が南部山地の麓を西南流す。米を産す。中央を縣道斷斷して自動車便あり。慶長六年の御檢地帳にあきの國かもの郡のみの尾村とあり、何時の頃より乃美尾の文字を用ひ來れるか不詳、ただ古老の傳説に八幡神社近傍の黒瀬川河畔は昔は深淵にして、その淵に縁毛の大龜浮び出でしを、老翁忽然顯れ出で暫く眺め居り、美しき尾なる哉といへり、終龜は瑞祥なれば村名の文字に用ふべし、乃の文字は老翁の杖をつきて眺めし姿、美尾は美しき尾より乃美尾と名づけしといふ。
【野向村】福井縣越前國大野郡の北部。南は勝山町との間に村岡村を挟み、北は石川縣能美郡新丸村に接す。全村概れ山地にして北に大日山の高峯を負ふ。大日山は最高頂を兜山と云ひ標高一

三六九米なり。南境を瀧波川西南流し龍谷川は大日山より發し中部を南流し、二川の流域に沖積地あり、全村殆ど火山岩より成り瀧波川沿岸は保羅紀に屬す。全村農業を業とし米・蔬菜・蕎麥を産出し粟・糠・薪炭・藁これに次ぎ、大字龍谷に於ては石灰・清酒の産多し。また高尾山より松茸を産す。縣道は中部龍谷川沿ひに通じ、北方大日峰(九三三米)を越えて加賀に入り、南部にも東西に貫通する街道あり。野向はもと今の荒土村大字新在家・清水島・田名部・市布と本村龍谷・竹林の總稱なりしを町村制實施の時、龍谷・北野津又・横倉の八大字を以て本村を建つ。横倉は人情風俗を異にし家屋は悉く土葺造にして風俗朴淳、言語野趣あり。
【野麥峠】乗鞍火山脈を東西に乘越す峠。北方の乗鞍岳(三〇二六米)と南方の鎌ヶ峯(二二二二米)とを結ぶ山稜の中間部に最高點(一六七二米)を置き、東側路は長野縣西筑摩郡奈川村に、西側路は岐阜縣益田郡高根村に屬す。而して西流する益田川と北東流する梓川支流奈川の分水嶺をなし、峠路はこれに沿うて通ず。西側路に當り、高根村字野麥あり。古來信飛交界山脈を横斷する交通路中最重要なものとなせられ、封建の頃高山方面より江戸へはこの峠を越え、寄合渡り鏡峠の間道を經、中仙道なる數原に出で、これより至るを最捷路とし、高山の

領主を始め、諸士等多く往來せり。また松本方面より飛騨に出づるにも利用せられ、特に夏季にはこの峠を越え、信州より米その他の物資を飛騨に移し、高山方面の需要に當て、兩國間の交易上不可缺のものたりき。明治時代に至り、中央線松本まで開通せし時も飛騨方面より東京に至るにはこの峠を經て松本に至り、それより汽車に乗るを常とせり。現在に於ては高山線開通と共に、登山者も多く利用せられ、乗鞍岳より御岳西麓の岳ノ湯に至る縱定の際に通過す。
【ムラ】野村町 愛媛縣伊豫國東宇和郡の中部。宇和島の東北方約九呎にありて南は北宇和郡に界す。四周山岳を繞らし即ち南境には略々九〇〇米の山脈あり。一山肢東北方へ延びて東境をなし、西北境にも山嶺連り南方へ高さを減す。西南方より來る畷川支流宇和川は、西部中央に入り來りて東北方へ流れ北境に出でて之に沿ひ東北流す。平地は中央北部に稍々南北に拓く。職業別戸數は農業に従事するもの七九〇戸、商業二五〇戸、工業九五戸、其他二二六戸にして、主要産物の産額は米六〇三六石・裸麥一九〇四石・小麥八八三石、繭は春繭二二六二貫・夏秋繭一七七四貫にして、特産物の和紙(泉質紙)は八〇〇貫を産し、其他、石灰一〇五〇〇貫・生糸三八九七貫(以上昭和十一年度)なり。尙ほ當町の地域には幾多の金銀銅硫化鐵或は滿備の鑛區

ありて武藏中なれども未だ大なる成功を見るに至らず。宇和川河谷に縣道走る。西北方大洲町、北方喜多郡内子町及び宇和島市方面へパスの便あり。天正の頃宇和郡の領主西園寺公廣の旗下宇都宮左近尉乘綱の地の白木城を居城として二千石を領せりと。大正十一年町制施行。(三島神社) 大字野村に鎮座。郷社。祭神、大山祇命・伊賀突智神・高於加美神。建久三年の創立と傳ふ。古來當地の郷社として崇敬せられ、もと三島大明神と稱せり。例祭、十月廿二日。
【荷山】書紀欽明紀に見ゆる任那の地名。天皇の五年紀に荷山の地名見ゆ。同二十三年紀に見ゆる任那十國の中に稔禮國あり、これ或は荷山と同じきか。その地明らかならざるも、或はいま朝鮮慶尙南道昌原郡東面の地ならんか。
【野母】長崎縣肥前國西彼杵郡の南端。野母半島西南端に位し、東を除く三面は東支那海に開まる。東北より西南に稍細長し。村内概れ平地に乏しく山地をなし西部に權現山ありて山麓海に迫り西岸斷崖をなす所多く西南端を野母崎と言ふ。西隅には道ノ角・一重瀬あり。東部には北方より西南へ刻みこめる深き野母澤ありて、澤邊は南岸に迫りて地狭をなす。この地狹部に粟落發達し錨地をなす。農産・林産・水産あり。縣道之より東北方へ走り東北方長崎市へ定期船の便あり。

【野中島】長崎縣野中島
【野本村】埼玉縣武蔵國比企郡の中部。松山町の南隣にあり。北部は低き臺地をなすも、東部より南部にかけては平地開け、南境を槻川、東境を市ノ川流る。農業行はれて米・麥を産し、また養蠶盛にして繭を多産す。縣道松山町に通じ、社線東武鐵道東上線また之に沿ひ西部を北走し、松山町の武州松山驛に出づるに便なり。また南隣高坂村には高坂驛ありて縣道を通ず。此地は和名抄、比企郡那家郷の内なるべし。齋藤氏の族、野本氏の起りし所。〔等覺院〕天台宗。寺寶阿彌陀如來坐像(木造)一軀は胎内に建長五年卯月三十日、大佛子定性修理の銘あり、國寶たり。
【野矢】省線久大線の一驛、大正十五年設置。大分縣玖珠郡野上村にあり。
【野山ヶ岳】島根縣那賀郡野野村の東部の山。大藏山・大塚山・大人の塚ともいふ。高さ約五三〇米、禿山にして、摺鉢を伏せたる如し。附近の地は昔より肥料を施すことなくして多くの收穫ありといはる。山體は玄武岩より成り、表面は風化して粘土・砂礫等となり相混ず。太古に亘りありて、東方の漁岳と西方の大蔵山に跨りて此處に貯蓄せしより肥料を施さずして地味自ら肥沃なりと云ひ傳ふ。
【野依】愛知縣瀨尾郡にありし村。明治二十四年植野村を分割して置き

しけなるが、同三十九年本村ほか五箇村を廢し高師村を置く。高師河は昭和七年豊橋市に編入さる。
【野寄】省線松浦線の一驛(昭和九年設置)。長崎縣北松浦郡佐々村にあり。
【野良田】↓稻枝村(滋賀縣)
【乗鞍】日本北アルプス自馬連峯北西部の一嶺。主峰白馬岳(二九三三米)の北東稜に連る。南面は長野縣北安曇郡南小谷村に、北斜面は新潟縣西頸城郡小瀧村に屬す。北斜面は大所川の水源地をなしまた蓮華温泉湧く。北東稜を千國湯(最高點一八九六米)の山路南北に乘越す。西斜面には白馬大池を湛ふ。周回凡そ二軒、附近は高山植物の群生地にて風光明媚、夏季は絶好のキャンプサイトとなる。東斜面に相當面積の天狗原の濕原あり、之より南東に降れば神ノ田圃の小濕原あり。冬季はこの山の南麓梅池附近は好箇のスキー場をなし、此山へのスキーツアーも行はるれど相當難コースたり。
【乗鞍火山帯】飛騨山脈に伴ふ火山帯。同山脈と相重なり、南より御嶽(三〇六二米)・乗鞍岳(三〇二六米)・焼岳(二四五八米)・硫黄岳(二〇九四米)・立山(二九二九米)等噴出す。
【乗鞍岳】日本北アルプス(飛騨山脈)南方部の雄峯。東側は長野縣南安曇郡安曇村に、西側は岐阜縣益田郡高根村・大野

郡丹生川村・吉城郡上賣村に至る。東斜面より梓川支流多岐發して東流し、西斜面より小八賀川・大八賀川發し、東流して神通川上流宮川の水源をなし、南斜面は東流する益田川の上流地をなす。コニア型の圓錐形噴火山にて四方に雄大な裾野を曳き、秀麗にして女性的なる山容を有す。頂上部には略北より南に六箇の群峯聳立す。これ等は古生層及び花崗岩類の基底より次の順序に噴出形成せられたり。(一)十石岳 北東部に偏位し、山頂に爆裂火口を有する單一火山。標高二五二四・八米。山體含黒雲母閃石・複輝石安山岩及び角閃石黒雲母安山岩より成る。南東方は緩斜して白骨温泉に向ふ。(二)烏帽子岳 十石岳の西南に位置する複式火山。中央火口丘は四ツ岳と云ふ。四ツ岳は圓錐形なれど東西二峯に分たる。烏帽子岳は標高約二七三〇米、四ツ岳は二七四五米なり。兩者とも含黒雲母角閃石・複輝石安山岩を構成岩とす。(三)鶴ヶ池火山 烏帽子岳の南方に位置する複式火山。中央火口丘は鶴ヶ池(惠比須岳)と稱し、山頂に圓形の火口址あり。山體上部は圓形をなし、遠く望めば猿の如し。標高二八二三米・含黒雲母角閃石・複輝石安山岩より成る。火口原には鶴ヶ池爆裂火口湖、猿岳に鶴ヶ池火口湖を湛ふ。鶴ヶ池附近に珍奇なる龜甲狀に排列せる石の集積あり。尙ほ北東麓に破氣孔を有する湯ノ川爆裂火口あり。ここに

のみなほ乗鞍火山活動の餘勢を見出し得らる。(四)摩利支天火山 鶴ヶ池火山の南に接する單一火山。東西に長き橢圓形をなし、略完全なる大火口を有し、火口壁は西北部を除き大凡原形を留む。最高點標高約二九〇〇米。(五)高天ヶ原火山 單一火山。火口址を存し、標高二八三〇米。(六)一ノ池火山 摩利支天火山の南方に連り、乗鞍本山を形成す。七種の熔岩流より成る。火口址は略圓形をなし、直徑約六三〇米、火口底に一ノ池(横池)火口湖を湛ふ。絶頂を劍ヶ峯と稱し、標高三〇二六米、東部火口壁に位置する山名は一ノ池火山及びその北部なる峯を主として西方高山方面より仰望すれば馬脊乃至鞍の如き山姿を呈するに因ると云ふ。山頂部には前記火口湖に屬する一ノ池・鶴ヶ池・鶴ヶ池を始め、熔岩流の堰止に依りて生ずる五色池(五ツ池・五ノ池)・大丹生ヶ池・アザミ池・男池・女池散在し、本邦に於ける高山湖研究に好箇の資料を供す。温泉は北東部複雑なる地質の箇所に湧く、平湯・湯ノ川・白骨・中ノ湯の四湯これなり。東側一帯はスキーに絶好のスキー場をなし、冬季より早春には北方立山附近と共に北アルプスに於ける代表的スキー場をなす。登山口は信州口・飛騨口あり(一)信州口 篠ノ井線松本驛より梓川沿ひの島ヶ部落まで松本宮島ヶ嶺、又は直接松本より自動車

にて梓川を過行、稻核・奈川渡部を經て澤渡まで自動車、それより梓川支流湯ノ川を過行約四軒にて白骨温泉に着す。温泉より西方冷泉小屋を経て乗鞍岳頂上迄約一二軒、白骨温泉より日歸り可能なり。(二)飛騨口 北麓平湯温泉より頂上まで一七軒。高山市平湯温泉間・小八賀川筋並に船津平湯間・高原川筋に自動車通す。【乗鞍岳】 琵琶湖の北岸に峙つ山にして南側は滋賀縣高島郡劍形村に、北側は福井縣敦賀郡栗野村に屬し、標高八六六米。東麓には西近江路なる七里半越の最高點連り、西麓には若狭・越前・近江の三國に跨る三國山(八七六米)つづく。

野呂川越 日本南アルプス仙丈ヶ岳(三〇三三米)と間ノ岳(一八九九米)とを結ぶ略南北の山稜の中間に位置する乗鞍にして、兩峯稜之際通過せらる。最高點二二二〇米を算し、東側は山梨縣中巨摩郡青安村に、西側は長野縣上伊那郡伊那里村に屬す。こゝより東に降れば野呂川上流右俣澤と左俣澤との合流點に出で、ここに兩俣小屋あり、更に東に登れば北岳(三一九二米)に達す。西側は三峰川水源地をなし、下降路なし。

ハ

ハ 葉山 白岩町(山形縣) 朝鮮の西北岸、鴨綠江の西水道に横はる島。一に馬鞍島、行政上、平安北道龍川郡蔚島面に屬し、その主島たる蔚島の西約一・五軒に位置す。島の南頂上に馬島燈臺(大正十一年設置)あり、燈質は明暗白光にて明二秒、暗二秒、光達距離二二哩、但し毎年結氷中は點燈を停止す。

ハ 馬島 朝鮮の西北岸、鴨綠江の西水道に横はる島。一に馬鞍島、行政上、平安北道龍川郡蔚島面に屬し、その主島たる蔚島の西約一・五軒に位置す。島の南頂上に馬島燈臺(大正十一年設置)あり、燈質は明暗白光にて明二秒、暗二秒、光達距離二二哩、但し毎年結氷中は點燈を停止す。

ハ 葉山 白岩町(山形縣) 朝鮮の西北岸、鴨綠江の西水道に横はる島。一に馬鞍島、行政上、平安北道龍川郡蔚島面に屬し、その主島たる蔚島の西約一・五軒に位置す。島の南頂上に馬島燈臺(大正十一年設置)あり、燈質は明暗白光にて明二秒、暗二秒、光達距離二二哩、但し毎年結氷中は點燈を停止す。

ハ 馬島 朝鮮の西北岸、鴨綠江の西水道に横はる島。一に馬鞍島、行政上、平安北道龍川郡蔚島面に屬し、その主島たる蔚島の西約一・五軒に位置す。島の南頂上に馬島燈臺(大正十一年設置)あり、燈質は明暗白光にて明二秒、暗二秒、光達距離二二哩、但し毎年結氷中は點燈を停止す。

ハ 葉山 白岩町(山形縣) 朝鮮の西北岸、鴨綠江の西水道に横はる島。一に馬鞍島、行政上、平安北道龍川郡蔚島面に屬し、その主島たる蔚島の西約一・五軒に位置す。島の南頂上に馬島燈臺(大正十一年設置)あり、燈質は明暗白光にて明二秒、暗二秒、光達距離二二哩、但し毎年結氷中は點燈を停止す。

ハ 馬島 朝鮮の西北岸、鴨綠江の西水道に横はる島。一に馬鞍島、行政上、平安北道龍川郡蔚島面に屬し、その主島たる蔚島の西約一・五軒に位置す。島の南頂上に馬島燈臺(大正十一年設置)あり、燈質は明暗白光にて明二秒、暗二秒、光達距離二二哩、但し毎年結氷中は點燈を停止す。

ハ 葉山 白岩町(山形縣) 朝鮮の西北岸、鴨綠江の西水道に横はる島。一に馬鞍島、行政上、平安北道龍川郡蔚島面に屬し、その主島たる蔚島の西約一・五軒に位置す。島の南頂上に馬島燈臺(大正十一年設置)あり、燈質は明暗白光にて明二秒、暗二秒、光達距離二二哩、但し毎年結氷中は點燈を停止す。

ハ 馬島 朝鮮の西北岸、鴨綠江の西水道に横はる島。一に馬鞍島、行政上、平安北道龍川郡蔚島面に屬し、その主島たる蔚島の西約一・五軒に位置す。島の南頂上に馬島燈臺(大正十一年設置)あり、燈質は明暗白光にて明二秒、暗二秒、光達距離二二哩、但し毎年結氷中は點燈を停止す。

ハ 葉山 白岩町(山形縣) 朝鮮の西北岸、鴨綠江の西水道に横はる島。一に馬鞍島、行政上、平安北道龍川郡蔚島面に屬し、その主島たる蔚島の西約一・五軒に位置す。島の南頂上に馬島燈臺(大正十一年設置)あり、燈質は明暗白光にて明二秒、暗二秒、光達距離二二哩、但し毎年結氷中は點燈を停止す。

ハ 馬島 朝鮮の西北岸、鴨綠江の西水道に横はる島。一に馬鞍島、行政上、平安北道龍川郡蔚島面に屬し、その主島たる蔚島の西約一・五軒に位置す。島の南頂上に馬島燈臺(大正十一年設置)あり、燈質は明暗白光にて明二秒、暗二秒、光達距離二二哩、但し毎年結氷中は點燈を停止す。

ハ 馬鞍島 朝鮮の河の古名。漢時代に鴨綠江を指し(史記朝鮮傳)、隋唐時代に於いては大同江を指したるもの如し(水經注・隋書・唐書)。例へば隋書の高麗傳には平壤城につきて「南は浪水に臨む」とあり。但し三國史記百濟紀に(阿華王四年)「高句麗王談德、親帥兵七千、陣於浪水之上」とあるは禮成江なるべしとも、また臨津江を指せるならんともいふ。

ハ 馬鞍島 朝鮮の河の古名。漢時代に鴨綠江を指し(史記朝鮮傳)、隋唐時代に於いては大同江を指したるもの如し(水經注・隋書・唐書)。例へば隋書の高麗傳には平壤城につきて「南は浪水に臨む」とあり。但し三國史記百濟紀に(阿華王四年)「高句麗王談德、親帥兵七千、陣於浪水之上」とあるは禮成江なるべしとも、また臨津江を指せるならんともいふ。

ハ 馬鞍島 朝鮮の河の古名。漢時代に鴨綠江を指し(史記朝鮮傳)、隋唐時代に於いては大同江を指したるもの如し(水經注・隋書・唐書)。例へば隋書の高麗傳には平壤城につきて「南は浪水に臨む」とあり。但し三國史記百濟紀に(阿華王四年)「高句麗王談德、親帥兵七千、陣於浪水之上」とあるは禮成江なるべしとも、また臨津江を指せるならんともいふ。

ハ 馬鞍島 朝鮮の河の古名。漢時代に鴨綠江を指し(史記朝鮮傳)、隋唐時代に於いては大同江を指したるもの如し(水經注・隋書・唐書)。例へば隋書の高麗傳には平壤城につきて「南は浪水に臨む」とあり。但し三國史記百濟紀に(阿華王四年)「高句麗王談德、親帥兵七千、陣於浪水之上」とあるは禮成江なるべしとも、また臨津江を指せるならんともいふ。

ハ 馬鞍島 朝鮮の河の古名。漢時代に鴨綠江を指し(史記朝鮮傳)、隋唐時代に於いては大同江を指したるもの如し(水經注・隋書・唐書)。例へば隋書の高麗傳には平壤城につきて「南は浪水に臨む」とあり。但し三國史記百濟紀に(阿華王四年)「高句麗王談德、親帥兵七千、陣於浪水之上」とあるは禮成江なるべしとも、また臨津江を指せるならんともいふ。

ハ 馬鞍島 朝鮮の河の古名。漢時代に鴨綠江を指し(史記朝鮮傳)、隋唐時代に於いては大同江を指したるもの如し(水經注・隋書・唐書)。例へば隋書の高麗傳には平壤城につきて「南は浪水に臨む」とあり。但し三國史記百濟紀に(阿華王四年)「高句麗王談德、親帥兵七千、陣於浪水之上」とあるは禮成江なるべしとも、また臨津江を指せるならんともいふ。

ハ 馬鞍島 朝鮮の河の古名。漢時代に鴨綠江を指し(史記朝鮮傳)、隋唐時代に於いては大同江を指したるもの如し(水經注・隋書・唐書)。例へば隋書の高麗傳には平壤城につきて「南は浪水に臨む」とあり。但し三國史記百濟紀に(阿華王四年)「高句麗王談德、親帥兵七千、陣於浪水之上」とあるは禮成江なるべしとも、また臨津江を指せるならんともいふ。

ハ 馬鞍島 朝鮮の河の古名。漢時代に鴨綠江を指し(史記朝鮮傳)、隋唐時代に於いては大同江を指したるもの如し(水經注・隋書・唐書)。例へば隋書の高麗傳には平壤城につきて「南は浪水に臨む」とあり。但し三國史記百濟紀に(阿華王四年)「高句麗王談德、親帥兵七千、陣於浪水之上」とあるは禮成江なるべしとも、また臨津江を指せるならんともいふ。

ハ 馬鞍島 朝鮮の河の古名。漢時代に鴨綠江を指し(史記朝鮮傳)、隋唐時代に於いては大同江を指したるもの如し(水經注・隋書・唐書)。例へば隋書の高麗傳には平壤城につきて「南は浪水に臨む」とあり。但し三國史記百濟紀に(阿華王四年)「高句麗王談德、親帥兵七千、陣於浪水之上」とあるは禮成江なるべしとも、また臨津江を指せるならんともいふ。

ハ 馬鞍島 朝鮮の河の古名。漢時代に鴨綠江を指し(史記朝鮮傳)、隋唐時代に於いては大同江を指したるもの如し(水經注・隋書・唐書)。例へば隋書の高麗傳には平壤城につきて「南は浪水に臨む」とあり。但し三國史記百濟紀に(阿華王四年)「高句麗王談德、親帥兵七千、陣於浪水之上」とあるは禮成江なるべしとも、また臨津江を指せるならんともいふ。

ハ 馬鞍島 朝鮮の河の古名。漢時代に鴨綠江を指し(史記朝鮮傳)、隋唐時代に於いては大同江を指したるもの如し(水經注・隋書・唐書)。例へば隋書の高麗傳には平壤城につきて「南は浪水に臨む」とあり。但し三國史記百濟紀に(阿華王四年)「高句麗王談德、親帥兵七千、陣於浪水之上」とあるは禮成江なるべしとも、また臨津江を指せるならんともいふ。

ノリモト 乗本 愛知縣八名郡にありし村。明治三十九年に日吉村と合し舟着村を置く。

ノロ 能呂 甲斐國(山梨縣)の古地名。和名抄に山梨郡能呂郷あり。その地今の東八代郡一櫻村・相興村・石蔵村・祝村の邊なるべし。

ノロ 野路村 廣島縣安藝國賀茂郡の南部。西南部は川尻町に隣り、東南部は内海町に接し、内海町の西北部が本村の中央に突入して中央部は南北の幅狭まり東・西兩部に分たる。西南より東北に山脈連りて北境を限り全村丘陵・山地をなす。南部中央に稍々低地をみる。農産・工業・畜産・林産あり。特産には松茸ありて産額多し。中切村と組合村をなして本村に役場を置く。

ノロガワ 野呂川越 日本南アルプス仙丈ヶ岳(三〇三三米)と間ノ岳(一八九九米)とを結ぶ略南北の山稜の中間に位置する乗鞍にして、兩峯稜之際通過せらる。最高點二二二〇米を算し、東側は山梨縣中巨摩郡青安村に、西側は長野縣上伊那郡伊那里村に屬す。こゝより東に降れば野呂川上流右俣澤と左俣澤との合流點に出で、ここに兩俣小屋あり、更に東に登れば北岳(三一九二米)に達す。西側は三峰川水源地をなし、下降路なし。

ノリホ 乘穂 美濃國(岐阜縣)の古地名。和名抄に多藝郡乘穂郷あり。その地今の養老郡内ならんも詳かならず。

ノリハマ 乘濱 常陸國(茨城縣)の古地名。和名抄に信太郡乘濱郷あり。その地、今の稻敷郡阿波村・伊崎村・古渡村の邊に當る。風土記の能理波麻之村は此地なり。

ノリタケ 則武村 岐阜縣美濃國稻葉郡の中部。もと則武郷と稱せられし地に於て村名は此の遺稱なり。岐阜市の北方一軒餘。長良川北岸の平地を占め、面積二平方軒の小村。土質、桑園・菜園に適し養蠶・蔬菜園藝を主とし、蕎麥・粟及び蔬菜、殊に守口大根の産多し。東北部を縣道走り岐阜市へバスの便あり。

ノリハマ 乘濱 常陸國(茨城縣)の古地名。和名抄に信太郡乘濱郷あり。その地、今の稻敷郡阿波村・伊崎村・古渡村の邊に當る。風土記の能理波麻之村は此地なり。

ノリホ 乘穂 美濃國(岐阜縣)の古地名。和名抄に多藝郡乘穂郷あり。その地今の養老郡内ならんも詳かならず。

ノリホ 乘穂 美濃國(岐阜縣)の古地名。和名抄に多藝郡乘穂郷あり。その地今の養老郡内ならんも詳かならず。

ノリホ 乘穂 美濃國(岐阜縣)の古地名。和名抄に多藝郡乘穂郷あり。その地今の養老郡内ならんも詳かならず。

ノリホ 乘穂 美濃國(岐阜縣)の古地名。和名抄に多藝郡乘穂郷あり。その地今の養老郡内ならんも詳かならず。

ノリホ 乘穂 美濃國(岐阜縣)の古地名。和名抄に多藝郡乘穂郷あり。その地今の養老郡内ならんも詳かならず。

ノリホ 乘穂 美濃國(岐阜縣)の古地名。和名抄に多藝郡乘穂郷あり。その地今の養老郡内ならんも詳かならず。

ノリホ 乘穂 美濃國(岐阜縣)の古地名。和名抄に多藝郡乘穂郷あり。その地今の養老郡内ならんも詳かならず。

ノリホ 乘穂 美濃國(岐阜縣)の古地名。和名抄に多藝郡乘穂郷あり。その地今の養老郡内ならんも詳かならず。

ノリホ 乘穂 美濃國(岐阜縣)の古地名。和名抄に多藝郡乘穂郷あり。その地今の養老郡内ならんも詳かならず。

ノリホ 乘穂 美濃國(岐阜縣)の古地名。和名抄に多藝郡乘穂郷あり。その地今の養老郡内ならんも詳かならず。

ノリホ 乘穂 美濃國(岐阜縣)の古地名。和名抄に多藝郡乘穂郷あり。その地今の養老郡内ならんも詳かならず。

ノリホ 乘穂 美濃國(岐阜縣)の古地名。和名抄に多藝郡乘穂郷あり。その地今の養老郡内ならんも詳かならず。

ノリホ 乘穂 美濃國(岐阜縣)の古地名。和名抄に多藝郡乘穂郷あり。その地今の養老郡内ならんも詳かならず。

ノリホ 乘穂 美濃國(岐阜縣)の古地名。和名抄に多藝郡乘穂郷あり。その地今の養老郡内ならんも詳かならず。

ノリホ 乘穂 美濃國(岐阜縣)の古地名。和名抄に多藝郡乘穂郷あり。その地今の養老郡内ならんも詳かならず。

ノリホ 乘穂 美濃國(岐阜縣)の古地名。和名抄に多藝郡乘穂郷あり。その地今の養老郡内ならんも詳かならず。

ノリホ 乘穂 美濃國(岐阜縣)の古地名。和名抄に多藝郡乘穂郷あり。その地今の養老郡内ならんも詳かならず。

ノリホ 乘穂 美濃國(岐阜縣)の古地名。和名抄に多藝郡乘穂郷あり。その地今の養老郡内ならんも詳かならず。

ノリホ 乘穂 美濃國(岐阜縣)の古地名。和名抄に多藝郡乘穂郷あり。その地今の養老郡内ならんも詳かならず。

ノリホ 乘穂 美濃國(岐阜縣)の古地名。和名抄に多藝郡乘穂郷あり。その地今の養老郡内ならんも詳かならず。

ノリホ 乘穂 美濃國(岐阜縣)の古地名。和名抄に多藝郡乘穂郷あり。その地今の養老郡内ならんも詳かならず。

ノリホ 乘穂 美濃國(岐阜縣)の古地名。和名抄に多藝郡乘穂郷あり。その地今の養老郡内ならんも詳かならず。

ノリホ 乘穂 美濃國(岐阜縣)の古地名。和名抄に多藝郡乘穂郷あり。その地今の養老郡内ならんも詳かならず。

平安南道大同郡斧山面にあり。

【拜志】山城國(京都府)の古地名。和名抄に紀伊郡拜志郷あり、波以之と訓す。その地はいまの京都市伏見區深草の邊に當る。

【拜志村】愛媛縣伊豫國温泉郡の南部。松山市の東南方の約七軒に位し、南は上浮名郡に界、南境には四國山脈の皿嶺(二二七二米)・上林峠(一〇六五米)等東西に連り、それより西北方へ延びる山脈は東西兩境を限る。北部は松山平野の低地を占め、北境には重信川西流す。米の産多く、蕎麥も産す。社線伊豫鐵道横河原驛へは北方約二軒にして縣道通す。此地は古くは拜志郷に作り、和名抄に浮穴郡拜志郷と見ゆるはこれとす。

【ハイジマ】拜島村 東京府武蔵國北多摩郡の西南隅。八王子市の北約六軒。西は西多摩郡、南は南多摩郡に境す。西境近くにて秋川を入れし多摩川は西南部に東南流す。川の南岸には一七一米の山あれども、北岸は低平にして水田・桑園拓く。養蠶業は最も盛んにして繭の産多く、米・麥の産これに次ぐ。社線青梅電氣鐵道が通じて拜島驛(明治二十七年設置)を置き、こゝにて省線八高線及び社線五日市鐵道と接続し、後者に南拜島驛(昭和五年設置)を置く。この地は近世に拜島領に屬す。蓋し村名は領名の遺稱なるべし。永祿十二年、武田信玄が北條氏照の

居城なる瀧山(八王子城)を攻むる時に本陣を置きし所なりと云ふ。

【ハイシヨ】梅松面 朝鮮京畿道水原郡の北部に位置し、郡邑水原の西方約一〇軒にあり。中部に二三五米を最高とする丘陵群横はるも、周縁は比較的低下、殊に西部の沿海地方は地味肥沃にして耕地よく發達す。農産物の主なるものは米・小麥・粟・稗・大豆・生牛・家禽等にして鶏卵の産亦多し。南部に社線朝鮮京畿道水仁線通じ、これと略々並走して水原・南陽間の三等道路東西に横斷し、交通比較的便なり。聚落は主として臺地の周縁に分布し、南部の院坪里を主邑となす。

上流)兩溪間一帯の舊區別名。海山郡の板橋街・中和庄・土城庄各全部に、臺北市の東園町の一部(もとの加納子)及び新莊郡新莊街の西邊を合したる地域が之に相當す。擺接なる稱呼は、もとこの地域に古居せし平埔蕃族パイイ社に宛てたる近音譯字なり。清領時代に立てられしより我が領臺後も依然存続せしが、大正九年地方制度改正に依りて廢せられ、前記市街庄に分割せらる。なほ同堡は臺灣府志(續修)に擺接庄と見ゆ。

【ハイセン】社 臺灣高雄州旗山郡にある蕃社。老濃溪の流域にあり。シオウ族四社蕃に屬する高砂族の部落。

【ハイセン】沛川 朝鮮江原道通川郡龍川驛(昭和六年設置)あり。

【ハイタ】林田 美作國(岡山縣)の古地名。和名抄に苦東郡林田郷あり、その地は津山市の内なるべきも詳ならず。

【林田】讚岐國(香川縣)の古地名。和名抄には阿野郡に林田郷あり、波以多と訓す。その地、いまの綾歌郡林田村の邊に當る。

【ハイダテ】楓橋山 九州山脈の一峯。大分縣大野郡三重町と南海郡那尾村との境上に位す。標高七五四米。山體秩父古生層より成る。峯頂は二分し、峻峯を時たしむ。山腹は巨杉の原始林を以て掩はれ、また山中に鬼つづき等多く、高山

の風趣を有す。山頂よりは東方白杵潭の島々、南方大分・宮崎縣境の山濤を一瞬に收む。この山の南稜に當る三國峠は、西南の役に薩南男子の死守して遂に敗れし古戰場なり。登山は西方の三重町の豊肥本線三重町驛より松尾部落を経て行はる。

【ハイズミ】羽和泉村 廣島縣備後國御調郡の西北隅。三原市の西北約六軒にあり。北及び西北は世羅郡に隣り、西南より南にかけて豊田郡に界す。西北部より西部及び中央にかけて四一五米の臺地狀の丘陵起伏し、南隅及び東より東北隅にかけても丘陵あり。低地は東部に稍南北に連れる複雑なる形状の淺き谷ありて南部の低地と連絡す。農産物最も多く工業・林産・畜産あり。東隣久井村に用づれば縣道走りて三原市及び東北方の甲山町へバスの便あり。明治二十二年羽倉・和草・泉の三村を合して羽和泉村と名づく。

【ハイダテ】楓橋山 九州山脈の一峯。大分縣大野郡三重町と南海郡那尾村との境上に位す。標高七五四米。山體秩父古生層より成る。峯頂は二分し、峻峯を時たしむ。山腹は巨杉の原始林を以て掩はれ、また山中に鬼つづき等多く、高山

【ハイテン】梅田面 朝鮮慶尙北道清道郡の中部東隅、郡邑清道の東方約五軒。周縁花崗岩質山地を以て圍繞す。即ち北境には鶴日山(六九七米)・仙義山(七五八米)・龍角山(六八七米)、南部には九萬山(七八五米)・龜山城等の高峰峻嶺重疊し急傾斜を以て城内に下り、南部を洛東江支流の東倉川東北・西南に貫流して沿岸僅かに低地を見る。産物は米・大豆・大豆・棉花・煙草等にして、特に大豆は品質・量共に郡中の優位にあり。また紙・綿布・生牛等の産あり。道路は中部に清道・慶州間三等道路東西に通じ、東倉川に沿ひては輪川へ出づる路線あり、いづれもバスを通ず。聚落は主として東倉川沿岸低地と北部の山間盆地とに分布し、東倉川右岸の東倉は面色にて金城組

【ハイダテ】楓橋山 九州山脈の一峯。大分縣大野郡三重町と南海郡那尾村との境上に位す。標高七五四米。山體秩父古生層より成る。峯頂は二分し、峻峯を時たしむ。山腹は巨杉の原始林を以て掩はれ、また山中に鬼つづき等多く、高山

合・市場等あり。

ハイヌスカ

羽犬塚町

福岡縣

筑後國八女郡の西部。筑紫平野の一部を占め、久留米市の南方約五軒にあり。地形低平にして南境には筑後川の支流西流す。田畑よく發達し、東北部には耕地の間に所々に森林地あり。東部には桑園多し、縣道南部を東西に貫きて西方三諸郡大川町と東方福島町とを結び、之と交叉して東部には南北に走る縣道ありて久留米市と山門郡瀬高町とを連れ、之に沿ふ東南部に街村狀聚落あり。省線鹿兒島本線その西を通過して羽犬塚驛(明治二十四年設置)あり。また社線南筑軌道の羽犬塚・山ノ井二驛を置き交通至便なり。この地は和名抄、上妻郡葛野郷の内なるべく、大正四年町制を布く。八女工業學校・八女中學校・馬政局農事試驗所九州小麥試驗地あり。〔熊野神社〕大字熊野に鎮座。郷社。祭神、健甕須佐之男命・熊野速玉之男命。創建年代詳かならず。慶長年間に當國の領主田中兵部大輔再興し社領三百五十八石を寄す。ついで有馬氏累代崇敬し、同領の社領を安堵す。例祭、陰曆十一月一日。

東は大井川を境に駿河國志太郡に、東北は白根山脈を境に同安倍郡に接し、北端は信濃國下伊那郡に、西に赤石山脈により周智郡・小笠原郡に界す。面積六五六・八一方軒にて南北に狭長なる地域なり。郡内山岳重疊し大井川は東境を屈折して南下す。平地は東南部下流に沿ひて幾分開く。北部山地は森林繁茂し木材・薪炭を主産とし、南部平野には米、丘陵地帯には茶の産多し。また大井川上・中流の谷に沿ふ山村は養蠶を主とし、川根茶の産また多し。海岸の相良・川崎兩町は漁業の中心地にて鯛・鯉その他漁獲物の集散地なり。大井川中流に沿ふ金谷町は對岸の志太郡島田町と共に木材の集散、製材盛なり。東海道及び省線東海道本線は郡の最狹部たる金谷町附近を東西に横斷し後者の金谷驛あり。之より北方へは社線大井川鐵道の便あり、上流上川根村千頭を終點とし、更に之より奥へ林用軌道を通ず。また南部には相良・川崎を経て志太郡藤枝に至る社線藤柏鐵道通す。郡内金谷・川崎・相良三町十三ヶ村を含む。續紀天平十五年紀に郡名見ゆ。和名抄は波伊波良と註し、實呂・葦原・大江・細江・船木・勝田・相良の七郷および神戸一、驛家一を管す。もと葦原に作りしも近世に改め榛原に作る。明治十二年、大井川左岸の地を駿河の志太郡に移し以て今日に至る。

【榛原町】奈良縣大和國宇陀郡の西北部。上流)兩溪間一帯の舊區別名。海山郡の板橋街・中和庄・土城庄各全部に、臺北市の東園町の一部(もとの加納子)及び新莊郡新莊街の西邊を合したる地域が之に相當す。擺接なる稱呼は、もとこの地域に古居せし平埔蕃族パイイ社に宛てたる近音譯字なり。清領時代に立てられしより我が領臺後も依然存続せしが、大正九年地方制度改正に依りて廢せられ、前記市街庄に分割せらる。なほ同堡は臺灣府志(續修)に擺接庄と見ゆ。

【ハイバ】榛原 遠江國(静岡縣)の古地名。和名抄に榛原郡榛原郷あり、波以八良と訓す。その地今の榛原郡金谷町の邊に當る。

【ハイバ】社 臺灣臺中州鹿港郡にある蕃社。パイバラ山の南方北港溪左

ハイハラ

榛原

榛原

【榛原郡】靜岡縣十三郡の一。遠江國の東部に位し、大井川右岸一帯の地を占む。

【榛原町】奈良縣大和國宇陀郡の西北部。上流)兩溪間一帯の舊區別名。海山郡の板橋街・中和庄・土城庄各全部に、臺北市の東園町の一部(もとの加納子)及び新莊郡新莊街の西邊を合したる地域が之に相當す。擺接なる稱呼は、もとこの地域に古居せし平埔蕃族パイイ社に宛てたる近音譯字なり。清領時代に立てられしより我が領臺後も依然存続せしが、大正九年地方制度改正に依りて廢せられ、前記市街庄に分割せらる。なほ同堡は臺灣府志(續修)に擺接庄と見ゆ。

【ハイバ】榛原 遠江國(静岡縣)の古地名。和名抄に榛原郡榛原郷あり、波以八良と訓す。その地今の榛原郡金谷町の邊に當る。

【ハイバ】社 臺灣臺中州鹿港郡にある蕃社。パイバラ山の南方北港溪左

【ハイバ】社 臺灣臺中州鹿港郡にある蕃社。パイバラ山の南方北港溪左

岸なる丁字山西北方山麓の標高約五〇〇米の地に位す。概して肥沃なる平坦地にて氣候温和なり。大正十三年番屋散在し監督指導上の不便を以て戸數八〇、人口二八八人をパイラ駐在所東方約五〇〇米の地に集團移住せしめ、現在の社を形成す。アマール族のパイラ蕃に屬する高砂族の部落。

ハイホー 梅浦

【梅浦面】朝鮮忠清北道丹陽郡の北西部に位置し、郡邑丹陽の北五軒餘にあり。小白山脈中の山間盆地にして、周縁山地を以て圍繞し、東南境は漢江の狭入蛇曲により大崗面と劃するも沿岸急崖を成し平地なく、耕地は主として盆地床に集り梅浦川これを灌漑し、のち漢江に注ぐ。農業を主とし、副業として養蠶を爲す者尠からず。産物は米・粟・煙草・麻布・漆・土器・繭・木炭等あり、繭は最も重要な産物をなす。また大成金礦ありて金・銀を出す。道路は丹陽より北方堤川に通ずる三等道路中部を縱斷し、乗合自動車あり。

ハイホー 排芳面

【排芳面】朝鮮忠清南道牙山郡の東南部に位置し、郡邑温陽の東南部に隣接す。車嶺山脈に屬する望京山(六〇二米)・大華山(四五五米)等南境にそびえ、南半部は山地をなせども、北部

殊に東北部には曲橋川流れて、謂ゆる牙山平野の一部を成し土地低平にして灌漑の便よく、水田廣く連なる。住民は専ら農業に従事し、副業として畜産・養蠶業頗る盛なり。産物は米・大豆・大麥・棉花・蘋果・棗等を産す。また繭・生牛等あり。社線京南鐵道忠南線は京釜線天安驛より分岐し面の北部を東西に横斷し、細橋驛(大正十二年設置)・毛山驛(大正十一年設置)あり、天安・禮山間の二等道路これと並走する外、西方の温陽温泉より南走して公州に達する道路にもパスを通ず。聚落は地形の關係上北半部に偏在す。

ハイボース 蠅帽子峠

【蠅帽子峠】飛驒山脈南西一支脈たる濃越山塊を乗越す峠の一。岐阜縣本巣郡根尾村と福井縣大野郡西谷村との境上に最高點(九七八米)を置く。越前より美濃に出づる捷路にして、延元の頃、鳥居義助は越前・美濃を往來するに此路を通行せりと云ふ。また元治元年水戸藩の武田耕雲齋の一黨千餘人、京都に訴ふる所ありて中山道に沿ひて上りしが大垣藩に妨げられ、止むを得ずこの峠を越え、越前に出で山陰道に至らんとせしが、木ノ芽峠にて再び妨げられしかば遂に加賀藩に投じたりと云ふ。

ハイヨ 梅陽面

【梅陽面】朝鮮黃海道瑞興郡の東南部に位置し、郡邑瑞興の東方約一〇軒にあり。東境には春光山(五二二米)・ト希山(五七六米)等相連り、南部

には黄龍山(四八五米)屹立し、城内殆んど山地にして中央を流る瑞興江に沿ひ僅かに低地を見るに過ぎず。山地の緩斜面に耕地の開発に努めつゝ、あるも灌漑に不利にして畑作農業卓越す。産物には大豆・粟・大麥・木炭・生牛等あり。鐵道京義線西南境近く東西に通じ新幕驛(禾回面内)あり、之より三等道路連絡して東方新溪に通じ、パスの便あるも、其他は何れも等外路線にして交通便ならず。聚落は溪谷に沿ひ分布し棘藪里に面事務所を置く。

ハイリン 梅林村

【梅林村】熊本縣肥後國玉名郡の東部。高瀬町の東方約二軒にあり。東部には東境及び其西に三八〇米餘の丘陵西北より東南に連りて山地をなし、西部は平坦なる低地開け、菊池川支流は西部より南下し西隅にて本流に合す。北方より南下し来る菊池川は西隅を掠め西に折れて高瀬町に向ふ。田畑よく拓けて米・麥・繭を産し木材・薪炭も出す。川に沿ひて高瀬町より東南方へ延び省線鹿兒島本線の高瀬驛(西方約三・五軒)及び木葉驛(東南方約二軒)へともパスを通ず。本村は幕末の勤王家、永島三平(贈四位)・松村大成(贈正四位)・内田彌三郎(贈從五位)の出身地なり。

ハウタ 蔓田

【蔓田】播磨國(兵庫縣)の古地名。和名抄に名可郡蔓田郷あり。刊本は蔓太に作るも高山寺本により訂す。その地の今名可郡野間谷村の邊なり。

パウモリ

【パウモリ】社 臺灣臺東廳にある蕃社。オオトン山北方太麻里溪流域に位し、パイロン族の太麻里蕃に屬する高砂族の部落。

ハエ 八重岳

【八重岳】鹿兒島縣熊毛郡屋久島の中央に聳ゆ。九州地方の最高峯宮之浦岳(一九二八米)を始め、永田岳・黒味岳等峻峯に分れ、山姿秀拔、山頂四時白雪を戴き初夏なほ殘雪を見る。※屋久島別村の大字。日高線の波惠驛(大正十三年設置)を置く。

ハエ 飯江村

【飯江村】福岡縣筑後國三池郡の東部。大牟田市の東北方約七軒に位し、北と東は山門郡に境す。南部大半は丘陵をなし、矢部川の支流飯江川が東北境と北境に沿ひて西北流及び西流し、沿岸に平野開く。低地は田畑よく拓け米を産す。社線九州肥後鐵道北關驛に近し。

ハエノサキ 南風崎

【南風崎】大村線の一驛。(明治三十一年設置)。長崎縣東彼杵郡宮村にあり。

ハエバル 南風原村

【南風原村】沖縄縣島尻郡の北部。首里市の東南に接す。村内丘陵起伏して概れ山地を成すも、南境及び中部を何れも西流する二小流ありて、其沿岸に低地を見る。主産業は農にして専ら甘蔗・甘蔗を栽培し、また製糖業行はれて年二十萬圓程度の産額をあげ。沖縄縣鐵道中部を西走して那覇市に通じ、南風原驛(大正十三年設置)を置く。

ハエミ 葉枝見村

【葉枝見村】滋賀縣近江國愛知郡の西北部。愛知川河口の右岸を占め、南は川を隔てて神崎郡に界す。稍々西北より東南に細長く、西北部は幅を窄めて琵琶湖に面す。地形低平にて愛知川南境に沿ひて西北流す。湖岸は西南より東北に延び平直にして濕潤地をなすところ多し。西南岸に松林あり。米・繭・綠肥用作物・桑葉・麥・茶・菜種等の農産と水産・林産等あり。東部には縣道南北に通じ南方の神崎村・能登川村にパスの便あり。また湖上舟運の便あり。もと神崎郡に屬せしが明治二十九年本郡に編入す。

ハガ 芳賀

【芳賀】出羽國(羽前國、山形縣)の古地名。和名抄に最上郡芳賀郷あり、その地今の東村山郡高橋村の邊に當る。【芳賀】陸奥國(岩代國、福島縣)の古地名。和名抄に安積郡芳賀郷あり、その地詳ならずも田村郡蘆澤村の邊なり。【芳賀】常陸國(茨城縣)の古地名。和名抄に那珂郡芳賀郷あり。その地今の東茨城郡上大野村の邊に當る。【芳賀郡】栃木縣下野國八郡の一。縣の東南部、北は鹽谷郡・那須郡、西は河内郡、南は茨城縣眞壁郡、東は同西茨城郡・東茨城郡に隣接す。面積六〇五・〇五方軒、人口一三三・五八〇人(昭和十年)。東部には八溝山脈に屬する花香月山・雞足

ハエミ——ハカタ

山・高峯・兩卷山等の四百乃至五百米の諸峰聳え、西部には第四紀層の丘陵起伏す。東北隅を南東する那珂川、西境を南流する鬼怒川は諸水を入れるも、郡内の大部の水は西部の平地を灌漑して小貝川の上流をなし、之等の河川流域に僅に沖積地あり。葉煙草の産量も多く外に米・麥・干瓢・繭・織物などを産す。省線眞岡線は茂木町・益木町・眞岡町を結び、縣道水戸北街道・眞岡街道・關街道・茂木街道など縱横に通じ宇都宮市に近く交通便なり。造東大寺司藤に郡名見ゆ。また日本後紀弘仁十四年紀にも郡名見ゆ。和名抄は波加と註し古家・廣妹・遠妹・物部・芳賀・若嶺・承舍・石田・氏家・文部・財部・川口・眞壁・新田の十四郷を管す。後世、郡界混亂し一部は鹽谷郡・河内郡・那須郡及び常陸の眞壁郡等にも移り、以て今日に至る。

ハガ 群馬縣上野國勢多郡の西南部

【芳賀村】群馬縣上野國勢多郡の西南部。西南の前橋市との間に桂登村を挟み、赤城山の南斜面に位す。北部にても高度僅に五〇〇米餘に過ぎず、平地乏しきも赤城山の裾野にて南に緩やかに傾き、南部には桑園よく開く。養蠶を主とする農業經營にして、關東地方北部の養蠶地帯の一部をなす。中部を横斷する街道あるも主要幹線の通ずるものなく、交通便ならず。この地は和名抄、勢多郡芳賀郷(波加と訓ず)の地なるべし。〔善勝寺〕大字端氣にあり。天台宗。良揚山。大治四

ハガ 群馬縣上野國勢多郡の西南部

【芳賀村】群馬縣上野國勢多郡の西南部。西南の前橋市との間に桂登村を挟み、赤城山の南斜面に位す。北部にても高度僅に五〇〇米餘に過ぎず、平地乏しきも赤城山の裾野にて南に緩やかに傾き、南部には桑園よく開く。養蠶を主とする農業經營にして、關東地方北部の養蠶地帯の一部をなす。中部を横斷する街道あるも主要幹線の通ずるものなく、交通便ならず。この地は和名抄、勢多郡芳賀郷(波加と訓ず)の地なるべし。〔善勝寺〕大字端氣にあり。天台宗。良揚山。大治四

年聖徳法師ここに草庵を結びしに始る。阿彌陀如来坐像一軀は鐵造にして背面に仁治四年二月大勸進僧心禪の銘あり、國寶なり。

ハガ 群和村

【群和村】岡山縣美作國久米郡の中部。弓削町の西北約六軒、旭川左岸に沿ひ。全村山地をなし東北部に最も高く西南隅に旭川東南流す。米・麥・繭・木炭を産し生柿・葡萄酒の特産あり。河岸を縣道走り東南方の社線中國鐵道福渡驛へパスを通ず。和名抄に久米郡群和郷とあるは本村及び大井和村・西川村・鶴田村の邊を總稱せるものといふ。

ハガ 番賀

【番賀】尾張國(愛知縣)の古地名。和名抄に智多郡番賀郷あり、その地今詳かならずも、知多郡横須賀町の邊に當るか。【羽易山・羽飼山・羽買山】大和國(奈良縣)の古山名。萬葉集卷一〇に「春日なる羽易の山ゆ佐保の内へ鳴き行くなるは誰喚子鳥」とあり。今の添上郡の春日山附近の山なるべし。【パス】社 臺灣臺東廳關山郡にある蕃社。約六十年前花連港玉里支廳アサンライガ社より移住し、現在の社を形成したり。プラク山南西方のマスボル溪パハリソン溪合流點西南約一・五軒に在り、標高約一三六〇米の急峻なる地に位

す。アマール族の高山蕃に屬する高砂族の部落なり。

ハカセ 博士山

【博士山】那須火山帯の一峯。福島縣大沼郡東川村・中ノ川村・昭和村、尾岐村の四村境上に跨る。標高一四八二米、山體輝石安山岩より成る。會津風土記に、山勢高大にして其巖支分して破山となる、西にひきたる峰に伊佐須美明神の社跡あり、御神樂岳よりこの山に遷座ありてまた明神岳に遷れりといふ。山中に怪石三あり、地藏岩・天狗岳・高岩と云ふ。この山の南方鞍部に高田町より昭和村噴丸方面に至る峠路あり、博士峠と稱し、最高點一〇七二米を算す。

ハカタ 伯太

【伯太】大阪府泉北郡にありし村。昭和八年に國府・郷莊二村と合併して和泉町となる。【伯太川】島根縣能登郡にある川。上流を井尻川ともいふ。源を郡の南境、中國山脈の一峯防床山(七四四米)に發し、諸水を集めて北流し、井尻村・母里村を経て安來町に到りて中海に注ぐ。流程約二三軒。【伯方島】愛媛縣越智郡に屬する島。瀬戸内海臺灣諸島中の一にて、高綱半島尖端の東北に横はる大島の北方に位し、西は鼻栗瀬戸を隔てて大三島に對す。北は生口島を控ふ。冬島山勝ちにて平地に乏しく、海岸は海崖をなす部分多し。田は僅かなるも、畑の面積は大にて

ハカタ

傾斜地よく利用さる。畑作として甘藷の栽培多く、その他に葉煙草・除蟲菊・西瓜などの栽培も行はる。また蜜柑を産す。水産方面も多少活動するも漁獲高は餘り多からず。東北部の海岸には鹽田ありて鹽を産す。行政上、東伯方・西伯方の二村に分れ、前者の主邑を木の浦と稱し、小市街地を形成し、地方航路の汽船寄港す。

ハカタ 伯多

備後國(廣島縣)の古地名。和名抄に御調郡伯多郷あり、その地の御調郡上川邊村の邊に當る。

ハカタ 波方村 愛媛縣伊豫國越智郡の北岸。波止濱町の西北に隣り高瀬半島の北端を占む。南部を除く外は瀬戸内海に開かれ全村高瀬半島の北部に突出せる半島状の地域をなす。一三〇米程度の丘陵地々に起伏して山脚海に迫り、北部には大角鼻が尖塔状に北方へ突出し、西北部に唐津崎・梶取ノ鼻・御崎ノ鼻・鑑掛ノ鼻等を繞らす細長き半島長く海中に延ぶ。低地は西北部半島の頭部及び東南方波止濱町海岸より續き、本部の東隅にある丘陵を西に繞り東北部海岸に終る低地稍々著し。前方遙か海上には大崎下島・上島・岡村島・大下島等を始め大小の島鳥散在す。米の産多く麥・藷の外また鶏卵あり。南部には縣道東西に走り波止濱町とその東南隣の今治市へバスを通ず。波止濱町の東島(大字來島)小島等の島嶼岩礁及び同大字波止濱より本村大字波方

ハカタ

濱の海濱にかけて波止濱と呼び風光頗る佳にして名勝に指定さる。

ハカタ 博田川

「博多」當陸國(美城縣)の古地名。和名抄に新治郡博多郷あり、その地今の眞壁郡河間村の邊に當る。

ハカタ 博多

「博多」福岡市の一部。福岡市は那珂川により二區に分たれ東を博多、西を福岡とす。博多灣に臨み福岡市の商業地域にして、省線鹿児島本線の博多驛(明治二十二年設置)を置き、省線筑豊線の起點となり、九州郵便航路に連絡す。往昔の博多は今の福岡市及びその附近の地を含み、古くは那津・那大津・冷泉津・石城の名を以て呼び、漢書は羅家臺・八角島と書す。博多は古き歴史を持ち、西國の商業地、海外貿易地として、また國防施設のある都城として、難波津にも劣らぬ歴史を有す。博多の歴史を尋ねるに、かの後漢書倭國傳に奴國の都といふもの地ならんと思はる。當時肥前國松浦に上陸し大倭國に向ふ支那人が、末羅國・伊都國よりこの奴國を経て不彌國といふに向へり。博多を太古に那ノ大津といひしことは、日本書紀にも見ゆるが、これと合せ考ふべきなり。太古より朝鮮・支那の商船等が寄港し、また九州地方の人々がこの津を中心として彼地に往來せしものと思はる。この地に鎮座せる住吉の神

ハカタ

は頗る古き神にて、仲哀天皇が熊襲征伐のため櫛日宮に行幸あらせられし時、征韓をお薦めせし神はこの神ならんと思はる。この時、備後といふ行政區名が書紀に出て、今の博多がこの備後の都府と見らる。齊明天皇の西征の時、長ノ津と改めらる。此頃までは西國の一都府にして貿易港とのみ見らるるも、太宰府の建設せられし以來はこの都府が國防地帯として武装せしもの、如し。貞觀十一年太宰府權小貳坂上浦守の奏上にも「博多是隣國輻輳之津警固武衛之要」とあるにても知ることを得。警固所筑紫豊津城の名も見ゆるより相當の武備ありしもの、如く、石臺も古くよりこの地を中心として築かれしものと思はれ、また外客接待のため博多鴻館も設けられ、太宰府の都城の津口としての施設は、恰も京都の浪華津(大坂)の關係の如きものあり。遣新羅使・遣唐使等もこの地に寄泊せしことは萬葉集にても了知せらる。かゝる地なりしため韓史・支那史書にもその名記さる。新羅朴堤上がこの地に殺されたることなどは韓史に載せられしも國史には見えず。要するに朝鮮・支那に對する重要な策源地なりき。太宰府の武備衰へるにつれ、此地の武備また衰へしも、天慶の亂の時純友のため博多の地荒され、右近衛少將小野好古は陸上より、藤原實家・大藏春實は海上より攻撃し遂にこの地に純友を破れり。また蒙古襲來

ハカタ

のときこの地は戰場なりき。沖濱の名この役に見ゆ。北條氏執政の時館は一時的にこの地にありしが押題館の名が記さる。北條英時経濱の館に居りしを肥後國菊池武時攻めんとして博多に陣し戦ひ、街衢兵火に罹りしことは正慶亂離志に詳かなり。足利時代の博多津を語るものは老松堂日本行録あり。これは明の永樂十八年受命(應永二十七年)我が國に來たりし韓使の紀行なりしが、朴加太の文字を用ひ、筑紫探題津川義俊の名この地に見えまた水天寺・妙樂寺・斷過寺・念福寺・盛福寺等の名見え、同書に「朴加太の地城なく夜々賊起りて人を殺す追捕するなし」とあるより、無警衛の状態を察知せらる。下りて戰國時代となりて小貳・大友兩氏がこの地を分領し、小貳氏は西南四千餘戸、大友氏は東北六千餘戸を領せり。ついで大内氏の勢力この地に及びしことあり。かく戦國を蔽ひしもの、外國貿易は依然盛んにして海外諸國の船が來航せしものと思はる。豊臣秀吉西征の際、天正十五年六月七日博多に著し、南港の戦に荒らされしを痛み、こゝに新に都市計畫を建つ。これにはかの宗藩の力が與かりて力ありしものと思はる。いまだ同地豊國神社には天正十五年博多町割間杖が藏せられしが、以來、博多は商人街となる。關ヶ原役後、黒田長政筑前十二萬石を領し福岡に築城せしより、福岡は侍の住居を主とし、中島橋を距てて

博多は商人の町となる。神谷宗湛・島井宗室等の豪商がこの地に出て、博多は商業都市として、不朽の歴史を持つ。

博多灣

福岡市の北方にある灣。灣岸は福岡市及び糸島・早良・糟屋三郡に亘る。志賀島と其西方に横はる支那島及び志賀島の北端西浦岬により灣口を扼され、東北部は海ノ中道の砂洲により本陸と志賀島を繋ぎ灣と玄界灘を距つ。灣内の志賀島の南方に殘島あり。灣内は東西約一七軒、南北五軒餘にして廣き水深は大ならず。巨船の碇泊には便ならず。沿岸には最近土地隆起せし跡あり。灣内に注ぐ多々羅川・那珂川・樋井川・室見川等は土砂を堆積し灣奥は益々水深を減す。福岡市は灣の東南岸に位し、那珂川を距て、博多港・福岡港あり。河川の運搬する土砂の堆積により水深淺く、港として適さざるも大規模の築港工事をなし船舶を入る。博多港は古く那津等と稱し朝鮮・支那を始め印度・南洋等との交通貿易上重要な港津たりしも、戰國の頃よりその繁榮を平戸・坊の津等に奪はれ、江戸幕府の鎖國以來船の出入絶え且つ土砂の堆積のため港も淺く、明治になり那珂川と石堂川の河口の間に小規模の船溜りを作り現在の博多港となり、海の中道の先端にある西戸崎を外港となし、外國貿易として布帛製運動靴・小麥粉・汽罐・鹽底足袋・紙類・石炭等を輸出し、揮發油・礦油・飼料・

豆類・豆糖・木材等を輸入し、石炭・揮發油・地下足袋・金屬・煙草などを移出し、鮮魚介・金屬・木材・朝鮮米を移入す。

博多灣鐵道汽船

社線。博多灣岸にあり。福岡縣糟屋郡志賀島の西戸崎驛より省線鹿児島本線の香椎驛(同香椎村)を經、同字美町の字美驛に至る二四・七軒と同仲原村の酒殿驛より同須惠村の旅石驛に至る二・九軒及び、宗像郡津屋崎町の宮地嶽驛より糟屋郡和白村の和白驛にて前者と交叉し、福岡市の新博多驛に至る二三・一軒より成る。軌間一・〇六七米、動力は蒸氣・電氣・ガソリン。省線と運送運輸す。

博多大津

福岡市

ハガネ 羽金山

春振山地の一峯。福岡縣糸島郡長糸村と佐賀縣小城郡北山村との境上に位す。標高九〇〇米、山體は花崗岩より成る。福岡縣側にては獅子舞岳とも云ふ。

ハカマゴシ 袴腰

「袴腰山」富山縣東礪波郡上平村と南山田村との境上にあり、標高一六三三米。山體は第三紀層より成る。北東方は矢部川上支山田川の水源地をなす。東北稜に小瀬崎・細尾崎最高點連り、西南稜に三方山・猿ヶ山嶺く。

ハカリ

社。臺灣新竹州大湖郡にある蕃社。大湖庄の東北方汝水溪右岸

と八卦刀渡右岸山腹の標高約四五〇—一〇〇〇米の高所に位すれども、一般に傾斜緩にして農耕よく行はる。サイセツト族ノ淡水蕃に屬する蕃社なり。

ハカワン

社。臺灣新竹州大溪郡にある蕃社。ガオガン溪上流左岸の標高約九〇〇米の急峻なる地に位す。種族はアマヤル族のガオガン蕃に屬する高砂族の部落なり。

ハカン 馬韓

朝鮮の古國名、三韓の一。朝鮮の韓民族が建てし國の一にして北は漢の樂浪郡に接し、西・南の二方は海に面し、東は韓韓・辰韓に隣り、今の京畿・忠清・全羅の地方に當る。統一せる國家をなさずして部落的小國なりしも、三韓中最も大なりしといひ、凡そ五十三國に分たれたり。「魏志」によれば、馬韓の民は土著して蠶桑を知り、綿布を作り、草屋の土質を作りて住み、一家ともその家に住み、長幼男女の別なく、葬には棺ありて柩なかりき。環珠を以て財寶となし、金銀銅鐵を珍とせず。その性は強勇にして、髪を結び冠をつけず、布袍を着て足に革を履く。國中に事あれば年少勇健なる者出て之に當る。五月下種を終れば、鬼神を祭り群聚して歌舞飲食し、十月農功畢れば、また同じく遊樂せりとあり。以上の如き状態にて、西紀前一八八頃その地に濶野が百濟國を建設せり。

ハカン 馬關

馬關

ハカン

馬關

朝鮮慶尙南道固城郡の略中央に位置し、郡邑固城の北方約五軒にあり。西に蓮花山、南に琴井山の諸峰聳えて西南部は山に成せども漸次傾斜し、東北部には稍廣き低地横はり、殊に鎮海の支那會華浦に臨む一帶は低濕地をなす。沿岸は遺淺にして漁業・交通共に天恵を受くること少なし。産物には米・大豆・大麥・雜穀・生牛・牛皮等あり。道路は南方固城より東北方の馬山府に通ずる二等道路東部を縱貫し、乗合自動車便あり。支線として東西横斷路あれども等外線にして車を通せず。交通便ならず。

ハカン

馬關

馬關

ハキ

把木村

福岡縣筑前國朝倉郡の東南部。筑後川右岸に沿ひ、浮羽郡吉井町の東北約五軒にあり。東部は東北方に聳ゆる畔倉山(四七〇米)の西南斜面をなす、西北部は米山(五九一米)の南斜面を

ハカネ

ハキ

なす。中部には平野開けて筑紫平野の東...

ハキ 葉木村 熊本縣肥後國八代郡の...

ハキ 萩

【萩市】愛知縣三河國寶飯郡の中央北西部...

【萩市】山口縣北西部の都市。王政復古運...

白水山を経て海岸の赤鼻に盡き、一は東...

萩市生産額 農産物 畜産物 林産物 礦産物 工業産物 水産物...

蠶・養蠶等行はれ、繭一萬二千圓、鶏卵...

杉丸と共に満洲・朝鮮方面に輸出せら...

場 香川津に家畜市場あり。その取引高...

九太および割材類(一三萬圓)・食料品類...

南・周布政之助・野村靖・長井雅樂・桂太郎・村田清風・曾瀬荒助等の舊宅地、澤宮嘉實蹟地等の史蹟枚舉に遑あらず、市役所・區裁判所・稅務署・大藏省預金部出張所等の諸官衙は何れも本區に置かれ、其他縣立の中學・高女兩校及び圖書館・市立商業學校・商工會議所・市立堀内病院・防長日報社・長州新聞社並に銀行會社等あり。棒區と山田區とは何れも橋本川左岸にあり、棒區の棒町・金谷・神原・雜式町等が市街地をなし、山田區の玉江浦が漁業の中心をなす外は山林多く、之に反し松本川右岸の棒東區は萩港を控へて市況殷盛にして、稅關支署等あり。また松本川左岸に、反射爐を始め玉木文之進・穴戸環・伊藤博文・來原良藏等の舊宅地、吉田稔磨・松浦松洞・品川彌二郎・三浦橋樑等の誕生地その他の史蹟多く、越ヶ濱の明神池また著名なり。市に萩市觀光協會あり事務所を市役所に置き、また史蹟巡り遊覽パスありて遊覽者の利便を圖る。

變遷を経て藩内第一の都邑となる。かくして城東の堀ノ内には上士の武家屋敷並び、その東松本川に沿ふ邊に下級侍屋敷町あり、其他市區井然として見るべきものあり、當時の町割配置は大體に於て今日まで維持せらる。輝元より後二百六十年間毛利氏の城下町として榮えしが、文久三年毛利敬親の居を山口に移すにおよび、一時衰運にむかふ。江戸時代末期に至るや維新同天の策源地となり、勤王殉國の志士を輩出し、その遺跡また甚だ多く、今日史蹟名勝として指定保存せらるるもの尠からず。此の間、慶應元年に幕府再度の長州征伐の軍を起すや、奇兵隊は藩の守備隊を仰へんとして市を襲撃せしむ、禍害大ならず。長兵却つて幕府軍を諸所に破り、幕府崩壞の遠因をつくれり。明治四年廢藩置縣に際し山口縣廳の支廳を米屋町下り筋に置き、同七年これを廢し、藩政時代に設けられし元町奉行所及び當島判例所の管下なる町村に大小の區制を布く。明治九年十月、前參議前原一誠は時勢を慨し、與黨二百餘人を明倫館に會して兵を擧ぐ、縣令關口隆吉山口分營の兵を率ゐて此處に迫り、一誠等防戦、市街に兵燹を見、十一月廣島鎮臺司令長官少將三浦橋樑らの軍、軍艦二隻と呼應して之を攻め、同六月萩陥落し、亂平らぐ。明治二十二年四月、町村制施行、萩町は棒東分村・棒西分村・山田村と共に自治體となり、大正十二年四月

月萩町及び棒東村(もと棒東分村)・棒西村(もと棒西分村)・山田村を合併して萩町を置く。次で鐵道の開通及び日本海に於ける開港場となる等によりて町勢伸展し、昭和七年七月、萩町を廢しその區域を以て萩市を置き今日に至る。

阿武川畔にありしか移せるもの。園内には櫻樹多く花時賑ふ。

に任ぜられし時、鎌倉鶴ヶ岡八幡宮の分靈を此處に勧請して一郡一郷の鎮護とせるをその創建と云ふ。一説に正治年中に地頭三好康久夢想によりて木部村より勧請すと云へど詳ならず。のち萬治元年に毛利綱廣は社殿を造營す。往時は供僧寺永福寺を擁して盛況を極めしと云ふ。例祭、十月十四日。

十餘棟ありしといふ。近世寺領八百五十石を有し、黄栗三叢林の一と稱せらる。本堂の背後に吉就・吉元・重就・齊房・齊元の墓、その前面に元治甲子變の殉難者益田右衛門介等十九烈士の墓あり。なほ同寺附屬の墓地には吉田松陰・高杉晋作・玉木文之進等の墓あり。

支武岩・支武岩岩・火山燗・火山灰等より成り、處々に風穴あり。山頂の展望雄大を極む。山中に橋樑點在す。(笠山橋) 自生北限地) 指定天然記念物。棒東區越ヶ濱の北方七〇〇米、笠山の東北面なる地下山、北緯三四度二分に位し、八株成育して着果し、古來山蜜柑と呼ばる。橋は分布狭く、九州南部及び紀伊の山中に稀に見ると云ふ。

〔萩八景〕 毛利吉就が支那の瀟湘に倣ひ城下に撰ばしめし勝地にして、之を八江と名く。一、倉江の歸帆(西ノ濱對岸)二、玉江の秋月(橋本川下流)三、櫻江の暮雪(河添對岸)四、小松江の曉鐘(大照院附近)五、上津江の晴嵐(沖原上流)六、中津江の夜雨(龍藏寺附近)七、下津江の落雁(弘法寺對岸)八、鷗江の夕照(濱崎對岸)

〔金谷神社〕 棒區金谷に鎮座。郷社。祭神、菅原道真・菅原是善。文治二年七月當國の守護佐々木四郎高綱、國家鎮護のため筑前の太宰府神社より勧請し、當郷奥金谷に創祀せる社にして、爾來大内・毛利氏累代崇奉すること篤し。元祿年中今の地に奉遷すと云ふ。

〔萩別院〕 萩區西田町にあり。眞宗本願寺派。慶長年中領主毛利輝元、直實清光院のために此地に香華院を創して清光寺と號す。時に本願寺准如、准圓を遣はしてこれに住持せしめしに始る。

〔萩藩御船倉〕 指定史蹟。萩區濱崎町にあり。慶長年間、毛利氏轉封の後築造せしものにて、藩主の御用船を繋留せし處。周圍を石を以て築き上げ、もと三箇所あり、大船倉を中央に、小船倉を左右に並列せしが、廢藩と共に一部を取除

〔松下村塾〕 指定史蹟。棒東區松本にあり。いま縣社松陰神社境内にあり。木造瓦葺、平屋建。吉田松陰の叔父玉木文之進の創むる所にて、松陰が郷藩に幽囚せらるる間、安政三年七月藩許を得てより同五年十二月五日入獄の時まで此の家塾に於て子弟を訓育す。八疊敷及び十疊敷半の二室より成り、よく舊時の狀態を遺存す。彼の「凡生爲人、宜知人所以異於

禽獸、蓋人有五倫、以君臣父子爲最大、故人之所以爲人、忠孝爲本に始まる所謂七期は有名にて、この塾より出でたる人材には高杉晋作・久坂義助・尾寺新之丞・伊藤博文・前原一誠・品川彌二郎・山縣有朋・三浦梧楼その他甚だ多し。

〔明神池〕 指定天然記念物。樺東區越ヶ濱にあり。笠山の東麓に位し、もと藩主の遊樂地にして、辨天池或は御茶屋池とも稱す。大池・小池及び奥の小池の三分たれ、面積約一一二アール、天然の鹹水池にして、池水は地下より外海に通ずるも、鹽分は外海の水よりも少く、比重一・〇一八一—一・〇一八五にして、干満の現象あり、水深は最深四・五米。越ヶ濱の漁民がその獲物を龍神に捧ぐる爲に放魚せしものにて、天然の水族館をなし中にマダヒ・クロダヒ・メジナ・スズキ・フグ・カレヒ・ゴラ・エヒ・コチ・タナゴ・コノシロ・カハハヤ・ヤザミ・イサキ等近海に於ける磯附魚の大部分を見、投餌を競ひ取る様は奇觀を呈す。而してクロダヒ・メジナ・ゴラ・コノシロ等は盛に孵化し、春季池水を黒色に變ず。池畔は玄武岩起伏參差し、岩角上に十數基の石燈籠あり、附近の添景と相俟つて風光明媚なり。

〔明倫館水練池(明倫館碑)〕 指定史蹟。萩區江向、明倫尋常高等小學校の内にあり。明倫館は藩費にして、水戸弘道館・岡山開館費と共に日本三館と稱せらる。

享保四年、藩主毛利吉元これを城内堀内に創立し、嘉永二年毛利敬親これを現在の地に再建、聖廟・講堂・文庫・御殿・劍術・槍術・水軍・砲術・地理・算術・木馬・美術・甲冑・兵器・禮式等の諸堂を完備す。水練池は即ち水軍附屬のものにて、水騎の練習のため設けらる。池は玄武岩の石垣を以て築き、周縁に長き切石を繞らし、長徑四〇米、深さ三米。村田清風の設計に係ると云ひ、日本最初のプールたり。池は明治九年萩の亂に、前原黨の離反者が夜陰に乘じ館内火藥庫の彈藥を此中に投ぜしにより殆ど殆どもいふ。池の前面に二基の碑あり、一は元文六年山縣周南の撰文に成り高さ約三米、「長門國明倫館記」と題し、一は嘉永二年の「重建明倫館碑」にて高さ約三・五米、山縣福文(大華)の撰文とし、何れも龜趺上に建つ。なほ演武場は有徳館と稱し、明倫館の建物中いまだ現形を止むる唯一のものにして、明倫小學校の武道場として使用せらる。

〔野山獄址・岩倉獄址〕 何れも萩區古萩町にあり。野山獄を上牢、岩倉獄を下牢といひ、上牢には十分、下牢には町人を收容せり。野山獄は松陰を始め勤王志士多數の幽囚或は處刑せられし所にして、ま十一烈士の碑あり、岩倉獄は志士金子重輔の憤死せしところにして重輔の碑を存す。

〔吉田松陰幽囚の舊宅〕 指定史蹟。樺東

區松本、松下村塾の東隣。瓦葺、木造平屋建、八疊三室、六疊三室、四疊一室、三疊一室、三疊半一室等の外に物置及び土間あり、幽囚の室は東南隅なる三疊半の一室とす。家は松陰の實家杉兵衛宅にして、安政二年十二月十五日松陰野山の獄(いま萩區古萩町に址あり)より一旦免されてのち、翌三年正月より同五年十二月五日再び入獄するに至れるまでの二年間ここに幽囚せらる。建物は後年多少の修理を経たるも、幽囚の室はよく舊態を遺存す。建物の西北なる土間の一部には米搗場あり、米搗臺及び石臼はいま屋外に移轉して保存せらる。〔吉田松陰〕山口藩士。諱は矩方、通稱寅次郎、松陰。二十一回猛士等と號す。天保元年八月四日、藩士杉百合之助の次子に生れ、吉田大助に養はる。同十年家學教授見習として明倫館に登り、十二年、「武教全書」を講じて偉才を賞せらる。のち馬技・長沼流兵學・西洋陣法等を學び、嘉永二年九州を遍歴し長崎に支那語を學び、蘭船に上りて海外の事情を得。翌年江戸に出で佐久間象山等に從學、文武を研修し、房相の海備を視、東北を遊歴せしが、亡命の咎により謹慎を命ぜらる。同六年再び諸國を遊歴、米艦浦賀に來たるや赴きて事情を探り、次いで長崎淀泊中の露艦に投ぜんとし果せず、安政元年正月下田に赴き米艦に乗りんとし、拒まれ歸りて自首し縛に就く。江戸に拘禁、次いで萩

の獄に移され、翌年十二月出獄して杉兵衛に領されしが、翌年松下村塾を開き子弟の黨團に當る。安政五年内外の事情漸く切迫するや時務策を藩主に上り更に家學の教授を許さる。幕府條約調印の措置を謀るやその非を極論し、ついで閣老問部詮勝を要撃し天下勤王の魁をなさんと企てしが、藩府により一室に幽囚され十二月下獄。獄中なほ正義を唱へ畫策に力めしが、幕府大獄を起すに及び江戸に遷送、傳馬町の獄に下り、十月二十七日小塚原に斬らる。年三十。回向院に葬り次いで文久三年世田谷若林に改葬。明治十五年若林に、同四十年萩に松陰神社創立せらる。明治二十二年二月贈正四位。

ハギガオカ 萩ケ岡 土機織の一驛(昭和十年設置)。北海道十勝國河東郡上士幌村にあり。

ハギケラ 萩倉牧 延喜式左馬寮式に見ゆる信濃國十六牧の一。その地いま長野縣諏訪郡下諏訪町の大字萩倉の地なるべし。

ハギサカ 萩坂 石川縣河北郡にありし村。明治四十年、俱利伽羅村と合し俱利伽羅村を置く。

ハギシヨ 萩莊村 特し 岩手縣陸奥國西磐井郡の西南部。一關町の西南に隣り、南は宮城縣栗原郡萩野村・鳥矢崎村・栗駒村に接す。面積八七・〇四方町にて本郡第二の大村。西南境に三〇〇乃至四〇〇米の山嶺連り、鶴ヶ森(四〇六

米)・三日月山(二九四米)・自境山(二六八米)等あり。西北部は安山岩及び第三紀層の丘陵地をなす。久保川・市野々川は東北部にて合し、東北境を東流する北上川の一分支井川に入る。東北部の河川流域には沖積地あり、地味肥沃にして耕地よく開けり(二二五千圓)・麥(四五千圓)・大豆(一五五千圓)・蔬菜(二〇千圓)・繭(二二千圓)を産し、西北部の丘陵地には薪炭(二九千圓)・用材(一四四千圓)を出す。一關町に到る街道は市野々川に沿うて走りバスを通ず。この地は和名抄、磐井郡磐井郷の内なり。村内には小松橋址・黒澤壘址などあり。小松橋は安倍宗任の叔父、僧良照の橋なり。所謂前九年の役に良照ここに據りしが、源賴義・清原武則に攻め亡ぼさる。黒澤壘は葛西の家臣、黒澤豊前義住の居りし所なりと。

ハギノ 萩野

〔萩野村〕 宮城縣陸前國栗原郡の東北部。東および北は岩手縣に接す。村内には丘陵東西に連りて有馬川は北部を、中江川は南部を各東流し、沿岸には耕地拓く。米・木炭・麥・繭を産す。陸羽街道は村の東部を南北に通ず。東北本線有壁驛(大正十二年設置)あり。本村大字有壁に古壘二あり、東の館を丸森城と稱し、源賴義の陣せし所、延文中は大崎氏の家臣、後藤美濃これに居り、元龜以來、葛西氏の家臣、門田淡路これに居りしと。

西の館は有壁城とも、白岩城とも稱し、初め大崎氏の家臣、後藤美作居り、のち同家臣菅原帶刀居り、元龜以來は葛西氏の家臣、有壁尾張・同安藝・同攝津と父子相繼ぎ之に居る。明治天皇、明治九年奥羽御巡幸の際及び同十四年、山形・秋田及び北海道行幸の際本村に御小休あらせられ、いま明治天皇有壁御小休所附御膳水として史蹟に指定さる。

〔萩野村〕 山形縣羽前國最上郡の中部。新庄町の東北に隣り、東北端は秋田縣に接す。面積八六・五三方町。東北境には神室山(一三六五米)あり、それより西南には天狗森(一三〇二米)・小又山(一三六七米)・火打岳(一二三八米)・八森山(一〇九三米)等の山嶺連りて西方に傾斜し、指野川は東部に發源し、村の北部を西南に流る。村の西部はその扇狀地にして鹽野原の名あり。米・繭・木炭を産出し、鹽野原には軍馬補充部萩野支部あり。羽州街道は西部を南北に通じ、南方新庄町へは自動車の便あり。奥羽本線泉田驛(大正二年設置)を置く。

〔萩野村〕 福井縣越前國丹生郡の中西部。西は四箇浦・下岬二村を距てて日本海あり。村内は概ね山地にして西北境には越知山(六四三米)・西南境には六所山(六九八米)あり、大川もなく東南部に僅に低地あるのみにして交通も不便を極む。笠松・入尾・若荷の三地方は高原にして里俗に山と稱し、年中殆ど蚊帳の必要な

く、他の荒川・赤井谷・山田・細野・岩倉・櫻谷の六地方を山下と號す。村民は農業に従事し商店數戸あるのみ。産業も振はず。米・薪炭・木材・繭を産するのみ。東南隅の常盤村と同じく本郡中の寒村にして人口の密度(一方町七三人)も低し。この地は和名抄、丹生郡乎知郷の内なるべし。いま常盤村・織田村と組合村をなし、役場を織田村に置く。

〔萩野〕 愛知縣西春日井郡にありし村。昭和十二年名古屋市に編入さる。

ハギハラ 萩原 紀伊國(和歌山縣)の古地名。日本後紀・弘仁二年八月、不要の故を以て紀伊國萩原・名草・賀太の三驛を廢せしが、翌年四月には萩原驛を復せし由見ゆ。延喜兵部省式に紀伊國萩原驛々馬八疋とあり。その地いま伊都郡笠田町大字萩原といはる。

ハギマ 萩間村 静岡縣遠江國榛原郡の南部。川崎町の西、相良町の西北に接し、西は小笠郡に界す。東西に丘陵連互し、北部に源を發する萩間川は村内のほぼ中央を東南に流れ流域に僅かの耕地あり。農業を主産業とし、茶の栽培最も盛なり。次いで米を産す。副業としては林業・牧畜・養蠶共に盛なり。谷沿に西北・東南に貫通する一條の縣道あり。相良・金谷兩町間のバスを通ず。この地は和名抄、榛原郡相良郷の内なるべし。

ハギユ 萩生 山形縣西置賜郡豊原村の大字。米坂東線の萩生驛(昭和六

年設置)あり。

ハギワラ 萩原 〔萩原町〕 岐阜縣飛騨國益田郡の西部。飛騨川の上流益田川左岸に沿ひ、南は下呂町に東北は小坂町に接す。東部には御前山(一六四六米)屹立し、益田川は北境よりこの山裾を曲り、北より一支を合して西境を南流す。山地河岸に迫りて平地に乏し。米・麥の農耕および養蠶を主産業とし、木炭・一位細工などの特産物あり。省線高山水線及び一條の縣道河岸に沿ひ、前者に神昌寺驛・飛騨萩原驛(共に昭和六年設置)・上呂驛(昭和八年設置)を置く。この地は和名抄、益田郡益田郷の地なるべく、町内に諏訪城・櫻洞城あり。諏訪城は佐藤六左衛門秀方の居城にして、秀方の裔孫捨藏は有名なる佐藤一齋(儒者)なり。櫻洞城は後風土記によれば、三木大和守直頼が永正・大永の間、此處に築城して之に居り、その子良頼、良頼の子自綱相繼いで城主たりしが自綱は大野郡内を取り威勢振ひ、天正七年大野郡松倉山に築城して移住し、この城は自綱の子信綱に守らせしが、信綱遺心を起せしにより天正十二年自綱に殺さる。(久津八幡神社の夫婦杉)指定天然記念物。久津八幡神社境内にあり。雌杉・雄杉の二株にして、雌杉は社殿の西北に、雄杉は社殿の北方にあり。雄杉は樹圍一三米、雌杉は九米とす。杉の巨樹として

臥崎峰山脈支脈中に位し、臥崎峰の東約八軒、長津郡内面・上南面に跨る。標高二〇七七米。

【白山面】朝鮮全羅北道金堤郡のほぼ中央、金堤邑の北に隣接す。域内一帯に花崗岩山地の露帯による老年期の小丘陵起伏し、最高僅かに五六米を數ふるに過ぎず、東津水利組合の蒙利地域に屬するを以て灌溉の便よく、耕地よく拓け、畑作農業卓著す。住民は實朴にして農を業とし、概して富裕なり。産物は大豆最も著はれ、米・大麥・小麥・粟・棉花・煙草・梨・蘋果等あり。鐵道湖南本線は面の東部を南北に走れるも直接停車場を持たず、北方の芙蓉驛及び南方の金堤より三等道路により連絡す。また金堤・萬頃間の三等道路は西部を通じ交通比較的便なり。聚落は地形の關係上極めて普遍的に分布す。

【白山面】朝鮮全羅北道扶安郡の東端に位置し、郡邑扶安の東南約五軒にあり。東津江東境を成して北流し、謂ゆる東津江平野の一部を成し土地極めて低平にて地味肥え、西部は八旺川北に向つて貫流し、灌溉水利の便よく重要な農業地帯の一を成す。農産物は米を第一とし、小麥・大麥・大豆、其他の雜穀類にして、工藝作物に苧麻・煙草・棉花等あり。また生牛を産す。道路は金堤より古阜に通ずる三等道路東部を經貫し、また鐵道湖南線泰安驛より来る三等道路は面の北部を

東西に横斷して西方扶安に通じ、古阜・扶安間の三等道路また西南部を通過し、更に之等を等外路線により連絡し、交通至極便なり。聚落は南部に多く、平橋里には陰曆一・六の日に開く市場ありて穀類・薪炭・鶏・豚・生牛等の取引行はる。
【ハクシャトン】白沙屯 臺灣縦貫線の一驛(大正十一年設置)。新竹州苗栗郡通霄庄白沙屯にあり。

【ハクシユ】白岫面 朝鮮全羅南道靈光郡の西部、郡邑靈光の西方約一〇軒、西は黃海に面す。靈嶺山脈の末梢部に屬する慶幸(三〇九米)・龍峰(三五一米)等聳立し、中部以北は丘陵地をなし、東北境は法聖浦の入江深く勢入りし、南部の佛甲川流域は低平にて地味肥沃、農産豊かなり。住民の多くは農業に従事し、沿岸の諸聚落は半農・半漁にして、製鹽業に従事するものもあり。産物は米・裸麥・大麥・大豆・棉花・煙草・苧等のほか、食鹽および海藻・貝類・石首魚・鱈・烏賊等にして、殊に石首魚は最も漁獲高多し。道路は南部に靈光より西走して海岸に達する三等道路ありてバスを通じ、水路は木浦・群山間の主要碇泊地たる法聖浦を控へ比較的便なり。

ハクシユコータン 白鬚公潭堡

【ハクシユコータン】臺灣南州東石郡の一舊區別名。法聖浦の樹林頭・貴賓・過溝・溪墘の四大字、鹿草庄の竹子脚・頂潭・下潭・龜佛山・後庄子の五大字及び義竹庄の五間

厝・南勢竹・牛挑灣・溪洲の四大字を合したる地域に相當し、清の雍正十二年に立てられしより、我が領臺後も依然存続せしが、大正九年地方制度改正に依りて廢せられ、前記諸庄に分割せらる。なほ乾隆二十九年に成りし臺灣府志(增修)に白鬚公潭街といへるは、いま鹿草庄の頂潭・下潭を合したるものなり。

【ハクスイ】白水村 熊本縣肥後國阿蘇郡の南部、阿蘇火山中央火口丘の烏帽子嶽・中嶽の南斜面に位し南は南郷谷に亘り東南部は更に南方へ延びて外輪山頂に及ぶ。東南部は高森町に隣接す。中嶽(一三二三米)噴煙を吐きつ、北境に聳え其西に烏帽子嶽あり。山麓南方へ雄大に擴がり西部に夜峰を起し、南部は火口原の南郷谷開け南境に沿ひ白川西流す。東南は外輪山の北斜面をなし東南境に九四米の高き有。低地に農業行はれて普通作を主とし米・大豆・粟種・玉蜀黍等が産す。北半は原野廣く牧畜行はれ馬を産す。南部を東西に縣道走りまた東北方の竹田町方面へ至る縣道あり。省線高森線また南部を東西に貫き阿蘇白川・中嶽の二驛共に(昭和二年設置)あり。本村は謂ゆる南郷谷の内にて和名抄、阿蘇郡衣冠郷の内か。いま阿蘇國立公園の一部たり。村内の俱利伽羅谷の洞窟内の奇石を俗に阿蘇の神體と稱す。龍形にして生けるが如く、石驕年ごとに生え代ると傳ふ。(八坂神社)大字一團に併せ、郷

ハクセ

【ハクセ】 白石面 朝鮮京畿道楊州郡の西北部、郡邑議政府の西北約五軒、京城府の北方約二〇軒にあり。天寶山脈に屬する黃嶺山(四四一米)・佛國山(三六一米)等相連りて東境を劃し、南境には鴨鳴峰(六二二米)、北境には隱鳳山(四六四米)、西境には朴達山(三六七米)等聳えて、北半部は山岳重疊すれども漸次東北に低下し、東北部にはやや低地横はる。農産物の主なるものは米・小麥・大豆・粟にして副業として養蠶飼育行はれ、林産には木炭・薪の外、栗の産物は極めて多く年産一千餘萬石に達し郡中は勿論、道中屈指の産地をなす。鐵道京元線は面の東方近く南北に通じ、議政府驛及び德寧驛により連絡するも交通運輸未だ便ならず。聚落密度は小なり。西部山中の靈場里には緩吉閣・昭寧閣等の陵墓あり。

ハクセン

【ハクセン】 白川 鐵道面(朝鮮黃海道) 博川 朝鮮平安北道一府十九郡中の一。道の西南端に位し、東は寧邊郡、北は泰川郡、西は定州郡に境し、南は清川江を隔て平安南道安州郡と相對し、面積五二九方軒、鐵道面についで小なり。

郡の西部及び北部は花崗岩山地の割裂の結果、老年期の地貌を呈する低山性の山地横はり、西部の放牛山(四一六米)や著はるのみ。南境には清川江西流し、大江江は中部を南流し來つて之と合し、南部のこれ等流域平野は地味豊饒にて灌溉の利多く、加ふるに氣候も本道中最も溫暖の部に屬し、面積狭小なる割合には耕地多し。産物は米を第一とし大豆・稗等これに次ぐ。總督府鐵道京義本線は郡の南部を通過して孟中里・嶺美の諸驛あり。孟中里驛より博川へ支線博川線を敷ち、更に嶺美より泰川へ、博川より泰川・雲山へ、孟中里より寧邊へ何れもバスの便ありて交通は至便なり。行政上、八箇面に分たれ、郡廳を博川面に置く。人口密度一方軒當り一四七にして、比較的稠密なり。本郡は大正三年に博川・嘉山の二郡を合併して現在の境域を示すに至れるものにて、もと博川郡は現地域の東半部を占めたり。

【博川面】朝鮮平安北道博川郡の東北部、大江江の下流左岸にあり。東北境には天嶺山(二二二米)、南境には鳳凰山(二一七米)等あれども一般に老年期の地貌を呈し、域内丘陵の小起伏あるに過ぎずして耕地よく發達す。氣候は本道中最溫暖の地域に屬す。住民は農を主に日稼・商業これに亞ぎ富の程度比較的平均し、貧困者少なし。産物は米を第一とし、大豆・稗・馬鈴薯あり。博川邑は面の西部

大東江左岸に位置し、京義街道の要驛にして、道内商業の中心を成し、其の商圏は東は寧邊・熙川・江界の諸郡に及ぶ。また交通の中心をなし、京義本線孟中驛に分岐する博川線は北走し、一院・博川の兩驛(大正十五年設置)あり、道路は終點博川驛を起點として四通發達し前記諸郡に連絡す。邑内には郡廳・地方法院出張所・朝鮮殖産銀行支店・金融組合等あり。市場は邑の北端にありて陰曆五・十日に開き、主要商品は米・粟・生牛・綿布・薪炭等にして一箇年取引高約二〇萬圓に達す。また大東江より漁獲せらるる鮭は此地の名産なり。

【白頭山脈】 北朝鮮の日本海岸にある山脈。北は國境の白頭山(二七四四米)に起り、初め東南に方向を取り小白山(二一七四米)・南胞胎山(二四三五米)・葛南山(一八八〇米)等を起して咸鏡南・北兩道の境界をなし、のち方向を西南に轉じて咸鏡南道のほぼ中央を西南に走り鴨綠江と日本海との兩斜面の分水嶺を形成し、嶺中に圓峯(一九〇七米)・大徳山(二一三米)・白山(二五七九米)・白巖山(一七四一米)等を起して更に方向を南方に轉じ斷谷山(一三八一米)・落雁峯(一三二四米)を起し、のち平安南道及び黃海道との境界山地をなして江原道西北境の大乙山(一六八一米)に達す。延長實に四五〇軒に達し、北方に高く南方に漸次低夷する大山脈なり。有名なる赴戰嶺(一四四五米)は白巖山の東方にありて日本海斜面の域川江と鴨綠江上流の赴戰江との分水嶺をなし、東洋第一の稱あり。

場となる。

ハクリー 栢梁面。朝鮮平安北道鐵山郡の南部、鐵山面に南隣す。黄海に突出する鐵山半島の東南部を主要部となし、其の南方海上に羅列する靑島・炭島・大和島の三大島及び附近の小島嶼より成る。陸地は東北—西南の方向に二〇〇—三〇〇米の丘陵連なり中部に高嶺山(三三八米)、西南端に舟山(三七九米)聳ゆるも、北部は鐵山半島の一部分を成して農産に富む。海岸は小屈曲少からざるも、沿海は干潮時に泥濘を露すを以て良泊に乏し。農産に米・粟・大豆等あり、粟は良質を以て聞ゆ。域内に幹線道路を通過せず交通や不便なれど、西北部の豊川洞は地方的交通の中心をなし此處に市場あり。靑島は半島南端を距る二軒、東西一〇軒に及ぶ山勝ちの大島にて、西に進上串突出し、北岸には船倉浦・紐浦の灣入ありて泊地を提供す。炭島は靑島の東南に深き水道を以て相距て、南北の長さ約五軒、土神峯(三〇三米)を最高とす。その東南に牛里島・參差島等、西南に灰島・小和島・大和島等あり。大和島は東西二・五軒、南北三軒、南偏に高距二六四米の山聳え、南は崖岸を成すも北に低夷して大和洞瀆に至る。島の西端に大和島燈臺(明治三十七年設置)あり。燈質は連閃白光にして一八秒を隔てて十二秒間に三閃光を發し、光達距離は二五軒に及ぶ。但し毎年結氷中は點燈を停止

す。以上諸島の住民は陸地沿海部の部落民と共に漁業を主産業とし、蘇魚・石首魚・太刀魚・鱧・牡蠣・淺蛸等を漁獲す。

ハクリー 麥藁。虎尾溪(臺灣) [麥藁街] ↓崙背庄(臺灣臺南州) [麥藁街] ↓崙背庄(臺灣臺南州)

ハクレイ 白翎。朝鮮黃海道長淵郡の西南海上に横たれる白翎島・大靑島・小靑島等の諸島より成る。佛陀山脈西南に走りて長山串となり其餘脈沈降して白翎諸島を成せるものにして諸島の配列は山脈の軸に一致す。白翎島は北部に位置せる最大島にして、周囲約四五軒、面積四六・三平方軒、大靑島は之に次ぎ周圍凡そ二三軒、中央に位置し、小靑島は周圍一二軒、最南端に横たれる。各島何れも臺地状を成し海岸頗る發達し、白翎島は東部に灣口を有する一大入江を抱く。一般に地味肥沃にして農業に適し、白翎島には水田約五〇ヘクタールあり。又此三島は朝鮮西海岸に於ける主要漁場をなし、漁期には半島は勿論、内地よりも漁船來集し股賑を極む。産物は農産に米・小麥・豆類・粟・煙草等あり、放牧行はれ、水産物には石首魚を始め鱈・いかなご・鱈・鱈・鱈・海鼠・若布等多く、また近海に捕鯨行はれ、大靑島に日本捕鯨株式会社の事業場あり毎年捕鯨船三、四隻出動し、十頭内外を捕獲す。また大靑島には大理石を産す。麥藁は海岸に沿ひて分布し、白翎島

ハグロ 羽黒。鶴岡市の北東一四軒前後。山形縣東田川郡手向・立谷澤の二村境上に跨がる山。標高四一九米。月山(一九二四米)・湯殿山(一五〇四米)と共に羽前三山又は出羽三山と稱せられ、修験道の靈場として善く世に知らる。この山、月山の北麓に接する小丘にて出羽山脈第三紀層より成る裂片地塊なり。西麓藏川を距て、月山火山の泥流層と明に境界せらる。山頂に出羽神社あり、羽後神社とも稱し、古來東北無北の修験者の聖壇にして、推古天皇の御宇に創建せられ、神佛

に鎮村里・連和里・加乙里・北浦里・南浦里等、大靑島には大靑里、小靑島には小靑里あり、鎮村里を主邑とし、陸地部の鹽津・徳洞港等の間に渡船連絡あり。白翎島は古來兩班の流配地としてあらはる。また班固の漢書を記せる頃は日本の勢力及び、同書に倭人住居すと見ゆ。蓋し同島は地理的關係より古く日本及び北支の海賊の根據地たりしもの、如く、高麗初期に鎮將を置き白翎鎮と稱し、李朝太祖また金使を置きて近世に至れり。小靑島の西端に小靑島燈臺(明治四十一年設置)あり、連閃白光にて二〇秒を隔て二〇秒間に四閃光を發し、光達距離廿三軒。なほ霧笛を裝備し三〇秒を隔て、五秒吹鳴す。また無線電信を併置し船舶通報に關する事務を取扱ふ。

ハグロ 羽黒。鶴岡市の北東一四軒前後。山形縣東田川郡手向・立谷澤の二村境上に跨がる山。標高四一九米。月山(一九二四米)・湯殿山(一五〇四米)と共に羽前三山又は出羽三山と稱せられ、修験道の靈場として善く世に知らる。この山、月山の北麓に接する小丘にて出羽山脈第三紀層より成る裂片地塊なり。西麓藏川を距て、月山火山の泥流層と明に境界せらる。山頂に出羽神社あり、羽後神社とも稱し、古來東北無北の修験者の聖壇にして、推古天皇の御宇に創建せられ、神佛

ハゲ 禿岳。小鶴岳の別名。↓鶴岳(宮城・山形縣境) 一峯。主峯の北西麓に位し、新潟縣岩船郡三面村と山形縣東田川郡大泉村との境上に位す。標高一五〇六米。山體花岗岩より成る。雪と水とに浸蝕せられ、懸崖多し。南東麓に以東岳(七七二米)、西麓に樹形山(一三三三米)竝立し、北嶺は其六山(一四二七米)たり。北東麓に大島池を湛へ餘水北に發し七ツ瀧を懸く。

ハコイシ 箱石。岩手縣下閉伊郡川井村の大字。山田線の箱石驛(昭和八年設置)を置く。

ハコザキ 箱崎。福岡縣筑前國糟屋郡の西部。福岡市の東に接して博多灣に臨む。筑豊の平野開けて地形低平なり。多々羅川は福岡市との間を西北に流れて西部にて北に折れ村を貫きて北境より海に注ぐ。北

分つ。村内には羽黒川あり。この川水は元和三年宇都宮城主本多野介の命により開通せしものにて、もと御用材木運漕のために造られしが、のち灌漑用水となる。大字中里は宇都宮氏の一族、氏家五郎兵衛公頼の二男、この地を領し中里氏を稱せり。〔羽黒鎮山〕當村内に十三萬餘坪の鎮區を有する金銀銅山。重要鎮山に屬し昭和十年には金銀鎮二、〇二八町、この領額十五萬餘坪を出す。同年六月末の使用鎮夫四八八人。〔羽黒山神社〕大字今里に鎮座。郷社。祭神、宇迦之御魂神。後冷泉天皇康平年中の創建に係る。宇都宮城主奥平・戸田氏累代崇敬す。社地羽黒山は鬼怒川の右岸に聳え、古樹蒼鬱として風光絶佳なり。例祭、陰曆十月七日。

ハゲ 波介村。高知縣土佐國高岡郡の東北部。東北部は高岡町の南に接し南は約二軒を隔てて浦ノ内灣なり。東南隅は宇佐町に接す。南境に五領寺山脈支脈の丘陵約二三百米の高きに東西に連り東南隅には檜嶺山(二九七米)あり。北境

部には之に合する支流西北流す。海岸は千代松原と稱し松林あり。博多灣を隔てて遙か海上には海の中道の浮ぶを見る。田畑よく拓け、米・麥を産す。人口は一四、六三五人を算し密度は一方軒二六二七人なり。西部に鹿兒島街道通じ之に沿ひて街衢發達し福岡市と民家相接す。東南部には福岡市より東方篠栗町を経て飯塚市へ通ずる縣道あり。省線鹿兒島本線西部を南走して箱崎驛(明治二十三年設置)あり。南境には之より分るる省線篠栗線東に走る。また社線筑前宮宮鐵道は南隅を東西に通じ福岡市にて鹿兒島本線に連絡す。西海岸には社線博多灣鐵道の電車通過して乗物の便頗るよし。九州帝國大學は此地にあり。この地は和名抄、糟屋郡厨戸郷の地なるべく、舊郡役所ありし所。古書には多く箱崎に作り、中世は博多と對稱せられて、西海の名津たり。多く漢土・韓國往來の逸事を傳へ、殊に蒙古襲來は歴史上著名なるものにして、沿岸には元寇防壘址を存し、いま史蹟に指定さる。此地の千代の松原は風光明媚なるを以て知らる。〔宮崎宮〕箱崎に鎮座。官幣大社。祭神、應神天皇・神功皇后・玉依姬命。創建年代明かならざるも宮郡飯田の里なる應神天皇御降誕の遺址を卜して社殿を營みしを當宮の起原と云ふ。一に宮崎八幡宮と云ひ、宇佐・石清水と共に三八幡と稱して歴朝の崇敬厚し。神祇志料は朝野群載等に據りて當

はこの外、樺太・千島方面に至る中心港として、函館助加線・函館大泊線・函館小樽線・函館鹿部線・函館幌泉線・函館古守線・函館能登線・函館安別線・函館下北線・函館三陸線・函館大連朝鮮線・函館北鮮線・函館室蘭線・函館基隆線あり。昭和十年の連絡乗降客は八三六、一〇一人なり。陸上交通はこの地より函館本線發して函館驛(明治三十七年設置)を置き、宗谷本線及び室蘭本線と共に北海道を縦貫し樺太に至る基點に當り、札幌(六時間半(二八六・三軒)、稚内(一七時間半(六七八・七軒)、根室(二四時間(八一〇・四軒))にて達し昭和十年の函館驛乗降客は一八二一〇四七人、到着貨物は三二五七七七噸、發送貨物は六九七六九噸なり。市内交通は社線帝國電力電車市内線が、辨天・大門前間を通じ、更に湯川町に至る湯ノ川線に接続し、また乗合自動車もありて都市交通發達す。本市を都市地理的に見れば、本市は従来屢大火に遭遇しこれを機会として街路を整備し、また海岸一帯は埋立をなせしも職員は概して狭小なり。近年漸く市街化せしも郊外の街路は未だ雑然たるを免れず。連絡船棧橋を中心とする低洲の地域は商業區にして、殊に、地蔵町・末廣町・恵比壽町は繁華の中心地にして、市役所・郵便局・銀行・會社・新聞社等多く集ま

る。函館山を繞る山麓地帯は住宅區にして渡島支廳・領事館・道廳出張所・函館地方裁判所・津輕警察司令部・函館警備司令部等はここにあり、また函館公園もありて園内に函寄館・水産陳列所等あり。その外縁に連なる辨天町・西濱町及び北岸の海岸一帯は工業區にして、また税關・測候所・築港事務所等あり。山背泊町・相生町・住吉町も將來漁港としての設備完成の暁には近海漁業による水産物の加工地としての發展が豫想せらる。市の北部の五稜郭及び千代ヶ岳方面は住宅區をなし、これより東方には重砲兵大隊・競馬場・陸軍射撃場・柏野綜合運動場あり。

の管領する地たり。而してかの信廣は後に松前氏の祖となりし人、政通は渡道の後ウシヨロケシの地即ち今の函館山の麓に館を築く、その形、箱に似たるを以て箱館の名出つといふ。當時の領主は單に和人のみに君臨したるもの、されば其頃既にウシヨロケシには治領するに足るだけの和人居住したること明かにして、殊に東隣には志濃里(今の錢龜澤村の内)ありて小林良景(これに居り、西隣には茂別館(今の茂別村の内)ありて安東宗政これに居りしかば、箱館の勢力範圍は大體いまの箱館市都市計畫區域を出づることあらざるべし。當時此邊は和人とアイヌ人の接觸地にして兎角感情の衝突多かりしが、偶々康正二年志濃里の和人がアイヌ人を刺殺せるより端を發し遂にアイヌ人の大集團的蜂起となり、翌長祿元年五月東部の酋長コシヤマインは夷衆を率ゐて先づ志濃里館を陥れ、次で河月箱館を陥る。當時和人は口蝦夷(北海道入口)のみならず、箱十二ありしが十まで攻落せしめらる。此時武田信廣の功により挽回せしが、此の河野氏振はず、他の館主と共に信廣の子孫に一統せらるるに至る。信廣の子孫は松前氏を名乗り蝦夷地を一統し函館に築き、シヨツを以て關所となす、これ東蝦夷地の關所たり。蓋しシヨツはのち龜田と改稱せられしが、今の龜田村のみの地域にはならず、函館市の一部をも含む廣き地域にて、關所の所

在地に今の函館市と龜田村との間にありしなるべし。されど箱館の繁華は千島・北海道へ外國船の出渡し始めし後に於て著しきものあり。即ち幕府は外國に對する松前氏の力に不安を感じ蝦夷地を直轄す。かくて従来内地と北海道との間は多く三陸・函館の航路をとりたりしも、江戸と北海道との交通頻繁なるに及び之を不便として冬季悪天候なる時を除き多く佐井・箱館の航路をとるに至る。船舶の輻輳は壘割を設け荷役の便を計る等のこととなり、また埋立をなして曾て北海道には無かりし造船所の建設ともなりて箱館は愈々港としての設備を整ふるに至る。剩る露國の千島來往は箱館・樺提の航路を開く(高田屋兵衛に依る)基となり、これはまた北海道東海岸諸地の物産を箱館に集中するの結果を産み、更にこの多數の集産物は江戸との航路盛んになりたるため、江戸を始め水戸・仙臺等の新販路に移出さるるに至れり。一方幕府は遂に享和二年蝦夷奉行(のち箱館奉行と改む)を置きしが、奉行は文化初期に越後・南部より農民を募集して箱館地方に移住せしむ。即ち小屋・農具等を給して開墾せしめしが之れ官募移民の濫觴とす。其の後箱館奉行は廢止せられしも箱館の繁榮にはさして影響なし、されど交通・運輸・漁業・商業等、箱館を根據に活躍したる高田屋の没落(天保初期)は箱館にとりて大なる傷手なりき(當時は幕

附四

兵衛通いて弟金兵衛の時代たり)即ち當時蝦夷地三港の内、函館・江差には實產萬を以て數ふべきもの何れも六、七軒はありしかど、箱館にかかる大事業家は高田屋一軒なりしなり。然るに安政元年神奈川條約の結ばるるや箱館は開港場の一となり再び發展の要因を握るに至れり。即ち箱館奉行は再び開始せられ、國防上安政二年頃より御手作場と稱する官費開墾費を貸與して植民を計りたり。次で開墾商人にして移民を募集し開墾を企つる者あり、かくて文久二年頃には箱館附近に十一箇所の新開墾地を生じ、箱館は商港以外に背後に農村を得て非常なる強味を持つに至れるが、其後の發展を見るに函館は矢張り商港たる事が殷盛を招來せし主因にして、明治に入りて漁業の根據地となり愈々榮えたり。幕末以後の發展を人口の上より觀察せんに、先づ松浦武四郎の東西山川地理取調圖安政人別にれば北海道にはアイヌ一萬五千七百餘人、和入八萬六千三百餘人にして、その和人のうち熊石六千三百餘、江差地方二萬餘、函館地方三萬餘にて箱館地方また三萬餘とあり、北海道唯一の城下町函館とは比較にならざる箱館が、その繁榮此頃には既に函館に迫るに至りしを知るべし。なほ箱館のみの繁榮は安政三年約九千八百人、翌四年には一萬人を超え、明治元年には一萬八千六百餘人なるが、な

は函館に及ばざりといふ。然るに明治に入りて間もなく函館を凌駕し、かくて第一回國勢調査(大正九年)には函館の約四千四百人に對し函館は十四萬七千餘人といふ大なる開きを持つに至り、更に今日にては二十一萬人を超ゆる大都市となれり。國勢調査以後の人口増加率は左表の如くなるが、昭和五十年に増加率

Table with 4 columns: 全国都市平均, 函館市, 龜田村, 湯川町. Rows: 大正九年(大正五年), 昭和十四年(昭和四年), 昭和十五年(昭和五年).

寺派南無別院の門前に建つ。始め天保四年陸奥顯乘寺の僧法惠(のち堀川乗組と改む)函館に來り、一寺を創建し顯乘寺と稱せしが、この地の飲料水に乏しきを憂ひ、本山東都西本願寺に建築し新築の開墾を企て、函館奉行の允許を得、安政六年五月工を起せり。川底橋三間、延長四十九町七間二尺五寸、橋を架すること八、龜田川の水を引きて函館灣内に注がしむ。萬延元年に成り、これを顯乘寺川と呼ぶ。碑はこの功績を録したるものにして、萬延元年幕吏鈴木重尙(茶溪)の撰文たり。門前に架したる橋を顯乘寺橋と呼びしも、明治二十年新川開墾の後に廢溝となり遂に埋立てらる。なほ東川町・西川町の名はこの川より起れりといふ。

産地として知らるるも、夏季は好尚の水泳プール、冬季は市隨一のスケートリンクとなる。

附五

両館税關と改稱せられたるものなり。〔兩館八幡宮〕谷地頭町に鎮座。關幣中社。祭神靈田別命。相殿に住吉大神・金刀比羅大神を祀る。社傳によれば文安二年に當國龜田郡の領主河野加賀守政通、古の箱館址に築城の際その東南隅に城塞鎮護の神として八幡神を勧請せるに創まると云ふ。永正八年、政通の子秀通は蝦夷軍と戦ひ利あらずして戦歿す、一族即ち神輿を奉じて同郡赤川村に移す。爾來一百三十餘年を経て慶安年間に至り伊知女なるもの當社を赤川村より舊社地に奉遷すと云ふ。斯くて正徳年間、有地惣大夫代りて之に奉仕し以來連綿として明治十年に及ぶ。初め河野氏の失脚するや松前氏これに代り當社の崇敬怠らざりしが、寛政十一年正月幕府は東蝦夷を直轄とし、箱館奉行所を設置するに及び當社もその用地たるを以て會所町に奉遷す。文化元年に幕府は社殿を造替し、箱館奉行また令して三年ごとに祭祀を行ふべきを定む。當社はもと一豪族の私社たりしも、安政六年六月箱館を開港場となすや當社その地鎮守となる。爾來當國の名社として官民の崇敬深く、明治四年七月北海道開拓使より崇敬社に治定せられ、同年五月廿八日國幣小社に列し、翌年と翌々年に兩度類焼の厄に遭ひ同十三年十月現社地に奉遷し、官費を以て造替、同廿九年國幣中社に昇る。現社殿は大正七年の再建なり。境内三三六九百九十餘坪、

背後に奇嶺懸崖、白雪時には劍輝を發する兩館山を負ひ、陸奥の大淵、渡島の潮首の二神は遠く煙波の間に望見、宇賀浦の蒼浪、住吉濱の潮音また指呼の間にありて、兩館市街をその脚下に俯瞰す。朝歌直射、夕陽垂々の貌、當地八景の隨一と稱せらる。例祭、八月十五日。〔東照宮〕蓬萊町に鎮座。縣社。祭神、徳川家康。光格天皇御宇の創建。元祿年間に露人初めて此地を窺ひ寛政年間には千島全島を襲食す。光格天皇深く宸機を憐れ給ひ幕府に命じて之を攘はしむ。幕府は朝廷許可の下に東照宮の神靈を日高國標榜の里に鎮祀す。これ當社の創めなり。安政年間、幕府は五稜城を築くに及びその東門に當社を奉遷して蝦夷地守護の大社として鎮め奉る。明治二年兵燹に罹り社殿遺物を灰燼に歸し、同七年六月谷地頭に移し同十一年現社地に奉遷す。例祭、六月十七日。〔山上大神宮〕船見町に鎮座。郡社。祭神、天照大神・豐受大神。もと神明宮と稱す。蝦夷島奇襲に「神明宮・鎮座未詳」とあり。但し天和八年に龜田村舊社地より當國片町に奉遷せる由、當社明細帳に見ゆ。明治七年現社地に改む。其後、二度の火災に遷座ありしも同三十五年に現社地に奉遷す。例祭、七月十六日。〔高龍寺〕臺町にあり。曹洞宗。龜田山。法源寺第四世芳龍これ龜田村に創建し、寛永三年現地に移る。

〔實行寺〕船見町にあり。日蓮宗。一乘山。明暦元年清寛この地に草庵を結びしに創まる。明治十七年身延久遠寺に屬し同二十三年北海道開拓となる。〔匿名寺〕船見町にあり。淨土宗。靈念山。正保年間圓龍の開創に係り、はじめ龜田村にありしといふ。〔新注連寺〕相生町にあり。明治元年創建。開山は好見法印なり。本尊大日如來を安す。〔兩館別院〕東川町にあり。眞宗本願寺派。天保四年但馬の大越、本山の命を奉じて當地の豪商國領平七の助力を得て本願寺掛所を置く。萬延元年本掛所を願乗寺と稱し、小樽の願乗寺をその出張所となせしが、明治十年改めて本山別院となす。同四十三年洋風煉瓦造の本堂を新築す。〔兩館別院淨土寺〕元町にあり。眞宗大谷派。寛永十八年福山靈念寺六世淨玄當國上磯郡木古内村に道場を創建せしに始る。のち箱館に移り、安政五年本山掛所となし。明治九年に至り本山別院となる。本堂は十八間四面にして鐵筋混泥土造りの近代建築なり。〔高野寺〕青柳町にあり。古義眞言宗。北南山教王院。明治十六年越後の僧佐伯本弘當地に布教中これを創建す。もと東川町にありしを、同二十三年現地に移す。〔天祐寺〕春日町にあり。天台宗。福聚山藥王院。延暦寺末。嘉永元年の創建。

智別房靈照を開山とす。本尊靈師如來に源信の作なりといふ。〔兩館線〕省線の一線。兩館本線・江差線・瀨棚線・京極線・札沼線・幌内線・歌志内線・手宮線・岩内線及び幌加内線の總稱。〔兩館本線〕省線兩館線の幹線。北海道渡島半島の南部、兩館市の兩館驛より長萬部驛(膽振國山越郡長萬部村)・俱知安驛(虻田郡俱知安町)・小樽驛(小樽市)・札幌驛(札幌市)を経て旭川市の宗谷本線旭川驛に至る四二五・一軒と、石狩國空知郡砂川町の砂川驛より同町の上砂川驛に至る七・三軒、小樽市の小樽港驛より同市の濱小樽驛に至る三・二軒及び空知郡美瑛町の美瑛驛より同町の南美瑛驛に至る三軒の貨物支線を含む。旭川驛より稚内驛に至る宗谷本線、長萬部驛より東に至る室蘭本線と共に北海道を縦貫し樺太に連する要路に當り、三線を連絡直通する急行列車によれば兩館より小樽まで約五時間半、札幌までは約六時間二十分、旭川まで(室蘭本線経由)約九時間、稚内まで(室蘭本線経由)約十七時間半にて達す。〔兩館港〕北海道本島の西南端。渡島半島の南端は、謂ゆる兩館地製線によりて八の字形に對向し、その内に抱くところを兩館灣といふ。灣口は大鼻崎と葛登支岬とによりて扼され、その中に兩館港の灣入を形成して巴狀となす。されば兩館

港は一名巴港とも稱せらる。兩館港は西南側を兩館山に護られ、東北より西南へは灣の靜波を隔て渡り島本土の山々に對し、東南側は陸繋島の低地にて完全に外洋の波を遮りし天然の良港なり。加ふるに港の西北兩館灣に開きし部分には、延長九一八米の西防波堤が突出し、これが第二期計畫によりて更に約六六六米増築せる豫定なり。それと約三六三米の港口を隔てて延長約一〇九〇米の北防波堤が築造せる豫定にて、更に西北端、七重濱より、延長四八五米の第三防波堤が西南方に向つて突出し、第一防波堤(四五四米)・第二防波堤(四八五米)と共に風波の危險より一層完全に防護せる計畫なり。港内の被覆面積三八三方軒水深は最深一四・八米、平均水深は三米乃至九・一米なり。東岸及び南岸には埋立工事が進行中なり。現在南岸には鐵道連絡岩壁が出来、第二期計畫にては一層大規模に七〇〇噸級繋船の第一號・第二號の埠頭、その繋船岩壁七六〇間が埋立地先に出来る豫定にて、深さも平均七・一〇米に淺深さるる筈なり。別に市債によつて海岸町、西濱町港灣修築工事に着手し、三〇〇噸以下の同時繋船接岸荷役を可能にし、東岸の住吉町先には將來漁港を築造する計畫なり。

〔宮根・波姑禰・波故禰〕宮根・波姑禰・波故禰。箱根湖。〔宮根湖〕蘆湖。ハコネ

大正十二年の關東大地震の被害を受け、更に昭和四年の北伊豆大地震には殆ど全滅の悲運に遭遇せしが、今や復興して面目を改む。〔箱根關〕箱根町の東方にあり、江戸時代箱根關所として世に知らる。その起源は明かならざるも、承久の亂當時、既に東鑑に「因國足柄・箱根兩方道路」とあれば、此頃より東海道的主要なとして往來を警固せしこと分明なり。但しその場所は明らかならざるも元箱根村の邊にありしものと思はる。また鎌倉の圓覺寺文書に康暦二年六月箱根山茶川宿の邊に關所を構へ、その征錢を以て同寺の造營料に充てたること見ゆ。この茶川宿は今の元箱根村の邊ならんと言はる。また同寺應永十三年の文書には、箱根山(水呑(水飲)關所云々と見ゆ。水呑は伊豆の山中新田に其の名稱遺れば、この邊にも關所ありしものと見ゆ。然るにこれは天正七年北條氏が山中城を修築せし時に、城構の中にこれを取入れたるといふ。江戸幕府に至りては元和四年箱根宿(今の箱根町)の東方、湖水端に關所を設けて往來を改むることとなり、小田原城主をして預り警衛せしむ。關所の通行には手形を要し、中にも婦人と鐵砲とに對しては殊に査閲嚴重なりき。關址はいま指定史蹟たり。〔箱根關所考古館〕箱根關所の近くにあり。關所の遺物と、こゝにて關所の旅館を營の居りし當時の本陣に殘りし古文書などを陳列して一般の觀覽に

供す。各種の關所通行手形・印章・制札・繪圖などがあり、本陣宿泊簿の一冊には大石良雄の名を存し左の如き記録あり。「島目二貫久淺野内匠様御家老大石内藏助様、但風呂代と」。〔箱根山〕また宮根山・兩根山にも作り、一に兩嶺ともいふ。富士帯火山脈に屬する標式的二重式火山にて、伊豆半島の頭部を扼し神奈川・靜岡の兩縣下に跨る一大火山。南方は伊豆半島の玄岳火山及び天城火山に連なり、北は足柄崎によりて丹澤山塊に連なり、西北は富士の秀嶺に接す。箱根火山の噴出は富士山より古く南方の玄岳より新しく、伊豆半島中央部の天城火山とほぼその生成の時代を同じうす。中央部に數箇の列座せる火山群あり、之等を圍繞して楕圓形をなせる外輪山あり。外輪山中の最も雄なるものに北部の金時山(二一三米)を最高とし、其西方に乙女峰(一〇〇〇米)・九嶺(一一五四米)・長尾峰(九〇三米)・三國山(一一〇二米)・箱根崎(八四九米)・鞍掛山(一一〇四米)・鷹巢山(八三七米)・明星ヶ嶽(九二四米)・明神嶽(一一六九米)等の諸峯聳ゆ。外輪山の長徑は略南北に互り金時山より鞍掛山に至る約一二軒、東西の短徑三國山より鷹巢山に至る約六・五軒、火山口面積約二四五方軒、その火山の廣大なること九州の阿蘇火山を除きて他にその比を見ず。火山原は階狀をなし西南部に瀧水したるものこれを蘆ノ湖

とし北に仙石原・宮城野あり。中に箱根町・湯本町をはじめ温泉村・宮城野村・仙石原村・蘆之湯村・元箱根村の二町五箇村を含む。抑々當火山はその始めコニカルの單式火山なりしが、火山活動力の減退とともに上部陥落して謂ゆる陥落火山を生じ、陥落火山は水を湛へてほぼ圓形のカルデラ湖を形成せしものなるが、更に火山活動の復活によりて火山の中央にトロイデ式の新火山口を噴出し、東南隅より斜に北北西の方向に下雙子山(一〇六四米)・上雙子山(一〇九一米)・駒岳(一三二七米)・更に神山(一四三九米)あり。これら最高點とす。やや離れて北西に豪ヶ嶽(一〇五四米)・小塚山(八五三米)等がほぼ同一方向に列座す。而してこれ等六箇の火山口丘は駒ヶ岳を除きては同質熔岩より成り、駒ヶ岳のみその地質を異にし、この噴出を最後として箱根火山の生成を完了せしなり。而してその後神山の中腹に大涌谷(大地獄)・早雲地獄・小涌谷(小地獄)・湯ノ花澤・硫黄山等の爆裂火山を生じ、殊に大涌谷の爆裂火山は最も大なるものにて、神山の山體の北半部を吹き飛ばし、ために残存部は鳥帽子の如き奇形に變じ、現在の冠嶽をなせしものなり。爆裂火山内にはいままは各所に亞硫酸ガス及び硫化水素等の瓦斯を水蒸氣と混じり白煙濛々としてその餘勢を示す。而して蘆ノ湖の水は火山口湖となりて北方の湖尻より流れ出て仙石原を

貫流し、小塚山の北麓より浸蝕の度加はり木質・宮ノ下と順次下るに從つて愈々垂直的浸蝕度を高めて峡谷をなし、湯本に至つて西南より來る一火山口湖須雲川と合し、東流して小田原町の南端に於て相模灣に注ぐ。なほ雙子山西麓には精進池等あり。箱根山の名は富士・日光と共に廣く世界に知られ、昭和七年十月を以て富士箱根國立公園に入る。山内各所に温泉湧出するもの今に十四湯を算し、保養の地として其の名天下に著る。なほ蘆ノ湖南岸の海半嶽上には氣象觀測所があり、その南方に航空無線局ありて箱根の氣流を飛來の航空機に報じ、南方遙なる十國時には我國最初の航空燈臺あり。曾我倉嶽山・四ノ敷くまの野に勢付けてハイシイ、足柄越に風荒く、露を露の箱根山、今行く道も、遂に行く道の河原のいつとも、大人の隔てなく、罪は重たし迷ひは深し、何が菩提の道と成る、懺悔々々、懺悔々々

相模兩國に命じ遺經して以て英魂を讃しめ、次で五月には「櫻相模國足柄路開宮宿」以て富士燒石塞道也云々と見ゆ。蓋し宮宿は即ち箱根路にして噴火の爲に道路が閉塞せしによる。而してその翌年五月には再び足柄の舊道が復し、箱根路を廢せしこと見ゆれど恐らくは兩道並び存せしものならん。これ箱根路は險阻なるが道程近きを以て、依然これに於ける旅行者ありしものなるべし。かの保元物語に、源爲朝、坂東に城郭を構へて足柄箱根を塞ぎ京都に當らんとせしこと見え、東鑑には頼朝の石橋山敗戦のち、北條時政・義時父子が箱根路により甲斐に赴くとあり。承久の亂には兩道を固めしこと見ゆ。このちの紀行文例へば更科日記・海道記には足柄路、十六夜日記・東關紀行には箱根路を通れるを見れば、その時に應じて兩道とも往來せしこと分明なり。されど當時は本道として足柄、間道としては箱根を通る人多くなりしことは、道興の廻國雜記・宗牧の東關紀行を始め、北條・今川二氏の往來等によつても明かなり。江戸時代に至りては箱根を本道と定めしが、それまでは箱根は間道たりしなり。この時代の箱根路は確かならざるも、大體、湯本村より湯坂を登り、鷹巣山の上を経て蘆の湯へかかり、元箱根に出でしものと推定せらる。然るに江戸時代に至りては、東海道は京都と江戸との聯絡上最も重要な往

還となりしを以て、多少險阻なるも、最捷徑の道を選びし結果、足柄の迂遠を棄て箱根の間道を修理し、須雲川の谷を通り湯本宿に至る街道を以て官道となすに至る。これ實に元和四年のことにして松平正綱が命を奉じて路を開き、三島・小田原兩驛の住民を移して新たに宿驛を設けしもの即ち箱根宿なり。箱根宿と湯本宿との間には畑宿あり。而してこの箱根路にはもと礮石を敷きしが、これは文久二年に時の將軍徳川家茂が攘夷の詔勅によりて上洛をすることとなりしときに、始めて敷きしものなり。今はこれを撤去す。然るにこの箱根路も今や自動車道完成し、曾ての天下の險も今や全く舊觀を失ふに至れり

【箱根温泉】箱根山中にある諸温泉。その所在地は數箇町村に亘るも、それ等を總稱して箱根温泉と稱す。古來箱根の七湯と稱し小田原町に最も近き湯本(一五〇米)を始め、塔ノ澤・宮ノ下(三九〇米)・堂ヶ島・底倉・木質(三九五米)・蘆湯(八五〇米)等が湯ノ町として榮えしが、交通機關の發達と京濱大都市の急激なる發展に伴ひ、遊覽保養地としての繁昌に從ひ温泉場の數も次第に多くなり、強羅・小涌谷・姥子・仙石原・湯ノ花澤等最近にては十五湯を數ふるに至る。以上温泉の分布を見るに、何れも神奈川縣内に屬するもののみにして静岡縣に屬するものは一つも見えず。それは温泉の湧出の

箇所と地形とが最も密接なる關係を有するものにして、最も多きは早川火山口湖に沿ひたる部分にして、入口より數へて前記の湯本・塔ノ澤・宮ノ下・堂ヶ島・底倉・木質等の六湯にして、火山口湖のため火山體が深く下方に浸蝕せられし結果にして、第二は中央火山口湖の周縁の多くは爆裂火山より湧出するものなり。強羅温泉は早雲地獄の硫氣孔にその源泉を仰ぎ、大涌谷の硫氣孔より出づる熱湯はその下方の仙石村に仙石上湯・仙石下湯・仙石元湯・俵石の四温泉場を設立せしむ。小涌谷にも小地獄の硫氣孔の湯を引きて浴場の設備あり、湯ノ花澤爆裂火山にも温泉湧出す。後者は何れも近代に新興せし温泉場なるも、以上の外中央火山口系系の温泉に屬するものに蘆湯・姥子の二温泉古來有名なり。更に泉質による分類を見るに、火山口湖に沿ひて湧出する温泉はいづれも鹽類泉もしくはこれに準ずる單純泉にて成分も酷似し、温度も露口の湯本が一〇〇度にて一番低く、高度を増すに従ひて温度も高くなり底倉にては一六七度に達す。中央火山口湖の周縁に湧出する温泉は姥子の鹽類泉を除く他は硫黄泉または酸性泉にして、蘆湯を除きては概して高温なり。以上の如く、箱根山中は潤澤なる温泉と泉質に富む上に雄大な火山地形の美に抱かれ、且つ温泉場として保養地としての條件たる交通機關の便は登山電車・登山自動車・ケーブルカー・

湖上モーターボート等によりて遺憾なく備はり、相模・駿河の海濱は指呼の間にありて鮮魚は意のままに得られ、一日の清遊には老幼婦女も樂に周遊が試みられ長き湯治にあかぬ風光と山海の美味があり、温泉郷としての好條件を具備せる保養遊覽地なり

【箱根登山鐵道】社線。神奈川縣足柄下郡小田原町の省線東海道本線小田原驛より早川の峡谷に沿うて箱根湯本驛・塔ノ澤驛・宮ノ下驛・小涌谷驛を経て、宮城野村大字強羅の強羅驛に至る一五稜の軌道線と、強羅驛より同村の早雲山驛に至る一・二稜のケーブルとより成る。なほ小田原驛に於ては社線小田原急行鐵道及び大雄山鐵道とに連絡す。軌道線は軌間は一・四三五米、動力は電氣。鋼索の軌間は一・一米。

【箱根登山鐵道】社線。神奈川縣足柄下郡小田原町の省線東海道本線小田原驛より早川の峡谷に沿うて箱根湯本驛・塔ノ澤驛・宮ノ下驛・小涌谷驛を経て、宮城野村大字強羅の強羅驛に至る一五稜の軌道線と、強羅驛より同村の早雲山驛に至る一・二稜のケーブルとより成る。なほ小田原驛に於ては社線小田原急行鐵道及び大雄山鐵道とに連絡す。軌道線は軌間は一・四三五米、動力は電氣。鋼索の軌間は一・一米。

【箱根登山鐵道】社線。神奈川縣足柄下郡小田原町の省線東海道本線小田原驛より早川の峡谷に沿うて箱根湯本驛・塔ノ澤驛・宮ノ下驛・小涌谷驛を経て、宮城野村大字強羅の強羅驛に至る一五稜の軌道線と、強羅驛より同村の早雲山驛に至る一・二稜のケーブルとより成る。なほ小田原驛に於ては社線小田原急行鐵道及び大雄山鐵道とに連絡す。軌道線は軌間は一・四三五米、動力は電氣。鋼索の軌間は一・一米。

ハシダテ 橋立村

石川縣加賀國江沼郡の北部。大聖寺町の北に接し、北及び西は日本海に面す。全村一〇〇米前後の丘陵にして、加佐ノ岬突出し加賀海岸の單調な僅に破る。聚落は北部に發達し牛農・牛漁なり。水産物・米・繭・甘藷等を生ず。南北に縣道走り大聖寺町へバス通ず。この地は和名抄、江沼郡竹原郷の内なるべく、昭和五年橋立・黒崎二村を合併して成れるもの。大字小鹽浦は古來歌枕の名所たり。藻鹽草に「加賀へ下りけるに小鹽浦といふ所にて、おもひきや小鹽の浦の苦屋にて寢覺に秋の月を見んとは 隆頼」(「田水神社」)大字橋立に鎮座。郷社。祭神、應神天皇・天津日高彥火々出見命・豐玉姬命。創建年代明かならざるも延喜式内の古社にして、神祇志料に「式内出水神社は舊橋立村の泉にありしを、のち同村内蛭場山へ遷す云々」とあり。往古、院地字イヅミと云ふ所に鎮座の神ありて出水神社と稱せしを、のち社地崩潰して海中に没す。其後いまの八幡社へ合祀せしより出水神社の號廢絶すと云ふ。明治十五年九月現社號を再稱す。例祭、二月十二日。

ハシハ 橋場

【橋場線】 省線東北線の一。岩手縣盛岡市の盛岡驛より岩手郡御明神村大字橋場の橋場驛に至る二三・七杆。盛岡驛にて省線山田線に接続す。【橋場】 岩手縣岩手郡御明神村の大字。

省線橋場線の橋場驛(大正十一年設置)を置く。

【橋場】 東京の舊地名。淺草の石濱の一名にして、のち橋場村と稱せしもの。此處より隅田川に船橋を架け渡せしを以て橋場と稱す。奥州に至る街道此處にかゝる。後世橋場は二分して一部は淺草區橋場町となり、一部は地方橋場町となりいま荒川區南千住に入る。※石濱

ハシハマ 波止濱町

愛媛縣伊豫國越智郡の北部。今治市の西北部に西隣し、北は波止濱に臨む。南境に二四〇米程の丘陵連りて南部は山地をなし、北部には平野開け、南方へ深く滲入する波止濱は北方の港口に來島及び來島瀬戸を距てたる北の小島二島を控へて謂ゆる宮瀨の名に背かざる良港をなす。氣候溫和風光また明媚にして慥かに瀬戸内海中の一樂土なり。産業は鹽が最も名高く年額一五〇〇萬斤、坂出専賣局波止濱出張所置かる。其他船渠會社の造船、綿織物・醬油などに次ぐ。名物としては慶長の昔海底に沈める謂ゆる蛸釣陶器の珍品と鯛の漬焼あり。海岸聚落より今治市及び西隣波方村へ縣道通じバスの往來繁く省線波止濱中部を横切りて波止濱驛(大正十三年設置)あり。港は船舶の出入絶えず海陸の交通至便なり。波止は長谷の轉訛にして古へ大和の長谷の人こゝに來住せるより此名起るといふも如何にや。天和年間こゝに鹽田を築きてより部落發達す。

往昔は來島氏の據りし所にして、河野村上の一族來島三郎九郎通總の住みし城址あり、通總は長曾我部元親來攻せし時、附近風を望みて降附せしに獨り之を拒み、のち徳川氏に屬し來島一萬四千石を賜はる。明治四十一年町制を布く。當町より波方村に互る島嶼・岩礁並に海面は風光の明媚なることを以て知られ、いま名勝に指定せらる。

ハシマ 羽島郡

岐阜縣美濃國の南部。縣内十八郡の一。東を木曾川、西を長良川に挟まれたる三角地域を占め、北は稲葉郡に、西は長良川を境に安八・海津兩郡に、東は木曾川により愛知縣尾張國栗原・中島兩郡に界す。面積八七・一方杆、三日月形の小郡なり。濃尾平野の略中央を占め、土地平低にして古來水難の災厄を度々受け、治水困難なりし所、今は三川分流工事成りて水難を逃れ得るに至るも排水悪しく悪水に悩む所もあり、早が續けば豊年となる。先づ美濃米を筆頭に、麥・粟・大豆等の農産に富み、副業の機業は郡の主要産業となり、笠松町を中心とする美濃綿、竹ヶ鼻町の紡琉綿、川島村の結城・機留・川島絹等殊に名高く、近時は毛織物業も盛となり郡の主産物は織物類なり。東北部は南北に省線東海道本線貫通し、笠松より竹ヶ鼻を経て大須賀に至る社線竹ヶ鼻鐵道の便あり。道路は笠松町より岐阜に至る岐阜街道を始め、笠松・竹ヶ鼻を中心し各

地へ通じ木曾・長良兩河には舟も通じ交通至便なり。郡内笠松・竹ヶ鼻兩町、外十六ヶ村を含む。本郡は木曾川の右岸にありし羽栗郡と中島郡とを明治二十九年四月に合併して建てしもの。※羽栗(郡)・中島(郡)

ハシミ 橋見

愛知縣西加茂郡にありし村。明治三十九年本村ほか一村を廢し保見村を置く。

ハシモト 橋本

【橋本】 神奈川縣高座郡相原村の大字。省線橋本線の橋本驛(明治四十一年設置)ありて社線相模鐵道の接続點をなす。【橋本】 一に橋下にも作る。遠江國の濱名湖より流れ出づる濱名川に架せる橋の西畔にありしを以てかく稱す。即ち和名抄の濱名郡猪鼻驛の地なり。されば宿驛として早く開け遊女ども多く、増鏡にもその状況を掲ぐ。「建久の初つた、頼朝みやこへ登る。その勢いかめしき事いへばさらなり……遠江國橋本の宿につきて参れり云々」室町時代の明應七年の大地震・津波のために濱名川壅塞し、その東に所謂今切出来て濱名湖と海と通ずるに至れり。地はいま静岡縣濱名郡新居町の中なり。

【橋本町】

和歌山縣紀伊國伊都郡の東北部。奈良縣宇智郡五條町の西方約六杆。北方を東西に連る葛城山脈の中腹の一峯三石山(七三九米)西北隣に接す。大部は

ハシヨ 馬上嶺山

石川縣(大分縣)馬場(馬場)朝鮮總督府鐵道成鐵本線の一驛(大正八年設置)。成鐵南道永興郡德興面にあり。

【馬場面】

朝鮮江原道鐵原郡の西端、郡邑鐵原の西方約二杆にあり。馬息嶺山脈に屬する靈影山(五八三米)北境に聳え、西境には大城山(三八九米)・浮鴨山(四四二米)・楸柯嶺(四二五米)等相連りて伊川郡及び黃海道・京畿道の一部と境し西部は山岳重疊すれども、東南部は臨津江支流驛谷川これを灌漑し稍大なる低地横はる。米穀・繭・絹布・生牛・蜂蜜等の産あり。また安峽鐵山の鐵區の一部ありて硫化鐵を出す。道路は鐵原より来る三等道路面を横斷して西方安峽にバスを通じ、沿線は交通運輸比較的便なるも其他は未改修にして交通便ならず。聚落密度は疎にして、長浦里に面事務所を置き、また陰曆一・六の日に開く市場ありて雜穀・薪炭・生牛等を主として取引す。

ハシヨロ 社

臺灣臺東廳臺東郡にある蕃社。大麻里溪上流約三里の左岸マリプル溪中流右岸に位す。約百八十年前に形成されたる社なり。パイロン族の大麻里蕃に屬する高砂族の部落。

ハシラサワ 柱澤村

福島縣岩代國伊達郡の中部。東南は掛田町、西北は保原町に隣接す。南方に雨乞山(三五

ハシリ 走島

走島村(廣島縣)八米)あり北方に傾斜し、北部は福島盆地に屬して稍平坦なり。米・繭を生ず。道路は中央東部を東南より西北に通じ、掛田町及び保原町へはバスの便あり。

ハシラノ 柱野

山口縣玖珂郡師木野村の大字。山陽本線の柱野驛(昭和九年設置)を置く。

ハシリ 走島村

熊本縣肥後國熊本郡の西南端。熊本市の西南約一〇杆にあり。隸川及び其支流に依り四方を包圍せられ自ら島狀を成し、西北部を除く以外は宇土郡に對す。全村地低平にして耕地よく拓け、米・蔬菜等の産多し。昭和二年潮害を蒙り全村全滅の慘事を招來せしも、多年の努力に依り漸く舊に復するを得たり。域内に交通の便なきも鹿兒島本線宇土驛に近く且つ隸川による舟楫の便ありて交通概して不便ならず。この附近は西南の役に激戦のありし地。

ハシリシマ 走島村

廣島縣備後國沼隈郡の東南海上。走島を主島とし東南の宇治島、東北の袴島、西北の加治屋島より成る。縣町の東南約六杆。面積三・三九方杆。本村は香川縣三豊郡莊内村の三崎より本郡千早村の阿伏見岬を結ぶ瀬戸内海國立公園西隈線のほぼ中部に位す。走島及び宇治島が主要島にして、走島は周圍約一〇杆、一〇〇米餘の丘陵連り、最高點は東南部にありて一八〇米、西南部海岸は概れ海崖をなすも、小溪流に沿

ハシモト 橋頭

山城國(京都府)の古地名。和名抄に葛野郡橋頭郷あり、その地今の京都市右京區嵯峨の邊に當る。

ハシモト 坡州

【坡州郡】 朝鮮京畿道の三府二十郡中の一。道の中央より稍々北西に位し、北は漣川・長湍の二郡、東は楊州郡、南は高

ハシモト 坡州

その傾斜地にて南部は僅に紀ノ川流域平野なり。米・繭の農産、その他林産・畜産・工業等あり。北部葛城山脈中の各部落よりは有名な高野豆腐の産出あり。紀ノ川に沿ひて走る大和街道と大阪より來る高野街道と此地にて相會し市街地其處に發達して本郡第二の都邑となり人口密度八七一一人を算す。省線和歌山線南部を横走し橋本驛(明治三十一年設置)ありて、社線南海鐵道高野線と接続す。天正年間僧僧其の開きし處と傳ふ。當時紀ノ川に長橋を架して高野への往來に便したるより此の名起るとも郡役所の所在地たり。明治二十七年町制を布く。【妙樂寺】 大字東家にあり。律宗。丹生山藥師院。弘法大師姪如一の住址と傳ふ。弘仁十一年嵯峨天皇の勅建に係り、のち北條時頼現地に遷して再興す。【應其寺】 大字橋本にあり。古義眞言宗。中興山普門院。高野末。天正十五年、興山應其(木食上人)・豐臣秀吉の許可を得て紀ノ川に百三十間の橋を架けて旅人の便を圖り、古の相賀驛を繼ぎて橋本を拓き、同時に草庵を結びて住す。これ本寺の濫觴たり。

ハシモト 坡州

【坡州郡】 朝鮮京畿道の三府二十郡中の一。道の中央より稍々北西に位し、北は漣川・長湍の二郡、東は楊州郡、南は高

ハシモト 坡州

山城國(京都府)の古地名。和名抄に葛野郡橋頭郷あり、その地今の京都市右京區嵯峨の邊に當る。

ハシモト 坡州

【坡州郡】 朝鮮京畿道の三府二十郡中の一。道の中央より稍々北西に位し、北は漣川・長湍の二郡、東は楊州郡、南は高

ハシモト 坡州

その傾斜地にて南部は僅に紀ノ川流域平野なり。米・繭の農産、その他林産・畜産・工業等あり。北部葛城山脈中の各部落よりは有名な高野豆腐の産出あり。紀ノ川に沿ひて走る大和街道と大阪より來る高野街道と此地にて相會し市街地其處に發達して本郡第二の都邑となり人口密度八七一一人を算す。省線和歌山線南部を横走し橋本驛(明治三十一年設置)ありて、社線南海鐵道高野線と接続す。天正年間僧僧其の開きし處と傳ふ。當時紀ノ川に長橋を架して高野への往來に便したるより此の名起るとも郡役所の所在地たり。明治二十七年町制を布く。【妙樂寺】 大字東家にあり。律宗。丹生山藥師院。弘法大師姪如一の住址と傳ふ。弘仁十一年嵯峨天皇の勅建に係り、のち北條時頼現地に遷して再興す。【應其寺】 大字橋本にあり。古義眞言宗。中興山普門院。高野末。天正十五年、興山應其(木食上人)・豐臣秀吉の許可を得て紀ノ川に百三十間の橋を架けて旅人の便を圖り、古の相賀驛を繼ぎて橋本を拓き、同時に草庵を結びて住す。これ本寺の濫觴たり。

うて耕地開け西北海岸に墾落發達す。宇治島は走島より小さく、最高點一一八米は中央にあり、北部海岸に墾落あり。水産業に最も恵まれ、農業これに次ぎ水産加工業も行はる。本村は氣候温和且つ瀬戸内にあるを以て小島嶼なるも斯く産業盛にして、昭和十年國勢調査によれば一方村人口密度は三五六人を示し全國平均の一八一人の二倍に當り、人口も大正九年一〇〇三人、同十四年一〇八三人、昭和五年一一四〇人、同十年一二〇六人と漸増す。往昔三韓及び唐と交易せる頃は瀬戸内海船着場の一なりしといふ。

ハシリミズ 馳水・走水

浦賀海峽の古稱。景行天皇の御代蝦夷叛きしかば日本武尊命を奉じ妃弟橘媛を伴ひ征討に向ふ。相模國より上総國に渡り給はんとし給ひし時暴風忽ち起り船將に覆没せんとす。橘媛、尊の身代として海に投ず。暴風忽ち止みて對岸に達することを得たり。時人その海を呼びて馳水といふと景行紀に見ゆ。いま神奈川県三浦郡浦賀町の大字に走水あり、橘媛の御櫓の流れ寄りし處なりといふ。走水神社あり、尊及び媛を祀る。

ハシリユヤマ 走湯山

伊豆山の舊稱。※熱海市ハシン 坡心庄 臺灣臺中州員林郡の中央に位置し、東は員林街、西は溪湖街、南は永靖庄、北は大村庄にそれぞれ境を接す。地勢平坦にて丘陵を見ず、地味肥

沃、且つ八俣期に依る漕漕の便に恵まれて、蕪頂の水田廣く展開し、純農村が形成す。面積二二方軒餘、人口一萬七千二百餘。市面積甚だ狭小なるも、土地總て平坦なる爲め、耕地多く、農産豊富にして、米・甘蔗・甘藷・柑橘・芭蕉・蔬菜を主要なるものとす。殊に柑橘は員林蜜柑と稱せられて聲價既に高し。畜産にては勞役用の水牛・黄牛を除き、豚・鶏等の家畜飼育多し。明治製糖の員林・鹿間社線は中央部を東西に貫通し、之と殆んど並行して員林・溪湖間指定道路あり。また東南邊には縱貫道路ありて共に臺中輕鐵の輕便軌道(手押臺車)あり、交通の便備はる。管内はもと總て武西條に屬し、清の康熙末年より乾隆の中葉に亘りて主として粵人により開墾せられたり。坡心は當初埔心と稱し、未墾地の中心の意に出で、のち大埔心と改められ、現行制度施行に際し、更に池の中心、即ち周圍に池ある所の意より坡心と改稱せり。開拓時代に住民自衛の目的を以て部落の周圍に土堤を築き、其上に竹塙を廻らしたる謂ゆる大埔心城は今尙古跡としてその一部を存す。

ハズ 羽豆岬

師崎町(愛知縣)ハズ 橋豆岬(福豆郡) 愛知縣三河國の西南部、縣内

ハスエ 蓮江

石川縣能美郡にありし村。明治四十年に外二村と合し苗代村を設く。

ハズカシ 羽東師村

京都府山城國乙訓郡の東部、桂川の右岸に沿ひ東は川を隔てて京都市伏見區に接し、西に向日町に界す。地勢平坦にして肥沃なれば農耕に適す。米・麥・粟種等の産あり。省線東海道本線尾驛は西南約一・五軒あり。大字志水に羽東師神社あり、式内の古社にして、その社の社を羽東師と云ひ、和歌の名所なり。後撰集に「忘れ思ふ歎のしけるをや身をばつかしの森といふらん」とあり。「羽東師坐高御産日神社」大字志水に鎮座。郷社。祭神高御産日神。雄略天皇二十一年の創建と傳ふ。延喜の制大社に列す。天智天皇四年に藤原鎌足に勅を奉じて社殿を再建し、のち延暦十三年十一月遷都に際して再建あり。大同三年十二月攝社十一社を建つ。例祭、四月上巳日。

ハスガタ 蓮湯

新潟縣北蒲原郡にありし村。明治三十九年、本村及び聖籠・蓮野の三村並に藤井村の一部を合し、新に聖籠村を設置す。

ハスキ 播次

備後國(廣島縣)の古地名。和名抄に三次郡播次郷あり、今の雙三郡三次町・十日市町の邊に當る。

ハスコワラン

社 臺灣新竹州竹東郡にある蕃社。上坪溪上流左岸、鳥嘴山の東面、標高約九百米前後の地點に

十八郡の一。矢作川下流左岸を占め、東南は瀨美灣に、西南は知多灣に臨む。北は矢作川本流を境に碧海郡に、東は額田郡に、東南隅は寶飯郡に界す。面積一七・四・四万方軒。東半部は木曾山脈の末端なる二一三〇〇米の丘陵横たはり、西半は中央を南に貫流する矢作古川と北・西境をなす矢作川本流とに造成せられたる三角洲にして肥沃なる平地、謂ゆる三河アンマーグの一部をなす各種の産業發達す。平地は漕漕の便よく水田拓げ三河米の産額多し。その他三河西瓜・三州那・麥等の副産物も多く、山手に近き方面は養蠶業盛にして多額の繭を出し、河岸の諸町村は養魚の副業、海岸諸村には水産業盛なり。また西尾町・平坂町・福豆町を初め本郡一帯は織物業・製糸業を筆頭に、清酒・製粉等の工業も盛にして綿織物・絹織物・生糸はまた本郡の主要物産なり。交通も之に従ひて便にして社線名古屋鐵道西尾線、同碧海電氣鐵道、同三河鐵道等の便あり、東西に走る平坂街道・南北に通ずる西尾街道を初め道路も發達す。また矢作川に舟楫の便あり、海上は平坂港を中心し船便あり。郡内西尾・平坂・福豆・寺津・一色・吉田の六町ほか六ヶ村を含む。三代實錄貞觀元年紀に郡名見ゆ。和名抄は熊本・八田・兼太・磯泊・大川・大濱・新島・修家の八郷を管す。後世、北方 碧海郡との間に境域多少の變更ありて今日に至る。

ハスタ 蓮田町

埼玉縣武蔵國南埼玉郡の中央西部。元荒川の右岸に沿ひ西は北埼玉郡に境す。地は關東平野の一部を占めて低平、且つ元荒川による漕漕よろしきを得て耕地よく發達す。米・藪の産多し。東北本線南浦を西南より東北に貫き蓮田驛(明治十八年設置)を置き、當驛より社線武州鐵道を分岐す。本町はもと綾瀬村と稱せしが、昭和九年蓮田町と改稱。町内に古墳多し。

ハスマ 蓮沼村

千葉縣上總國山武郡の東部。九十九里濱沿岸平地の一部を占め、沼田をなす所多く、米を主産し、他に麥を産す。また養蠶・養鶏も盛なり。海岸は單調なる砂濱をなし、鰯の濱漁業行はる。縣道は中部を東北に走り、これより分れて西北に走るものは西隣大平村を経て松尾町に通じハスの便あり。同町の省線總武本線松尾驛に連絡す。

ハスノ 蓮野

新潟縣北蒲原郡にありし村。明治三十九年本村及び聖籠・蓮湯の三村及び藤井村の大字應寄を合併し新に聖籠村を建つ。

ハスポク

社 臺灣高雄州潮州郡にある蕃社。楓溪溪右岸、パラロア山の

「福豆町」愛知縣三河國福豆郡の南東部。東は寶飯郡形原町に接し、南は瀨美灣に面す。岡崎市の南方約一四軒の地、昔後に二一三百米の丘陵を負ひ、西部と南部に小平地を點綴す。海岸は二小突出ありて、東福豆・西福豆の小灣を分つ。工業・農業・水産業共に盛にして帯志地をなはしめ製粉・清酒等の工業額は七十七萬圓餘に及び、次で四十九萬六千圓の桑、十七萬圓の繭、十五萬七千圓の米等殊に著しく、水産總額も二十萬圓餘に達す。一條の縣道東西に貫通し社線三河鐵道の終驛三河島羽驛(昭和四年設置)及び西福豆・東福豆・洲崎の三驛(何れも昭和十一年設置)あり。蒲郡及び吉田へハス通す。福豆航空燈臺あり、自然電燈閃白光、一二〇萬燭光、光達距離は晴天の暗夜五〇軒。此地は和名抄、福豆郡磯泊郷の内なるべく、明治三十九年本村及び東福豆村を廢し福豆村を置き、昭和三年町制を布く。

ハスイケ 蓮池

「蓮池村」高知縣土佐國高岡郡の東北部。高岡市の西南に接し、北隅の丘陵山麓をのぞく外は凡て平坦にして、南境に仁淀川支流東流す。農業を主とし、米産最も多く藪これに次ぎ、他に養蠶・果芋・トマト・胡瓜・豌豆等あり。また蠶糸・蠶繭の外に工業もあり。北部を東西に走る縣道ありてハスの便よく、東へ南へ走り波介河に入るものもあり。村内に蓮池城址あり、土佐七守護の一なる太平兵兵代

西南山腹標高約三六〇米の地に位し、約六百年前にアンテイ社より三〇戸を以て移住し來れり。大正三年蕃器押収に際し反抗したるを以て討伐を受け頑強に反抗したるも利あらざるを悟り銃器十三挺を提出歸順す。パイロン族の恒春下藩に屬する高砂族より成る部落なり。

ハズミ 波積村

島根縣石見國隱原郡の西南。温泉津町の南方約二軒に位し、西及び西南は一軒餘にて日本海岸に出で、西及び西南は那賀郡に、東南は邑智郡に界す。周圍山地を繞らし東南境には西山(五九三米)聳ゆ。低地に中央西部に積々發達す。米・藪の外に林産・畜産及び工業あり。山陰道中央を東西に貫き省線山陰本線淺利驛(西方約四軒)及び黒松驛(西北境より僅か西方)ハスの便あり。此地古くは和名抄、隱原郡大家郷に屬す。

ハセ 初瀬町

奈良縣大和國磯城郡の東部。櫻井町の東北約三軒、東は宇陀郡榛原町に界す。東部及び西部は山地をなし東北境に島見山(七三三米)あり、西境には卷向山(五六七米)あり。北方より流下し來る初瀬川は中央を貫き西南に流れ朝倉村に入る。米・藪・麥の産あり。此の地は奈良盆地より伊賀へ通ずる街道に當り、街道は中部を東西に隔斷し、之に沿ひて初瀬町市街地は長谷寺の門前町として發達せしものなり。社線參宮急行電鐵は前記街道(上街道と稱す)と並走し長谷寺驛(昭和四年設置)あり。萬葉集に初

瀨小國・泊瀨小國と見ゆるは蓋し當町邊を稱せしものならん。初瀬詣の事は遠く源氏物語に見え古來其者甚だ多し。寺はまた櫻・紅葉・牡丹の名所としても知らる。大字出雲の地は武烈天皇の皇居泊瀨列城宮のありし處なりといふ。歌枕に名高き猪養回は大字吉野の邊か。猪養回〔吉野〕 大字角柄にあり。施基皇子(春日宮天皇)の妃贈皇太后極姫の御陵。中世以降陵所を失ひしも、明治十二年現所に御治定。〔與喜天満神社〕 大字初瀬に鎮座。郷社。祭神菅原道真。天慶九年神代大夫武麻呂の勸請する所。一名、與喜山天神。例祭、九月二十日。〔長谷寺〕 大字初瀬にあり。新義真言宗豊山派總本山。豊山神樂院、または本長谷寺とも稱し、本尊に十一面觀世音を安置し、西國三十三所第八番の札所として著る。天武天皇の朝、弘福寺の僧道明、勅を奉じて當山の西岡に本長谷寺を創建し、且つ三重塔を建立して、塔中に銅版「法華說相圖」を安置す。のち聖武天皇の御願により僧道、東岡に精舎を建立、時に靈木を江州高島郡に得て、佛師繪文會等師徒を凝して彫刻安置せしもの即ち本尊十一面觀世音の大像なり。爾來朝野貴賤の崇敬篤く、臨幸、寺領寄進等屢々行はれ寺運隆盛を極めしが、中世の戦亂に際し寺門漸く頹廢に歸す。天正十五年に至り和州太守豊臣秀長、専ら僧正を請じて豊山に迎へ大いに山の興隆を圖る。これより

興福寺に屬し、法相宗を奉じ來りしを眞言宗に轉じ、根來山の學統をこゝに興し專譽を以て當山中興の祖となす。爾來、秀吉は寺領を寄せ、家康また當山を保護し寺領三百石を寄せ、家光は金二萬兩を寄せて大いに諸堂を興し近畿の名區をなすに至る。明治後、眞言宗の一本山に列し、三十三年に新古兩派に分裂するや、末寺三千餘箇寺を率ゐて獨立し、爾後新義眞言宗豊山派の總本山となる。境域及び四邊の風光また天下に知られ、春は櫻夏は牡丹、秋は紅葉、冬は雪、それぞれ眺めに勝れ、吉野・月ヶ瀬と共に古くより著名なり。境内の名跡としてけ道明御靈塔・紀貫之故郷梅・定家塔・俊成碑等あり。本堂及び法華說相圖一面銅盤・不動明王坐像(木造)一軀・地藏菩薩立像(木造)一軀、他四點は何れも國寶。詠歌「いくたびも參るこゝろは初瀬寺やまも誓ふふかき谷川」(能滿院(日限地蔵)) 大字初瀬にあり。新義眞言宗豊山派。長谷寺塔頭に於て、具には能滿院、俗に日限地蔵と稱す。安置の地蔵尊は安産子育てに靈驗ありとて俗間の信仰厚し。寺寶中、春日長茶羅圖(絹本着色)一幅・地藏十王像圖(同上)一幅は國寶。ハセ 長谷 鎌倉町(神奈川縣鎌倉郡) 〔長谷〕 越中國(富山縣)の古地名。和名抄に新川郡長谷郷あり、その地今の上新川郡内ならんも詳かならず。

〔長谷村〕 兵庫縣播磨國神崎の郡北西部。東北は朝來郡生野町に接し、西北部は宍粟郡に界す。四周の村境は山脈にて圍まれ、北境特に高く段々峯は一〇〇三米を有す。段々峯より一〇〇〇米餘の山脈南方へ延びて中央へ蟠り其東西兩麓より東南流する河川ありて、生野方面より來りて東南部を東北より西南に貫きて流れる市川に合す。沿岸に稍々低地開く。山地廣きも農村にして米・蕎麥・蔬菜・花卉・食用農産・製茶・三椏・鶏卵等を主とし、外に双切・木製品あり。東南部河谷に沿ひ縣道及び省線播磨通線通過し前者にバス通じ、後者に長谷驛(明治二十八年設置)を置く。當村内には大山・龜若・鶴若・長谷・川上などの諸嶺山あれど著しきは蘇美嶺山のみとす。同嶺山は長谷村・寺前村及び宍粟郡下三方村に跨り、嶺區五十二萬餘坪、鑛種は銀・銅・鉛・硫磺・磁石等あり、昭和十年には亞硫酸一四六、六五〇斤(價額約二萬四千五百圓)を出す。同年六月末使役人員十五名、準重要鑛山に屬す。

ハセ 波瀨 〔波瀨村〕 三重縣伊勢國一志郡の中部。松阪市の西北方一〇軒餘にあり。稍々東北より西南に長き長方形をなす。西南半は高き山地をなし矢頭山(七二二米)南境に聳ゆ。これ等山地より丘陵東北方へ延びて東西兩境を隔る。中部には平地開け雲出川支流波瀨川その間を東北流す。村民の八割は農業を營み、他に山林業あり。外に工業・商業を行ふものあり。産物は米・蕎麥・オオル・清酒・木材・薪炭及び畜産・水産・鑛産等なり、省線名松線井關驛へは東北約一軒にてバス通ず。古くは和名抄、壹志郡宍野郷に屬す。文武天皇の元年、役小角この地の矢頭山を開くと傳へ、また山頂に波氏神社を祀りしは延暦二十年なりといふ。延喜十九年安樂寺建立、建仁元年、明星家盛は上出城を築きて歴代の居城とす。延元三年北畠顯能國司となり、應永元年顯能孫、雅俊波瀨城を築く、これ金生氏の祖なり。元正五年信長に滅さる。のち蒲生氏郷の所領、次で豊臣氏の直領となり慶長五年古田織部正の封領たり。徳川幕府に至りて天和五年徳川頼宣の領となり明治維新に及ぶ。〔波瀨村〕 三重縣伊勢國飯南郡の西部。柳田川の源流地を占め北及び西は奈良縣宇陀郡と吉野郡に界す。西境には高高山脈の高峯連立し高見山・國見山(一四一九米)等屹立す。北境及び南境もそれより東方へ派出する山脈によりてそれと圍まれ東北境には三峰山(一二三六米)聳ゆ。其南には高鉢山(七八三米)連りて東境を劃す。柳田川は西境に發して中央の谷谷を劃し流れ東南隅より森村に出づ。農林業を營む資本家は一〇%、山稼業四〇%、商業を營むもの一〇%にて産物は木材・蘆藪・木炭・椎茸等を主とす。河谷に沿ひて和歌山方面より來る伊勢街道通

じ東方の大石村までバスを通ず。此地は天正中に北畠氏の遺族、義故を集めて兵を擧げし處にて、瀧川一益の爲に敗る。〔泰運寺〕 大字波瀨にあり。曹洞宗。天開山。寶曆年中に了啓の開創に係る。本尊子安觀音像は行基の作といふ。ハセカワ 長谷川村 〔長谷川村〕 大分縣豊後國大野郡の西南部。九州山脈の一峯、祖母山の東北斜面を占め、西は直人郡に接し、南は山脈を隔てて宮崎縣西臼杵郡に界す。南境には九州山脈東西に連り、西南隅に祖母山(一七五八米)、中央に本谷山(一六四三米)、東南隅には傾山(一六〇五米)聳ゆ。祖母山より東北方へ連る一支脈は障子岩・鳥嶽等を起して西境を限り、東南の傾山より北方へ延びる山嶺は東境を劃す。村内の水は西南に發する奥嶽川となり中央を東北流す。地形峻峻なり。林産資源多し。また西南部に尾平鑛山あり。河谷に沿ひ東北方牧口村へ自動車便あり。村内に多くの鑛區あれど主なるは三菱尾平鑛山と蔵内尾平鑛山とす。何れも祖母山の東腹にて謂ゆる尾平の地質は秩父古生層・中世層に屬する礫岩及び同時代の安山岩・流紋岩の熔岩を貫きて花崗岩進入し、その接觸部及びその附近に多様な鑛床發達す。特に花崗岩・流紋岩中には電氣石・螢石等の氣成鑛物を含む錳鐵脈も廣く發見す。〔三菱尾平鑛山〕 當村と宮崎縣西臼杵郡岩戸村に跨る重要鑛山。登錄上、三鑛區に分た

れ、この總面積百十六萬二百坪。鑛種は銅・錳・安山岩・母尾なるが、昭和十年には錳一〇八・七三〇噸、錳精二九・三三噸、この總價額四十四萬七千餘圓を出す。同年六月末の使役職員三五四人。〔蔵内尾平鑛山〕 當村内に八五、一六四坪の鑛區を有する重要鑛山。鑛種は銀・銅・錳・鉛・磁石等あり、昭和十年には錳四四、六七〇斤(價額約一七萬三千圓)を出す。同年六月末の使役職員一七二人。ハセケハラ 長谷毛原村 和歌山縣紀伊國那賀郡の東部。東は伊都郡に接し南は有田郡に界す。村形東北より西南に延びやや正方形をなす。長峰山脈は西南より東北に延びて東南境を限り、立岩山・地藏嶮(八二二米)等あり。西北境にも約七〇〇米餘の山脈東北より西南に連りて村境を劃し、中央の据合谷を貴志川西南に貫きて流れ猿川村に入る。米・蕎麥の農産及び林産・工業・畜産等あり。西方の龍神街道より分岐する縣道は河谷に沿ひて本村を貫き、東北方に至りて西高野街道に連り各部落これに沿ひて見らるるのみ。もと長谷と毛原の二部落なりしが合併して當村を建つ。ハセタニ 榎谷村 兵庫縣播磨國明石郡の東部。東部は神戸市の西北部との間に約二軒を距つ。南は伊川谷村を隔てて垂水町なり。村形は東北より西南に細長し。東境に連る山脈より西南方へ山脈連りて南北兩境を劃し、北境中央に高塚山

ハセツカベ 丈部 〔丈部〕 陸奥國(陸奥國、岩手縣)の古地名。和名抄、磐井郡に丈几郷あり、凡の字は日の字の誤にして、日は部の略字なり。その地は今の東磐井郡長坂村の邊なるべし。〔丈部〕 下野國(栃木縣)の古地名。和名抄に河内郡丈部郷あり。その地詳かならざるも或は今の河内郡雀宮村の邊か。〔丈部〕 安房國(千葉縣)の古地名。和名抄に長狭郡丈部郷あり、萬葉集に「上總長狭郡上丁丈部與麻呂」とあり、その族黨の居りし所を丈部郷と稱せしものなるべし。其地は安房郡天津町の邊か。ハセツカベ 杖部 伊勢國(三重縣)の古地名。和名抄に朝明郡杖部郷あり、鉢

世郡加倍と謂す。その地は今の三重郡朝津村の邊なるべし。ハセツク 社 臺灣花蓮港廳花蓮郡にある蕃社。沙連礁溪左岸にして加禮宛山の南方なる無名山山麓に位す。標高約六〇米、概ね緩傾斜にして約二〇甲餘の水田及び約四〇甲の空地畑あり。既往に於ける居住地は農耕意ならず生活著しく困窮せるため、官の慈悲に依り昭和二年現在地に移住を開始し、昭和六年完了、社を形成せり。マイヤル族のダコロ藩に屬せる高砂族の部落なり。ハセベ 谷部 〔谷部〕 上野國(千葉縣)の古地名。和名抄に長柄郡谷部郷あり、波世倍と謂す。その地今の長生郡茂原町の邊に當るか。大字長谷は谷部が長谷部となり、更に長谷となりしものか。〔谷部〕 三河國(愛知縣)の古地名。和名抄に碧海郡谷部郷あり、その地今の碧海郡矢作町の邊なるべし。續日本紀・神護景雲二年の條に「今年七月、得參河國碧海郡人、長谷部文選」とあるは此地の名族なりしものなるべし。ハセシ 巴川面 朝鮮慶尙北道青松郡の西北部、郡邑青松に西隣す。大白山脈西斜面の山地にして東北境に飛鳳山(六七七一米)聳え、地勢高峻、中部を半邊川支流東南より西北へ貫流し、沿岸に平地ひろく、丘陵斜面及び溪谷はよく開墾せられ耕地の發達を見る。産物には大豆を

主とし、米・大麥・大豆・粟・煙草等あり。道路は青松・安東を連れる三等道路は面の略中部を横断し、これと北方の英陽に通ずる道路にバスを通じ、交通や、便なり。聚落は溪谷部に最も多く分布す。

ハセシ 馬川

朝鮮慶尙南道咸陽郡の南端に位置し、郡邑咸陽の南方約一五〇米にあり。小白山脈中に位置し、半島の名山智異山(最高點一九一五米)は東境及び南境に連なり、北境には法華山(九九二米)・三峯山(一一八七米)等聳え、西の全羅北道との境にも一〇〇〇米以上の山連なり、城内高山重疊起伏し、中央に意岩山(九二二米)屹立し、周縁山地より流下せる五溪流は意岩山麓を環状に巡りて東北境の山麓を破り灘川となりて流出し、之等の溪谷に僅に低地を見る。耕地は極めて少なく、地産また乏しく、僅に大麥・粟・稗・蜀黍・薪炭・椎茸・藥草等あり。智異山中腹は椅・檜・松等の原生林繁茂し京都帝國大學の演習林を成す。道路網は意岩山麓を環状に繞りてより前記の各溪谷に沿ひ放射状に通じ、極まる所にて峠により隣接面に各連絡す。灘川左岸なる佳興里は面邑にして、また市場ありて薪炭・雜穀類等の取引行はる。智異山の西北麓に碧松寺の名刹あり。

ハタ 八太 伊勢國(三重縣)の古地名。和名抄に壹志郡八太郎郷あり、その地今の志保郡川合村・高岡村の邊なるべく、川合村の大字八太は其の遺稱なるべし。

ハタ 八多 佐渡國(新潟縣)の古地名。和名抄に雄太郡八多郷あり、その地今の佐渡郡畑野村に當る。

ハタ 波多 大和國(奈良縣)の古地名。和名抄に高市郡波多郷あり、その地今の高市郡高取町・舟倉村の邊なり。

ハタ 八田 越中國(富山縣)の古地名。和名抄に礪波郡八田郷あり、その地今の西礪波郡石動町の邊なるべし。

ハタ 八多 佐渡國(新潟縣)の古地名。和名抄に雄太郡八多郷あり、その地今の佐渡郡畑野村に當る。

ハタ 八多 佐渡國(新潟縣)の古地名。和名抄に雄太郡八多郷あり、その地今の佐渡郡畑野村に當る。

ハタ 波多 大和國(奈良縣)の古地名。和名抄に高市郡波多郷あり、その地今の高市郡高取町・舟倉村の邊なり。

ハタ 八太 伊勢國(三重縣)の古地名。和名抄に壹志郡八太郎郷あり、その地今の志保郡川合村・高岡村の邊なるべく、川合村の大字八太は其の遺稱なるべし。

ハタ 八多 佐渡國(新潟縣)の古地名。和名抄に雄太郡八多郷あり、その地今の佐渡郡畑野村に當る。

ハタ 八多 佐渡國(新潟縣)の古地名。和名抄に雄太郡八多郷あり、その地今の佐渡郡畑野村に當る。

ハタ 波多 大和國(奈良縣)の古地名。和名抄に高市郡波多郷あり、その地今の高市郡高取町・舟倉村の邊なり。

ハタ 八田 越中國(富山縣)の古地名。和名抄に礪波郡八田郷あり、その地今の西礪波郡石動町の邊なるべし。

ハタ 八多 佐渡國(新潟縣)の古地名。和名抄に雄太郡八多郷あり、その地今の佐渡郡畑野村に當る。

ハタ 八多 佐渡國(新潟縣)の古地名。和名抄に雄太郡八多郷あり、その地今の佐渡郡畑野村に當る。

ハタ 波多 大和國(奈良縣)の古地名。和名抄に高市郡波多郷あり、その地今の高市郡高取町・舟倉村の邊なり。

ハタ 八太 伊勢國(三重縣)の古地名。和名抄に壹志郡八太郎郷あり、その地今の志保郡川合村・高岡村の邊なるべく、川合村の大字八太は其の遺稱なるべし。

ハタ 八多 佐渡國(新潟縣)の古地名。和名抄に雄太郡八多郷あり、その地今の佐渡郡畑野村に當る。

ハタ 八多 佐渡國(新潟縣)の古地名。和名抄に雄太郡八多郷あり、その地今の佐渡郡畑野村に當る。

ハタ 波多 大和國(奈良縣)の古地名。和名抄に高市郡波多郷あり、その地今の高市郡高取町・舟倉村の邊なり。

左大臣教房は京洛の難を避けて此處に居り天正年間に至る。

ハタ 頼多 遠江國(静岡縣)の古地名。和名抄に鹿玉郡頼多郷あり反多と訓ず。その地今の濱名郡頼志村の邊に當る。

ハタ 畑村 兵庫縣丹波國多紀郡の中郡。篠山盆地の東部に在り、西南方約二軒を距て、篠山町あり。北境には金ヶ嶽(七二六米)・三嶽(七九三米)・西ヶ嶽等の山脈東西に連り山麓は濠地状をなして中央に谷を挟み、南部は低平なる平野開け、南境に沿ひ篠山川西流す。農業を主生業とし米・大豆・蕎麥・花卉・食用農産・課多・果實・繭等の農産多く外に鶏卵・蠶糸・薬製品・水産・殖等あり。社線篠山鐵道篠山驛は西方約四軒にてバス便あり。大字畑宮の佐々邊神社は延喜式に見ゆ古社にて、古くより文化の拓けし地なりしを知る。中世は波多野莊と云ひ、波多野氏の起りし處なりと。波多野(畑)氏の祖秀長は和州般若寺の僧に請ひ寺を建つと傳へ、いま大字に般若寺の名を存す。平石谷の櫻殿寺境内に後鳥羽天皇の紀承明門院の墓と稱するものあり。〔佐々邊神社〕 大字畑宮に鎮座。縣社。祭神、天忍穗耳尊。相殿に應神天皇外五神を祀る。一に樂々邊明神とも云ふ。延喜式内社とす。古來より上下の尊崇深くして、殊に後鳥羽天皇・承明門院・土御門天皇・仁昭寺宮は各奉齋ありき。例祭、九月一日。

ハタ 秦 〔秦村〕 埼玉縣武藏國大里郡の東北隅。熊谷市の東北約五軒。利根川と備前堀川との合流地域に在り、南は備前堀川を以て北埼玉郡と、東北は利根川を以て群馬縣邑樂郡と境す。全村地低平にて耕地よく拓け、主として桑園は利根川沿岸に、水田は備前堀川沿岸に拓く。主生業は農にして米・蕎麥を主産す。村の中央より東北・東南・西北・西南の四方に縣道通じ熊谷市にはバス通す。また利根川・備前堀川に依る舟楫の便あり。〔秦〕 高知縣土佐郡にありし村。昭和十年高知市に編入す。

ハタ 旗山 徳島縣勝浦郡の小松島町の南部にある大字芝生の南端、土佐街道の東側路傍、田の中に孤立せる岩山にて海拔三〇米。東北より西南に走る橢圓形の丘陵にて、徑二〇〇米、義經の傳説的遺跡として有名な山なり。壽永の昔、源義經が讃岐屋島に籠れる平氏を奇襲せんとして攝津渡邊の浦より出帆し、風浪を冒し阿波國尾子ノ浦(現在の小松島附近)に上陸の上、この山上に白旗を懸すと傳ふ。但しこれは傳説にて、元來の旗山を旗山に附合せしものなり。

ハタ 羽田村 若手縣陸中中國江刺郡の西南部。北上川の左岸に沿ふ。岩谷堂町の南約二軒、西は北上川を距て、膽澤郡眞城村・姉妹村に相對す。面積一・三一方軒にて本郡最小の村。東部には北上

ハタ 波多江 福岡縣糸島郡にありし村。昭和六年に加布里・前原町と共に

ハタオカ

ハタオカ 畑岡 〔畑岡村〕 青森縣陸奥國南津輕郡の西北部。弘前市の北方約九軒。北及び西北は北津輕郡、西南は中津輕郡に隣接す。面積一〇方軒餘。津輕平野の略中央に在りし全村概ね平坦なり。岩木川は西南部を北流し、その支流河内を貫流せり。米・林檎の産多し。道路は西部を南北に通じ、北方の五所川原町、南方の省線奥羽本線川部驛へはバスの便あり。また省線五能線通じ林崎驛(昭和十年設置)あり。

ハタオカ 機織 秋田縣山本郡榑村の大字。省線奥羽本線の機織驛(明治三十四年設置)あり、省線五能線の接續點。

ハタカ 半高 愛知縣碧海郡にありし村。明治三十九年に外三箇村と共に廢され、新たに依佐美村を置く。

ハタカ 畑賀村 廣島縣安藝國安藝郡の北部。船越町の東北に接し廣島市の東方約三軒にありて北は安佐郡に界す。北境より西境にかけて吳坂々字山(六八二米)の山地東北より西南に連りて村境を

ハタオ

ハタカ

ハタカ 波多江 國東半島の南部。大分縣西國東郡朝田村と遠見郡北杵築村の境上に跨る。峠上よりの展望佳なり。

ハタカ 秦川村 滋賀縣近江國愛知郡の北部。愛知川町の東方約一軒に在り、北は犬上郡に界す。略西北より東南に細長し。東部は鈴鹿山脈西麓の山地にして約六―七百里の山脈は東境に西北より東南に連りその西斜面を占む。西部は平坦なる一帯の沃野なり。農業を生業とし米多を産し特産物として生姜・山芋を産す。西部低地に幾多の縣道縱横に走り、社線近江鐵道豊郷驛は西北方約〇・五軒にして交通の便よし。この地は和名抄、愛知郡波野郷に當る。〔輕野神社〕 大字岩倉に鎮座。縣社。祭神、袁那本主。相殿に彦坐王、合祀に七神を祭る。彦坐王は開天化皇の第三皇子にて、崇神天皇御宇に四道將軍の一人として西海に赴かせ給へる丹波道主命なり。袁那本主は、

の命の第五王子に當る國造たりき。當社は此地に住せし祭神の子孫がその祖神を鎮座せしものなるべし。式内輕野神社に擬せらるるも明かならず。貞觀五年に從五位下に進む。佐々木高頼の裔光頼の當地を領するや當社を鎮守とし、その崇敬は三世の孫實綱まで續き社運隆昌なりしが、安孫子城滅亡の際に兵火に遭ひ社殿・舊記悉く灰燼に歸す。萬治三年勸修寺宮良尚法親王は特に當社を崇敬され、また寛文五年八月には安孫子左衛門尉正令・同志庵允義寛は永代の献湯料として神田の寄進ありて社運再び振ふ。なほ當村大字北波野にも輕野神社ありてその起原を同じうす。明治四十二年に氏子區内なる村社・無格社十餘社を合祀し、近年縣社に昇格す。例祭、四月二十日。〔輕野神社〕 大字北波野に鎮座。郷社。祭神、袁那本主・彦坐命外合祀九柱。創祀年代詳かならざるも、開化天皇の皇孫なる袁那本主が當國の國造として此地に住み給ひしかば、その裔後社殿を建て、命を祀りしものなるべし。式内輕野神社に擬せらるるも定かならず。命の裔なる穴田王・熊取王・徳萬王も此地に住せし故に御名は今なほ地名として残る。建武年間七堂伽藍を建立し社僧奉仕して甚だ盛なりしも、天正年中に社僧織田氏に抗し、僞に社殿堂塔を焼亡せられ、それより社頭頽廢して舊觀存せざりしが、明治六年漸く復興す。なほ當村大字岩倉にも

同名神社あり。例祭、四月二十日。〔安孫子神社〕 大字安孫子に鎮座。郷社。祭神、天稚日子命。佐々木氏の幕下にて當領主たる安孫子氏代々の尊崇篤かりし社。例祭、四月廿日・九月廿五日。〔春日神社〕 大字目加田に鎮座。郷社。祭神、天津兒屋根命。古社なりと傳ふ。鎌倉以降佐々木氏の臣、目加田氏代々の崇敬篤かりし社。例祭、四月十六日、十月十日。〔大行社〕 大字松尾寺に鎮座。無格社。祭神、高皇產靈神。寛正四年の創建と云ふ。沿革不詳。明治維新までは當村の古刹金剛輪寺(天平十三年行基の開創にて俗に松尾寺と云ふ)の境内にありて、その守護神たり。社殿中、本殿は國寶なり。例祭、四月二十日・九月十六日。〔金剛輪寺(松尾寺)〕 大字松尾寺にあり。天台宗。松尾山。寺傳に據れば天正九年聖武天皇の勅願によりて行基これを開創す。時に金剛輪寺の勅願並に寺領を賜ふといふ。當時寺領三千石を有し坊舎堂を築立せりといふ。嘉祥年間圓仁これを中興し寺勢大いに振ひしが、近世稍々退轉す。本堂を始め阿彌陀如来像(木造)二軀・十一面觀音立像(同上)一軀、他十二點は國寶に指定せらる。〔常照院〕 大字松尾寺にあり。天台宗。村内の金剛輪寺塔頭。彦根藩主木俣幹二の祖木俣清左衛門の本願にて創建すと傳ふ。阿彌陀如来坐像(木造)一軀は國寶。〔明壽院〕 大字松尾寺にあり。天台宗。俗に松尾廿茶寺と稱す。

村内金剛輪寺塔頭。大黒天半伽像(木造)一軀は國寶。〔矢取地藏堂〕大字岩倉にあり。狩野庄傳記に、檢非違使五位上平師道の此地に地藏を建立せしに始まる。時に飛亂ありて師道既に敗北せんとするや、小法師の出現ありて矢を拾ひ取り戦捷を得るの奇瑞あり、依りて爾來、矢取地藏と稱し、同氏累代の祈願所となす。本尊地藏菩薩立像(木造)一軀は國寶。

ハタガワ

旗川村 栃木縣下野國安蘇郡の南部。佐野町の西北隣にて、東は堀米町と隣し、西は足利郡の一部と隣す。面積五・八六方軒。全村平地にて、西境を旗川南流し、水田多く、米を主産す。その他麥・蕎麥の産あり。縣道は堀米町・佐野町に通じ、佐野町に省線兩毛線佐野驛、堀米町に社線東武鐵道佐野驛堀米驛を置く。この地は往昔、佐野氏の番城を置きし所にて、義人、田中正造の生地たり。正造は十九歳にして領主六角家の施政の非を鳴らし退放せられ、爾後、國事に奔走し縣會議員となり、縣令三島通庸の施政に反對し縣民の慘狀を訴へ下獄。出獄後衆議院議員となり、足尾銅山鑛毒問題に關し幾度か渡良瀬川鑛毒流下の被害慘狀を訴へ、政府の對策を提議せしが卻けられ、明治三十二年村民大擧して上京警官と衝突、多くの犠牲者を出せり。三十四年遂に直訴を行ふ。終生治水に盡し大正二年七十六歳にて歿す。

ハタカン

社 臺灣花蓮港海郡

の境内に祀る。其後、元武神社・喜時雨神社と改稱、明治四十二年に現社號に改稱す。同三十九年十一月、同村の八社を合併す。例祭、四月二十六日。

ハタソメ

機初村 茨城縣常陸國久慈郡の東南部。太田町の東北隣にて、東北は多賀郡の一部と隣す。阿武隈山脈一支脈の西斜面を占め、東境は約三五〇米あり。西南部は山裾の平地をなし、久慈川の支流里川南流す。農業行はれて、米・麥・大豆を産し、特産物には煙草・干瓢あり。縣道太田町に通じ、同町には省線水郡線常陸太田驛及び社線常陸北電氣鐵道常陸太田驛を置く。この地は和名抄、久慈郡太田郷の内なるべし。崇神天皇の御代、長幡部の遠祖多豆命、美濃國より機織の具を携へて此地に來り給ひ、機織を運りて初めて機織の技を地方の民に授けらる。村名を機初といふは蓋しこれに因る。而してその織り給ふところの服は自ら衣裳と成り更に裁縫を要せず、之を内幅と云ふ。現に郷社長幡部神社は多豆命を奉祀す。大字三歳には諏訪神社あり。康平五年源頼義の次子義綱、奥州下向の際この地に留まること三年、その時に信濃の諏訪明神を勧請せるもの。地名はこの三歳に因むといふ。また大字田渡は佐竹義隆の居りし處といふ。(長幡部神社)大字幡に鎮座。祭神、多豆命。式内小社。源頼義は當社に戦勝を祈り、凱旋の途次鹿島・三島・伊勢・宇佐八幡

ハタソメ

ハタソメ

にある蕃社。タツキは溪左岸三維山西南方の山腹標高約四五五米の地に位し、約六十年前に形成したるアマール族のタロコ蕃より成る高砂族の部落なり。その昔イタバンツワイ一族四戸三十二人は勢力範圍の擴張を企圖し、當時彼等の生活必需品中、食鹽及び火薬類取得の便なる海岸地帯を求めて三角維山を横斷し、當時の先住蕃を驅逐し占據せしものなり。

ハタキ

八多喜 豫讓本線の一驛(大正七年設置)。愛媛縣喜多郡栗津村にあり。

ハタケチ

島口村 熊本縣肥後國飽託郡の西部。熊本市の西南方約五軒にして島原海灣に臨む。面積二・五八方軒の小村。地形低平にして西部沿岸には耕地開く。農産を主とす。附近町村へは村道走る。並建村・白石村・濱田村と共に組合村をなし、役場を並建村に置く。

ハタケ

畑 秋田縣仙北郡の荒川・峯吉川の二箇村に跨る重要鑛山。鑛區は四十萬餘坪にして、昭和九年には金銀鑛一二九處を出す。現在は三菱鑛業會社の經營たり。

ハタケ

畑 秋田縣仙北郡の荒川・峯吉川の二箇村に跨る重要鑛山。鑛區は四十萬餘坪にして、昭和九年には金銀鑛一二九處を出す。現在は三菱鑛業會社の經營たり。

【畑鑛山】新潟縣岩船郡關谷村と山形縣西置賜郡南小國村とに跨る銅山。鑛區五十五萬六千坪あり、重要鑛山に屬す。地質は主として凝灰岩・凝灰質砂岩・同角礫岩の互層より成りその下部に黑色頁岩層あり、鑛床は之等の堆積岩中に胚胎せる

の四神を勧請し四所明神と稱せり。の水戸藩の領有となるや、烈公齊昭神符を奉納する等歴代領主の崇敬厚く、社殿の造營はすべて藩費を以てす。例祭、五月九日。

ハタダ

畑田 香川縣綾歌郡にありし村。昭和四年本村及び千疋村を廢しその地域を以て昭和村を建つ。

ハタチ

畑地村 愛媛縣伊豫國北宇和郡の南部。岩松町の南に接し、西は豊後水道に近く、最も近き所は〇・五軒餘にて海岸に出づ。積西北より東南に長く南部は更に東方へ長く延び南境は東宇和郡と界す。南境には東西に連る山嶺ありて中央に觀音岳(七八二米)聳ゆ。觀音岳より東北方に連る山地は東南部の北境をなし、南境山地との間に松田川發して東北流す。西半は南境の山脈が西北方へ傾斜して南部・中部を埋め、西北部丘陵との間に小河北流して小低地を造る。河川は岩松町を流れて海に注ぐ。産物には米・蕎麥多く麥の産もあり。西北部の低地に沿ひて岩松町より來る縣道西南に走り西境中央より海岸に出づ。村内に餘田瀧あり高さ二〇米、幅七米。

ハダチ

羽立 船川線の一驛(大正四年設置)。秋田縣南秋田郡船川港町にあり。

ハダツ

波多津村 佐賀縣肥前國西松浦郡の北部。伊萬里町の北方約四軒にして、西は海峽を隔て、伊萬里灣口に横は

脈狀の交代鑛床にして三條あり。鑛石は主として含銀銅鑛なるが外に硫化鐵鑛及び少量の閃鋅鑛を伴し、脈石は石英を主とす。現在採行する坑道は中切坑・光盛坑・大盛坑・大切坑の四坑にて昭和十年には銅鑛二一〇〇噸、この價額八萬餘圓を出し、また同年六月末の鑛夫數は一〇三人とす。本鑛山の發見は明治初年にして鑛山名は關谷村の大字名に因む。なほ本鑛山は米坂西端越後片貝驛の東方約四軒にあり、物資の運搬は驛と鑛山間の架空索道に依る。

ハタケサコ

畑迫村 島根縣石見國鹿足郡の西部。津和野町の西に位し、西・南は阿武郡に隣す。北部に須郷田山、西南隅に十種峯の高峯聳え村内は概して高距三・四百米の高臺狀の山地をなして平地乏し。東北部に一條の谷ありて東南の方向に開き、その谷を津和野川の上流屈曲しつゝ、東南に流れ、流域には耕地ひらけ、農業行はれて米・麥・甘藷・茶・蕎麥を産す。山地は牧場をなす所多く牝牛を牧畜し、また森林よく繁茂して木材・竹材・木炭等の産少からず。其他、養蠶業・蜂蜜採取等の業も行はる。東南部を省線山口線走りトンネル多し。河谷を傳ひて縣道東南より西北に走る。もと喜時雨河と云ひしが明治二十四年畑迫河と改む。〔笹ヶ谷鑛山〕當河と本村何とに跨る重要鑛山。鑛區九十七萬餘坪にして附近は山岳重疊たり。鑛種は金銀銅鉛鋅硫

ハタケ

畑 秋田縣仙北郡の荒川・峯吉川の二箇村に跨る重要鑛山。鑛區は四十萬餘坪にして、昭和九年には金銀鑛一二九處を出す。現在は三菱鑛業會社の經營たり。

る福島に對す。全村標高山地にして地形東北部及び東南部に高し。沿岸は小平地をなし屈曲多し。前面には福島を始め長崎縣北松浦郡福島村に屬する幾多の島嶼散點し、老松生ひ茂りて碧波に映ずる景観は宛ら陸前の松島を見るが如し。米・麥・蕎麥を産し、また水産・林産あり。東北方唐津町と伊萬里町とを結ぶ縣道西部を走り、また海上舟運の便あり。本村は明治三十四年大岳村を現村名に改稱す。蓋し村名は大字畑津に因む。

【畑野村】新潟縣佐渡國佐渡郡の中部。國中平野の南縁に位す。兩津町の西南約八軒。東北は新穂村に、西は金澤村・八幡村に、西南は眞野村に隣接す。面積五一・三四方軒の大村。南東境に小佐渡山脈の分水嶺連り、小佐渡山脈の主峰天地山(六四六米)を始め小倉峠(四〇五米)・經塚山(六三六米)・飯出山など聳ゆ。山脈は南東には急傾斜をなすも、本村側の北西には傾斜緩く、山麓の洪積臺地に續く。西北部は沖積地にして土地低平、國中平野の中心をなし、本村耕地の大部分はこゝに發達す。小佐渡山脈に發源する小倉川・長谷川はほゞ北西に並流し、西北部を西南に流るゝ國府川に注ぐ。〔中の國中米どころ〕の國中平野の沃野に恵まれ、農業を専營とする者最も多き農村にて、新穂村と共に佐渡にても富裕なる農村として知らるるのも本村は寧ろ新穂村を凌駕す。水田九七〇餘町歩・畑二〇〇町歩。米作最も盛にて産米高は二萬石以上に及び、その半ば以上は東京・新潟方面に出す。なほ副業に蠶工業全村に普く

ハタノ

波多野村 奈良縣大和國山邊郡の東北部。名張川に跨り三重縣名張郡名張町の西北約三軒。西北は添上郡に接し東および東南は名張郡に圍まる。全村一帯に丘陵起伏し、東南方より來る名張川は本村の東南部に入り、東北に村境を曲流して添上郡に出づ。蕎麥の産多く米・麥の産もあり。西方の丹波市町・東北方

ハタノ

ハタノ

行はれ、山地一帯には木炭業盛んにて殊に小倉川上流の小倉炭は良質を以て知られ新潟に送り出さる。外に商業・養蠶業・醸造業も漸次産額を増しつゝあり。主要産物は次の如し、米(七六一千圓)・麥(四千圓)・蠶工品(四四千圓)・竹細工(二千圓)・食用農産物(二〇千圓)・園藝農産物(二八千圓)・工業農産物(九千圓)・林産物(二五千圓)等なり(以上数字は昭和十二年)。國中平野には道路よく發達し、その主幹線國中線は山麓に沿うて走り、一時間ごとに兩津・前野間のバスを通じ、宇三宮より八幡村に通ずる三宮線、宇野野より小倉峠を越え松ヶ崎村に至る多田線、宇目黒町を経て金澤村に至る目黒町線の縣道を分つ。村内に石器・土器を出す所あり、また蝦夷塚と稱するもの所々にあるより見れば、先史時代先住民の棲息せしを知るべし。天平勝寶四年十月の東大寺諸國封戸帳中に越後國維多郡播多郷(天平十五年二月佐渡國を越後國司の管轄に屬せしむ)と見え、和名抄には佐渡國維多郡八多郷とあり。また延喜式所載の當國九社の内四社までが本村中に祭祀せらるゝを見れば、古くより文化の開けし地なるを知るべし。明治二十二年、町村制實施の際には畑野村・小倉村・栗之江村・三宮村・國仲村に分れ、が、明治三十四年合併して現在の畑野村を建つ。いま村内には縣立佐渡農學校あり、また名所舊蹟頗る多し。「物語神

社」大字小倉に鎮座。縣社。祭神、宇摩志摩治命。社記によれば、天平四年、物部氏の後裔穗積朝臣老に當地に配流せられ、小祠を建てその祖の宇摩志摩治命を祀りて無事赦免の日の到來を祈願す、これ當社の創始と云ふ。延喜の制小社に列し神位從五位下を授けらる。例祭、四月十三日。因に穗積朝臣老は、元正天皇の養老六年乘輿を指斥するの罪に坐し斬罪に處せらるべきを、皇太子の奏により死一等を減じて佐渡に流さる。居ること十九年、天平十二年六月大赦に逢ひて歸洛す。「飯持神社」大字河内に鎮座。郷社。祭神、保食神。相殿に應神天皇外四柱を祀る。創祀年代詳かならざるも延喜の制小社に列す。承暦四年六月御卜に飯持神の崇あるを以て社司に申成を科す。元文四年三月社殿の再建あり。其後の沿革不詳なるも古來當村の産土神として崇敬あり。例祭、春の社日。「一宮神社」大字宮浦に鎮座。郷社。祭神、島照姫命。祭神は順德天皇の當國に遷幸後に生れ給ひし第一皇女にして、嘉祿元年御降誕、慶子宮と稱せらる。御歌をよくし給ふ。弘安九年に遷じ給ふ。御年六十二。のち土人祠を建て、祀り、一宮明神と稱す。例祭、陰曆三月三日。社の近傍の大字後山幸崎に慶子女王御墓あり、墓域に松の巨樹あり、土俗これを幸崎松と稱し、近江なる幸崎松に擬す。慶子女王の御歌と傳ふるものに「松あれば佐渡の嶋なる幸

崎もしかすかにこそ見まほしけれ」あり。一宮神社邊の一帯はもと山吹の名所にして山吹里と云ひしも今は御墓の近傍に僅にその名残を留むるのみ。慶子女王の御妹君忠子女王の來訪されし時の御歌に「またも見ん殿がいほはた織橋のなりなわすれそ山吹の里」あり。また社に近く眞言宗の慶宮寺あり、古へは一宮神社の別當職にして郡の名利とす。「越後神社」大字嶺八にあり。村社。式内社。祭神、大日靈命。或はいふ大彦命。「三宮神社」大字三宮に鎮座。郷社。祭神、成島親王。親王は順德天皇この島に遷りましてより生れ給へる第三皇子にして嘉祿三年の御降誕、千歲宮と申し奉る。建長六年十八歳にて薨じ給ふ。御年十八。その祀後、親王大明神・三宮大明神と云ひしが、明治維新の際に現社號に改む。例祭、陰曆九月九日。近傍に親王の御墓あり。また境内に石器時代の遺蹟三宮貝塚あり。「御食神社」大字後山に鎮座。村社。式内社。祭神、天御食持神。現在の社殿は寛延三年の修築に係る。「加茂神社」大字栗野江に鎮座。郷社。祭神、別當命。相殿に健甕名方命を祀る。二條天皇永曆元年山城の賀茂社より分祀せるものと傳ふ。爾來、當村の産土神として崇敬せらる。もと加茂大神宮・賀茂明神とも云ひ、元祿七年幕府より米八石一斗餘、除地田一町七反餘を寄進、天明四年正一位の神位を授けらる。例祭、四月十

五日。「安國寺」大字安國寺にあり。曆應年中、足利直義の奏に依り五畿七道に安國利生塔を營みし臨濟禪院の一なり。初め畑野村大字竹田にありしを何時の頃にか此地に轉じたるものといふ。「長谷寺」大字長谷にあり。新義眞言宗豊山派。大同三年に空海は行基草創の養禪寺址に一字を興し、其後、圓仁の草せし長樂寺を併合せしもの。十一面觀音立像(木造)三軀は國寶なり。境内に明和免租運動の責を負ひ死罪となりし長谷寺中遍照坊の住職知専の供養塔あり。「御梅堂」大字小倉にあり。日蓮上人この地に一宿し、鎌倉依智なる星降の梅が枝を挿し置きしに自ら根を降し枝葉を繁らせりと傳ふ。現在の堂は寶曆中、法華信者の建立せるもの。「本光寺」大字後山にあり。日朗山と號す。日蓮上人教免の時、日朗の上人教免狀を携へ來り一宿せる舊跡あり。境内に開運石、一名教免石及び日朗袈裟掛松の遺跡あり。附近に日朗坂あり、日朗疲勞のため行倒れ居りし處といふ。「文覺上人修法の遺蹟」大字大久保眞禪寺に文覺の墓と傳ふるものあり。附近に那邊久羅の瀧あり、文覺上人修法の處といふ。文覺は遠藤武者所造遺法の名、盛遠は北面の武士なりしが、源渡の妻袈裟御前を誤りて殺すに至り、遂に發心す。源賴朝の寵を恃み後鳥羽天皇を廢し、皇兄守貞親王を位に立てんと圖りしが、賴朝薨去の後に不韜の罪置られ、土

御門天皇の正治元年佐渡に流され、此地に死せりといふ。然しそれは誤りにして建仁二年十二月赦されて京都に歸り、後また對馬に流され彼の地に終る。前記文覺の墓と稱するは恐らく此地にあつて歿せる徒弟の墓若くは文覺の供養塚の類なるべし。「安藤姫傳説」永保年間奥州岩城山の領主岩城朝臣筑紫に左遷さる。二子あり安藤姫・津志玉丸といふ。母に隨ひて父に會はんとし越後直江津を過ぎしとき、人賣に欺かれて、母は佐渡の鹿浦(高千村)に來り奴婢となり、二子は丹後由良港の山椒太夫に賣られ隨使唐待に堪へず、安藤姫は弟を逃れしめしが、自らは拷問されて死す。津志玉丸は遂に京都に上り訴願して父の冤罪を雪ぎ、丹後の守備將となり、佐渡に渡り母を伴ひて歸るといふ。而して俗に安藤姫は丹後に死せりと云ふは誤にして佐渡に渡り本村の地にて死すといふも如何にや。いま村内に安藤塚なるものあり、或書に云、今も畑野村某が屋敷内に往古よりの言傳へに安藤塚と云あり、寛政年中地主某、塚の邊りを掘穿ちしに丸鏡一面、細き簪様なる物あり、是れ正しく安藤の所持の物に疑ひあるべからずと秘め置き、その塚の上に小社を建て彼我が地尊と崇む云々。

【畑野村】京都府丹波國南桑田郡の西隅。龜岡町の西方約九軒にあり。北は船井郡に接し西・南は大阪府豊能郡に圍ま

る。北境・西境・南境には約七・八百米の連嶺連り中央に東方に開く谷あり。米を主とする農産及び林産あり。龜岡町へ道路り走途中よりバスの便あり。「法常寺」大字千ヶ畑にあり。臨濟宗妙心寺派。大梅山。後水尾天皇、一絲文守(佛頂國師)に御歸依あり、靈源院を建て、住せしめ給ひしが、寛永十八年舊殿及び御門を賜ひて本寺を創建し一絲を開山とす。爾來香華院として皇室の御崇敬を受け、御由緒寺院として殊遇を蒙る。國寶、後水尾天皇宸筆一絲和尚山居詩並に御次韻和歌一卷。

【幡野】 秦野 大阪府豊能郡にありし村。昭和十年本村及び池田町・細河村・北豊島村を廢しその區域を以て池田町を建つ。

ハタノ——ハタノ

ハタノ 幡野

【幡野村】 秋田縣羽後國雄勝郡の北部。湯澤町の西北に接す。面積七・二六方

ハタノ 秦野町

三十九年に本村は一村を廢し幡山村を置く。

ハタノ オカサキ

書紀神武紀に見ゆる大和國の古地名。己未年二月天皇土蜘蛛新羅城戸と稱するものを誅し給ふ。その地いま詳かならざるも、奈良縣生駒郡郡跡村大字五條に赤麻山あり。恐らくはこの丘ならんか。

地名。和名抄に下道郡泰原郷あり、波多八良と訓す。その地今の吉備郡泰原村に當る。

ハタフ 幡生 下岡の町。省線山陽本線及び山陰本線、社線山陽電氣鐵道の幡生驛(明治三十四年設置)を置く。

ハタヤ 畑八村 長野縣信濃國南佐久郡の西部。千曲川上流左岸、支流大石川との合流點を占む。白田町の南方約五軒にして、西南は山脈を境に諏訪郡に隣接す。西南境に八ヶ嶽火山群の茶臼山(二三八三米)・鶴ヶ山(二二九五米)聳え、東北にわたる裾野を展開す。大石川は東・南境を流れ東北境を北流する千曲川に合す。一帯に草原多く池の平牧場を初め、牛・馬の放牧盛なり。また森林も多く製炭業行はれ、東部の聚落は養蠶に主力を注ぎ、木炭・繭は村の主産物なり。河岸を佐久甲州街道貫通し、對岸の省線小海線の佐久穂積驛(穂積村)へ一軒餘、榮村へ約三軒バスの便あり。本村は畑村・八郡村を合併し、畑八村と名づけしもの。

ハタヤ 畑屋村 秋田縣羽後國仙北郡の南部。大曲町の東方約六軒。南は六郷町に接す。東境は海拔五六八米にして、西方に傾斜し、村の東半部は山地をなすも、西半部は横手盆地に属して平坦なり。米・野菜等を産す。道路は平野の中部を南北に通じ、自動車の便あり。西南方奥羽本線飯詰驛(飯詰村)へは約五軒、

ハタヤ 幡屋村 島根縣出雲國大原郡の北部。加茂町の東北に隣り、北は八東郡來待村に接す。北境に八十山(四一〇米)聳立し、山腹は南西に延び裾は山地をなす。南部を斐伊川の一支赤川西北流し、八十山の山地より出づる小流は中部を西南に流れ、赤川に注ぎ沿岸に低地ありて田畑開く。縣道は東北部を掠め、南部赤川沿ひにも縣道ありこの兩縣道を結ぶ街道は小流に沿うて走る。また省線木次線も南部を通じ幡屋驛(大正七年設置)を置く。此地は和名抄、大原郡屋裏郷の内なり。(長谷寺)大字三代にあり、曹洞宗。興福山と號す。養老五年の創建なり。中古火災に罹り舊記・靈寶を失ふ。往昔舊宮宗なりしが、のち現宗に轉ず。佛殿に安阿彌作の虚空藏菩薩を安置す。境内三面は山に囲まれ、前に斐伊の大河ありて風塵を洗ふ。(長泉寺)大字南加茂にあり。臨濟宗妙心寺派。護國山と號す。開基は元應元年左近將監藤原兼政たり。もと天台宗なりしが應永年中大通和尙禪利に改め、靈巖和尙之を再興す。

ハタヤ 畑山村 高知縣土佐國安藝郡の西部。井ノ口村を隔てて安藝町の北に位し、西より北は香美郡に隣接す。山村にして峻嶺重疊す。東境には山脈東北々より西南々に連り、北境にも五位ヶ森(一一八五米)聳えて山脈東北より西南に延びて村境を限る。西境の中央より東南方へ連る山脈ありて次第に高さを減じ

て中央に蟠り、西南部にも同方向の山地ありて、西南境に三辻ヶ森(六七四米)あり、漸次南方へ下る。北部に發する畑山川は迂曲しつゝ、南流し、西部に發して東南流する支流は東南部にて之に合し南方約六軒にて上佐禰に注ぐ。米・繭・生繭・果實・蔬菜・花卉・三椏・麥・食用農産・木炭等の産あり。東南部には河谷に沿ひて縣道通じ安藝町に連絡すれども他は交通不便なり。

ハタヤ 幡山村 愛知縣尾張國愛知郡の東北部。瀬戸市の南に接りし、東南は三河國西加茂郡に境す。猿投山の山腹北境及び東南境を走り、中部に東西に狭長なる盆地を形成す。矢田川は北隣瀬戸市の山地に發源してこの低地を西流す。低地面積は狭小なるも、水田よく拓けて米の産多く、傾斜地には桑園よく拓けて養蠶業盛んに行はれ、繭の産多し。城内は鐵道通ぜざるも瀬戸市及び名古屋市へ夫々バスの便あり。この地は和名抄、山田郡山口郷の内なり。明治三十九年、山口村・幡野村を廢し新に本村を置く。本村の地は長久手村・日進村と共に長久手鎮山の鎮區をなす。同鎮山は本邦屈指の亞炭山にして昭和十年には九三七四噸を出し、現に重要礦山なり。(八幡社)大字山口に鎮座。郷社。祭神、神功皇后・品陀和氣命・多紀理比賣命等五柱。もと山口神社と稱し、本國神名帳に「從三位山口天神」とあるものこれなりといふ。

の南岸なる段丘上に八王子の聚落を決定す。而して市域は概ね西南より東北に向つて漸次低くなり、標高は西端に於て一、二六米、東部に於て約一〇米を示す。前記淺川の本支流は沿岸に扇狀沖積地をつくり、河成段丘の發達著しく、なほ多量の砂礫を運搬堆積して盆地及び侵蝕河床を埋むるにより水量は大ならず、かくて市の西北方には潤河式の河床多く存し、河水は潜行下流に向ふを以て、水田は多くは谷頭に自然湧水を利用して發達し面積大ならず。氣候は東京市内に比して氣温較差や、大きく、氣温の年平均は一二・五度、一月二度、八月二度、降水量一七六四毫にして、風は一三月及び十月十二月は北西風卓越し、五月九月は南東風多く、強風季にはローム層の露に多量の黄塵を飛散す。産業は工業を主とし、商業・農業等これに亞ぐ。市の生産總額は二千萬圓を超え、工産額はその九九%弱を占む。農業戸数は二七一戸を數へうち六割強は純小作をなし、耕地

例祭、九月十六日。
ハタラ 幡羅 埼玉縣武藏國大里郡の中部。深谷町の東隣にあり。全村平地にて農業行はれ、米・大麥・小麥・大根・西瓜・南瓜・胡瓜等を産し、養蠶行はれて繭の産多し。中山道は村の中央を西走し、省線高崎線また之に並行するも村内に驛なく、深谷町に深谷驛ありてバスを通ず。此地は和名抄、幡羅郡幡羅郷の内なるべし。(榆山神社)大字原ノ郷に鎮座。縣社。祭神、伊邪那美命。もと熊野社と稱せしも、實は延喜式内の小社榆山神社にれなりといふ。古來郡の惣領守として崇敬せらる。例祭、十一月一日。(熊野神社)大字東方に鎮座。郷社。祭神、伊弉冉命・速玉男命・事解男命等七柱。領主岡谷・秋元・松平氏の崇敬あり。別當を彌勒院と云へり。

ハタラ 馬灘江 朝鮮平安南道を流るの河。大同江支流。上支凡て三あり、何れも北大峯山脈の西斜面に發源す。即ち艾倉江は孟山郡の北隅なる熱峰(一五九五米)に發して西南流し、東面江は孟山江とは同郡東南部・山中に發し共に北流して孟山邑北方にて合し、これは艾倉江と鐵龍山(一〇九五米)の西北麓にて相合し、次いで西北流して徳川郡に入り、寧感・徳川の兩邑の中間に於て大同江に入る。流程約四〇軒。

面積約一四〇ヘクタール中、田と畑とは凡そ一對三の比にて、米・大麥・小麥・甘藷・馬鈴薯等を主産し、米は陸稻や、多し。市街の周邊は丘陵又は傾斜地に平地を交へ、排水よろしき砂質壤土より成るを以て、養蠶は古來盛行はれ、之を主業となす者多く、本市は謂ゆる關東山麓養蠶地帯の中心をなす。市内の桑畑は面積約二七ヘクタールあり、蠶三千三百貫を出し、其他蠶種・桑苗を産す。其他農家副業には眞綿・製茶・養蠶・花卉栽培などあり、鶏卵約二萬圓を出す。牧畜は殆ど見るべきものなし。工業は織染工業を第一とし産額一八二三萬圓、之に次ぐものは食料品工業(一〇五萬圓)にして清酒・製氷・菓子等を主なるものとし、其他紡織機具等の機械器具工業(三六萬圓)・製材及木製品工業(二二萬圓)・瓦斯電氣工業(四萬圓)・鑄物(三萬圓)等行はる。紡績工業は即ち市の生命にして、沿革甚だ古きも、その漸次勃興せるは慶長八年政權が江戸に移りし以來とし、明治維新後特に隆昌を來し、戦争毎に一大躍進を遂げ、附近に繭の豊産地を擁すると、大消費地たる京濱地帯に近接せるとにより、八王子織物は品種の増加に、品質の向上に、嶄然頭角を現はし、關東五大織業地の一となるに至れり。もと純粹の家内工業に出發せる此地の織業は、漸次工場工業化し、製練・染色・張絲・整理・仲買等と益々分業化するに伴ひ、工場は

ハチ 反治 上野國(群馬縣)の古地名。和名抄に佐位郡反治郷あり、その地今の佐波郡碓氷村の邊か。

ハチイツ 八乙面 朝鮮咸鏡北道會寧郡の北東に位置し、郡邑會寧の東に隣す。北・東・南の三面山地を以て圍繞し西境僅に開けて豆滿江に臨む。即ち、北境には西嶺峯・入道峯(六八〇米)・山城山、東境には鶴峯、南境には小豊山等聳え之等諸山に發源せる水は中央に集り八乙川となりて西流し會寧邑の北を流れて豆滿江に合す。八乙川沿岸に稍小低地散在するも地味瘠薄、加ふるに灌溉の利乏しく農産物豊かならず。物産は大豆を第一とし、粟・馬鈴薯・燕麥・稗・木材・石炭等なり。鐵道北鮮西部線は豆滿江に沿ひ北上し、新會寧・金生の二驛(大正九年設置)あれども、その位置偏在せるため直接便に浴する事少なし。道路は二等道一路は會寧より西縁を北上して鍾城に達し、一は會寧より城内に入り北東に向ひ斜斷し沙乙峠を経て行營に通ず。之等は改修良く行はれたるも坂路多く交通便ならず。聚落密度極めて疎なり。山城山南麓一帯は陸軍演習場を成し、獎武洞には陸軍演習所廠舎あり。金生は對岸間島と商取引あり、附近に竹浦・弓心の兩炭礦、驛より半軒に古刹白泉寺あり。對岸には有名な間島富士堂あり。

ハチイン 八院面 朝鮮平安北道寧邊郡の西部。郡邑寧邊の北西に隣接す。東は清川江の支流九龍江によりて古城・寧邊の諸面と相隣り、北境には五峰山(五九三米)・香積山(七八二米)等聳ゆるも漸次南方に向ひ傾斜し、各所に小盆地を見、南部一帯は土地極めて低平にして主要農業地帯を成す。住民は専ら農・蠶業に従ひ、婦人は機械に従事する者少ならず。産物は米・粟を主とし大豆・黍・棉花・明細・牛皮等とし、東部に三營砂金礦・富殷鎮山の鐵礦の各一部あり、砂金及び金・銀を出す。二等道路南北に縦貫して西南方博川、北方雲山に通じ、寧邊より泰川に通ずる三等道路東西に横斷して之と交叉し、何れもバスの便あり。聚落は中部及び南部に多く、南部の天陽洞は主邑をなす。

ハチオージ 八王子市 東京都の西部。東京市を距る三十餘軒に位する三多摩の中心都市にして、機業の中心地。南多摩郡のほぼ中央に介在し、北は小宮町、東は七生村、西は元八王子村・淺川町、南は由井村・横山村に境す。東西四・七軒、南北二・三軒、面積七・三〇方軒。人口約六萬。南には古く多摩の横山と號はれ、横山丘陵(多摩丘陵の一部)横はり、北には川口丘陵、西には下長房丘陵・元八王子丘陵起伏す。此等の關東ロームより成る丘陵に圍まる、八王子盆地には、武相國境附近に發源する北淺川と南淺川とが、多摩御陵の位置する十十里丘陵を挟みて東流し、その合流點

八王子市生産總額(昭和十一年)

農産物	49,011
畜産物	110,111
林産物	11,336
水産物	11,111
工業物	1,842,647
總額	2,081,526

面積約一四〇ヘクタール中、田と畑とは凡そ一對三の比にて、米・大麥・小麥・甘藷・馬鈴薯等を主産し、米は陸稻や、多し。市街の周邊は丘陵又は傾斜地に平地を交へ、排水よろしき砂質壤土より成るを以て、養蠶は古來盛行はれ、之を主業となす者多く、本市は謂ゆる關東山麓養蠶地帯の中心をなす。市内の桑畑は面積約二七ヘクタールあり、蠶三千三百貫を出し、其他蠶種・桑苗を産す。其他農家副業には眞綿・製茶・養蠶・花卉栽培などあり、鶏卵約二萬圓を出す。牧畜は殆ど見るべきものなし。工業は織染工業を第一とし産額一八二三萬圓、之に次ぐものは食料品工業(一〇五萬圓)にして清酒・製氷・菓子等を主なるものとし、其他紡織機具等の機械器具工業(三六萬圓)・製材及木製品工業(二二萬圓)・瓦斯電氣工業(四萬圓)・鑄物(三萬圓)等行はる。紡績工業は即ち市の生命にして、沿革甚だ古きも、その漸次勃興せるは慶長八年政權が江戸に移りし以來とし、明治維新後特に隆昌を來し、戦争毎に一大躍進を遂げ、附近に繭の豊産地を擁すると、大消費地たる京濱地帯に近接せるとにより、八王子織物は品種の増加に、品質の向上に、嶄然頭角を現はし、關東五大織業地の一となるに至れり。もと純粹の家内工業に出發せる此地の織業は、漸次工場工業化し、製練・染色・張絲・整理・仲買等と益々分業化するに伴ひ、工場は

ハチオ

愈々市内に集中せられ、市街の北裏及び南裏西部に工場町發達し、今日市民の生活にして直接間接に新業に關係を有せざるなく市の活氣は一に織物の商況に支配せらる。昭和十一年現在の市内機業場敷は絹織物及び絹交織物を合し五三八にして、手織機一、一臺に對し力織機五三〇二臺を數へ、職工數は男子九五〇、女子三三七八、計四三二八に達す。製品の大

紡織工業生産額内譯(昭和十一年)

Table with 2 columns: 製織 (Spinning) and 精練整理 (Refining). Rows include 絹織物 (Silk), 絹交織物 (Silk mixed), 絹組物 (Silk mixed goods), 絹織物 (Silk), 絹交織物 (Silk mixed), 絹組物 (Silk mixed goods), 絹織物 (Silk), 絹交織物 (Silk mixed), 絹組物 (Silk mixed goods).

部分に絹織物にして年産額一五九八萬圓あり、絹織物は全くなく、絹織交織物は未だ注目し値せず(一・六萬圓)。而して小絹物は一二七〇萬圓にして全體の八割を占め、うち銘仙及び縮着尺物と其他の着尺物は最も多く五八八萬圓、縮着及び壁の二六二萬圓、袴地の一四三萬圓、羽二重及び平絹の一〇九萬圓等これに次ぎその他御召(九六萬圓)、縮及び紗(七二萬圓)等あり、廣幅物は二二八萬圓にして縮絹及び壁の一八六萬圓を主とし、其他羽二重・縮子等あり。また染色・精練漂白及び整理の諸業も盛にして、染物業場は五一戸を數ふ。而して從來の八王子織物は概して男物に於て勝れたりしが、近來女物の著しき進出を見る。また年産産高は大戦末期の好況期に比し著しき減少にして、更に深刻なる不景氣により逐年減少を見るも、この産額の激減は産量の減少よりも、製品の市價低下に原因すること一層大なり、而して昭和十一年度に於ては前年に比し三五萬圓の増加を示

四四〇

せられ、商圏は市を中心として大體半徑一〇軒の圏内に存し、なほ黒八丈の産地たる五日市、青梅絹の産地たる青梅、川和絹の産地たる川和等とも取引を行ひたり。明治以後も八日市・横山町に各一箇所の織物市場ありしが、大正初年に至りて止み、現在は織物は買置商店に於いて毎週火曜・金曜に取引を行ひ、雜品は四・九の日に改めて交易せらる。其他、常設市場には毎日開市する青物市場二、魚市場三、及び花卉市場あり。省線中央本線は東より來り市の南部を東西に通過し小佛隧道を経て甲府方面に通じ、八王子驛(明治二十二年設置)より東京驛へ約一時間二十分にて達す。同驛より南へ横濱線、北へ八高線の各線が岐ち、また東京新宿と相通する社線京王電車線も地方的運輸に任じ、其他此處を起點として高尾山に至る武蔵中央電線及び京王線の多摩御陵前町の支線あり。道路は甲州街道市の中部を東西に貫き、自動車の往復繁く、なほ市を中心として西方上野原へ甲州街道、西北へ五日市街道、北方へ青梅街道、東北へ川越街道、其他神奈川縣の川和・原野田方面に出づる各街道あり、上家下・久保澤・五日市・原木・小倉・大久保・半原の各地にバスを通じ、交通極めて便なり。市の主たる官公署は市役所・税務署・少年刑務所・區裁判所等に於て、其他、府立染織試験場・市立養育院・市立図書館・商工會議所・府立第四

ハチカ

を施行し今日に至る。「富士公園」臺町南方の丘陵臺地にあり。大正十三年開設、面積四八三アール、運動場・射撃場・忠魂碑・大正殿等あり。大正殿は大正天皇の御喪に使用せし祭場殿を原形のまま移築せられたといふ。「明治天皇聖蹟碑」寺町にあり。高さ約三米。本市には明治天皇の御跡し給ふこと前後二回に及び、その第一回は明治十三年六月十六日山梨・三重兩縣御巡幸の時、第二回は同十四年二月十八日にして御殿崎附近御遊獵の時なり。兩日とも行在所たる谷合邸に御泊あり、大正十四年邸前の地に碑を建つ。「多賀神社」元本郷町上屋敷添に鎮座。祭神、伊弉諾命・伊弉冉命。もと高幸大明神と號せしが、寛政年間多賀大明神に、明治に至り多賀神社とす。例祭、八月十五日。「八幡・八雲神社」元横山町に鎮座。祭神・磐田別命・素戔鳴命。創立年代詳ならず。往古より兩社と稱す。足利將軍の崇敬ありし由を傳ふ。別當を大義寺と云へり。例祭、七月二十三日・九月十五日。「信松院」臺町にあり。曹洞宗。武田山。正徳四年に仁科資貞の寄進せし軍艦模を以て著はる。模型は大小二箇あり。大船は長さ九七尺、高さ二六尺、腰圍艦と祭せられ、銃眼・波除および指令塔あり。小船は長さ八五尺、高さ二〇尺、偵察通報艦なるもの如く、同じく波除・銃眼あり。何れも枡材を用ひ、精巧を極む。信

四四一

松院の文書によれば、豊原秀吉が征伐役で使用せし軍艦の模型にして、文祿年間(大正十三年)の作と推せらる。「大善寺」大横町にあり。淨土宗。觀音山往生院。淨土宗十八檀林の一。永祿年中、武藏國瀨山城主北條氏照、讚譽手秀を請じて之を開創し、寺額を寄せその菩提所となす。明治二年勸願所の繪旨を賜はる。毎年十月十二日より三日間、大念佛十夜の供養には賑はふ。社前に櫻守神社の小祠あり。「ハチカ 八嘉村」熊本縣肥後國玉名郡の東南部。伊倉町の東北及び北を圍み、西北部は高瀬町に接す。村内は概れ臺地狀の丘陵地にして東南部に高く約一三〇米を呈す。菊池川は西北境に沿ひて西南に流れて本流に注ぐ。田地約一三〇ヘクタール、畑地約三五五ヘクタールを有する純農村にして米・蕎麥・甘藷を産し、特産物には西瓜・葉菜類あり。省線鹿兒島本線中央を東西に横切り高瀬驛(彌富村)は西北方約二軒、木葉驛(木葉村)は東方約一・五軒にあり。「ハチカイ 八塊庄」臺灣新竹州桃園郡の南端部に位置し、東は海山郡鶯歌庄、西は中壠郡下の中壠街及び平鎮庄南は大溪郡大溪街、北は桃園街と大々境を接す。東南邊に丘陵性の臺地横れる外は土地極めて平坦にして、南溪溪の一分流茄茨溪西邊を北流す。廣袤東西六軒餘、南北八軒餘、面積三二方軒餘。管内は殆んど純農村を形成し、庄面積比較的狭少なるも、農耕地多く、平坦地には水田、臺地には茶園ひらけ、米・茶・甘藷・蔬菜・甘蔗を主要農産物とす。畜産は勞役用の水牛・黄牛を除き、豚・鶏・鴨・鵞等の家畜・家禽類多く、一般家庭に於て副業的に善く飼育せらる。工業は大規模のものなく粗摺精米・製茶・陶器・煉瓦・製糖等の小工場を有するに過ぎず。交通上桃園より大溪を経て關西庄(新竹郡)に至る要衝に當り、バス線路三、輕便軌道(手押臺車)線路一を有す。管内はもと總て桃園縣に屬し、當初は平埔蕃族ケマカナン部族の一なるシャライイ(音譯)社の地にして、清の乾隆ごろより主として粵人によりて開墾せられたり。八塊は現行制度施行の際、八塊層を改稱せしものにして、八軒家の意に出で、開拓當初僅かに八家の移住するありしのみなるに因りて名づけしものなり。乾隆の末年に南方大溪(もと大料炭と稱す)方面の開かる、と共に、この地はその中路として漸く發達す。「ハチガオ 八ヶ尾山」丹波篠山町の北東方約一軒。兵庫縣多紀郡大字村に峙つ、標高六七八米。北方近く船井郡との境界東西に走る。「ハチガタ 鉢形村」埼玉縣武藏國大里郡の西南部。寄居町の東隣にして荒川の南岸にあり。面積六・三七方軒の小村なり。村の東半は約一五〇餘米の山地をな

ハチカ

し、北半は荒川流域の平地にして農業行はれ、蕎麥・米を産す。縣道寄居町に通じ、社線東武鐵道東上線は北部を西走し、鉢形驛(大正十四年設置)を置く。この地は和名抄、男妾郡大山郷の内なるべし。永祿・天正の頃は小田原北條氏の一門、安房守氏邦、鉢形城に居り北武藏及び秩父を鎮し、上州をも控制し、士民幅員して大邑たり。「鉢形城址」指定史蹟。室町時代の中期、關東管領山上杉氏が武藏北部の要衝として築き、重臣長尾氏をして居らしめし、文明五年長尾景春叛し、主家山内顯定と戦ひ、城は屢々兩氏の攻奪を経て、同十一年景春破れて城を退去し、永正九年景春また城を奪ひてこれに居る。その後一時廢城となりしも、永祿三年北條氏康の子氏邦秩父天神山城より鉢形古城を修築して移る。天正十八年豊臣秀吉の小田原征伐の際、この城も秀吉の攻略する所となりて落城し、以後廢城となる。昔而荒川の天險を擁し前面深澤川の深谷を控へ天然の要害を占む。大手・搦手・本丸・二ノ丸・三ノ丸及び諏訪曲輪には所々に巖濼を存し舊規見るべきものあり。關東に存する戰國時代の城址中、完全に残れるものの一なり。「ハチカンチヨ 八官町」江戸時代岡場所の一。比丘尼と稱する私娼の出でし所。いま東京市京橋區八官町。外濠に接し、北は山城町加賀町、南は丸屋町に隣る。俗に八官町御堀通とも云ふ。

契國策「びく」といふ物也、すなはちあ
たけといふ國よりいづるなり、むかしは
大はんじやうにて門跡まへ、代地、いづ
み丁、八くわん丁などに出たりして大き
にぜんせいをつくしたり」

ハチケンジャヤ 八軒茶屋

江戸時代開港場の一。現今大阪市北區天
満の地名。八軒屋とは別所。浪花色八卦
「八軒茶屋、此所は標符と品かわりてお
じやれの體なり、店には蝋の天蓋鳥貝の
高もりを置いて前たけに人をつな
づき、客は多く武家の奴こらさ初と
して、近比多く入込み繁昌す。遊ばんと
思はばつと這入て座につき、是をと思
ふやつとなづいて、きせるか茶か乞へ
ば、はやわれじやと合點して前垂はづし
開中の事に及ぶ也」

ハチケンヤ 八軒屋

大阪の地名。現
今天神橋南詰の東、東區京橋二丁目。天
滿橋の天神橋の中間の淀川河岸にして、
京都伏見通ひの川船の發着所。西鶴俗つ
れん、二「和朝の難波津や八間屋とい
ふ所に、家榮えたる樂坊主、同じ心の友
二人住ける」心中天の網島、下「南へ渡
る橋柱、數も限らぬ家々を、いかに名づ
けて八軒家、誰と伏見の下り舟、着かぬ
中にと道急ぐ、この世を捨てて行く身に
は、聞くも恐ろし天滿橋、淀と大和の二
川を、一つ流れの大川や」辨縮編卯月
池、中「お龜様が見えぬわ、そりや提灯
よ釣鐘よ、八つ過ぎや八軒屋、河内よ堺

よ川口よと、足許へは氣もつかず、手分
かしてぞ追つ驅ける」

ハチコ 八口浦

朝鮮全羅南道
務安郡にある灣。羅州郡島に屬する都草
島とその東方に基布する箕佐島その他の
島嶼に圍まれ、天然の良鐵地をなす。鐵
地は南北約二軒、東西三軒餘にして、大
小數多の水道これに通じ、出入頗る便な
り。灣の外は石首魚・鮫などの漁獲多
し。

ハチコ 八高線

省線中央線の
一。八王子市より高崎市に直通す。東京
府八王子市の中央本線八王子驛より埼玉
縣を経て、群馬縣群馬郡倉賀野町の省線
高崎線倉賀野驛に至る九二軒。昭和九年
全通し、八王子驛と高崎驛間に直接運轉
をなし約三時間にて達す。八王子驛にて
省線横濱線・社線武蔵中央電氣、拜島驛
(東京府北多摩郡拜島村)にて社線青梅電
氣及び五日市鐵道、東飯能驛(埼玉縣入
間郡加治村)にて社線武蔵野鐵道、越生
驛(河野郡越生町)にて社線越生鐵道、小川
町驛(比企郡小川町)にて社線東武鐵道、
寄居驛(大里郡寄居町)にて社線秩父鐵道
及び東武鐵道、倉賀野驛にて社線岩鼻輕
便に連絡す。

ハチコク 八石山

越後山系彌彦火山
群南部の一峯。新潟縣刈羽郡中越石村と
山根澤村との境上に跨り、標高五一七
米、高からざれども南北に長き障壁状を
なして峙つ。北東稜に武石峠最高點(二
はトコアシ・テンダサ・サイミ・海苔の
地附を豊富にし、島の東北端部の末吉・
三根の兩村はそれ等の採取が最も盛んな
り。家は天井低く床高き板屋にて、屋
根は著しく急勾配にして、四圍には雁木
を繞らし、宅地の外圍は石垣を以てし、
その上に椿を植う。八丈島は他の伊豆の
島と同様、往古より明治の初年に至るま
で一種の流刑植民地とも見られ、この島
には關ヶ原合戦の西軍の總帥、宇喜多秀
家來島せしが始めとし明治四年まで流罪
の人々送島さる。その一人なる近藤重藏
の息富藏の著書によれば、慶長十五年よ
り慶應二年までの二六六年間に總數一八
二三人に及び、その内譯官女二人、大名
四人、陪臣六二人、女七三人、僧侶二二
一人、社人一〇人、百姓二八一人、無宿
三二人、非人二人、小者六一人、山
伏六人、町人三一五人、穢多三人、外自
身來島し且つ去りし者三人とあり。ほか
難船のため漂著せしも少からず。漆黒に
て地面を曳く程の長き髪を島田に結び、
唐棧前掛首飾の二幅帯をかけ、頭に水桶
を戴く女子の風俗は、現今にて殆ど見
られざるも、古語・習慣等保守され、言
葉の訛の如きは九州南部の調子を強く殘
す。現今行政上にては東京府に屬し、島
の主邑大賀郷には八丈支廳・測候所等あ
り、大賀郷・三根・樫立・中之郷・末吉
の五村に分る。

【八丈富士】 ↓西山(東京府)

七九米)峙ち、東麓は北流する信濃川支
流津海川、西麓は同じく北流して日本海
に入る崎石川に限らる。山體火山岩より
成る。山中瀑布懸りまた十二神を祀る祠
あり。この山昔大豆を植ふしに八石程取
獲ありしと云ふ。山名これより出づ。

ハチサキ 鉢崎

石川縣珠洲郡にあり
し村。明治四十一年三崎村と共に廢しそ
の區域を以て新に三崎村を設く。

ハチジュウリ 八十里

福島縣南會津郡伊北村より
只見川支流津川を北西に進行して山稜
を越え、北西方信濃川支流五十嵐川流域
なる新潟縣南蒲原郡森町村に至る山越。
この山路は一里を六町と計算して八十里
に當る。最高點の北東稜に中ノ又山(一
〇七〇米)つづき、南東稜に淺草岳(一五
八五米)・鬼面山(一四六五米)連る。伊北
村と新潟縣北魚沼郡入道瀬村との境界に
て、南西降して平石川上流地に達する一
山徑を分岐す。この徑は更に川に沿ひ入
道瀬村を西に貫く。また鬼面山の南方に
六十里越の越の山越あり。

【八十里濱】 義經記に見ゆる越後國の古

地名。乘足即ち沼垂(新潟市の内)と岩船
郡の瀨波との間に記載す。さすれば阿賀
川の河口の邊より北荒川の邊までの平滑
なる海岸を稱するなり。

ハチジョー 八丈

東京府八丈支廳の主島。伊豆
七島の最大島。御島の南方八〇軒、東

ハチジョー 八條

埼玉縣武蔵國南埼玉郡の南部
古利根川と綾瀬川とに挟まれたる小村に
て、東は古利根川を隔て、北葛飾郡と相
對し、西は綾瀬川を隔てて北足立郡草加
町と隣す。全村低地にして水田多く、米
を主産し、他に葱・漬菜・麥を産す。縣
道草加町に通じ、バス往來し、同町の社
線東武鐵道草加驛に出づるに便なり。こ
の地は近世八條領と稱せし地にして、東
鑑にその名見ゆ。桓武平氏、村岡氏の一
族、この地に野與氏を稱す。

【八條】 滋賀縣神崎郡にありし村。明治

二十七年本村を廢して、能登川村・五峰
村・伊庭村の三村とす。

【八條大路】 平安京の東西に通ずる大路

の一。幅八丈。梅小路の南、針小路の北
に位す。應仁の亂に荒廢し僅に村名に八
條の名をとゞめしが、いま京都市に入り
下京區に八條通を存す。

【八條】 兵庫縣城崎郡にありし村。昭和

八年豐岡町に編入す。

ハチジョーイシ 八丈石山

阿武隈山脈の一峯。福島縣相馬郡金房村
の南西嶺。西方に雙葉郡津島村との境界
線走る。標高五〇七米、山體片麻岩より
成る。北斜面を山徑東西に巻き、北西斜
面に金谷峠あり。東斜面より小高川發し
て東流す。

ハチスカ 蜂須賀

愛知縣海部郡にあ
りし村。明治三十九年本村外二村を廢し

京の南方四八〇軒の洋上に位し、面積六
七平方軒。島は西北に西山(八丈富士、
八五四米)の美しき複式コニーデ型火山
聳立し、寄生火山も多く點在し、東南に
は東山(三原山、七〇一米)の三重式コニ
ーテ型火山ありて、既に著しく開析せる
火口原を有し、本島は兩火山の裾野が合
して形成されしものにて島形は中部やや
縊れて圓狀を呈す。海岸線は四二軒に及
ぶも海崖迫り、暗礁も少なからず、神港・
八重根・藍ヶ江・洞輪澤の四箇地あるも
良港ならず、東京灣汽船等の定期船は一
軒餘の沖にて荷役す。昭和十年の平均氣
温一七・八度、最高極三二・三度、最低
極二・二度なり。年快晴日數六日、降雨
日數二二日、年降水量は三六〇七耗に
て日本内地の最多雨地なり。平均風速度
は六秒米、最大風速は二四・一秒米とす。

昭和十一年(昭和十一年) 額産生 産額(千圓) 百分比

農	畜	林	水	工	總
三三・九	三三・三	三三・八	三三・〇	三三・〇	三三・三
三三・三	三三・〇	三三・〇	三三・〇	三三・〇	三三・三
三三・〇	三三・〇	三三・〇	三三・〇	三三・〇	三三・三

昭和十一年の八丈島の總生産額は一四〇
三千圓にて、水産はその三二%を占めて
最も多く、農産二二・九%、畜産二・三
%これに次ぐ。椿・赤椿・椎・楊梅・黒
松等の自然木、杉・扁柏・樟等の人造林

ハチタ 蜂出

和泉國(大阪府)の古地
名。和名抄に大島郡蜂出郷あり波知多と
訓す。其地今の泉北郡八田莊村の邊か。

ハチタン 八灘面

朝鮮京畿道水原郡
の中央よりやや西南に位置し、郡色水原
の西南約二〇軒にあり。東北境に建達山
(三三七米)の聳ゆる他に百米内外の丘陵
性臺地を成し、西部は沈降して南陽灣の
東支を成し頗る出入に富めるも、潮汐干
満の差大なるを以て船舶の出入・繫留便
ならず。臺地を浸蝕せる谷頭には湧泉到
る處にありて灌溉の便よく耕地發達す。
農産物は大豆を第一とし米これに亞ぎ、
小麥・粟・棉花・生牛等ありて、近時當
局の指導により蔬菜(殊に白菜)・果樹の
栽培も行はるに至れり。道路は水原よ
り來る三等道路の東部を通過し、發安
場に達する他は何れも等外路線にして交
通運輸共に便ならず。墾墾は普遍的に分
布し、その密度極めて大にして、所事務
所を中部の舊場里に設く。

ハチドー 八道

朝鮮の八道、即
ち京畿・江原・咸鏡・平安・黃海・忠清・
慶尙・全羅の稱。明史・朝鮮傳「是時倭
已入王京、毀墳墓、却王子陪臣、割三府
庫、八道幾盡沒、且暮且渡鴨綠江」

ハチノシリ 八之尻村

山梨縣甲斐
國西八代郡の西北部。市川大門町の西南
に隣る。面積一・九一方軒の小村。昭和
十年度の人口五四三人にして密度は二八

甲斐

甲斐

もよく生育するも、殆ど薪炭材にて木炭
は島の重要な移出品となり、樺は宅地の
防風林として利用されること多く、椿油
は婦女の重要な副業生産品にて、櫛の
枝・椎實・椎茸と共に移出さる。耕地は
田七三・八町、畑五八七・六町(昭和十
一年末)田は島内消費米の半量を生産せ
ざるも、伊豆七島・小笠原島には全く珍
しきもにて、この島は小規模ながらも
水力發電所設けらるる程にて、水には比
較的恵まれしに原因す。畑は平坦地にて
は永久畑多きも、傾斜地にては概ね定期
の切替畑にて、耕作物は麥・粟・稗・甘
藷・里芋・八丈秣等を主とす。昔時暴風
の被害の甚しかりし時には藪藪炊・鹹草
雜炊までも食せしといふも、享保八年始
めて甘藷移入され、更に文化八年新島よ
り島の風土に好適する赤甘藷廣らされし
以來飢饉を免がるに至る。乳牛の飼育
も亦島に好適するものにて、八丈秣を主
要な飼料となし、煉乳工場あり。往時質
納に専ら使用されし黄八丈は勿論家内工
業にて、その獨得なる染色が珍重されし
も、現在にてはその産業は微々たるもの
なり。洞遊魚類は少なからざるも、鱈漁の
發動機船は静岡・千葉兩縣より、文鰯魚
の漁期に千葉縣・大島より季節的に來島
し、いはゆる國地のものに利益を導斷さ
れ際ちなりしが、近年は發動機船も漸増
の傾向にあり、鱈節・鱈鯨の乾魚・文鰯魚
の鮮魚は東京に移出され、岩礁多きこと

一周の着水場として知らる。〔八戸港燈臺〕八戸港の北防波堤上にあり。燈質は不動綠光の電燈、光距離一、五五哩。青森縣立にして看守員を常置せず。また同港船入場の防波堤北端にもあり。燈質は不動紅光の電燈、光距離一二哩。青森縣立、看守員を常置せず。〔八戸城〕柏崎にあり。もと八戸氏の治所なりし。南部利直、寛永四年、八戸彌六郎を陸中遠野に移し、放鷹に託してこの地を檢分し、城を築きて弟直房を封じ二萬石を分知すと傳ふ。千孫相傳へてこれに治し、以て明治維新に至る。明治四年藩籍奉還以來樓閣は毀たれ、城池は埋没し、僅に地形によりて往時を偲び得るにすぎず。今は三八城公園となり、城址の中央に縣社三八城神社鎮座す。〔三八城神社〕八幡町に鎮座。縣社、新羅三郎義光、南部三郎光行、河左衛門佐直房、元祿二年に勸請鎮祭し初め新羅神社と號す。明治十一年四月、野崎和治なる者現社地を寄附し此處に遷座して現社號に改稱す。新羅三郎義光は源義家の弟、義家の東北征伐に遙か京師より援けに赴きしは普く世の知る通り。南部光行は文治五年源頼朝に従ひ藤原泰衡を討つて功あり。南部家の始祖にして信濃三郎と號せり。直房は南部の支府にて八戸城主たり。仁政を布き領民その徳を慕ふ。のち南部二氏を新羅三郎義光に合祀す。例祭八月六日。〔新羅神社〕饗祭に鎮座。郷社。祭神、

素鳴尊・新羅三郎義光。延寶六年舊藩主南 左衛門源直房の勸請に係る。九月一・二・三の三日の大祭日には町内の靈・神明の兩社と合同して神輿の渡御・打越等の儀あり。謂ゆる八戸の三社大祭と稱するはこれにして、打越は明治十四年明治天皇東北御巡幸の際に天覽に供せり。また二月十七日より「えんぶり」を行ふ。「ながえぶり」「どうさいえぶり」の二種あり。田植の祭りを稱せし言葉にして、明治初年廢せられたる、のち復興して豊年祭りと稱す。これは種時より收穫までの有様や漁獲等の模範的所作を樂器に合せて踊るものにして野趣甚だ拘すべきものあり。〔大慈寺〕曹洞宗。もと福聚山と稱す。寛永六年九月南部利直これを開基し、虎山玄龍を以て開山とす。爾來、小本寺格として寺運盛なり。現に堂宇の完備せることは當郡第一なりと稱せらる。〔南宗寺〕饗祭にあり。臨濟宗妙心寺派。月溪山と號す。寛文六年藩主南部直房の開基に依り、東嚴宗を以て開山とす。舊寺領百石を有し小本寺格たり。

〔八戸線〕省線東北線の一。青森縣三戸郡留村の東北本線尻内驛より八戸驛（八戸市）を經、太平洋岸を南進し岩手縣九戸郡久慈町の久慈驛に至る六四・九軒。及び八戸驛より八戸市小中野町の湊驛に到る二・七軒の支線より成る。尻内驛にては社線五戸鐵道に連絡す。

〔八戸線〕白山火山帯の一峯。鳥取市の南東方三〇軒前後に當り、兵庫縣美方郡免塚・熊次・小代の三村境界に跨り、標高一二・二一米。北面は山毛榉林繁り、その他は矮小なる灌木及び萱草にて掩はれ十二月下旬より三月まで到るところ良きスキー・ゲレンデとなり、スキーヤー集ひ來る。山頂には山陰本線八鹿驛より村岡街道（山陰街道）をパスにて西方鹿倉口に到り、それより分れて西に徒歩、熊次村福定より北登して達す。

ハチホ

〔八峰面〕朝鮮忠清南道瑞山郡の西北部。瑞山面の西北に隣る。北は加露林灣に臨み、灣上の古波島を包含す。東部は一部に丘陵連り、漸次北西に傾斜し灣岸に小低地散點す。従つて耕地は多く丘陵緩斜面を利用せるを以て水利乏しく、畑作農業卓越す。住民は農を主とし傍ら養蠶・織布に従事し、臨海住民は半農半漁なり。産物は米・小麥・大豆・大豆を主とし、煙草・棉花等あり。また芋・綿布を産し、東部の金黃嶺山より金・銀を出す。水産物には貝類・鰯等あり。道路は瑞山より來る三等道路面の西部を通じ舊島に

達する外は何れも等外路線にて交通・運輸やや不便なるも、舊島は加露林灣内唯一の泊港にして、沿岸諸港との間に汽船の往復あり。

〔八峰面〕朝鮮全羅北道益山郡の中南部に位し、郡邑裡里の東北約五軒にあり。域内は一般に小丘陵起伏すれども、北西の腰湖沿岸は一部に土地低平にして耕地よく開け、益山平野の一部を成し重要な農業地帯を形成す。産物の主なるものは米・大豆・粟・大麻・苧・棉花等にして、大豆は益山大豆とて品質優良を以て聞ゆ。鐵道湖南線西方近く南北に通じ、裡里驛よりは三等道路を通じ面の中を横斷して北東方益山に達し、乗合自動車の便あり。

〔八峰面〕岩手縣陸中國禪貫郡の中部。花巻町の北方約七軒。北上平野に屬し、全村修ね平坦にして北上川は東境を南流す。葛上川は北部を、その他の二川は中部及び南部を各東流し北上川に合す。村は農を主産業とし、米・大豆・蕪等を産す。陸羽街道は中部を南北に通じ、パスの便あり。省線東北本線石鳥谷驛へ北方約二軒あり。木村大字江曾は古人の謂ゆる陸奥の蝦夷の里の遺名か。月清集「我思ふ人たに住まは陸奥のえひすの里もうとまものかは」大字寺林の寺林館址は伊豫國守河野通俊の次男、伊豫守通重の文永・弘安の頃に居りし所。

〔八幡町〕滋賀縣近江國蒲生郡の西北部。日野川・愛知川兩河口の略は中間の湖岸に近き近江平野の一部を占む。東南方約八軒に神崎郡八日市町あり。大部は平野をなせども城壕の北の本村西北隅に鶴島山ありて北方湖上に延び、更に其北の島村地域に入りて山地廣がり半島狀をなして鑄る。此地は近江商人の出身地として著はれ商業榮えしが、近年は工業も盛にして綿帆布・清酒・メンソレーラム等の工場あり。本村は六十五箇字より成れる小都會にして人家稠密し、その密度は一八・二人の多きに達す。風俗質樸健にして軒窗整列し美觀を呈す。縣道四通八達しパスの往來頻繁にて省線東海道本線近江八幡驛（金田村）は東南境を距ること僅なり。昭和八年宇津呂村を編入す。天正十四年豊臣秀次が東北近く安土城の舊城下町の商人を移せしが當町の起原なり。秀次の去りし後一時衰微せしも町民は商業的に奮ひ起ち御朱印船時代海外にまで發展し、國內に於いても謂ゆる近江商人として活躍し、東南方の日野と共に最も古く近江商人を出せる所、現在もその影響にて東京・大阪にて商人として勢力を有す。附近に近江麻布・蚊帳・帆布等の産地を控へそれ等の集散多し。市街地は井然たる街區をなし、家数も立派に

ハチマ 八萬 阿波國（徳島縣）の古地名。和名抄に名東郡八萬郷あり、波知萬と訓す。今の徳島市の一部なるべし。

〔八幡町〕岐阜縣美濃國郡上郡の中部。長良川上流上保川と吉田川の合流點にあり。東・南境何れも山脈連なり、北部を東北より西南へ吉田川貫流し沿岸に聚落密集し、謂ゆる郡上盆地の中心をなす。谷合には桑園拓け養蠶行はれ、生糸・眞

〔八幡町〕岐阜縣美濃國郡上郡の中部。長良川上流上保川と吉田川の合流點にあり。東・南境何れも山脈連なり、北部を東北より西南へ吉田川貫流し沿岸に聚落密集し、謂ゆる郡上盆地の中心をなす。谷合には桑園拓け養蠶行はれ、生糸・眞

〔八幡町〕滋賀縣近江國蒲生郡の西北部。日野川・愛知川兩河口の略は中間の湖岸に近き近江平野の一部を占む。東南方約八軒に神崎郡八日市町あり。大部は平野をなせども城壕の北の本村西北隅に鶴島山ありて北方湖上に延び、更に其北の島村地域に入りて山地廣がり半島狀をなして鑄る。此地は近江商人の出身地として著はれ商業榮えしが、近年は工業も盛にして綿帆布・清酒・メンソレーラム等の工場あり。本村は六十五箇字より成れる小都會にして人家稠密し、その密度は一八・二人の多きに達す。風俗質樸健にして軒窗整列し美觀を呈す。縣道四通八達しパスの往來頻繁にて省線東海道本線近江八幡驛（金田村）は東南境を距ること僅なり。昭和八年宇津呂村を編入す。天正十四年豊臣秀次が東北近く安土城の舊城下町の商人を移せしが當町の起原なり。秀次の去りし後一時衰微せしも町民は商業的に奮ひ起ち御朱印船時代海外にまで發展し、國內に於いても謂ゆる近江商人として活躍し、東南方の日野と共に最も古く近江商人を出せる所、現在もその影響にて東京・大阪にて商人として勢力を有す。附近に近江麻布・蚊帳・帆布等の産地を控へそれ等の集散多し。市街地は井然たる街區をなし、家数も立派に

して富家町の面影あり。小運河ありて湖と連絡す。八幡神社には朱印船の繪馬あり、近江ミツシロは米人ヴォーリスを中心とする眞摯なるキリスト教徒にて各種の社會事業を行ひ功績大なり。本町出身の歴史的人物に西川吉輔・伴蒿蹊・水原博あり。西川は幕末の勤王家、國學を學び國事を憂ひ後に皇學所附掛となりて國學を講ず、明治十三年歿、年五十六、從四位。伴は江戸中期の國學者、歌人にて閑田耕華・近江崎人傳の著者として名あり、文化二年歿、年七十四、贈從四位。水原は江戸末期の國學者、賀川流産科を究め産科の泰斗として知らる。元治元年歿、年八十三、贈正五位。〔八幡城址〕町の北方にあり。津田細江の水はその下を繞り、奥島はその前に横はる。天正十年本能寺の變後、安土城が焼けしゆち、これを毀ち、天正十四年豊臣秀次の築けるところなるも、文祿年中秀次事を以て亡びのち廢城に歸す。〔八幡神社〕大字宮内に鎮座。郷社。祭神、豊田別尊・比賣神・息長足姫尊。本社は世に日觸八幡神社と稱し、その創祀は遠く雄略天皇朝にありといふ。元正天皇朝藤原不比等社殿を造營。聖武天皇天平年中勅して各國に八幡神を祀るべきよし定め給ふや、當國は當社を以て之に充つ。御來上下の崇敬篤く、往古は社領頗る多かりきといふ。例祭、四月十五日。〔開滿寺〕大字津田にあり。臨濟宗永源寺派。俗に金比羅

と稱す。十一面觀音立像(木造)一軀は國寶にて弘仁期佛像の特徴を示す。〔西光寺〕大字津田にあり。淨土宗。天正八年貞安上人、安土法論の功により織田信長より安土城大手の前に寺地を得て創建せしに始る。同十四年現地に移る。寺寶中地藏菩薩坐像(木造)一軀は國寶なり。〔眞成寺〕大字土田にあり。眞宗本願寺派。大悲山と號す。寛和二年の開創にして、開基は佐々木彦太入道淨俊にして、惠心僧都作の阿彌陀尊像を安置す。なほ嘉禎元年親鸞聖人關東よりの歸途當地に留錫し、寺僧承正その高徳に歸依して法弟となり、改めて大悲山眞成寺と稱し眞宗に轉す。〔東漸寺〕大字大林にあり。臨濟宗妙心寺派。惠光山と號す。往昔聖徳太子作正觀音を安置する觀音堂なりしが、寛永十年領主中島宗積、蓮源禪師を請じて當寺を建立す。二世梅嶺和尚に至りて領主松平陸奥守の歸依に依りて、寺領若干を寄せられ菩提所となる。貞享年間炎上、元祿年間關原和尙の再建とす。〔八幡岳〕佐賀縣東松浦郡相模町・西松浦郡大川村・小城郡西多々村・杵島郡若木村とに跨る。標高七六四米、山體第三紀層より成る。

岳(一五七六米)・屋ノ棟岳(一三九七米)連り西斜面に熊澤(蒸湯等湧き、また陸羽硫黄嶺山・又一硫黄嶺山等あり。南西斜面より玉川發源して南西流し、南東斜面より北上川發源して南西流し、南東斜面より北上川發源して南西流し、南東斜面より南東流し源流地に藤七温泉湧く。南稜に春岳(一五七八米)・諸槍岳(一五一四米)等續き、北東方には抽角山(一四九五米)峙ち、草ノ湯湧く。〔ハチメン〕八面山 阿蘇火山脈中の一峯。耶馬溪口の東岸、大分縣下毛郡山口村・東耶馬溪村・深林村の三村境界に跨る。標高六五九米、火山岩より成る。南麓尾形川溪谷を東耶馬溪と稱す。山中に樺現社あり、八面山縁起に「八面山者八幡皇太神御遊行之靈場、而聖母大神(神功皇后)應現之靈跡也」と見ゆ。延元元年足利尊氏九州に逃れ、この山に陣し、再起を祈れりと云ふ。また山中に霧谷と呼ぶ地あり、矢竹を産す、因りてこの山を一に箭山とも云ふ。

は海岸に沿ひて略南北に通じ、南方能代藩町へは自動車の便あり。省線五能線通じ八森・椿の二驛(大正十五年設置)を置く。いま岩館村と組合村をなし、役場を本村に置く。村内に七〇萬餘坪の鐵礦を有する發盛鐵山あり。鐵種は金・銀・銅・鉛・亜鉛にして昭和十年には金二二九、九六四、銀一、二六二、五四六、銅二、八三九、〇三六、この總額額三六〇萬餘圓を出し、同年六月末の使役鐵夫は一九四人にして重要鐵山に屬す。また村内に九二萬餘坪の鐵礦を有する八森鐵山あり、鐵種は發盛に同じ、これは昭和十年より精敏活に活動開始したるもの。以上二鐵山とも大日本鐵業會社の經營。〔白澤神社〕大字八森に鎮座。郷社。祭神、火産靈神・坂山姫神。仁壽三年僧圓仁の開創と傳へ、來不動社と稱し神佛混淆なりしが、明治維新後佛體たりしを廢し白澤神社と改稱す。例祭六月一日。〔八森山〕長野縣西筑摩郡本祖・奈川二村と東筑摩郡朝日・波田二村との境界に跨り、標高二四四六米。東南稜に烏帽子岳、西南稜に小八森山(二二七四米)續く。南斜面より木曾川發源して南流し、北斜面より梓川の一支黒川發源して北流し、東斜面よりは鎮川發して北東流し、奈良井川と合して犀川に落つ。西麓は北東流する梓川支流奈川に限る。

ハチヤ 八里町 福岡縣豐前國上郡の南部。中津市(大分縣)の西方約四軒にありて周防灘に面し、海岸に沿ひてやや東西に延ぶるも西南部は西南方へ長く擴がる。西南部は圓見山の東麓をなして土地やや高けれど、其他は行橋平野の一部を占むる爲、地形極めて平坦なり。海岸砂濱連る。穀物・石炭の産あり。海岸に沿ひて日向街道走り東部に大字宇島島の街衢、西部に大字八里の市街地あり。省線日豊本線同じく海岸近くを通過し宇島驛(明治三十年設置)あり。古く八里濱と稱へ大分街道を挟みて周防灘に瀕し、交通至便なるを以て物産多く此地より集散せられたり。舊郡役所の所在地とす。原城紀事に據れば、天文十七年葡萄牙語厄利亞三十一人、此地に泊し其徒六人投化すと。昭和十年宇島町を本町に編入す。

ありて周防灘に面し、海岸に沿ひてやや東西に延ぶるも西南部は西南方へ長く擴がる。西南部は圓見山の東麓をなして土地やや高けれど、其他は行橋平野の一部を占むる爲、地形極めて平坦なり。海岸砂濱連る。穀物・石炭の産あり。海岸に沿ひて日向街道走り東部に大字宇島島の街衢、西部に大字八里の市街地あり。省線日豊本線同じく海岸近くを通過し宇島驛(明治三十年設置)あり。古く八里濱と稱へ大分街道を挟みて周防灘に瀕し、交通至便なるを以て物産多く此地より集散せられたり。舊郡役所の所在地とす。原城紀事に據れば、天文十七年葡萄牙語厄利亞三十一人、此地に泊し其徒六人投化すと。昭和十年宇島町を本町に編入す。

ハチヤ 蜂屋村 岐阜縣美濃國加茂郡の西部。太田町の北に接し、津保川水源地をなす。南北に丘陵を負ひ、ほぼ中央を津保川西に流れ中央より西部にかけて平野開く。農業・養蠶を主産業とし米・繭を産す。外に名産蜂屋柿ありて通く人口に略多す。中央を東西に、東部を南北に縣道走り加茂・太田兩町へパス通ず。省線高山線美濃太田驛に最も近し。この地は和名抄、武藝郡掛可郷の内にて、近世は蜂屋庄と稱す。土岐系圖に隱岐定親の長男貞經、蜂屋兵衛尉この地に住す。〔堂洞城〕當村の北隅、加治田村と當田村との境にある城址。室町時代の頃土岐氏の族蜂屋頼隆ここに城を築き永祿年中

ハチヤ 八里町 福岡縣豐前國上郡の南部。中津市(大分縣)の西方約四軒にありて周防灘に面し、海岸に沿ひてやや東西に延ぶるも西南部は西南方へ長く擴がる。西南部は圓見山の東麓をなして土地やや高けれど、其他は行橋平野の一部を占むる爲、地形極めて平坦なり。海岸砂濱連る。穀物・石炭の産あり。海岸に沿ひて日向街道走り東部に大字宇島島の街衢、西部に大字八里の市街地あり。省線日豊本線同じく海岸近くを通過し宇島驛(明治三十年設置)あり。古く八里濱と稱へ大分街道を挟みて周防灘に瀕し、交通至便なるを以て物産多く此地より集散せられたり。舊郡役所の所在地とす。原城紀事に據れば、天文十七年葡萄牙語厄利亞三十一人、此地に泊し其徒六人投化すと。昭和十年宇島町を本町に編入す。

ハチヤ 八里町 福岡縣豐前國上郡の南部。中津市(大分縣)の西方約四軒にありて周防灘に面し、海岸に沿ひてやや東西に延ぶるも西南部は西南方へ長く擴がる。西南部は圓見山の東麓をなして土地やや高けれど、其他は行橋平野の一部を占むる爲、地形極めて平坦なり。海岸砂濱連る。穀物・石炭の産あり。海岸に沿ひて日向街道走り東部に大字宇島島の街衢、西部に大字八里の市街地あり。省線日豊本線同じく海岸近くを通過し宇島驛(明治三十年設置)あり。古く八里濱と稱へ大分街道を挟みて周防灘に瀕し、交通至便なるを以て物産多く此地より集散せられたり。舊郡役所の所在地とす。原城紀事に據れば、天文十七年葡萄牙語厄利亞三十一人、此地に泊し其徒六人投化すと。昭和十年宇島町を本町に編入す。

ハチヤ 八里町 福岡縣豐前國上郡の南部。中津市(大分縣)の西方約四軒にありて周防灘に面し、海岸に沿ひてやや東西に延ぶるも西南部は西南方へ長く擴がる。西南部は圓見山の東麓をなして土地やや高けれど、其他は行橋平野の一部を占むる爲、地形極めて平坦なり。海岸砂濱連る。穀物・石炭の産あり。海岸に沿ひて日向街道走り東部に大字宇島島の街衢、西部に大字八里の市街地あり。省線日豊本線同じく海岸近くを通過し宇島驛(明治三十年設置)あり。古く八里濱と稱へ大分街道を挟みて周防灘に瀕し、交通至便なるを以て物産多く此地より集散せられたり。舊郡役所の所在地とす。原城紀事に據れば、天文十七年葡萄牙語厄利亞三十一人、此地に泊し其徒六人投化すと。昭和十年宇島町を本町に編入す。

ハチヤ 八里町 福岡縣豐前國上郡の南部。中津市(大分縣)の西方約四軒にありて周防灘に面し、海岸に沿ひてやや東西に延ぶるも西南部は西南方へ長く擴がる。西南部は圓見山の東麓をなして土地やや高けれど、其他は行橋平野の一部を占むる爲、地形極めて平坦なり。海岸砂濱連る。穀物・石炭の産あり。海岸に沿ひて日向街道走り東部に大字宇島島の街衢、西部に大字八里の市街地あり。省線日豊本線同じく海岸近くを通過し宇島驛(明治三十年設置)あり。古く八里濱と稱へ大分街道を挟みて周防灘に瀕し、交通至便なるを以て物産多く此地より集散せられたり。舊郡役所の所在地とす。原城紀事に據れば、天文十七年葡萄牙語厄利亞三十一人、此地に泊し其徒六人投化すと。昭和十年宇島町を本町に編入す。

ハチヤ 八里町 福岡縣豐前國上郡の南部。中津市(大分縣)の西方約四軒にありて周防灘に面し、海岸に沿ひてやや東西に延ぶるも西南部は西南方へ長く擴がる。西南部は圓見山の東麓をなして土地やや高けれど、其他は行橋平野の一部を占むる爲、地形極めて平坦なり。海岸砂濱連る。穀物・石炭の産あり。海岸に沿ひて日向街道走り東部に大字宇島島の街衢、西部に大字八里の市街地あり。省線日豊本線同じく海岸近くを通過し宇島驛(明治三十年設置)あり。古く八里濱と稱へ大分街道を挟みて周防灘に瀕し、交通至便なるを以て物産多く此地より集散せられたり。舊郡役所の所在地とす。原城紀事に據れば、天文十七年葡萄牙語厄利亞三十一人、此地に泊し其徒六人投化すと。昭和十年宇島町を本町に編入す。

ハチヤ 八里町 福岡縣豐前國上郡の南部。中津市(大分縣)の西方約四軒にありて周防灘に面し、海岸に沿ひてやや東西に延ぶるも西南部は西南方へ長く擴がる。西南部は圓見山の東麓をなして土地やや高けれど、其他は行橋平野の一部を占むる爲、地形極めて平坦なり。海岸砂濱連る。穀物・石炭の産あり。海岸に沿ひて日向街道走り東部に大字宇島島の街衢、西部に大字八里の市街地あり。省線日豊本線同じく海岸近くを通過し宇島驛(明治三十年設置)あり。古く八里濱と稱へ大分街道を挟みて周防灘に瀕し、交通至便なるを以て物産多く此地より集散せられたり。舊郡役所の所在地とす。原城紀事に據れば、天文十七年葡萄牙語厄利亞三十一人、此地に泊し其徒六人投化すと。昭和十年宇島町を本町に編入す。

ハチヤ 八里町 福岡縣豐前國上郡の南部。中津市(大分縣)の西方約四軒にありて周防灘に面し、海岸に沿ひてやや東西に延ぶるも西南部は西南方へ長く擴がる。西南部は圓見山の東麓をなして土地やや高けれど、其他は行橋平野の一部を占むる爲、地形極めて平坦なり。海岸砂濱連る。穀物・石炭の産あり。海岸に沿ひて日向街道走り東部に大字宇島島の街衢、西部に大字八里の市街地あり。省線日豊本線同じく海岸近くを通過し宇島驛(明治三十年設置)あり。古く八里濱と稱へ大分街道を挟みて周防灘に瀕し、交通至便なるを以て物産多く此地より集散せられたり。舊郡役所の所在地とす。原城紀事に據れば、天文十七年葡萄牙語厄利亞三十一人、此地に泊し其徒六人投化すと。昭和十年宇島町を本町に編入す。

ハチヤ 八里町 福岡縣豐前國上郡の南部。中津市(大分縣)の西方約四軒にありて周防灘に面し、海岸に沿ひてやや東西に延ぶるも西南部は西南方へ長く擴がる。西南部は圓見山の東麓をなして土地やや高けれど、其他は行橋平野の一部を占むる爲、地形極めて平坦なり。海岸砂濱連る。穀物・石炭の産あり。海岸に沿ひて日向街道走り東部に大字宇島島の街衢、西部に大字八里の市街地あり。省線日豊本線同じく海岸近くを通過し宇島驛(明治三十年設置)あり。古く八里濱と稱へ大分街道を挟みて周防灘に瀕し、交通至便なるを以て物産多く此地より集散せられたり。舊郡役所の所在地とす。原城紀事に據れば、天文十七年葡萄牙語厄利亞三十一人、此地に泊し其徒六人投化すと。昭和十年宇島町を本町に編入す。

米前後の濁を作る。注入河には東方より馬場目、三種の二川あり。水色は濁り、透明度一—二米。鹽分は船越水道より逆流の及ぶ附近に多きも、大部分三%位にて、海水の十分一にも達せず。一月下旬より三月上旬に至る間結氷す。浮遊生物は淡水及び汽水のものが混じり、藍藻・硅藻・輪藻類等多し。魚類としてはワカサギ・ゴリ・メナダ・ボラ・フナ・エビ・ウグヒ・シラウオ等にて、やはり淡水及び汽水のものを混す。また水底に生ずるワカサギ等は沿岸農民が田の肥料として夏季に採取す。殊に冬の氷上漁業は漁具・漁法の獨特なるを以て知らる。湖底には、拂戸層の活層あり、西岸の南秋田郡拂戸村より湖中に入り、北北東に濁を凝結し山本郡森岳村に至る。この層に沿ひ湖中敷箇所より源泉を湧出し、炭酸石灰の沈澱のため湖底の砂が膠結され、之等を漁夫は湯坪と稱し常にカスの上昇する巨印となす。この層は文化七年の男鹿大地震の時、鮎川層(南秋田郡五里合村より臨本村に向ひ南北に男鹿半島の東部を貫く)と共に活動せしもの、地震の一箇月前より時々八郎湯の水色が變化し、魚の多く死せし事あるはこの層の活動に基くものと思はる。なほ湖の周辺は蟹類に富み、東岸の三倉鼻は特に知らる。西方寒風山斜面のスキー場と共に湖上はスケート場として賑ふ。

【八郎湯】長崎市の南方八軒前後、長崎縣西彼杵郡木町と長崎市の境に跨る。北東方に熊ヶ峰、西方に城山並聳す。附近は寒地帯に屬す。
【ハチロ】八輪 愛知縣海部郡にありし村。明治三十九年本村外一村を廢し、六和村の一部を以て八開村を置く。
【ハツ】羽津村 三重縣伊勢郡三重郡の東部、四日市市に北接し伊勢海に面す。西北部に稍丘陵ある外は低平なる平野にて四日市市の北部を東流する海蔵川が本村と四日市市との間に伊勢海に注ぐ。米・繭等の農産の外水産・畜産・礦産・林産等あり。また四日市市に接する爲、綿織物工業盛なり。東部に伊勢街道南走し南部にて之より分れて北走する街道あり。省線關西本線東海岸を走り、北境近く富田濱驛あり。中部には社線伊勢急行電線伊勢線通過して鼓ヶ浦・羽津の二驛(共に昭和四年設置)あり。萬葉集・卷六に「おくれにし人をしめばく四泥能崎木綿取りして往かむとぞ念ふ 丹比屋主」とある四泥能崎は本村の羽津の濱を指せるもの。戰國の頃赤堀氏の一族羽津氏この地に居り天正の初め滅ぶといふ。天正十二年羽柴秀吉この地に陣し織田信雄と和議を結べり。淨願寺は西本願寺の末寺なり。住僧空源僧兵を率て織田信長と戦ひ敗死すといふ。「志氏神社」大字大宮西に鎮座。神社。祭神、伊吹戸主神・住吉三神等十二柱。延喜の制國幣の神社に列す。領主羽津・濱田・赤堀氏等

の崇敬あり。俗稱、高御前。明治元年三月、車駕東幸の時、奉警使を遣はさる。例祭、十月十七日。「伊賀留我神社」宇船に鎮座。郷社。祭神、天照大御神之荒御魂神。一名、齋大明神。天武天皇白鳳年中軍を當地に駐め給ひしことあり、その時天照大御神を鎮祭せられしに創まるといふ。延喜の制、國幣の小社に列す。例祭、十月十六日。
【ハツ】初島 靜岡縣熱海市に屬する島。熱海市の東南方約一〇軒の海上に浮び、長徑僅に一・二軒、面積約〇・三五方軒の小島にて、熱海カルテラ火山の東部の一斷片が陥没を免れ残存せるものと稱せらる。地形は最高點漸く四七米を有する平坦なる卓状地をなし、之を縁取りて狭き海岸低地ありて南端のみ海崖をなす。住民は半農半漁の生活をなす。平坦地は全部耕地にては各戸平等に分割され、また漁業も共同經營多く、所謂社會主義的自治部落として名高し。聚落は北岸にあり四十二戸を算し、その戸数は相當古くより不變にて、これ以上戸数の増加は絶対に許されず。人口は約三三〇餘人。關東大地震の際土地約一米隆起し、また小規模の斷層が現はる。最近熱海に遊ぶ人の訪れる者頗る増加し一名所となる。
【ハツアンジョー】發安場 山形縣朝鮮京畿道水原郡の邑。縣南面の北端にて發安川の中流に跨り、水原半島の地頭部を占む。北方水原、東方烏山、北西南陽、

西南半島部、及び南方板城郡内に通ずる諸街道の要衝に當り、米の集散地をなす。
【ハツカ】羽東山 有馬温泉の北方約一三軒。兵庫縣有馬郡三輪町の北嶺にして神戸水道の源なる羽東川の右岸に峙つ。南麓には三輪町香下部落ある故に一に香下山とも云ふ。全山石英斑岩より成る。富士型に屹然として峙り、山體樹木にて掩はる。新古今・一六「秋はつるばつかの山の淋しきに有明の月を誰とみまらむ 匡房」
【ハツカ】發荷峠 十和田湖の南岸、秋田縣鹿角郡大湯町と七瀬村との境界に最高點(六四七米)を置く峠。十和田道これにかかると。峠には山毛櫨の大樹生す。之より北に俯視する十和田の湖景美は天下に名高く、眼下に中山・御倉の兩半島並び、湖を圍む山々の緩徐なる山稜線は湖水美の壯大を一入引立たしめ、十和田湖の全景を汗知らずに見得る最良の地點なり。これより火山灰の堆積したる處を西北に下り、右に轉すれば湖岸生田(ここに和井内湖化場あり)に至る。峠より約二軒、その間林間よりの湖面の眺め良し。この峠附近に於ける秋日の紅葉美はその名を知らる。南方大湯よりこの峠を経て生田に至る間に自動車の便あり。
【ハツカイ】八海山 後山系清水山地の一峯。新潟縣南魚沼郡東村と城内村との境界に跨る。東方は北西流する水無川(信濃川に注ぐ魚野川の一)上流地を距

てて駒ヶ岳(二〇〇三米)と對峙し、南東麓に中ノ岳(二〇八五米)連り、駒ヶ岳と中ノ岳とは南北尾根續きをなす。木曾の御岳山と共に古より靈山として信仰登山行はれ、今も尚ほ白衣の行者の姿を見る。頂上に八湖あり、日の池・月の池・五龍の池等と名付けられ、八海大明神を祀る。山名これより出づと云ふ。山頂部には岩石露出、登山難立し、峻嶒なる箇所には鎖をかけ、登攀の便とす。各案には數十の神像安置せらる。最高峯か日本岳または不動岳と稱す。その後方の峯を大日岳と呼び、ここに奥の院鎮座す。この頂よりは展望廣闊にして東方眼前に駒ヶ岳・中ノ岳聳立し、西南方近くには上越の山山、遠くは妙高・火打等、並に北アルプスの最高峯視野に入り一望千里なり。登山路三あり、西北麓水無川に沿ひ東村大倉口、西麓大崎村口、西南麓城内村口これなり。六合目には曾て女人堂あり、明治維新まではこれ以上女人の登山を禁じたり。九合目は岩場の始る箇所にて一六五三・八米の三角點の東南鞍部に當る。ここに三棟の籠堂ありて宿泊等の便を計る。九合目より大日岳まで鐵鎖を頼りて登攀す。登山口より登り六時間を要す。八海山より中ノ岳・駒ヶ岳への縦走を三岳めぐりと稱す。

【ハツカイ】八開村 愛知縣尾張國海部郡の西北部。木曾川左岸に位して岐阜縣海津郡に對し、北は中島郡に界す。地形極めて平坦にして西境には南流する木曾川の大川あり。村内には數多の南下する小流を含む。米産多く麥も産し、養蠶も行はる。中部を西北より東南に縣道斷斷しバス名古屋市に至る。木曾川には渡船の便あり。本村は明治三十九年開治村、八輪村を廢し、その區域に六和村大宮田とを合せて置きしもの。北條高時の二男、相模次郎時行の子、平太郎時時、本州繁江村に墾居し、その子平太郎時任、愛知郡横井村に住し權井氏を稱し、その子時永は本村の大字赤目に築城し、子孫海部郡を領知せり。「宇多志神社」七字開治に鎮座。郷社。祭神、足尼命。創立年代詳かならず。もと白髮大明神・鶴多須大明神とも云へり。延喜の制、國幣の小社に列し、尾張國內神名帳に「從三位宇多須天神」と見えたり。例祭、八月十五日。「富岡神社」大字森川に鎮座。郷社。祭神、豐岡比咩命。古來當所の産主神たり。例祭、七月二十一日。
【ハツカイ】拔海 北海道北見國宗谷郡稚内町の大字。宗谷本線の拔海驛(大正十三年設置)あり。
【ハツカイチ】廿日市町 廣島縣安藝國佐伯郡の東南部。五日市町の西南に隣りて廣島灣西北岸に臨む。面積一方軒の小村。南方海上には嚴島の北部を望む。沿岸沖積地を占むるため山と稱すべきもなく海岸には砂洲發達す。主産業は商業にして、次で工業發達し、前者の五に

對し後者は三の比なり。特に板材木・薪炭類・酒類の製造販賣多し。毎年廿日定期に市を開き米・薪炭の類を賣る。特産物に挽物による玩具類の製造あり。西北部に山陽道通過し之を挟みて市街地街村狀に發達す。省線山陽本線廿日市驛(明治三十年設置)は西北隣平良村にあり。廿日市は内務省指定港にて船舶の入港多く、和酒(二二五九千圓)、木材(一一〇八千圓)、礦油(二〇二千圓)等移出し、礦油(二八二千圓)、甘藷切干(一〇二千圓)、石炭(七九千圓)、甘藷(五八千圓)等移入す。もと石州津和野藩の舟手屋敷を置きし所にして海驛たり。郡制の頃は郡役所を置く。「櫻尾城」承久中周防前司藤原親實の築く所といひ、相傳へて興廢の時、關原房に攻められ父子共に死し、幾もなくして亡ぶ。
【ハツカシ】羽東 山城國(京都府)の古地名。和名抄に乙訓郡羽東郷あり波豆賀之と訓ず。その地今の乙訓郡羽東師村・久我村の邊に當る。
【羽東】攝津國(兵庫縣)の古地名。和名抄に有馬郡羽東郷あり波都加之と訓ず。その地今の高平村邊なるべし。
【ハツカリ】初狩村 山梨縣甲斐國北部留都郡の西南部。大月町の西方約四軒。南は南都留郡に接す。南北に山地を負ひ、梓川の一支中央を東西に貫流し峡谷をなす。村内山林に富み、谷沿の聚落は養蠶

を主産業とす。繭を主産物とし米・麥・桑等の農産物及び木材・薪炭等の副産物あり。省線中央本線及び一條の縣道谷澄に貫通し前者の初狩驛(明治四十三年設置)を置く。この地は古の波加利庄の地にて、建久四年源頼朝が富士登攀の折、第一に此地より着すを以て初狩村の名を生ぜしと傳ふ。道興の地を過ぐる時「今はとて霞をわけて歸るさにおぼつかなしや初雁の里」と詠せるは同國雜記に見ゆ。寛文十二年霖雨にて大水あり、民家の流失多かりきといふ。明治十三年明治天皇、山梨・三重及び京都行幸の際本村に行幸あらせらる。
【ハツキ】羽月村 鹿兒島縣薩摩國伊佐郡の西部。川内川上流近くの右岸に沿ひ東は大日町の西南に接す。西は出水郡に界し、西南は薩摩郡に隣る。西境には約四・五百米の山嶺南北に連り、之より東方へ幾多の股脈延びて山岳重疊し、東部には低地、けて川邊川東境に沿ひ南流し東南境にて西折し村境を西に流る。米・繭・麥等の農産多く、畜産・水産・林産も多けれど最も多額なるは工業なり。西方出水町より東南方都城市へ至る縣道本村を貫き途中より大日町へ至る道路を分つ。省線宮之城線東南部を通過して羽月驛(昭和十二年設置)あり。この地は和名抄、荻刈郡羽野郷の地なるべし。大字下殿に下殿城址あり、牛屎氏の一族羽月某の居城にして、のち島津忠昌の時に至り

ハツカ—ハツキ

ハツキー——ハツコ

菱刈重時この地を領せりといへば羽月氏はこの時に亡びしもの如し。

ハツキョー 筏橋邑 朝鮮全羅南道寶城郡の東端、順天邑の西南約一八軒に位し、東南は汝自灣に臨む。西部に尊帝山(七〇四米)を最高とする山地あり。之より凡そ三條の山脈出で、その北境に互るものは伯夷山(五八四米)を起し、南境に連るものは將軍峯・斗榜山等となりその中間に二三百米の支脈をなすものに蘆江山・芙蓉山あり、この最後の者は東西に延び城内を南北兩部に分つ。東部には汝自灣の一支灣あり西北に深く彎入し、城内を灌流する二河川を容る。この灣は中央に一條の水路を残すの外、概れ干出し、僅に蘆石里の泊津あり、入江の一部は干涸せられ水田化を見つあり。耕地は河川の沖積地によく發達し、殊に芙蓉山以北のものは榮安平野の南半に當るを以て地味肥沃、郡内の主要農地帯をなす。農産は米を第一に稗麥・大麥・陸地棉・繭等あり、沿海には鹽漁業盛なり、また酒造・紡織その他の小工業行ける。商業甚だ活潑にして、筏橋金融組合の如き郡下第一の堅實なる内容を有し、陰曆四・九日に開く市場また取引額の多きこと道内有數なり。總督府鐵道慶西線は南部を東西に貫き邑内南部に筏橋驛(昭和五年設置)あり順天へ三十數分、寶城へ四十數分にて達す。鐵道の北側に順天・長興間二等道あり、これより樂

ハツキョー——ハツコ

安・高興・和順の諸邑及び海岸の眞石里に何れも三等道路を岐ち、交通頗る便なり。市街は芙蓉山の東麓、樂安平野の咽喉に位し、水陸交通の要衝に當り、物資の集散繁し。邑内に稅務署・地方法院出張所・郵便支店・東拓出張所・筏橋電氣會社等あり。本邑は昭和四年順天郡のものと東草面の一部を編入、同十二年六月邑制を施行す。

ハツキン 八禽島 安佐面(朝鮮)

ハツギン 發銀嶺山 朝鮮平安北道の楚山・碧潼の兩郡に跨る金銀山。發銀嶺は三に分る。近年一號嶺及び二號嶺の探鑛を行ひたるに、鑛況頗る良好なるを以て大量生産の計畫を樹立し五千越處理浮選鑛場を設け、電氣捲揚機・ロータリー空氣壓縮機を新設するなど日醒ましき活況を呈するに至れり。日本鑛業會社の經營にて昭和十年には金銀嶺八七六越(價額八萬五千餘圓)を出し、同年六月末の使役人員は四八七人とす。

ハツクタイ 山 臺灣、次高山脈の一峯。臺中州東勢郡南境に聳え、標高三三三九米。西方約六軒にして八仙山峙つ。

ハツクラ 初倉村 靜岡縣遠江國藤原郡の東南部。大井川の右岸。北は大井川を隔てて志太郡葛島町に對す。南境に二〇〇米臺の丘陵連立し、北境は大井川東南に瀕流し、中部河岸に迫り小開新築地横はる。この臺地と丘陵に挟まる狭き

ハツキョー——ハツコ

谷を作り湯目川源流す。平地は梅れ東部に開かれ水田多し。丘陵・臺地は茶の栽培盛なり。米・茶を主産物とし、ほかに牧畜・林業・養蠶或は工業など行はる。縣道東西に貫き省線東海道本線金谷驛へ約四軒、バスの便あり。播磨・波津倉とも書き、往古は初倉驛のありし所、中世は初倉庄と稱せし地。大字湯目を鎌塚と稱し、往時遠江より駿河に至るには此地より大井川を渉り島田に出でしが、後これを禁じ専ら金谷より大井川を渡らしめき。(敬滿神社) 大字坂本に鎮座。郷社。祭神、少彦名命。垂仁天皇廿六年の創祀と云ふも定かならず。仁壽三年十一月勅して當社を名神に預らしめ給ふ。貞觀二年正月正四位下に陞る。江戸時代除地六石三斗を有す。明治七年五月に諏訪神社(祭神、健甕名方命・事代主命)以下四社を合祀す。例祭日、十月十五日。[大楠神社] 大字坂本に鎮座。村社。祭神、大己貴命。式内社。例祭、十一月十五日。

ハツケ 八卦山 臺灣臺中州彰化市の東邊に崛起す。往時は寮望山または定軍山ともいはれ、高からずと雖も登臨一望すれば、西部平野を一時の裡に收め、實に縣城の要害たりき。また景勝を以て聞え、臺灣府志に「寮望山、廣漢平沙孤峰秀出」といひ、古來彰化八景の一として定寮望洋の稱あり。現に臺灣十二勝の一に算へらる。清の雍正九年二月平埔番族

ハツキョー——ハツコ

のタイカマ(大甲)社、亂を北路になし、良民の之に死するもの多し。翌年六月福建陸路提督王郡、兵を率ゐて之を征討し四箇月にして平らぐ。分巡臺廈道道悅より一亭を山上に建て、名づけて觀音亭といひ、山を定軍山と稱し、以て武功を表彰せり。乾隆六十年三月、陳周全の亂に、亭は火に燒かれ遺址を存するなし。嘉慶十七年彰化縣城を改建するや、翌年また山上に磚臺を築き周圍六十丈、雉堞五十六、内高一丈二尺、外高一丈五尺、雉堞を連ぬる高さ三尺、合せて高さ一丈八尺、基寬一丈五尺、上寬一丈とし、砲臺四座、水洞二、樓門一を置けり。八卦山といへる名は嘉慶中、彰化知縣胡應魁の、太極亭を縣署後に建てし時、易の「太極生兩儀、四象生八卦」の義に因みて名づくなりといふ。改號北川宮能久親王殿下御在臺の際には山上に司令所を置かれ、その後御遺跡碑建立せらる。いま頂上に彰化溫泉の浴場あり、中部臺灣唯一の遊覽地として重きをなす。

ハツコ 八公山 朝鮮慶尙北道の中南部、永川・軍威・達城の三部に跨る山。標高一九二米。南對面の達城郡公山面内に名刹桐華寺・把溪寺あり、山内四季の風景に富む。大邱府より桐華寺まで約二〇軒、自動車・馬車の便あり。

ハツコ 八溝山 八溝山(福島・茨城縣境)

ハツコ 發光路鑛山 栃木

ハツコ

縣上都賀郡の船尾・永野の兩村に跨る瀧山。鑛區十二萬餘坪、而して本式に事業に着手せるは昭和十年十月にて、同年の産額は金屬鑛七〇〇越(價額一萬餘圓)とす。なほ鑛山名は船尾村大字上船尾にある字名に因む。

ハツコ 八甲田山 那須火山帯に屬する名高き活火山。青森縣の中央部、東津輕郡濱館・横内・荒川村飛地等の地域と、上北郡十和田村の諸村に據がる一大火山群の總稱にして東方は三本木平原を隔て太平洋に、西方は津輕平野を挟んで日本海に臨み、北方は青森平野に續く。田茂岳(一三二四米)・赤倉岳(一五四八米)・井戸岳(一五五〇米)・大岳(一五八五米)・前岳(一二五二米)・高田大岳(一五五一米)・難岳(一二四〇米)・硫黄岳(一三六〇米)の八峯聳立し、また山上諸所に沮洳の地多きため八甲田の山名出づと云ふ。此山の成因に二説あり。一は八峯を各々獨立したる火山の集合となす説。他は中央火口丘・外輪山・寄生火山より成る二重火山と、その附近に噴出せる獨立火山の總稱となす説なり。前者の説、多く採らる。北端に峙つは前岳にして秀美なる圓錐形をなす。噴出作用は極めて徐々に行はれ、長時間に亘り熔岩・火山灰を堆積せしものにして山頂に火口を認めず。茂瀧岳は前岳の南方に位し、その東南に峙つ赤倉岳との間に火口原を抱き、今は沼澤地をなせど、曾ては

ハツコ

噴氣ありしため噴出せる硫氣により安山岩變質して白色軽石状をなす。赤倉岳は中央火口丘と稱せるものにして、其東北面は爆發に依りて飛散し去り、赭色の岩石絶壁をなす。尙頂上の東面に小爆發火口湖赤倉湖あり、周囲の風物面白し。井戸岳は赤倉岳の南腹に噴火し、山頂に圓筒狀の火口、南腹に爆發火口を有す。火口内には高山植物生育す。井戸岳の南方に噴起せる成層火山は大岳にしてこの山群中の最高峯をなす。山頂は鈍圓形にして集塊熔岩にて掩はれ、山頂部のや、東偏に徑約一四〇米、深さ約五〇米の圓形火口を有す。火口の西壁は懸崖をなし集塊岩及び杏子狀熔岩の好露出あり。山頂より西南に下りし所に爆發火口址あり、徑一〇米の小湖を湛ふ。鏡沼と稱しハコネサンセウウチ・アカガヘル等棲息す。又この山の西南腹酸ヶ湯附近にも硫黄噴氣孔あり。直徑約五〇米に及ぶ二箇の圓形窪地發達し、そこに熱湯を湛へ大湯または地獄沼と呼ぶ。この附近は八甲田山中最後に活動せし所にして溫泉諸處に湧出す。高田大岳は東方に位する。成層火山にして八甲田第二の高峯なり。山頂部まで樹木を以て掩はれ、火口は破壊せられて北方に開く。小岳はこの西側にある熔岩丘にして、難岳はその東北側に峙つ。此山の植物景觀に就き特筆すべきは、九〇〇米以上一三〇〇米の間に生育するオホシラビツの森林なり。これは

ハツコ

俗稱トドマツと云ひ、北海道トドマツと區別し青森トドマツと稱せらる。其他、ナナカマド・ミヤマハンノキ・サウシカシバ等の針葉樹林繁茂す。八甲田山近傍は數多く溫泉湧出し、南麓に萬・猿倉・谷地、西方に酸ヶ湯、北方に田代元湯・新湯等の諸溫泉あり。また八甲田山の裾野一帯は好スロープをなし、雪質もよくスキーに適し、冬季はスキー集ひ來る。谷地・猿倉溫泉等は其の根據地をなす。なほ夏季キャンプに適する箇所も尠からず。八甲田登山は通常八甲田大岳に登ることを意味し、青森口と葛溫泉口とあり。青森口は青森市より山頂まで約三三軒、途中酸ヶ湯まで二九軒、青森バスあり。酸ヶ湯より山頂まで約三軒、往復三時間を要す。山頂の眺望は雄大にして北方に津輕平野・青森市街を俯瞰し、青森灣を抱く下北・津輕の兩半島一瞥に集り、東方は井戸岳その他の山々を望み、西方は岩木山の秀峯、南方は高田大岳を経て十和田湖外輪の山々を眺む。尙ほ大岳より井戸岳を経て赤倉岳までは容易に達し得れども、他の山々は猛烈なる葎のため登攀困難、また登山的興味を多しとせず。高田大岳は東南麓谷地溫泉より多大の困難を以て登り得らる。萬溫泉口は十和田街道焼山より山麓に入り、五軒にて葛湯に至り、それより睡蓮沼を経て酸ヶ湯に至り、青森口と合す。尙ほ明治三十五年一月二十三日青森歩兵聯隊の一

ハツコ

大隊二百二十名、青森より田代を経て三本木に出づる謂ゆる八甲田越の雪中行軍中に吹雪に襲はれ、遂に十二名を殘して他は悉く凍死し、しかも最後まで軍規を紊さざりしと云ふ。いま山麓田代元湯附近に遭難軍人の碑あり。

ハツコ 栢谷面 朝鮮忠清南道鎮川郡の西端。鎮川面に北隣す。東境に車道山脈に屬する玉女峰(四五六米)・武帝山(五七四米)・白石峰等、西北境には瑞雲山(五四七米)、南境には萬嶺山(六一二米)等聳立し、城内殆ど山地にして栢谷川の溪谷に沿ひ小低地の點綴を見る。住民は實科にして主として農を營む。農産物の主なるものは大麥・小麥・米・大豆等あれど漸く自給自足の域にあり。其他繭・煙草・改良乾柿・蓮蓴・金・銀等あり。道路は東南端の面邑石峴里を中心として扇骨狀に西北方に通じ、殊に西方笠場に通ずるものは、社線京南鐵道京畿線笠場驛に連絡し乗合自動車の便あり。聚落は各道路網に沿ひて分布す。

ハツコ 伐谷面 朝鮮忠清南道鎮川郡の東端部に位置し、郡邑論山の東方約一五軒にあり。東南境には大屯山脈の首峯大屯山(八七八米)嶺々たる山容をなして城内に迫り、西北境には天護山(三五二米)・成朴峰等連なり、低地極めて乏しく、ただ僅かに甲川の支谷伐谷川沿岸に耕地の散點するに過ぎず。住民は農業を主とし傍ら採薪の業に従事す。農産物は

ハツコ

ハツサ

栗・大豆を主とし其他大麥・米等あり。また棗・柿・栗等の果物を産す。鐵道湖...

ハツサキ 鉢崎 新潟縣中頸城郡米山...

ハツサク 鉢坂 武藏國(神奈川縣)の...

ハツシヨ 八獎溪・八掌溪 臺灣臺南州の一河川...

ハツシヨ 八獎溪・八掌溪 臺灣臺南州の一河川...

ハツシヨ 八獎溪・八掌溪 臺灣臺南州の一河川...

ハツシヨ 八獎溪・八掌溪 臺灣臺南州の一河川...

ハツシヨ 八獎溪・八掌溪 臺灣臺南州の一河川...

ハツシヨ 八獎溪・八掌溪 臺灣臺南州の一河川...

ハツシヨ 八獎溪・八掌溪 臺灣臺南州の一河川...

ハツタ

に曰く青峰岡在致港口とより海に入る。と記するに依りて知るべく、今なほ之を...

ハツシランリン 八芝蘭林 士林街(臺灣)...

ハツシリン 八芝林 士林街(臺灣)...

ハツセ 初瀬川 泊瀬にも作る。奈良...

ハツセ 初瀬川 泊瀬にも作る。奈良...

ハツセ 初瀬川 泊瀬にも作る。奈良...

ハツセ 初瀬川 泊瀬にも作る。奈良...

ハツセ 初瀬川 泊瀬にも作る。奈良...

ハツセ 初瀬川 泊瀬にも作る。奈良...

ハツセ 初瀬川 泊瀬にも作る。奈良...

四七四

官行伐木事業を以て知らる。河事業は大正三年實地調査を遂げ、翌年議會の協賛...

ハツタ 八津田村 福岡縣豊前國築上郡...

ハツタ 八津田村 福岡縣豊前國築上郡...

ハツタ 八津田村 福岡縣豊前國築上郡...

ハツタ 八津田村 福岡縣豊前國築上郡...

ハツタ 八津田村 福岡縣豊前國築上郡...

ハツタ 八津田村 福岡縣豊前國築上郡...

ハツタ 八津田村 福岡縣豊前國築上郡...

ハツタ 八津田村 福岡縣豊前國築上郡...

ハツタ 八津田村 福岡縣豊前國築上郡...

四七五

抄に河鹿郡八田郷あり、その地今の河鹿郡西八田村の邊に當る。

ハツタ 治田 三重縣伊勢國員辨郡の西部...

ハツタ 治田 三重縣伊勢國員辨郡の西部...

ハツタ 治田 三重縣伊勢國員辨郡の西部...

ハツタ 治田 三重縣伊勢國員辨郡の西部...

ハツタ 治田 三重縣伊勢國員辨郡の西部...

ハツタ 治田 三重縣伊勢國員辨郡の西部...

ハツタ 治田 三重縣伊勢國員辨郡の西部...

ハツタ 治田 三重縣伊勢國員辨郡の西部...

ハツタ 治田 三重縣伊勢國員辨郡の西部...

ハツタ

ハツタリ 發足村 北海道後志國後志支庁...

ハツタリ 發足村 北海道後志國後志支庁...

ハツタリ 發足村 北海道後志國後志支庁...

ハツタリ 發足村 北海道後志國後志支庁...

ハツタリ 發足村 北海道後志國後志支庁...

ハツタリ 發足村 北海道後志國後志支庁...

ハツタリ 發足村 北海道後志國後志支庁...

ハツタリ 發足村 北海道後志國後志支庁...

ハツタリ 發足村 北海道後志國後志支庁...

ハツタリ 發足村 北海道後志國後志支庁...

ハツタリ 發足村 北海道後志國後志支庁...

ハツタリ 發足村 北海道後志國後志支庁...

ハツタリ 發足村 北海道後志國後志支庁...

ハツタリ 發足村 北海道後志國後志支庁...

ハツタリ 發足村 北海道後志國後志支庁...

ハツタリ 發足村 北海道後志國後志支庁...

ハツタリ 發足村 北海道後志國後志支庁...

ハツタリ 發足村 北海道後志國後志支庁...

ハツタリ 發足村 北海道後志國後志支庁...

ハツタリ 發足村 北海道後志國後志支庁...

ハツタリ 發足村 北海道後志國後志支庁...

ハツタリ 發足村 北海道後志國後志支庁...

ハツタリ 發足村 北海道後志國後志支庁...

ハツタリ 發足村 北海道後志國後志支庁...

ハツタリ 發足村 北海道後志國後志支庁...

ハツタリ 發足村 北海道後志國後志支庁...

ハツタリ 發足村 北海道後志國後志支庁...

ハツタリ 發足村 北海道後志國後志支庁...

ハツタリ 發足村 北海道後志國後志支庁...

ハツタリ 發足村 北海道後志國後志支庁...

ハツタリ 發足村 北海道後志國後志支庁...

ハツタリ 發足村 北海道後志國後志支庁...

ハツタリ 發足村 北海道後志國後志支庁...

ハツタリ 發足村 北海道後志國後志支庁...

ハツタリ 發足村 北海道後志國後志支庁...

ハツタリ 發足村 北海道後志國後志支庁...

ハツタリ 發足村 北海道後志國後志支庁...

ハツタリ 發足村 北海道後志國後志支庁...

ハツタリ 發足村 北海道後志國後志支庁...

ハツタリ 發足村 北海道後志國後志支庁...

ハツタリ 發足村 北海道後志國後志支庁...

ハツタリ 發足村 北海道後志國後志支庁...

ハツタリ 發足村 北海道後志國後志支庁...

ハツタリ 發足村 北海道後志國後志支庁...

ハツタリ 發足村 北海道後志國後志支庁...

ハツタリ 發足村 北海道後志國後志支庁...

ハツタリ 發足村 北海道後志國後志支庁...

ハツタリ 發足村 北海道後志國後志支庁...

ハツタリ 發足村 北海道後志國後志支庁...

ハツタリ 發足村 北海道後志國後志支庁...

ハツタリ 發足村 北海道後志國後志支庁...

ハツタリ 發足村 北海道後志國後志支庁...

ハツタリ 發足村 北海道後志國後志支庁...

ハツタリ 發足村 北海道後志國後志支庁...

ハツタリ 發足村 北海道後志國後志支庁...

ハツタリ 發足村 北海道後志國後志支庁...

ハツタリ 發足村 北海道後志國後志支庁...

ハツタリ 發足村 北海道後志國後志支庁...

ハツタリ 發足村 北海道後志國後志支庁...

ハツタリ 發足村 北海道後志國後志支庁...

ハツタリ 發足村 北海道後志國後志支庁...

ハツタリ 發足村 北海道後志國後志支庁...

ハツタリ 發足村 北海道後志國後志支庁...

ハツタリ 發足村 北海道後志國後志支庁...

昌まで僅かに五軒、盆地の関門に位置し交通の要衝をなす。金城山の頂には石築周回三軒餘の城址あり。

ハットリ 服部

【服部】鳥取縣若美郡にありし村。昭和三年に福部村と改む。

【服部村】岡山縣備中國吉備郡の東南部。總社町の東に隣り、南は都窪郡に界す。全村地形平坦にして、一望の沃野開く。米・蕎麥の産あり。生柿を特産とす。縣道南部に通じて總社町及び岡山市へバスを通じ、北部には社線中國鐵道走りて服部驛(明治四十一年設置)あり。此地は和名抄、賀夜郡服部郡にして尊人の一族ここに住し機織の業に従ひし處なり。應神紀に「天皇御幸於吉備國葉田葦守宮、以織部縣賜妃兄媛」と載せし織部縣の地なり。大字長良の服部山上に城址あり、延元元年大江田光信の築く所にして、のち細川氏の有に歸し、その將上野盛行ここに居りしも、文明三年光信四世の孫、彌屋康光これに代る。のち六世親光に至り、天正九年冠山城に移りしが同年羽柴秀吉の陥るところとなり、のち宇喜多氏の將戸川秀安の居城となる。

【服部村】廣島縣備後國備前郡の東部。福山市の西北約七軒に位し、地形南北に細長く東は深安郡に界す。山脈周囲をかこみ中部に南方へ通ずる谷ありて河川南流し南境附近なる湖水に注ぐ。河川に沿ひて狭長なる低地を見る。農業一般に行

はれて穀業發達し、林産も多く畜産も出た。また工業物もあり。省線福鹽線戸手驛へは西南約一軒餘あり。此地は和名抄、品治郡服部郡の地なり。

【服部】岡山縣備中國吉備郡の東南部。總社町の東に隣り、南は都窪郡に界す。全村地形平坦にして、一望の沃野開く。米・蕎麥の産あり。生柿を特産とす。縣道南部に通じて總社町及び岡山市へバスを通じ、北部には社線中國鐵道走りて服部驛(明治四十一年設置)あり。此地は和名抄、賀夜郡服部郡にして尊人の一族ここに住し機織の業に従ひし處なり。應神紀に「天皇御幸於吉備國葉田葦守宮、以織部縣賜妃兄媛」と載せし織部縣の地なり。大字長良の服部山上に城址あり、延元元年大江田光信の築く所にして、のち細川氏の有に歸し、その將上野盛行ここに居りしも、文明三年光信四世の孫、彌屋康光これに代る。のち六世親光に至り、天正九年冠山城に移りしが同年羽柴秀吉の陥るところとなり、のち宇喜多氏の將戸川秀安の居城となる。

【服部村】廣島縣備後國備前郡の東部。福山市の西北約七軒に位し、地形南北に細長く東は深安郡に界す。山脈周囲をかこみ中部に南方へ通ずる谷ありて河川南流し南境附近なる湖水に注ぐ。河川に沿ひて狭長なる低地を見る。農業一般に行

はれて穀業發達し、林産も多く畜産も出た。また工業物もあり。省線福鹽線戸手驛へは西南約一軒餘あり。此地は和名抄、品治郡服部郡の地なり。

【服部】岡山縣備中國吉備郡の東南部。總社町の東に隣り、南は都窪郡に界す。全村地形平坦にして、一望の沃野開く。米・蕎麥の産あり。生柿を特産とす。縣道南部に通じて總社町及び岡山市へバスを通じ、北部には社線中國鐵道走りて服部驛(明治四十一年設置)あり。此地は和名抄、賀夜郡服部郡にして尊人の一族ここに住し機織の業に従ひし處なり。應神紀に「天皇御幸於吉備國葉田葦守宮、以織部縣賜妃兄媛」と載せし織部縣の地なり。大字長良の服部山上に城址あり、延元元年大江田光信の築く所にして、のち細川氏の有に歸し、その將上野盛行ここに居りしも、文明三年光信四世の孫、彌屋康光これに代る。のち六世親光に至り、天正九年冠山城に移りしが同年羽柴秀吉の陥るところとなり、のち宇喜多氏の將戸川秀安の居城となる。

ハットー

はれて穀業發達し、林産も多く畜産も出た。また工業物もあり。省線福鹽線戸手驛へは西南約一軒餘あり。此地は和名抄、品治郡服部郡の地なり。

ハットル

【ハットル】社 臺灣新竹竹東郡にある藩社にて、マッコロン溪左岸の李峻山より東南走せる殺線高地の南方、標高約九四〇—一五七〇米の地帯に位す。マヤル族のマッコロン藩に屬する高砂族より成る部落。古來、マッコロン藩は兎暴を逞うし、官憲に反抗すること屢々なり、因て明治四十四年・大正元年・大正二年の前後三回の大討伐を受け、大正三年歸順したるものなり。

【ハツネ】初音 臺灣東線の一驛(大正五年設置)。臺灣花蓮港廳吉野郡吉野村にあり。

【ハツプー】八風峠 鈴鹿山脈を釋迦ヶ岳(一〇九二米)の北方鞍部に於て乗越す峠。東面は三重縣三重郡朝上村に、西面は滋賀縣愛知郡東小椋村に屬す。峠路は西方の愛知川の上流より東方の朝明川の上流地へと越し、昔は旅人の往來多かりしも、今は炭焼く人々のみの山徑となれり。

【ハツホー】八方岳 八方岳(熊本縣)の別稱。

【ハツヤマ】初山村 長崎縣壹岐國壹岐郡壹岐島の南端。北部を除く外は壹岐海峡に臨む。西北部は武生水町に接す。全村山地にて地形高峻なり。東南部には小

もこれに沿ひて發達す。省營自動車常野本線は茨城縣大子町より來り、この縣道を走り、南折して烏山町方面に通ず。その他、西隣小川町には社線東野鐵道那須小川驛ありてバスを通ず。この地は和名抄、那須郡茂武郡の内にして、もと武茂村と稱せしが明治廿四年現稱に改む。町内には武茂城址あり、宇都宮景綱の三男常陸介泰宗、始めて此の附近を領し、ここに築城す。〔唐所稱穴〕指定史蹟。馬頭町和見と武茂村北山向との境界なる岩下山に存す。凝灰岩の丘陵上に設けられたるものにて、石室は玄室及び前室より成り、前室は其一部を存するのみなるも、玄室は完全し入口は方形にて門扉を設けし軸摺の跡を存す。奥行九尺六寸九分、幅六尺六寸、高六尺一寸九分、天井には棟木を刻せり。本丘陵上に存する多数の横穴とはその構造を異にし、最も精巧を極むるものなり。〔健武山神社〕健武に鎮座。郷社。祭神、日本武尊・金山彦命。景行天皇は日本武尊の功を嘉せられ諸國に武部なる御名代を置き給ひぬ。當社その遺址の一と傳ふ。延喜の制小社に列す。弘化元年、徳川齊昭の崇敬厚く附近十六箇村の總鎮守とし且つ別當寺大泉院を廢して社領七石餘を寄進し、社殿の造營・祭祀等すべて藩費を以て充つる事とし、例祭日には奉幣使を遣すを例とせり。例祭、四月三日。〔葦子山神社〕大字又次に鎮座。郷社。祭神天日彥命。

山崎・海峽崎の細長き突出あり。西岸には梅津灣ありて東北方へ灣入し崎崎その南を圍む。氣候海洋性にて一般に溫和なれど土地高地なれば灌漑の便悪しく耕地少く、村内針葉樹林廣し。水産類最も多し。交通不便なり。此地は和名抄、石田郡寛原郷の内なるべく、延喜式の石田郡爾自神社は今の初山八幡宮なりと。

【ハデ】羽出村 岡山縣美作國吉田郡の西北部。津山市の西北約一三軒に位し、西隣は眞庭郡に西北は鳥取縣東伯郡に界す。南境には山脈東南より西北に連りて村境を限り中央に不溜山(一一二五米)を起し、更に山脈北に延びて西隅を劃し、此處に山來山・津黒山(一一八米)等聳ゆ。津黒山より更に東北方へ山嶺連りて西北境をなす。之より東南方へ延びる山地は中央に蟠る。東境にも一〇〇米餘の山來ありて南へ次第に下りて村境を劃す。南部には山來山に發して東南流する河川ありて東部を貫き南下する吉井川に合す。米・蕎麥・木炭および生柿の特産あり。村を西北より東南に貫く道路あり。津山市よりは東隣津津村行のバスあり。此地は文藝年間銀を採掘せし事あり、天和年間再び試掘せしが遂に成功せざりしといふ。

【ハテナシ】果無山 奈良縣吉野郡と和歌山縣東牟婁郡との境上に跨る山。東西約三〇軒に互る山脊を有し、和田ノ森・安塔山・目前森山等を起す。果無山脈と

大己貴命・少彦名命。平城天皇大同二年の創建と傳ふ。源頼朝・同賀朝崇敬せりと云ひ、江戸時代に入り、幕府より二十石の外、餘地百石を寄せらる。例祭、十一月十七日。

【バド】馬洞 京義本線の一驛(明治四十一年設置)。朝鮮黃海道鳳山郡土城面にあり。

【ハトガヤ】鳩ヶ谷町 埼玉縣武蔵國北足立郡の東南部。川口市の東北隣。全町平地にして南部には水田、北部には畑地多し。農業行はれて米麥を産す。また織物の製造盛んなり。岩槻街道は中央を南走して川口市に通じ、聚落はこれに沿ひて發達す。また西方隣町にも縣道を通じ、川口市に省線東北本線川口驛、巖町に同線巖町ありて何れもバスを通ず。その他、西北方の浦和市、東方の草加町にも縣道通じてバスの便あり。此地は和名抄、足立郡發度郷の地にして、もと鳩井と稱す。明治三十四年に北平柳村を本村に合併す。富士講の首祖八代の教孫なる小谷庄兵衛(贈從五位)は本町の人なり。

【ハトサキ】鳩崎村 茨城縣常陸國稻敷郡の東北部。江戸崎町の北隣にて霞ヶ浦に臨む。大部分丘陵地をなすも霞ヶ浦沿岸には平地ありて、米・麥を産す。縣道江戸崎町に通ず。また霞ヶ浦は水運の便あり。この地は和名抄、信太郎信太郎の内に於て、東寺文書に信太郎初崎とあるはこの崎なり。

も稱せらる。標高一〇〇米乃至一二〇〇米、山體は中生層より成る。東方は十津川、西方は日高川に限られ、北麓を上湯川東流して十津川に落ち、南側よりは日置川及び十津川下流音無川の多くの枝潭發源す。

【ハデルマ】波照間島 竹富村(沖繩縣八重山郡) 波道面 朝鮮咸鏡南道端川郡の東南端にありて、東南方は日本海に臨む。北部に雲住山(四二二米)の聳ゆる他著しきものなく、南部は南大川の沖積平野(端川平野)を成し、水利良く道中の主要農産地を成す。東部には銀湖あり住民の多数は農業に従事し、其他、商・工・漁業に従事する者あり。農産物は大豆・粟・蜀黍・米・大麻等にして殊に大豆は端川大豆として良質を以て著る。また麻布・紬等あり。水産物には明太魚・鮭等あり。總督府鐵道咸鏡本線は中部を東西に横斷し、略中央に端川驛(大正十三年設置)あり。道路は此地を起點とし咸津・利原への二等道路を、東方の汝海津と北方の甲山への三等道路の他、等外道路線放射狀に城内に通じ交通便なり。龍城里、内門里等の地域を端川邑と稱す。邑は端川平野の中心都邑にして人口約五・五千、うち内地人約三百。端川郡廳・咸興地方法院出張所・稅務署・警察署・穀物検査所・農業補習學校等あり。市街は大夏等の取引活潑なり。特産に双物・玉石

【ハトタ】服田 武蔵國(神奈川縣)の古地名。和名抄に久良郡服田郷あり、波止太と訓ず。その地今の横濱市内ならんも詳かならず。

【ハトノフ】社 臺灣花蓮港研海郡にある藩社。粵嶺山の東南方タツキリ溪左岸の山腹、標高約一二四〇米の高所に位す。約二十年前、人口増加に依りクパヤン社より四戸一八人を以て分離し來りて現在の社を形成せり。アマヤル族のタロコ藩に屬する高砂族なり。

【ハトマ】鳩間島 沖繩縣八重山郡の一島。西表島の北方約二哩にあり。周圍は四軒に充たず、部落は南海岸にあり。土地肥沃なるも、狭小なるを以て古來西表島に航して農作に従事す。

【ハトリ】羽鳥 茨城縣東茨城郡竹原村の大字。常磐線の羽鳥驛(明治二十八年設置)を置く。

【ハトリ】服部 【服部】越前國(福井縣)の古地名。和名抄に今立郡服部郷あり、波止利と訓ず。刊本に勝部とあるは誤なり。その地今の今立郡服部村の邊に當る。 【服部】三河國(愛知縣)の古地名。和名抄に八名郡服部郷あり、波止利と訓ず。その地今の八名郡舟着村の邊に當る。 【服部】伊賀國(三重縣)の古地名。和名抄に阿拜郡服部郷あり、その地今の阿山郡府中村・中瀬村・上野町の邊に當り、府中村の大と服部は其の遺稱なるべし。

ハトリ——ハナオ

服部氏の邑にして延喜式に「伊賀國賀調寮校」とあるはその所造なるべし。

【服部】伊勢國(三重縣)の古地名。和名抄に在藤部服部郷あり、波止利と訓ず。

【服部】近江國(滋賀縣)の古地名。和名抄に野洲郡服部郷あり、八士利と訓ず。

【服部】大和國(奈良縣)の古地名。和名抄に山邊郡服部郷あり、波止利と訓ず。

【服部】備前國(岡山縣)の古地名。和名抄に邑久郡服部郷あり、波止利と訓ず。

【服部】備前國(岡山縣)の古地名。和名抄に邑久郡服部郷あり、波止利と訓ず。

【服部】備前國(岡山縣)の古地名。和名抄に邑久郡服部郷あり、波止利と訓ず。

ハナオカ

【花岡村】秋田縣羽後國北秋田郡の北部。大館町の北方約七村。西北境には袴腰山(六一四米)あり、西・北・東北の三境には山地連りて南方に傾斜し、花岡川は袴腰山に發源して、町の中部を南流し、大森川は東南境をなして西南に流れ花岡川に合す。町の東南部は平坦にして耕地拓く。農業及び鑛業を主産業とし、米・銅鑛を産す。南方奥羽本線大館驛へは約五村。社線小坂鐵道花岡驛(大正五年設置)を置く。鑛山町として順に發展し昭和七年町制を布く。天正年間、淺利左衛門定頼、花岡城代となり居住せしが、のち秋田勢と隣邑山田村に戦ひて死す。〔花岡鑛山〕花岡町と釋迦内村とに跨がる重要鑛山。鑛區は發露上二に分れ、合して一七二萬餘坪、鑛種は金・銀・銅・鉛・亞鉛・硫化鐵とす。鑛床は多く地表下の淺所に不規則なる地状をなして所々に伏在し黒鑛々床とす。鑛床を脈胎する母岩は主として安山岩質凝灰岩とす。昭和十年には金銀銅鐵二・四、八七七七、鉛鐵一、六三六、亞鉛鐵四、八七七七を産出し、このうち金銀銅鐵は云はば姉妹關係にある小坂鑛山に送りにて合併製錬す。本鑛山は明治十九年の發見にして現在には藤田鑛業會社の經營にて、昭和十年六月末の使役鑛夫一、二七三人とす。

【花岡町】三重縣伊勢國飯南郡の東部。荒平の三驛(共に大正十二年設置)あり。古江驛より北方の始良郡平人町・國分町方面へは省營バス通ず。此地は和名抄、大隅郡大隅郷の内なるべく、享保年中まで大始良郷の屬色なりしと云ふ。

【花岡村】花垣村 三重縣伊賀國名賀郡の西北部。北部は阿山郡に接し、東北約五村には上野町あり。西は奈良縣添上郡・山邊郡に界す。全村丘陵性の山地をなし西南境に沿ひて名張川西北流す。農業を主業とし、副業として養蠶・養鶏行はる。主産物は米・繭・鶏卵・薪炭にて特産物には竹細工・麻織物・粘土あり。北部には上野町より西方笠置町・奈良市方面へ通ずる縣道走り、自動車往來あり。もと餘野莊と呼ばしが、上東門院が奈良興福寺の八重櫻の料として寄附せられしより花垣里と呼ぶ。

【花岡村】花ヶ島 日豊本線の一驛(大正二年設置)。宮崎市にあり。

【花岡村】華ヶ岳山 阿蘇火山群の一峯。國東半島の南部、大分縣西國東郡田原・河内の二村と速見郡立石町との境上に峙つ。標高五九三米、山體は火山岩より成る。

【花岡村】花川 北海道石狩支廳石狩郡にありし村。明治四十年石狩町と合し石狩町を置く。

【花岡村】華川村 茨城縣常陸國多賀郡の北部。磯原町の北隣にある大村なり。阿武隈山脈中の一節を占め、西北

ハナカワ

【花岡村】花岡 三重縣伊賀國名賀郡の西北部。北部は阿山郡に接し、東北約五村には上野町あり。西は奈良縣添上郡・山邊郡に界す。全村丘陵性の山地をなし西南境に沿ひて名張川西北流す。農業を主業とし、副業として養蠶・養鶏行はる。主産物は米・繭・鶏卵・薪炭にて特産物には竹細工・麻織物・粘土あり。北部には上野町より西方笠置町・奈良市方面へ通ずる縣道走り、自動車往來あり。もと餘野莊と呼ばしが、上東門院が奈良興福寺の八重櫻の料として寄附せられしより花垣里と呼ぶ。

【花岡村】花ヶ島 日豊本線の一驛(大正二年設置)。宮崎市にあり。

【花岡村】華ヶ岳山 阿蘇火山群の一峯。國東半島の南部、大分縣西國東郡田原・河内の二村と速見郡立石町との境上に峙つ。標高五九三米、山體は火山岩より成る。

【花岡村】花川 北海道石狩支廳石狩郡にありし村。明治四十年石狩町と合し石狩町を置く。

【花岡村】華川村 茨城縣常陸國多賀郡の北部。磯原町の北隣にある大村なり。阿武隈山脈中の一節を占め、西北

【花岡村】華川村 茨城縣常陸國多賀郡の北部。磯原町の北隣にある大村なり。阿武隈山脈中の一節を占め、西北

【花岡村】華川村 茨城縣常陸國多賀郡の北部。磯原町の北隣にある大村なり。阿武隈山脈中の一節を占め、西北

ハナカ

【花岡村】華川村 茨城縣常陸國多賀郡の北部。磯原町の北隣にある大村なり。阿武隈山脈中の一節を占め、西北

【花岡村】華川村 茨城縣常陸國多賀郡の北部。磯原町の北隣にある大村なり。阿武隈山脈中の一節を占め、西北

【花岡村】華川村 茨城縣常陸國多賀郡の北部。磯原町の北隣にある大村なり。阿武隈山脈中の一節を占め、西北

【花岡村】華川村 茨城縣常陸國多賀郡の北部。磯原町の北隣にある大村なり。阿武隈山脈中の一節を占め、西北

【花岡村】華川村 茨城縣常陸國多賀郡の北部。磯原町の北隣にある大村なり。阿武隈山脈中の一節を占め、西北

【花岡村】華川村 茨城縣常陸國多賀郡の北部。磯原町の北隣にある大村なり。阿武隈山脈中の一節を占め、西北

【花岡村】華川村 茨城縣常陸國多賀郡の北部。磯原町の北隣にある大村なり。阿武隈山脈中の一節を占め、西北

【花岡村】華川村 茨城縣常陸國多賀郡の北部。磯原町の北隣にある大村なり。阿武隈山脈中の一節を占め、西北

ハナオ——ハナカ

十二歳を以て歿し山守山に葬る。門人等墓側に山守山神社(縣社、松阪市地内)を建て其靈を祀り、明治十六年正四位を贈らる。なほ宣長の舊宅は鈴屋舎と稱し、もと宣長の誕生地たる今の松阪市の魚町にありしが、明治四十二年、松阪市の松阪の松阪公園内に移す。自作像・稿本及び異常愛玩の古鈴等保存せらる。〔寶塚古墳〕指定史蹟。宝花岡の丘上にあり。丘上一帯古墳群なりしが、開墾のため殆ど破壊せられ、いま僅に二塚を存するのみ。二塚は南北に相對し雄大なる點この地方代表的の古墳なり。南塚は前方後圓型にして正東に面し、頂部は軍隊演習のため斬壕となせし跡あるも、他の部分は完存し舊規の見るべきものあり。また周邊に墳輪圓筒を繞らせし痕跡あり。北塚は圓墳にして頂部は南塚と同じく多少破壊せられたるも、他の部分は完存し舊規の見るべきものあり。周邊に墳輪圓筒を繞らせる痕跡あり。

【花岡村】山口縣周防國都鄙郡の南部。徳山市の東南方約五村、下松町の北に位す。東北半部は一五〇米餘の丘陵起伏して西に傾斜し山林地をなす。西南半部は土地頗る平坦にて肥沃、且つ西北村境に沿ひ小流貫流して灌漑に便し、田地よく拓けて農業盛なり、米・繭その他の農産物多し。村の中部を東西に國道山陽道通り徳山市・高森町を連絡す。また下松町を通る省線山陽本線下松驛へ約四村、各々へバスを通ず。和名抄、都鄙郡生屋郷の中に末武あり、中世の庄號にして、いま南北二村に分つ。東鑑に得善末武とあり、康暦二年、國人に末武新三郎あり、蓋し此色の領主にして、その祖は大内氏に出づといふ。花岡は末武北村の中なる中國街道の驛舎たり。昭和四年に末武北村を花岡村と改む。〔花岡八幡宮〕大字末武上に在り。古義眞言宗。仁和寺末。古來、花岡八幡宮社七坊の一にして、慶長中に炎上し、文化二年再建せらる。多寶塔は國寶なり。

【花岡村】鹿兒島縣大隅國肝屬郡の西北部。大隅半島西岸にて鹿兒島灣に臨み東は鹿屋町に接す。全村丘陵起伏して土地高燥なり。東北隅に高須川發し東南流して南隣大始良村に入り、西南に折れて鹿兒島灣に注ぐ。西岸は山地迫りて平地乏しく且つ概して單調なれども、西部及び南部に鶴ノ瀨崎・瀨先等ありて附近に二ツ島・大神島等の小島浮ぶ。西北部を古江浦と言ふ。米・繭・夢を産し、畜産・林産・水産・工業あり。海岸に縣道走り東南方へ向ふ道路もあり。省線古江線南方より來りて海岸に沿ひ、古江・船間・

【花岡村】華川村 茨城縣常陸國多賀郡の北部。磯原町の北隣にある大村なり。阿武隈山脈中の一節を占め、西北

ハナカ ー ハナセ

を納めしと云へば、當社の創建或はそれ以前にありしと考へらる。式内小社。例祭、九月十五日。

ハナカワド 花川戸 東京の町名、いま浅草區花川戸町。北は山宿町、西は馬道に隣接し、東は隅田川に沿ひ、吾妻橋の北に在り。歌舞伎十八番の助六によりて其名著はる。和合人・初中一馬の塚にこまるナ。馬道へいつたら有だらう。名計馬道でも、馬のたんと通る所ではれへ、イナイヤ花川戸の通りにほきつと有、千住街道だから。

ハナキ 華城 山口縣佐波郡にありし村。昭和十一年外敷箇町村と共に防府市を建つ。

ハナサキ 花咲

【花咲半島】 北海道本島の東南部に突出する一半島。行政上は根室支廳根室郡・花咲郡に互る。東南側は太平洋に面し、西北側は根室灣に臨む。海拔六〇米以下の丘陵地にて、海岸には著しき崖崖はなく小海岸平野あり。半島頭部にては温根沼等の潟湖あり、南方に落石岬の小半島が突出し、半島の先端は納沙布岬にて瑤瑠海峡を隔てて水島列島と相對し、西北側には根室港、東南側には花咲港・齒舞港あり。納沙布岬には高さ二・三米の納沙布燈臺あり、落石岬には我國最古の無線局あり。花咲港は根室郡根室町の一港にて、花咲半島の北面にある根室港の背面に當り、根室港が冬期結氷して船舶の

入港不能の時その代用港となる。なほ本港附近に産する花咲蟹は有名なり。

【花咲郡】 北海道根室國根室支廳管下十三郡の一。根室國の東端、花咲半島の東部及び瑤瑠海峡を隔て、散布せる水晶島・志登島・秋勇留島その他の小島をも含む。面積一六五平方町。齒舞村一村より成る。西は浸蝕臺地に依て根室郡に接し、他の三方は海に面す。半島部は地勢概ね五〇米内外の海蝕臺地より成り海岸に低地あり。耕地面積は畑の二五六町のみにして主産業は漁業なり。海岸線は出入に富み、海岸には漁業聚落を有す。近海には帆立貝・鮭・鱈・鱒・昆布等の漁利多し。本郡は大正四年友知村・沖根村・瑤瑠村・沖根邊村・齒舞村の舊五村を合して置けるもの。此地の共同墓地の入口に横死七十一人の墓あり。此の碑は大正元年海底より曳き揚げしものなり。寛政元年五月、蝦夷マメキリ、國後の運上屋を襲ひ手代・番人を殺し、更に海を渡りて標津に入り、運上屋番屋に亂入、和人数十人を殺害したる事件あり、この碑は蓋しこの際の犠死者合葬の墓碑なるべし。【志登島・志勇島】 本郡の屬

ハナシ 葉梨村

靜岡縣駿河國志太郡の中郡。藤枝町の北方、岡部町の西に接す。西北側には三〇〇米前後の丘陵連なり、東南へ瀬戸川の一支流を源流し、中部より東南へかけて谷平野開く。平野は水田よく拓け、南面の傾斜地には茶園多し。農業を主業とし、米・茶・蜜柑の産多し。其他には畜産・林業・工業・養蠶等行はる。藤枝町より谷沿ひに一條の道路來りバスを通ず。この地は中世、粟梨庄と稱せし地にして、此處に二階堂駿河守藤原惟行の塚と傳ふるものあり。また大字花倉に今川氏の館址及び古寺社の址あり。【八幡神社】 大字花倉に鎮座。神社。祭神、品陀和氣命・高良玉垂大神・息長帯比賣命。領主今川氏の氏神とせられ、萬く崇敬せらる。江戸時代を通じて、朱印領二十八石を有せり。例祭、九月十六日。

ハナシキ 花敷

↓六合村(群馬縣) 廣島縣神石郡にありし村。明治三十年に外三村と共に合併して仙養村を建つ。

ハナセ 花脊

【花脊村】 京都府山城國愛宕郡の北部。南境は京都市上京區の北隅より隔ること東北へ約四町。西北部及び西部は北桑田郡に界す。四周山地を繞らし北部に大慈山(七四七米)あり。大堰川は北方より流れ來りて西北部を南流し、中央にて南境に發し北流する支流を合せて西に流る。流域に稍廣潤なる谷開けて隣村への道路となる。農産・林産あり。谷に沿ひて縣道は北方・西方及び南方へ走りバスの便ありて交通不便ならず。南隣鞍馬村との間に花脊峠あり。【峰定寺】 原地新田にあり。天台宗寺門派。大悲山と號す。久壽元年觀音西念、鳥羽法皇の勅旨を奉じて創建す。平清盛政權を得るや山門を造營し唐經漢像十六鋪を安置す。享保年間元快、後西上皇の加持を修して觀感あり、仍りて本寺を中興せしめらる。寺域は大慈山の奥區奇峯怪岩の地にあり山水清淑地勢靈奇なり。堂宇中、本堂・供水所・仁王門等は國寶建造物なり。なほ十一面千手觀音坐像(木造)一軀・脇侍不動明王及び二童子立像(木造)三軀・阿彌沙門天立像一軀等も國寶なり。【花香峠】 鞍馬山の北方に位する峠。京都府愛宕郡鞍馬村と花香村との境上に最

ハナリ 花園

【花園村】 埼玉縣武蔵國大里郡の西部。寄居町の東方にて間に櫻澤村を挟み、荒川の北岸にあり。西境に鐘堂山(三三〇米)あるも、他は大部分平地にて麥・米を産し、養蠶も盛にて繭を多産す。南部を横走る縣道は熊谷市より寄居町に通ずるものにてバスの便あり。社線秩父鐵道また之に沿ひ、村内に永田驛(大正二年設置)・小前田驛(明治三十四年設置)を置く。その他にも縣道よく發達す。此地は鉢形城主の勢盛なりし時、持田四郎左衛門の開きし地なりといふ。大字小前田はもと御前田に作り、鎌倉街道この地を経て上州に至りしといふ。いま中山道の別路となる。

ハナツ 花田

【花田村】 兵庫縣播磨國飾磨郡の東南部。市川東岸に位し西は川を距てて姫路市に對す。面積四・三六平方町。全村地形低平にして西境に沿ひ市川南流し、約六町西南方にて播磨灘に注ぐ。米・小麥・裸麥・蔬菜・花卉・食用農産等の農産物を主とし鶏卵・皮革製品・蠶製品・蠶等も出す。人口稠密にて一平方町の密度一五四人に及び郡中第三位を占む。山陽道西南部を走りて姫路市に入り同市より東方及び北方へ向ふ縣道本村を通過し各バスの往來あり。省線山陽本線御倉驛は東南約一・五町にあり。播磨風土記に小川里と云ふは大字小川の邊なりといふ。

ハナダテ 花館村

秋田縣羽後國仙北郡の中郡。大曲町の西北に隣り、西は神宮寺町に接す。西南境に大平山(三八八米)あり、斷崖をなして東北方に急斜し、西南の一部が山地をなす他は横手盆地の一部を占めて、概ね平坦なり。雄物川は南方より來り、西部山麓に沿ひて西北に流れ、村の西部に於て、東北方より來る玉川を合す。本村は純然たる農村にして農業に従事する者最も多く約六割を占め、商業これに次ぎて約二割を占む。米・野菜・果實・清酒等を産す。道路は

ハナタカ 鼻高

【鼻高嶺】 群馬縣高崎市及び碓氷郡岩野谷村・八幡村に跨る亞炭山。鐵區約二十三萬坪あり、重要鐵山に屬す。高崎炭鐵會社の經營に係り昭和十年には三、九三〇萬(價格約二萬七千圓)を出し、同年六月末の使役鐵夫は五〇人とす。

ハナダテ 花館村

秋田縣羽後國仙北郡の中郡。大曲町の西北に隣り、西は神宮寺町に接す。西南境に大平山(三八八米)あり、斷崖をなして東北方に急斜し、西南の一部が山地をなす他は横手盆地の一部を占めて、概ね平坦なり。雄物川は南方より來り、西部山麓に沿ひて西北に流れ、村の西部に於て、東北方より來る玉川を合す。本村は純然たる農村にして農業に従事する者最も多く約六割を占め、商業これに次ぎて約二割を占む。米・野菜・果實・清酒等を産す。道路は

ハナツ ー ハナダ

高點(八三七米)を置く。南側の鞍馬村より北側の花香村字別所に至るバス道ここに通じ、冬季は花香スキー場、北村鹿部に開かる。古峠道は今の峠上南側より約一軒下にて左折し、別所に至るものにして、最近はその中腹にて經路發見せられたり。西稜に崖生峠の最高點あり。

ハナツ ー ハナダ

【花園村】 埼玉縣武蔵國大里郡の西部。寄居町の東方にて間に櫻澤村を挟み、荒川の北岸にあり。西境に鐘堂山(三三〇米)あるも、他は大部分平地にて麥・米を産し、養蠶も盛にて繭を多産す。南部を横走る縣道は熊谷市より寄居町に通ずるものにてバスの便あり。社線秩父鐵道また之に沿ひ、村内に永田驛(大正二年設置)・小前田驛(明治三十四年設置)を置く。その他にも縣道よく發達す。此地は鉢形城主の勢盛なりし時、持田四郎左衛門の開きし地なりといふ。大字小前田はもと御前田に作り、鎌倉街道この地を経て上州に至りしといふ。いま中山道の別路となる。

ハナツ ー ハナダ

【花園村】 熊本縣肥後國宇土郡の東端。宇土町の東南に接し、北・東・南の三面は下益城郡に圍まれ、南は松橋町に界す。東北部に三一四米の山地あり、南部にも小丘陵あれど其他は地形概ね平坦なり。村民の大部分は農業に従ひ米・麥・粟・大豆・甘藷・桑・蠶・果實・蔬菜等を産し、副業として牧畜行はれ耕作・運搬・食用に供する爲め牛・馬・豚・家禽を飼

村の中央部が東南より西北に通じ、自動車の便あり。奥羽本線大曲驛(明治三十七年設置)を置き、生保内線これより分岐す。村内に馬政局農事試験場奥羽試験地あり。また明治十四年、明治天皇、山形・秋田・北海道行幸の際、此地に御小休あらせられしことあり。村内の花館山は中古奥羽の名族、安倍氏の居りし所に、山に櫻樹多かりしにより花館と稱せられしと。これが村名となりしならん。

出づるのみ。この地は和名抄、八代郡八代郷の内なるべく、近世は小石和筋に屬す。もと竹野原村と稱せしが、昭和六年現稱に改む。村内の花館山は大永年中、穴山・南部二氏の合戦の時、南部方敗れ、討首の鼻を埋めたる所なりといふ。附近には古墳多し。(福光園寺)大字大野寺にあり。新義眞言宗智山派。大野山。聖徳太子の創建なりと傳へ、往古駒掛山大野山と稱せしが、のち現稱に改む。舊寺領二十六石餘。(櫻殿寺)大字竹居にあり。日蓮宗。正住山と號し、初め眞言宗を奉ぜしが、寛永三年身延山二十五世日深上人の化導に依りて日蓮上人これに改宗す。境内に賢養天女堂あり、明治十八年の建立に係る。

ハナツカ 花塚山 阿武隈山脈の一峯。

福島市の南東方約二〇軒、福島縣相馬郡飯曾村と伊津郡小綱木村との境上に跨り標高九一九米。山體片麻岩より成る。南稜に條峠(六八七米)續く。

ハナナシ 花無山 東野村(岐阜縣)ハナノキ 花之木村 三重縣伊賀國阿山郡の西南部。上野町の西南約一軒半に位置し、南は名賀郡に接す。中部・西部は丘陵をなし東部に上野盆地に屬する。平野開け東境を長田川西北流す。米作を主とし養蠶も盛なれど多作は不振なり。上野町より西南方等置町及び奈良市方面へ通ずる縣道東南部を通過し自動車の便あり。もと法花村・下之庄村・大野木村の三村に分れしが、明治二十二年の町村制實施に當り、三箇村を合併して花之木村と名づく。大字法花はもと伊賀國分尼寺のありし處。

ハナトリ 花鳥村 山梨縣甲斐國東八代郡の中部。甲府市の東南約九軒。石和町の南約五軒。南境に釋迦ヶ岳の連嶺を蜿蜒し、その支脈東・西兩境を走り、夫等の山脚は何れも中央及び北方に緩斜す。北部は甲府盆地の東南縁を成して一部低平なるも、他は概れ山地を成す。低地には水田拓くも、廣大なる丘陵地には桑圃よく拓け、養蠶業頗る盛んにて繭の産多し。交通は中央本線石和驛(石和町)へ

ハナハタ 花畑 東京府南足立郡にありし村。昭和七年に他町村と合し足立區を建つ。

ハナフサ 英村 山梨縣甲斐國東八代郡の北部。笛吹川の一支金川左岸に沿ひ石和町の東南に接す。甲府盆地の東部を占め土地平坦肥沃にて水田・桑園開く。農業を主生業とし米・麥の産多く、養蠶業また盛なり。近時トマト苗・茄子苗等の生産に聲價あり。舊中山道は村の西南部を貫通し、省線中央本線石和驛(約二軒、甲府市)約七軒、バスの便あり。此地は和名抄、山梨郡井上郷の内なるべく、近世は石和筋に屬す。大字國衙は往古甲斐國府のありし地とす。

ハナマカ 花房村 熊本縣肥後國菊池郡の西部。菊池川の左岸に沿ひ、隈府町の南方約二軒。阿蘇山西麓の臺地を占め約五〇米の高度を有する平坦地なり。北部には菊池川西南流し、沿岸に低地ひらく。純農村にて米・麥・繭を出す。隈府町より西南方熊本市へ至る縣道中央を縱斷し、東部には隈府町より東南方大津町へ至る街道あり。社線菊池電氣鐵道西部を走りて隈府町・熊本市を結ぶ。

ハナツカ 花塚山 阿武隈山脈の一峯。福島市の南東方約二〇軒、福島縣相馬郡飯曾村と伊津郡小綱木村との境上に跨り標高九一九米。山體片麻岩より成る。南稜に條峠(六八七米)續く。

ハナナシ 花無山 東野村(岐阜縣)ハナノキ 花之木村 三重縣伊賀國阿山郡の西南部。上野町の西南約一軒半に位置し、南は名賀郡に接す。中部・西部は丘陵をなし東部に上野盆地に屬する。平野開け東境を長田川西北流す。米作を主とし養蠶も盛なれど多作は不振なり。上野町より西南方等置町及び奈良市方面へ通ずる縣道東南部を通過し自動車の便あり。もと法花村・下之庄村・大野木村の三村に分れしが、明治二十二年の町村制實施に當り、三箇村を合併して花之木村と名づく。大字法花はもと伊賀國分尼寺のありし處。

ハナマカ 花房村 熊本縣肥後國菊池郡の西部。菊池川の左岸に沿ひ、隈府町の南方約二軒。阿蘇山西麓の臺地を占め約五〇米の高度を有する平坦地なり。北部には菊池川西南流し、沿岸に低地ひらく。純農村にて米・麥・繭を出す。隈府町より西南方熊本市へ至る縣道中央を縱斷し、東部には隈府町より東南方大津町へ至る街道あり。社線菊池電氣鐵道西部を走りて隈府町・熊本市を結ぶ。

ハナマキ 花巻 岩手縣陸奥國禰賀郡の南部。黒澤尻町の北方約一〇軒。南は和賀郡に隣接す。盛岡縣陸奥郡の南部に位置し、土地概れ平坦にて北上川は東境を南流す。瀧川は東北部を東南に流れ、豊澤川は中部を東に流れ各北上川に合す。米・繭・馬を産し、和傘・玩具・眞綿等の特産あり。陸羽街道は東部を南北に通じ、釜石街道は東方に、瀬畑街道は西南方に、これより分岐す。北方石鳥谷、西方釜湯温泉、東北方矢澤、西南方横川目へは各バスの便あり。省線東北本線花巻驛(明治二十三年設置)あり。これより東方に省線釜石線、西方に社線花巻温泉電氣鐵道を分岐し前者に鳥谷ヶ崎驛(大正十四年設置)を、後者に西花巻驛(大正十四年設置)を置く。人口密度は一方軒につき六九六人なり。此地は舊奥州街道の花巻宿のありし所に、舊郡役所のありし所。町村制施行以前は花巻川口町・花巻町・根子村を合し一戸長役場の下に統べたりしが、明治二十二年各々分立し、大正十二年根子村は花巻川口町に編入し、昭和四年花巻川

口町と花巻町を合し新に花巻町を置く。本町は花巻温泉の出入口として榮え、今町内に大藏省預金部資金局仙臺支局出張所・花巻區裁判所・花巻警察署・花巻警察署・花巻税務署等あり。明治天皇、明治九年、奥羽御巡幸の際及び同十四年、山形・秋田及び北海道行幸の際、本町に御泊あらせらる。(花巻城(鳥谷ヶ崎城))花巻驛東方約一軒の丘陵の一角にあり。小學校のある所は遺手門址なり。城壁の大牛及び外濠が所々に残るを以て、その規模の雄大なることを知り得。即ち東西三五〇米、南北四〇〇米、東は北上川に臨み、南に豊澤川、北に瀧川を控へ、要害の地なり。いま城址に小學大運動場、鳥谷ヶ崎神社等あり、釜石線は城址を貫通す。城はもと禰賀氏の居りし處にして天正年間南部氏の領となり、利直はその子政直を封ぜり。その後城代を置きて知行せしめ明治維新に至る。(勝行院)大字里川口にあり。淨土宗。元禄年間、當町の清水左兵衛の開基に係ると傳ふ。本尊阿彌陀如来(木造)は國寶なり。

ハナミズ 花水 山梨縣神奈川縣中郡にある川。源は大山の南麓に發し、上流を金目川といふ。泰野盆地に於て葛葉・谷津等の小流を入れて花水川となり、東南流して鈴川・玉

ハナムレ 花簇村 熊本縣肥後國玉名郡の東部。高瀬町の東北約三軒にあり、東は鹿本郡に接す。南境は約三〇〇米の山地帯を北に横がり、東・北・西の三方へ傾斜面をなす。西側の山麓に細長き低地あり、北部にも約二五〇米程度の山地あり、中部は低地開けて菊池川支流西北流す。純農村にて米・麥・繭を産し、特産物には苧・茶あり。中部を鹿見島街道横斷し高瀬町へバスの往來あり。この地は和名抄、玉名郡江田郷の内。

ハナマキ 花巻 岩手縣陸奥國禰賀郡の南部。黒澤尻町の北方約一〇軒。南は和賀郡に隣接す。盛岡縣陸奥郡の南部に位置し、土地概れ平坦にて北上川は東境を南流す。瀧川は東北部を東南に流れ、豊澤川は中部を東に流れ各北上川に合す。米・繭・馬を産し、和傘・玩具・眞綿等の特産あり。陸羽街道は東部を南北に通じ、釜石街道は東方に、瀬畑街道は西南方に、これより分岐す。北方石鳥谷、西方釜湯温泉、東北方矢澤、西南方横川目へは各バスの便あり。省線東北本線花巻驛(明治二十三年設置)あり。これより東方に省線釜石線、西方に社線花巻温泉電氣鐵道を分岐し前者に鳥谷ヶ崎驛(大正十四年設置)を、後者に西花巻驛(大正十四年設置)を置く。人口密度は一方軒につき六九六人なり。此地は舊奥州街道の花巻宿のありし所に、舊郡役所のありし所。町村制施行以前は花巻川口町・花巻町・根子村を合し一戸長役場の下に統べたりしが、明治二十二年各々分立し、大正十二年根子村は花巻川口町に編入し、昭和四年花巻川

ハナミズ 花水 山梨縣神奈川縣中郡にある川。源は大山の南麓に發し、上流を金目川といふ。泰野盆地に於て葛葉・谷津等の小流を入れて花水川となり、東南流して鈴川・玉

ハナヤマ 花山村 宮城縣陸前國栗原

ハナヤマ 花山村 宮城縣陸前國栗原

ハナヤマ 花山村 宮城縣陸前國栗原

天常立尊・國秩立尊。創建年代不詳。延喜式内社に擬せらる。一に藏王権現と云ふ。靈座地の様は満山石楠花繁茂し人呼んで花山とも稱す。境内に不動堂あり。本尊の三佛共に運慶の作るところと云ふ。社寶中、銅魚藏下權現立像(一尺一寸餘)は鎌倉時代の佳作にて國寶なり。

ハナワ 花輪・鼻和・花和

【花輪・花和・鼻和】陸奥國津輕郡の中世の私稱。鎌倉領なり。その地域不詳なれども、凡そいまの青森縣中津輕郡の地ならん。

【花輪村】岩手縣陸奥國下閉伊郡の東南部。宮古町の西南約六軒。北上山地の東斜面に屬し、西南境は海拔約一〇〇〇米にて、西境にはサントト頭(六八八米)、加呂森(九七〇米)、南境は大笹山(六一二米)、西北部に宇根島山(五四二米)等ありて、何れも東北方に傾斜す。長澤川は西南境に發源して東北に流れ、北境を東流する閉伊川に合す。全村概ね山地をなすも、東北部に稍耕地拓く。米・藪・大豆・稗・麥・木炭・馬等を産す。東北方省線山田線宮古驛へは約六軒。西北方面線茂市驛へは約八軒。各バスの便あり。村内に根城址あり、一に中根城とも稱し、閉伊陸奥守賴基始めてこゝに居す。賴基は鐵西八郎爲朝の三男なり。建久年中、幕府、賴基を以て閉伊の押領使となし本郡に封ず。閉伊氏の子孫これを世襲し、正平年中より南部氏に屬せり。

【花輪線】省線東北線の一。岩手縣岩手郡春田村大字好摩の東北本線好摩驛より西北走して秋田縣に入り、鹿角郡花輪町を経て、北秋田郡大館町の奥羽本線大館驛に至る一〇六・九軒。毛馬内驛(鹿角郡錦木村)にて省營十和田本線自動車に、大館驛にて社線小坂鐵道に連絡す。

【花輪町】秋田縣陸奥國鹿角郡の中部。毛馬内町の南方約九軒。尾去澤村の東北に隣り、東南は岩手縣に接す。東南境に皮投橋(一一二米)聳え西方に傾斜し、西北部また山地をなす。米代川は町の中西部を北流し、その東岸は平地なり。米・木炭等を産し、また紫根菜の特産あり。鹿角街道は中部を南北に通じ自動車の便あり。省線花輪線陸奥中花輪驛(大正十二年設置)を置く。本町は本郡の中心都邑にして、舊郡役所のありし所。天正年間南部大膳の居りし花輪城址あり。【幸稻荷神社】郷社。祭神、豊受姫命・猿田彦命・天宇都女命。創建年代詳かならざるも、文明二年に舊領主の社殿を營繕せられし事見えれば、何れ足利中期の創祀なるべし。花輪郷の總領守神として郷民の崇敬厚し。例祭、陰曆七月十六日。【花輪】群馬縣勢多郡東村の大字。足尾線の花輪驛(大正元年設置)を置く。【花輪村】山梨縣甲斐國中五郎郡の東南部。甲府市の西南方約七軒。釜無川東岸に位し、東南は笛吹川を以て西八代郡に隣る。地は甲府盆地の一部を占むるを以

て低平肥沃、且つ灌漑の便よろしきを以て水田・桑園よく拓け、米・藪・桑葉の産多し。社線富士身延鐵道西部をほき、南北に走りて東花輪驛(昭和三年設置)を置き、また甲府市へバスを通じ、交通便なり。この地は中世、小井川庄と稱せられし地にして附近に信玄墓と稱する處あるは武田氏の築きしもの。

ハナワカワ 埴川村

【埴川村】秋田縣羽後國山本郡の西北部。能代港町の東北約九軒。東北方に焼山(九六三米)ありて西方に傾斜し、埴川は東北境に發源し、竹生川は東境に發源して各西南に流れ日本海に注ぐ。西南部に稍耕地拓く。米・木炭・牛・馬等を産す。省線五能線澤目驛へは西方約四軒。西南方の能代へは自動車の便あり。

ハニオカ 埴岡

【埴岡】播磨國(兵庫縣)の古地名。和名抄に神時郡埴岡郷あり。その地今の神時郡栗原村・大山村・越知谷村の邊に當る。

ハニサキ 埴崎

【埴崎】紀伊國(和歌山縣)の古地名。和名抄に那賀郡埴崎郷あり、その地今の那賀郡小倉村の邊か。【土師】上野國(群馬縣)の古地名。和名抄に群馬縣上野郡あり、波爾之と訓ず。その地今の多野郡美九里村に當る。【土師】和泉國(大阪府)の古地名。和名抄に大島郡土師郷あり、その地今の泉北郡東百舌鳥村・百舌鳥村の邊に當る。

ハニタ 埴田

【埴田】下野國(栃木縣)の古地名。和名抄に足利郡埴田郷あり、刊本に埴田とあるは埴田の誤にして、足利郡吾妻村の大字埴田はその遺稱なるべし。

ハニノ 埴野

【埴野】長門國(山口縣)の古地名。延喜兵部省式には長門國埴野馬三疋とあり。埴野は埴田の誤なるべく、いま萩市の小畑の舊名を埴田と稱せしと云へば、驛址は此邊に求むべきか。

ハニニ 埴見

【埴見】伯耆國(鳥取縣)の古地名。和名抄に河村郡埴見郷あり、その地今の東伯耆郡花見村・西郷村の邊に當る。

ハニヤ 埴屋

【埴屋】上總國(千葉縣)の古地名。和名抄に武射郡埴屋郷あり、その地今の山武郡陸田村・日向村の邊か。

ハニユ 羽生

【羽生町】埼玉縣武藏國北埼玉郡の北部。利根川は北方約三軒の所を東流し、全町平地にて米・麥・蕎麥を産し、聚落は中央部に發達して工業行はれ、青藪・足袋及び運動用ボール・靴底・足袋底等のゴム製品の産出頗る多し。縣道四方に通じ、社線東武鐵道伊勢崎線は西部を北走し羽生驛(明治三十六年設置)を置く。同驛はま

た社線秩父鐵道の起點にて同線はこれより西走して熊谷市に通ず。この地は近世羽生領に屬し、町名は領名の遺稱なるべし。羽生城は木戸伊豆守忠朝が弘治二年に築き、姑く居住せしが、天正三年、成田下總守のために陥り、忠朝討死せしより成田氏の有となりしが、天正十八年、大久保相模守忠隣の居城となり、家人齋坂道可を城代となし守らしめしが、慶長十九年この地が幕領となりしより、城も破る。

【羽生村】

【羽生村】福井縣越前國大野郡の西部。東は大野町との間に乾側村を挟み、西は足羽郡上宇坂村に界す。村内概ね山地にして南境には草間岳(六五二米)・飯降山(大岳、八八四米)あり、羽生川は西俣谷に發し、村の中央を西に流れ、其の流域に低地を造り足羽川に注ぐ。地質は羽生川以北は殆ど火山岩より成り、以南の低地部は第三紀、同山岳部は深成岩に屬す。縣道美濃街道は大平足羽川の右岸に添ひて東西に貫通しバスも通ず。産業は農業を主とし桃・梨・栗・梅の果實も多く、養蠶・漆かきも盛にて特に羽生抄の稱ある薪炭は名物たり。村名は天文八年平泉寺の古文書に羽生と見ゆれば、式内社土輪の轉訛ならんと言ふ。美濃街道は俗に羽生街道と稱し、昔、判官義經の北國落ちの時、これを通過し大字大宮の橘堂に一泊し、朝倉義兼も敗北の時、此處を通過せしと云ふ。敗北の名將に關係深き

【土師】

【土師】因幡國(鳥取縣)の古地名。和名抄に知頭郡土師郷あり、その地今の八頭郡知頭町の邊に當る。

【ハニシ】

【ハニシ】埴石 上總國(千葉縣)の古地名。和名抄に埴生郡埴石郷あり、その地今の長生郡一宮町の邊に當るか。

【ハニシナ】

【ハニシナ】埴科郡 長野縣信濃國の中部。縣内十六郡の一。千曲川右岸に沿ひ東北は上高井郡に、東より南へかけては小縣郡に、西及び北は千曲川を境に更級郡に隣接す。面積一五三・四六方軒、本縣中にての小郡。大體千曲川を背にせる「く」の字形を呈し、東境には鏡臺山一二六九米を主峰とする山脈連なり、東南隅の太郎山は上田市との境界をなす。西・北部千曲川流域に沖積地開け、北部は松代町を中心に、西部は辰代町を中心に養蠶・農耕盛なり。その他、谷合の諸村、づれも養蠶を主産業とし蠶は本郡の主産物にて松代町・辰代町・坂城町、づれも製絲業盛にて輸出向生絲の産多し。その他米・麥・蕎麥・果實・蔬菜等の農産物豊富なり。西部を山麓に沿ひ省線信越本線及び北國街道並走し、辰代町より松代町を経て長野に至る社線長野電鐵を分岐す。縣道また辰代・松代を中心に四方に通じバスの便よし。萬葉集に郡名見え、また三代實錄貞觀四年紀にも郡名見ゆ。和名抄は波爾志奈と訓じ、倉科・磯部・船山・大穴・辰代・英多・坂城の七郷を載せたり。萬葉一四一人みな言

道路なり。七國誌にも「今ぞ今の釋寺死しての後の身を思へば如何なる憂目にか大宮すきて罪咎の重をかくる惟衡石坂の峠も打越」と。舊藩時代には丹生谷と稱して大野領に屬す。(八幡神社)大宮にあり。村社。式内磐座神社ならんかとも云ふ。また式内足羽郡土輪神社ならんかとも云ふ。祭神は磐田別尊。近時野野神社を合併す。この宮は源義經が一夜を明せし儀堂にして朝倉始末記に義景が伏し拜むと見ゆる辨才天も是なり。(百戸大神)大字薬師に在り。朝倉治助個人の宮なりと雖、その龜は左甚五郎の作と云ひ佐久間直久・太田六郎實顯等の寄進の古額等多し。

【ハニユ】

【ハニユ】波入 島根縣八束郡にありし村。昭和四年二子村と合併して八束村を建つ。

【ハニユ】

【埴生村】富山縣越前國西礪波郡の西北部。石動町の西南に接し、俱利伽羅峠の東麓にて、西は峠を境に加賀國河北郡に接す。西半部は丘陵地帯にして森林多く東半部は平野開け水田に富む。米を主産とし、薬品の特産あり。東部を社線加越鐵道掠め、省線北陸本線及び加越鐵道分岐點なる石動驛に近し。縣道また南に走り、石動驛・北畠田村間バス通ず。この地は中世、附近舊十一箇村と共に松長郷と稱せし地にして、大字蓮沼には富山家の宰臣、游佐新左衛門度親が永正・大永

【埴生村】

【埴生村】長野縣信濃國埴科郡の西部。辰代町の南に接す。有明山(六四八米)の丘陵東部に連なり、西部は千曲川沖積原に屬す。農業・養蠶を主産業とし米・麥・蕎麥を産す。省線信越本線と北國街道村内を東南より西北へ並走し、北隣に前者の辰代驛(明治廿一年設置)を置く。また辰代驛より社線長野電鐵を分岐し象山口驛(昭和九年設置)を置く。この地は和名抄、埴科郡船山郷の内か。

【埴生】

【埴生】美濃國(岐阜縣)の古地名。和名抄に知頭郡土師郷あり、その地今の八頭郡知頭町の邊に當る。

抄に賀茂郡城生郷あり、その地今の加茂郡富田村の邊に當る。

【城生村】大阪府河内國南河内郡の北部。古市町の西に接し、東北は藤井寺町に界す。南半は臺地をなし北半は低平なる平原をなす。西境に大和川の支流北流す。米・桃・葡萄の産並に畜産多く、外に工業・水産あり。中部には縣道東西に走る。古は此邊の山野を羽曳山または丹比野と云ひ、いま古墳多く、最も著はれしは仁賢天皇城生坂本陵(藤井寺村)にして、また城生岡上墓あり。城生坂は一に丹比坂ともいふ。堺方面より古市を経て大和に通ずる竹内街道ここに懸る。仁徳天皇の崩後、仲皇子飯を謀り、腹中天皇難を此地に逃げ給ふといふ。(城生岡上墓)用明天皇の皇子來日皇子の御墓、大字城生野にあり。中世、その所傳を失ひしが明治八年現所に御治定。(野中寺)古義眞言宗。俗稱中ノ太子。聖徳太子の開創と傳ふ。中世、荒廢し寛文年間再興す。寺寶中、金銅彌勒菩薩像・地藏菩薩像(木造)は共に國寶。

【城生炭礦】福岡縣賀茂郡中間町にあり。鐵區十三萬餘坪。昭和十年には石炭三、六八八萬噸を出す。

ハニユ—馬入川 相模川(神奈川縣) ↓相模川(神奈川縣)

ハニユ—羽生田 新潟縣南蒲原郡田上村の大字信越本線の羽生田驛(明治三十六年設置)あり。

親川の西北丘上に親川城址あり。中央集權以前、羽地按司の居城たりしものならん。その東南には羽地番所跡並びに國頭地方役所跡あり。屋我地島には和蘭墓あり。弘化三年東洋周遊中の佛國艦にて病歿せしクレオパトラ・ピクトリエカス等二老將軍を葬りしもの。

ハネダ 羽田 東京市蒲田區の町。多摩川口の堆洲長く東京灣に突出する所に於て、住民は、漁民と半農半漁の民に分たる。また砂利船業・埋立・干拓事業等に從事するもの多し。蠶集する漁船の群は一種の壯觀にて、漁期に於ける魚市場附近の盛況は見るべきものあり。羽田漁師町の名のよつて起る處はここにあり。天保年中、徳川幕府は海防のため、新たに砲臺を築き羽田奉行を置けり。羽田洲は河口より淺灘海へ出る約一哩四分三にて、その南端に燈臺あり。この地はまた沙干狩とともに、穴守の稲荷にて名高し。穴守稲荷は商賣繁昌・効驗あるとて參詣人多く、門前は料亭・土産物店等櫛比す。羽田町が世界的になりしは、國際エアポートとなりし以來とす。緑の芝生に白く鮮かに貫くコンクリート滑走路「トウキヤウ」の五字が空の港羽田飛行場の所在を明かにす。二つの格納庫と瀟洒なる事務所と、中央氣象臺の空港出張所等が十六萬坪の一隅に見らる。この地にはまた競馬場あり。

ハネニシ 波根西 鳥根縣安濃郡にあ

ハネタ—ハハシ

ハヌン—社 臺灣臺北州羅東郡にある舊社。宜蘭濁水溪とバヌン溪との合流點の南方約五百米、一棧線の突端、海拔約二七〇米の緩傾斜地に在り。社の南部一帯は天然生の潤い樹繁茂し居るも北方山脚は廣大なる平坦地にて地味肥沃なるを以て水田・畑地に利用されつゝあり。また近くに濁水分室あり、營林所經營の森林鐵道あり交通極めて便なり。蘇澳郡キヤン社・キガヤン社とは狩獵地の紛争ありて始終不和なり。タイヤル族の漢頭蕃に屬する高砂族より成る部落。

ハネ 万年山 阿蘇火山脈の一峯。別府市の西約三五軒、大分縣玖珠郡玖珠町と南田村との境上に位し、標高一四〇米。標式的熔岩臺地にして、耶馬溪熔岩・阿蘇熔岩等の舊期の熔岩含柘榴石角閃石・黑雲母流紋安山岩より成り、更に舊期の輝石安山岩を被覆す。山頂臺地は東西約四軒、幅二五〇米乃至三〇〇米にして、東角に一等三角點(一一四〇米)を置く。草原狀をなし、ミヤマキリシマの群落多く、宛も高原の如き觀を呈す。山頂より四圍の眺望美しく、東角に立てば東方に野稻・崩平山等の連山を望み、西角より西方日田・玖珠兩盆地の水郷の景趣あり。また山中の岩場は面白く、夏のキャンプにも適し、冬は積雪多く、スキー場となる。玖珠川は此山の東麓なる臺地を流れ、その上支の沿岸、山の南麓に寶泉寺・雙湯等の温泉湧出す。登山は久

りし村。昭和十二年龍尾村と合併して久手町を建つ。(波根西の砒化木)指定天然記念物。山陰線久手驛附近海岸に露出する第三紀の木化石が、火山泥流の固結したると覺し角礫凝灰岩中に埋藏せらるるものにして、中には木質の炭化せるものあれど、多くは砒化して砒化木となれり。樹種は概ね山陰樹に屬す。其の成因が火山破裂に關係せる點、北九州等に多く見出さる、砒化木と異なり、學問上珍しきものなり。

ハネヒガシ 波根東村 鳥根縣石見國安濃郡の北部。大田町の北四軒。西北は海に面す。東南境には二三百米の丘陵連りて其の山脚西北方へ緩斜し、北部にも百米内外の丘陵地あるも、中部より西部に亘りて平地開け耕地よく發達す。沿岸は概ね岩礁海岸を成すも、西南部に小灣入ありて良漁港をなす。生業は半農半漁にして米の産多く、丘陵地には桑園よく拓けて養蠶盛んなり。また清酒の産多し。山陰本線東北方より海岸線に沿ひて來り城内に波根驛(大正四年設置)を置く。この地はもと波根西村と共に和名抄安濃郡波根郷の地なり。

ハノ 羽野 大隅國(鹿兒島縣)の古地名。和名抄に菱刈郡羽野郷あり、その地今の伊佐郡羽野村の邊か。

ハノ 波濃 周防國(山口縣)の古地名。和名抄に熊毛郡波濃郷あり、其地今の熊

大鏡豐後中村驛より寶泉寺温泉・利狭間・十文字峠を経て行はれ、また同じく久大線惠良驛より栗野を経て進し得らる。

ハネ 羽根村 高知縣土佐國安藝郡の東南部。西南部は土佐灣に臨み、奈半利町の東に接し、吉良川村を隔てて東南方に室戸町あり。東北より西南に細長し。今村山地をなし東北より西南に連る二條の山脈が東西兩境を限り、西境北端に裝束峠ありて一〇八三米の高度を示す。東境中央に大隅山(七〇九米)あり。山地は次第に西南方へ高さを減じて海に終る。中部に一條の河川あり、村内の水を集めて西南流す。之を羽根川と云ふ。海岸は單調にて平地乏しく北部に羽根崎あり。米・蕎麥の農産に次ぎ林産多く、工業・水産・畜産もあり。海岸に沿ひて國道走り繁落多く之に沿ひて點在しバスを通ずるも概して交通不便なり。土佐日記、永平四年正月十一日の條に「いましはれといふ所につきぬ、わかきわらはこの所の名を聞きて、はれといふ所は鳥の羽のやうにやあるといふ……まことに名にきくところばねならば飛ぶが如くに都へもかな」とあるを見れば羽根の名の古きを知るべし。木村出身の歴史的人物に鳥村省吾及び槍垣繁太郎あり、鳥村は尊攘の志士、山田大和義舉の際、之に加はり奮戦す。慶應元年段、年三十二。槍垣は幕末の勤王家、元治元年清岡兄弟と野根山の舉に加はり、奈半利河原に斬らる。

毛郡田布施町に當り大字波野は其遺稱。ハノウラ 羽ノ浦町 徳島縣阿波國那賀郡の東北部。那賀川河口近くの北岸に位し立江町の東南に接す。西南部は其形狭長となりて西方へ長く延ぶ。其西部の北境に一〇一・一五〇米程度の低き丘陵東西に連る外は那賀川三角洲の一部なる爲、地形極めて平坦にて南境に沿ひて那賀川東流し約五軒餘東方にて紀伊水道に注ぐ。灌漑の便よく且つ雨量多きため耕地に富み米を主産物とし、また麥・蕎麥の産もあり。蕨の特産あり。土佐街道東部を縱斷し之より東南に分る一道路は富岡町に至る。省線半岐線東部を南走し羽ノ浦驛(大正五年設置)あり。此地は安閑天皇二年に春日部屯倉を置かれし所に於て、その址はいま大字宮倉の地なりといふ。宮倉にはまた和耶神社あり、延喜式に見ゆる古社にして、毎年、和耶和耶と稱ふる追儼の神事あり。

ハハ 母島 徳島縣(東京府) 端場村 和歌山縣紀伊國伊都郡の中北部。高野山の北麓九度山町の東北約〇・五軒。紀ノ川の沖積沼澤原上に位す。面積〇・四六方軒の小村。土地低平地味肥沃にて全軒すべて耕地となり米・蕎麥を多産す。省線和歌山線は北部を東西に通じ高野口驛(高野口町)・橋本驛(橋本町)に近く交通便なり。人口は國勢調査によれば大正九年八七〇人、同十四年八四八人、昭和五年八六〇人、同十年八

年十六。贈從五位。ハネ 波根 山陰本線の一驛(大正四、設置)。鳥根縣安濃郡久手町にあり。ハネ 波濃 石見國(鳥根縣)の古地名。和名抄に安濃郡波根郷あり、その地今の安濃郡波根東村・久手町・朝山村の邊に當る。延喜式の波濃驛馬五疋とあるも此地なり。

ハネ 阿武隈山脈の一峯。福島縣安達郡戸澤村・旭村の二村境上に位す。一に麓山とも云ふ。標高八九七米、山體片麻岩より成る。

ハネザワ 羽根澤 山形縣(山形縣) ↓六島村(山口縣) ↓鮭川村(山形縣)

ハネジ 羽地村 沖繩縣琉球國頭郡の東部。名護町の東に接す。西寄りには僅少の低地を見る外は村内一般に山地を成す。海岸線は屈曲に乏しく、中央に小島奥島によりて勸定納港を抱く。その東北に屬島屋地島浮ぶ。島内は中央に臺地あるも何れも沿岸に向ひて緩斜し、沿岸は概ね低平なり。主生業は農にして米・甘藷・甘蔗を出し、殊に甘蔗の産多し。また製糖業行はるも未だ振はず。縣道名護町より來り村内を東方に走り大字源河にて終るのみにて交通便ならず。大字伊差川は古くより開けたる部落にして、古昔には伊指川と見ゆ。地内の金川部落はもと産銅鐵山のありしところ。字

五四人と増減し、昭和十年の一方軒密度は一八五七人の稠密度を示し、全國平均の一八一人に比し遙に多く、本郡にても岸上村に次ぎ第二位なり。ハハキ 伯伎・伯岐國 ↓伯耆國 ハハコ 嬢子山 ↓嬢子山 ハハジマ 母島

【母島列島】東京府小笠原群島の一系列島。父島列島の南約六〇軒にあり。母島を主島とし、外に鯉島島・小鯉島島・中鯉島島・丸島・二子島・平島・向島・姉島(ベリ島)・妹島(ケリ島)・姪島などより成る。鯉島島は母島の南端、南崎に對し水禽カウサドリノ棲息する所よりこの名あり。丸島・二子島・平島と弧狀をなし向島瀬戸を隔て向島に對す。之等の諸島は何れも小島にて矮樹雜草を見るのみにて泉水なく、嘗て平島に歸化人の一家族の居住せしことありしも現在はすべて無人島なり。姉島・妹島・姪島はほゞ東西に並び、之等の島も泉水甚だ乏しく、糖價の暴騰せし當時には若干開墾され住民もありしが、今は再び無人島となる。【母島】東京府小笠原群島母島列島の主島。父島の南約六〇軒に位し、南北に長く凡そ一四軒、幅は二・四軒に過ぎず。島の中央に、小笠原最高峰の乳房山(四六二米)あり。石門山・虎申岳・桑ノ木山・堺ヶ岳・銀先山等の山岳重疊して平地極めて乏しく、樹木繁茂して岩石露出地は殆んどなく、地味は比較的肥沃にして、耕地

pppp

面積は約五百ヘクタール、山頂近くまで耕地の及ぶ所あり、特に南部の海蝕臺地はよく開拓され甘藷が唯一の換金物にて稲田は皆無なり。島は安山岩・安山岩質集塊岩・凝灰質砂岩等の互層なるが、その中に第三紀始新世の有孔蟲なる貨幣石を含む層を挟むことにて著名なり。また島の東北部なる石門山は石灰岩の臺地状を呈し、熱帯原始林的景觀の見らるゝ點にて知られ、附近の桑ノ木山と共に巨大なる桑の木が多少存在す。海岸線は屈曲に富み東側の東港・大崩灣・東崎灣等は海崖頗る高く民家も全く見られぬ程にて北側には北港あり。北村の聚落はその灣頭に位し、西南側には沖港あるも岩礁多く且つ淺く大船を入るに足らざるも、灣頭には島の首邑沖村あり、北村と共に鹽漁が相當盛んに行はる。行政上は東京府に屬し、小笠原支廳の管轄に入り、沖村・北村の二村に分るが、未だ市町村制實施されず、住民は全部明治以後に來島せし内地人にて、八丈島より移住せし者及びその子孫が大半を占む。人口は國勢調査によれば大正九年一八六六人、同十四年一八七六人と僅に増加せしも、昭和五年一七三一人、同十年一七九〇人と減少す。

崎となり大崩灣・東崎灣を分つ。南方は臺地状をなし南崎には比較的平坦なる海蝕臺地發達す。東海岸の大崩灣・東崎灣崖は海崖頗る高く居住に適せず、西の沖港も港内に磯多く且つ淺く大船を容るるに好適ならず、また西南風には汽船の碇泊は至難なり。沖港はもと西の港、コッフィン港、ニュー・ポート等と呼ばれ、錨濱・錨ヶ濱が連り、母島の首邑沖村が灣頭に發達す。耕地は地味肥沃なるためよく發達し、その面積三二・三町歩に及ぶ、併しすべて畑にして水田はなし。一般には甘蔗の栽培を行ひ、評議平はその最大の栽培地なり。沖村は始め獨人ロイスの居住せし所、聚落後背のロイス谷より北第三紀の石灰質砂岩・凝灰質砂岩を切出しロイス石として知らる。評議平は明治初年英人に同伴せし廣東人の居住せし地にて南京屋敷・南京坂の地名残り南京濱は今上陸下の行幸後は御幸の濱と改稱され、附近よりは貨幣石を採集す。

り、耕地面積は母島沖村より少くも一七五町歩あり。耕地はすべて畑にて水田はなし。石門山は石灰岩の臺地にてカルスト地形の諸現象あり、特に本島唯一の原始林的景觀を存するを以て著はる。ハバセーカン 馬場盛砂金礦 朝鮮忠清南道天安郡にある鑛山。鑛區は鑛場面と成敷面とに跨る。昭和十年の産額は金八四三九九瓦、銀二三八〇五瓦にして、同年六月末現在使役人員三九四人を算す。ハバタニ 祖母谷 愛本村(富山縣)南秋田郡の東北部。秋田市の東北に隣り東は北秋田郡上小阿仁村に接す。面積一〇・二六方町にして本郡第二の大村。東北境に烏森(六〇一)米、東南境に馬場目(一〇三七)米、北境に栗師山(三九五)米ありて山腹は西北方に延び、馬場目川は東境山地に發源し、村の略中央部を西北に流れ八郎湯に注ぐ。全村概ね山地をなすも馬場目川沿岸に低地ありて耕地開く。東部山地は馬場目川右岸にして木炭を産し、馬場目川沿岸は米を産す。西北方、社説五城目軌道の五城目驛(五城目町)へは約五町、秋田市に隣接するも高山地を控へ交通便ならず。人口密度は一方村につき僅に二九人(昭和十年)なり。この地は和名抄、秋田郡率浦郷の内なるべし。永慶軍記に、秋田實季の一族、馬場目安東五郎季なる名見ゆ。或は此地

に在名を稱せしものか。ハバヤマ 端山村 徳島縣阿波國美馬郡の中部東北偏。貞光町の南に接し西は半田町に界する山村。四國山脈の北斜面に屬する山地東西兩境に南北に連りて村境を劃し、東南境には女内山(一〇七三米)聳ゆ。貞光川は南方より來りて中央据合谷を北方へ貫流し沿岸低地を見ず。北方約二町に吉野川は貞光川を合して東流す。山岳重疊せるため麥・蕎麥・米等を産するも産額少し。北方約一・五町の省線徳島本線貞光驛へはバスを通ず。村内に鳴瀬あり、高さ一二〇米、幅一米。この地は中世の忌部莊の内なりと。ハベ 社 臺灣臺東廳里堀にある蕃社にてアラクサン山よりダイロン溪・アルアル溪の合流點に向走せる稜線の兩傾斜面山腹約七六〇米の高所に位す。アメン族の高山蕃に屬する高砂族の部落。ハフ 八生村 千葉縣下總國印旛郡の東北部。成田町の西北に隣りて西北は安食町に接し印旛沼の東岸にあり。中部は丘陵地にて森林あり。西部の印旛沼沿岸及び東境附近は低地にて水田及び沼田をなす。農業行はれて米を主産し、他に麥を産す。其他養蠶・養鶏も行はる。成田町及び安食町に縣道を通じ、省線成田線また之に沿ひ下總松崎驛(明治三十四年設置)を置く。この地は和名抄、埴生郡玉造郷の地なるべし。大字上福田の西端に上福田古墳あり、直徑二〇米、高さ六米

の圓墳にして南面して開口せる石室は奥行二米、高さ幅各二米半、貝化石を含有せる切石にして巧に架構せる。

道通バスの便あり、又南隣神村村に出づる縣道もあり。この地は和名抄、新居郡新居郷に屬せるもの如し。幕末の勤王家三木左三は此地の人にして、淳宜嘉に關し三條實美等と交はる、明治二年病歿、從五位を贈らる。

年下總國の埴生郡と區別するため、これを上埴生郡稱せしが、同三十年に至り長柄郡と合して長生郡と稱す。

また北斜面は東流する荒川、南斜面は南西流する笛吹川の水源地をなす。山頂部には古生層の巨岩累累とし、その間にシヤクナゲ・シラビソの密叢あり、また僅かの榎松も見掛らる。西破風の南斜面より發する笛吹川枝澤ナメラ澤は曾て大生の遺跡せし地なり。山名は三宮村字廣瀨より此山を望めば破風造りの屋根の如く見ゆるに因ると云ふ。登山は多く履坂峠乃至甲武信ヶ岳方面を尾根縱走して行はる。

ハフ 土生町 廣島縣備後國御調郡の南方海上にある因ノ島の西南部を占め、西南部に狭き瀬戸を距てて愛媛縣所屬の生名島・鶴島・龜島等横はりて前面を掩ひ、其後方に岩城島及び廣島縣所屬の生口島あり。山地周圍を圍み北より西南に傾き海岸に僅の平地を餘す。造船所(銅鐵船及び木造船)・鐵工所(大阪鐵工所因島工場等)等を有する工業地帯なり。農産物には麥・米・除虫菊・甘藷・柑橘・かみのり等を産し釣魚を主とする漁撈も行はる。生名島へ渡船の便あり。土生港より尾道市に至る海路は十八里八分にして此間毎日汽便八往復あり。中世は毛利氏に屬し、のち淺野藩に屬して明治維新に至る。大正七年町制施行。

【埴生村】 愛媛縣伊豫國温泉郡の西部海岸。重信川河口の右岸に位し、松山市は東北約一・五町にあり。南は川を距てて伊豫郡なり。松山平野の一部にて地形極めて平坦にして南境を重信川西流し伊豫灘に注ぐ。海岸砂洲發達す。米産多く麥も出ず。社説郡中線岡田驛へは東南約一町、余戸驛は東方約一町半の距離にして余戸驛及び北方三津濱町へバス通ず。この地は和名抄、久米郡餘戸郷に屬す。

【埴生】 伊豫國(愛媛縣)の古地名。和名抄に温泉郡埴生郷あり、その地今の温泉郡味生村・生石村の邊に當る。

【ハフ】 破風山 關東山脈秩父山塊の一峯。山梨縣東山梨郡三宮村と埼玉縣秩父郡大瀧村との境上に位す。二二一七・六米なる三角點の置かるる峯は通常西破風山と呼ばれ、この東方に並發する峯を東破風山と稱し、標高約二二九〇米を算す。東破風の南東稜は雁坂山(二二八九米)・雁坂峠(最高點二〇八二米)に續き、西破風の西稜は木賊山(二四六八米)・甲武信ヶ岳(約二四六〇米)に連る。

ハフ 半生 伯耆國(鳥取縣)の古地名。和名抄に倉見郡半生郷あり、その地今の西伯郡内ならんも詳かならず。

【埴生郡】 下總國(千葉縣)の古郡名。萬葉集に下總國埴生郡と見ゆるが最も古く、日本後記・延暦二十四年にも郡名見ゆ。延喜民部省式には埴生に作り、拾芥抄も之を襲ふも埴生の誤なり。和名抄は波牟布と訓じ玉作・山方・麻在・酢取の四郷を置く。明治十三年上總國の埴生郡と區別するため下埴生郡と稱せしが、明治三十年印旛郡に入りて郡名を失ふ。

【埴生】 筑前國(福岡縣)の古地名。和名抄に遠賀郡埴生郷あり、その地今の遠賀郡遠賀村の邊に當る。

【ハフジ】 八分字村 熊本縣肥後國館誌郡の西南部。白川の南岸に沿ひ東北の一隅は熊本市西南隅に接す。地形平坦にして北境に白川西流し約四町西に至りて島原海灣に注ぐ。戸數の割合に耕地少くも耕種農業を主として三七三戸は農業を

管む。外に商業を管むもの三六戸、工業を行ふもの一〇戸、其他八〇戸あり。特産物には軟白蔬菜・七島蘭表あり。熊本市及び東南方川尻町へ道路通じ自動車の便あり。

ハフミ 法美郡 法美郡 波浮港村 大島波浮港村(東京府)

ハフリ 祝人 上野國(群馬縣)の古地名。和名抄に新田郡祝人郷あり、波布利と訓ず。その地今詳ならずも新田郡編打村の邊に當るか。

ハブソ 社 臺灣新竹州大溪郡にある蕃社。大嵯岬右岸に位す。蕃屋は三箇所に分れヨハブソ駐在所より西南方一・三軒乃至四軒の間にあり、タイナル族の大嵯岬前山蕃に族する高砂族の部落。

ハブソ 馬糞ヶ岳 中國山脈の一峯。徳山市の北東方約二四軒、山口縣玖珂郡廣瀬村と都濃郡須金村との境上に跨る。標高九八五米、山麓凝灰岩より成る。北東方に水ノ尾山(九八三米)峙つ。

ハヘー 坡平面 朝鮮京畿道坡州郡東北端、臨津江の左岸に沿ひ、郡邑汝山の北東方約五軒、東南部は四百米前後の山地を成せども西北に向つて漸次低夷し、域内一般に丘陵地を成し、臨津江沿岸には平地横ばる。米・大麥・大豆・棉等の産あり。其他牧羊・養蠶・木炭製造行はる。鐵道京義線は西、西南方を通じ臨津江を挟んで古枝村市街地に續く。省線長崎本線この地を通じ肥前濱野(昭和五年設置)あり。大正七年八本木村を濱町と改稱す。(松岡神社)大字仁田山に鎮座。神社。祭神、日本武尊・伊弉那美尊・素戔鳴尊。領主有馬氏の崇敬篤し。

【濱町】熊本縣肥後國上益城郡の東南部。阿蘇火山の南麓に位し、御船町の東方約一三軒にある山村。東北部は阿蘇山南麓斜面にして北境にて五八八米の高さを有し、千瀬川南流して南隣白糸村に出づ。西部及び南部は約六〇〇米餘の山地起伏し、西南境には城山あり。農業を主とし商工業も行はる。主産物は米・蔬菜の外に清酒・茶・干柿などの特産物あり。熊本より宮崎縣に至る要路に當り、縣道中央を南北に走り、又東方へ向ふ縣道もあり。その交叉點に主邑發達す。古くは和名抄、益城郡宅部郷の内にして、近世は矢部庄の首邑たり。もと濱町村と稱せしが明治四十五年濱町と改稱す。域内に岩尾城址あり。承元中、阿蘇大宮司惟次の築城に係ると傳へ、又その館を濱館と稱し己は濱館に在館し、城には甲斐大和守親宣を置いて城代とす。いま城跡に一祠殿を立て是を城山神社と稱す。(豊井手の大樽)指定天然記念物。大字下馬尾字平ノ迫の斷崖に密接して立つ。約五・六米の高さに於て二大枝に分岐す。分岐部の幹圍約九米、榊の巨樹として有数のもの。(妙見の大樽)指定天然記念物。大津面の汝山驛より三等道路を通じ、縦貫して積城・高浪浦に達し、乗合自動車の便あり。葉落密度は比較的疎にして、臨津江に臨む斗浦里を面せしむ。此處に市場・學校あり。

津面の汝山驛より三等道路を通じ、縦貫して積城・高浪浦に達し、乗合自動車の便あり。葉落密度は比較的疎にして、臨津江に臨む斗浦里を面せしむ。此處に市場・學校あり。

津面の汝山驛より三等道路を通じ、縦貫して積城・高浪浦に達し、乗合自動車の便あり。葉落密度は比較的疎にして、臨津江に臨む斗浦里を面せしむ。此處に市場・學校あり。

津面の汝山驛より三等道路を通じ、縦貫して積城・高浪浦に達し、乗合自動車の便あり。葉落密度は比較的疎にして、臨津江に臨む斗浦里を面せしむ。此處に市場・學校あり。

ハマ——ハマサ

津面の汝山驛より三等道路を通じ、縦貫して積城・高浪浦に達し、乗合自動車の便あり。葉落密度は比較的疎にして、臨津江に臨む斗浦里を面せしむ。此處に市場・學校あり。

ハベルダオブ 島 Habeldab I 南洋群島中、パラオ諸島の一島。諸島の北端に位し、ホナヘ島に次ぐ大島にして東西一五軒、南北四五軒、面積三七〇方軒あり。南のコロル島と共にパラオ島と汎稱せらるるにより、此島はパラオ本島と通稱す。中央部の東に面しナイマイ灣、西にカスパン灣を抱く外、海岸線は一般に平調なり。海岸には東岸に珊瑚、西岸には珊瑚の外に遠く堡礁を繞らし、熊湖内は波極めて静かにて、カヌーの交通自在なり。島内にはカウテラウセル等の如き尖峰の諸處に巽容を聳立せしむるも、概して波狀臺地の起伏するのみ。地質は全島が輝石安山岩と、その集塊岩より成り、西部のカスパン及び南岸などに水成岩あり、地表はラテライト(紅土)を以て蔽はれ樹木茂らず、蕪涼の地を出現す。但し小溪の流域のみは椰子繁茂し、下流は紅樹密生す。住民は主として農・漁に従ふ。農業に甘藷・タバコ・サトウ・カサネ・鳳梨・鳳梨・鳳梨・鳳梨等あり、漁業に魚・鮑・高瀬貝・海鼠等とす。また北部に海産物、その他楊炭屑・瑪瑙等賦存するも未だ開發に至らず、人口稀薄なるを以て植民行はれ、島内に三箇所の植民地選定せらる。即ちアイライ村(一三〇ヘクタール)・カドツク川流域(五七〇ヘクタール)・カドリス川流域(三四〇ヘクタール)にして、約二百三十戸を收容する豫定、昭和十一年十月現在にて一四五戸の移住あり。本島の聚落は東岸のマレキョク、ガラド、西岸のアレモノガイ、北岸のアレコロン等を主とし、邦人はマレキョクに多く居住す。マレキョク村にはマレキョク城址あり、石材を積みて城郭または營様のものを築く。人口は昭和十二年四月現在四六六五人にして、密度は一方軒に付一二・六人に過ぎず。而して邦人は一三五三人、島民はカナカ族三三三三人、チャモロ族七四人、外國人五人あり。之を前年と比較するに、昭和四年三三二一人、同八年三八三人にして、島民の増加率は著しきものなきも、内地人は昭和四年一三一人、同八年四〇二人、同十二年一三二一人と格段の増加を示せり。

ハホマイ 齒舞村 花咲郡(北海道根室支廳) 齒舞村 花咲郡(北海道根室支廳)

ハホロ 羽幌 北海道天鹽國留萌支廳留萌郡の中部。日本海に面し前面に天賣・焼尻二島を望む。東は天鹽山脈分水嶺南北に連亘し空知支廳に界し、北は初山別村、南は留萌村に接す。面積四六三・三七方軒、東中部は山嶽地帯にして山林繁茂すれども地勢海岸に向ひて傾く。山中に發したる羽幌川・榮別川は何れも西流し海に注ぐ。沖積平原大に展げ耕地・葉落集る。羽幌川口に主邑羽幌町の市街地發達す。米・大豆・小豆・燕麥・馬鈴薯等の農産多く、山地には牧畜行はれ、また鱈・鮭・鱒の漁業あり。省線羽幌線の終點羽幌驛(昭和七年設置)所在地にして、留萌町にバス及び汽船を通ず。本町は大正七年町制を布く。町内に羽幌警察署・羽幌測候所等あり。

【羽幌驛】省線留萌線の一。北海道天鹽國留萌郡留萌村の留萌本線留萌驛より日本海に沿ひ北上し、留萌郡羽幌町の羽幌驛に至る六〇・六軒。留萌驛にて社線留萌鐵道に連絡す。

【羽幌驛】省線留萌線の一。北海道天鹽國留萌郡留萌村の留萌本線留萌驛より日本海に沿ひ北上し、留萌郡羽幌町の羽幌驛に至る六〇・六軒。留萌驛にて社線留萌鐵道に連絡す。

【羽幌驛】省線留萌線の一。北海道天鹽國留萌郡留萌村の留萌本線留萌驛より日本海に沿ひ北上し、留萌郡羽幌町の羽幌驛に至る六〇・六軒。留萌驛にて社線留萌鐵道に連絡す。

【羽幌驛】省線留萌線の一。北海道天鹽國留萌郡留萌村の留萌本線留萌驛より日本海に沿ひ北上し、留萌郡羽幌町の羽幌驛に至る六〇・六軒。留萌驛にて社線留萌鐵道に連絡す。

【羽幌驛】省線留萌線の一。北海道天鹽國留萌郡留萌村の留萌本線留萌驛より日本海に沿ひ北上し、留萌郡羽幌町の羽幌驛に至る六〇・六軒。留萌驛にて社線留萌鐵道に連絡す。

【羽幌驛】省線留萌線の一。北海道天鹽國留萌郡留萌村の留萌本線留萌驛より日本海に沿ひ北上し、留萌郡羽幌町の羽幌驛に至る六〇・六軒。留萌驛にて社線留萌鐵道に連絡す。

【羽幌驛】省線留萌線の一。北海道天鹽國留萌郡留萌村の留萌本線留萌驛より日本海に沿ひ北上し、留萌郡羽幌町の羽幌驛に至る六〇・六軒。留萌驛にて社線留萌鐵道に連絡す。

【羽幌驛】省線留萌線の一。北海道天鹽國留萌郡留萌村の留萌本線留萌驛より日本海に沿ひ北上し、留萌郡羽幌町の羽幌驛に至る六〇・六軒。留萌驛にて社線留萌鐵道に連絡す。

【羽幌驛】省線留萌線の一。北海道天鹽國留萌郡留萌村の留萌本線留萌驛より日本海に沿ひ北上し、留萌郡羽幌町の羽幌驛に至る六〇・六軒。留萌驛にて社線留萌鐵道に連絡す。

【羽幌驛】省線留萌線の一。北海道天鹽國留萌郡留萌村の留萌本線留萌驛より日本海に沿ひ北上し、留萌郡羽幌町の羽幌驛に至る六〇・六軒。留萌驛にて社線留萌鐵道に連絡す。

【羽幌驛】省線留萌線の一。北海道天鹽國留萌郡留萌村の留萌本線留萌驛より日本海に沿ひ北上し、留萌郡羽幌町の羽幌驛に至る六〇・六軒。留萌驛にて社線留萌鐵道に連絡す。

【羽幌驛】省線留萌線の一。北海道天鹽國留萌郡留萌村の留萌本線留萌驛より日本海に沿ひ北上し、留萌郡羽幌町の羽幌驛に至る六〇・六軒。留萌驛にて社線留萌鐵道に連絡す。

【羽幌驛】省線留萌線の一。北海道天鹽國留萌郡留萌村の留萌本線留萌驛より日本海に沿ひ北上し、留萌郡羽幌町の羽幌驛に至る六〇・六軒。留萌驛にて社線留萌鐵道に連絡す。

【羽幌驛】省線留萌線の一。北海道天鹽國留萌郡留萌村の留萌本線留萌驛より日本海に沿ひ北上し、留萌郡羽幌町の羽幌驛に至る六〇・六軒。留萌驛にて社線留萌鐵道に連絡す。

【羽幌驛】省線留萌線の一。北海道天鹽國留萌郡留萌村の留萌本線留萌驛より日本海に沿ひ北上し、留萌郡羽幌町の羽幌驛に至る六〇・六軒。留萌驛にて社線留萌鐵道に連絡す。

【羽幌驛】省線留萌線の一。北海道天鹽國留萌郡留萌村の留萌本線留萌驛より日本海に沿ひ北上し、留萌郡羽幌町の羽幌驛に至る六〇・六軒。留萌驛にて社線留萌鐵道に連絡す。

【羽幌驛】省線留萌線の一。北海道天鹽國留萌郡留萌村の留萌本線留萌驛より日本海に沿ひ北上し、留萌郡羽幌町の羽幌驛に至る六〇・六軒。留萌驛にて社線留萌鐵道に連絡す。

【羽幌驛】省線留萌線の一。北海道天鹽國留萌郡留萌村の留萌本線留萌驛より日本海に沿ひ北上し、留萌郡羽幌町の羽幌驛に至る六〇・六軒。留萌驛にて社線留萌鐵道に連絡す。

【羽幌驛】省線留萌線の一。北海道天鹽國留萌郡留萌村の留萌本線留萌驛より日本海に沿ひ北上し、留萌郡羽幌町の羽幌驛に至る六〇・六軒。留萌驛にて社線留萌鐵道に連絡す。

【羽幌驛】省線留萌線の一。北海道天鹽國留萌郡留萌村の留萌本線留萌驛より日本海に沿ひ北上し、留萌郡羽幌町の羽幌驛に至る六〇・六軒。留萌驛にて社線留萌鐵道に連絡す。

【羽幌驛】省線留萌線の一。北海道天鹽國留萌郡留萌村の留萌本線留萌驛より日本海に沿ひ北上し、留萌郡羽幌町の羽幌驛に至る六〇・六軒。留萌驛にて社線留萌鐵道に連絡す。

て濱坂驛(明治四十四年設置)あり。海上東方津居山港及び西方浦富港に至る航路あり。この地は和名抄の二方郡大庭郷及び二方郷の各一部に當るもの如し。もと東濱村と云ひしが明治二十四年濱坂町と改む。(但馬御火浦)指定名勝。本村及び城崎郡餘部村に跨る。日本海の波濤に浸蝕されたる集塊岩・凝灰岩・花崗岩其他諸種の火成岩より成り、景勝の變化に富める海岸なり。色彩の異りたる斷崖高く連りて其最も雄大なものを屏風岩となす。數多の岩脈は帯の如くに其盤を貫き、隨處に露はるる洞門・洞窟は此等の岩脈もしくは斷層に沿うて生じ舟を入るもの少からず。釣鐘洞門・十字洞門はその主要なるものとす。岩礁島嶼は點々として波間に相懸じ、とらき安山岩の柱狀節理を成せる大嶋と朝陽夕輝を腹背に迎へて景致を添ふる北走巖岬の朝日洞門とは奇勝中の尤なるものに屬す。(相應峯寺)天台宗。大峯寺。西國三十三所の一。天平九年行基の開創に係る。寺内に三塔あり。本尊十一面觀音立像(木造)一軀は國寶。

麓は臺地狀に終る。西北部海岸には廣き平野開け、海岸を松浦灣といひ單調なる松林多き砂濱にて東部に市街地發達す。低地は水田發達し米の産多し、麥・蕎も出す。海岸沿ひに縣道走りまた東南方佐賀市へ通ずる縣道もあり。省線筑肥線も亦海岸を通過し濱崎驛(大正十二年設置)・東濱驛(昭和六年設置)あり。此附近は古く玉島と稱し、和名抄、松浦郡大沼郷の内か。維新前は唐津領に屬す。大正十一年町制を布く。本町附近の海岸は虹ノ松原の名所として風光を以て知らる。(諏訪神社)大字濱崎に鎮座。郷社。祭神、健甕名方命。對馬藩の總社として古來上下の尊崇篤く、藩主は或は代參を派し、或は祈禱を命じ、營繕を爲すなどのことあり。

の經營に係り昭和十年には金・銀・鐵三〇、八六九越、酸化鐵礦一四、八四六越、二酸化滿鐵二、二八一越を出し、同年六月末の従業員四一一人。明治二十二年町制施行に當り、白濱・柿崎・濱崎の三村を含む濱崎村と稱せしが、同二十九年白濱を分離し白濱村を立つ。(玉泉寺)大字柿崎にあり。曹洞宗。海上山。古くは眞言宗の小庵なりしが、天正年間一徹俊榮現宗に改む。安政三年七月米國使節ダウセンド・ハルリス當寺内に初めて領事館を置き、翌年十一月廿三日まで此地に居住す。境内にハルリス記念碑・居牛木供養塔あり。ハルリス本庭前の佛手柑樹に牛を繫ぎてこれを屠殺し、食用に供す。蓋し我國に於ける屠牛の嚆矢なりとす。

にあり。(稱名寺)大字黒目にあり。眞宗高田派。寛元元年觀覺上人弟子法善坊光實(佐々木三郎盛綱)の創建に係りて、古へは本國老分十二箇寺の一たりき。現堂は元祿二年の再建に係る。

ハマサキ

濱崎町 佐賀縣肥前國東松浦郡の北部・唐津市の東方約四軒。西北は玄海灘に臨み、西北より東南に細長き村なり。中部東南偏に六五〇米餘の山地あり。東南部は其支脈によりて西・東・南の三面開まれ山頂より西南方に向ひて谷開く。中部は其山地の西北斜面をなし山

ハマザキ

濱崎村 靜岡縣伊豆國賀茂郡の東南部。下田町の東南に接し、海中に突出せる小半島をなして西に下田灣を抱き、東は相模灘に面す。土地概ね丘陵性にて聚落は海岸にあり。水産を主生業とし、農・林業・牧畜も行はる。東海岸は天草の採取地として白濱村に次ぐ。北部を東西に縣道走り下田町に近く、これより修善寺・沼津方面へバス通ず。當村及び稻生澤村・稻津村に跨りて河津鐵山あり。鐵區は登録上四に分れ總計二〇八萬餘坪、其内の一鐵區は濱崎村の内にありて鐵種は金・銀・銅・酸化鐵、他の三鐵區は純て金・銀・銅・滑塊とす。日本鐵業會社

ハマシゴ

濱四郷村 福井縣越前國坂井郡の西部。九頭龍川の河口左岸にあり。西は日本海に臨む。中部には高度四〇米内外の砂丘連なり、海岸一帯は三里濱の一部にて砂濱をなす。東部は九頭龍川沿岸には沖積地あり耕地よく開け、砂丘には防砂松林あり。村民は殆ど農業に従事し、全戸數の一割弱は漁業に従ふ。爾・米・蔬菜類の農産の外に鱈・鯖・鮪・蟹の水産物あり。なほ近來織物工業も行はる。縣道は九頭龍川沿岸及び中部砂丘上を通じ、北隣新保村にて兩道合す。此地は坂井郡海部郷に屬せしものなり。延喜式の坂井郡片岸神社はこゝ

ハマジリ

濱尻 群馬縣群馬郡中川村の大字。兩毛線の濱尻驛(昭和十二年設置)を置く。

ハマタ

濱田村 秋田縣羽後國河邊郡の西部。秋田市の南方約六軒。西方は日本海に面し、南は由利郡に接す。面積六・九四万軒。村の中部に大森山(一二四米)あり、南北に亘りて丘陵をなし、西部は狭長なる砂濱をなす。東北部は秋田平野の一部をなして平坦なり。米を産す。酒田街道は村の中部を南北に通じ、北方羽越本線新屋驛へ約一軒あり。

於て稀に見る石窟佛とす。

山陰道町の東部をほぼ並行して東北より西南に走り前者の濱田驛(大正十年設置)を石見村内に置く。もと松平氏六萬石の舊城下町として發達せる石州第一の都會なり。もと郡役所の所在地たり。いま濱田區裁判所・縣立濱田調候所・驗潮所・島根縣女子師範學校・縣立濱田中學校・濱田高等女學校・水産講習所・水産試験場等を置く。市街地は東西に長く南北に短き形態を有し、新町が最も繁華なり。

の爲に祀れる神なりと云ふ。延喜式内社とす。豐受姫命はもと境内末社なりしも明治七年當社に合祀す。例祭日、五月九日。(顯正寺)眞宗大谷派。幡谷山破邪院。眞宗廿四聖唯信房の開創に係る。もと常陸國保内の庄にありしが、のち領主に從ひて數次寺基を移し、慶安二年當地に至る。(心覺院)大字淺井にあり。淨土宗。黒谷金戒光明寺末。もと天台宗に屬し舊城山麓番所なる地にありしを、元和五年濱田城築造の初、今の地に移る。本尊阿彌陀如來立像(木造)一軀は國寶。

ハマタ

濱田村 福島縣岩代國岩瀬郡の東南部。須賀川町の東南に隣り、東は阿武隈川を隔てて石川郡に接す。村の西南部は丘陵性臺地をなすも、東北部は平坦なり。阿武隈川は東境を北流す。米・蕎・麥・葉煙草等を産す。石川街道は村の中西部を南北に通じ、北方須賀川町、南方石川郡石川町へはバスの便あり。此地は和名抄、磐瀨郡磐瀨郷の内なり。(岩屋大佛と横穴群)大字和田にあり。阿武隈川の北畔に連なる丘陵の岩壁に多數の横穴古墳あり、後世更にこの岩壁・横穴を利用して石窟を造り、十二軀の佛像が牛肉彫にされてあり、その最大なるは高さ約二・五米、他は約一米、いづれも坐像なり。破壊甚だしく面相などかなりに磨滅し居るも、鎌倉末期の作風を存し、この地方に

【濱田町】 島根縣石見國那賀郡の中央西部。西は日本海に面し、他の三方は石見村に接す。域内には一〇〇米内外の丘陵起伏し、沿岸また海崖を成す所多し。海岸線は屈曲に富み濱田灣・松原灣・外ノ浦の灣入あり。濱田灣口には瀬戸ヶ島・馬島・矢筈島等の島嶼散布して其北を擁し良漁港を成す。東方石見村地内より發源し來れる濱田川は濱田灣頭近くにて右折し松原灣に注ぐ。市街地はその沿岸に形成せらる。濱田港は良港にして帆船時代より賑ひ、今も指定港たるも、大正十年山陰線開通以來驛に繁榮を蒙られ、商港として益々たるも、漁港としては頗る隆盛なり。濱田魚市場は縣下第二の賣上高を有し、近年の賣上高百二、三十萬圓に及ぶ。然してまた鮮魚の濱田驛移出は縣下一にて、木炭・粗陶器に次ぎ第三位なり。主として京阪へ向けらる。工業としては魚類罐詰最も多く、濱田町全生産額の三分の二を占め年産百萬圓に及ぶ。粗陶器の産も近年著しく増加し、製絲・紡織も亦見るべきもの多し。山陰本線及び

【濱田城】 町の北方松原浦にある城址。元和五年古田重治伊勢松坂より移りて築城し、五萬五千石を食む。初め重治は兄勝重の子重恒がなほ幼少なりしかば、暫く兄の遺領をつぎ、翌六年に至り重恒成人に及びこれを譲れり。而して重恒慶安元年六月卒して嗣子なく、家絶え、翌年松平(松井)康映磨山崎より移り、千孫相つぎて五代康福に至り、寶曆九年下總古河に轉じ、本多忠敬同輩より來り治す。三代明應の時、明和六年、三河岡崎に移り、松平康福再び古河より轉じて舊知に復し、天明五年新知一萬石を加へられ六萬石餘となり、傳へて四代康爵に至り、天保七年陸奥棚倉に移り、松平齊康上野館林より移り、四代武聰に至り、慶應二年毛利氏と戦ひ敗れ、自ら城を燒きて走り、ついで此年幕府の命によりて濱田に歸せしが城遂に廢す。(天豐足柄姫命神社)大字淺井に鎮座。祭神、天豐足柄姫命・豐受姫命。往古、麻糬繁殖

【濱田村】 熊本縣肥後國飽託郡の西南部。熊本市の西南方約三軒、西方約二軒にして島原灣海岸に出づ。面積一・四五万軒の小村なり。村内概して平地にして耕地全般に發達す。農産を主とす。熊本市へ自動車の便あり。本村はいま並建村・白石村・島口村と組合村をなし、役場を並建村に置く。

ハマタケ

濱武 福岡縣三浦郡にありし村。昭和十二年本村及び久間田村を廢し昭代村を置く。

ハマタテ

濱館村 青森縣陸奥國東津輕郡の南部。青森市の東南に隣り、東南

及び南は上北郡に接す。面積一三・七九方杆。西北より東南に長く長さ約二四...

ハマタツ 濱多度津 土讃線の一驛(明治二十二年設置)。香川縣仲多度郡...

ハマデラ 濱寺町 大阪府和泉國泉北郡の北部。堺市の南に接し、大阪湾に臨む...

術資料抄からず。月曜日を除く外毎日無料公開す。

ハマトシベツ 濱頓別 北海道北見國枝幸郡頓別村の大字。北見線の濱頓別驛(大正七年設置)あり。

ハマナ 濱名

〔濱名郡〕 靜岡縣遠江國の南西部。縣内十三郡の一。濱名湖に臨み、南は遠江灘に面す...

の活況を呈せり。省線東海道本線は郡の南部を東西に貫通し、東海道また之と並び通ぜり...

〔濱名湖〕 靜岡縣にある鹹水湖。湖岸は濱名郡・引佐郡に亘る。湖岸線延長一六・二杆にして琵琶湖・霞ヶ浦に次いで我國第三位、面積七二・〇平方杆にして我國第十位、深度一五・八米。形状複雑を極め、北に引佐細江・猪鼻湖あり、東に館山寺内浦、西に知波田浦・太田浦あり...

〔濱名湖〕 靜岡縣にある鹹水湖。湖岸は濱名郡・引佐郡に亘る。湖岸線延長一六・二杆にして琵琶湖・霞ヶ浦に次いで我國第三位、面積七二・〇平方杆にして我國第十位、深度一五・八米。形状複雑を極め、北に引佐細江・猪鼻湖あり、東に館山寺内浦、西に知波田浦・太田浦あり...

〔濱名湖〕 靜岡縣にある鹹水湖。湖岸は濱名郡・引佐郡に亘る。湖岸線延長一六・二杆にして琵琶湖・霞ヶ浦に次いで我國第三位、面積七二・〇平方杆にして我國第十位、深度一五・八米。形状複雑を極め、北に引佐細江・猪鼻湖あり、東に館山寺内浦、西に知波田浦・太田浦あり...

ハマノイチ 濱之市 年人町(鹿兒島縣)

ハマノウラ 濱ノ浦村 長崎縣肥前國南松浦郡中通島の西部。東南部は有川町の西南に接し、東を除く三面海に開かれ西南は若松島に對す。全村山岳地にして東南境に山王山あり。山脚海に迫りてリヤス式海岸をなし北岸には濱ノ浦の灣あり。南岸には道土井灣・青木灣あり、西南部は長く突出して焼崎ノ鼻となる。各灣澳にはそれぞれ同名の部落發達す。西方海上には串島横はり、北部海上にも柏島を初め小島嶼浮ぶ。農産・林産・水産あり。交通便ならず。

ハマノベ 濱邊 福島縣信夫郡にありし村。明治三十一年福島町に編入され、同町は四十年市制を布く。

ハマハラ 濱原村 鳥根縣石見國邑智郡の東北部。江ノ川に跨り山本町の東北約二杆にあり。南境には山脈連りて中央に石見山(六二九米)聳え、西境にも青杉ヶ城(四九五米)等の連嶺北方へ高さを減じつつ連り、東北部にも丘陵聳る。江ノ川は南方より來りて東境南部に沿ひ北流し、中央にて西折して村内に入り、青杉ヶ城麓に出て再び北折し、西北隅より西境山地の北麓を繞りて柏淵に出で、其西麓を南下す。北部には之に注ぐ支流東方より來り西流す。河川流域に耕地稍拓け藪・米等の農産及び林産あり。外に水

時代の濱名湖口に濱名橋が架り、白須賀町(濱名郡)の位置は現在とは異り今の大字元町の所にあり、之は寶永四年の大津波に流失の厄に遭ひ、汐見坂上に移轉せしもの。ここを経て濱名橋を渡り往來す。立派なる濱名橋の架せられしは陽成帝元慶八年のことにて長さ五六丈、幅一丈三尺、高さは一丈六尺と傳ふ。地勢平坦なる湖南の交通はその後益々頻繁となり、慶長五年に今切番所が置かれ、京都又は江戸への出入を警護し、一面交通の取捨りをなす。江戸時代には東海道は今切の兩岸、東の舞坂、西の新居間の今切渡船により海上を渡る。この今切の語は婦人の忌詞なるを以て東海道を上下する諸侯婦人の往來は必ず今切を避け本坂峠を越す、これを姫街道といふ。いま湖上の交通は濱津町(濱名郡)を起點とし三ヶ日町・氣賀町(引佐郡)に通ずる濱名湖巡航汽船會社の二航路あり。

ハマナカ 濱中

〔濱中村〕 北海道釧路國厚岸郡の東部。釧路國支廳管下。南は太平洋に面し、西は厚岸町に隣接す、面積四四・九四方杆。海岸線の出入に富み、濱中・琵琶瀨の二灣を抱く。湯沸岬中央に斗出して兩灣を割せり。西南海岸の新川・琵琶瀨川流域及び火敷布沼・藻散布沼邊は廣大なる低濕地をなす。背後は概ね百米以下の臺地に占められ風蓮川の上支流の水源地をなす。聚落は海岸に多く水産物豊富な

り。昆布・帆立貝・鮭・鱈等を産す。根室本線通じて茶内・濱中・姉別の三驛(共に大正八年設置)を置く。本村はもと鷗多布村と稱せしが、明治廿九年濱中村と改む。村内に釧路區裁判所出張所・鷗多布燈臺あり。燈臺は昭和五年設置、不動白光、光達距離一二哩。(鷗多布泥炭形成植物群落)指定天然記念物。本村大字鷗多布にあり。鷗多布泥炭地は本村及び琵琶瀨村に跨り、面積凡そ三三・三四ヘクタールにして、このうち高位泥炭に屬するもの約九四二ヘクタールが指定天然記念物なり。これを植物景によりて細別すれば水蘚泥炭・ワタスケ泥炭となすことを得。而して主要植物はヒメシヤクナゲ・イソツツジ・ガクコウラン・ヤチヤナギ・マウセンコケ・ツルコケモモ・スヤコケ・ハンノキ・ワタスケ・ミカクササウ・ミヅコケ・クシロハナシノア等なり。泥炭層の深さは所によりて多少差異あるも、一米二乃至一米半に達す。此は泥炭化作用を究るに適切な場所として價値大なり。

ハマノ 濱野 千葉縣千葉郡生濱町の大字。房総西線の濱野驛(明治四十五年

産・工業・畜産もあり。北部を縣道横断してバスの便あり、また省線三江線濱原驛(昭和十二年設置)あり。此地は和名抄、邑智郡佐波郷に屬せるものなりと。大字湖原に青杉城址あり。吉野時代に佐和善四郎父子の居れる所。正平五年高師泰の陥る所となる。

ハマママ 濱益

【濱益郡】 北海道石狩支庁管内下五郡の一。石狩支庁管内の西北隅に位置し、東は空知支庁、南は厚田・石狩二郡に接す。面積三二・四三方。濱益村一村を含む。三方を山嶽に圍繞せられ、北境には暑寒別岳(一四九一米)、雄冬山(一三三八米)、東境に知來岳(九八九米)等聳え、郡内悉く山嶽地帯をなし、濱益・群別・幌の諸川西流して海に注ぐ。濱益川流域の平地最大にして耕地概れ此處に集る。郡内漁業最も盛にして、濱益河口右岸の濱益村部落その中心をなす。鯉・鮭・昆布の漁獲多し。濱益川沿ひに地方道通じ、省線函館本線輕川驛・瀧川驛に自動車通ずるも、郡内交通不便なり。大字茂生村に郷社稻荷神社鎮座、保食神を奉祀し、七月十五日例祭を行ふ。

ハマママ 濱松

【濱松市】 静岡県西南部、天龍川と濱名湖との中間に位置する工業都市。東經一三七度四三分、北緯三四度四三分。東北

び之に附随するものに濱州織機・鈴木式織機・東洋紡績・鐘紡・日本形染を始めイノ織布・濱松機糸・大日本コットン・城北機糸・下位織布等の各工場あり。其他、日本楽器製作・帝國製帽・旭日水糖・中村水糖・旭日製菓工業・濱松瓦斯・濱州製氷冷蔵の諸工場は規模大きく、また官營工場として鐵道省工場あり。なほ特産品として濱納豆・甘納豆・忍冬酒・曳馬萩筆等は名高し。次に農産は生産額八七萬圓餘あり、米(一萬石)・麥(一萬石)・甘藷(三〇萬貫)・大根(一一二萬貫)・生姜(四萬貫)・蓮根(六萬貫)・絲瓜(二八萬個)等を主なるものとし、このうち生姜は埴賀壤土の沖積地を、絲瓜は砂質壤土の沖積地を主要栽培地とし、前者は乾生姜として北米其他に、後者は英・佛・米等に輸出せらる。茶の栽培は盛んにして茶畑一五〇ヘクタールあり、三八萬貫(一三萬圓)を出し、繭は一萬貫(五萬圓)あり、メロン栽培も近來大に行はる。農家にはまた牛・馬・豚・山羊・家兎・鶏の飼育を行ひ、畜産額約三三萬圓を擧ぐ、産物は屠肉(一八萬圓)・鶏卵(七萬圓)・牛乳(五萬圓)を主とす。商業戸数は九二五一戸にして工業戸数は八六三八を凌ぎ各職業の首位を占む。會社数は三八八を數へ、うち工業一六二(支店八)・商業二〇一(支店二六)運輸二二(支店二)その他四にして、金融機關は濱州銀行・濱松銀行・濱松貯蓄銀行・安田銀行支店・勸銀支店等を主なるもの

は濱名郡三方原村・積志村、東は長上村・蒲村・飯田村・芳川村、西は吉野村・伊佐見村・神久呂村、南は白藤村・可美村に接し、東西六軒、南北九軒餘、面積三七・一四方軒、人口一五・四萬。(地形)中南部より西北方は隆起洪積地たる三方原にして標高三〇—五〇米を算し、これを縁取りて東部及び南部に沖積低地あり。そのうち西部は海岸低地にして土地の緩慢なる隆起に伴ふ濱州灘の後退により形成されし海濱の遺物とし、東部及び東南部は河岸低地にして天龍川の堆積作用により成立せしものとす。即ち天龍川は古くは西方を流れしものにて、現に三方ヶ原臺地にはその曲流によりて四字形に浸蝕されたる跡を明かに認め得。市の東部を南北に流る馬込川は實にその舊河道の遺存せるものなり。而して低地には田畑よく拓け、三方ヶ原は一面に小松を生ずるも處々開拓されて桑園または茶園として利用せらる。市街は大部分臺地下の沖積層の上に立地す。(氣象)概して氣候溫和にして、氣温は年平均一五・一度、最高極は三三・三四度、最低極は零下三・五度の間にあり、降水量は平均一九三二耗を算し、風は一年を通じ北西風卓越す。(産業)工業を第一とし、總生産額八〇九萬圓(昭和十一年、以下準之)中の九八%を占め、他の生産業は無視しても可なる程度なり。工産品の大宗は綿織物、特に濱州織物にして、樂器・製帽・人造絹

とす。貨物の移動状況を見るに、その省線濱松驛に於て發送一四萬六千越あり綿織物・生野菜・砂糖類・綿糸・機械類・煙草・燐肥・菓子・鹽・茶等を主とし、到着貨物は石炭・綿糸・木材・米・砂糖・肥料・大豆・セメント・綿類・小麦類等を合して三三萬六千越あり。市内の市場は魚鳥水産四、蔬菜果實六、繭一にして、取引高はそれぞれ八〇萬圓、一一五萬圓、七六萬圓、合計二七一萬圓に達す。(交通)南部を東西に省線東海道本線通じ、濱松驛(明治二十一年設置)あり、同驛より引佐郡奥山へ濱松鐵道、磐田郡二俣へ濱州電氣鐵道の兩社線を出し、前者に東田町・田町口(共に大正四年設置)・元城・善濟寺口・中學校前・瀨原前・錢取・飛行機前・追分(以上大正三年設置)の各驛、後者には旭町(昭和二年設置)・濱州馬込(大正十三年設置)・濱州濱松(大正十二年設置)・瀨市場前(昭和五年設置)・濱州助信・濱州島ノ郷・濱州上島(以上大正十二年設置)の各驛を設く。道路は省線とほぼ並走する國道東海道を幹線とし、西北の氣賀町を経て三河に至る姫街道、東北の二俣に通ずる二俣街道を始め、掛塚・市野・伊佐見・雄踏の各地に至る縣道あり、何れもバスを通じ、交通至便なり。市内多數の工場は凡て沖積低地に位し、特に綿工業の工場は多く南東部の馬込川流域に集中して、織物業・染色業と水との密接なる關係を物語る。洪積層の臺地は住宅地を

綿等の近代工業は之につぐ。此地の綿工業は古來行はれし家内工業に基礎づけられしものにて、その濫觴は弘化年間井上河内守が殖産に留意し藩中の子女に機械を奨め副業として後世に致せしにありと傳へ、明治初頭に至り織工を雇備しやや工場形態を修すもの現はれ、爾來逐年向上せしが、明治三十九年に至り全國に魁けて力織器を採用、且つ地理的位置良好にして原料・動力・勞力の供給に恵まれるにより本邦有数の機織地となるに至れり。而して市内及近郊の諸工場による年産は一四五〇〇萬圓に達し、大正五年の一三〇〇萬圓、同八年の六八〇〇萬圓に比しその躍進の状を見るべく、右の内廣

濱松市工業統計(昭和十一年)

種別	製造場数		職工数		生産額
	男	女	計	計	
紡織工業	七三八	一〇、〇三三	一、七六七	五、五〇、七六〇	
織工業	一四一	一、〇四六	一、〇四六	一、四四、六七〇	
金工業	一六九	一、〇〇〇	一、〇〇〇	七、九八、七〇〇	
機械器具工業	一六四	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、四八、八三三	
窯業	三三	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、四九、三三九	
化學工業	三三	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、四九、三三九	
製材及木製品	二二二	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、四九、三三九	
印刷及製本業	五六	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、四九、三三九	
食料品工業	一八七	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、四九、三三九	
瓦斯及電氣業	一	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、四九、三三九	
其他ノ工業	六〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、四九、三三九	
合計	二、四九二	一、一、三三七	一、一、三三七	一、一、三三七	

なし、また學校町・兵營町となり、三方ヶ原の曠野を利用して飛行第七聯隊・高射砲第一聯隊置かれ、これに接続して飛行機飛行機製作所・練兵場・陸軍射撃場など連なり、飛行場に接し神久呂村に濱松陸軍飛行學校あり。市内目貫の場所所は銀治町・傳馬町・速尺町・神明町・田町等にして、元城町の丘上には濱松城址あり市街の展望に適す。主要官公署に市役所・稅務署・静岡地方裁判所支部・區裁判所・憲兵分隊・帝室林野局出張所・陸軍病院・測候所・海軍無線電信研究所など、特殊施設として縣立工業試驗場、學校には高等工業學校を始め、師範・中學(二)・工業・商業(二)・農畜の各縣立中等學校等、其他縣立鳴江病院・市立圖書館・商工會議所等あり、濱松放送局は東隣せる蒲村に設けらる。なほ濱松市は市勢の伸張に應じ、昭和二年以來、都市計畫事業を施行中にして、その區域は濱松市及び濱名郡蒲村・白藤村・可美村・入野村の各一圓、及び飯田村・芳川村の各一部とし、計畫街路線は幅員二・八米の一等大路以下、三三線あり、竣工決定は昭和二十年にして、現在の第一期街路新設事業費七九三萬圓、路線數一二、延長約一五軒、目下濱松驛—傳馬町間道間、銀治町—田町間道間の大路その他を竣工せり。市の戸口は昭和十一年に二八七五〇戸、一五三七七六八にして、うち男七五四九二人に對し女七八八四人あり、之を過去と比較する時

は大正九年七二二五八人、同十四年九二一五二人、昭和五年一〇九四七八人、同十年一三三三三八と激増す。昭和十年以後の増加の特に著しきは、隣接町村の併合によるものとす。(沿革)此地は和名抄、數賀郡濱松郷・驛家郷にして、西部のもと富塚村附近は柴江郷のうなるべし。濱松は波萬々津と訓し、高山寺本には濱津に作るも之は誤りなるべし。濱松郷はいま市の南部にして、中世以降は庄名に呼び、後世には數賀・濱名の二郡通じて濱松庄といふに至る。その南部は中世岡部郷と稱し、賀茂社領にて、かの賀茂眞淵はこの社人の裔とし、眞淵が岡部氏を稱せしも之に出づ。驛馬郷は延喜式に見ゆる翠原驛にして、濱松郷の北に接し、のち曳馬驛となり、曳馬の里は萬葉集などに萩の名所と謳はる。前述の如く市の東部を流る馬込川は天龍川の舊河道にて、平安朝時代には鹿玉川または廣瀬川と稱せしが、鎌倉時代より室町時代末期に亘り天龍川は漸次東移し大天龍・小天龍に分岐し、洪水氾濫等の結果河道の幅員一定せず、その本流は或は東、或は西に移り、濱松はこの川に近き渡船町たり。而して曳馬驛の東八軒の天龍川岸に池田驛、西約二〇軒の濱名湖畔に橋本驛あり、のち橋本は永正中の海嘯によりて水没し退轉して新居驛となり、池田また川の東岸に移りて衰ふるや、嘗ての波津たる濱松庄曳馬は東海道の要衝地とし

てひとり繁華を誇るに至れり。江戸時代に入り参勤交代及び諸人士の往来にて街道は雑沓を極め、傳馬町に本陣、旅籠町に膳本陣あり、殊に東海道と姫街道との交叉點にて且つ城下町なる爲、宿場町として大いに榮ゆ。元弘の頃は今川氏此地を領有し、永正年間三善氏曳馬城を築き永祿十二年徳川家康の居城となるに及び濱松城と改む。家康駿府に移りて後は常に徳川家重臣の居城地となり、約二百年間に城主を更ること十九代なりしが、弘化中、井上河内守入城して大に城産を勸奨するに及び、商工業盛に起り人口も著しく増加す。明治維新に及び濱松城は廢し、明治二年郡政役所を設けられて濱松市街取締大庄屋の支配に屬し、次で堀江縣・濱松縣を経て、同九年静岡縣の管下に入り、同二十二年町制施行せられて濱松町となり、全町を三十四の大字に分つ。かくて維新以後、濱松は政治的意義も失ひ、また東海道線の開通によりて交通上の價值をも減殺せしが、町の位置東京・大阪のほゞ中央に位し良好なる地理的環境を有するを以て、工業都市並にそれに伴ふ商業都市として勃興し、近來急激なる發達を遂げ、縣下に於て經濟的に静岡市を凌ぐに至れり。而して明治三十七年に濱名郡白脇村の一部を、同四十一年に淺場村の一部を編入、同四十四年七月に市制を施行せり。ついで大正元年には富塚村の一部を、同五年には曳馬

村・天神町村の各一部を、同十年天神町村を、また昭和十一年二月に曳馬町・富塚村を順次編入して今日に至る。(濱松城)初め引馬城といふ。永正年間三善爲連が久野之家をして築かしめしと云ひ、一説には、同年間に三河國小幡城主大河内氏これに築くとも云ふ。のち天文年中より永祿八年まで飯尾乘連・乘龍父子城主となり、次で飯尾家臣江間氏これを守る。同十一年十二月徳川家康これを得、元龜二年三河岡崎より移りて此處を甲斐の武田氏に對する根據地となし、天正五年には古城より西北へ續けて新城を經營し、同六年竣工するや、引馬の名を忌み城の所在地濱松の名を取りて濱松城と名づく。尙ほ此時本多作左衛門重次郭を作りしが、今に作左曲輪として址遺れり。天正十四年家康は北條氏に當る必要上、駿河に移り同十八年家康の關東入國に入警り堀尾吉晴城主となり、次で其子忠氏これを繼ぐ。然るに慶長六年堀尾氏關ヶ原役の功により松江に移封さるるや松平家廣・忠頼が所領たり。同十四年忠頼が所領を收めらるるや、徳川頼宣の老臣水野重伸これに代り元和五年重伸の紀伊に移るや、高力忠房これに代る。爾後、寛永十五年松平乘壽(三萬五千石)、正保元年太田資宗(三萬五千石)、延寶六年青山宗俊、元祿十五年松平資俊、寶曆八年井上正經、文化十四年水野忠邦等交替に封ぜられて城主たり。弘化二年井上正春六

萬石に封ぜられて入部、のち子孫相繼ぎて、明治維新に至り上總鶴舞に移封せられ、城廢す。(縣居神社)東伊場町に鎮座。縣社。祭神、賀茂眞淵。天保年間、濱州の國學者等賀茂眞淵の學徳を慕ひ、領主水野越前守忠邦の賛意を得て當社を創建す。祭神眞淵は遠江國敷知郡伊場村岡部新宮の禰宜の二男。元祿二年今の東伊場町に生る。二十七歳濱松の驛長梅谷甚三郎の養子となり享保十八年京に出で荷田東隱の門に入り國學を研め終にその學派を傳ふ。元文三年より岡部の姓に復す。寛保三年江戸に下りて教授す。延享三年田安中納言宗武に招聘され、寶曆十年十一月致仕、明和六年十月三十日歿す。年七十三。江戸品川東海寺内、少林院に葬る。後世、國學四大人の一に數へらる。明治十七年に現社號を稱す。例祭十月三十日。(五社神社)利町に鎮座。縣社。祭神、太玉命・武甕命外三神。相殿に應神天皇・徳川家康を祀る。創建年代不詳なるも、或は古代より此地に太玉命の神社ありて春日四社を併祀せりと云ひ、また久野佐渡守の末子越中守は武術鍛錬の爲に神功を得んとて、春日大明神を勧請し太玉命を併祀して五社大明神とすとも云ふ。往昔は城内二ノ丸に鎮座あり。永祿十一年徳川家康の濱松城に移るや當社を崇敬すること厚し。天正七年四月七日秀忠の城内に生る。や、御産靈神社と奉稱し五社神社と號す。翌八年七月に現社地

に遷座し舊社地に松を植えて五社松と稱す。慶長十五年秀忠は社領を百石に増し社殿を建造す。寛永十一年に家光あらためて神領三百石となし、以後徳川代々の將軍および國主の尊崇篤く、常に營繕を加へられ甚だ盛觀を呈せり。社殿(本殿)・幣殿・拜殿は家光の再建、寛永十八年の建築にて國寶に指定さる。例祭、四月七日。境内に賀茂眞淵の撰並に書にかゝる「光海靈神」の碑および明治維新の際、東征宮に從軍したる濱州報國隊の碑あり。(秋葉神社)三組町の鎮座。縣社。祭神、加具土神。例祭、十二月十五・十六日。(淺間神社)大字淺間面に鎮座。縣社。祭神、木花佐久夜見賣命。もと大宮淺間社と云へり。天文四年再建。江戸時代に朱印領十石を有せり。例祭、九月十七日。(加茂神社)大字伊場面に鎮座。縣社。祭神、鴨建角身命・別當命。文永十一年山城の賀茂社より勧請すといふ。江戸時代朱印領四十石を有す。例祭、九月九日。(八幡宮)八幡町に鎮座。縣社。祭神、五依比賣命・品陀和氣命・息長足姬命。創立年代詳かならず。式内許部神社に充つる説あり。申世以降武門・武將の崇敬あり。江戸時代を通じて、朱印領五十石を有せり。境内は老樹蒼蒼、頗る森嚴、一雲立の楠及び「馬蹄の玉の木」あり。雲立の楠は三方ヶ原の戦に敗れし家康その空洞内に潜みて難を免れしと傳ふ。八幡宮の東約二百米に濱松の名のよりて起りし

と傳ふる「楓々の松」の遺蹟あり。(鴨江寺)鴨江町にあり。古義眞言宗。甲江山。大寶三年芋堀長者願主となりて僧行基之を開創すと傳ふ。時に後醍醐天皇給旨を賜ふ。豊臣氏は寺領二百五十石を寄せ、江戸時代を通じて一山十五坊あり、いまは振はざるも、鴨江觀音と稱して著はれ、春秋二季の彼岸には數十萬の參詣者遠近より群集す。(普濟寺)廣澤町にあり。曹洞宗。廣澤山。正長元年引間城主吉良氏の開基、梅岸義東を勧誘開山とす。永享年中七堂伽藍及び十三堂司を建立、今川氏黒印三百石を寄せ、東海曹洞日本第二本寺と稱せられし名刹。近世は朱印八十石を有す。現に末寺子院五百有餘を統ぶ。(西來院)廣澤町にあり。曹洞宗。高松山と號し普濟寺末たり。正長元年月室義運禪師の開創、中興を昂建和尚とす。舊朱印領百五十石、寺務小本寺たりき。境内に築山御前(關口刑部少輔氏廣の女にして、徳川家康の正室)及び松平康俊の墓あり。(犀ヶ崖)市の北部、名残町に屬する斷崖。高さ約三〇〇米、東西に向つて走る。元龜三年十二月、三方ヶ原の戦に甲軍勝ちてここに露營せしが、一夜、徳川勢の夜襲に遇ひ、この斷崖より落ちて死するもの多かりしといふ。

ハママツチヨイ 濱松町 東 京市芝區にある町。東海道本線の濱松町驛(明治四十二年設置)あり。ハママムラ 濱村 省線山陰本線の一驛(明治四十年設置)。鳥取縣高部郡正條村にあり。ハマヨシダ 濱吉田 省線常磐線の一驛(明治三十年設置)。宮城縣亙理郡吉田村にあり。ハマワキ 濱脇 大分縣速見郡にありし町。明治三十九年別府町と合併し別府市を新設す。ハムラ 羽村 ↓西多摩村(東京府)ハモチ 羽茂村 新潟縣佐渡國佐渡郡の南部。南は大石灣に臨み、小木町の東に接す。小佐渡山脈の西南端を占め、略中央を羽茂川東北より西南流し大石灣に入る。下流に小平野開く。山地は森林に富み平地には水田多し。農業を主生業とし米の産多く、次で林業・工業盛にして木材・薪炭・佐渡味噌の産あり。その他牧畜・漁業も行はる。羽茂川に沿ひ縣道貫通し、海岸沿ひに赤泊方面へ至るものもあり。海上に船便あり。此地は和名抄、羽茂郡水湊郷の内なりと、一に菅生郷の内なりともいふ。羽茂城址あり、木間對馬守高良の居城せし所。(度津神社)大字飯岡に鎮座。國幣小社。祭神、五十猛命。延喜の制小社に列し、當國一ノ宮

と稱す。承暦四年六月十日御卜に神事を穢せる崇あるを以て社司に申祓を科す。文明二年六月洪水のため當村の八幡神社に合祀、のち舊地に社殿を造營して遷座す。これ現社地なり。土人は近世一ノ宮八幡宮と稱し、神宮寺千光院の所管たりき。なほ當祭神は父神、素戔鳴尊の浮賣の御神功を贊り奉りて航海の事を司り給ふ。社名これに據る。社地は佐渡隨一の景勝として知らる。附近に史蹟多し。例祭、四月二十三日。(菅原神社)大字羽茂本郷に鎮座。縣社。祭神、菅原眞眞・天照大神・齋田別命等八柱。創建年代未詳。應永二十三年再建。別當を養親寺と云へり。例祭、六月十二日。ハヤ 芳養 省線紀勢西線の一驛(昭和七年設置)。和歌山縣西牟婁郡下芳養村にあり。ハヤ 早川 ↓早川(神奈川縣)ハヤウラ 早浦村 熊本縣肥後國天草郡天草下島の南部。牛深町の東北約三軒にありて西北部は下島の西方より彎入する浦内浦の東南部の灣澳に面す。村内山地多く東境に六郎次山(四〇五米)、西南境には高取山(三四一米)屹つ。西北部海岸に平野開く。農産・林産あり。牛深町より東北端本渡町へ通ずる縣道本村中央を貫く。本村は龜浦村と組合村をなし、役場を本村に置く。「六郎次山」指定名勝。標高四〇五米の一高丘にして、上島の龍ヶ丘と同じく第三紀の硬質礫砂岩よ

蛇行して西岸や、廣く、湯本に至れば早川の最大の支流なる須雲川を合せ、これより下流は河原や、開け、小田原町に近く南に石垣山附近の急崖を望み、田圃の間を流れて小田原町と早川村との境をなし相模灣に注ぐ。

【早川村】 神奈川県相模国足柄下郡の東部。小田原町の南隣にて、早川下流の南岸にあり。東は相模灣に臨み、面積僅に六・八六方軒の小村。大部分は聖岳(八三・八米)の東北斜面を占め、東北部の早川沿岸のみ稍々平地あり。農業行はれて麥・甘藷等を産す。海岸は砂濱をなし南部は磯濱なり。縣道は小田原町より来り海岸に沿ひて南走し、省線東海道本線また之に沿ひ、北部に早川驛(大正十一年設置)を置く。此地に有名なる石橋山あり、附近は海水浴場として知らる。大字早川は富士箱根國立公園の内とす。(早川の美綱樹) 指定天然記念物。石垣山の北側にあり、根元の周六米、幹は五本の太き枝に分れて高く伸び、樹膚は固有の黄赤色を呈して遠方より認むるを得。美綱樹は櫻屬の一種にして秋季花を開き後結實す。關東地方にては稀に存するもの。

【速川村】 富山縣越中區氷見郡の西部。氷見町の西方約六軒。西は寶達山脈を境に石川縣能登國に接す。略中央を南より北へ上庄川貫流し多少の平地ある他、東部・西部共に二百米前後の丘陵起伏す。農業を主産とし米・麥等

を産し、養蠶・製炭を副業とす。南北・東西に走る縣道あり氷見町へバス通じ、之より省線水見線の便あり。大字早信に延喜式内社射水郡速川神社あり、村名は之によりしものか。

【早來軌道】 社線。北海道釧路國勇拂郡安平村の省線室蘭本線早來驛より起り東南方、厚岸村の厚岸驛に至る八軒。軌間〇・七六二米、動力はガソリン・馬力。【早來】 北海道釧路國勇拂郡安平村の大字。室蘭本線早來驛(明治二十七年設置)を置き、これより早來軌道を分岐す。

【早口村】 秋田縣羽後國北秋田郡の北部。鷹巣町の東北約八軒。北は青森縣、西北は山本郡に隣接す。面積一六二・三五平方軒の大村。地形南北に長く、約二六軒あり。北境には長慶森(九四三米)堂九郎坊森(八五三米)、北部に烏帽子岳(一〇八六米)あり、南方に傾斜し、早口川は東北境に發源して村の西部を南流し、東方より薄市澤、味内川等を合し村の南部に於て米代川に合す。米代川は南部を西流す。全村概ね山地をなせるも、河川の沿岸に稍々耕地拓く。米・木炭・杉材等を産し、奥羽本線の早口驛(明治三十三年設置)は杉材の集散地をなし、例年二萬噸以上を捌く。羽州街道は南部を東西に通じ、自動車の便あり。當村と山瀬村とに跨りて赤倉嶺山あり。硫黄山にして重要嶺山に屬す(赤倉嶺山参照)。この

地に明治十四年、明治天皇、山形・秋田及び北海道行幸の際に御野立あらせらる。【ハヤサキ】 早崎。肥前國(長崎縣)の古地名。延喜兵部省式に肥前國早崎牛牧とあり、いま南高來郡の口之津町の地名に早崎あり、牧は恐らくは此地なるべし。【ハヤサキ】 早崎海峽。瀬詰瀬戸ともいふ。長崎縣の島原半島と熊本縣の天草島との間にある海峽。西方に天草灘、東方に島原灘を控へ、この間約四軒にて潮流極めて急なり。兩岸には口之津・鬼池等の諸港あり。

【林】 茨城縣常陸國新治郡の西北部。柿岡町の東に隣る。東西境に龍神山(二一〇米)ありて、其の尾根東北境を連互し村内概ね百米内外の丘陵地を成すも西部を無瀬川南流し、その流域に低平なる沃野ありて耕地開け田畑よく拓く。主産業は農にして米・小麥の産多し。縣道村の中部を東西に走り、柿岡町及び東南方石岡町にバスの便あり、交通不便ならず。この地は和名抄、茨城郡拜師郷の地なるべし。大字根小屋に片野城址あり。勤王の歌人佐久良東雄(贈從四位)は本村の人とす。

【高松市の東南方約四軒。西は香川郡に境す。地は高松平野の一部を占め、全村低平にして灌漑の便よく耕地よく拓く。主産業は農にして米の産多し、消費地高松市を近くに控ふるを以て二毛作・三毛作に依る蔬菜・花卉の栽培甚だ盛なり。城内を鐵道通過せざるも高松市に近く交通不便ならず。この地は和名抄、山田郡拜師郷の地なり。【林】 ↓中原村(熊本縣球磨郡) 【ハヤシ】 林戸。甲斐國(山梨縣)の古地名。和名抄に山梨郡林戸郷あり、波也之と訓す。その地今の東八代郡内ならんも詳かならず。

【上野國(群馬縣)の古地名。延喜左馬寮式に見ゆる上野國九牧の一。その地明らかならざるも、恐らくは吾妻郡長野原町の邊にして、大字林は古地名の遺稱の轉か。【拜志】 山城國(京都府)の古地名。和名抄に久世郡拜志郷あり、その地今の久世郡佐山村の邊に當る。大字林はその遺稱なるべし。【河内國(大阪府)の古地名。和名抄に志紀郡拜志郷あり。その地今の南河内郡道明寺村の邊に當る。【出雲國(島根縣)の古地名。和名抄に意宇郡拜志郷あり、その地今の八束郡玉湯村に當り、大字林は其の遺稱。【伊豫國(愛媛縣)の古地名。和名

抄に越智郡拜志郷あり、波也之と訓す。その地今の越智郡富田村の邊に當る。【常陸國(茨城縣)の古地名。和名抄に茨城郡拜師郷あり、その地今の新治郡林村・柿岡町の邊に當る。【林村(富山縣)】 ↓林村(石川縣) 【尾張國(愛知縣)の古地名。和名抄に中島郡拜師郷あり、その地今の中島郡萩原町の邊に當る。【丹波國(京都府)の古地名。和名抄に與謝郡拜師郷あり、その地今の與謝郡吉津村・岩瀨町・府中村の邊に當る。【丹波國(京都府)の古地名。和名抄に天田郡拜師郷あり、その地今の福知山市に當る。【丹波國(京都府)の古地名。和名抄に何鹿郡拜師郷あり、その地今の何鹿郡口上林村・中上林村・奥上林村の邊に當る。【阿波國(徳島縣)の古地名。和名抄に阿波郡拜師郷あり、波也之と訓す。その地今の阿波郡林町・伊澤村の邊なるべし。【讃岐國(香川縣)の古地名。和名抄に山田郡拜師郷あり、波也之と訓す。その地今の木田郡林村の邊に當る。【備中國(岡山縣)の古地名。和名抄に小田郡拜志郷あり、波也之と訓す。その地は今の小田郡矢掛町の邊

厚木町に近く交通不便ならず。この地は和名抄、愛甲郡船田郷の内なるべし。いま三田村・及川村・妻田村・下川村・掘澤村と組合村をなし役場を三田村に置く。【富山縣越中區西礪波郡の東部。福岡町の南方約五軒。南より東へかけては東礪波郡に界し、出町の北に接す。礪波平野の中部を占め灌漑の便よく土地豊饒なり。米を主産とし寶藥・柿の副産物あり。省線中越線出町驛へ最も近く、出町・福岡町間の縣道にバスの便あり。此地は若林村と共に和名抄、礪波郡拜師郷の地にして、近世は若林郷と稱せし地なり。(林神社) 大字林に鎮座。郷社。祭神、道臣命。創建年代不詳なるも、延喜式内社とす。古くより朝廷の崇敬厚く中世に神佛混淆の砌は社僧を置きて頗る盛大な極めし、のち雄神川(今の射水川)の氾濫に流失し遂に舊觀を復するに至らずして止む。例祭、十月三十一日。

【石川縣加賀國石川郡の中部。金澤市の南約七軒、松任町の東南約五軒。東南境に倉ヶ岳(五六六米)聳え、その山高西北方へ緩斜し、村の東半は丘陵を成すも西半は金澤平野の一部を占めて地低平肥沃なり。主産業は農にして米を多産し、他に副業的に養蠶業行はる。社線金澤電氣軌道村の中部をほば南北に走り會谷・道法寺の二驛(共に大正四年設置)を置く。また松任町・金澤市に縣道通す。この地は額村・富奥村と共に和名抄、石川

抄に越智郡拜志郷あり、波也之と訓す。【常陸國(茨城縣)の古地名。和名抄に茨城郡拜師郷あり、その地今の新治郡林村・柿岡町の邊に當る。【林村(富山縣)】 ↓林村(石川縣) 【尾張國(愛知縣)の古地名。和名抄に中島郡拜師郷あり、その地今の中島郡萩原町の邊に當る。【丹波國(京都府)の古地名。和名抄に與謝郡拜師郷あり、その地今の與謝郡吉津村・岩瀨町・府中村の邊に當る。【丹波國(京都府)の古地名。和名抄に天田郡拜師郷あり、その地今の福知山市に當る。【丹波國(京都府)の古地名。和名抄に何鹿郡拜師郷あり、その地今の何鹿郡口上林村・中上林村・奥上林村の邊に當る。【阿波國(徳島縣)の古地名。和名抄に阿波郡拜師郷あり、波也之と訓す。その地今の阿波郡林町・伊澤村の邊なるべし。【讃岐國(香川縣)の古地名。和名抄に山田郡拜師郷あり、波也之と訓す。その地今の木田郡林村の邊に當る。【備中國(岡山縣)の古地名。和名抄に小田郡拜志郷あり、波也之と訓す。その地は今の小田郡矢掛町の邊

【青森縣南津輕郡畑岡村の大字。五能線の林崎驛(昭和十年設置)を置く。【兵庫縣播磨國明石郡の南部。明石市の西に隣り播磨灘に臨む。全村地勢低平にて灌漑用地沼多し。海岸は東南より西北に殆ど直線状に連りて砂濱をなし、東南方明石海峡を隔てて淡路島北部を望む。水産業發達して水産額多く、又その製造物も多し。農産物には米・蕎麥・木製品等あり。山陽道及び省線山陽本線中央を東南より西北に走り後者の明石驛(東方約一・五軒)に近く、また社線山陽電鐵、海岸近くを通過して藤江驛(大正十二年設置)あり。播磨風土記に、赤石郡林郷と云ふは此地なるべし。和名抄に明石郡葛江郷とあり、大字藤江の名存す。萬葉集には藤江浦と見え、卷三に「あらたへの藤江の浦に鱈釣る白水郎とか見らむ旅行く吾を」とあり、漁獵の盛なりしを想ふべし。大字船上に城址あり明石の古城と稱す。天正の初めは三木氏の有なりしが三木氏滅亡後は羽柴秀吉の兵これを守り、池田輝政播磨を領せし時は家老を置く。元和年間小笠原氏新たに明石に城を築くに及び城廢す。(林神社) 大字林に鎮座。郷社。祭神、小童海神・彦火々出見命外三神。成務天皇八年八月の創建と傳ふ。延喜の制に式内小社に列し古來當村

【青森縣南津輕郡畑岡村の大字。五能線の林崎驛(昭和十年設置)を置く。【兵庫縣播磨國明石郡の南部。明石市の西に隣り播磨灘に臨む。全村地勢低平にて灌漑用地沼多し。海岸は東南より西北に殆ど直線状に連りて砂濱をなし、東南方明石海峡を隔てて淡路島北部を望む。水産業發達して水産額多く、又その製造物も多し。農産物には米・蕎麥・木製品等あり。山陽道及び省線山陽本線中央を東南より西北に走り後者の明石驛(東方約一・五軒)に近く、また社線山陽電鐵、海岸近くを通過して藤江驛(大正十二年設置)あり。播磨風土記に、赤石郡林郷と云ふは此地なるべし。和名抄に明石郡葛江郷とあり、大字藤江の名存す。萬葉集には藤江浦と見え、卷三に「あらたへの藤江の浦に鱈釣る白水郎とか見らむ旅行く吾を」とあり、漁獵の盛なりしを想ふべし。大字船上に城址あり明石の古城と稱す。天正の初めは三木氏の有なりしが三木氏滅亡後は羽柴秀吉の兵これを守り、池田輝政播磨を領せし時は家老を置く。元和年間小笠原氏新たに明石に城を築くに及び城廢す。(林神社) 大字林に鎮座。郷社。祭神、小童海神・彦火々出見命外三神。成務天皇八年八月の創建と傳ふ。延喜の制に式内小社に列し古來當村

【青森縣南津輕郡畑岡村の大字。五能線の林崎驛(昭和十年設置)を置く。【兵庫縣播磨國明石郡の南部。明石市の西に隣り播磨灘に臨む。全村地勢低平にて灌漑用地沼多し。海岸は東南より西北に殆ど直線状に連りて砂濱をなし、東南方明石海峡を隔てて淡路島北部を望む。水産業發達して水産額多く、又その製造物も多し。農産物には米・蕎麥・木製品等あり。山陽道及び省線山陽本線中央を東南より西北に走り後者の明石驛(東方約一・五軒)に近く、また社線山陽電鐵、海岸近くを通過して藤江驛(大正十二年設置)あり。播磨風土記に、赤石郡林郷と云ふは此地なるべし。和名抄に明石郡葛江郷とあり、大字藤江の名存す。萬葉集には藤江浦と見え、卷三に「あらたへの藤江の浦に鱈釣る白水郎とか見らむ旅行く吾を」とあり、漁獵の盛なりしを想ふべし。大字船上に城址あり明石の古城と稱す。天正の初めは三木氏の有なりしが三木氏滅亡後は羽柴秀吉の兵これを守り、池田輝政播磨を領せし時は家老を置く。元和年間小笠原氏新たに明石に城を築くに及び城廢す。(林神社) 大字林に鎮座。郷社。祭神、小童海神・彦火々出見命外三神。成務天皇八年八月の創建と傳ふ。延喜の制に式内小社に列し古來當村

【青森縣南津輕郡畑岡村の大字。五能線の林崎驛(昭和十年設置)を置く。【兵庫縣播磨國明石郡の南部。明石市の西に隣り播磨灘に臨む。全村地勢低平にて灌漑用地沼多し。海岸は東南より西北に殆ど直線状に連りて砂濱をなし、東南方明石海峡を隔てて淡路島北部を望む。水産業發達して水産額多く、又その製造物も多し。農産物には米・蕎麥・木製品等あり。山陽道及び省線山陽本線中央を東南より西北に走り後者の明石驛(東方約一・五軒)に近く、また社線山陽電鐵、海岸近くを通過して藤江驛(大正十二年設置)あり。播磨風土記に、赤石郡林郷と云ふは此地なるべし。和名抄に明石郡葛江郷とあり、大字藤江の名存す。萬葉集には藤江浦と見え、卷三に「あらたへの藤江の浦に鱈釣る白水郎とか見らむ旅行く吾を」とあり、漁獵の盛なりしを想ふべし。大字船上に城址あり明石の古城と稱す。天正の初めは三木氏の有なりしが三木氏滅亡後は羽柴秀吉の兵これを守り、池田輝政播磨を領せし時は家老を置く。元和年間小笠原氏新たに明石に城を築くに及び城廢す。(林神社) 大字林に鎮座。郷社。祭神、小童海神・彦火々出見命外三神。成務天皇八年八月の創建と傳ふ。延喜の制に式内小社に列し古來當村

【青森縣南津輕郡畑岡村の大字。五能線の林崎驛(昭和十年設置)を置く。【兵庫縣播磨國明石郡の南部。明石市の西に隣り播磨灘に臨む。全村地勢低平にて灌漑用地沼多し。海岸は東南より西北に殆ど直線状に連りて砂濱をなし、東南方明石海峡を隔てて淡路島北部を望む。水産業發達して水産額多く、又その製造物も多し。農産物には米・蕎麥・木製品等あり。山陽道及び省線山陽本線中央を東南より西北に走り後者の明石驛(東方約一・五軒)に近く、また社線山陽電鐵、海岸近くを通過して藤江驛(大正十二年設置)あり。播磨風土記に、赤石郡林郷と云ふは此地なるべし。和名抄に明石郡葛江郷とあり、大字藤江の名存す。萬葉集には藤江浦と見え、卷三に「あらたへの藤江の浦に鱈釣る白水郎とか見らむ旅行く吾を」とあり、漁獵の盛なりしを想ふべし。大字船上に城址あり明石の古城と稱す。天正の初めは三木氏の有なりしが三木氏滅亡後は羽柴秀吉の兵これを守り、池田輝政播磨を領せし時は家老を置く。元和年間小笠原氏新たに明石に城を築くに及び城廢す。(林神社) 大字林に鎮座。郷社。祭神、小童海神・彦火々出見命外三神。成務天皇八年八月の創建と傳ふ。延喜の制に式内小社に列し古來當村

【青森縣南津輕郡畑岡村の大字。五能線の林崎驛(昭和十年設置)を置く。【兵庫縣播磨國明石郡の南部。明石市の西に隣り播磨灘に臨む。全村地勢低平にて灌漑用地沼多し。海岸は東南より西北に殆ど直線状に連りて砂濱をなし、東南方明石海峡を隔てて淡路島北部を望む。水産業發達して水産額多く、又その製造物も多し。農産物には米・蕎麥・木製品等あり。山陽道及び省線山陽本線中央を東南より西北に走り後者の明石驛(東方約一・五軒)に近く、また社線山陽電鐵、海岸近くを通過して藤江驛(大正十二年設置)あり。播磨風土記に、赤石郡林郷と云ふは此地なるべし。和名抄に明石郡葛江郷とあり、大字藤江の名存す。萬葉集には藤江浦と見え、卷三に「あらたへの藤江の浦に鱈釣る白水郎とか見らむ旅行く吾を」とあり、漁獵の盛なりしを想ふべし。大字船上に城址あり明石の古城と稱す。天正の初めは三木氏の有なりしが三木氏滅亡後は羽柴秀吉の兵これを守り、池田輝政播磨を領せし時は家老を置く。元和年間小笠原氏新たに明石に城を築くに及び城廢す。(林神社) 大字林に鎮座。郷社。祭神、小童海神・彦火々出見命外三神。成務天皇八年八月の創建と傳ふ。延喜の制に式内小社に列し古來當村

【青森縣南津輕郡畑岡村の大字。五能線の林崎驛(昭和十年設置)を置く。【兵庫縣播磨國明石郡の南部。明石市の西に隣り播磨灘に臨む。全村地勢低平にて灌漑用地沼多し。海岸は東南より西北に殆ど直線状に連りて砂濱をなし、東南方明石海峡を隔てて淡路島北部を望む。水産業發達して水産額多く、又その製造物も多し。農産物には米・蕎麥・木製品等あり。山陽道及び省線山陽本線中央を東南より西北に走り後者の明石驛(東方約一・五軒)に近く、また社線山陽電鐵、海岸近くを通過して藤江驛(大正十二年設置)あり。播磨風土記に、赤石郡林郷と云ふは此地なるべし。和名抄に明石郡葛江郷とあり、大字藤江の名存す。萬葉集には藤江浦と見え、卷三に「あらたへの藤江の浦に鱈釣る白水郎とか見らむ旅行く吾を」とあり、漁獵の盛なりしを想ふべし。大字船上に城址あり明石の古城と稱す。天正の初めは三木氏の有なりしが三木氏滅亡後は羽柴秀吉の兵これを守り、池田輝政播磨を領せし時は家老を置く。元和年間小笠原氏新たに明石に城を築くに及び城廢す。(林神社) 大字林に鎮座。郷社。祭神、小童海神・彦火々出見命外三神。成務天皇八年八月の創建と傳ふ。延喜の制に式内小社に列し古來當村

【青森縣南津輕郡畑岡村の大字。五能線の林崎驛(昭和十年設置)を置く。【兵庫縣播磨國明石郡の南部。明石市の西に隣り播磨灘に臨む。全村地勢低平にて灌漑用地沼多し。海岸は東南より西北に殆ど直線状に連りて砂濱をなし、東南方明石海峡を隔てて淡路島北部を望む。水産業發達して水産額多く、又その製造物も多し。農産物には米・蕎麥・木製品等あり。山陽道及び省線山陽本線中央を東南より西北に走り後者の明石驛(東方約一・五軒)に近く、また社線山陽電鐵、海岸近くを通過して藤江驛(大正十二年設置)あり。播磨風土記に、赤石郡林郷と云ふは此地なるべし。和名抄に明石郡葛江郷とあり、大字藤江の名存す。萬葉集には藤江浦と見え、卷三に「あらたへの藤江の浦に鱈釣る白水郎とか見らむ旅行く吾を」とあり、漁獵の盛なりしを想ふべし。大字船上に城址あり明石の古城と稱す。天正の初めは三木氏の有なりしが三木氏滅亡後は羽柴秀吉の兵これを守り、池田輝政播磨を領せし時は家老を置く。元和年間小笠原氏新たに明石に城を築くに及び城廢す。(林神社) 大字林に鎮座。郷社。祭神、小童海神・彦火々出見命外三神。成務天皇八年八月の創建と傳ふ。延喜の制に式内小社に列し古來當村

の産土神として崇敬厚し。例祭、十月十日。

ハヤシダ 林田

【林田】兵庫縣武庫郡にありし村。明治二十九年神戸市に編入す。

【林田村】兵庫縣播磨國揖保郡の東北部。新宮町の東に接し、姫路市の西北方約七...

庄が今の官幣大社賀茂別雷神社の社領たりし頃、京都貴船神社の分靈を勧請し...

【林田村】香川縣讚岐國綾歌郡の北部。綾川を隔てて坂出町の東に接し北は海に...

ハヤシナカ 林中村

【林田】臺灣花蓮港廳鳳林支廳の村。臺灣の林田驛(大正四年設置)を置く。

共ハバスの便あり。西部河岸には南定する縣道ありて勝田郡飯岡村に出で飯岡より...

【林田】臺灣花蓮港廳鳳林支廳の村。臺灣の林田驛(大正四年設置)を置く。

ハヤシハラ 林原

【林田】臺灣花蓮港廳鳳林支廳の村。臺灣の林田驛(大正四年設置)を置く。

ハヤスイ 速吸瀬戸

【速吸瀬戸】一、早吸瀬戸とも書く。四國の西端佐田岬と九州の東端地蔵岬との間の水道。豊後水道の北口に當り、瀬戸内海と外洋を通ずる潮流の速きを以て知らる。日本書紀一書に伊弉諾尊が速吸名門の潮流甚だ早きを見て橋小門に歸りて就し給ひし由見ゆ。これも同所か。 ↓豊後水道

ハヤセ 速瀬

【速瀬】播磨國(兵庫縣)の古地名。和名抄に佐用郡速瀬郷あり、その地の西庄村に當り、大字早瀬はその遺稱。

ハヤリ 早蘇村

【早蘇村】和歌山縣紀伊國日高縣の西北部。白馬山脈の南斜面に位し、日高川に跨る。西南方約四軒に御坊町あり。北は山嶺を距てて有馬郡に界す。北境に白馬山脈約四五〇米の高さに連り南方に傾斜して日高川の谷に終る。東南部も山地の斜面をなし、南境に和佐山(四八九米)あり。日高川は東半は中央を西流し中央にて南境に出で之に沿ひて西流す。全村殆ど傾斜地なれど米・蕎麥・柑橘等の農産あり、外に林産・工業・畜産・水産あり。河谷を走る縣道ありて自動車を通ずれど交通不便なり。

ハヤタハラ 早田原村

【早田原村】廣島縣安藝國賀茂郡の南海岸。東北は三津町に、西は...

ハヤチネ 早池峰山

【早池峰山】北上山脈の最高峰にして、岩手縣第二の高山なり。盛岡市の南東方凡そ三三軒に當り、北面は岩手縣下閉伊郡門馬村、南面は稗貫郡内川日村に屬す。標高一九一三米。西方に中岳・雞頭山・毛無森等連り、東方に劍ヶ峯・高輪山等續く。主として斑岩より構成せられ、周圍の一〇〇米内外の隆起平原より一段高く、殘丘として形成せられたるものなり。南東斜面より東方へ薬師川、南西斜面より西方へ岳川流出し、小田越最高點(一一一四米)はこの分

ハヤチネ 早池峰山

【早池峰山】北上山脈の最高峰にして、岩手縣第二の高山なり。盛岡市の南東方凡そ三三軒に當り、北面は岩手縣下閉伊郡門馬村、南面は稗貫郡内川日村に屬す。標高一九一三米。西方に中岳・雞頭山・毛無森等連り、東方に劍ヶ峯・高輪山等續く。主として斑岩より構成せられ、周圍の一〇〇米内外の隆起平原より一段高く、殘丘として形成せられたるものなり。南東斜面より東方へ薬師川、南西斜面より西方へ岳川流出し、小田越最高點(一一一四米)はこの分

ハヤチネ 早池峰山

【早池峰山】北上山脈の最高峰にして、岩手縣第二の高山なり。盛岡市の南東方凡そ三三軒に當り、北面は岩手縣下閉伊郡門馬村、南面は稗貫郡内川日村に屬す。標高一九一三米。西方に中岳・雞頭山・毛無森等連り、東方に劍ヶ峯・高輪山等續く。主として斑岩より構成せられ、周圍の一〇〇米内外の隆起平原より一段高く、殘丘として形成せられたるものなり。南東斜面より東方へ薬師川、南西斜面より西方へ岳川流出し、小田越最高點(一一一四米)はこの分

ハヤチネ 早池峰山

【早池峰山】北上山脈の最高峰にして、岩手縣第二の高山なり。盛岡市の南東方凡そ三三軒に當り、北面は岩手縣下閉伊郡門馬村、南面は稗貫郡内川日村に屬す。標高一九一三米。西方に中岳・雞頭山・毛無森等連り、東方に劍ヶ峯・高輪山等續く。主として斑岩より構成せられ、周圍の一〇〇米内外の隆起平原より一段高く、殘丘として形成せられたるものなり。南東斜面より東方へ薬師川、南西斜面より西方へ岳川流出し、小田越最高點(一一一四米)はこの分

【早池峰山】北上山脈の最高峰にして、岩手縣第二の高山なり。盛岡市の南東方凡そ三三軒に當り、北面は岩手縣下閉伊郡門馬村、南面は稗貫郡内川日村に屬す。標高一九一三米。西方に中岳・雞頭山・毛無森等連り、東方に劍ヶ峯・高輪山等續く。主として斑岩より構成せられ、周圍の一〇〇米内外の隆起平原より一段高く、殘丘として形成せられたるものなり。南東斜面より東方へ薬師川、南西斜面より西方へ岳川流出し、小田越最高點(一一一四米)はこの分

【早池峰山】北上山脈の最高峰にして、岩手縣第二の高山なり。盛岡市の南東方凡そ三三軒に當り、北面は岩手縣下閉伊郡門馬村、南面は稗貫郡内川日村に屬す。標高一九一三米。西方に中岳・雞頭山・毛無森等連り、東方に劍ヶ峯・高輪山等續く。主として斑岩より構成せられ、周圍の一〇〇米内外の隆起平原より一段高く、殘丘として形成せられたるものなり。南東斜面より東方へ薬師川、南西斜面より西方へ岳川流出し、小田越最高點(一一一四米)はこの分

【早池峰山】北上山脈の最高峰にして、岩手縣第二の高山なり。盛岡市の南東方凡そ三三軒に當り、北面は岩手縣下閉伊郡門馬村、南面は稗貫郡内川日村に屬す。標高一九一三米。西方に中岳・雞頭山・毛無森等連り、東方に劍ヶ峯・高輪山等續く。主として斑岩より構成せられ、周圍の一〇〇米内外の隆起平原より一段高く、殘丘として形成せられたるものなり。南東斜面より東方へ薬師川、南西斜面より西方へ岳川流出し、小田越最高點(一一一四米)はこの分

【早池峰山】北上山脈の最高峰にして、岩手縣第二の高山なり。盛岡市の南東方凡そ三三軒に當り、北面は岩手縣下閉伊郡門馬村、南面は稗貫郡内川日村に屬す。標高一九一三米。西方に中岳・雞頭山・毛無森等連り、東方に劍ヶ峯・高輪山等續く。主として斑岩より構成せられ、周圍の一〇〇米内外の隆起平原より一段高く、殘丘として形成せられたるものなり。南東斜面より東方へ薬師川、南西斜面より西方へ岳川流出し、小田越最高點(一一一四米)はこの分

【早池峰山】北上山脈の最高峰にして、岩手縣第二の高山なり。盛岡市の南東方凡そ三三軒に當り、北面は岩手縣下閉伊郡門馬村、南面は稗貫郡内川日村に屬す。標高一九一三米。西方に中岳・雞頭山・毛無森等連り、東方に劍ヶ峯・高輪山等續く。主として斑岩より構成せられ、周圍の一〇〇米内外の隆起平原より一段高く、殘丘として形成せられたるものなり。南東斜面より東方へ薬師川、南西斜面より西方へ岳川流出し、小田越最高點(一一一四米)はこの分

【早池峰山】北上山脈の最高峰にして、岩手縣第二の高山なり。盛岡市の南東方凡そ三三軒に當り、北面は岩手縣下閉伊郡門馬村、南面は稗貫郡内川日村に屬す。標高一九一三米。西方に中岳・雞頭山・毛無森等連り、東方に劍ヶ峯・高輪山等續く。主として斑岩より構成せられ、周圍の一〇〇米内外の隆起平原より一段高く、殘丘として形成せられたるものなり。南東斜面より東方へ薬師川、南西斜面より西方へ岳川流出し、小田越最高點(一一一四米)はこの分

【早池峰山】北上山脈の最高峰にして、岩手縣第二の高山なり。盛岡市の南東方凡そ三三軒に當り、北面は岩手縣下閉伊郡門馬村、南面は稗貫郡内川日村に屬す。標高一九一三米。西方に中岳・雞頭山・毛無森等連り、東方に劍ヶ峯・高輪山等續く。主として斑岩より構成せられ、周圍の一〇〇米内外の隆起平原より一段高く、殘丘として形成せられたるものなり。南東斜面より東方へ薬師川、南西斜面より西方へ岳川流出し、小田越最高點(一一一四米)はこの分

【早池峰山】北上山脈の最高峰にして、岩手縣第二の高山なり。盛岡市の南東方凡そ三三軒に當り、北面は岩手縣下閉伊郡門馬村、南面は稗貫郡内川日村に屬す。標高一九一三米。西方に中岳・雞頭山・毛無森等連り、東方に劍ヶ峯・高輪山等續く。主として斑岩より構成せられ、周圍の一〇〇米内外の隆起平原より一段高く、殘丘として形成せられたるものなり。南東斜面より東方へ薬師川、南西斜面より西方へ岳川流出し、小田越最高點(一一一四米)はこの分

中央に丘陵迫る。米・麥の産多く、繭も出し外に畜産・水産・林産あり、工産類も多し。また特産としての煙草・澤庵漬はよく知らる。海岸に沿ひ縣道東西に通じて西南方鹿島市と東南方郡城市とへバス往來し、東部には北走する道路もあり。省線日豊本線は本村を東西に貫き、車人驛(明治三十四年設置)・國分驛(昭和四年設置)あり。車人驛よりは省線肥薩線分れ、東部を北走す。古く或は和名抄、桑原郡豊國郷の内に屬せしものか。もと西國分村と稱せしを、昭和四年車人町と改稱す。大字濱之市は往時より海驛として聞え、大隅古國府の津頭たり。文祿年中島津義久ここに築城して富隈といふ。その地は今の大宇住吉にして松林の間に僅にその畧址を認む。大字内山田は一に宮内ともいへり。續紀天平元年の條に大隅車人佐須岐君夜麻等々賣とあり。この夜麻等は蓋し地名を負へるものなるべく、山田はその轉訛ならん。而して内とは正宮の境内の義とす。大字内に奈牙木社(歎社)あり。此地は神代紀に姪子三歳を經るも猶ほ立たざるを以て、天磐權樟船に載せて順風により放棄するたとある、その天磐權船の漂着せし地なりといふ。もと今より東百米ばかりのところは叢林ありてこれを歎社と稱せしが、この邊水田と成りしを以て水難を避け寛延三年今の地に遷すといふ。古今集一願事なきのみ聞けん社こそ果は歎の社と成らむ。讃岐・河花

集「打絶て枯ぬ」と聞し木本のいかて歎の社と成らむ。藤原元輔(鹿兒島神宮)官幣大社。祭神、天津日高彦彦命。社傳に神武天皇の創建にして、尊の都せられし址なりといふ。延喜の制名神社に列し當國一ノ宮たり。建久八年の岡田帳に據れば神領大隅薩摩の地二千五百餘町あり。中世別當を鸛峯山鸛峯山寺彌勒院と號して天台宗に屬し、僧性空の開基と傳ふ。島津氏勃興の後、特に源家の氏神として大いに崇敬し、鹿兒島神社の名は世に忘れられ、専ら大隅國一ノ宮として大隅八幡宮と稱せり。刀一口、太刀一口(銘、相州住秋磨)は國寶。例祭、八月十五日。(車人塚)指定史蹟。車人驛の西南約三〇〇米、鐵道線路の東側の田圃中にあり。現状は略々方形を呈する封土上に三基の石造多重塔及び四天王石造置かる。多重塔は中央のもの最も大にして二層を存するも、現存部高さ約三米にして破損し居れり。一基は臺石のみ存し、一基は二層にて高さ約二・五米を有し、また四天王像は二層に封土の上に建ち、二層に封土の裾に存す。和銅元年熊襲の死靈を慰めんがために、に五重塔三基及び四天王石像を建設して供養を行ひ、更に元正天皇養老四年車人の叛亂あり、朝廷これを平定するや、また車人の死靈をここに併せ祀り、放生會を行ひしといひ、もと菩提寺の塚と稱し、鹿兒島神宮の神宮たこれに神聖塚と名せし

が何時しか現稱となる。他地方に類例の乏しき一種の供養塚なり。
ハヤドリー 早通(はやおと) 新國縣中浦原郡にありし村。大正十四年に龜田町に入る。
ハヤトモ 早瀬瀬戸・速瀬瀬戸(瀬戸海峽)
ハヤノ 速野村 滋賀縣近江國野洲郡の西部。野洲川河口を占め、本村にて野洲川の三角洲に湖上に突出して對岸滋賀郡堅田町と共に琵琶湖の東北部大半と狭き西南部とを分つ海峽狀の地をなし、西北部及び西部は湖水に圍まる。地形低平にて西南部に瀧地あり。野洲川は中央を西北流して湖に注ぐ。農業・漁業を主要とし産物に米・淡水魚(鯉・鮒・鯉・鱈)あり。省線東海道本線守山驛(東南約四軒)及び野洲驛(東南方四軒餘)へ共にバスの便あり。また舟運の便よし。(福林寺)大字木濱にあり。天台宗。大慈山。最澄の開創に係り、桓武天皇勅して七堂伽藍を造營せしめ、勸修寺と定め給ふと。十一面觀音立像(木造)一軀。(藤原末期作)は國寶。
ハヤヒ 速日峯 九州山脈の一峯。延岡市の西方約一八軒、宮崎縣東臼杵郡北方村と北郷村との境界に跨る。標高八六八米、山體秩父古生層より成る。山委により二子山の別名あり。北麓を五ヶ瀬川南東流す。
ハヤヒト 早日渡 省線日ノ影線の一

驛(昭和十二年設置)。宮崎縣東臼杵郡北方村にあり。
ハヤブサ 隼村 鳥取縣因幡國八頭郡の中央北部。鳥取市の南約一〇軒。八頭川の西南岸に沿ふ。西南境に五九六米の山あり其の尾根東へ走りて南境を劃す。夫等の山脚は何れも北方へ緩斜し、村の大部分は山地をなすも、北部八頭川沿岸には小低地ありて耕地拓く。主生業は農にして米の産最も多く、丘陵地には桑園拓けて繭を出す。省線若櫻線通じて車驛(昭和五年設置)を置く。此地は和名抄、八上郡日部郷の内なり。大字郷家は往昔八上郡の郷家ありし處なるべし。
ハヤホシ 速星村 富山縣越中國婦負郡の中部。富山市の南方約二軒。井田川右岸に沿ふ。富山平野の一部を占め沃田多し。米を主産物とし西瓜・瓜等の産もあり。近時發電所起り、大日本人造肥料會社工場設けられてより大に發展す。省線高山本線速星驛(昭和二年設置)あり、縣道東西に走り富山市・古里村間自動車往來繁し。此地は和名抄、婦負郡用合郷の内か。大字御門に延喜式内社速星神社あり。村名これに因るか。(速星神社)大字御門に鎮座。祭神、五百箇磐石尊。創建年代詳かならずも、延喜式内社たり。垂仁天皇御宇、當國に暴徒崛起し皇子は勅を奉じ之を討ちて、のち此地に居懸す、故に御門村の名あり。暴徒平定の際に一郷を拓き速星の郷と稱す。ま

た白鳳十年に第三皇子富國に下向ありて此處に居懸、天長八年に隣社と境を争ひ竟に火を放ちて相戦ふ。建武年間火災に罹り、永祿三年國守社殿を修造す。例祭、四月十七日。
ハヤマ 葉山
【葉山町】 神奈川縣相模國三浦郡の西部。三浦半島の西岸にて、相模灣に臨む。東は横須賀市、北は逗子町と隣す。大部分丘陵地にて、海岸の北部及び南部の下山川下流のみ狭き平地ありて、聚落もこの部分に發達す。産物は農産を主とし、麥・甘藷・大豆等あり。縣道は逗子町より來り海岸沿に南走し、又これより分れ東走して横須賀市に通ずるものあり。省線横須賀線逗子驛よりバスの便あり。此地は鎌倉・逗子に次ぐ避暑地として知らる。逗子より南走する自動車道路は海岸山腹の僅な平地を求むるも、西側の地域には名士の別荘櫛比す。森戸川の流入する附近はやや平地開け、ここに堀ノ内・森戸の別荘地帯發達す。前面は海水浴場にて名島・割島の小島嶼浮び、芝崎の突出を距ててその南方に一色の別荘地域あり。ここは南方に長者を崎の突出あり、灣内には山下川注入して多少の砂濱發達す。葉山御用邸はその中央部に位し附近に秩父宮・高松宮・北白川宮の各御別邸を始めとし貴顯の別邸到る處に設けらる。逗子町より葉山御用邸に達する自動車道路は逗子停車場より別に設けられ、途中

ハヤマ——ハヤミ

に東伏見宮の御別邸あり。この地は和名抄、鎌倉郡沼津郡の内なり。大正十四年町制を布く。大字長柄は鎌倉權五郎景政三世の孫、馬江太郎義景の住せし所。大字山口は三浦義澄の山口次郎有綱あり、此地に在名を稱せしものか。大字一色の海濱に佐賀岡なる丘陵あり、一に三ヶ岡に作る。東鑑、養和元年六月、源賴朝、納涼の爲め來りしに上總權助廣常來りて伺候せしこと見ゆ。
【葉山村】 滋賀縣近江國栗太郡の東北部。北方の野洲町との間に守山町の東部を挟み、北及び東北は野洲郡に界し東南は甲賀郡に接す。南部は臺地起伏し北半は低平にして野洲川は東北境に沿ひて西北流す。農業を主とし米・麥・粟・黍・粟・綠肥用作物・桑葉・茶・桑苗等のほか林野産物・水産あり。南部には舊東海道が東西に横斷し、之より西北へ岐れて守山町へ出づる街道もあり。省線草津線は中部を貫きて手原驛(大正十一年設置)あり。(高野神社)大字高野に鎮座。郷社。祭神大名草彦命。欽明天皇の御代に勸請すといふ。貞觀十三年從五位下を授けられ、延喜の制國幣の小社に列せられ、また康治二年正三位を、文明十五年高野由岐志呂大明神の號を授けらる。(新善光寺)大字林にあり。淨土宗。當郡阿彌陀寺末。寺傳に、仁治年間小松左衛門尉宗定、信州善光寺阿彌陀如來の夢託を蒙りて、その分身佛像を當地に請じ、建長五年本寺を創

すと云ふ。阿彌陀如來立像(木造)一軀(室町初期の作)は國寶。(地藏堂)大字六地藏にあり。寛政年間創建といふ。本尊地藏菩薩像(木造、藤原期作)一軀は國寶なり。
ハヤミ 速水村 滋賀縣近江國淺井郡の西部。姉川の一支高時川に沿ひ、長濱町(坂田郡)の北方約五軒、北は伊香郡に接す。近江平野の東北部を占めて土地平坦、高時川東部を南流し灌溉の便よし。米作・養蠶を主生業とし、蠶繭工の副業盛なり。其他、別珍・ピロイド織・瓦焼・蠶繭・竹細工等の工業も行はる。中部を略南北に北國脇街道貫通し、東西へ數條の縣道を分岐す。省線北陸本線虎姫驛に最も近く、長濱町へはバスの便あり。此地は和名抄、淺井郡速水郷(波也美と訓ず)の地にして、中世は六角氏の將速見氏の居りし處。明治天皇北陸御巡幸の御明治十一年十月十一日、速水小学校に御駐蹕あらせらる。
ハヤミ 速見
【速見郡】 大分縣十二郡の一。豊後國の東北部、別府市の北に接し、別府灣の西より北を圍みて北部は國東半島南部に互る。西南部は土地高峻にして火山群立し城ヶ岳(一一六八米)・由布岳(一五八四米)・福万山・鶴見岳・カラン岳等の火山群をこの邊り温泉諸所に湧出して、熱湯と瓦斯とを噴出する謂ゆる地獄式湧出をなすもの多く、特に鶴見岳東麓の別府市附

近の如きは湧出地域廣きと、湯量豊富なりと、温泉の種類多きとに於て世界屈指の温泉郷なり。北半も一帯に山地をなし國東半島半島南部に八坂川より東流して別府灣に注ぎ、流域及び海岸に平野ある外は郡内低地に乏し。海岸は東北部に大崎鼻・鶴見鼻・加賀鼻・權現鼻等突出せる以外は單調なる線を示す。農産・水産・林産あり。特産には七島蘭より製する蠶表あり。郡内は別府海岸に位する豊岡町・日出町・杵築町・立石町の四町外十一ヶ村を含み、人口密度は平均一六一人にて最も多きは杵築町の五二五人なり。日向街道西北方より來りて北部と東南に走り別府灣岸に出でて南走す、西南部には大分市と日田盆地方面とを結ぶ縣道通過す。省線日豊本線は日向街道に沿ひ南走して別府市に入り、東北部杵築驛にて社線國東鐵道に連絡し、西南部には省線久大本線通過す。書記景行紀十二年紀に、筑紫の熊襲叛くや、天皇これを親征し給はんとて碩田國速見邑に幸し土蜘蛛を誅し給ふと見ゆ。この邑が國郡制定の時、郡となり速見郡となりしなるべし。續紀實龜三年十月に郡名初めて見ゆ。和名抄は波夜美と註し朝見・八坂・由布・大神・山香の五郷を管す。明治三十二年四月、大分郡との間に境界に多少の變更あり、また大正十三年に別府市が本郡より獨立し、以て今日に至る。
【速見邑】 ↓速見郡

ハヤメ 駿馬町

福岡縣筑後國三池郡の南部。大牟田市の東に接し、南は熊本縣玉名郡に界す。東北部は約一五〇米程度の丘陵をなし、中部は臺地にして西南部に平野をなす。諏訪川は東方より流れ來りて南部を西北流し大牟田市に出づ。低地は米を産す。また三池炭田の一部を占め七浦炭坑・宮の原炭坑は其中最も重要な地域を占む。炭坑鐵道ありて西北部の七浦炭坑より東は東隣玉川村の勝立炭坑に、北西は大牟田市の宮浦炭坑を經て鹿見島本線と連絡し、また大牟田港に通じ、南西は熊本縣玉名郡荒尾町なる萬田炭坑を經て大牟田市の三池港に至る。大牟田市へバスの便あり。昭和十三年四月町制を布く。この地は和名抄、三毛郡米生郷の内なるべし。

ハユイ 破邑

↓陽徳面(朝鮮平安南道)

ハユカ 羽床村

香川縣讚岐國敏衆郡の中部。坂出町の東南境より南約四軒にあり。南北に稍細長し。南部には讚岐山脈の一峯大高見峰(五〇四米)聳え、其北麓は中部に横がりにて臺地をなす。北境には最高二五五米の山あり。兩山の間は平野をなし其東部に綾川西南方より來りて東に北折して瀧宮村に入る。農産に米・麥・烟草等あり。北部には縣道東西に走り、其南に社線琴平電氣鐵道通過して羽床驛(昭和二年設置)あり。和名抄に阿野郡羽床郷(調波以可)と云ふは本村及び

羽床上村・瀧宮村に當るといふ。中世に香西氏の族の地に羽床氏を稱す。

ハユカカミ 羽床上村

香川縣讚岐國敏衆郡の中部。坂出町の東南六軒餘にありて、綾川の左岸に沿ふ。西南部は讚岐山脈北麓の山地をなし、西南部に大高見峰(五〇四米)聳ゆ。東北部は平野開けて、北境に沿ひ綾川西北流し西北隅より村境を離れて北折す。農業を主産業とし米・麥等を出し、栗の特産あり。社線琴平電氣鐵道羽床上驛(北方約一軒半)へバスの便あり。この地は和名抄、阿野郡羽床郷に屬せし地なり。

バヨウ 馬養島

↓新浦島(朝鮮)ある蕃社。港口溪の支流ヤロ溪左岸、蕃稱チャックス山南面中腹に位し、緩傾斜にして土地肥え農耕に適す。原社たる射麻里社より約二百年前に分離し來り現在の社を形成せり。パイロン族の恒春下蕃に屬する高砂族より成る。

ハハラ 波良

【波良】 肥後國(熊本縣)の古地名。和名抄に阿蘇郡波良郷あり、今の阿蘇郡南小國村・小國町の邊に當り、延喜兵部省式に肥後國波良馬牧とあるも此地なり。【波良】 肥後國(熊本縣)の古地名。和名抄に託麻郡波良郷あり、その地今の熊本市の一部なるべし。

ハラ 播磨

安藝國(廣島縣)の古地名。和名抄に安藝郡播磨郷あり、その地今のは富士郡に接す。駿河海岸平野の一部にて、土地概して低濕にして梨・桃等の果樹園藝盛なり。其他に米産多く、蕎麥・茶等も多少産す。次いで製紙業盛にして駿河半紙を出し、牧畜・水産業これに次ぐ。町は東海道に沿ひ樺式街村として發達し、海岸に沿ひ東西に省線東海道本線も貫通し原驛(明治三十三年設置)を置く。尙ほ鈴川・沼津間のバスも通じ交通便にして本郡の主邑なり。この地は和名抄、駿河郡駿河郷の内なるべく、東海道五十三次の原宿のありし所。往時この地に住せし渡邊某なるもの、富士山麓に三椏を發見して、之より紙を製するを得しにより、近隣の農民に勧め、天保頃には郡内にその培養著るしく普及し、駿河半紙の名また高かりしといふ。明治天皇、明治元年東京行幸の際、同年に京都還幸の際、同二年東京御再幸の際、同十一年北陸東海御巡幸の際等に此地に御小休あらせらる。(松蔭寺)臨濟宗妙心寺派。鶴林山。白隱禪師の舊蹟として著名。弘安年間、天祥西堂の開創に係る。

ハラ 廣島

【原(村)】 廣島縣三郡にありし村。大正六年に十日市町と改む。【原(村)】 廣島縣安藝國賀茂郡の中央西部。西條町の西方約四軒。西北は安藝郡に境す。西北境に水ヶ丸山(六六一米)ありて其の山脚東方へ傾斜し、村の西半は山地にして森林多きも、東半は一般に低平に耕地よく拓く。東北部に湖沼あり。主

安佐郡口田村の邊なるべし。

ハラ 播磨

【播磨(郡)】 武蔵國(埼玉縣)の古地名。また原郡にも作る。續日本後紀、承和元年に武蔵國播磨郡名見え、和名抄に原と註し、上泰・下泰・廣澤・荏原・播磨・那珂・霜見の七郷及び餘戸一を管す。近世に至り郡號を復し、文字によりてハダラと訓ず。明治三十年廢して大里郡に入る。【播磨】 武蔵國(埼玉縣)の古地名。和名抄に播磨郡播磨郷あり、その地今の大里郡播磨村・深谷町の邊に當る。【播磨】 遠江國(静岡縣)の古地名。和名抄に佐野郡播磨郷あり、その地今の小笠郡原谷村・原田村・原泉村の邊に當る。【播磨】 阿波國(徳島縣)の古地名。和名抄に那賀郡播磨郷あり、波良と訓す。その地今の平島村・羽ノ浦町の邊に當る。【播磨】 讃岐國(香川縣)の古地名。和名抄に三木郡播磨郷あり、波良と訓す。その地今の木田郡平禮村に當り大字原はその遺稱とす。

ハラ 原

【原(町)】 宮城縣宮城郡にありし町。ハラノマチと呼べり。昭和三年に仙臺市に編入さる。【原(町)】 群馬縣上野國吾妻郡の東部。中之條町の西南隣にて、榛名山の北斜面の一部を占む。南境は袴塚(一四四八米)にて、それより北方に傾斜し、山裾を吾妻川東北に流る。川の北側は西北境にある栗原峠(九七四米)の斜面をなす。川沿ひに農業行はれて米・麥を産す。長野街道は吾妻川に沿ひて西走し、聖落もこれに沿ひて發達す。省營自動車吾妻線は群馬郡の澁川町より中之條町を經て來り、この街道を西走す。此地は和名抄、吾妻郡大田郷の内なるべし。【原(町)】 大樽(指定天然記念物。地上約六米にして六六支幹に分る。目通幹圍約一四米、樹勢旺盛、樹の巨樹として代表的なり。【原(町)】 宇平澤にあり。今その址のみを存す。傳へいふ、建久六年以來、藤原秀郷の後裔なる吾妻氏この地に住し、貞和年中には下河邊氏數代に亘りてこの城に據りしが、永祿の頃齊藤憲廣の居城たりき。その四年以來藤田幸隆等、武田信玄の援けを得て屢々この城に憲廣を襲ししが、或ひは長尾憲景が憲廣を助けしこともあり、善導寺の住僧の計ひにて兵を引きしこともありき。同六年に至り憲廣遂に支へ得ずして眞田幸隆に奪はれしが翌七年に上杉謙信の援を得てこれを恢復せり。天正三年、再び眞田氏の有に歸して、海野幸光、城代としてこれを守り、同九年昌幸これに居る。天正十年武田勝頼が織田信長に攻められし時に、昌幸は勝頼を吾妻の地へ迎へんとし、勝頼またその意ありしが周圍の爲に阻まれ、遂に没落の悲運に陥る。當時本城は堅要を以て名高かりしを以て、昌幸の勝頼を迎へ

生業は農にして米の産多く、また養蠶業行はれて繭を出す。縣道は村の中部をほぼ南北に走り、北隣の川上村地内の山陽本線八本松橋へバスの便あり。また村内に陸軍常設演習場あり。また源三位頼政の墓菖蒲を祀る小倉神社あり、頼政は宇治に敗死するや、その遺子はその菖蒲に伴はれ西國に走りて難を安藝賀茂に避け幾くもなく病を得て御園宇村吾妻瀧に入りて死す、菖蒲は割髪して尼となり西妙と號し、本村小倉山に隠れ、元久元年八月二十七日入寂すといふ。

ハラ 廣島

【原(村)】 廣島縣安藝國山縣郡の中央東偏。八重町の西北に隣り、西南方約八軒には加計町あり。北部より西部にかけて及び南部より東部にかけての一帶は八一九百米餘の山地をなし、その間に東北より西南に連る細長き盆地ありて、中央西南偏の坪ヶ谷附近の低き峰により二部に分たる。北部及び南部には之につゞきて東南方へ稍々低地延ぶ。農産額は最も多く工業・林産これに次ぎ、外に畜産あり。西南部を縣道は西北より東南に横断すれど山村の爲め交通便ならず。

ハラ 廣島

【原(村)】 廣島縣安藝國安佐郡の南部。廣島市の北に隣り、西は祇園町に接す。太田川は東部を南流し、太田川の構成する沖積地にして、土地肥沃にして全村殆ど耕地となり、米・麥を産し、養蠶も盛にて、また生糸を製す。西境に近く祇園町を縣道南下し、村内街道は之より派出し

また太田川には舟運ありて交通便なり。もと東原・西原の二村に分れしが、大正九年合併して原村と名づく。

ハラ 廣島

【原(村)】 廣島縣安藝國佐伯郡の東南部。廣島市の約六軒西方に位す。村形は中央部餘形に曲りて東部は北へのび、西部は西北方へ少し延ぶ。全村山地丘陵にして低地乏し、主生業は農業にて米・麥及び木材を主産物とす。省線山陽本線廿日市驛は東南二軒半にして自動車の便あり。【原(村)】 福岡縣糸島郡にありし村。昭和八年穂井川村と共に福岡市に編入す。

ハラ 祇川

三重縣にある櫛田川の支流。飯南郡漕代村にて本流と分れ各氣郡との境を東北流し、約七軒にて郡境を離れて更に東北流し三軒餘にて伊勢灣に注ぐ。もと櫛田川の本流こを流れしが、永保二年に大洪水ありて今の如く轉流し、こに一分水を殘せりといふ。祇川の名は勅使及び例幣使參向の初、大神宮司の卜部こにて修祇せしより起るといふ。

ハライゴ 祇郷村

福岡縣豊前國京郡の東南部。行橋町の南方約二軒にあり。東は津津村を隔てて周防灘に近し。西部及び東南部に稍々臺地・丘陵あれど一般に地形低平にて行橋平野の一部を占め、祇川は中央を北方へ貫流す。米・麥・蕎麥の産あり、東南方椎田町より西方香春町へ出る縣道中央を横断し、省線日豊本線新田原驛へは東方約一軒、省

【原(町)】 靜岡縣駿河國駿東郡の西南海岸。東西に細長く、南方は駿河灣に臨み、西

線田川線豊津驛へは西方約一軒を距つ。この地は和名抄、仲津郡仲津郷の内なるべく、大字草場に國府址あり、また宇佐奉幣の勅使は此處に宿るを例とせりと。大字國作は豊國造の住みし所なりと國志に見ゆ。

ハライズミ

原泉村 静岡縣遠江國小笠原郡の北端。掛川町の北約十軒、東は榛原郡、西北は周智郡に境す。北境に大日山、東北境に白光山(八三二米)聳え、其等の山脊西南に延びて諸處に四五百米の山岳を蜂起し、村域の大部分は深山を成す。原野谷川の一支村の中部に發源して西南流し、その沿岸に谷狀の低地を見るのみ。水田は概ねこの谷地或は斜面に難壇式に拓かる。主生業は農にして米を出し、茶の産少ならず。また地形上林産相當見るべきものあり。交通は掛川町に縣道通じバスの便あるのみ。この地は和名抄、佐野郡幡羅郷の内なるべし。大字炭焼は古より炭産ありて炭を年貢とせし故に炭焼の名ありと。

ハライチ

原市 群馬縣上野國碓氷郡の南部。東は安中町、西は松井田町に隣る。全城低き山地をなし南境を碓氷川、北境を九十九川東流す。川沿ひに農業行はれて、米を産し、養蠶も行はる。中山道は中央を西走し、聚落これに沿ひて發達す。安中町・松井田町へはバスを通じ、また南隣磯部村に省線信越本線磯部驛を置き

て縣道を通ず。此地は和名抄、碓氷郡野後郷の内なるべく、當町より安中町に至る間の松並木は指定天然記念物なり。

ハライチ

原市場村 埼玉縣武蔵國北足立郡の東部。綾瀬川の西岸にて、東は川を隔て、南埼玉郡の一部と隣す。全町平地にて東部に水田、他は畑地多く米・麥・蕎麥を産し和酒の製造行はる。縣道は西部を南走して大宮町に通じバスの便あり。また西北隣上尾町に通じ同町の省線高崎線尾尾驛に連絡す。其他、東走する縣道は東北隣南埼玉郡蓮田町に通じ、同町に省線東北本線蓮田驛あり。聚落はこれ等縣道の集合點に發達す。本町は大正二年瓦葺村と共して廢せられ、其區域を以て新設されしもの。明治天皇、明治十一年北陸東海御巡幸の際、ここに御小休あらせらる。

ハライチ

原市 群馬縣上野國碓氷郡の南部。東は安中町、西は松井田町に隣る。全城低き山地をなし南境を碓氷川、北境を九十九川東流す。川沿ひに農業行はれて、米を産し、養蠶も行はる。中山道は中央を西走し、聚落これに沿ひて發達す。安中町・松井田町へはバスを通じ、また南隣磯部村に省線信越本線磯部驛を置き

と稱せりといふ。

ハラオ Palau

南洋群島の最西部に位置する群島。西カロリン群島の西方に東北一西南に一聯の緩き弧をつくる諸島にしてパペルダオ島・コロル島等より成るハラオ島を盟主となし、その西南端に遠く離散するトコベイ・ソソル島・メリーの各島と、近きベリリニ島・アンガウル島等を含み、全體を以てハラオ支廳を構成す。支廳管内の島嶼數一〇九、その面積四七八平方軒。パペルダオ島(ハラオ本島と稱す)は最大にして、三七〇方軒あり。その南なるコロル島に南洋艦隊の支隊置かる。近海は水深く、周囲は珊瑚礁より成り、ハラオ本島北方よりベリリニ島に至る間は礁湖をなし、その中にハラオ島・ワララプシカル島・マカラル島・アラカベサン島・ワルター島・パペル島・マカラカル島・ベリリニ島の諸島散在す。地質はハラオ島はその基底は輝石安山岩とその集塊岩より成り、局部的に水成岩・隆起珊瑚礁石灰岩がその上に發達し、南方の各島は全く石灰岩の低平の地より成り、ベリリニ島・アンガウル島は僅に水上一〇米内外の平坦なる島上に厚くグアノ堆積賦存しその産地として廣く知らる。諸島には源泉少くも、マカラル島・コロル島には水量やや豊富なる源泉あり。全城熱帯圓内にある洋島なるを以て純然たる海洋性

氣候にして、晝夜の別による氣象變化極めて少し。ハラオ島に南洋艦隊所ありて一般氣象観測をなす外、上層氣流・地震・日射・海洋観測及び地磁氣觀測をなす。昭和十年に於ける氣象要素を摘記するに、平均氣壓七五・九、氣温平均二六・九度、同最高極三二・二度、最低極二二・一度、湿度八一、日照率五八、降水量三四二・八、快晴日數二日、降水日數二七・三日にして、なほ降水量は平均三九六・〇を算し、多雨期は六月乃至八月にて、一月より三月末までは乾燥期とす。住民は農業・水産業を主業とし、蠶業・工業また盛なり。農業戸數は昭和十年末現在にて邦人一三六、島民七四〇戸あり、耕地面積は椰子林を除き七七四ヘクタール、うち田二二九ヘクタール、畑五四五ヘクタールにしてサイパン島一島にも及ばず。農産額は三六二、〇一八圓にして、タピオカ(一五萬圓)・タロ芋(八萬圓)を主とし、甘藷(二萬圓)・里芋・胡瓜・大根・漬菜・茄子など稍多く、また葉煙草を出す。果實は近時鳳梨の栽培盛にて産額約五萬圓に達し、其他芭蕉・パイナップル・蜜柑・マンゴ等を出す。米は殆ど産出せず、甘蔗また極めて少なし。家畜は豚・山羊や多く、養蠶も比較的普及せり。工業としては醸造・製水及び水産製造を擧げ得べし。水産製造を除く工業額は一〇七、三四九圓にして、糖耐(三萬七千圓)・ワイスキー(七千圓)・水

(三萬四千圓)及び若干の味噌・醬油の他龍甲細工・椰子細工・葉編製品・椰子繩等の手藝品製造も島民の家内手工業として營まる。林業にては椰子樹・紅樹多くコブラの年産額五萬二千圓ありて重要移出品をなし、其他、木炭(一萬五千圓)を出す。水産は鰯・鮪・高瀬貝等多く、邦人の従業者約八百に達す。近年に至りて遠洋漁業の發達著しく、特にハラオを根據地としてアラフラ海及び濠洲北西近海に出漁する白蠟貝漁業は創始數年を出でざる昭和十一年に於て出漁船數八十餘隻、漁獲高三千噸、三百萬圓に達せんとし、極めて有望視さる。なほ黒蠟貝を母介とする眞珠養殖業も行はれ、帶鋼白色の特殊眞珠を産し、近年は白蠟貝を母介とする眞珠養殖業をなす者あり。昭和十年に於ける漁獲高の合計は七四九、〇五三圓にして、鰯(五萬圓)を第一に鮪(六萬圓)・鰹(五萬圓)・高瀬貝(七萬圓)・鮭・鮎・鰻および眞珠・海鼠・飛魚・正覺坊などあり。水産製造高は一、〇四四、〇二二圓にして南洋群島中の半ばを占め、特に南洋節(鰹節)は九七萬圓を出し内地各市場に移出され、其他鰹節(七萬圓)・海鼠あり。蠶業は産額に於て諸島産業の首位を占む。アンガウル・ベリリニ・トコベイの三島は燐礦地として知らる。一九〇三年頃獨逸學術探検隊の發見にて、當時アンガウル島の蓄積量三百萬噸と稱せられたり。一九〇九年來獨逸燐礦株式會社により採

ハラオ

掘せられしが、其後變遷あり、昭和十一年南洋殖産株式會社の經營に移り、現に盛に稼行せられ、實に南洋群島の一大寶庫をなす。同島の燐礦は褐色細狀燐と白色粘土狀燐とより成り、後者は前者より質・量に於て優り、移出精燐は兩者を配合乾燥せるものにて、標準成分は全燐酸三九・八、酸化鐵礬土一・二、年産六十七萬噸にして、現在の埋藏量は精燐として尙ほ百五十萬噸以上と推定せらる。又ベリリニ島の燐礦(埋藏量十五萬噸)は南洋興發會社により昭和九年以來採掘せられ、其他トコベイ島(埋藏量十二萬噸)も開發の緒に就きつつあり、尙ソソル・プル島にも多少の燐礦を賦存す。また諸島に發達するラテライト(紅土)中に多量のボーキサイト及び鐵礦含有せらるる外、燐礦・精炭層・瑪瑙・耐火性粘土及び大理石を賦存す。産業施設としてはハラオ島に熱帯産業研究所・物産陳列所等あり。貿易はハラオ・アンガウルの二港により行はる。ハラオ港は開港場にして、昭和十年中の輸移出額一、五〇二、三三三圓、輸入額二、六三四、九八三圓、合計四、一三七、三六六圓に達す。移出は殆んど日本内地向にして、鰹節(一〇〇萬圓)・コブラ(一一萬圓)・高瀬貝(七萬圓)・燐礦(四萬圓)等を主とし約一四六萬圓、輸出は三九、三九五圓あり。移入は約二四一萬圓にして米・酒類・煙草その他日用品を主とし、輸入は米・コブラ等

にて計約二二萬圓を示す。アンガウル港は移出は燐礦の二二萬圓のみ、移入は米その他の食料品・石灰等を合せ二三萬餘圓あり、外國貿易は制限を附せられ若干の米を輸入するのみなり。商業は殆ど邦人の獨占にして、ハラオの雜貨販賣業を主とし、其他コブラの仲買をなす者多し。金融機關としては銀行・質屋業等の出現未だなく、一に産業組合により、ハラオにハラオ信用組合あり。交通は支廳所在地に自動車道路あるのみにて未改修のところ多く、特殊のものにアンガウル島燐礦採掘用の官設軌道一八軒餘あり。海上は前記ハラオ・アンガウル兩港以外にはカヌーの往來あるのみ。ハラオ港はヨーロッパ諸島と波止場間の珊瑚礁島を開鑿して幅員二〇米のハラオ新水道を通じ、小灣を利用して埠頭を新設し、なほ昭和十一年以降總工費二六七萬餘圓を以て修築中にして、竣成の時は六千噸級船舶二隻の接岸荷役可能となるべし。ハラオ港よりセレベス島のメナド港及びフィリッピン群島ミンダナオ島のダバオ港に連絡する定期航路を始め日本郵船の西廻り航路及び諸島間の航路等あり、横濱・神戸へ六日乃至十日間に達す。なほサイパン・ハラオ間に不定期航空路ひらけ、其他、内地及び諸島間の通信に無線電信を利用し、ハラオには電話もやや普及せり。人口は昭和十二年四月一日現在一六、一二六人にて、その大部分はハラオ本島・

コロル島に居住す。而して邦人は九五三人、島民はチヤモロ族二一八人、カナカ族六二六〇、外國人は一八人を算す。

大正九年	六三三	大正九年以降の
同十四年	七〇三	累年人口は上表
昭和五年	八〇二	の如くにして、
同十年	二七六	特にコロル島
同十二年	一六三六	の内地人の増加

率著るし。人口密度は一方軒當り平均三三・七人なるもコロル島は六九五・八人、アンガウル島は一七五・二人にして、南洋群島中最も稠密なる部分に屬す。島民はその軀幹等ヤツプよりも大にして、マア族・マレ族の混血多きによるものならんと云ふ。男女とも半裸體の者多きも、近時文明人との接觸により急速に進歩の狀見らる。住宅もヤツプ式大屋のアパイ多く、各戸概ね床を用ひ、窓・戸は僅ばり、建築様式やや進歩せり。その食料はヤム芋・タロ芋・バナナ各種果實・魚貝・豚・鶏等にして、米は極めて愛好せらる。往時は樵悍なる民なりしも、今は極めて狡猾にして淫卑の風盛なり。但し手工は群島中一二の優秀なる評あり。一般に文身を好み、特にハラオに於ては女子の文身盛なり。ヤツプ島民の悉くが舊教に屬するに反し、本島民は無宗教の狀態にあり。貨幣はヤツプのそれよりも形小に、大抵三角形にして、幅五分、長さ三寸位、赤・黄等の寶石または瀬戸物類・硝子等

を材料とし、通貨と云はんより寧ろ財産表示の具たり。酋長は元來公選にて、コロムにアイバドル、マルキョクにアリクワイの二大世襲酋長あり。その下に六名の酋長ありて島民を支配せり。〔沿革〕マリアナ群島が発見せられたる後六年、一五二七年ホルトケル人テイエゴ・ゴロシヤがカロリン群島と共に発見せると云はれ、次で西班牙人領有せしが、米西戦役後、獨逸に賣却せられ、爾來獨逸人によりて教化事業・燐礦採掘等行はれしが、一九一四年(大正三年)我が領有に歸せり。之より先、明治二十三年田口卯吉等一行十七名が帆船天佑丸を以て横濱出帆、小笠原・グアム・ヤップを経てパラオに至りしは我國との近代に於ける交渉の初にて、之に次ぎ恒信社の拓殖事業見られ、同社は明治二十六年トラック島よりパラオに移轉、大正三年我が占領まで其の事業を繼續せり。我が占領後は、大正十年七月コロル島に民政部を置き同十一年三月防備隊を廢するや、同四月新たに同島に南洋廳を置き今日に至る。〔パラオ島〕パラオ群島中、バベルダオア島及びコロル島の汎稱。〔ババオ本島〕バベルダオア島の別稱。

ハラカ 腹赤村 熊本縣肥後國玉名郡の西南部。長洲町の東南に接して島原海灣に臨む。東北部に僅に小丘陵あれど地形概ね平坦にして西部に築切川南流して海に注ぐ。海岸は單調なる淺淺の砂濱をなす。農業を主業とし之に従事するもの三二七戸にして副業として養蠶・養鶏・蠶網工(製蠶・製繭)等行はれ副業を行ふもの二三三戸なり。人口は二七七七人にて一方村の密度五一六人。中央を縣道東西に横切る。省線鹿児島本線長洲驛は西北約一軒にて自動車の便あり。汽船便は長洲港に至る。景行天皇の御宇、天皇この地に行幸遊ばされ、その史蹟・行在所址、御腰掛石等いまに存す。聖武天皇の御宇天平十五年正月十四日太宰府より腹赤賢としてこの地にて採りし魚を奉る。即ち腹赤賢として平安時代の末まで宮中の儀式となれるものこれなり。

ハラサゴン 社 臺灣臺中州新高郡にある舊社。丹大溪と樟大溪の中間に聳ゆる無名山の西北中腹、標高約一四五〇米の地に位し、約百三十年前、二戸二十五人を以て原社カトケラン社より移住し來り現在の社が形成す。アヌ族の蠻蕃に屬する高砂族より成る部落なり。

ハラサト 原里村 靜岡縣駿河國駿東郡の中部。御殿町の西南に接し、富士東南山麓を占む。裾野の末端部を占め凡そ西北より東南に傾斜す。南部には大野原御料地ありて一面の草原、西北部・東部には桑園多し。農業を主生業とし、米・蕎麥の産多し、また茶を産し、次で牧畜盛なり。其他に製糸業・林業等も相當行はる。附近に陸軍演習場あり板妻廠舎を置く。御殿場より西南へ走る國道は村内を貫き、省線御殿場線御殿場驛(約四軒、バス)の便あり。

ハラノマチ

原町 福島縣磐城國相馬郡の東南部の町。鹿島町の南方約七軒にして、東方一帯は太平洋に面す。面積八・〇四方軒。地形東西に長く、全町概ね平坦にして新田川は北部を東流し、太平洋に注ぐ。米・蕎麥・生絲・馬を産し、製絲紡績等の工場ありて新業盛なり。また羽二重市・蘭蓋市・馬市等名高し。陸前濱街道は町の西部を南北に通じ、南方小高町、北方中村町へはバスの便あり。常磐線原ノ町驛(明治廿一年設置)を置く。人口密度は一方軒につき約一五四六人にて漸次増加の傾向にあり。この地は和名抄行方郡多珂郷の内なり。明治三十年原町村を原町と改稱す。此地は相馬名物たる野馬追祭の行はるるを以て知らる。町内に警察署・東京無線電信局原町送信所・林署・相馬區裁判所出張所等あり。〔野馬追祭〕雲雀ヶ原を中心として行はれ、相馬地方の一特色をなす祭事なり。これ相馬氏の先祖が下剽小金ヶ原にて馬を放ち兵を練りし遺風を傳へしものと稱せらる。祭事は太田・小高・中村の三神社(相馬の三妙見)聯合の神事にして、一方講武を目的とせるものとす。祭日は七月十一日(宵乗祭)・十二日(野馬追祭)・十三日(野馬掛)の三日にして、初日には三神社何れも神輿を出し、古式なる武者行列にて原町に入り、神輿を夜ノ森山上に安置し、宵乗の式行はる。この日競馬あり、夜は民謡流山の踊あり。二日目には行列

ハラノ——ハラミ

は雲雀ヶ原祭場に向ひ、神輿は牛來山上に着坐し野馬追始まる。三社の神旗天空より落下するや猛烈なる争奪戦行はれ、旗を取りし者は牛來山上七曲を馳け上り本陣審判所にて賞を受く。三日日には小高神社境内にて野馬掛行はれ、白衣を着けたる健兒數十人が赤手にて奔馬を捕獲する行事あり。〔原町別院〕南新田にあり。眞宗大谷派。明治十一年の創建に係る。初め眞宗説教場と稱せしが、のち仙臺別院の支院となり、次で淺草別院の支院となり、同三十五年獨立して原町別院を公稱す。〔原ノ町送信所〕町内櫻井にあり。中央に主塔あり、鐵筋コンクリート造、高さ二〇〇米、周圍に數多の副柱を設け、空中線はこの主塔と副柱の間に珪鋼線四十八條を傘骨狀に架設す。送信装置にて起せし振動電流はこの空中線に流れて空間に電波を發射す。送信の目的局はアメリカ西岸のフランクソン局及びハワイのカフク局等なり。

ハラノヤ 原谷村 靜岡縣遠江國小笠郡の西部。掛川町の西約五軒。村形南北に狭長にて、西北部及び東南部は何れも百米内外の丘陵地を成すも、中部は低平肥沃、且つ原野谷川西部を南流して灌漑に便し、耕地よく拓く。主生業は農にして米を主産し、また丘陵地には茶樹多く我培せられ茶の産多し。掛川町より西北方周郡那森町へ通ずる縣道は村の中部を東南より西北へ走りバスの便あり。此地

は和名抄、佐野郡幡羅郷の内にして、左大臣武智丸の末葉、藤原爲憲遠江守となり、此地に原氏を稱せりといふ。

ハラムコー 原向

原向 檜木縣上郡 賀都尾町の大字。尾尾線の原向驛(大正元年設置)を置く。

ハラムシル 幌筵島

幌筵島 波羅茂尻島ともいふ。北海道根室支庁占守郡に属する一島。北千島の北東端にあり、占守島と温爾古丹島の間を介し、東北端の勢城崎より西南端の倶利伽羅崎まで約一三〇軒、幅は約三〇軒、面積二〇四二平方軒に及び、列島中にては擇捉島に次ぐ第二の大島なり。安山岩質集塊岩・凝灰岩等の互層を基底とし、雁行状に並ぶ五帯の火山列、即ち東部熔岩臺地列・硫黄火山列・高平岳火山列・千倉岳火山列及び後嶺岳によりて構成さる。東部熔岩臺地列は本島の東岸に沿ひ主として檜輝石安山岩の熔岩流より成る臺地(北の臺・中の臺・日の出臺及び南臺、何れも高距千メートル以下)を含む。島内は山嶽多く平地は極めて乏しく、數座の雄大なるコニテ型火山が注目さる。西南端部には千倉嶽(一八一七米)・大硫黄山(一四九三米)・白煙山(一三四四米)等が、ほぼ南北に並びて最も高峻なる部分を形成し、端崖なる後嶺嶽(一七九八米)・圓錐嶽(六六一米)もこの地域にあり。中部にては高平嶽(八九六米)を最高とし比較的低きも、北部に至れば再び稍高く、荒川嶽(一〇五三米)・大正山(一一八八米)・屏風嶽(一一五四米)・硫黄山(一一三四米)・犀角岳(一一〇八米)等が相列す。山脚は直ちに海に通

るも大なる海崖は見られず。東側の太平洋は西側より遙に遠淺なるため岩嶽多く島島列嶽はその代表的のものなり。河川は轟川・熊川・鱒川・遠毛川等、東斜面には稍長大なるもの多し。沿岸には極めて小規模なる小部落が点在し、東北部の西勢城水道に面する泊崎には二等無線電信局が設置さる。最近我が領土最北の北洋漁業の根據地として大規模の築港工事が計畫さる。

ハラヤ 原谷

原谷村 福島縣代國大沼郡の北部。北は河沼郡柳津村に接し、西南は西川村を挟みて三谷村あり。面積三・九六方軒。只見川は西北境を、その支流瀧谷川は中部を各北流し沿岸に耕地拓け、東部と中部は山地をなす。米・烟草・麻・果實を産す。道路は村の西部と東部を南北に通じ北方の柳津に至る。いま西川村・三谷村と組合村をなし、役場を西川村に置く。

【原谷村】 埼玉縣武蔵國秩父郡の東部。秩父町の北隣にて、北は皆野町と隣し荒川の東岸にあり。東北境に巖山(五八三米)あり。村の東半はこれに續く山地にて森林あり。西半は荒川流域の平地をなし藪・麥・米を産す。縣道は中央を縱走し社線秩父鐵道は西部を南走し黒谷・大野原の二驛共に大正三年設置)を置く。村内に古墳多し。また和銅産出遺蹟あり。黒谷祝山に切割坑の如く見ゆるもの之な

り。和銅年間に秩父より銅を朝廷に獻せし際、銅を採掘せし遺蹟と傳ふ。

ハラ 幡利

幡利 薩摩國(鹿兒島縣)の古地名。和名抄に薩摩郡幡利郷あり。その地名の薩摩郡内ならんも詳ならず。

ハリ 馬利面

馬利面 朝鮮慶尙南道居昌郡の西部。居昌面に西隣す。東境には小白山脈に屬する驛雨嶺(七九五米)南北に長く横はり、西境には箕白山(一三三三米)聳立して餘勢域内に重疊し、西部と東部は土地高峻なるも中部は渭川南北に貫流し沿岸に小低地横はる。住民は主に農業に従事し、農産物に米・大豆・小豆・大麻・紙等あり。道路は東方居昌より西南方の安義に通ずる二等道路ほば中部を横斷し、途中より渭川溪谷を溯る道路を岐ち、何れもパスの便あり、交通不便ならず。聚落は渭川の低地に多く分布す。

ハリウス 張碓

張碓 北海道後志國小樽郡朝里村の大字。函館本線の張碓驛(明治三十八年設置)あり。

ハリオ 針尾島

針尾島 長崎縣の大村灣口に浮ぶ島。東彼村郡に屬す。東は早岐瀬戸を以て本土に、西は伊ノ浦瀬戸(針尾

ハリガベツシヨ 針ヶ別所村

針ヶ別所村 奈良縣大和國山邊郡の中部。北は添上郡に界し、西方添上郡帶解町と東方三重縣名賀郡名張町との略中間に位し、それより七軒を距つ。四周山地を繞らし東北境に神野山ありて六一九米の高きなり。布目川西部を北流し沿岸に稍低地あり。米・藪・麥を産す。笠置街道東部を貫き南部に名張街道の横斷するあり。西北方奈良市、西南方丹波市町、南方榛原町、東北方上野町等へそれよりバスを通じ、道路の集點地なり。中世は針莊と云ひ、興福寺領たり。(金龍寺)大字馬場にあり。華嚴宗。寺寶中、菩薩立像一軀は聖觀音と傳稱せられ推古帝時代の作に傳る。現に國寶として奈良博物館に出陳中。

ハリガヤ 榛谷

榛谷 常陸國(茨城縣)の古地名。延喜兵部式に常陸國榛谷驛々馬五疋と見ゆ。和名抄に信太郡驛家郷とあるは榛谷驛にして郷を以て驛を兼ねしものか。その地いまだ詳かならざるも、稻敷郡君賀村の邊か。同村の大字羽賀は榛谷の轉訛ならんといふ。

ハリサン

社 臺灣高雄州旗山郡

今の名紀郡八上村・日置村の邊に當る。ハリブガイ 社 臺灣臺東廳臺東郡にある舊社。ハリブガイ山東南山腹大竹高溪左岸にあり、標高約六〇〇米の地に位し、パイソン族の大藤里蕃に屬する高砂族の部落。

ハリフン 八里空

八里空 小八里空堡・八里庄(臺灣) 播磨 山陽道八箇國の一。中國山脈の南斜面に位す。姫路・明石の二市及び明石・美濃・加東・加西・多加・加古・印南・飾磨・神崎・揖保・赤穂・佐用・粟栗の十三郡を含む兵部縣の管轄に屬す。この國はもと針間と稱し、成務天皇の朝景行天皇の皇子船背入彦命の孫伊弉自別命を國造に定め給ひ、また針間鴨國造をも置かれ上毛野國造の祖御諸別命の子市入別命をその國造に定め給ふ。この鴨國は後に郡となりて賀茂郡と稱し播磨國に屬し、のち更に分れて加東・加西の二郡となれり。應神天皇の朝にはまた明石國造を置き給ひしが、これも國郡制定の時郡となり明石郡と稱し播磨國に入る。清寧天皇の御時皇嗣ましまさず、偶々履仲天皇の皇孫なる弘計・總計の二皇子、難を避けてこの國美濃郡の志染村に潛居し給ひ、やがて二皇子は相次いで帝位にのぼり給ふ。これを顯宗・仁賢の二帝とす。國郡制定の時、國名を播磨と改められたるもの如く、國府は飾磨郡の地に於て、その位置

はいま姫路市に入り、城東町の邊に當る。この國の沿海には古來津津少からず。室津・飾磨津・高砂・津泊等はその名最も著る。この國の國守に任ぜられたるもの多き中に鳥羽天皇の朝に源季房あり。季房は村上天皇の後裔にして、子孫相次で赤松莊に居り赤松氏を稱す。鎌倉時代の初め、源頼朝の守護を各國に置くや、家臣頼原景時・土肥實平をして此國及び美作・備前・備中・備後の守護を兼ねしむ。建久四年季房の曾孫赤松則景この國の守護となり、赤穂郡の白旗城に居る。建武中興の時論功行賞あり、赤松則村功を以てこの國の守護を賜はりしも、間もなくこれに奪はれて左用莊を賜ひ、この國は新田義貞に加賜せらる。則村よりて深く之を怨み、叛いて足利尊氏に屬す。尊氏即ち則村をこの國の守護とす。新田義貞これを攻めしも致なし。則村の子則祐の時左用郡の菅橋城に居り、備前國をも兼ね領し、その子義則に至り更に美作國をも加ふ。嘉吉元年、善則の子滿祐に至りて遂に將軍義教を弑し、播磨郡の城山城に據る。將軍義隆兵を遣はして之を討伐し、此國を山名持豊に與ふ。應仁の亂の時滿祐の孫赤松政則、細川勝元の軍に屬し姫路に居る。ついで飾西郡の置鹽城を築きて此に移り、姫路には一族の小寺豐藏を置き、更に東方の三木には赤松氏の同族別所則治を置く。永正十七年政則の子義村その臣浦上某に弑され、赤松氏の威

ハリノ——ハリマ

ハリノキ 針ノ木岳 日本北アルプス後立山山脈の中央部に位する雄峯。長野縣北安曇郡平村と富山縣中新川郡立山國有林地域との境上に跨る。標高二八二二米。壯年のに開析され男性的の山容をなす。山頂よりの展望極めて廣く、北西方に立山・劍岳等々望み、西方に黒部川峡谷を瞰下し、南西方には五色ヶ原より薬師・北ノ俣の連山、南方には黒部川支流針ノ木澤上源地を距て不動・烏帽子等の連嶺聳立するを眺め、北東に赤澤・鳴澤・祖父等の連峯重疊するを眺む。北東斜面より高瀬川支流龍川發して東流す。この山と不動岳の北に續く蓮華岳(二七九九米)との中央鞍部に針ノ木峠(最高點二四五一米)あり。登山はこの峠上より西登するが、祖父・鳴澤・赤澤の諸峯より縦走して至る。(針ノ木峠)北斜面より東流する高瀬川支流龍川と南斜面より西流する黒部川支流との分水嶺をなす。北アルプスに於ける最高の峠にして、南方なる上高地の徳本峠と共に北アルプス南北の門戸をなす。往時は信州・越中二國往來の問道として實用化せられたる時代もあり、牛さへ通行せりと云ふも、道は極めて峻險、且つ冬季積雪多く、雪崩

のため道は屢々廢止せられ、一時は廢道となれり。されど天正年間、佐々成政は軍兵を引具し、この峠を東方に進めたりと云ふ。峠上より北アルプスの山溝は云ふまでもなく、富士・南アルプス等の巨岳・高峯を一時に収む。信州より立山に至るはこの峠を通過するを最捷路となし、この路は最も一般的なる北アルプス横斷コースとして知らる。東方よりは信濃鐵道大町驛より大田部落まで約四軒、この間バス通じ、それより龍川を遡る。この間六軒、大澤小屋に至り一泊。この附近にて昭和三年早稲田大學生雪崩のため遭難せり。これより壯大なる點に於て北アルプス有數と稱せらるる約四軒に互る急峻なる大雪渓を登攀すれば約三時間にて峠上に達す。ここに山小屋あり。峠上より北方針ノ木峠、南方蓮華岳へは何れも約一軒、四十分程にて達し得。西側の路は峠上より急峻なる南澤を下り、針ノ木澤に沿うて約一五軒進めば黒部川右岸に達す。昔は川に龍を渡して對岸に至りしが、今は鐵線の吊橋懸る。左岸に平ノ小屋あり。これより刈安峠・五色ヶ原・ザラ峠を通り、立山を経て富山方面に至る。峠上より北方祖父ヶ岳・鹿島嶺岳等への縦走行はれ、又南方蓮華岳・烏帽子岳への尾根傳ひも試みらる。但し、いづれも相當に困難なり。

ハリハラ 榛原 丹波國(兵庫縣)の古地名。和名抄に多紀郡榛原郷あり、其地

振はず。天正年間織田信長の興るに及び羽柴秀吉が此國に封じて西征の軍の根據地たらしむ。義村の曾孫則房、款秀吉に通じ、姫路の小寺氏も亦これに従ふ。ただこの時、三木の別所氏は之に抗して下らざりしを以て、秀吉は兵を以て別所氏を滅ぼせり。ここに於て秀吉は則房を阿波に移して姫路に治し、天正十年信長の死後秀吉は豊臣秀長にこの國を與へしが、天正三年木下家定を以てこれに代ふ。開々原後徳川氏は池田輝政を此國に封じ、五十二萬石を與ふ。のち備前及び淡路をも加賜す。元和三年輝政の孫光政の時、幕府はこれを因幡の鳥取に移封し、本多忠政を姫路十五萬石に、小笠原忠真を明石十萬石に封ず。姫路はその後屢々領主を替へ、寛延年間酒井忠恭以來代々相ついで此處に居り、明石も亦屢々領主を替へ、天和二年松平忠明が八萬石を領して以來子孫相傳へて明治維新に至り、其他國內の諸藩に龍野(藤坂氏五萬千餘石)・小野(一柳氏一萬石)・山崎(本多氏一萬石)・三日月(森氏一萬五千石)・安志(小笠原氏一萬石)・三草(丹羽氏一萬石)ありて八藩併立せり。このほか明治元年六月に至り鳥取藩の支藩を福本(一萬五千餘石)に置きしも、明治三年十一月これを廢して本藩に合す。明治四年七月一般廢藩置縣の際には前記の諸藩はいづれも縣と稱せしが、同年十一月悉くこれを廢して姫路縣を姫路に置き、播磨國

一國を管し、間もなくこれを飾磨縣と改稱す。明治九年八月に至り飾磨縣を廢してこれを兵庫縣に合す。明治二十二年四月姫路市飾磨郡の中より獨立し、同二十九年四月には飾磨・飾西の二郡を併せて飾磨郡を復活し、揖東・揖西二郡を併せて神崎郡として以て今日の十三郡となり、大正八年十一月、明石市の明石郡より獨立するに及んで今日の二市十三郡となる。

【播磨平野】兵庫縣西南部の平野。播磨國の南半部を占むる三角状の海岸平野にて、中國地方の山陽式景観を多分に備へし地域なり。東南は鐵拐山(二三五米)・鉢伏山などの山地を境にして攝津に、東北は丹波山地に、北部は播磨高原に、西は石塔山(四二二米)・船坂・帆坂の連嶺により岡山縣東部に隣接し、南は播磨灘に臨む。平野は加古川・市川・揖保川・千種川等の氾濫原及びデルタによりて形成されし地域にして、西北に進むに従ひ漸次高度を増し、東及び南に低下し東半部は坦々たる沃野をなす。而して平野は更に地形上、東部・中部・西部の三播磨平野に區分するを得。即ち東部播磨平野は最も廣大且つ低平にて、主として加古川流域に屬し、東は明石より西は手枕松にて名高き印南郡曾根村に至る海岸線を底邊とし、加古郡八幡村岡包(加古・三木兩河の合流點)を頂點とする三角形の沖積平野

にて、加古川は平野の西縁を南流す。この平野の一大特色とも言ふべきは灌漑用の人工池沼の多きことにて、殊に天路の大池を中心として數百の池塘が分布し、岡山・香川等の諸平野とその景観を一にす。中部播磨平野は次いで廣く面積を有し、この地域は嘗て花崗岩質の島嶼の無數に基布せる多島の小灣入地域たりしを市川・揖保川等の上流より搬出せる土砂によりて多島がセメントされて生ぜし多丘式平野にて、人工による灌漑用池沼の少なきことと前者と趣を異にす。西部播磨平野は主として千種川の流域及び下流の海岸沖積平野に限られ、面積も頗る狭小なり。平野の物産としては夙に良質の播州米を以て著し、造酒用・醸米として阪神地方に移出されその聲價高し、また近年は阪神地方に近く且つ地形・氣候・水利に恵まれるを以て工業も發達しつつあり。東部には明石市、中部には姫路市、西部には赤穂町が發達し、それぞれ中心地をなす。

【播磨新宮】姫津線の一驛(昭和七年設置)。兵庫縣揖保郡新宮町にあり。【播磨高岡】姫津線の一驛(昭和五年設置)。兵庫縣飾磨郡飾磨町にあり。【播磨徳久】姫津線の一驛(昭和十年設置)。兵庫縣佐用郡徳久村にあり。【播磨富士】等形山(兵庫縣)の別名。【播磨灘】播磨灣ともいふ。兵庫縣播磨平野南方の灘。東は淡路島、西は小豆島、

ハリミチ 針道村 福島縣岩代國安達郡の東北部。川俣町(伊達郡)の南方約七軒。北は伊達郡に接す。阿武隈山脈の西斜面に屬し、東北境に口太山(八四三米)、東境に白猪ノ森(七一四米)あり、全村概れ山地をなし、阿武隈川の一支流西部を南流す。米・蕎麥・木炭を産す。道路は村の中央部を東西に通じ、西方二本松町へはバスの便あり。大字來々作に村社諏訪神社あり、健御名方を奉祀す。

ハリモチ 針持 鹿兒島縣伊佐郡太良村の大字。省線宮之城線の針持驛(昭和十二年設置)あり。

ハリワラ 針原村 富山縣越中府上新川郡の北部。富山市の東北約四軒。東は常願寺川下流を境に中新川郡に接し北は落黒崎村を隔てて富山灣に近し。富山平野のほぼ中部にて土地平低にして豊稔、水田多し。米を主産物とし特産物として薬品あり。東南部を國道、西北部を縣道走り、富山・水橋間自動車の往來頻繁なり。省線北陸本線濱黑崎・東岩瀬兩驛に近し。この地は近世、針原郷と稱せり。明治十一年に明治天皇、北陸・東海御巡幸の際、この地に御野立あらせらる。

ハリエ 春江村 福井縣越前國坂井郡の中南部。福井市の北約五軒、東は丸岡町との間に高根村を挟み、南は吉田郡森田町・河合村に界す。土地低平、越前平野の中部に位し、九頭龍川は西部を北流し灌漑の便よく、田島良く開け米・大豆・

各種のほか蕎麥の産物も多く、酒の醸造も多し。殊に米の産物は郡下第一の稱あり。然し本村の名物は絹織物・人絹織物を第一とし、其産額は縣下第一と號す。故に大字江留上には織物検査場あり。春江郵便局あり。商家も相ならぶ。俗に江留上・江留下・爲國を總稱して上村と云ふ。機業の最も盛なる所とす。爲に人口も益々増加し、國勢調査によれば大正九年七二〇人、同十四年七二〇七人、昭和五年七七一〇人、同十年には急激に増加し一〇八八九人となり、一方軒密度は七八人とす。省線北陸本線は東部を南北に通じ春江驛(大正十五年設置)を置く。織物を多量に出す。社線三國蘆原電鐵は西部を南北に走り西春江・太郎丸(共に昭和三年設置)の二驛を置く。この地は和名抄、坂井郡栗田郡の内なるべく、近世は春江庄に屬す。東鑑・建久二年の條に富國北春江とあるはこの地か。

ハリエ 春殖村 島根縣出雲國大原郡の中央北部。宍道湖の南約七軒、大東町の西に隣る。村内概れ丘陵性臺地起伏して山地を成し、南部に僅かなる低地ありて耕地拓く。赤川の小支流中部山地に發源して南流し、南部低地にて東方より來れる本流と合し西流す。主生業は農にして米・蕎麥を出し、また林産見るべきものあり。省線本線を通じて出雲大東驛(大正五年設置)を置く。この地は和名抄大原郡大原郷に屬せしものなるべし。

ハルタ——ハルナ

神、後田彦神。口碑によれば、もと村内宮の前と稱する地に鎮座ありし本社を、

ハルタ

治田村 滋賀縣近江國栗太郡の北部。草津町の東に接す。東南半は臺地をなし、其東南部に小丘陵あり。西北半は平坦なる地形をなす。米産多く、

社。祭神、寒川比古命・寒川比賣命・磐長媛命・相模國幣中社寒川神社より勧請せしものか。社殿中、本殿は應仁二年の建築にて國寶。例祭、五月十三日。(五百井神社)大字下戸山に鎮座。村社。祭神

木俣神。式内社。舊稱、盧井神社。例祭五月八日。(安養寺)大字安養寺にあり。眞宗大谷派。養老年中良辨修法の舊跡にて、天平年間初めて伽藍を興すと傳ふ。

當時佛堂運鑿して一山の結構頗る莊嚴なりしと云ふ。藥師如來坐像(木造、鎌倉期の作)一軀は國寶。「淨光寺」大字下

鉤にあり。眞宗佛光寺派。寺傳に依れば開基は貞明なりと。阿彌陀如來立像(木造、室町末期作)一軀は國寶。(蓮臺寺)大字下鉤にあり。天台宗。淨光山。桓武

天皇御宇、最澄、伊勢參詣の途靈夢を感じ、これを創建すと。本尊藥師如來及び兩脇土像(木造、弘仁期作)三軀は國寶。

ハルタ 晴田 佐賀縣小城郡にありし村。昭和七年小城町に編入。

ハルタ 原田 鹿兒島本線の一驛(明治二十二年設置)にして筑豊本線の終點。福岡縣筑紫郡筑紫村にあり。

ハルタケ 春竹 熊本縣鹿野郡の村なりしが、大正十年熊本市に編入。いま町名にその名存して豊肥本線の春竹驛を置き、こゝより社線熊延鐵道起る。

ハルタチ 春立 北海道日高國靜内郡靜内町の大字。日高線の春立驛(昭和八年設置)あり。

ハルチカ 春近村 岐阜縣美濃郡山縣郡の東南部。武儀川の右岸。岐阜市の東方約六軒の地。長良津保。武儀三河の合流點に開けたる沼澤原にあり、四周丘陵に圍まれたる盆地の一部をなす。土地平坦にて農業に適し、米を主産とす。ほか外に養蠶・養兔等の副業盛なり。關町(武儀郡)高岡町間の縣道北部を東西に走り、パスの便あり。この地に中世、美濃源氏並に土岐家に世傳氏を名乗るもの多く、南北朝の頃、吉野方に屬し忠節を盡せる世傳持頼なるものあり。「慈恩寺」大字溝口にあり。淨土宗西山派。玉保山。建久六年源三位賴朝追福のため山縣藏人・源國盛等の開創に傳り、天台座主慈源を開山とす。當時、子院十箇院を有す。縣下名刹の一。國寶、千手觀音像(木造)一軀。

ハルトミ 春富

【春富】 愛知縣海部郡にありし村。明治三十九年本村ほか六村を廢し其目寺村を置く。

【春富村】 熊本縣肥後郡玉名郡の北部。南關町の東に接し、北は八女郡に隣り、西北は山門郡に界す。東、北、西の三面山地を繞らし、東北境は三八五米を示し、西南隅に二城山ありて三一九米を標す。中央には北境に發する河川南流し東南約四軒にて菊池川に合す。米・蕎麥の農産物及木材・木炭の林産物あり。特産物には竹・蜜柑あり。社線九州肥後鐵道南

【春野】 但馬國(兵庫縣)の古地名。延喜兵部省式に但馬國春野驛々馬五疋とありその地未詳なるも、和名抄に見ゆる地野郷の地か。春野は地野の轉なるべしといふ。即ち郷にて驛を兼ねたるものなり。その地いま出石郡室城村の邊か。

【春野】 日向國(宮崎縣)の古地名。和名抄に諸縣郡春野郷あり、その地今詳かならざるも西諸縣郡高原町の邊か。

ハルヒ 春日村 愛知縣尾張國西春日井郡の西部。清洲町の北に接し西は中島郡に界す。濃尾平野の中部を占めて地形極めて平坦、中央に東南流して庄内川に注ぐ河川あり。西北部の大字落合は畑作、東南部下之郷にては田作を營む。従つて主産物は米・蕎麥・大豆・白菜・はうれん草・南瓜・茄子・里芋等にて、南瓜・茄子は名古屋・大阪市場にて有名なり。特産として宮重大根の本場なり。中央に縣道縱斷し春線東海道本線稻澤驛(稻澤町)は西北約一・五軒にあり。本村は明治三十九年、下之郷村・落合村を廢して置けるもの。

ハルマチ 原町 香線篠栗線の一驛(明治三十七年設置)。福岡縣糟屋郡仲原村にあり。

ハルミチ 治道村 奈良縣大和國添上郡の西南部。櫻木町の西に接し、南は山邊郡に隣る。奈良盆地の中心を占め地形平坦にして西境を佐保川南流し、北境に沿ひて直線狀に西流する河川は西北隅に

關驛は西方約二軒にて自動車の便あり。本村は舊吉地村・和仁村を合して成れるもの。天平年間、和仁の郷士和仁氏、豊臣家に降り、佐々成政の麾下に屬せしめられしが、和仁親賢兄弟これに服せずして亂を作し、のち亡ぶ。

ハルトリ 春採(湖・炭礦) 釧路市

ハルナ 榛名

【榛名山】 那須火山帯淺間火山群の消火山。群馬縣群馬郡・吾妻郡に跨る。古來妙義山・赤城山と共に上毛の三山と稱せらる。東は利根川を隔てて赤城火山に對し、北は吾妻川によりて十二ヶ岳と分たれ、南は碓氷川を以て關東西部山地に接す。下部新第三紀層を基底とし外輪山及び中央火口丘より成る二重火山。外輪山は輝石安山岩の集塊熔岩・碎屑物等の成層せる標式的截頭圓錐火山にて、山頂部は楕圓形の舊火口(東西直徑約三・五軒、南北直徑約二・五軒)を取圍む外輪壁をなす。外輪壁の西縁をなす掃部嶽(一四四八米)は最高峰にして、南方に開く一編裂火口によりて外輪壁南縁より分立す。外輪壁の東部は一部分缺壞し中央火口丘の噴出物により蔽はる。外輪山の東外側には相馬山(一四二二米)ニツ嶽(一三三二米)・淺間山(水澤山一四九四米)の三寄生火山あり。相馬山は角閃輝石英安山岩の熔岩丘にて、その北東側と南西側とは爆發火口によりて破壞され急峻なる岩壁をなし、北東側の爆發火口に馬蹄形を

なして北東に開く。ニツ嶽はこの中に噴出せる角閃輝石安山岩の熔岩流及び碎屑物より成る截頭圓錐形火山體にて山頂に火口跡を有す。山頂部は男岳・女岳・孫岳の三峯に分れ、伊香保方面よりは男・女岳のみ見ゆるを以てニツ嶽の名あり。伊香保温泉はこの北東麓に湧出す。またニツ嶽の東麓浮石層の上に水蒸氣噴出す。ニツ嶽の東麓に淺間山あり、東に開く馬蹄形の火口内に噴出せる輝石安山岩の熔岩丘なり。中央火口丘(富士山・榛名山富士といふ)は外輪山舊火口内中央よりやや東に偏し、角閃輝石安山岩の熔岩流及び碎屑物より成る截頭圓錐丘、頂上に東に開く馬蹄形の火口を有す。中央火口丘の西側、外輪壁との間に火口原湖榛名湖あり。登山は伊香保方面より榛名山鞍部のヤセオネ峠迄約二軒、ケーブルカーの便あり。ヤセオネ峠より榛名山まで約三軒、自動車通す。湖畔より天神峠を下り榛名山社に至るは約二軒にして、榛名山社より自動車にて高崎市に下るを普通のコースとなす。近時伊香保温泉等よりの遊覽登山者の外、スキー・スケート・キャンプ等にも集る者多し。榛名山スキー場は第一・第二・第三スキー場より成り、第一スキー場は相馬山北麓の裾野一帯にして廣大なるスロープを形成し、ゲレンデにはヒュッテあり、雪質は乾粉狀にて滑走に好適す。第二スキー場は榛名山東麓の裾野にしてスロープに變化あり、白樺・

岳標などの林間コースもあり。第三スキー場は榛名山の西に聳ゆる掃部岳の中腹にあり、雪質よく積雪の量多く、スロープは急にしてジャンプの設備あり。榛名ゴルフ場も第一スキー場の隣接地にあり。

【榛名山】 群馬縣群馬郡室田町にある湖。榛名山のカルデラの中にあり、昔は伊香保沼ともいはる。海拔一〇八四米に位し、面積一・四九方軒。岸より急に深きも、中央部は平坦にして最深部は一・二・二米なり。嘗て緑色の清澄なる水を湛へしが、最近數年來は甚しく富營養化して水色緑色、透明度は一・二米に過ぎず。これは藍藻の水の華のためなり。水温は夏季表面二〇度以上。底は一〇度。冬結水下の底水は四度なり。十二月より四月まで結氷して好スケート場となる。底質は黒色にて硅藻の殻を含み、深所には動物棲息せず。淺所には Chironomus pharyngus が現はる。魚類としては鱒多し。水位は人工的に調節され、發電及び灌漑に利用さる。注入する川はなきも砂濱に數多の湧水があり、野營の際の飲料水となる。湖への交通路としては表口は榛名山社を経て來るものにて自動車を通じ、裏口の伊香保温泉よりケーブルカーあり、カルデア内にも自動車を通ず。湖畔は萬葉の名所に、ツツジもカルデア内に多し。東京より日歸りに遊覽することを得。

おいて殆ど直角狀にこれと合す。南部にも西流する河川ありて之と合す。水利の便よく氣候溫和なれば米・蕎麥等の農産物多し。また大和西瓜の特産あり。縣道四方に通じ香線篠栗線の櫻木驛へは東方約一・五軒、香線關西本線大和小泉驛へは西方約二軒を距て、また社線大坂電氣軌道にも近く交通の便よし。

ハルムコタン 春牟古丹島 北海道千島列島中の一。北千島の一島にて温帯古丹島の西南春牟古丹海峡を距てて一一軒に横たはり、根室支庁占守郡に屬す。西北、東南に長く一二軒、幅約七軒。中央には春牟古丹岳(一一三三米)の二重式コニエテ型休火山聳え、外輪山の東側は破壞され、噴出物は此處より流下して温石角附近の低地を形成し、北側には北臺山(七一三三米)・四八九米峯の側火山あり。西北端は丘陵をなし、その西に西陽沼あり、その東岸はやや凹入して春牟古丹盆地となる。

ハルヤマ 晴山 釜石線の驛(大正三年設置)。岩手縣和賀郡十二箇村にあり。

ハレヤマ 晴山村 岩手縣陸中郡九戸郡の西北隅。北は青森縣、西は二戸郡に隣接す。北上山地の東斜面に屬し、西境には折爪山(八五二米)をはじめ北方に山嶺連りて東方に傾斜し、東境及び北境にもまた山地連る。瀬月内川は南方より來り村の中部を北流し、東北方に流路を變じて輕米町に出で雪谷川に合す。全村概

ハルナ——ハレヤ

ハレー 馬靈面 朝鮮全羅北道鎮安郡の西南部、鎮安面の西に隣る。小白山脈に属する馬耳山(六六七米)の山肢西にのびて城内を南北の二部に分つ。南部は稍廣き低地横はり、津江の上流馬靈川これを灌漑す。産物は大豆を第一とし、米・大麥・粟・馬鈴薯・煙草等にして、煙草は品質優良なり。また東部には延彰金礦の鑛脈ありて金・銀を出す。道路は鎮安より来る二等道路は北部を横斷して全州に達し、更に城内に於て分岐せる三等道路は西南方任實に連なり、交通比較的便なり。村落は南部低地に多く分布す。

ハロ 葉侶 伯耆國(鳥取縣)の古地名。和名抄に日野郡葉侶郷あり、その地今の日野郡山上村・日野上村の邊か。

ハロー 馬老面 朝鮮忠清北道報恩郡の東南端に位置し、郡邑報恩の東南約一〇軒にあり。東境には小白山脈に属する九屏山(八七七米)・八音山(七七二米)等相連り、西境には三升山(五七六米)屹立し、東南部には龍峰(五〇六米)蟠居し、南半部は低地極めて少なく、北部に稍廣き低地横はり、地味肥沃にて灌漑の利に富み農業盛に行はる。産物の主なるものに米・大麥・小麥・大豆・棉花・麻・煙草・明納等あり。道路は來れも等外路

線にして坂路多く交通・運輸不便なり。北部の宮基里に邑邑にして報恩川に臨み陰曆一・六の日に開く市場あり。

ハロン 社 臺灣新竹州大溪郡にある蕃社。ガオカン溪右岸パロソ山の北南兩山腹、標高約七六〇米乃至九〇〇米の間に在り、地勢概ね三・四〇度の傾斜面にて農耕地少し。原住地マレツバは漸次人口の増加せると土地狹隘なる爲、約三百年前現アトノカソ社とソロ社の中間蕃稱ホボツタンに移住し、其後二十年程現住地に移住したるものなり。尙舊社は既往に於て敬度分離・併合の事實あり、即ち(一)約二百四十年前ハッシュテイロなる者の一族一五戸、八〇名は狩獵及び耕作の關係上分離し、ル社を形成す。(二)大正元年頃、同一地域内に有りたるアツヤ社三〇戸、人口一五〇人な併合す。(三)同十一年羅東郡に四三戸、一七二名と昭和五年大溪郡に三〇戸、三二戸、一五〇名を分離す。(四)昭和六年イボホ・カラ・ヒヤサンの三社、三二戸、一六〇名を併合したり。現在の戸數は五〇戸、人口二九〇人有り(昭和十一年調査)。タイヤル族のガオカン蕃に屬する高砂族より成る。

ハル 板面 朝鮮平安北道楚山郡の南西部に位置し、郡邑楚山の北南約四〇軒。東境には蓋馬嶺岩臺地西縁に屬する白頭山(八二三米)・北仙岩山(一一八五米)等聳立し、西境には沙岩山(七九四米)・大

峰山(一一四九米)等聳ゆる他、南部には遼源山(一一一六米)・北部には掛山(九九四米)等屹立して城内山岳重疊し殆んど平地なく、之等山地に發源せる水は富崇川となりて北流し、忠清江と合流し峡谷をなし城外に流出す。耕地は前記諸川の沿岸に僅に點在するに過ぎず。住民は農耕を以て生業とし、傍ら採薪・日稼に従ふ者多し。物産は大豆・燕麥最も多く、粟・稗・麻・蘆粟・山藜・朝鮮酒等あり。また藤山黒鉛鑛山・東龍鑛山(鑛區の一部)等ありて黒鉛及び金・銀を出す。道路は元山・楚山間二等道路東部を縦貫し、面邑板坪洞に於て分岐せる三等道路は中部を縦貫して南方北嶺に達す、之等は何れも峻坂多く牛馬の往來困難なり。村落の分布極めて疎にして主として溪谷に分布す。

ハル 晩浦 瀋西(朝鮮咸鏡北道)ハル 磐越 磐城國の一。磐城國より越後國に通ず。磐城東線・磐城西線・會津線・日中線より成る。

ハル 磐城東線 省線磐城線の一。福島縣平市の省線常磐線平野より郡山市の東北本線郡山驛に至る八五・六軒。郡山驛にて磐城西線に接続す。

ハル 磐城西線 省線磐城線の一。福島縣(磐城國)郡山市の省線東北本線郡山驛より若松市を経て新潟縣(越後國)に入り、中蒲原郡新津町の省線信越本線・羽越本線

冬季は結氷下の底部にても五・五度なり。沿岸部にはササモが繁茂し、沖には硅藻・藻類・藻類、特に *Asperina rana* *erectissima* が多く、底部の淺所に *Aplysina* 生育す。鰯の養殖が行はる。底質は黄褐色のササモの腐敗せし軟泥にて、硅藻の殻が混在す。この湖は我國にて最も顯著なる調和的富栄養型に屬す。

ハル 半月面 朝鮮京畿道水原郡の北部に位置し、郡邑水原の西北方約一〇軒にあり。北境に修理山(四七四米)の聳ゆる他著しきものなきも、餘勢展びて北半部は山地を成す。南西部は始興灣に面し概ね低平なり。海岸は淺淺且つ潮汐干満の差大にして船舶の出入、繫留不便にて良泊を缺く。産物の主なるものに米・小麥・蔬菜・果實(苹果・桃・梨)・生牛・鶏卵等あり。鐵道京釜本線、面の東部を縦貫すれども城内に停車場なく、水原・軍浦場等より連絡す。道路は面政の中心半月場を核として放射狀に出で、殊に東方水原、北方安山へは各三等道路を通じバスの便あり。村落は南部に多く分布し、半月場には定期に開く市場あり。

ハル 下ノ湖ともいふ。阿寒國立公園

ハル 板西 板西(郡) 阿波國(徳島縣)にありし郡名。中世、板野郡を東・西二郡に分ちし時の稱。一にイタノニシとも云ふ。寛文年間舊に復す。※板野郡

ハル 徳島縣阿波國板野郡の中部。徳島平野の一部を占め、板東町の西に接し、西北部は香川縣大川村に界す。北部は讃岐山脈東端の山地にして地形高峻なり。南部は平坦なる平野にして吉野川南方より來りて東折し坂東町に入る。南方一望の沃野には農産物多く米・藁・麥・園藝・農産等あり。外に鶏卵を出し清酒の特産あり。南部山麓に撫養街道東西に走り之と交叉し讃岐街道南北に通過して各地にバス通ず。省線高徳本線南部を東西に横斷して阿波大宮驛(昭和十年設置)・板西驛(大正十二年設置)・阿波川端驛(昭和二年設置)を置く。この地は蕃別百濟氏の舊居のありし處にして、宇川端の大唐國寺はその建立と傳ふ。板西の地名は中古の郡名にて町名はその遺稱とす。明治四十一年町制施行。(金泉寺) 大字大寺にあり。古義眞言宗。龜光山釋迦院。現に同宗金剛峯寺末。西國八十八所第三番札所たり。空海の草創と傳ふ。龜山天皇御宇當寺に寶庫を置かせ給ひ且つ寺田を賜ふ。寺内に龜山天皇御廟あり。御詠歌一極樂の寶の池をおもへた黄金のいづみ澄みわたへたる

ハル 榛澤 武藏國(埼玉縣)の古郡名。後世半澤郡にも作る。和名抄には榛澤郡見え新居・榛澤・藤形・藤田の四郷及び餘戸一を管す。明治二十九年廢して大里郡に入る。

ハル 新津驛に至る一七六・三軒。郡山驛にて磐城東線に接続し、川桁驛(福島縣耶麻郡長瀬村)にて社線日本硫黃(耶麻軌道)・會津若松驛(若松市)にて省線會津線・喜多方驛(耶麻郡喜多方町)にて省線日中線・五泉驛(中蒲原郡五泉町)にて社線蒲原鐵道に連絡す。

ハル 蟠岩面 朝鮮全羅北道長水郡の南部に位置し、郡邑長水の南方約一〇軒にあり。小白山脈中にあるを以て周緣山地を以て圍繞し、東境には白雲山(一二七八米)・月鏡山(九八二米)等聳立して慶尙南道との境を劃し、北境には長安山(一一三七米)・蛇頭峰(一一〇一五米)・西南境には天皇峰(九一〇米)等聳えて城内山岳重疊し、低地極めて乏しく、ただ葛川溪谷に僅かに耕地の發達を見る。住民の多くは農業に従事し、一般に淳朴なれども民度頗る低し。産物は米・大麥・大豆・小豆・蜂蜜・漆・柿等あり。また砂岩水踏鑛山ありて水踏を出す外、西南部山中より金は産す。道路は北方長水より來る二等道路は面の中部を縦貫し、西南方南原邑に乘合自動車を通ずる他は多くは等外路にして、溪谷に沿ひ發達せるも未改修にして交通・運輸便ならず。村落も亦溪谷に多く分布し、面邑磐壇里の東方に市場ありて陰曆四・九の日に開き穀類・生牛・薪炭・蜂蜜等の取引行はる。

ハル 板橋面 朝鮮江原道伊川郡の北部、郡邑伊川の北約一〇軒。馬

面の中中に發源して西南流し、全州府の北にて西流に轉じ、左より所陽川・全州川を容れ、益山・金堤の郡界を劃しつづ西流を續け、腰橋湖の餘水を併せ、群山府の南方にて喇叭狀河口を開き黃海に入る。流程九八軒、流域面積一六〇〇方軒に餘る。流域は即ち全北平野にして頗る農産に富む。道内には錦江につづ大河にして舟楫の便尠からざるも、常に海潮の干満に支配せられ、その満潮時には江口水高約七米を増しその影響は數十軒に及ぶ。故に船舶は概ね満干を利用して航行するも、その流路屈曲多く、且つ淺瀬あるを以て、航行困難を感ずるに似たり。鐵道(群山線・全羅線)開通以前は平野部の物資輸送は總て本江の水運によりしものにて經濟上頗る重要なりしも、今は僅に群山方面より食鹽・海産物等を積載して運搬する程度なり。全州府・理里邑は何れも江岸の名邑にて、また金堤郡の新倉津、益山郡の木川浦・沙川里等は船着場として著はる。

ハル 半月 北海道後志支廳虻田郡にある湖。羊蹄山(蝦夷富士)の西麓にある寄生火山の火山の一部に水を湛へし小湖。形が半月なるを以て此名あり。面積四五方軒。高度二五〇米にあり。西半の湖底に火口あり、深度一八・二米。透明度は三・一五米にて、水温は夏季二八度、五米附近に著しき層あり、底部は五・五度、

ハル 板西町 徳島縣阿波國板野郡の中部。徳島平野の一部を占め、板東町の西に接し、西北部は香川縣大川村に界す。北部は讃岐山脈東端の山地にして地形高峻なり。南部は平坦なる平野にして吉野川南方より來りて東折し坂東町に入る。南方一望の沃野には農産物多く米・藁・麥・園藝・農産等あり。外に鶏卵を出し清酒の特産あり。南部山麓に撫養街道東西に走り之と交叉し讃岐街道南北に通過して各地にバス通ず。省線高徳本線南部を東西に横斷して阿波大宮驛(昭和十年設置)・板西驛(大正十二年設置)・阿波川端驛(昭和二年設置)を置く。この地は蕃別百濟氏の舊居のありし處にして、宇川端の大唐國寺はその建立と傳ふ。板西の地名は中古の郡名にて町名はその遺稱とす。明治四十一年町制施行。(金泉寺) 大字大寺にあり。古義眞言宗。龜光山釋迦院。現に同宗金剛峯寺末。西國八十八所第三番札所たり。空海の草創と傳ふ。龜山天皇御宇當寺に寶庫を置かせ給ひ且つ寺田を賜ふ。寺内に龜山天皇御廟あり。御詠歌一極樂の寶の池をおもへた黄金のいづみ澄みわたへたる

ハル 榛澤 武藏國(埼玉縣)の古郡名。後世半澤郡にも作る。和名抄には榛澤郡見え新居・榛澤・藤形・藤田の四郷及び餘戸一を管す。明治二十九年廢して大里郡に入る。

ハル 息道山脈に屬する琴瑟峯(六一七米)・巨門峯(六三四米)・虎谷峯(六五五米)等相連りて東境を劃し、西境には杜霧山(五四六米)・石峰(八〇九米)等聳え、餘勢城内に及び山岳重疊し、臨津江略中央を貫いて南流し、古味香川東方より來り南部にて合流す。沿岸に河岸段丘點在し、其處に耕地並に村落の發達を見る。産物は大豆最も多く粟・大麥・米・麻・これに亞ぐ。其他煙草・明納等あり。道路は伊川より三等道路を通じ臨津江に沿ひ北上しバスを通ずるも、交通運輸未だ便ならず。

ハル 坂下町 福島縣岩代國河沼郡の東部。本郡の首邑にして若松市の西北約一軒。面積三・一八方軒。會津盆地の中西部に位し、土地概ね平坦にして、宮川は東部を北流す。米・麥・大豆・藁の産あり。鶴後街道は町の中部を東西に通じ、西南方柳津村、東南方若松市へはバスの便あり。省線會津線會津坂下驛(大正十五年設置)を置く。人口密度は一方軒につき一九五二人なり。この地は和名抄、會津郷大江郷の内。舊郡役所の所在地にして、いま警察署・稅務署・若松區裁判所出張所・會津農林學校・資料高等女學校等あり。町内に柗々森あり。傳へ云ふ、昔源義家東夷征討の勲、此地の農民より獻じたる兵糧米を搗きし白と柗を埋めて小丘を築きたるにより稱すと。

ハル 萬頃江 朝鮮全羅北道潘南府の北境に近き完州郡華山

ハル 漢ケ 漢ケ——ハンサ

ハル 漢ケ

ハル 漢ケ

ハル 漢ケ

ハル 漢ケ

ハル 漢ケ

ハル 漢ケ

ハル 漢ケ

ハル 漢ケ

ハル 漢ケ

ハル 漢ケ

ハル 漢ケ

ハル 漢ケ

【橋澤村】埼玉縣武蔵國大里郡の西部。深谷町の西方約五軒にて、西より北は見玉郡の一部と隣る。南境に山崎山(一一七米)あるも、他は殆ど平地にて農業行はれ米・麥を産し、養蠶行はれて繭を多産す。縣道は深谷町及び見玉郡本庄町に通ず。省線高崎線また之に沿ふも村内に驛なく、東隣岡部村に岡部驛を置く。此地は和名抄、橋澤郡橋澤郷の地なるべし。七黨系岡及び東鑑に橋澤氏の人々見ゆるは此地に在名を稱せしものか。

ハンシアツ 番仔挖 ↓沙山庄(臺灣)ハンシデン 番子田 臺灣總督府鐵道縱貫線の一驛(明治三十五年設置)にして明治製糖社線と接続す。臺南州曾文郡官田庄番子田にあり。

ハンシヤ 番社庄 臺灣臺南州新營郡の東南部。急水溪(汲水溪)を隔てて北は白河庄に、西は後壁庄・新營街に、南は龜重溪を隔てて柳營庄に隣接し、郎北・西・南の三面は右の兩溪流に圍まれ、東は中央山脈を控へて嘉義郡大埔庄に相對し、又東南は曾文郡六甲庄・新化郡玉井庄に相接す。郎東部は山嶽重疊起伏して平野少けれど、西部は地勢平坦にして耕地廣く展開す。産業の主なるものは農業(百萬圓)・工業(四五萬圓)・林産(一〇萬圓)・畜産(二二萬圓)等とす。また大字牛肉崎には石油鐵を有し、日本石油株式會社の手によりてカーボンフラック製せらる。未だ原油の噴出を見ず、商業に於

ては見るべきものなく、本庄管内はその地勢上よりして交通便ならざるも手押軌道縱横に發達するを以て、管内物資の搬出入に大なる不便を感ずる事少なし。本庄一帯の地はもと平埔藩ロッア族のトオロオコ社(トオロオコ)の所在地にして、大字藩社の地はその一中心地をなし、康熙末年渡臺せし粵人の足跡當地方に及びし際、粵人は此地を呼びて哆囉囉(倒囉囉)と稱し、一肆街を形成して哆囉囉街をなせしが、後改めて番社街となれり。我が領臺後大正九年地方制度改正に際し哆囉囉西堡中の一街四庄(現大字)、哆囉囉東下堡中の三庄(現大字)、哆囉囉東頂堡中の四庄(現大字)の地を合して番社庄を建て、臺南州新營郡の管下に置けり。

ハンシユン 晩春 朝鮮總督府鐵道成鏡本線の一驛(昭和六年設置)。咸鏡北道咸津郡鶴南面にあり。

ハンシヨ 班城 朝鮮總督府鐵道慶全南部線の一驛(大正十四年設置)。慶尙南道晉州郡一班城面にあり。

ハンシヨ 萬城 朝鮮總督府鐵道京義本線の一驛(明治四十一年設置)。平安南道安州郡大尼面にあり。

ハンシヨ 盤城山 那須火山帯の一峯。山形市の南約二一軒に當り、北側は山形縣南村山郡東村に、南側は宮城縣刈田郡七ヶ宿村に屬す。標高一三三三米。歳王岳の南西稜に噴起せる火山にして、其麓に花崗岩をなし、山體に變朽

富士岩より成る。ハンシヨリヨ 蕃粟藁街 北に旗山街(臺灣)ハンシン 阪神

【阪神地方】關西地方の中心たる大阪府とその外港たる神戸市附近に互る地方を云ふ。もとは大坂・神戸地方の略語として用ひられしも今はこの地方の汎稱となる。日本文化地帯の代表地域にして且つ京濱地方・名古屋地方・北九州地方と共に我國四大工業地域の一。本工業地域は他の地域に比し綿糸・綿布工業の盛んなるを特色とし、この間に大阪・神戸兩市の他に尼崎市・西宮市あり、廣く更に京都市・姫路市・和歌山市等にも漸次工業地帯は擴大しつつあり。また大阪市・神戸市間は兩市の休養地帯ともなる。近年の都市への人口集中と社會生活の複雑化は都會人をして休養地帯を必要とせしむる事大なり。従つて阪神沿線は明治三十八年阪神鐵道の開通以來、謂はゆる別荘地として認められ、殊に歐洲大戦頃の好景氣時代に益々別荘地化し、引續き別荘地は住宅地と變じ今日に及ぶ。殊に御影・若原は廣く全国的に知らる。次に郊外電車の便を利用して進出する遊藝地帯あり。寶塚の少女歌劇・甲子園の野球等も全国的に著名なり。更に地價の安値を求め、比較的交通便利なる地には大工場が進展し、農業も單なる農業を捨て都會の爲の蔬菜栽培・果樹園藝・畜養等に變化し、

【阪神地方】關西地方の中心たる大阪府とその外港たる神戸市附近に互る地方を云ふ。もとは大坂・神戸地方の略語として用ひられしも今はこの地方の汎稱となる。日本文化地帯の代表地域にして且つ京濱地方・名古屋地方・北九州地方と共に我國四大工業地域の一。本工業地域は他の地域に比し綿糸・綿布工業の盛んなるを特色とし、この間に大阪・神戸兩市の他に尼崎市・西宮市あり、廣く更に京都市・姫路市・和歌山市等にも漸次工業地帯は擴大しつつあり。また大阪市・神戸市間は兩市の休養地帯ともなる。近年の都市への人口集中と社會生活の複雑化は都會人をして休養地帯を必要とせしむる事大なり。従つて阪神沿線は明治三十八年阪神鐵道の開通以來、謂はゆる別荘地として認められ、殊に歐洲大戦頃の好景氣時代に益々別荘地化し、引續き別荘地は住宅地と變じ今日に及ぶ。殊に御影・若原は廣く全国的に知らる。次に郊外電車の便を利用して進出する遊藝地帯あり。寶塚の少女歌劇・甲子園の野球等も全国的に著名なり。更に地價の安値を求め、比較的交通便利なる地には大工場が進展し、農業も單なる農業を捨て都會の爲の蔬菜栽培・果樹園藝・畜養等に變化し、

都市に於ては肉體的園藝農業となる。かく阪神附近は純然たる都會にてもなくまた田舎にてもなき、寧ろ都會の一部分が散在しつつ、また田舎の面影を残しつつ、更に益々都會化する郊外たり。これ等の地形的・人文的景觀により阪神沿線・武庫平野・千里山附近の三地理區に分る。謂ゆる阪神沿線は大阪・神戸を結ぶ阪神電鐵の沿線、殊に西宮市以西を稱す。北に六甲山塊を負ひ、南は大阪灣に臨む細長き海岸地帯にして氣候溫暖、理想的の住宅地たり。武庫平野は武庫川・猪名川の沖積平野なり。上古は武庫の入江が深く入りし所にして歴史的にも興味ある所なり。今日にては大阪・神戸兩市の生産地帯・遊藝地帯となる。千里山附近は淀川下流の北岸より千里山丘陵に至る地域にして、北に老ノ坂山脈の西端あり。京都より淀川に沿ふ交通線は淀川の水運により、或は千里山丘陵と老ノ坂山脈の斷層線に沿ふ西國街道となり、又は東海道本線・新京阪電鐵が通じ住宅地となる。

【阪神急行電鐵】社線。大阪市と神戸市間及びその附近の都市間とを連絡する電氣軌道。神戸線・伊丹支線・甲陽支線・上筒井支線・寶塚線・今津線・北野支線・其面支線より成る。神戸線は大阪市北區の省線東海道本線大阪驛に隣接する梅田驛より十三・塚口・夙川の諸驛を経て神戸市其合區の省線灘線附近の神戸驛に至る三二五軒、普通は三七分乃至四一分を要し、

急行は三六分、特急は二五分にて達す。

伊丹支線は神戸線の塚口驛より兵庫縣川邊郡伊丹町の伊丹驛に至る二・九軒、所要時間六分。甲陽支線は兵庫縣武庫郡大社村の神戸線夙川驛より同村神山にある甲陽園驛に至る二・二軒、所要時間五分。上筒井支線は神戸市其合區の神戸線西灘驛より上筒井驛に至る〇・九軒、所要時間二分。寶塚線は大阪市北區梅田驛より十三・阪急石橋・阪急池田の諸驛を経て寶塚驛に至る二・四・八軒、普通は四〇分を要するも、急行は三三分にて達す。今津線は省線東海道本線及び社線阪神電鐵の今津驛より神戸線の西宮北口驛を経て寶塚驛に至る九・六軒、所要時間一七分。北野支線は大阪市内線にて梅田驛より茶屋町驛を経て、北野驛に至る〇・八軒、所要時間四分。其面支線は寶塚線の阪急石橋驛より其面公園口の其面驛に至る四軒、所要時間七分。何れも軌間は一・四三五米。省線と連帶運輸せず。

【阪神電氣鐵道】社線。大阪市と神戸市とを連絡する電氣軌道。本線・北大阪線・傳法線・尼崎海岸線・甲子園線・國道線より成る。本線は大阪市北區の省線東海道本線大阪驛に隣接する梅田驛より海岸寄り野田・尼崎・甲子園・西宮・蘆屋・御影・三宮の諸驛を過ぎ、神戸市元町の省線三宮驛附近にある元町驛に至る三一・九軒、普通は五五分を要するも、特急にては三五分にて達し、梅田・西宮間は朝夕の混雑

ハンシー——ハンセ

時には臨時急行を運轉す。北大阪線は大阪市北區野田町にある野田驛より同區天神橋筋六丁目驛に至る四・三軒、所要時間十五分。傳法線は尼崎市北城内御園町にある尼崎驛より大阪市此花區の千鳥橋驛に至る五・五軒、所要時間九分。尼崎海岸線は尼崎市竹谷町の本線出屋敷驛より東灘驛に至る一・七軒、所要時間三分。甲子園線は國道線の上甲子園驛より本線の甲子園を經由し兵庫縣武庫郡鳴尾村の中津ノ濱驛に至る三・六軒、所要時間十分。國道線は大阪市此花區の野田驛より本線の山側を通じ神戸市灘區岩谷町の東神戸驛に至る二・六軒、所要時間一時間七分。何れも軌間一・四三五米、省線と連帶運輸せず。社線阪神急行電鐵と共に大阪・神戸の中間にある住宅地帯と、この二大都市間との交通機關たり。

ハンセー 凡西面 朝鮮慶尙南道蔚山郡の北部に位置し、郡邑蔚山に西隣す。西境に國秀峰(六〇二米)、南境に文珠山(六〇〇米)等聳え、殊に北半部は山岳重疊し、平地極めて乏しく、南部は太和江東に貫流し沿岸稍廣き平地横ばり灌漑の便と相俟ちて耕地の發達を見る。主要産物は米・大豆・棉花・生牛等にして、大豆は重要移出品をなす。道路は蔚山・彦陽間の三等道路、面の南部を横斷し、また釜山への二等道路東南部に通じ、何れもパスを通ずるも、北部は不便なり。聚落は殆んど南部に集中す。

ハンセー 繁盛村 兵庫縣播磨國宍粟郡の東北部。三方川の源流地を占むる山村にして、生野町の西方約一・五軒、北は養父郡に、東は朝來郡に、東南は神崎郡に界す。四圍に山地を繞らし、東境には笠杉山(一〇三二米)・段々峯(一一〇三米)等聳え、村内地形高峻にして西南部に低く、北境に發する掛保川支流三方川は東部より流下する水を集めつつ西部を南流し、西南隅より西隣三方村に入る。山林面積廣くして畑地少きも米・蕎麥・蔬菜花卉・粟・食用農産・蒟蒻芋・小麥等を産したる鶏卵もあり。河谷に沿ひて縣道南北に貫通し、南方山崎町へパス通ずれど交通未だ不便なり。當村には中古生層多し、重要礦山たる明延鐵山(金・銀・銅・鉛・錫・重石)は當村及び養父郡南谷村・朝來郡山口村に跨る(明延參照)。なほ當村内には赤金(銀・銅)・大立(金・銀)・黒原(銅・硫化鐵)・繁盛(金・銀)等の諸鐵山あり。此内大立鐵山は明延鐵山と合併施業さる。

ハンセー 萬世村 山形縣羽前國南置郡の東部。米澤市の東に隣り、東は福島縣、北は東置郡に接す。奥羽山脈の西斜面に屬し、東北境に駒ヶ岳(一〇六一米)・東境には栗平山(一一一七米)あり、西方に傾斜し、天平川は東部に發源し北部を西北に流れ、羽黒川は南部を西流す。西部は米澤盆地の一部をなして稍平坦なり。米・蕎麥を産し、また松茸の産出多し。萬世大路は村の中央部を東南より

リ西西北に通じ、米澤市及び福島市へはパスの便あり。本村に牛森原・大石原あり、牛森原は古戰場にして原頭に古墳あり、之より人骨・武器等を發掘することあり、蓋し、桓武・嵯峨の朝に蝦夷叛き坂上田村麻呂が討討せしことあり、その時代の遺物か。明治天皇、明治十四年に山形・秋田及び北海道行幸の際この地に御小休あらせられ、村内の新道に萬世大路の名を賜へり。

ハンセキ 斑石面 朝鮮平安南道江西郡の東部に位置し、郡邑江西の北方約五軒にあり。城内極めて低平にして地味肥え灌漑水路網よく普及し、農業盛に行はる。産物は米・大豆・粟等にして其他栗・桃・杏等の果實を産す。道路は何れも等外線なれども改修成り坦路にて交通比較的便なり。聚落は普遍的に分布す。上四里は面の西北端に位置し、面事務所及び陰曆一・六の日に開く市場ありて、穀類・麻布・雜貨・日用品等の取引行はる。

ハンセン

ハンセン 泛川面 朝鮮忠清南道唐津郡の東端に位置し、郡邑唐津の東方約一五軒にあり。西部に小丘陵起伏すれども東部は挿橋川の下流及び牙山灣に面し、土地極めて低平にして地味肥え、灌漑の利よく、農業盛に行はれ、潯岸の者は一部製鹽業に従事す。産物の主なるものは米・麥・大豆・粟・麻等にして西部よりは柿

及び栗を産す。道路網は西南境の雲山里を軸として扇状に通じ、東北方に向ふものは多く播磨川岸に盡き富里浦・新後里、其他の渡船場により對岸仁仙・仙掌等の諸面と連絡し、唐津・河川には各三等道路を通じ交通比較的便なり。聚落は東部低地に多く、新後里は河港にして本面及びその西方への門戸をなす。

ハンソーガネ 半蔵金村 新潟縣後國古志郡の中部。長岡市の東南方約八軒の山村。刈谷田川の一支出尾尾川を源流す。西北境に七〇〇米餘の山脈連なり、尾尾川東北に流る。聚落はこの谷に散在し、鹿野・林業に従事す。藪・米・木炭を主産とす。尾尾町・長岡市へ里道通じ、長岡市へはバスの便あり。本村は尾尾谷の一部にて、中世は高波庄に屬す。戊辰の役に尾尾方面に瓦解せる官兵は本村の山中に據り戦死と激戦せり。

ハンタ 半田 福島縣岩代國伊達郡の北部。【半田村】 岩代郡の西南に隣り、西北端に宮城縣に境す。西北部に半田山(八六三米)あり、東南方に傾斜し、東部は福島盆地に屬して平坦なり。米・藪を産す。道路は東部を西南より東北に通じ、藤田町及び折原町へはバスの便あり。東北本線通じ、大字半田に接折原(明治二十年設置)あり。半田は一に飯田に作り、村内に半田山あるを以て知らる。明治天皇、明治九年東御親巡遊の時、この地

に半田銀山を御覽になり御書陳あらせらる。【半田銀山】 半田村と小坂村に跨る重要銀山。銀區九十萬餘坪。鑛種は金銀銅鉛亜鉛とす。半田山の東麓を占め地勢は西に隆起す。地質は第三紀層にて石英粗面岩・眞珠岩等より成り、鑛床は主に石英粗面岩中に存する鑛塊充填鑛床にして鑛石は主として含金銀鑛なるが稀に龍銀鑛・自然銀を混へ、また多少の方鉛鑛・閃亜鉛鑛・黄銅鑛・黄鐵鑛を隨伴す。昭和十年には金銀鑛三、七八六噸(價額十七萬餘圓)を出し、同年六月末の使役鑛夫八四人とす。本鑛山の發見は大同年間なりと傳ふるも、古代に於ける盛時は慶長・萬治の間なりといふ。明治七年五代友厚の手に歸し、爾來運轉として五代氏の經營に屬す。

【半田市】 愛知縣尾張國の港市。知多半島の東北部に位し、東は知多灣の北部なる衣ヶ浦灣を距て三河國碧海郡高濱・新川・大濱の諸町と相對し、他の三面は知多郡に圍まれ、北は東浦村・阿久比村、西は三和村・常滑町・西浦町、南は武豊町に接す。東西九・七軒、南北八・二軒、面積四〇・八四万軒。地形上特記すべき山稜なく、西部及び北部を主として波浪狀の起伏ゆるやかに續くのみ。西南部に於て標高八二米を示すも多くは五〇米以下にて、地質は礫砂岩・頁岩・泥灰岩・砂礫粘土層の第三紀成層より成る。中部に阿久比川、南部に神戶川あり、何れも西

北・東南の方向に流れて衣ヶ浦灣に注ぎ流域に沖積原けり地味肥沃、加ふるに東に七本木池(周圍一・八軒)・上池・横川池、西に宮池(周圍一・三軒)・西午ヶ池(一・五軒)・半田池・長成池、その他大小多量の池沼溜池ありて灌漑に便し、田畑よく拓く。海岸線は延長一〇軒に近く、單調にして新田長く連り、北に龜崎港、南に半田港あり、特に後者は海底深く巨船の繫留に便なり。産業は工業を主とし農業・畜産業・水産業これに次ぐ。市の生産額は七三九七萬圓(昭和十二年)、以下準之、うち工業物は七一六七萬圓にして總額の九七・九割に當る。半田は古來知多木綿を以て稱せらるる晒木綿の集散地として著され、その主産地は半田・武豊たり。その産物は慶長以前にありと云はるるも、實用的評價の特に高まれば近年の事に屬し、個人經營の工場到る處にあり、これ職工の賃銀安く、また水質の好適なるが爲にて、その畑地・厩などに敷き撒け或は懸けつられて天日に晒すさまは壯觀なり。近年に至りては東洋紡績工場設けられて綿布の大量生産ある外舊來の斯業者も漸次近代的企业化を圖りつつあり、かくて市の織造工業は生産高四六六〇萬圓を超え、うち綿糸・綾綿布は嶄然他を抜き共に千萬圓以上を出し金市晒木綿も五百萬圓を突破す。右に次ぎて食料品工業盛にして、大日本麥酒會社半田工場のカクトセイヤは年産三三四

Table with 2 columns: Product Name and Quantity/Value. Includes items like 綿 (Cotton), 絹 (Silk), 布 (Cloth), 米 (Rice), etc.

二五軒に達し、舊來の清酒・酢・醬油・味噌等は何れも五〇萬圓以上の産額を示し中盤・萬三の各社は規模大なるを以て知られ、特に半田酢は古來有名なり。市附近に養鶏地を控ゆるを以て養鶏飼料の製造は特に盛にて一六五六萬圓を出し、其半田市主要生産物(十萬圓以上)

産物は總額五九萬圓にして、養鶏産に、鶏卵二二萬圓を出し、其他、牛乳・生乳・牛豚肉等を産す。漁業は龜崎・乙川・成岩等沿海一帯に行はれ、養殖・製造を合し二二萬圓餘の産額あり。交通は省線武豊線は海岸沿ひに南北に貫き、北より龜崎(明治十九年設置)・乙川(昭和八年設置)・半田(明治十八年設置)・東成岩(昭和八年設置)の四驛あり、社線知多鐵道は省線の西方を同じく南北に走り、半田口(昭和六年設置)・農學校前(昭和七年設置)・知多半田・成岩(共に昭和六年設置)・南成岩(昭和八年設置)の各驛を設け北は名古屋、南は武豊方面に通ず。道路は半田を中心の名古屋・常滑・龜崎・大野等に通ずるものか始め總て十四線の縣道を通じ、何れも改修よく行はれ運輸交通に便なり。また海上は半田・龜崎の二港いづれも開港武豊港の一部を成し内務省指定港灣なり。龜崎は泥沙多くして互船を繋ぐに便ならざるも、半田港は修築工事成りて面目を一新し、知多半島の物資集散の主要地として港頭には常に帆樫林立す。今少しく半田港の沿革を敘せんに、本港は帆船時代の良港として夙に海運業に發展の端を發し、安政の頃より海運業者は競うて酒造業をも勃興せしめ横濱開港以來約三十年間は東海第一の海上商團を掌握せり。當時阿久比川の分支なる堀川の沿岸には酒蔵棟を並べ、大股町より木管にて良質の水を引き、毎冬酒造期には殷盛を極め

ハンタ—ハンタ

したが、其後汽船時代に入り海運業衰へ、従つてまた酒造業も衰退し、酒蔵は醬油蔵・酢蔵となれり。然し蓄積せられたる財力を驅つて酢・麥酒・紡績・醬油・豆粉・鹽再製等の現代工業を勃興せしめ、商業また盛となり、三河灣沿岸を商團とし、原料の移入港として復活するに至る。昭和九年に於ける半田港の貿易概況を見るに移出は三六萬八千噸、一八〇萬圓にて石炭・飼料・肥料・磷油・大豆・屠綿及び屠綿絲・味噌・醬油・食鹽などあり、移入は棉花(六二・三萬圓)第一に石炭・豆粉・大豆・雜穀・飼料・種子・魚粉・屠綿及屠綿絲・磷油など計四八萬三千噸、二二九九萬圓にして、逐年増加を見る。また龜崎港は移出六萬五千噸、一三八萬圓にて石炭・和酒・肥料を主とし、移入は大豆・鮮魚・石炭等を合し八萬四千噸、一四三萬圓を超ゆ。市街は、龜崎・乙川・半田・成岩と東北より西南に互り沖積地上に發達す。而して半田と成岩とは相連なりて大集團をなし商業旺んにして市の樞軸をなし龜崎は東北沿海に位し漁業の中心をなし昔後の丘陵は住宅・別荘地を形成し、乙川の一部は龜崎に連り藩政時代御用製鹽の地にしていま鹽業地となる。市の官公署の主なるものは市役所・區裁判所・稅務署・鹽稅關支署等にして、其他、縣立の中學校・農學校・高等女學校等及び商工會議所・知多新聞社・半田新聞社・中禁銀行並に愛知名古屋兩銀行の支店等あり。史

蹟名跡としては明治天皇半田大本營址を始め、縣社神前神社・常樂寺及び阿久比川の東雲樓など、其他、雁宿・高根・成岩の三公園あり。【沿革】本市は和名抄、智多郡英比郡の内。龜崎は神前神社あり、神前の轉訛とす。江戸時代に入り、半田・岩滑・乙川・龜崎・有馬・成岩は皆尾張藩に屬し、のち乙川は成瀬氏の支配下となる。明治二年、版籍奉還に際し、半田・岩滑・有馬・成岩は名古屋藩に、龜崎・乙川は大山藩に編入せられしも、明治四年廢藩置縣に際して管轄故の如く、ただ大山藩は名古屋縣に併合せられ、次で額田縣に入り、同五年半田等と共に愛知縣の管轄となる。明治九年半田・岩滑を併せて半田村となり、其後變遷あり、明治二十二年町村制施行に當り半田町・龜崎町・乙川村・有馬村・成岩村の二町三村となり、翌二十三年成岩村は町制を施行、同三十九年龜崎町・乙川村・有馬村を廢して龜崎町を置き、かくて半田・龜崎・成岩の三町として存続せしが、昭和十二年十月、三町を廢し半田市に一括せらる。(明治天皇半田大本營及舊址)指定史蹟。宇雁宿・北條にあり。明治二十三年陸海軍聯合特別大演習を尾三の野に舉行せらるるや、明治天皇には三月三十日武豊より御汽車にて著御、同日半田大本營に成らせられ、小柴宮次郎宅に御泊あらせらる。(明治天皇行宿御野立所)指定史蹟。宇雁宿にあり。明治二十三年三月三十一日大演習

に際し此處の丘陵に成らせられ、雨中御統遊ばせらる。地は大正二年雁宿公園として市民散策の地となし、聖蹟に駐蹕碑を建つ。(明治天皇乙川御野立所)指定史蹟。宇乙川、もと白山社境内にあり。明治二十三年大演習に際し、三月三十一日此處に成らせられ、御統遊ばせらる。(神前神社) 龜崎に鎮座。縣社。祭神、神後磐余彦命。神明または神時天神とも稱す。舊記に元和八年神明社を勧請すを見ゆ。境内よりの月見の景は龜崎の月として人口に膾炙す。例祭、十月二十三日。(成石神社) 字成石に鎮座。郷社。祭神、天穗日尊・大己貴命・少彦名尊。奉唱國內神名帳に「從二位成石天神」と見ゆるもの之なり。境内は古木蒼蒼として遙に衣ヶ浦灣に臨み、景勝の位地を占む。例祭、十月十七日。(常樂寺) 淨土宗西山派。天龍山。文明十六年空聖覺覺これを開創す。徳川家康補給問合職の砌、難か當山に遷けしが、家康と當寺との關係は當時の住職八世空顯朗と俗縁ありし爲め特に深きものありといふ。爾後徳川家の崇敬厚く、尾州藩の保護特別なりき。近世寺領六十三石餘を有す。いま末寺二十一箇寺、法類寺院六十有餘を有し寺運頗る隆盛にして、世人稱して知多半山といふ。本尊阿彌陀如來立像(木造)は國寶なり。

リ。東北より西南に稍々細長し。西南部の村境に低き丘陵東北より西南へ連る以外は平野にして、東北境に沿ひ保保川南流す。米・小麦・裸麥・大麥・蕎麥・花卉・鶏卵・食用農産・果實・繭等及び木製品・蘆製品等を産す。醤油の産額夥し。東部に龍野町と南方を東西に走る山陽道とを結ぶ縣道通し省線山陽本線龍野驛は南方約一軒たらずにあり。大字片島に長福寺觀音あり、行基の弟子、澄光上人の開基といふ。

【半田町】 徳島縣阿波國美馬郡の中央北部。吉野川中流の南岸に沿ひ真光町の西に接す。東西兩部に山地蟠り、中央の礮谷を南部に發して北流する河川は北境を東流する吉野川に合す。山地の吉野川斜面は斷層を以て終り河岸段丘發達し、その北部に僅に低地開く。麥・米を出し、繭の産額多し。北部には伊豫街道及び省線徳島本線東西に走り、前者にバス通じ、後者に阿波半田驛(大正三年設置)あり。この地の漆器は元祿年間の創始にかかり三好郡山城谷産の漆を用ひて日用の食椀等を製し、その堅牢にして實用向なると藩主蜂須賀氏の保護奨励と相俟つて榮え明治に入りて盛大に行はれしが現時は衰退の狀態なり。大正五年町制を布く。

ハンタ

判田村 大分縣豊後國大分郡の東部。大野川の左岸に沿ひ大分市の南方約三軒にして、西南部は大野郡に界す。各村山地にして西南部に高く、隆平岳(七

五一米)・本宮山(六〇八米)等ありて東北方に低下す。大野川は南方より來りて僅かの間東北境に沿ひて東北流す。農産・林産・畜産あり。東北部に日向街道西より東南に横切り省線豊後本線同じく東部を走りて中判田驛(大正三年設置)あり。この地は松岡村・戸次町・吉野村・竹中村と共に和名抄、大分郡判田郷の地にして、弘安阿田帳に「判田郷三十町國領地頭大友」とあり、大友國主の時、清田氏の邑なりき。

ハンタ

飯田村 大分縣豊後國玖珠郡の南部。九重火山群の北部を占め、東南部より東部一帯は直入郡に接し、東北は速見郡に隣り、西南は熊本縣阿蘇郡に界す。面積一〇〇・七方軒餘の大村。西南半は九重火山の各峯を聳る地域にして九重山・久住山三侯山(以上一七〇〇米以上)・黒岩山・彌師山・一日山・涌蓋山・泉山水山等ありて全體に北へ傾斜し、その西部に玖珠川發して北流し、その河岸に湯坪・河原・大嶽・筋湯等の温泉あり。東北半は崩山(二二八八米)一帯の山地にて東境に發する玖珠川支流は崩山南麓を西北流し西境に玖珠川に合す。農産・林産・畜産あれど高原地帯には荒地多し。交通不便なり。この地はもと飯田郷と稱せし地にして、村名はその遺稱なるべし。弘安阿田帳に「飯田郷七十町、領家本庄城興寺、新庄一乘寺」とあり、大字野上は中世は本郡清氏の一黨、野上氏の居りし

明神の小石祠あり。三、翁島口 西口。磐越西線磐島驛より北方押立温(鎮)泉を経て山頂まで約一〇軒。三、川上温泉口北口。磐越西線川桁驛より北方に分岐する耶麻軌道線會津種ノ口驛より長瀬川を遡り、川上温泉より足下に檜原三湖を散下しつづつ南西登して頂上す。萬葉・一四「安比豆圃の國をさ遠み逢はばは徳ひにせもと紐結はされ」奥の細道「左に會津根高く、右に岩城相馬三春の庄、常陸下野の地をさかひて山つらなる」

【磐梯村】 福島縣岩代國耶麻郡の南部。若松市の東北約九軒。南は北會津郡に接す。磐梯山の西南に位し、東北境に磐梯山(一八一九米)北境には猫寛ヶ嶽(一四〇四米)・古城ヶ峰(二二八八米)・扇ヶ峰(八三三米)あり、南方に傾斜す。日橋川は大谷川その他北部の諸川を聚めて南境を西流し、沿岸に大發電所設けられ、東京方面に送電せらる。村の南部には耕地拓く。米・蕎麥・木炭を産す。道路は南部を略東西に通ず。省線磐越西線大寺驛(明治三十二年設置)あり。この地は往時大寺郷と稱せし地。而して大字布藤は高森山の陰にして、高森は天正十七年廢上の役に著名義廣の陣せし所なりといふ。有名な摺上原は本村に屬す。(摺上原)伊達政宗、著名義廣を討たんとす。義廣の將務苗代盛國、政宗に款を通ずるに及び、天正十七年六月、義廣兵一萬六千を此地に出すや、政宗また盛國を先鋒とし、兵

所。本村と直入郡都野村とに跨りて九重山嶺あり、嶺區七萬六千坪、嶺種は硫黄にて準重要嶺山たり。而して昭和十年に約四四三越(嶺額三萬餘圓)を出せり。(寒ノ地獄)泉質、單純硫酸寒泉冷泉。療養向。この嶺泉は稀に見る寒冷泉にて盛夏も冷氣肌を迫るを覺ゆ。入浴者は浴後暖爐にて温を取る。即ち水浴療法と高原療法の二つを兼ねるを得。(筋湯温泉)泉質、食鹽泉。療養向。飯田高原の奥にある温泉にして、寒ノ地獄とは黒岩山を中に挟み、四軒を隔つ。海拔一一〇〇米の處にあり、盛夏にても冷氣を覺ゆ。なほ飯田高原の中に釜ノ口・新湯湯・星生・大嶽地獄・寶泉寺・川底等の温泉あり。

【ハンタイ】 社 臺灣台中州能高郡にある蕃社。濁水溪と萬大溪の合流點附近稜線の北斜面、標高約一一五〇米の箇所に位す。約百年前能高郡蕃稱リーバに居住せしが豊饒なる土地を求めて萬大駐在所北方約三軒、濁水溪左岸臺地ツゴイホル及びモラウツナルに移住し約二十五年後、同族殺戮事件致して天然痘發生し多数死亡(百人の壯丁死亡)せる爲めサラヤーピン、ヒーガン及びソオラオの三箇所に移住し其後一部はアウノフに移住せり、其頃より霧社蕃との争闘激しくなりたる爲、一年餘住みたる後ツケウスに移住し、約二十五年後再び天然痘發生し(三四名死亡)且つ社内に殺害事件ありし故、現居所東方一軒の地、蕃稱ムカテ

二萬三千を率ゐて、摺上原の南に陣し、兩軍大いに此地に戦ふ。著名氏大いに努めしも、終に利あらず。義廣逃れて常陸に走りて、著名氏亡ぶに至る。此役に義廣の臣金上盛備・佐瀬種常・同常雄の三人止りて此地に戦死す。嘉永三年十二月、保科氏その忠を賞し、三氏の爲に三中之碑を建設せり。(磐梯温泉)泉質、硫酸泉。温度一〇〇度。登山の足溜地。海拔一二〇〇米。磐梯山の北山後、破裂火口の底部にあり。(惠日寺址) 惠日寺は眞言宗に屬し、俗に會津大寺と稱せり。大同年中、徳一の創建に係りその示寂の地と傳へらる。舊境内に徳一廟墓及び平將門の女如藏尼の墓存す。惠日寺尺は法隆寺尺と共に名高し。

【ハンタイラヤマ】 半平山(はなだみ) 徳島縣美馬郡にありし村。昭和二年、古宮村と改む。

【ハンタオクヤマ】 半田奥山 徳島縣大和國南葛城郡の西部。金剛山脈の東斜面を占め、御所町の西南約一軒にあり。西は山を距てて大阪府南河内郡に界す。西南境に聳ゆる金剛山(一一二二米)より金剛山脈北方へ連りて西境を劃し、本村は其の東斜面をなす。東部には村境近く葛城川北流し西境に發する支流東北流して之に合す。米・蕎麥の産あり。特産に

レに移住し、大正二年ムカテレ上方稜線に大龜裂を生じ危險なりし爲め現居所に移住し來れり。明治四十一年露露ヶ峠分道所に於て歸國宣誓したるタイヤル族萬大蕃に屬する高砂族の部落なり。

【磐梯山】 福島縣耶麻郡、猪苗代湖の北方にある火山。會津山とも云ひ、古くは安比津嗣・會津祝の名にて呼ばる。基底は花崗岩・新第三系等より成る。山體は主として輝石安山岩の熔岩流・集塊岩・碎屑物等より成る戴頭圓錐形の成層火山なり。頂上部には大磐梯山(一八一九米)・赤城山(一四二七米)・柳ヶ峯(一六三六米)・湯折山等の諸峯を火口壁とする沼ノ平の火口跡(直徑約一・五軒)あり。大磐梯山はこの火口の西壁を成し、火山中の最高峯にて斷崖を以て沼ノ平の舊火口底に臨み、ここに熔岩及び碎屑物互層の好露出を示す。大磐梯山の北東に之と高さ殆ど伯仲せる小磐梯山あり、柳ヶ峯と共に沼ノ平舊火口の北壁をなせしも明治二十一年七月十五日の大爆發によりて破壊さる。この爆發以前にも、有史時代に於て爆發或は噴火は大同元年にもあり、噴出物による堰止湖猪苗代湖を形成せしもの如し。明治二十一年の爆發は沼ノ平舊火口の北隣に起り、火山體の北側を破壊し、ここに北方に開く馬蹄形爆裂火口を形成せり。この結果小磐梯山は大部分破壊され、柳ヶ峯及び湯折山の山側に高

は實業あり。東部には下街道河に沿ひて北上し、省線磐梯山線御所野驛(東北約二軒)へバスの便あり。西境には河内國へ出づる水越峠あり。この地は和名抄の葛上郡大坂郷及び高宮郷の地なり。高宮の名は綏靖天皇の都色なりしより起りしものなるべし。大字森脇に葛城一言主命神社鎮座す。大字多田に式内多田神社あり大神氏の祖大田々根子命を祀る。大字名柄に式内長柄神社あり。また書記雄略天皇の九年九月の條に、天皇朝議に行幸し長柄社に於て大山位以下を集め騎射を行はせられ給ふと見え、長柄社は大字名柄の邊に當るか。朝議(朝妻)はもと汎稱にして吐田郷村邊一帯を指せるものとす。(葛城高宮) 綏靖天皇の皇居。天皇の元年、都を葛城に移し高宮と稱せられ、三十三年にして廢す。いまの大字森脇の附近に當るといふ。(葛城一言主命神社) 大字森脇に鎮座。縣社。祭神、事代主神・功武尊。創建年代不詳。もと葛城山頂に鎮座せり。延文五年神位正一位を授けらる。延喜の制、名神大社に列し、正曆五年四月、中臣氏人を遣はして幣帛を奉り疫疾放火の事を祈らしむ。例祭、八月五日。

【ハンタツ】 晩達面 朝鮮平安南道江東郡の西南端に位置し、郡邑江東の南方約一〇軒、平壤府の東方約二六軒にあり。東北境には黒龍山(四〇〇米)・磐雲山(四九九米)・椛山(二五二米)等えて東北部に

は實業あり。東部には下街道河に沿ひて北上し、省線磐梯山線御所野驛(東北約二軒)へバスの便あり。西境には河内國へ出づる水越峠あり。この地は和名抄の葛上郡大坂郷及び高宮郷の地なり。高宮の名は綏靖天皇の都色なりしより起りしものなるべし。大字森脇に葛城一言主命神社鎮座す。大字多田に式内多田神社あり大神氏の祖大田々根子命を祀る。大字名柄に式内長柄神社あり。また書記雄略天皇の九年九月の條に、天皇朝議に行幸し長柄社に於て大山位以下を集め騎射を行はせられ給ふと見え、長柄社は大字名柄の邊に當るか。朝議(朝妻)はもと汎稱にして吐田郷村邊一帯を指せるものとす。(葛城高宮) 綏靖天皇の皇居。天皇の元年、都を葛城に移し高宮と稱せられ、三十三年にして廢す。いまの大字森脇の附近に當るといふ。(葛城一言主命神社) 大字森脇に鎮座。縣社。祭神、事代主神・功武尊。創建年代不詳。もと葛城山頂に鎮座せり。延文五年神位正一位を授けらる。延喜の制、名神大社に列し、正曆五年四月、中臣氏人を遣はして幣帛を奉り疫疾放火の事を祈らしむ。例祭、八月五日。

